鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　36

令和元年度発掘調査報告

（第４分冊）

田楽辻子周辺遺跡

清　涼　寺　跡

名越ヶ谷遺跡

若宮大路周辺遺跡群

長谷小路周辺遺跡

甘縄神社遺跡群

令和２年３月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　36

令和元年度発掘調査報告

（第４分冊）

田楽辻子周辺遺跡

清　涼　寺　跡

名越ヶ谷遺跡

若宮大路周辺遺跡群

長谷小路周辺遺跡

甘縄神社遺跡群

令和２年３月

鎌倉市教育委員会

ご あ い さ つ

本市は、市域の６割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財が埋まった土地の上で生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18・22～25・27・28年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査15か所の調査記録を掲載しています。

本書に収めたひとつひとつの調査成果は、武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し、文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深いご理解を賜るとともに、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

令和２年３月31日

鎌倉市教育委員会

例　　言

1　本書は令和元年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第４分冊）である。
2　本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
3　現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施し、報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
4　出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
5　各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第４分冊　目次

ごあいさつ・・Ⅰ
例言・・・Ⅱ
目次・・・Ⅲ
本誌掲載の平成22・24・25年度発掘調査地点一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅴ
調査地点位置図・・Ⅵ

10　田楽辻子周辺遺跡（№33）浄明寺一丁目697番４地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第二章　堆積土層・・・10
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第四章　自然科学分析・・・35
第五章　まとめ・・・42

11　清涼寺跡（№183）扇ガ谷四丁目570番１地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
第二章　堆積土層・・・67
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
第四章　まとめ・・104

12　名越ヶ谷遺跡（№231）大町四丁目1884番14地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
第二章　堆積土層・・・148
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
第四章　自然科学分析・・173
第五章　まとめ・・174

13　若宮大路周辺遺跡群（№242）御成町773番２地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・194
第二章　堆積土層・・・200
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
第四章　自然科学分析・・235
第五章　まとめ・・240

14　長谷小路周辺遺跡（№236）由比ガ浜三丁目204番５地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 274
第二章　堆積土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 279
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 280
第四章　自然科学分析　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 303
第五章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 314

15　甘縄神社遺跡群（№177）長谷一丁目262番14外地点

第一章　遺跡と調査地点の概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 337
第二章　堆積土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 342
第三章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 343
第四章　自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 356
第五章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 357

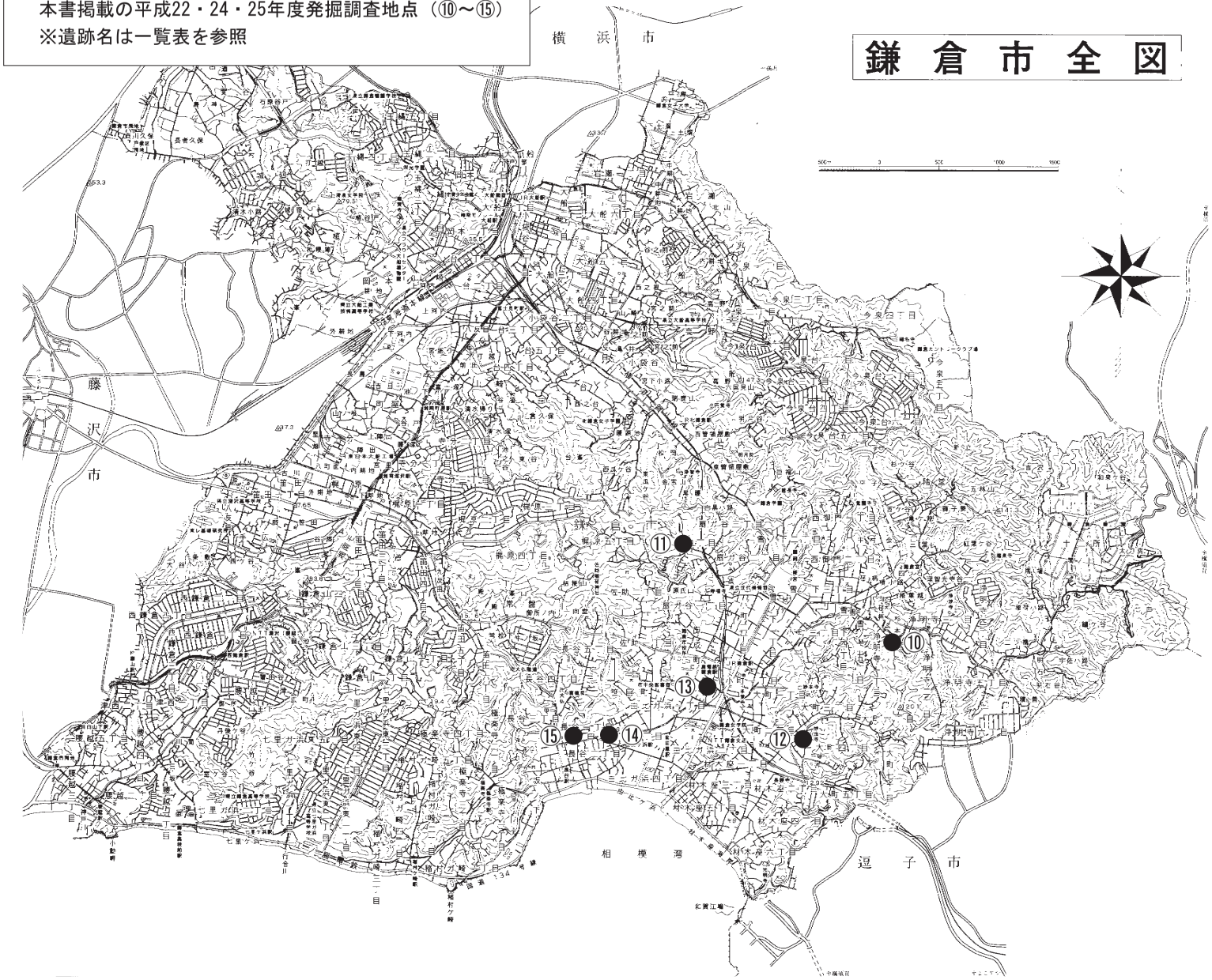
本誌掲載の平成22・24・25年度発掘調査地点一覧

第４分冊

	遺　跡　名	所　在　地	調　査　原　因	遺跡種別	調査面積（㎡）	調　査　期　間
10	田楽辻子周辺遺跡 （№33）	浄明寺一丁目697番４	個人専用住宅 （鋼管杭工事）	城　館	54	平成 22 年 10 月 18 日 ～平成 22 年 12 月 24 日
11	清涼寺跡 （№183）	扇ガ谷四丁目570番１	個人専用住宅 （鋼管杭工事）	社　寺	67.5	平成 24 年 11 月 6 日 ～平成 25 年 2 月 1 日
12	名越ヶ谷遺跡 （№231）	大町四丁目1884番14	個人専用住宅 （柱状改良工事）	城　館	45	平成 24 年 9 月 25 日 ～平成 24 年 12 月 7 日
13	若宮大路周辺遺跡群 （№242）	御成町773番２	店舗併用住宅 （柱状改良工事）	城　館 都　市	65	平成 25 年 5 月 16 日 ～平成 25 年 7 月 24 日
14	長谷小路周辺遺跡 （№236）	由比ガ浜三丁目204番５	店舗併用住宅 （鋼管杭工事）	城　館 都　市	72	平成 23 年 1 月 14 日 ～平成 23 年 3 月 31 日
15	甘縄神社遺跡群 （№177）	長谷一丁目262番14外	個人専用住宅 （柱状改良工事）	社　寺 城　館	36	平成 22 年 4 月 23 日 ～平成 22 年 6 月 11 日

本書掲載の平成22・24・25年度発掘調査地点（⑩～⑮）
※遺跡名は一覧表を参照

鎌倉市全図



田楽辻子周辺遺跡（№33）

浄明寺一丁目697番４地点

例　言

1．本報は「田楽辻子周辺遺跡」（神奈川県遺跡台帳№33）内、鎌倉市浄明寺一丁目697番４地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成22年10月18日～平成22年12月24日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は54㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　山口正紀
調　査　員　　小野夏菜・吉田佳子・須佐仁和
作　業　員　　片山直文・杉浦永章・安藤宗幸・宝珠山秀雄
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．第四章の花粉分析は、パレオ・ラボに委託した。

6．本報に掲載した写真は、遺構を山口正紀、遺物を赤間和重が撮影した。

7．測量基準杭の設置にあたっては、世界測地系（座標系ＡＲＥＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

8．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

9．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「DZ1008」とした。

10．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

11．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：□ 玉石範囲
■ 炭化物分布範囲
遺物：■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分

12．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

か わ ら け：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』

13．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 5
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 5
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 5
第３節　周辺の考古学的調査 …… 6

第二章　堆積土層 …… 10

第三章　発見された遺構と遺物 …… 12
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 12
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 15
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 20
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 24
第５節　第５面の遺構と遺物 …… 30
第６節　第６面の遺構と遺物 …… 32
第７節　第７面の遺構と遺物 …… 33

第四章　自然科学分析 …… 35
田楽辻子周辺遺跡の花粉化石 …… 35

第五章　まとめ …… 42

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 7
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 8
図３　調査区位置図 …… 9
図４　調査区配置図 …… 9
図５　調査区北壁 土層断面図 …… 11
図６　第１面 遺構分布図 …… 12
図７　第１面 溝状遺構１ …… 13
図８　第１面 溝状遺構１出土遺物 …… 13
図９　第１面 土坑１～５ …… 14
図10　第１面 遺構外出土遺物 …… 15
図11　第２面 遺構分布図 …… 15
図12　第２面 溝状遺構２～５ …… 16
図13　第２面 溝状遺構２出土遺物 …… 17
図14　第２面 溝状遺構４出土遺物 …… 17
図15　第２面 土坑６～11 …… 19
図16　第２面 ピット出土遺物 …… 19
図17　第２面 遺構外出土遺物 …… 20
図18　第３面 遺構分布図 …… 21
図19　第３面 方形竪穴状遺構１ …… 21
図20　第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物 …… 22
図21　第３面 溝状遺構６・７ …… 22
図22　第３面 溝状遺構６出土遺物 …… 22
図23　第３面 石列1 …… 23
図24　第３面 土坑12 …… 23
図25　第３面 ピット109・121 …… 23
図26　第３面 遺構外出土遺物 …… 24
図27　第４面 遺構分布図 …… 24
図28　第４面 溝状遺構８ …… 25

図29　第４面 土坑14出土遺物 …… 25
図30　第４面 土坑13～27 …… 27
図31　第４面 土坑25出土遺物 …… 28
図32　第４面 ピット136・137・165 …… 29
図33　第４面 遺構外出土遺物 …… 29
図34　第５面 遺構分布図 …… 30
図35　第５面 塀・柵状遺構１ …… 30
図36　第５面 池状遺構１ …… 31
図37　第５面 池状遺構１出土遺物 …… 31
図38　第５面 溝状遺構９ …… 31
図39　第５面 土坑28 …… 32
図40　第６面 遺構分布図 …… 32
図41　第６面 土坑29 …… 33
図42　第７面 遺構分布図 …… 33
図43　第７面 溝状遺構10 …… 34
図44　第７面 土坑30 …… 34

表　目　次

表１　田楽辻子周辺遺跡および周辺遺跡
　　調査地点一覧 …… 6
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 44
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 44
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 45
表５　第４面 出土遺物観察表 …… 46
表６　第５面 出土遺物観察表 …… 46
表７　遺構計測表 …… 46
表８　出土遺物一覧表 …… 47

図　版　目　次

図版１　１．調査区遠景（南西から）…… 51
　　２．調査区東側北壁土層断面（南東から）
　　…… 51
図版２　１．調査区西側第１面全景（南から）‥ 52
　　２．調査区東側第１面全景（南から）‥ 52
　　３．調査区西側第２面全景（北から）‥ 52
　　４．調査区西側第３面全景（南から）‥ 52
　　５．調査区東側第２面全景（北から）‥ 52
　　６．第２面 溝状遺構２石組護岸（南から）
　　…… 52
図版３　１．第３面 方形竪穴状遺構１（南から）
　　…… 53
　　２．第３面 方形竪穴状遺構１（北東から）
　　…… 53
　　３．第３面 石列１（西から）…… 53
図版４　１．調査区西側第４面全景（西から）‥ 54
　　２．調査区東側第４面全景（南から）‥ 54
　　３．調査区西側第５面全景（南から）‥ 54
　　４．調査区東側第５面全景（北から）‥ 54
　　５．調査区西側第６面（古代）全景（北
　　から）…… 54
　　６．調査区東側第６面（古代）全景（北
　　から）…… 54
　　７．調査区西側第７面（古代）全景（西
　　から）…… 54
　　８．調査区東側第７面（古代）全景（北
　　から）…… 54
図版５　１．第１面 溝状遺構１出土遺物 …… 55
　　２．第１面 遺構外出土遺物 …… 55
　　３．第２面 溝状遺構２出土遺物 …… 55
　　４．第２面 溝状遺構４出土遺物 …… 55
　　５．第２面 ピット出土遺物 …… 55
　　６．第２面 遺構外出土遺物 …… 55
図版６　１．第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物
　　…… 56
　　２．第３面 溝状遺構６出土遺物 …… 56
　　３．第３面 遺構外出土遺物 …… 56
　　４．第４面 土坑14出土遺物 …… 56
　　５．第４面 土坑25出土遺物 …… 56
　　６．第４面 遺構外出土遺物 …… 56
　　７．第５面 池状遺構１出土遺物 …… 56

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市浄明寺一丁目697番４で実施した個人専用宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である田楽辻子周辺遺跡（神奈川県遺跡台帳№33）の範囲内にあたる。個人が実施した鋼管杭工事を伴う建築工事について、鎌倉市教育委員会は、埋蔵文化財に与えた影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成22年５月６日に1.78㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が建築予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及んだと予想される54㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、山口正紀が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成22年10月18日～平成22年12月24日までの２ヵ月ほどである。現地表の標高は約16ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、西側をⅠ区として平成22年10月18日～平成22年11月24日、東側をⅡ区として平成22年11月25日～平成22年12月24日まで調査を実施した。調査はまず重機により約0.3～１ｍの表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、第１～７面の合計７面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして12月24日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては世界測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市四級基準点（Ｘ＝－75342.264、Ｙ＝－24267.140）、（Ｘ＝－75375.732、Ｙ＝－24278.185）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市浄明寺一丁目697番４に所在し、「田楽辻子周辺遺跡（№33）」の範囲内に所在する。田楽辻子周辺遺跡は鎌倉市街地の東方にあり、ＪＲ鎌倉駅から直線距離にして1.4㎞ほどの場所である。本遺跡は、蛇行しながら西流する滑川に架かる「華の橋」の東側から「大御堂橋」にかけての滑川左岸の沖積地に展開しており、東西方向に長い包蔵地範囲となっている。遺跡の南側には樹枝状に開析された谷戸が連続しており、この谷戸部と丘陵部に複数の包蔵地範囲が広がっている。滑川の上流方向から順にみていくと、谷戸部には報国寺遺跡（№306）、上杉氏憲邸跡（№258）、釈迦堂遺跡（№257）、勝長寿院跡（№133）などがあり、丘陵部には宅間ヶ谷東やぐら、釈迦堂東やぐら群（№157）、鎌倉城（№87）などが位置している。また、遺跡の北端を流れる滑川右岸の沖積地には、東側から浄明寺旧境内遺跡（№408）、杉本寺周辺遺跡群（№158）、横小路周辺遺跡群（№259）、大倉幕府周辺遺跡群（№49）の包蔵地範囲が所在する。本地点は開析谷の開口部付近に位置し、西流する滑川が南側へ大きく蛇行し再び北西方向へと流路を変え、南側から張り出す丘陵先端部との幅が最も狭まる場所に立地する。調査地における現地表面の標高は約16.5ｍを測る。

遺跡の名称となっている「田楽」の名は、「相良家文書」正応三年（1290年）５月８日付の相良頼俊の

譲状のなかにみることができ、鎌倉の釈迦堂前の土地として「その四至を注してでんがくが地とみえ」と記されている。田楽とは平安時代から行われている民間芸能であり、鎌倉時代には祭礼の際に行われるものとして定着していたとされる。本遺跡の名称は、この地に田楽を生業とする人々が暮らしていたと推定されることに由来する。また、「辻子」とは小路よりもさらに小さい通路のことを指す言葉で、執権泰時の時代に京都から移入された表現だとされている（石井 1989）。当時の鎌倉には、田楽辻子の他に、宇津宮辻子や大学辻子、呪師勾当辻子、唐笠辻子などの辻子があり、現在は滑川の左岸を大御堂橋から宅間ヶ谷までを結ぶ東西道路が「田楽辻子のみち」と呼ばれている。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、今回報告する地点の周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。田楽辻子周辺遺跡は滑川左岸の沖積地に東西方向に細長く展開し、本地点は包蔵地範囲の中央に位置している。

滑川の下流側に位置する調査地点としては、①浄明寺一丁目661番外地点、②浄明寺釈迦堂658地点、③浄明寺一丁目652番８地点、④浄明寺一丁目590番２地点の４地点があげられる。遺跡の中心部を東西方向に貫く「田楽辻子のみち」の南側に面する①浄明寺一丁目661番外地点では、３時期の変遷をたどる中世の遺構群が発見され、13世紀前半に位置づけられる東西方向に延びる道が検出されている（森 2000）。この道は泥岩ブロックを用いた舗装が施され、公道的要素が強いことから、調査者は鎌倉時代前半期における「田楽辻子」に比定される可能性を指摘している。②浄明寺釈迦堂658地点においても東西方向の道が検出され、６回に及ぶ度重なる改修が行われたことが明らかとなっている（手塚 1990）。年代的には13世紀頃まで遡ることが指摘されている。③浄明寺一丁目652番８地点では11面で中世の遺構が確認され、第２面から14世紀代の北東－南西方向に延びる道路状遺構が検出された（永田・米澤 2019）。また、13世紀前葉～後葉頃の遺物が出土した第５面からは、周囲に溝が巡る礎石建物の一部が確認されている。④浄明寺一丁目590番２地点では５ｂ面から基壇状施設のコーナー部分と推定される切石列が検出され、その上面は玉石敷きによる整地面に覆われていた（押木 2019）。年代的には出土遺物から13世紀後半～14世紀初頭とされ、鎌倉時代後期に位置づけられる。本報告地点でも同様な年代に属する第４面から玉石敷きの範囲が確認されており、関連が注意されよう。

滑川の上流側に位置する⑤浄明寺二丁目569番10地点では中世の遺構が２面で確認され、第２面から13世紀後葉から14世紀前葉の掘立柱建物が検出された（根本 2014）。第１面では14世紀後半から15世紀にかけての切石による石組をもつ井戸が検出されており、武家屋敷と想定される居住空間の縁辺部にあたるものと推定されている。

田楽辻子周辺遺跡の南側、釈迦堂ヶ谷に展開する釈迦堂遺跡（№257）の⑥浄明寺一丁目598番35地点

表１　田楽辻子周辺遺跡および周辺遺跡　調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	田楽辻子周辺遺跡（№33）	浄明寺一丁目691番４地点	
①	田楽辻子周辺遺跡（№33）	浄明寺一丁目661番外地点	森 2000
②	田楽辻子周辺遺跡（№33）	浄明寺釈迦堂658地点	手塚 1990
③	田楽辻子周辺遺跡（№33）	浄明寺一丁目652番８地点	永田・米澤 2019
④	田楽辻子周辺遺跡（№33）	浄明寺一丁目590番２地点	押木 2019
⑤	田楽辻子周辺遺跡（№33）	浄明寺二丁目569番10地点	根本 2014
⑥	釈迦堂遺跡（№257）	浄明寺一丁目598番35地点	永田・齋藤 2018
⑦	釈迦堂遺跡（№257）	浄明寺一丁目598番21地点	永田・齋藤 2018
⑧	杉本寺周辺遺跡（№158）	二階堂字杉本912番１ほか地点	馬淵・岡ほか 2002

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

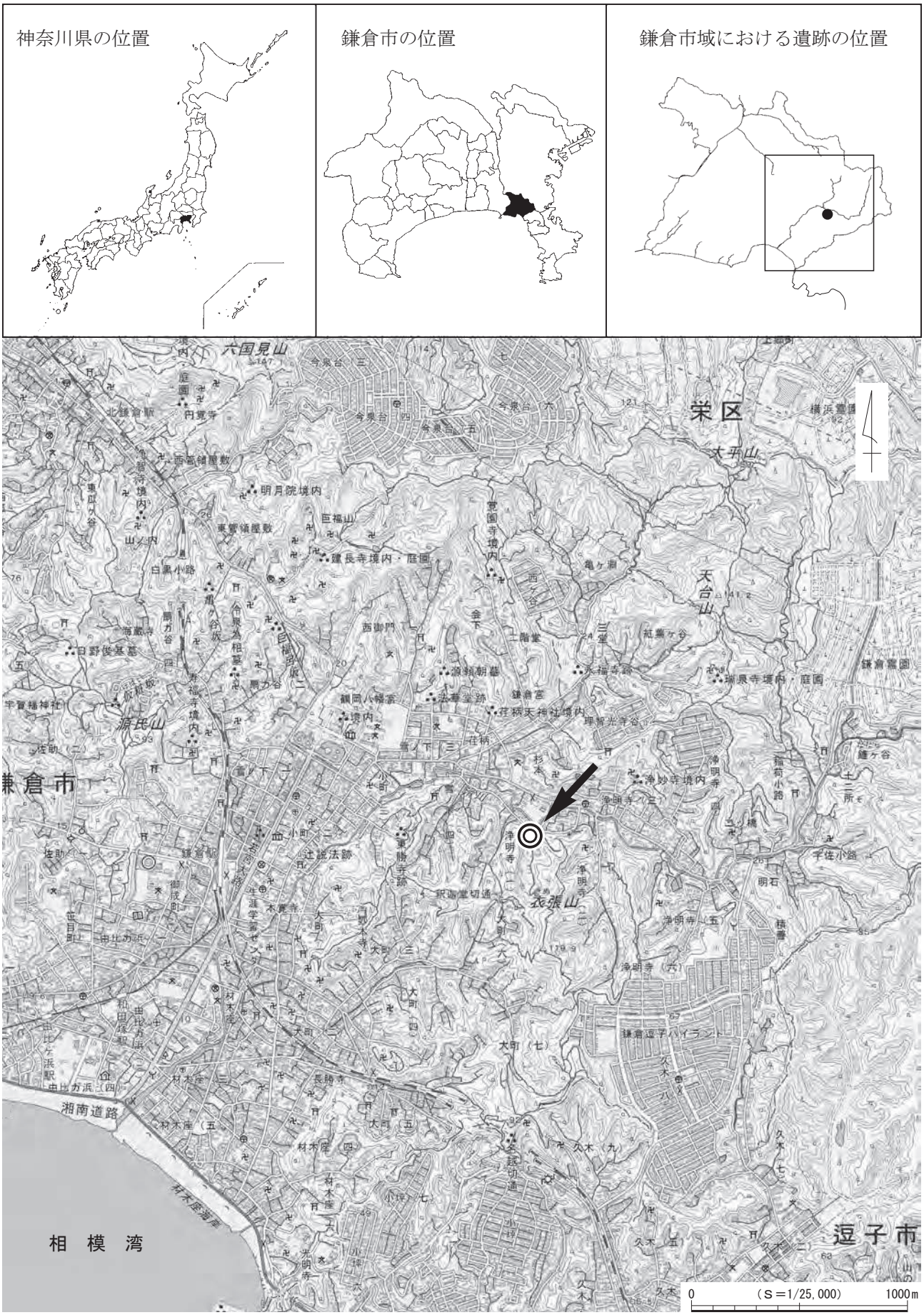
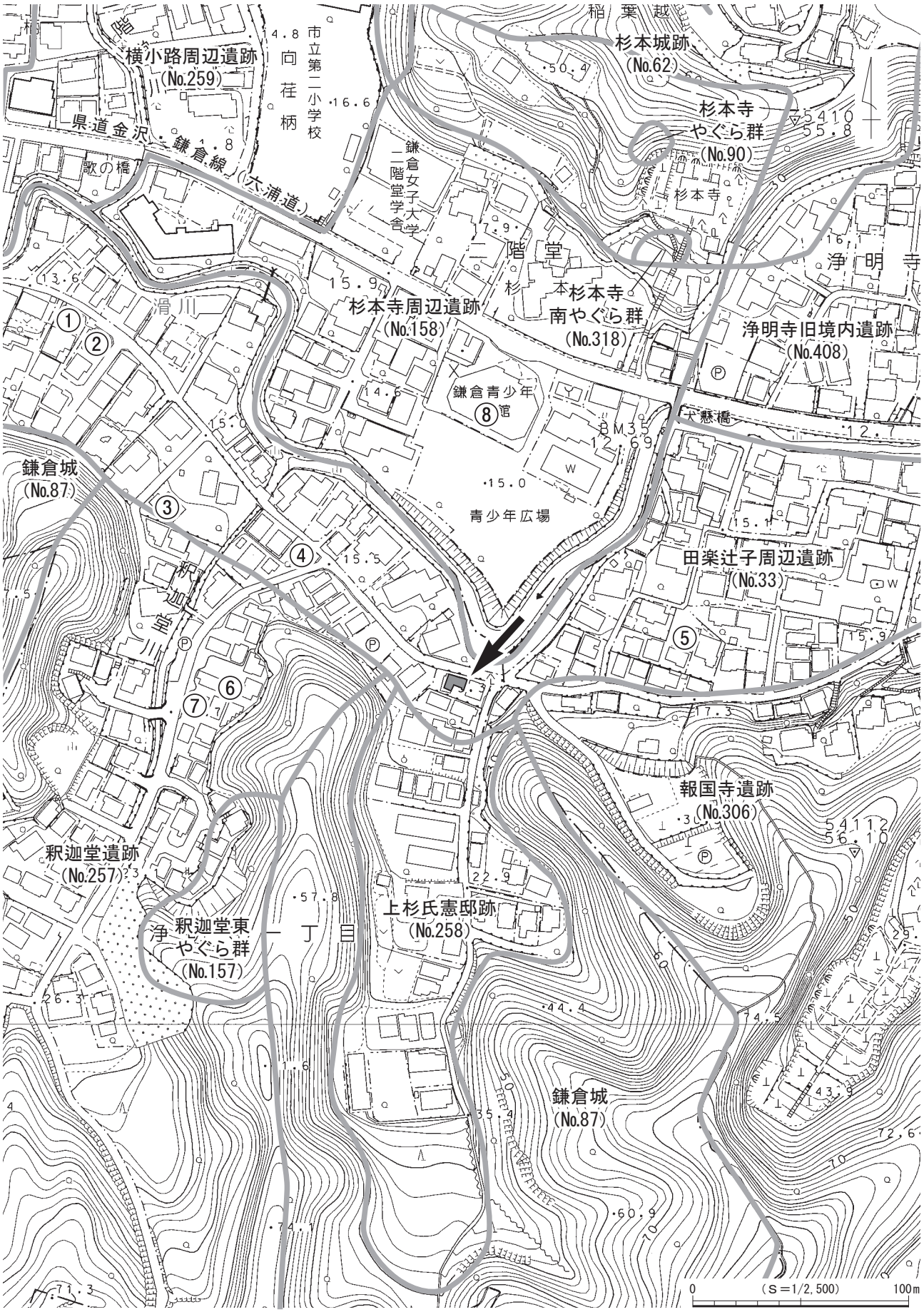

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
六国見山
栄区
大平山
天台山
源氏山
鎌倉市
衣張山
逗子市
相模湾
湘南道路
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

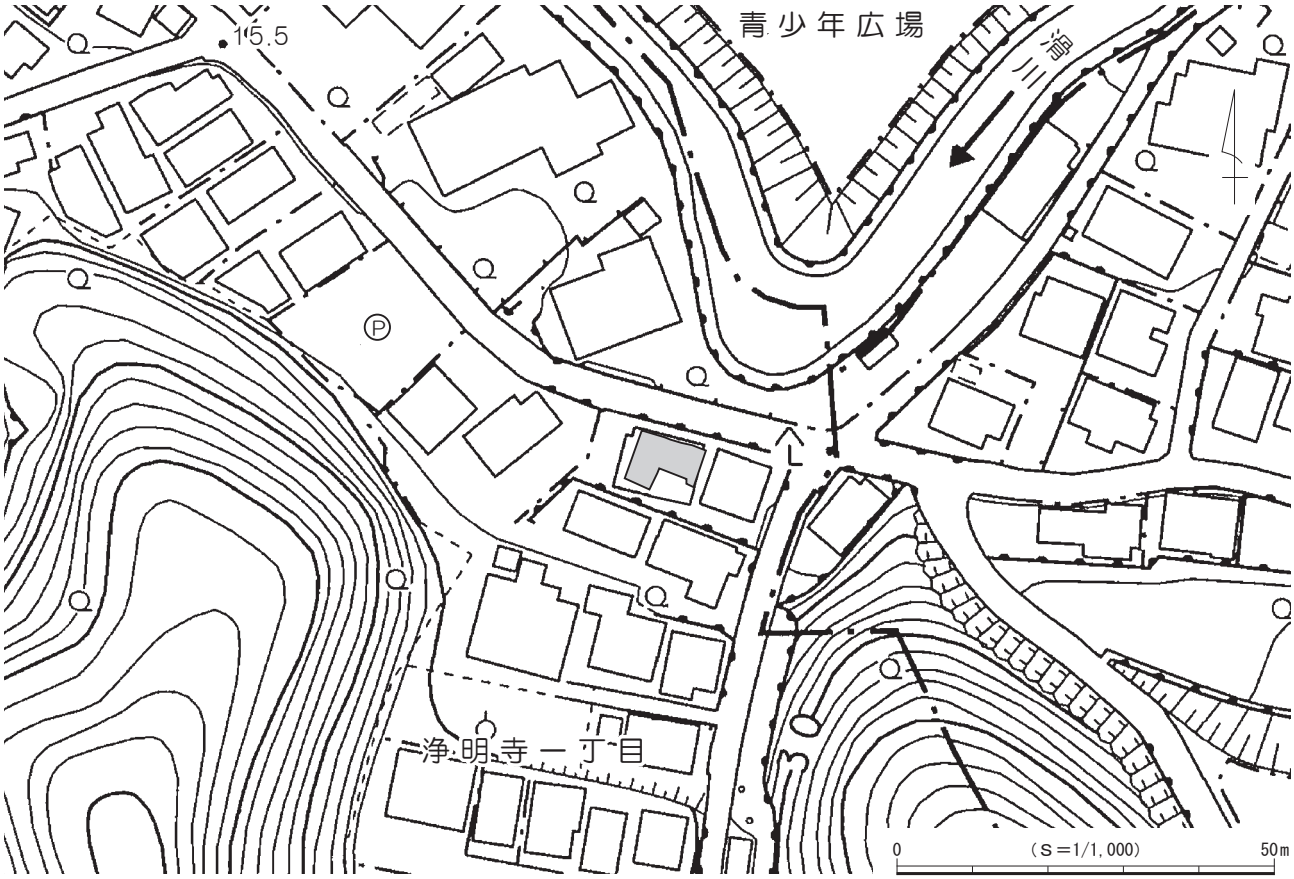


図３　調査区位置図

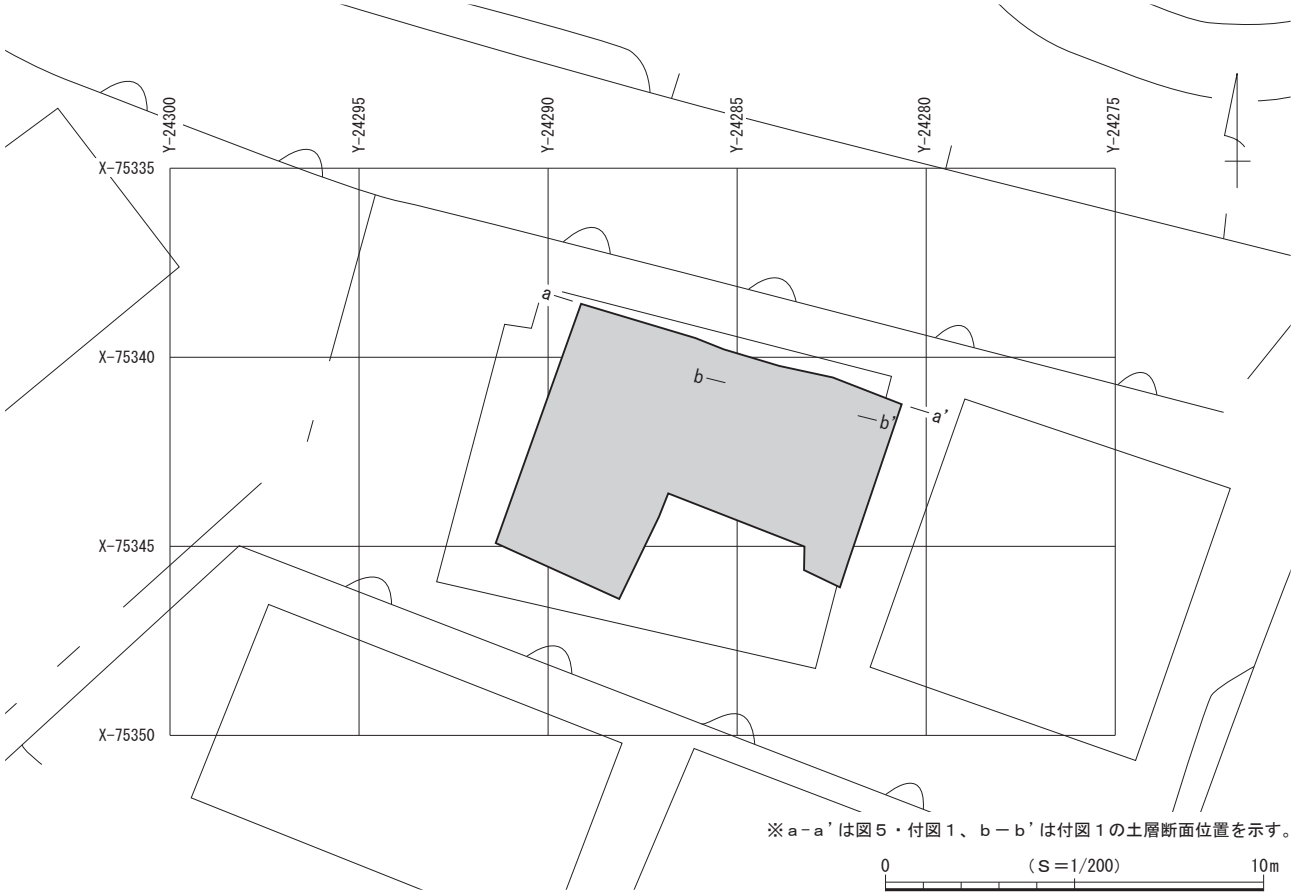


図４　調査区配置図

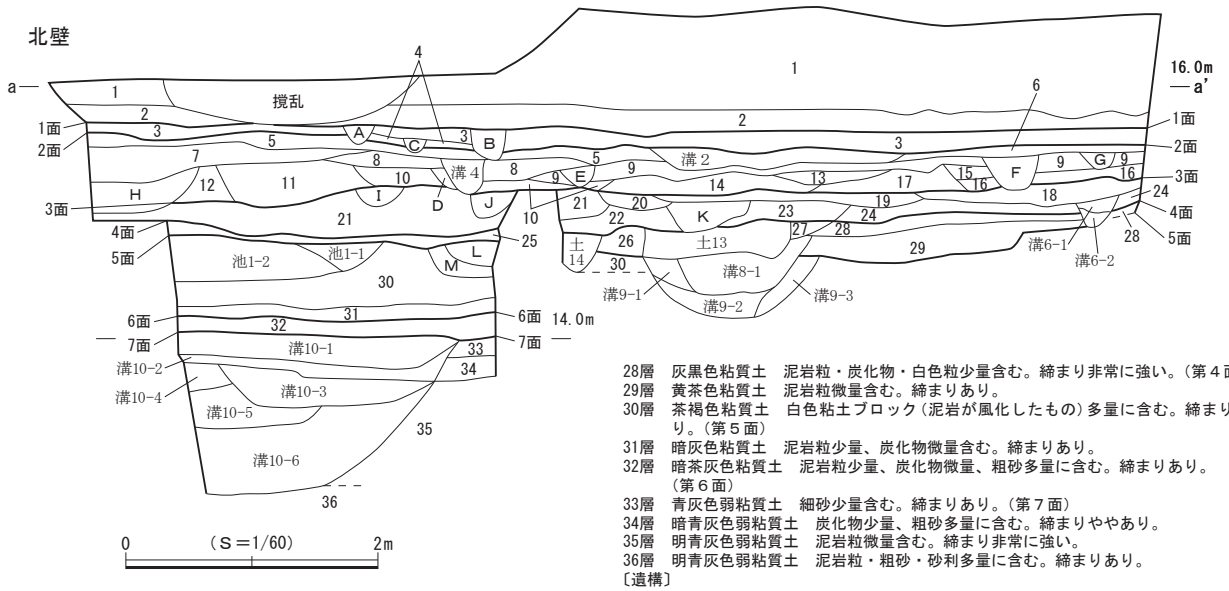
では、中世の遺構確認面が６面で検出された（永田・齋藤 2018）。検出された遺構種・遺構数はともに少ないものの、最下面にあたる第６面から器形復元可能な青白磁梅瓶が出土しており、特筆される。南西側に隣接する⑦浄明寺一丁目598番21地点では３面にわたる中世の遺構面が確認され、溝状遺構や石列、土坑などが検出されている（永田・齋藤 2018）。

田楽辻子周辺遺跡の北側には杉本寺周辺遺跡（№158）が隣接しており、⑧二階堂字杉本912番１ほか地点で広範囲の調査が行われている（馬淵・岡ほか 2002）。中世の遺構群は４期にわたる変遷が捉えられており、第１～３期における大小の掘立柱建物や柵列、井戸、土坑で構成される有力武士の武家屋敷から、第４期には据甕や竪穴状遺構からなる職能集団の活動空間へと変化したと考えられている。

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、中世が第１～５面、古代が第６・７面までの合計７面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区北壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高16.1～16.6ｍを測り、最上部には表土（１層）、水田耕作土（２層）が層厚合計30～100㎝堆積している。遺構確認面の第１面は３層上面で検出した。確認面の標高は15.6～15.7ｍを測る。３層は多量の泥岩粒、中量の泥岩ブロック、少量の炭化物・かわらけ片を含みやや締まりのある暗褐色土層で、層厚６～18㎝である。第２面は５・６層上面で確認し、確認面の標高は15.5～15.6ｍを測る。５層は多量の泥岩粒・泥岩ブロック、微量の炭化物、少量のかわらけ片を含み締まりのある灰茶色弱粘質土層で、４～13㎝である。６層は中量の泥岩粒、少量の泥岩ブロック・炭化物、微量のかわらけ片を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、層厚４～９㎝である。５・６層の下位には茶色弱粘質土を主体とする層（７～17層）が、層厚20～48㎝堆積している。第３面は18～21層上面で確認し、確認面の標高は15.0～15.3ｍを測る。18層は少量の泥岩粒、微量の泥岩ブロック、中量の炭化物、多量の褐鉄を含み非常に締まりの強い茶褐色粘質土層で、層厚７～18㎝である。19層は少量の泥岩粒と炭化物を含み締まりのある暗茶色粘質土層で、層厚５～12㎝である。20層は中量の泥岩粒・泥岩ブロック、少量の炭化物、多量の茶色粘土ブロックを含み締まりのある暗茶色粘質土層で、層厚約12㎝である。21層は多量の泥岩ブロック、少量の小石を含みやや締まりのある青灰色弱粘質土層で、層厚14～39㎝である。第４面は25～28層上面で確認し、確認面の標高は14.8～15.0ｍを測る。25層は多量の玉砂利・貝砂、中量の黄褐色砂を含み締まりのある暗青灰色砂質土層で、層厚４～12㎝である。25層で確認された玉砂利はⅠ区のみで出土している。26層は少量の泥岩粒・炭化物・白色粒を含み非常に締まりの強い暗茶褐色粘質土層で、層厚25㎝である。27層は焼土を主体とし、多量の泥岩粒、少量の泥岩ブロック、多量の炭化物、微量のかわらけ片を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、層厚15㎝前後である。28層は少量の泥岩粒・炭化物・白色粒を含み非常に締まりの強い灰黒色粘質土層で、層厚10㎝前後である。第５面は30層上面で確認し、確認面の標高は14.6～14.8ｍを測る。30層は多量の白色粘土ブロック（風化した泥岩）を含み締まりのある茶褐色粘質土層で、層厚は約50㎝である。第６面は32層上面で確認し、確認面の標高は約14.2ｍを測る。32層は少量の泥岩粒、微量の炭化物、多量の粗砂を含み締まりのある暗茶灰色粘質土層で、層厚10～20㎝である。遺構確認面の最下位にあたる第７面は、33層上面で確認した。確認面の標高は約14.0ｍを測る。33層は少量の細砂を含み締まりのある青灰色弱粘質土層で、層厚13㎝前後である。



１層　表土
２層　水田耕作土
３層　暗褐色土　泥岩粒多量、泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片少量含む。締りややあり。（第１面）
４層　灰茶色弱粘質土　泥岩粒･泥岩ブロック多量、炭化物少量含む。締まりややあり。
５層　灰茶色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりあり。（第２面）
６層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック･炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりあり。（第２面）
７層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック中量、かわらけ片微量含む。締まりあり。
８層　暗灰茶色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック少量、炭化物多量、かわらけ片少量、部分的に炭層含む、締まりややあり。
９層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
10層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック少量、炭化物中量含む。締まり若干あり。
11層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック多量、炭化物中量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
12層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック微量、炭化物・かわらけ片・粗砂少量含む。締まりあり。
13層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
14層　茶灰色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・粗砂少量、かわらけ片・小石微量含む。締まりややあり。
15層　暗茶灰色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック・炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり
16層　茶色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック・炭化物中量、粗砂少量、部分的に炭層含む。締まりややあり。
17層　茶色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
18層　茶褐色粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック微量、炭化物中量、褐鉄多量含む。締まり非常に強い。（第３面）
19層　暗茶色粘質土　泥岩粒・炭化物少量含む。締まりあり。（第３面）
20層　暗茶色粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物少量、茶色粘土ブロック多量に含む。締まりあり。（第３面）
21層　青灰色弱粘質土　泥岩ブロック多量、小石少量含む。締まりややあり。（第３面）
22層　灰黒色粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量含む。締まり非常に強い。
23層　茶灰色粘質土　泥岩粒・炭化物・粗砂中量、かわらけ片微量、灰黒色粘土ブロック少量含む。締まりあり。
24層　明茶褐色粘質土　泥岩粒・炭化物中量、褐鉄粒少量含む。締まり非常に強い。
25層　暗青灰色砂質土　玉砂利・貝砂多量、黄褐色砂中量含む。締まりあり。（第４面）
26層　暗茶褐色粘質土　泥岩粒・炭化物・白色粒少量含む。締まり非常に強い。（第４面）
27層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック少量、炭化物多量、かわらけ片微量含む。焼土層。締まりあり。（第４面）
28層　灰黒色粘質土　泥岩粒・炭化物・白色粒少量含む。締まり非常に強い。（第４面）
29層　黄茶色粘質土　泥岩粒微量含む。締まりあり。
30層　茶褐色粘質土　白色粘土ブロック（泥岩が風化したもの）多量に含む。締まりあり。（第５面）
31層　暗灰色粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量含む。締まりあり。
32層　暗茶灰色粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量、粗砂多量に含む。締まりあり。（第６面）
33層　青灰色弱粘質土　細砂少量含む。締まりあり。（第７面）
34層　暗青灰色弱粘質土　炭化物少量、粗砂多量に含む。締まりややあり。
35層　明青灰色弱粘質土　泥岩粒微量含む。締まり非常に強い。
36層　明青灰色弱粘質土　泥岩粒・粗砂・砂利多量に含む。締まりあり。

〔遺構〕
池１
　１層　青灰色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、貝砂少量含む。締まりややあり。
　２層　青灰色弱粘質土　玉砂利・貝砂多量含む。締まりややあり。
溝２　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック・炭化物少量、粗砂多量含む。締まりややあり。
溝４　暗茶色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック中量、炭化物微量、粗砂中量、褐鉄多量に含む。締まりなし。
溝６
　１層　暗褐色粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量含む。締まりややあり。
　２層　黄茶色粘質土　泥岩ブロック少量、炭化物微量含む。締まりなし。
溝８
　１層　暗褐色粘質土　泥岩粒中量、木端・黒色粘土ブロック少量含む。締まりなし。
　２層　暗褐色粘質土　泥岩ブロック・炭化物中量、粗砂多量、木片・黒色粘土ブロック少量含む。締まりややあり。
溝９
　１層　暗青灰色粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック・木端少量、暗茶褐色粘土ブロック中量含む。締まりややあり。
　２層　暗青灰色粘質土　泥岩ブロック中量、炭化物微量、黒色粘土ブロック多量に含む。締まりややあり。
　３層　暗青灰色粘質土　泥岩ブロック中量、かわらけ片微量、黒色粘土ブロック多量に含む。締まりなし。
溝10
　１層　暗灰色粘質土 泥岩粒少量、炭化物微量、細砂多量に含む。締まりややあり。
　２層　暗茶褐色粘質土　泥岩粒・炭化物少量含む。締まりなし。
　３層　茶褐色粘質土　泥岩粒少量、木片多量に含む。締まりなし。
　４層　暗灰色砂質土　泥岩粒・泥岩ブロック・荒砂利多量に含む。締まりあり。
　５層　茶色粘質土　炭化物少量、粗砂・木端中量に含む。締まりなし。
　６層　暗灰色粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量、粗砂多量に含む。締まりなし。
Ａ層　明茶色土　泥岩粒中量、泥岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
Ｂ層　灰茶色粘質土　泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりなし。
Ｃ層　灰茶色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量含む。締まりややあり。
Ｄ層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物・小石微量含む。締まりややあり。
Ｅ層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒微量、泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片・玉石微量含む。締まりなし。
Ｆ層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｇ層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量含む。締まりなし。
Ｈ層　暗茶灰色弱粘質土　泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片・粗砂中量含む。締まりややあり。
Ｉ層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物少量含む。締まりなし。
Ｊ層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・かわらけ片少量、炭化物・粗砂多量に含む。締まりなし。
Ｋ層　黄茶褐色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量、暗褐色粘土ブロック多量に含む。締まりあり。
Ｌ層　暗灰色粘質土　泥岩粒・炭化物・細砂少量含む。締まりややあり。
Ｍ層　暗灰色弱粘質土　泥岩粒微量、炭化物少量、細砂多量に含む。締まりなし。

図５　調査区北壁 土層断面図

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～７面までの合計７面で、第１～５面が中世、第６・７面が古代に属する。検出した遺構は方形竪穴状遺構１基、塀・柵状遺構１条、池状遺構１基、溝状遺構10条、石列１条、土坑30基、ピット183基で、このうち溝状遺構１条、土坑２基、ピット12基は古代に属する遺構である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して11箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表８）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～７面）に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の３層上面で検出され、確認面の標高は15.6～15.7ｍを測る。３層は多量の泥岩粒、中量の泥岩ブロック、少量の炭化物・かわらけ片を含み、やや締まりのある暗褐色土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、土坑５基、ピット36基である（図６）。調査区の中央を溝状遺構が東西方向に横切り、その南北両側に土坑やピットが分布する。遺構密度はさほど高くはないが、重複するものも確認された。また、溝状遺構をはじめとして調査区外に続く遺構が認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は15世紀代に属すると考えられる。

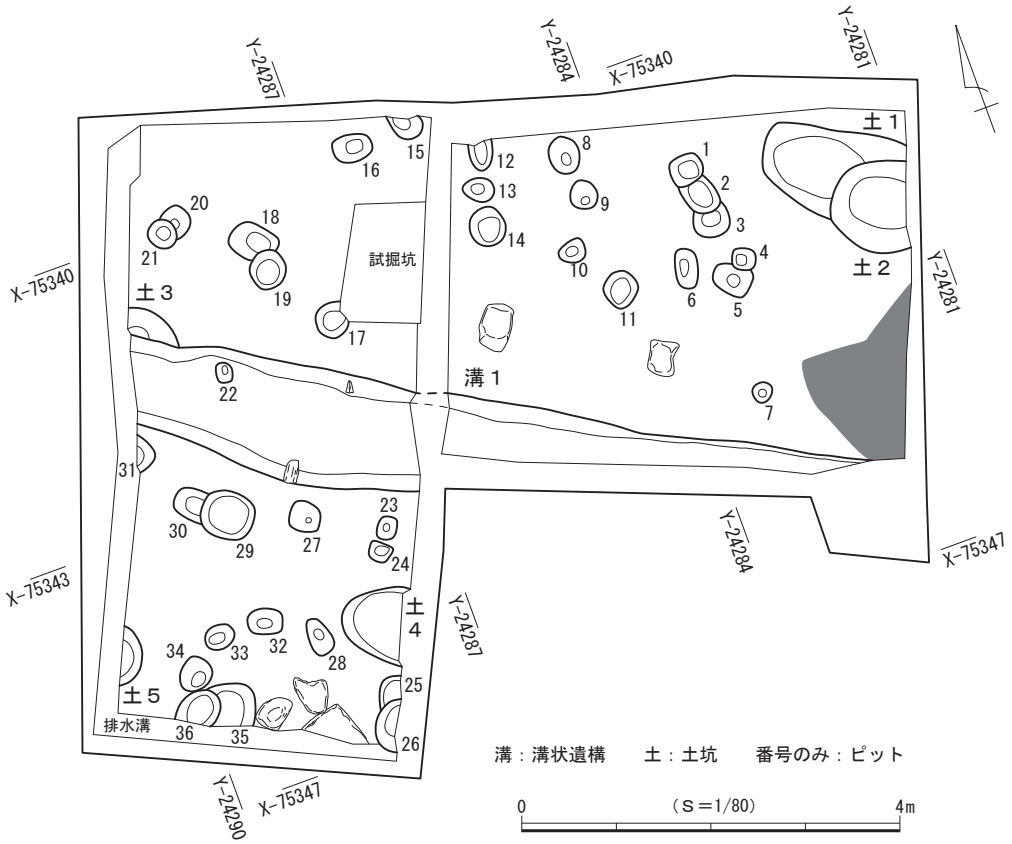


図６　第１面 遺構分布図

（1）溝状遺構

溝状遺構１（図７）

調査区の中央に位置し、東西方向におおむね直線的に横断して調査区外の東西側に続いている。調査区内ではピット22と重複して底面の一部が壊されており、西側で土坑３と重複して壊している。検出した規模は現存長約7.9m、幅0.9～1.2m、深さ10～20㎝で、主軸方位はＮ－60°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は東側で15.15m、西側で15.38mを測る。

出土遺物（図８）

遺物はかわらけ156点、磁器２点、陶器37点、石製品１点が出土し、このうち５点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、１の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。３は龍泉窯系青磁坏で、坏Ⅲ類に比定される。４・５は常滑産の陶器類である。４は甕で６ａ型式、５は片口鉢Ⅱ類で10～11型式に比定される。

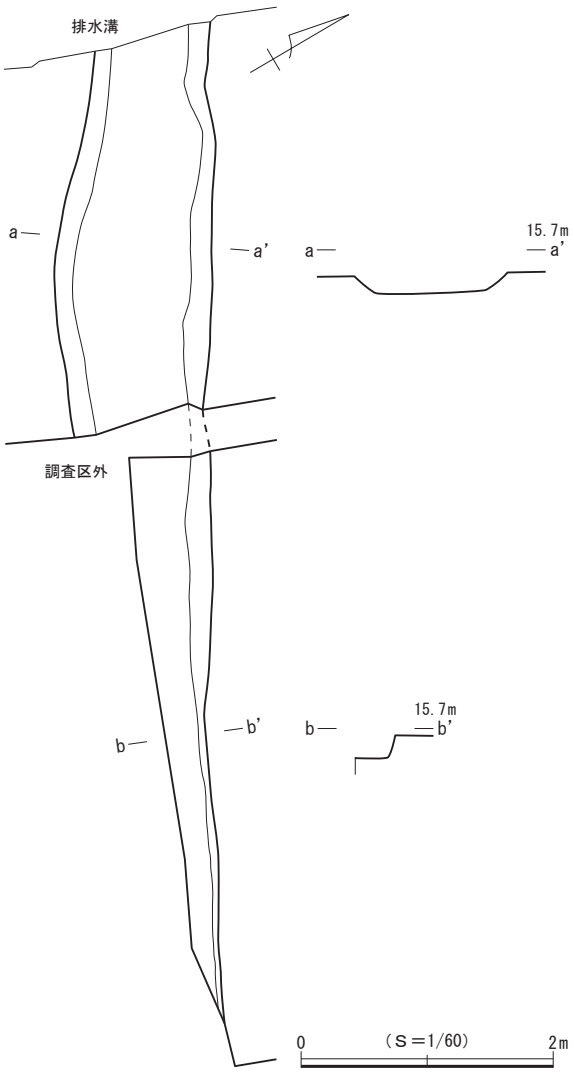


図７　第１面 溝状遺構１

（2）土　坑

土坑１（図９）

調査区北東隅に位置する。東側で土坑２と重複して壁と底面の一部が壊され、東側が調査区外へ続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.50m、短軸92㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は15.50mを測る。主軸方位はＮ－46°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ２点、陶器２点が出土した。

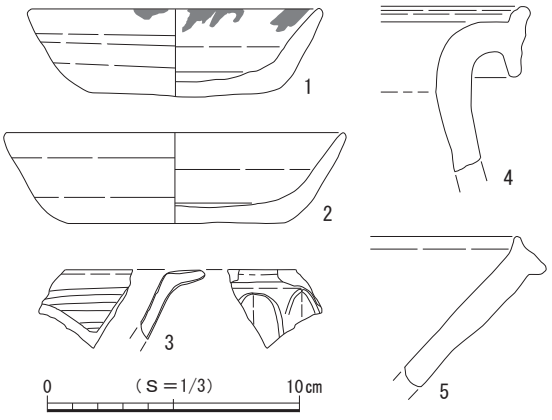


図８　第１面 溝状遺構１出土遺物

土坑２（図９）

調査区北東隅に位置する。北側で土坑１と重複して壁と底面の一部を壊し、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長80㎝、短軸99㎝、深さ22㎝で、坑底面の標高は15.29mを測る。主軸方位はＮ－58°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑３（図９）

調査区西壁際の中央北側に位置する。南側を溝状遺構１によって大きく壊され、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈すると考えられる。規模は南北現存長68㎝、東西現存長30㎝、深さ21㎝で、坑底面の標高は15.36ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑４（図９）

調査区の南側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長72㎝、短軸81㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は15.41ｍを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ13点が出土した。

土坑５（図９）

調査区の南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長63㎝、東西現存長21㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は15.42ｍを測る。

遺物はかわらけ５点が出土した。

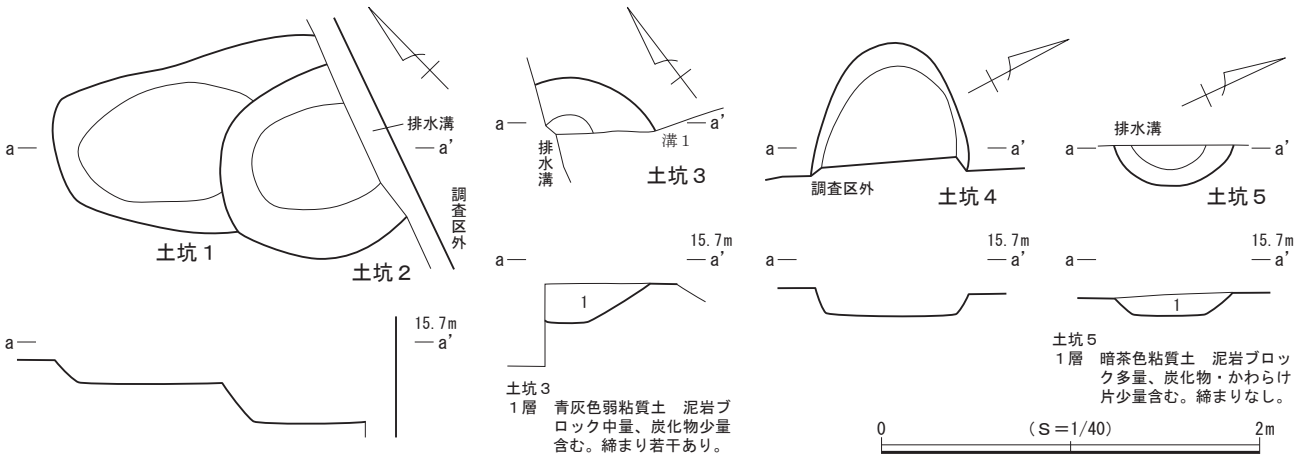


図９　第１面 土坑１～５

（３）ピット

第１面では、36基を検出した。調査区の全域に疎らに分布する。ピット間の重複は少なく、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸21～56㎝、深さ５～41㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は36基中、20基（ピット１・２・５・６・８・11～13・17～21・25・27・29・31・32・34・36）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）を参照されたい。

（４）第１面 遺構外出土遺物（図10）

第１面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち４点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。３は龍泉窯系青磁坏で坏Ⅲ－３ｂ類に比定される。４は瀬戸産の縁釉小皿で古瀬戸後期様式に比定される。

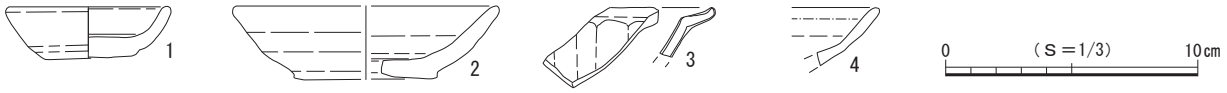


図10　第１面 遺構外出土遺物

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の５・６層上面で検出され、確認面の標高は15.5～15.6ｍを測る。５層は多量の泥岩粒・泥岩ブロック、微量の炭化物、少量のかわらけ片を含み締まりのある灰茶色弱粘質土層、６層は中量の泥岩粒、少量の泥岩ブロック・炭化物、微量のかわらけ片を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構４条、土坑６基、ピット71基である（図11）。調査区の西側を３条の溝状遺構が平行して縦断し、その東側にピットが集中して検出された。遺構密度は高く、重複するものも多く確認された。また、溝状遺構をはじめとして調査区外に続く遺構が認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀後葉～15世紀前葉頃に属すると考えられる。

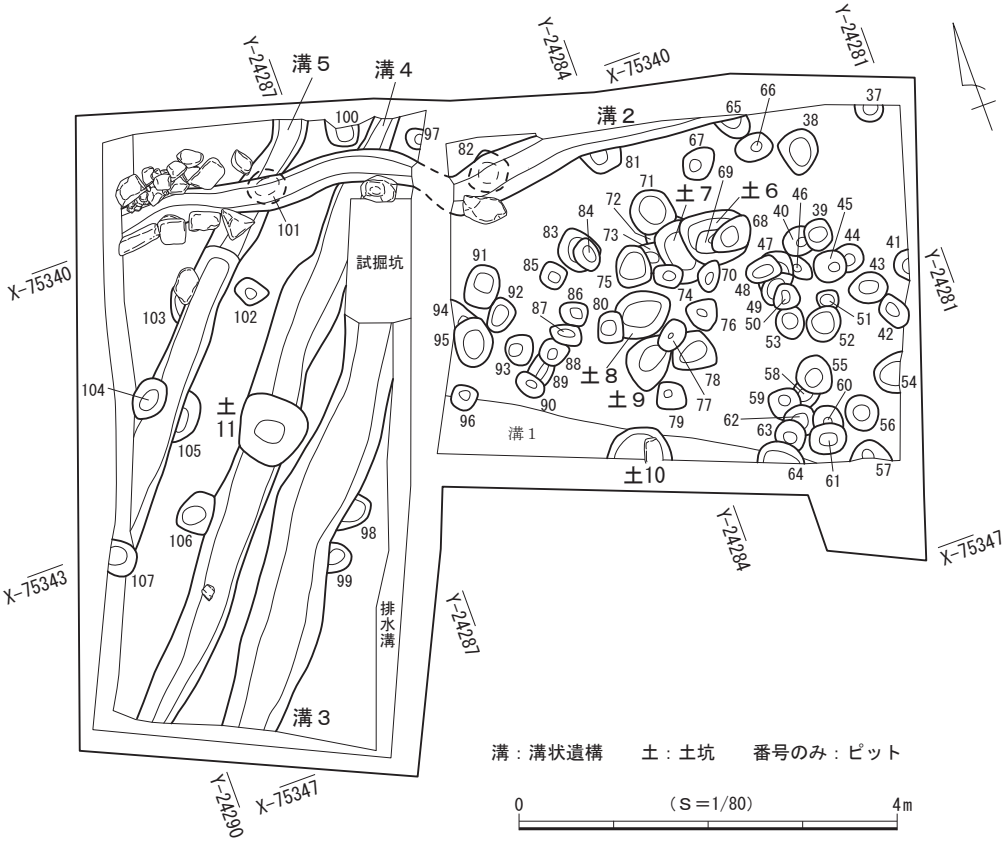


図11　第２面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構２（図12）

調査区の北壁際に位置し、わずかに蛇行しながら東西方向に横断して調査区外に続いている。調査区内では溝状遺構４・５、ピット65・81・82・101と重複して一部を壊している。検出した規模は現存長約6.7m、幅30～50㎝、深さ８～20㎝を測り、主軸方位は西半がＮ－84°－Ｗを指し、調査区の境でわずかに屈曲してＮ－89°－Ｗに向きを変える。西端部の両壁際約1.5mの範囲に砂質凝灰岩の切石が残存しており、護岸を伴っていたと考えられる。切石の大きさは長さ10～50㎝、幅７～30㎝、高さ５～15㎝を測る。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は東側で15.32m、西側で15.15mを測り、西側に向かってごくわずかに傾斜している。

出土遺物（図13）

遺物はかわらけ318点、陶器18点、土師質・瓦質土器３点が出土し、このうち14点を図示した。

１～11はロクロ成形によるかわらけで、１・３・10の口縁部には油煙が付着しており、灯明具として

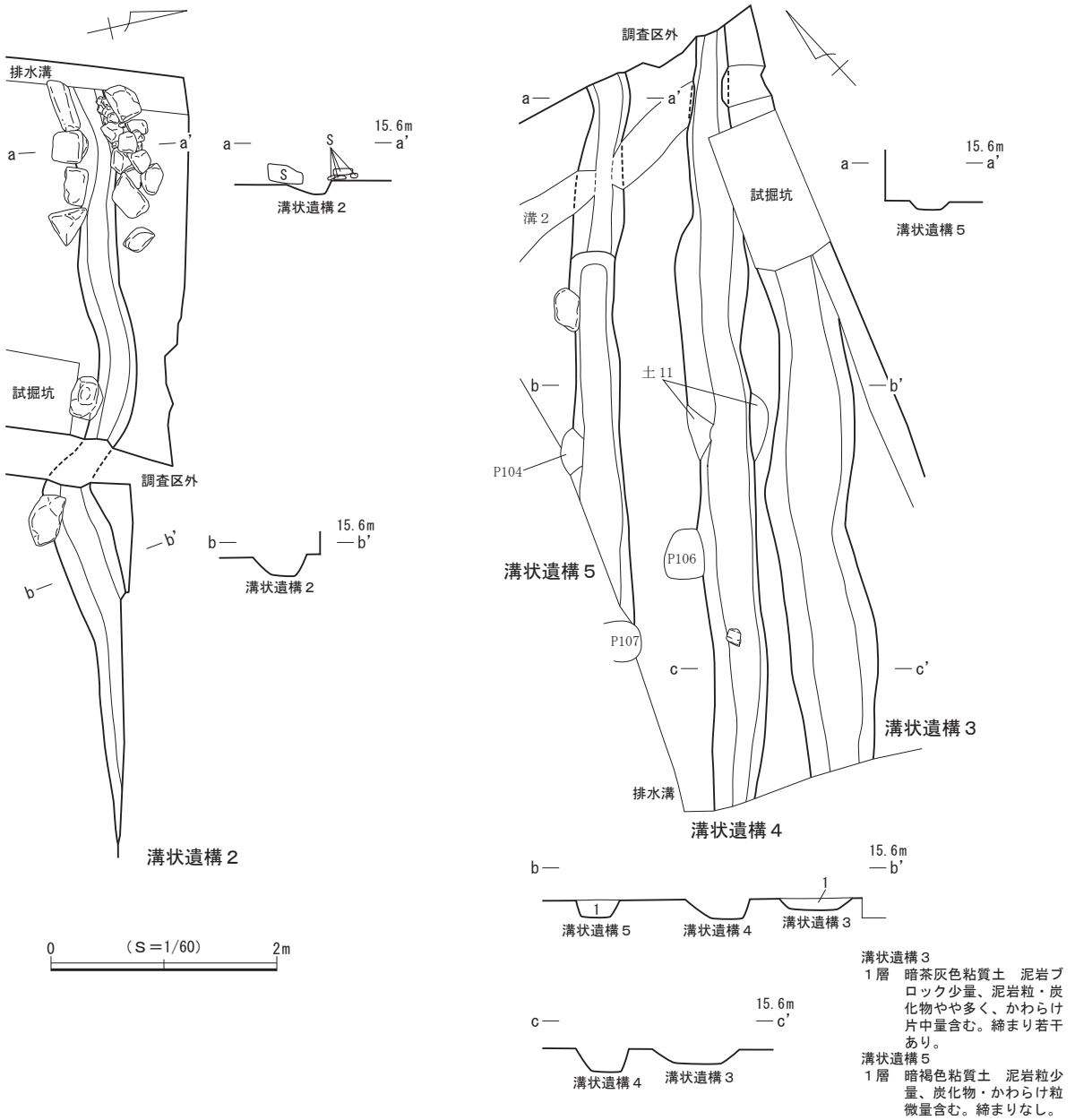


図12　第２面 溝状遺構２～５

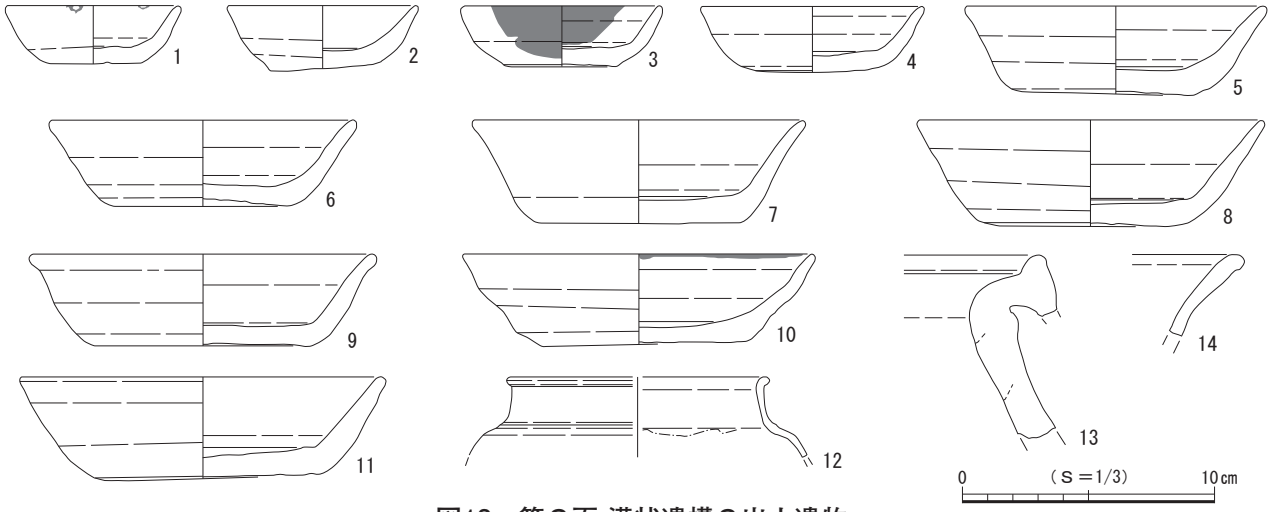


図13　第２面 溝状遺構２出土遺物

の使用が認められる。12は中国産と思われる鉄釉の壺である。13・14は常滑産の陶器類である。13は甕で６ａ型式に比定される。14は片口鉢Ⅰ類である。

溝状遺構３（図12）

調査区の西側に位置する。北東－南西方向にわずかに蛇行しながら縦断して調査区外の南側に続くが、北側は試掘坑が位置するため判然としない。調査区内ではピット98・99と重複して壁と底面の一部を壊している。検出した規模は現存長約4.5m、幅50～80㎝、深さ７～12㎝で、主軸方位はＮ－39°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で15.25m、南側で15.23mを測る。本址の西側に溝状遺構４・５が平行して延びており、関連が注意される。

遺物は出土しなかった。

溝状遺構４（図12）

調査区の西側に位置する。北東－南西方向にごくわずかに蛇行しながら縦断して調査区外の南北側に続いている。調査区内では溝状遺構２、土坑11、ピット106と重複して壁と底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約6.8m、幅25～65㎝、深さ11～16㎝で、主軸方位はＮ－42°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は15.16mを測る。本址の西側に溝状遺構５、東側に溝状遺構３がほぼ平行して延びており、関連が注意される。

出土遺物（図14）

遺物はかわらけ８点、陶器３点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

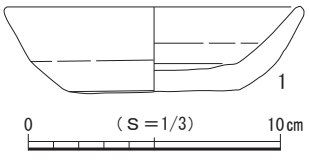


図14　第２面 溝状遺構４出土遺物

溝状遺構５（図12）

調査区の西側に位置する。北東－南西方向におおむね直線的に縦断して調査区外に続いている。調査区内では溝状遺構２、ピット104・107と重複して壁と底面の一部が壊され、ピット101・103・105と重複して壊している。検出した規模は現存長約4.8m、幅30～40㎝、深さ６～15㎝で、主軸方位はＮ－42°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は北側で15.20m、南側で

15.16ｍを測り、中央付近で一段低くなることから作り替えが行われた可能性も考えられる。本址の東側に溝状遺構３・４がほぼ平行して延びており、関連が注意される。

遺物はかわらけ11点、陶器10点、瓦１点、石製品１点が出土した。

（２）土　坑

土坑６（図15）

調査区の東側に位置する。西側で土坑７と重複して壊し、東側でピット68、南側でピット69・70と重複して壁と底面の一部が壊されているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸71㎝、短軸57㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は15.32ｍを測る。主軸方位はＮ－80°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点、陶器１点が出土した。

土坑７（図15）

調査区の東側に位置する。西側でピット72・73、北側でピット71と重複して壊し、東側で土坑６、南側でピット70・74と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸67㎝、短軸現存長36㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は15.31ｍを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。

遺物は出土しなかった。

土坑８（図15）

調査区の東側に位置する。西側でピット80と重複して上面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸62㎝、短軸49㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は15.31ｍを測る。主軸方位はＮ－84°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ３点が出土した。

土坑９（図15）

調査区の東側に位置する。北側でピット77と重複して上面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸60㎝、短軸45㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は15.33ｍを測る。主軸方位はＮ－63°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ３点が出土した。

土坑10（図15）

調査区東側の南壁際に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長69㎝、東西現存長33㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は15.30ｍを測る。東壁寄りから幅20㎝の礫が出土

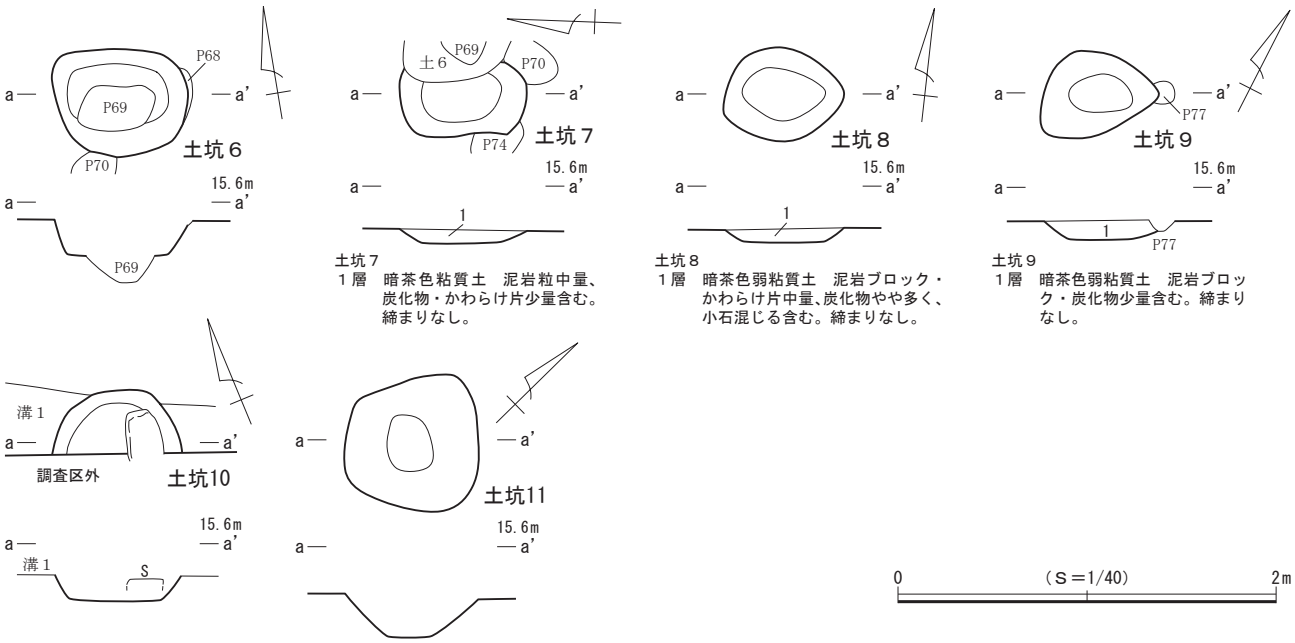


図15　第２面 土坑６～11

しており、礎石を伴うピットの可能性も考えられる。

遺物はかわらけ３点、陶器４点、土師質・瓦質土器２点が出土した。

土坑11（図15）

調査区の西側に位置する。溝状遺構４と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は一辺70㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は15.13mを測る。北東壁を基準とするならば、主軸方位はＮ－47°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

（３）ピット

第２面では、71基を検出した。溝状遺構の東側に高い密度で分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸21～57㎝、深さ５～43㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図16）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち７点を図示した。

１・４は常滑産の陶器類である。１は片口鉢Ⅱ類で10型式、４は甕で６ａ型式に比定される。２は瀬戸産の平碗で古瀬戸後期様式Ⅲ期に比定される。３・５・６はロクロ成形によるかわらけで、６の口縁

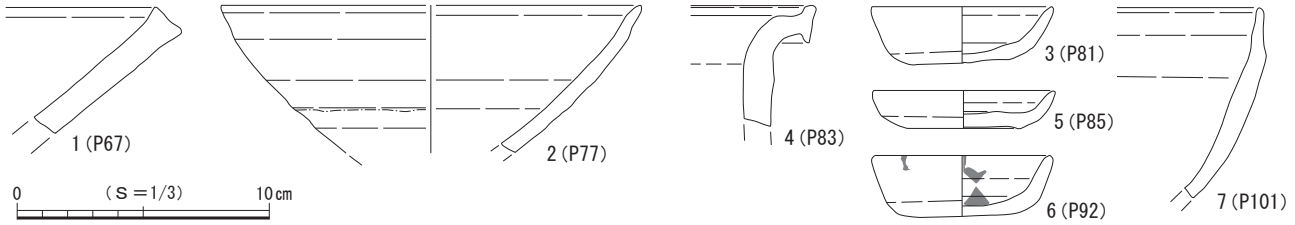


図16　第２面 ピット出土遺物

部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。７は中国産と思われる天目茶碗である。

１はピット67、２はピット77、３はピット81、４はピット83、５はピット85、６はピット92、７はピット101からそれぞれ出土した。

（４）第２面 遺構外出土遺物（図17）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち25点を図示した。

１～12はロクロ成形によるかわらけで、３の口縁部から内外面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。13は瀬戸産の入子で古瀬戸中期～後期様式に比定される。14～24は常滑産の陶器類である。14～17は甕で６ａ～９型式、18は広口壺小で６ａ～６ｂ型式、19・20は広口壺大で６ａ～６ｂ型式、21～24は片口鉢Ⅱ類で８～10型式に比定される。25は常滑産の甕破片を転用した摩耗陶片である。

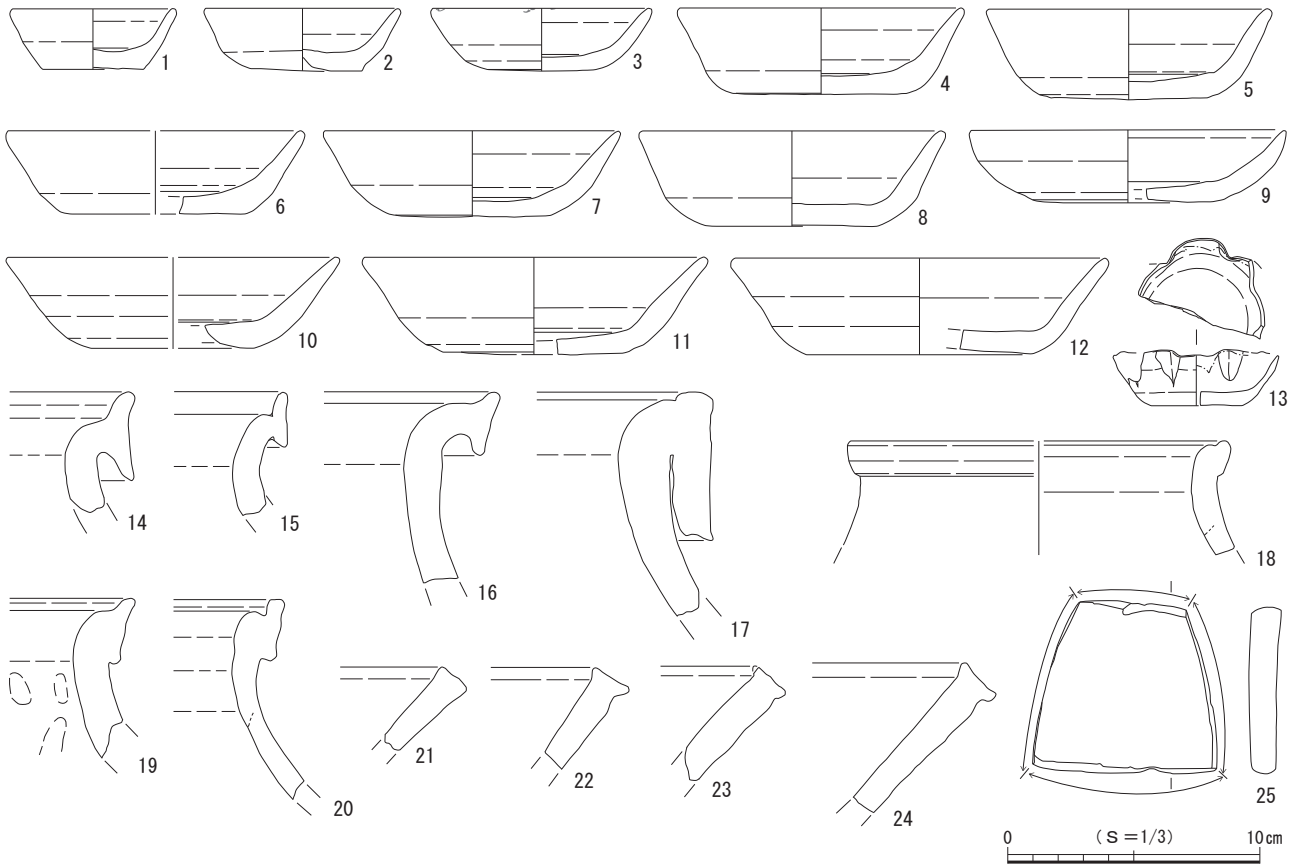


図17　第２面 遺構外出土遺物

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の18～21層上面で検出され、確認面の標高は15.0～15.3mを測る。18層は少量の泥岩粒、微量の泥岩ブロック、中量の炭化物、多量の褐鉄を含み非常に締まりの強い茶褐色粘質土層、19層は少量の泥岩粒と炭化物を含み締まりのある暗茶色粘質土層、20層は中量の泥岩粒・泥岩ブロック、少量の炭化物、多量の茶色粘土ブロックを含み締まりのある暗茶色粘質土層、21層は多量の泥岩ブロック、少量の小石を含みやや締まりのある青灰色弱粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は方形竪穴状遺構１基、溝状遺構２条、石列１条、土坑１基、ピット23

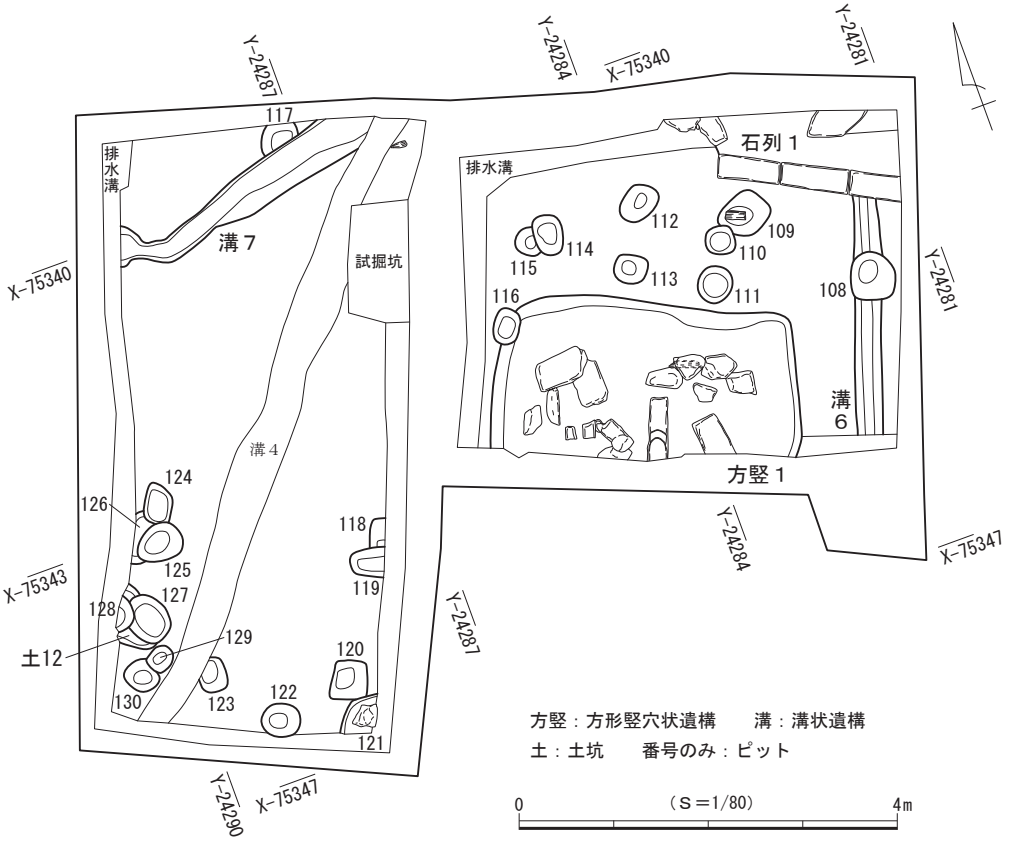


図18　第３面 遺構分布図

基である（図18）。全体的に遺構密度は低く、調査区西側の中央付近には遺構のない空白域が認められる。また、溝状遺構をはじめとして調査区外に続く遺構が認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

（１）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構１（図19）

調査区東側の南壁際に位置する。北側でピット116と重複して壁の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。平面形は隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.67m、東西3.27m、深さ15～35㎝で、底面の標高は15.03mを測る。主軸方位はＮ－70°－Ｗを指す。覆土中から砂質凝灰岩の切石が15点出土し、大きさの明らかなものは長さ14～58㎝を測る。中央部から出土した切石は、本址の主軸方位と平行して据えられ原位置を保って

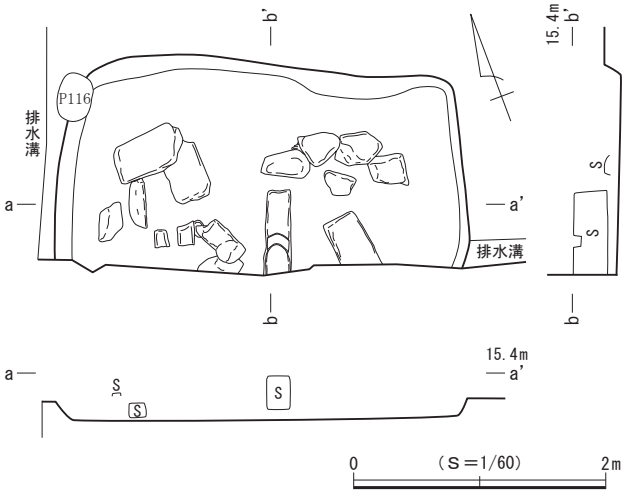


図19　第３面 方形竪穴状遺構１

いる可能性があるが、その他の切石は規則的な配置は認められなかった。

出土遺物（図20）

遺物はかわらけ51点、磁器３点、陶器42点、土師質・瓦質土器１点、瓦２点が出土し、このうち８点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけで、２の内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。４は青白磁梅瓶である。５～７は常滑産の陶器類である。５・６は甕で５～７型式、７は片口鉢Ⅱ類で８型式に比定される。８は土師質・瓦質土器類の火鉢でⅠ類に比定される。

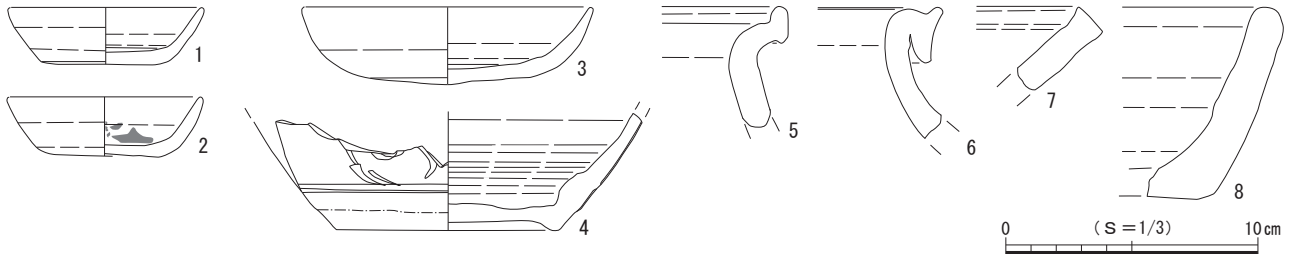


図20　第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物

（２）溝状遺構

溝状遺構６（図21）

調査区の東壁際に位置する。南北方向に直線的に縦断して調査区外の南側に続くが、北側は石列１と重複しており本址が古いが、その先に延伸するかは判然としない。調査区内ではピット108と重複して壁と底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約2.5ｍ、幅25～30㎝、深さ６～18㎝で、主軸方位はＮ－19°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は14.96ｍを測る。

出土遺物（図22）

遺物はかわらけ12点、陶器２点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

溝状遺構７（図21）

調査区の北西隅に位置する。東西方向におおむね直線的に延びて調査区外に続く。調査区内ではピット117と重複して壁と底面の一部を壊している。検出した規模は現存長約3.1ｍ、幅15～50㎝、深さ５～16㎝で、主軸方位はＮ－75°－Ｅで、西側で屈曲してＮ－62°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で15.00ｍ、南側で15.04ｍを測る。

遺物は瓦６点が出土した。

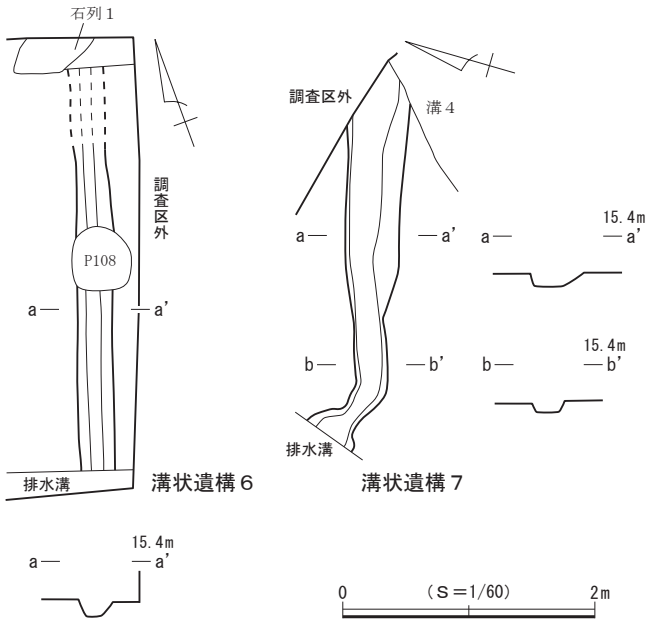


図21　第３面 溝状遺構６・７

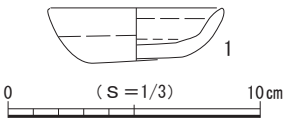


図22　第３面 溝状遺構６出土遺物

（3）石　列

石列１（図23）

調査区の北東隅に位置する。溝状遺構６と重複しており本址が新しく、東側は調査区外へと続いている。規格的な大きさの砂質凝灰岩の切石を列状に整然と配置し、調査区内での規模は、現存長約2.0ｍを測る。切石の大きさは長さ約70㎝、幅25㎝、高さ15㎝で、上面の標高は西側で15.40ｍ、東側で15.22ｍと東側へ向かって傾斜している。主軸方位はＮ－63°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

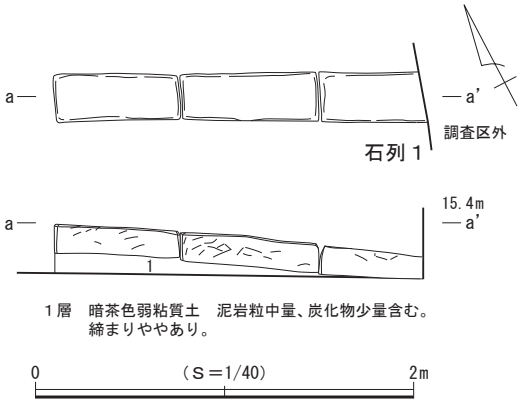


図23　第３面 石列１

（4）土　坑

土坑12（図24）

調査区の南西隅に位置する。中央でピット127・128と重複して大部分を壊され、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸現存長53㎝、深さ８㎝で、坑底面の標高は15.16ｍを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

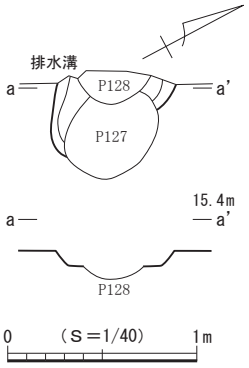


図24　第３面 土坑12

（5）ピット

第３面では、23基を検出した。調査区の北東側と南西側にまとまって分布する様相が捉えられるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸28～57㎝、深さ６～30㎝を測る。23基のうち１基のピット（ピット109）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ21㎝、幅10㎝で、上面の標高は14.90ｍを測る。また、ピット121に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ25㎝、幅23㎝、高さ10㎝で、上面の標高は15.32ｍを測る。なお、礎石・礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図25に図示した。

遺物は23基中、９基（ピット108・111・113・115～117・121・123・127）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）を参照されたい。

（6）第３面 遺構外出土遺物（図26）

第３面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち７点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけである。５・６は常滑産の甕で５～７型式に比定される。７は土師質・瓦質土器類の火鉢でⅠ類に比定される。

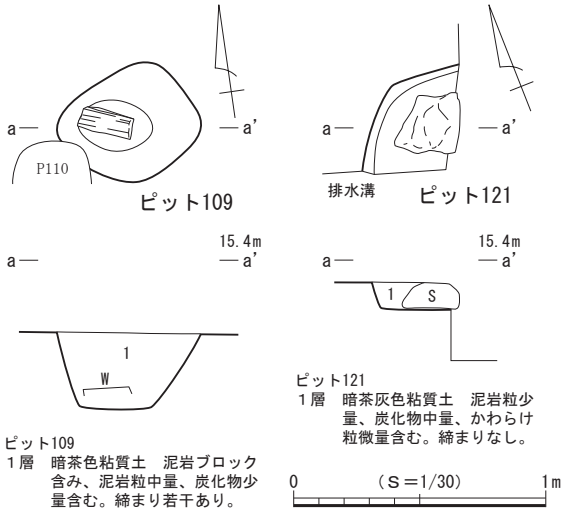


図25　第３面 ピット109・121

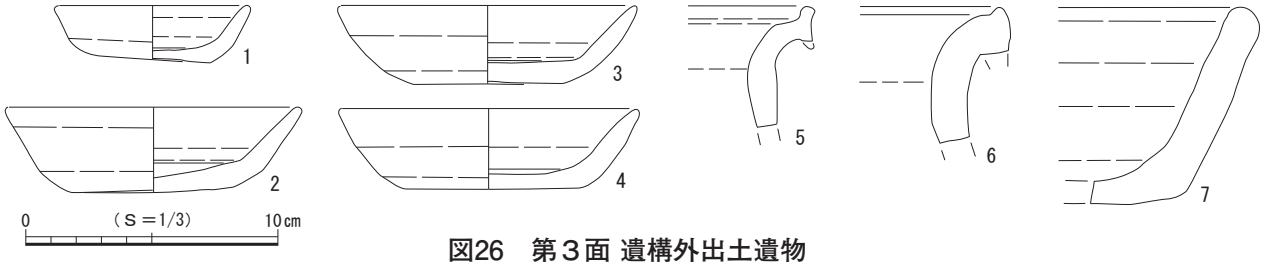


図26　第３面 遺構外出土遺物

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の25～28層上面で検出され、確認面の標高は14.8～15.0ｍを測る。25層は多量の玉砂利・貝砂、中量の黄褐色砂を含み締まりのある暗青灰色砂質土層、26層は少量の泥岩粒・炭化物・白色粒を含み非常に締まりの強い暗茶褐色粘質土層、27層は焼土を主体とし、多量の泥岩粒、少量の泥岩ブロック、多量の炭化物、微量のかわらけ片を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層、28層は少量の泥岩粒・炭化物・白色粒を含み非常に締まりの強い灰黒色粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、土坑15基、ピット36基である（図27）。遺構の分布は調査区東側は疎らで、南西側に集中する状況が認められる。また、調査区西側の南北約4.6ｍ、東西2.4ｍの範囲に玉砂利の集中分布がみられ、出土した570点について計測を行ったところ、玉砂利の大きさは長径２～12㎝、短径1.5～７㎝の幅に収まり、長径２～７㎝、短径1.5～５㎝大に集中する傾向が捉えられた。なお、溝状遺構をはじめとして調査区外に続く遺構が認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

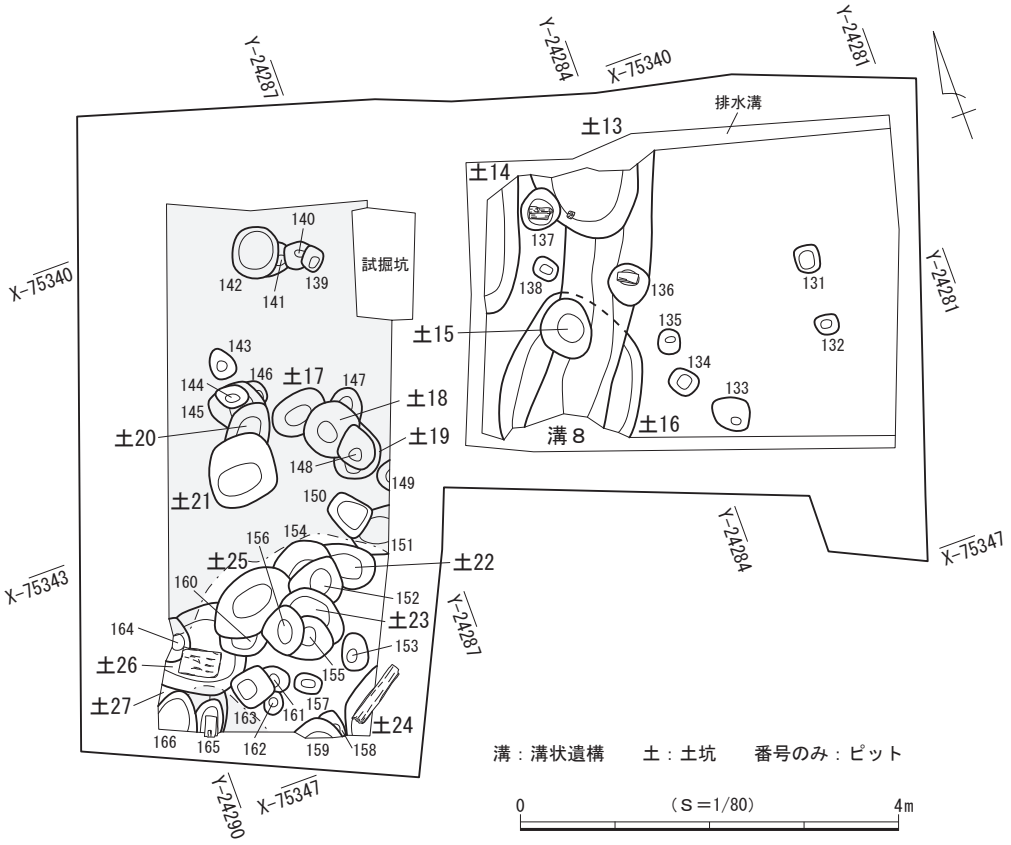


図27　第４面 遺構分布図

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構８（図28）

調査区の中央に位置する。南北方向にやや湾曲して延びて調査区外へと続く。調査区内では土坑16と重複して壊し、土坑13・15、ピット136と重複して壁と底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約3.0ｍ、幅70～90㎝、深さ35～53㎝で、主軸方位はＮ－30°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は14.45ｍを測る。

遺物はかわらけ29点、磁器１点、陶器13点、瓦１点が出土した。

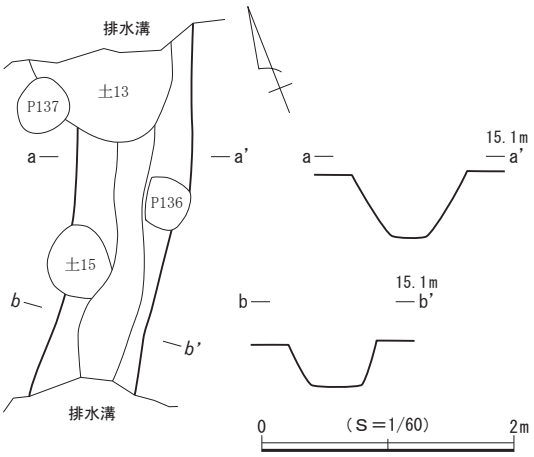


図28　第４面 溝状遺構８

（２）土　坑

土坑13（図30）

調査区北壁際の中央に位置する。東側で溝状遺構８と重複して壊し、西側でピット137と重複して壁の一部が壊されている。北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面は西側から東側へ向かってわずかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長80㎝、東西現存長1.13ｍ、深さ32㎝で、坑底面の標高は14.68ｍを測る。主軸方位はＮ－15°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑14（図30）

調査区北壁際の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部分の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面は平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈すると考えられる。規模は南北現存長1.48ｍ、東西現存長36㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は14.85ｍを測る。

出土遺物（図29）

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。

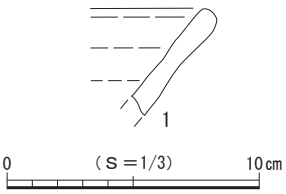


図29　第４面 土坑14出土遺物

土坑15（図30）

調査区の中央に位置する。溝状遺構８、土坑16と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64㎝、短軸52㎝、深さ51㎝で、坑底面の標高は14.50ｍを測る。主軸方位はＮ－７°－Ｅを指す。

遺物は陶器２点が出土した。

土坑16（図30）

調査区の中央に位置する。溝状遺構８と土坑15と重複して壁と底面の大部分が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.67ｍ、東西1.47ｍ、深さ25㎝で、坑底面の標高は14.79ｍを測る。主軸方位はＮ－39°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑17（図30）

調査区の西側に位置する。南側で土坑18と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸60㎝、短軸41㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は14.65ｍを測る。主軸方位はＮ－82°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ３点が出土した。

土坑18（図30）

調査区の西側に位置する。北側で土坑17、ピット147、南側で土坑19と重複して壊し、南側でピット148と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は直径60㎝、深さ26㎝で、坑底面の標高は14.60ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑19（図30）

調査区の西側に位置する。中央から北側にかけて土坑18とピット148と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸48㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は14.60ｍを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑20（図30）

調査区の西側に位置する。北側でピット145と重複して壊し、南側で土坑21と重複して壁と底面の大部分を壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長78㎝、短軸44㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は14.67ｍを測る。主軸方位はＮ－33°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑21（図30）

調査区の西側に位置する。北側で土坑20と重複して壁と底面の大部分を壊している。平面形は不整隅

丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は一辺70㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は14.68ｍを測る。主軸方位はほぼ真東を指す。

遺物は出土しなかった。

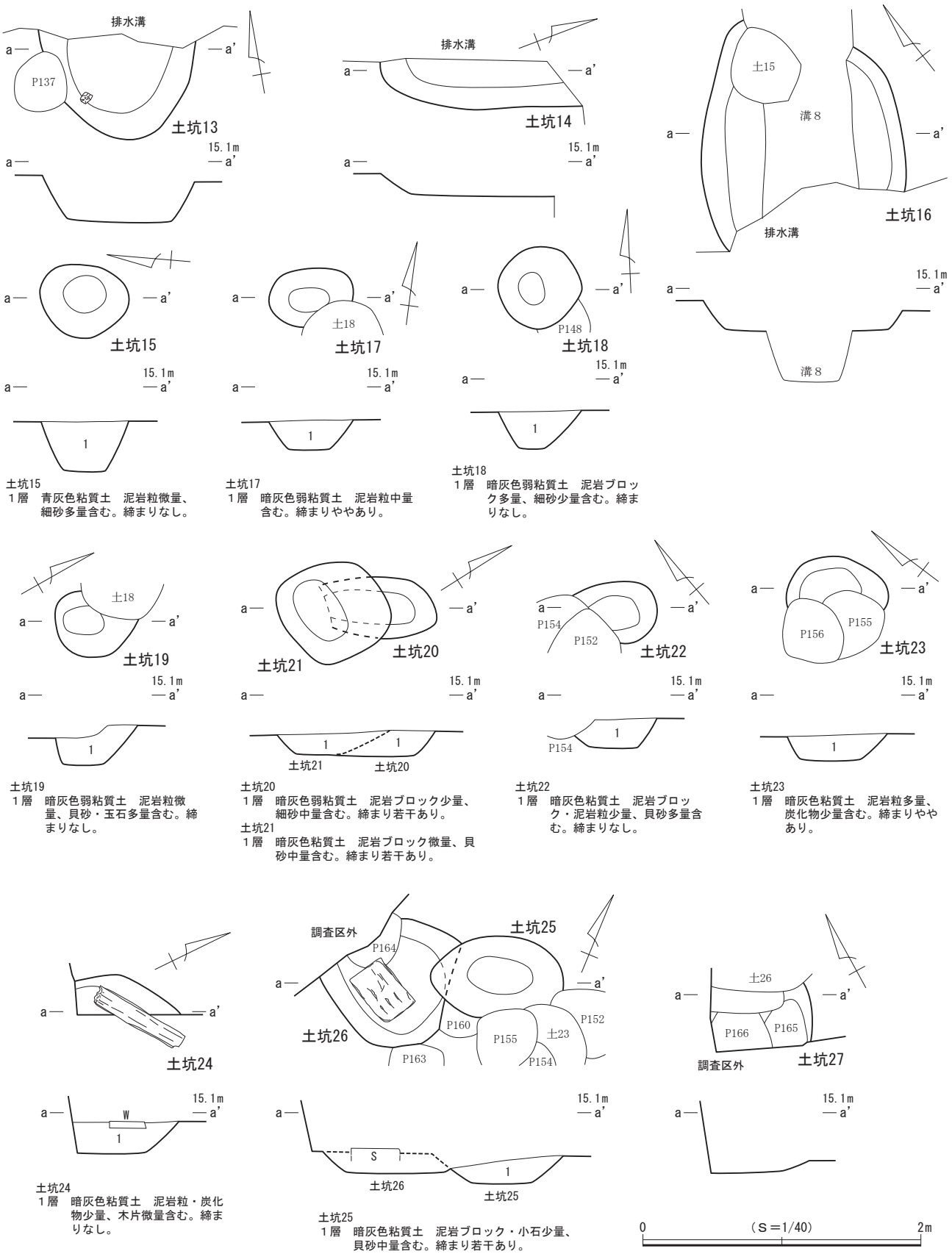


図30　第４面 土坑13～27

土坑22（図30）

調査区の南西側に位置する。西側でピット152・154と重複して壁と底面が部分的に壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸44㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は14.72ｍを測る。主軸方位はＮ－57°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑23（図30）

調査区の南西側に位置する。北側で土坑25、ピット152と重複して壊し、南側でピット155・156と重複して壁と底面のおよそ半分が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸73㎝、短軸現存長33㎝、深さ21㎝で、坑底面の標高は14.64ｍを測る。主軸方位はＮ－38°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑24（図30）

調査区西側の南壁際に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈すると考えられる。規模は南北現存長73㎝、東西現存長27㎝、深さ21㎝で、坑底面の標高は14.81ｍを測る。本址の確認面から長さ70㎝、幅15㎝、厚さ４㎝の板材が出土しており、礎板を伴うピットの可能性も考えられる。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑25（図30）

調査区南西側に位置する。西側で土坑26、ピット160、東側でピット154と重複して壊し、南側で土坑23、ピット152・156と重複して壁の一部が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸95㎝、短軸現存長53㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は14.60ｍを測る。主軸方位はＮ－71°－Ｅを指す。

出土遺物（図31）

遺物はかわらけ２点、陶器７点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。

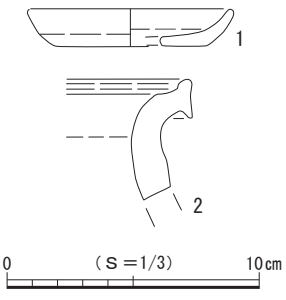


図31　第４面 土坑25出土遺物

土坑26（図30）

調査区の南西隅に位置する。南側で土坑27と重複して壊し、東側で土坑25、ピット160・163、西側でピット164と重複して壁と底面の一部が壊され、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はやや大きく開

いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長86㎝、短軸99㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は14.68ｍを測る。主軸方位はＮ－66°－Ｗを指す。本址の確認面から長さ40㎝、幅30㎝の板材が出土しており、礎板を伴うピットの可能性も考えられる。

遺物は出土しなかった。

土坑27（図30）

調査区南西隅に位置する。北側で土坑26、南側でピット165・166と重複して大部分が壊され、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈すると考えられる。規模は南北現存長46㎝、東西現存長70㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は14.67ｍを測る。

遺物はかわらけ３点が出土した。

（３）ピット

第４面では、36基を検出した。調査区中央を南北に縦断する溝状遺構の西側にまとまって分布する様相が捉えられるが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸24～54㎝、深さ５～45㎝を測る。36基のうち１基のピット（ピット137）に礎板が２枚据えられており、礎板の大きさは長さ20㎝、幅６㎝と、長さ25㎝、幅７㎝で、上面の標高は14.94ｍと14.89ｍを測る。また、ピット136と165に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ22㎝、幅10㎝、高さ７㎝と、長さ22㎝、幅10㎝で、上面の標高は14.64ｍと14.88ｍを測る。なお、礎石・礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図32に図示した。

遺物は36基中、８基（ピット139・142・143・145・154～156・165）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）を参照されたい。

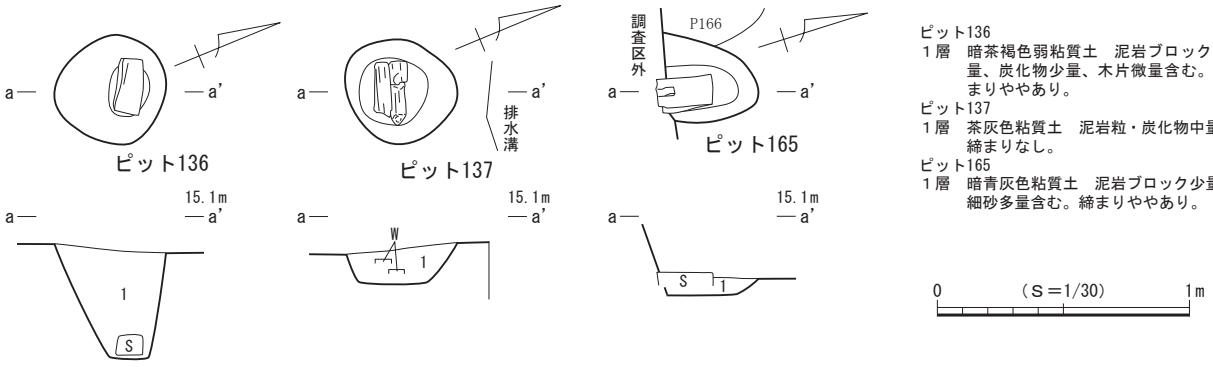


図32　第４面 ピット136・137・165

（４）第４面 遺構外出土遺物（図33）

第４面では上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

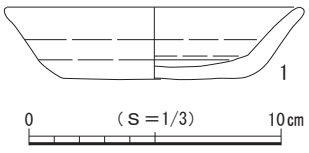


図33　第４面 遺構外出土遺物

第５節　第５面の遺構と遺物

第５面の遺構は堆積土層の30層上面で検出され、確認面の標高は14.6～14.8ｍを測る。30層は多量の白色粘土ブロック（風化した泥岩）を含み締まりのある茶褐色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は塀・柵状遺構１条、池状遺構１基、溝状遺構１条、土坑１基、ピット５基である（図34）。池状遺構と溝状遺構とで調査範囲の大半が占められており、その他の遺構は種類も数も少ない。遺構は調査区外に続いており、調査範囲の外側に展開する様相が想定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

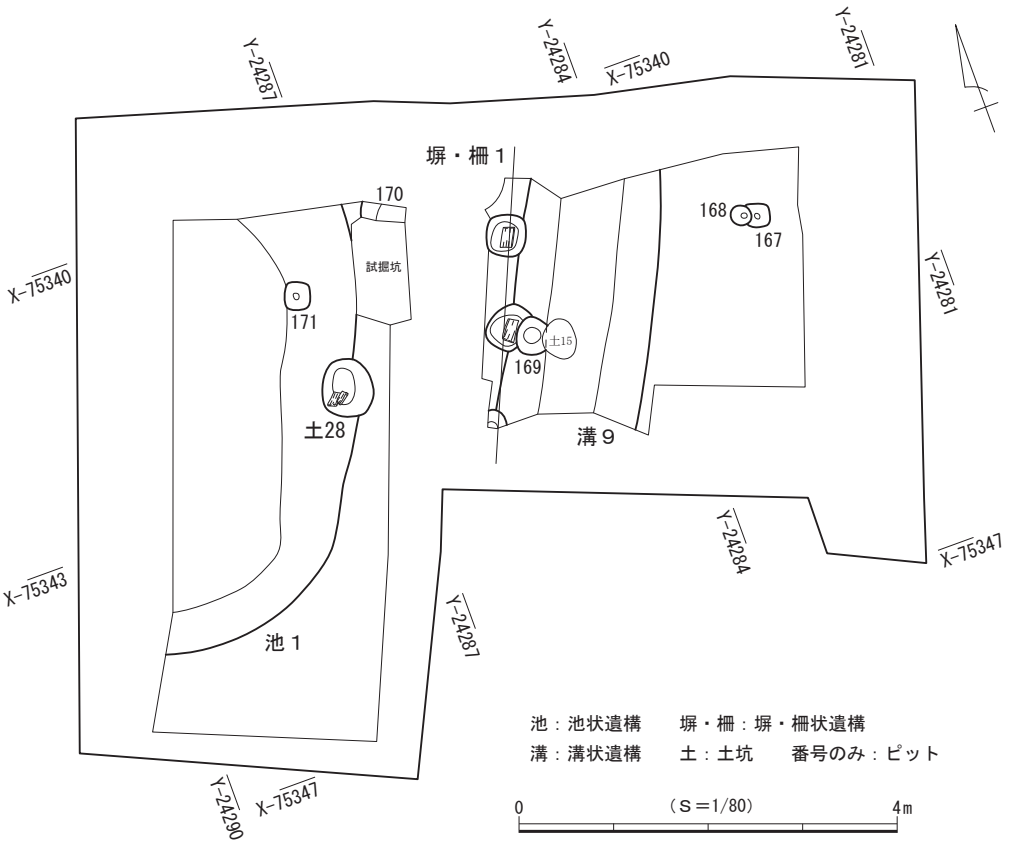


図34　第５面 遺構分布図

（１）塀・柵状遺構

塀・柵状遺構１（図35）

調査区の中央に位置する。南北方向に３基のピットが直線的に配列されており、塀・柵状遺構と判断した。東側で溝状遺構９と重複して壊し、東側でピット169と重複してピットの壁と底面が壊され、南北側が調査区外へ続くと考えられる。検出した規模は心々で２ｍを測る。ピット間の距離は心々で１ｍ等間で、主軸方位はＮ－24°－Ｅを指す。ピットは平面形が円形ないし隅丸方形を呈し、規模は長軸44～50㎝、深さ16～28㎝を測る。Ｐ１とＰ２は底面近くに礎板が据えられており、大きさは長さ20㎝、幅12㎝と、長さ22㎝、幅12㎝を測る。礎板上面の標高はＰ１が14.55ｍ、Ｐ２が14.60ｍである。

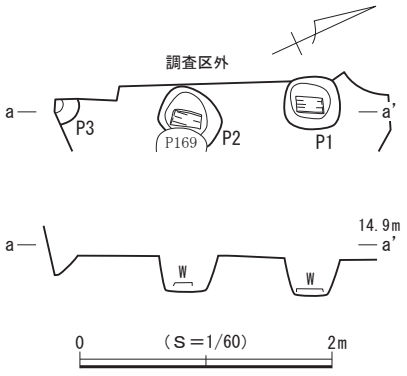


図35　第５面 塀・柵状遺構１

遺物はかわらけ２点、金属製品１点が出土した。

（２）池状遺構

池状遺構１（図36）

調査区の西側に位置する。東側で土坑28、北側でピット171と重複して壁の一部が壊され、北側と西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁はごくなだらかに立ち上がる。断面形は皿状を呈すると考えられ、規模は南北現存長約4.6m、東西現存長約1.9m、深さ10～28㎝である。底面の標高は14.44mを測り、主軸方位はＮ－21°－Ｅを指す。

出土遺物（図37）

遺物はかわらけ66点、磁器７点、陶器13点、土師質・瓦質土器１が出土し、このうち５点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけ、２は手づくね成形によるかわらけである。３は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。４は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。５は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。

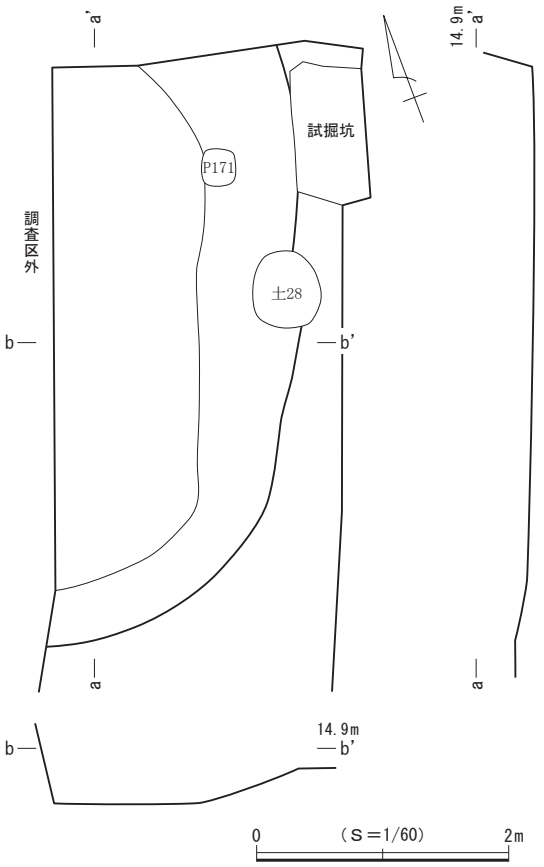


図36　第５面 池状遺構１

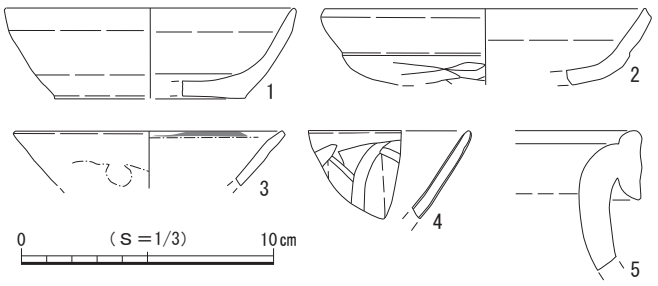


図37　第５面 池状遺構１出土遺物

（３）溝状遺構

溝状遺構９（図38）

調査区のほぼ中央に位置する。南北方向におおむね直線的に延びて調査区外の南北側に続く。調査区内では塀・柵状遺構１、ピット169と重複して壁の一部が壊されている。検出した規模は現存長約2.7m、幅1.50m、深さ55～62㎝で、主軸方位はＮ－27°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で14.24m、南側で14.21mを測る。

遺物は陶器４点が出土した。

（４）土　坑

土坑28（図39）

調査区西側の中央付近に位置する。西側で池状遺構と重複して壁の一部を壊している。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はごくなだらかに立ち上がり、断面形

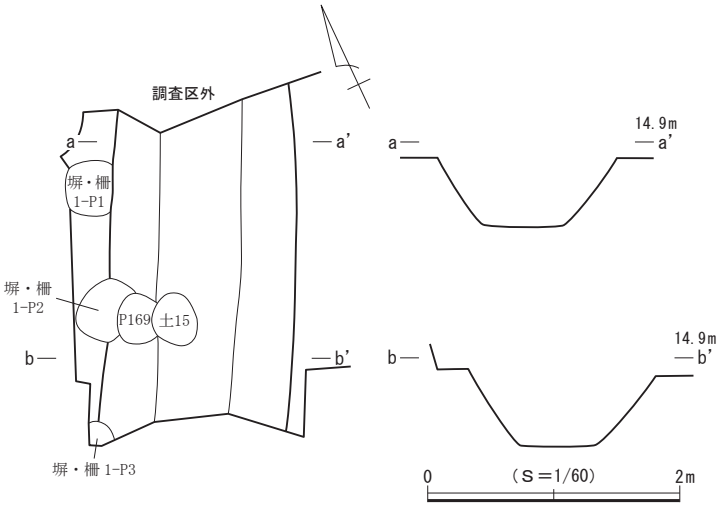


図38　第５面 溝状遺構９

は皿状を呈する。規模は長軸61㎝、短軸53㎝、深さ５㎝で、坑底面の標高は14.75ｍを測る。覆土中から板材が２枚出土し、１枚は底面に対して斜めに、もう１枚は水平に出土しており、礎板の可能性が推定される。

遺物はかわらけ１点、陶器２点が出土した。

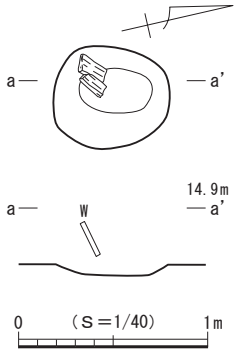


図39　第５面 土坑28

（５）ピット

第５面では、５基を検出した。調査区の北側に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と方形を基調とし、規模は長軸22～40㎝、深さ８～15㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

第６節　第６面の遺構と遺物

第６面の遺構は古代に比定される堆積土層の32層上面で検出され、確認面の標高は約14.2ｍを測る。32層は少量の泥岩粒、微量の炭化物、多量の粗砂を含み締まりのある暗茶灰色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は古代の土坑１基、ピット９基である（図40）。遺構は東側と西側の両調査範囲から検出されているが、掘削深度の都合から調査面積が第５面よりも大幅に狭まり、遺構の性格は判然としない。

本面では出土遺物は皆無であり、堆積土層から推定すると古代に属すると考えられる。

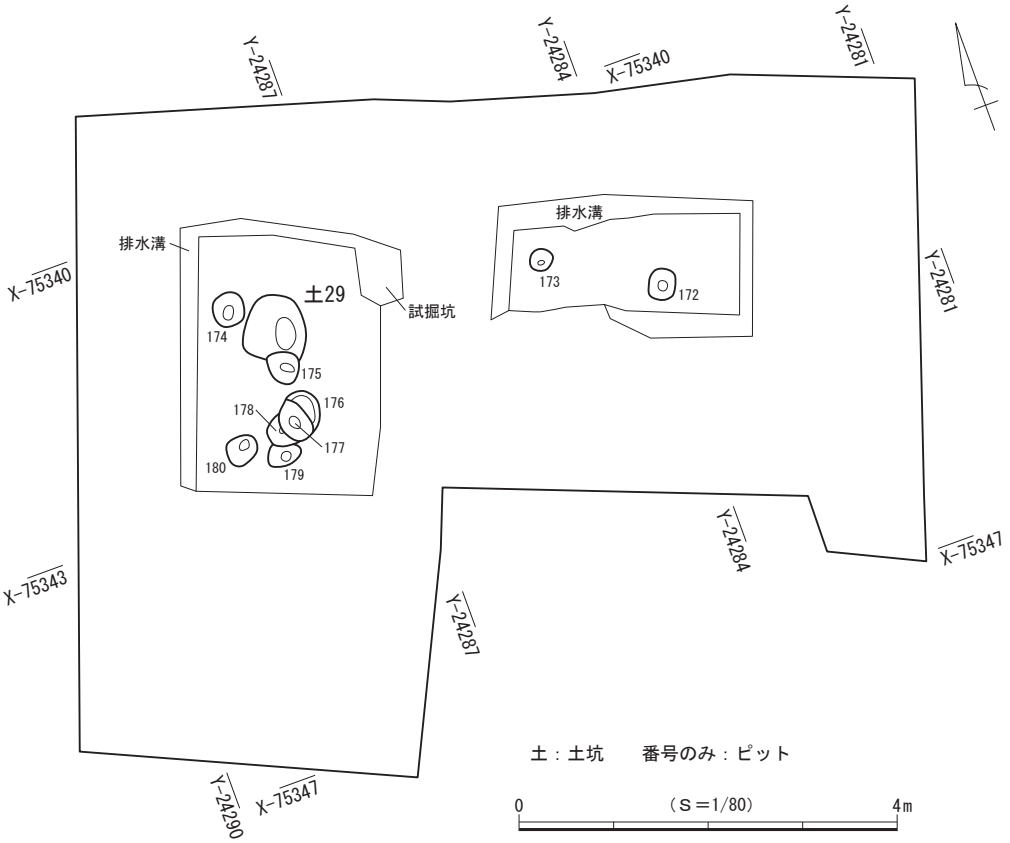


図40　第６面 遺構分布図

（1）土　坑

土坑29（図41）

調査区の西側に位置する。南側でピット175と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、西壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69cm、短軸65cm、深さ21cmで、坑底面の標高は13.92mを測る。

遺物は出土しなかった。

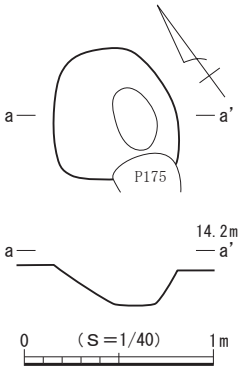


図41　第６面 土坑29

（2）ピット

第６面では、９基を検出した。調査区の全域に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と方形を基調とし、規模は長軸22～40cm、深さ８～15cmを測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

第７節　第７面の遺構と遺物

第７面の遺構は古代に比定される堆積土層の33層上面で検出され、確認面の標高は約14.0mを測る。33層は少量の細砂を含み締まりのある青灰色弱粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は古代の溝状遺構１条、土坑１基、ピット３基である（図42）。調査面積の制約から、

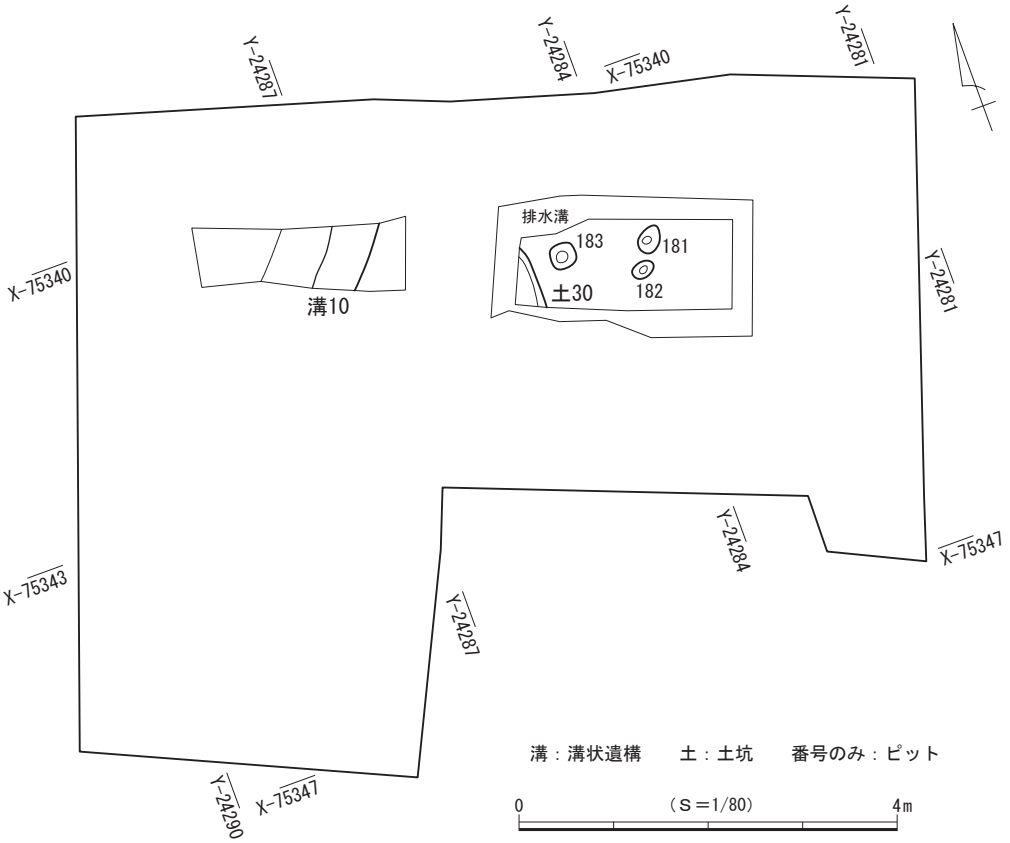


図42　第７面 遺構分布図

遺跡の様相は判然としないが、遺構群は調査区外へと展開しているものと推定される。

本面では出土遺物は皆無であり、堆積土層から推定すると古代に属すると考えられる。

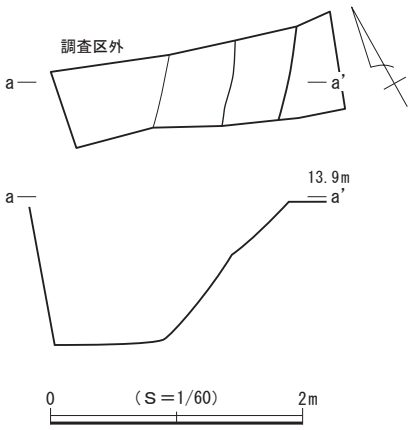


図43　第７面 溝状遺構10

（１）溝状遺構

溝状遺構10（図43）

調査区の西側に位置する。北東－南西方向に延びて調査区外へと続いており、片側の上端と中端、下端を検出したのみである。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。検出した規模は現存長約70㎝、現存幅1.80ｍ、深さ1.10ｍで、主軸方位はＮ－40°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、中位で大きく開く。断面形は逆台形と推定され、底面はほぼ平らである。底面の標高は12.75ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（２）土　坑

土坑30（図44）

調査区の東側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁はごく緩やかに開いて立ち上がる。断面形は皿状を呈すると考えられる。規模は南北現存長60㎝、東西現存長34㎝、深さ３㎝で、坑底面の標高は13.84ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

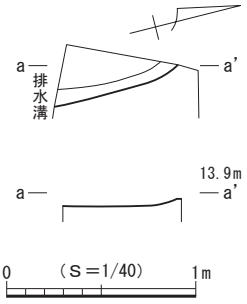


図44　第７面 土坑30

（３）ピット

第７面では、３基を検出した。調査区の東側に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は楕円形と方形を呈し、規模は長軸24～30㎝、深さ４～９㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

第四章　自然科学分析

田楽辻子周辺遺跡の花粉化石

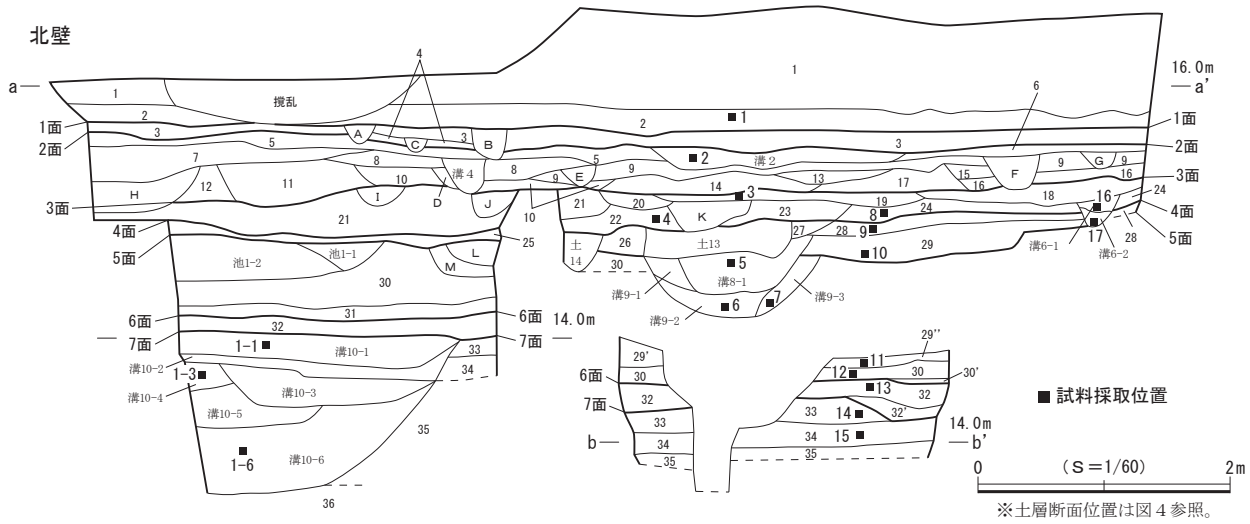
鈴木　茂（パレオ・ラボ）

１．はじめに

田楽辻子周辺遺跡（鎌倉市浄明寺一丁目691番４）において行われた発掘調査で、15世紀代の溝状遺構や13世紀代の玉砂利敷きの生活面、かわらけ、青磁、白磁等の遺構・遺物が出土している。この田楽辻子周辺遺跡の調査区北壁より土壌試料が採取された。この土壌試料について花粉分析を行い、遺跡周辺の古植生について検討した。

２．試料

試料は調査区北壁より採取された20試料（試料№１～17および古代溝の１－１、１－３、１－６）である（付図１）。各試料について、試料№１はオリーブ黒色の砂質シルトで、玉砂利が点在している（１層）。その直上は土丹が多量に入る灰褐色の砂質粘土（表土）である。また、直下は黄褐色の砂質シルト（２層下部）で、さらに下位（３層）は黒褐色の砂質粘土（第１面構成土）である。試料№２は土丹が散在する３層より暗い黒褐色砂質粘土（第２面溝状遺構２）である。黒褐色の砂質粘土（９層と14層：第２面構成土）を挟んで下位の試料№３（19層）は黒褐色の砂質粘土（第３面構成土）である。試料№４（22層）は小さな土丹が点在する黒褐色粘土（第３面構成土）である。試料№４（22層）の東側（試料№３の直下）の暗褐色砂質粘土（Ｋ層）および土丹層（第４面土坑13）を挟んで下位の試料№５は青緑色の土丹が散在する黒～黒褐色の粘土（第４面溝状遺構８－１）である。その下位の試料№６は青緑色土丹が点在する青味を帯びた黒褐色粘土（第５面溝状遺構９－２）、その東側の試料№７は小さな土丹が散在する青味を帯びた黒褐色粘土（第５面溝状遺構９－３）で、さらに下位はオリーブ青色の砂質粘土である。試料№４（22層）と同層準の試料№８（24層）は黒～黒褐色の粘土（第３面構成土）で、明るい黒褐色粘土が火炎状に混入している。その下位（第４面構成土）の試料№９（29層）は白色粒子（風化テフラ？）が散在する黒褐色粘土、試料№10（29層）も白色粒子が散在する黒褐色粘土で、縦方向に赤褐色酸化鉄の集積が多



付図１　資料採取地点付近の土層断面と資料採取層準

く認められる。下位の試料№11（29”層）は黒褐色粘土、試料№12（30層）は黒～黒褐色の粘土で、風化した土丹が散在している（第５面構成土）。下位の試料№13（32層）はオリーブ青色の砂質粘土（第６面構成土）、試料№14（33層）、試料№15（34層）および最下部の35層もオリーブ青色の砂質粘土で、34・35層は硬く締まっている（第７面構成土）。

北壁の東側で検出された第３面溝状遺構の試料№16（第３面溝状遺構６－１）は土丹が散在する黒褐色粘土、試料№17（第３面溝状遺構６－２）は黒褐色の砂質粘土である。また、西側で検出された古代溝状遺構10の試料№１－１は緑黒色の砂質粘土、試料№１－３は黒色の砂質粘土、試料№１－６は黒～緑黒色の砂質粘土である。

遺構面の時期について、第１面が15世紀代、第２面が14世紀後葉～15世紀前葉頃、第３面が14世紀前葉～中葉頃、第４面が13世紀後葉頃、第５面が13世紀前葉頃、第６・７面が古代と考えられている。

３．分析方法

上記した20試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約４～７g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5㎜目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え３分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

４．分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉41、草本花粉33、形態分類を含むシダ植物胞子５の総計79である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を付表１に、それらの分布を付図２（北壁試料）、付図３（第３面溝状遺構６試料）、付図４（第７面溝状遺構10試料）に示した。なお分布図について、樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子・藻類は全花粉胞子総数を基数として百分率で示してある。また、表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものとがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括していれてある。

北壁試料（試料№１～15）：検鏡の結果、樹木花粉化石の産出に層位的変化が認められたことから、下位より花粉化石群集帯Ⅰ～Ⅳを設定し、その特徴について示す。

花粉帯Ⅰ（試料№13～15）は花粉化石がほとんど得られず、観察されたのはスギのみで、他に単条型と三条型の胞子がわずかに検出されただけであった。

花粉帯Ⅱ（試料№９～12）はスギとコナラ属アカガシ亜属の優占で特徴づけられ、出現率は20～30%を示している。次いで15%前後のシイノキ属－マテバシイ属（以後シイ類と略す）が多く観察されている。また、コナラ属コナラ亜属とクマシデ属－アサダ属は上部に向かい増加する傾向が認められ、反対にニレ属－ケヤキ属は上部に向かい漸減している。その他、マキ属、マツ属複維管束亜属（アカマツ，クロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科（以後ヒノキ類と略す）、ブナなどが検出されている。草本類ではイネ科が多産しており、試料№10、11では出現率が50%を超えている。その他はいずれも低率であるが、その中ではカヤツリグサ科とヨモギ属が全試料で１%以上を示してい

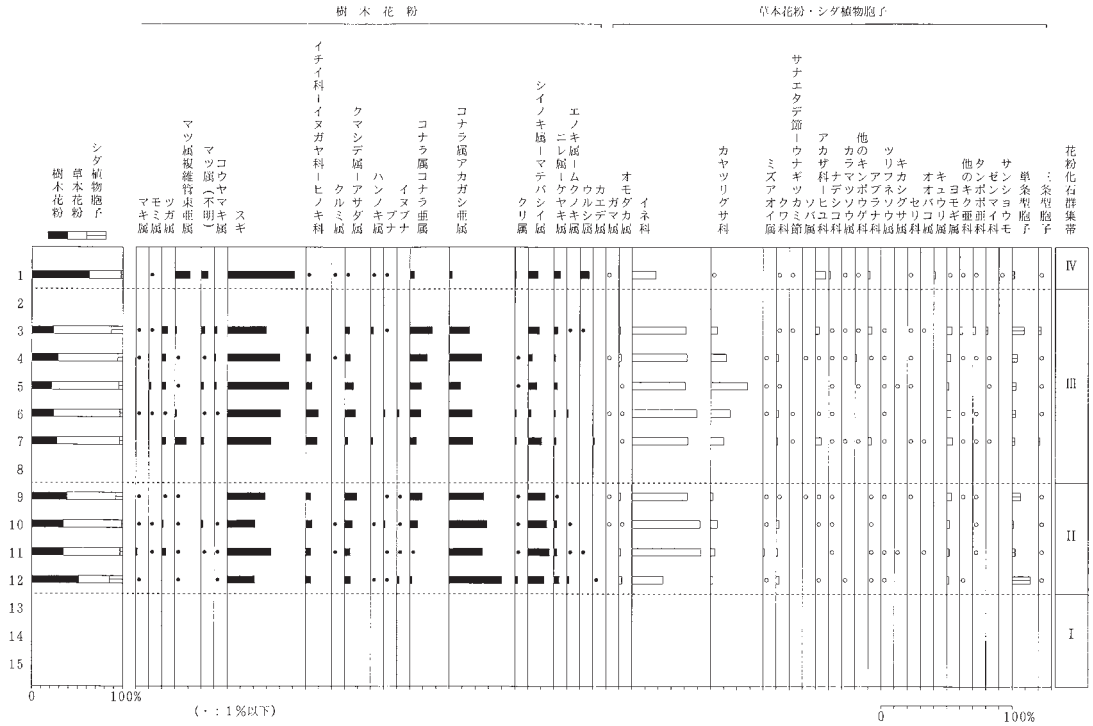
る。また、ソバ属が試料№９で観察されており、水生植物のオモダカ属やミズアオイ属が全試料で観察されている。

花粉帯Ⅲ（試料№２～８）はスギの優占で特徴づけられ、試料５でピークをつくるように増加・減少している。花粉帯Ⅱよりもやや出現率を下げたアカガシ亜属が次いで多く検察されている。コナラ亜属は上部に向かい増加しており、上部の試料№３では出現率が15%を超えている。反対にヒノキ類は上部に向かい出現率を下げている。また、ニヨウマツ類は試料№７で10%近くを示しているが、他はわずかに検出されているのみである。その他ではクマシデ属－アサダ属、ニレ属－ケヤキ属が５%前後を示して

付表１　産出花粉化石一覧表

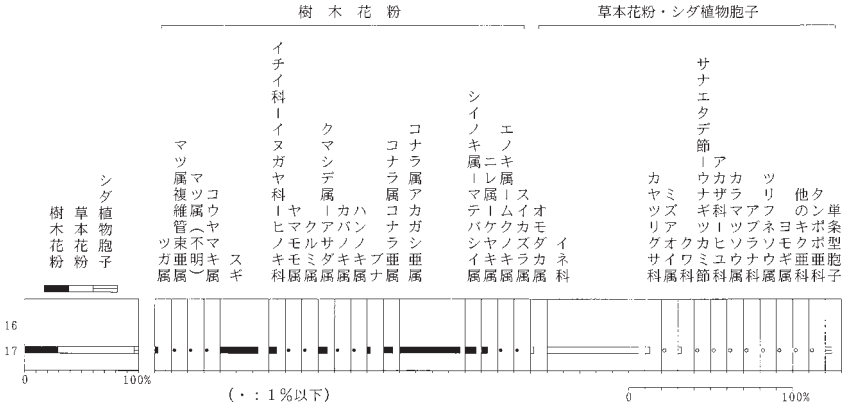
和名	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1-1	1-3	1-6
樹木																					
マキ属	*Podocarpus*	–	–	1	2	–	1	–	–	1	2	3	1	–	–	–	–	–	–	–	–
モミ属	*Abies*	1	2	1	–	2	1	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ツガ属	*Tsuga*	–	–	6	6	3	1	5	–	1	3	7	–	–	–	–	1	2	–	2	1
トウヒ属	*Picea*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	35	–	2	2	1	2	15	–	1	2	2	1	–	–	–	–	1	–	2	–
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	15	3	4	1	2	1	4	–	–	3	1	–	–	–	–	–	1	–	1	–
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	–	1	3	3	2	1	–	–	–	1	2	1	–	–	–	–	1	–	–	–
スギ	*Cryptomeria japonica* D. Don	153	1	40	82	48	63	57	5	37	46	78	35	–	2	1	1	24	3	20	1
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.－C.	2	–	3	8	5	15	15	1	5	11	9	7	–	–	–	–	5	–	3	–
ヤナギ属	*Salix*	–	–	–	1	–	–	–	1	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヤマモモ属	*Myrica*	1	–	–	–	1	–	–	1	–	2	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
クルミ属	*Juglans*	1	1	–	1	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–	1	–	1	–
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus* - *Ostrya*	2	–	5	9	7	13	4	1	12	13	10	8	–	–	–	–	6	–	8	–
カバノキ属	*Betula*	1	–	–	1	1	–	–	1	2	1	1	–	–	–	–	1	1	–	–	–
ハンノキ属	*Alnus*	1	5	3	–	–	–	3	–	–	2	–	1	–	–	–	–	1	1	1	–
ブナ	*Fagus crenata* Blume	1	–	1	–	–	2	–	–	1	3	2	1	–	–	–	–	2	–	–	–
イヌブナ	*Fagus japonica* Maxim.	–	–	–	–	–	3	–	1	1	2	1	3	–	–	–	–	–	–	–	–
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	10	4	23	27	9	13	9	3	12	13	2	3	–	–	–	–	6	–	3	1
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	7	1	21	51	9	27	31	3	34	62	59	67	–	–	–	4	38	1	63	2
クリ属	*Castanea*	3	–	–	1	1	2	2	–	1	2	1	4	–	–	–	–	–	–	13	–
シイノキ属－マテバシイ属	*Castanopsis* - *Pasania*	23	1	12	7	7	4	18	1	17	32	39	21	–	–	–	1	7	1	39	3
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus* - *Zelkova*	15	–	4	3	3	2	3	–	1	5	6	7	–	–	–	–	4	–	2	–
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	–	–	1	–	–	2	–	–	–	1	1	3	–	–	–	–	1	–	2	–
トサミズキ属	*Corylopsis*	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
イスノキ属	*Distylium*	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
サンショウ属	*Zanthoxylum*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
キハダ属	*Phellodendron*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–
アカメガシワ属	*Mallotus*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–
ウルシ属	*Rhus*	21	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–
モチノキ属	*Ilex*	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
カエデ属	*Acer*	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–
トチノキ属	*Aesculus*	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マタタビ属近似種	*cf. Actinidia*	–	–	–	–	–	1	1	–	1	2	2	2	–	–	–	–	–	–	–	–
サカキ属－ヒサカキ属近似種	*cf. Cleyera-Eurya*	–	–	–	–	1	–	1	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–
グミ属	*Elaeagnus*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2
ウコギ科	Araliaceae	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–
ミズキ属	*Cornus*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
エゴノキ属	*Styrax*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
イボタノキ属	*Ligustrum*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
トネリコ属	*Fraxinus*	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
スイカズラ属	*Lonicera*	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	3	–
草本																					
ガマ属	*Typha*	1	–	–	1	–	1	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
サジオモダカ属	*Alisma*	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–
オモダカ属	*Sagittaria*	–	–	8	11	2	4	6	–	5	6	9	7	–	–	–	–	7	–	–	–
イネ科	Gramineae	87	16	234	298	194	317	269	25	141	324	358	78	–	–	–	19	199	5	19	3
カヤツリグサ科	Cyperaceae	1	1	29	85	135	96	64	13	6	32	21	5	–	–	–	2	10	–	1	–
ツユクサ属	*Commelina*	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
イボクサ属	*Aneilema*	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ミズアオイ属	*Monochoria*	–	–	–	2	3	1	–	–	1	3	7	2	–	–	–	–	1	–	–	–
クワ科	Moraceae	4	–	1	10	4	10	7	1	3	14	7	7	–	–	–	1	8	–	–	–
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	1	–	1	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	1	2	–	–	–
イタドリ節	*Polygonum* sect. Reynoutria	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
他のタデ属	other Polygonum	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ソバ属	*Fagopyrum*	–	–	–	1	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	36	7	16	3	–	6	28	–	1	1	–	1	–	–	–	7	2	–	2	2
スベリヒユ属	*Portulaca*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ナデシコ科	Caryophyllaceae	5	4	1	3	2	1	1	3	1	1	1	–	–	–	–	2	–	–	–	–
カラマツソウ属	*Thalictrum*	1	–	4	1	–	–	5	–	–	–	–	1	–	–	–	1	1	–	–	–
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	1	–	4	9	1	–	4	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
アブラナ科	Cruciferae	8	4	16	7	–	–	15	1	3	1	3	1	–	–	–	1	2	1	–	3
ユキノシタ科近似種	cf. Saxifragaceae	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
バラ科	Rosaceae	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
マメ科	Leguminosae	6	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ツリフネソウ属	*Impatiens*	–	–	1	1	3	1	1	–	1	–	2	2	–	–	–	–	1	–	–	–
キカシグサ属	*Rotala*	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ミズユキノシタ属	*Ludwigia*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
セリ科	Umbelliferae	1	–	1	1	1	–	1	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ナス属	*Solanum*	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
オオバコ属	*Plantago*	–	–	1	–	–	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
アカネ属－ヤエムグラ属	*Rubia* - *Galium*	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
キュウリ属	*Cucumis*	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヨモギ属	*Artemisia*	1	2	22	22	8	21	29	4	12	14	12	5	–	–	–	7	3	–	1	1
他のキク亜科	other Tubuliflorae	4	1	12	6	–	1	1	–	2	–	–	1	–	–	–	–	1	–	–	–
タンポポ亜科	Liguliflorae	2	4	12	5	–	1	6	2	1	3	1	–	–	–	–	5	1	–	–	–
シダ植物																					
ヒカゲノカズラ属	*Lycopodium*	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ゼンマイ科	Osmundaceae	–	–	8	4	4	–	2	1	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	1	–
サンショウモ	*Salvinia natans*	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
単条型胞子	Monolete spore	8	20	52	28	14	16	14	2	22	8	16	46	1	–	1	12	14	5	34	6
三条型胞子	Trilete spore	1	2	12	6	3	5	7	2	3	2	5	3	–	–	1	4	–	3	4	–
樹木花粉	Arboreal pollen	298	19	134	205	102	154	171	18	128	217	233	167	0	2	1	8	103	6	171	10
草本花粉	Nonarboreal pollen	168	39	364	488	355	465	440	51	181	399	425	110	0	0	0	46	238	6	25	9
シダ植物胞子	Spores	10	22	72	39	21	21	23	5	25	10	21	49	1	0	2	19	14	8	39	6
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	476	80	570	712	478	640	634	74	334	626	679	326	1	2	3	73	355	20	235	25
不明花粉	Unknown pollen	18	13	23	17	16	12	9	6	18	27	18	17	1	0	0	1	9	2	21	4

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す



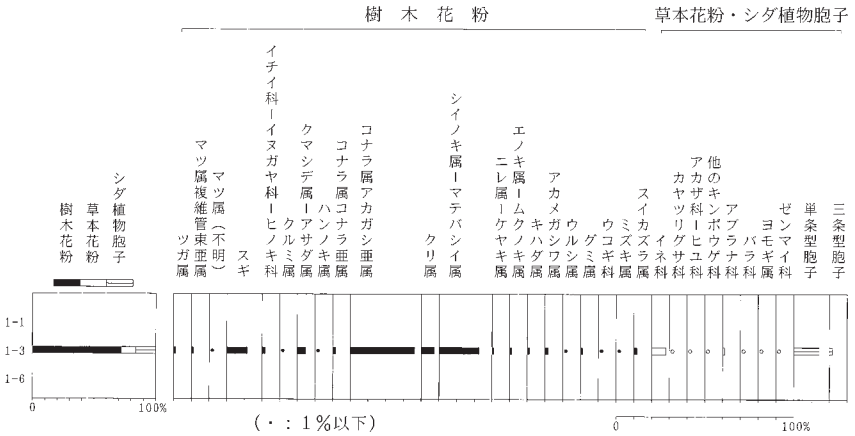
(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。)

付図２　主要花粉化石分布図



(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。)

付図３　第３面 溝状遺構６試料の主要花粉化石分布図



(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。)

付図４　第７面 溝状遺構10試料の主要花粉化石分布図

いる。草本類ではやはりイネ科が最も多く検出されており、出現率は40～50%を示している。次いでカヤツリグサ科が多く、試料№５でピーク（約28%）をつくるように増加・減少している。その他ではヨモギ属が全試料で１%以上を示しており、オモダカ属も低率ながら全試料から得られている。また、ソバ属やミズアオイ属も観察されている。なお、得られた樹木花粉数が少なく分布図として示せなかった試料№２・８については、少ないながらも花粉帯Ⅲと同様の産出傾向を示していると判断されることから花粉帯Ⅲとした。

花粉帯Ⅳ（試料№１）は出現率が10%を超えているニヨウマツ類の産出で特徴づけられる。最も多く検出されているのはスギで、50%を超える出現率を示している。アカガシ亜属は大きく出現率を下げており、コナラ亜属も同様である。その他、シイ類やニレ属－ケヤキ属、ウルシ属が５～10%を示している。草本類ではやはりイネ科がもっとも多く得られているが、花粉帯Ⅲに比べ出現率は半分以下となっている。その他ではアカザ科－ヒユ科が10%近くを示しており、キュウリ属も１%を超えて得られている。また水生植物ではガマ属が若干観察されているのみである。

第３面溝状遺構６（試料№16・17）：試料№16は樹木花粉がわずかに観察されたのみであったことから分布図として示すことができなかった。試料№17ではアカガシ亜属が最優占しており、出現率は約37%を示している。次いで20%を超えているスギが多く観察されている。その他、ヒノキ類、クマシデ属－アサダ属、コナラ亜属、シイ類が５～10%を示している。草本類ではイネ科の多産が特徴的であり、出現率は50%を大きく超えている。その他はいずれも低率であるが、その中ではオモダカ属、カヤツリグサ科、クワ科が１%を超えて観察されている。

第７面溝状遺構10（試料№１－１、１－３、１－６）：得られた花粉化石数が少なかったことから、試料№１－１と１－６の２試料については分布図として示すことができなかった。試料№１－３ではやはりアカガシ亜属が最も多く観察されている。次いでシイ類が多く、出現率は20%を超えている。スギは10%を超える出現率を示しており、その他、クマシデ属－アサダ属、クリ属が５～10%を示している。草本類はいずれも低率で、最も多いイネ科でも10%を超えていない。本試料では単条型胞子がやや多く、約15%の出現率を示している。

５．田楽辻子周辺遺跡の古植生

上記した花粉帯を基に田楽辻子周辺遺跡周辺の古植生について検討した。

花粉帯Ⅰ期（試料№13～15）：時期は古代と考えられている。花粉分析の結果、断面試料からは花粉化石がほとんど得られなかったが、同時期と推測されている第７面溝状遺構10試料を基に遺跡周辺の古植生について記す。

この時期の遺跡周辺丘陵部ではアカガシ亜属を主体にシイ類を交えた照葉樹林が広く成立していたと推測される。また、スギ林も丘陵斜面部を中心に林分を広げていたとみられる。また、クマシデ属－アサダ属、コナラ亜属、クリ属、ニレ属－ケヤキ属などの落葉広葉樹も一部に生育していたと推測され、河川近くにはエノキ属－ムクノキ属やキハダ属などが分布していたとみられる。さらにこれらが生育する森林の林縁部近くには中・低木類のアカメガシワ属やウルシ属、グミ属がみられ、これら樹木に絡まるようにつる性のスイカズラ属が生育していたと推測される。またこの林縁部にはアズマネザサと推測されるネザサ節型のササ類がウシクサ族（ススキなど）とともに群落を形成していたと推測され（プラント・オパール分析の項参照）、シダ植物も生育していたものと思われる。

花粉帯Ⅱ期（試料№９～12）：時期は13世紀前葉～13世紀後葉頃と推測される。この時期の遺跡周辺丘

陵部では依然として照葉樹林が優勢であったが、古代に比べややその林分を狭めたことが推測される。代わってスギが分布域を広げ、また、落葉広葉樹類も一部に生育していたとみられる。一方、草本花粉ではイネ科が多産しており、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属やミズアオイ属が連続して検出されている。また、プラント・オパール分析ではイネのプラント・オパールが検出されている（プラント・オパール分析の項参照）ことから、遺跡周辺の一部地域で水田稲作が行われていた可能性が推察される。

花粉帯Ⅲ期（試料№２～８）：時期について、上限は15世紀代、下限は13世紀前葉頃と考えられるが、下限については土層の堆積状況から花粉帯Ⅱ期よりも新しいと推察される。この時期になると一時的にスギ林が大きな広がりをみせるが、その後縮小する傾向がみられ、こうした傾向はヒノキ類にも認められる。また、アカガシ亜属を中心とした照葉樹林はさらにその林分を狭めたようである。反対に、二次林要素のコナラ亜属は上部に向かい増加しており、縮小したスギ林や照葉樹林の跡地に侵入し、林分を広げたとみられる。一方、草本花粉をみると依然としてイネ科が多く、水田雑草を含む分類群も検出されていることから、この時期も一部地域で水田稲作が行われていたと推測される。また、溝周辺には一時的にカヤツリグサ科が増加したようである。

なお、若宮大路周辺地域では13世紀中頃以降ニヨウマツ類の増加が特徴的であり、鎌倉の発展に伴い、それまでのスギ林や照葉樹林といった植生からニヨウマツ類の二次林に代わったことが報告されている（鈴木，1999）。田楽辻子周辺遺跡では試料№７でニヨウマツ類のわずかな増加が示されているものの、その他の試料では低率となっており、ニヨウマツ類の二次林が形成されたような植生は認められない。二次林としては上記したようにコナラ亜属にそうした傾向がわずかながら観察されるのみであり、鎌倉幕府の発展に伴う開発が田楽辻子周辺遺跡周辺にはそれほど及んでいない可能性があり、興味深い。

花粉帯Ⅳ期（試料№1）：時期は近世と考えられている。この時期になると遺跡周辺丘陵部では再びスギが増加したとみられ、一部植林も推測されるが、スギ林が大きくその林分を広げたことが推察される。また、この時期になってようやくニヨウマツ類の二次林が成立した様相がみられるようになり、そうしたことにより広がった陽地にはウルシ属が目立つようになったとみられる。反対にアカガシ亜属は大きく縮小したと推測されるが、シイ類は丘陵の尾根部などに残存したことが考えられる。

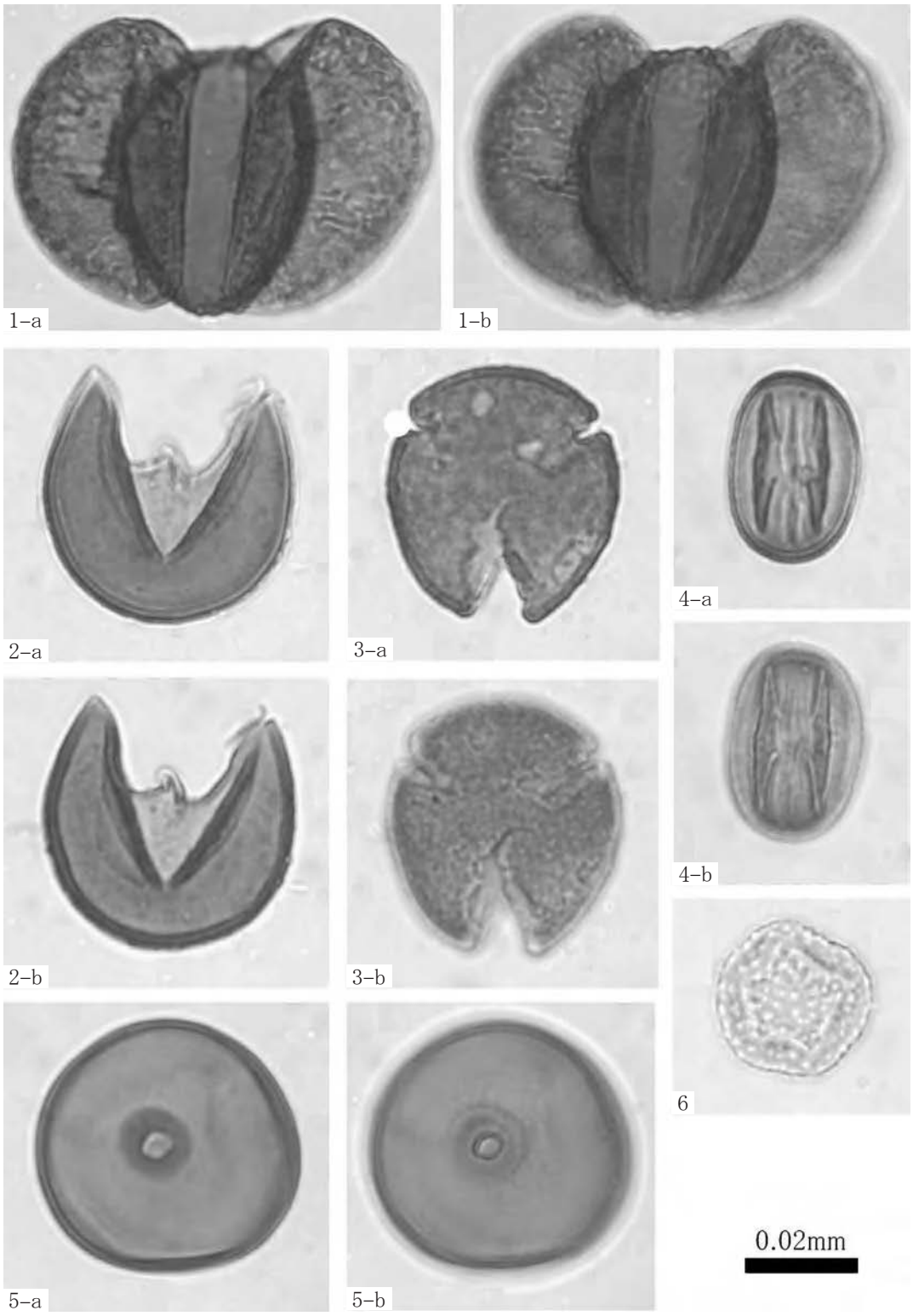
草本類ではイネ科花粉が最も多く検出されているが、花粉帯Ⅲに比べると半減以下となっており、水田雑草を含む分類群も検出されていない。しかしながら発掘状況から土層は水田耕作土と推察されており、同試料を用いて行われたプラント・オパール分析において大量のイネのプラント・オパールが検出されている。こうしたことからこの時期の試料採取地点付近において水田稲作が行われていた可能性はあると推察される。さらにキュウリ属（キュウリやメロン類）が１％を越えて検出されており、キュウリ属の栽培も行われていた可能性があると思われる。

６．おわりに

上記したように田楽辻子周辺遺跡では少なくとも15世紀代までスギ林や照葉樹林が優勢であったと推測され、この時期にはニヨウマツ類の二次林に交代していた鎌倉中心部と比べかなり異なった植生が成立していたことが推察された。遺跡の位置は滑川の上流部にあたる地域で、こうした植生がいくらかの広がりをもっていたのか等について興味深く、田楽辻子周辺遺跡の周辺地域における今後の調査に期待したい。

引用文献

鈴木　茂（1999）神奈川県鎌倉市における鎌倉時代の森林破壊．国立歴史民俗博物館研究報告第81集，131－139.



1 ：マキ属　PLC.SS 5188　試料№11
2 ：スギ　PLC.SS 5186　試料№11
3 ：コナラ属コナラ亜属　PLC.SS 5185　試料№11
4 ：コナラ属アカガシ亜属　PLC.SS 5189　試料№11
5 ：イネ科PLC.SS 5190　試料№11
6 ：オモダカ属　PLC.SS 5189　試料№11

写真１　産出花粉化石

第五章　まとめ

今回報告する浄明寺一丁目697番４地点は、「田楽辻子周辺遺跡（№33）」の範囲内に所在する。本遺跡の包蔵地範囲は鎌倉市街地の東方に位置し、西流する滑川左岸に東西方向に細長く展開している。調査地点は包蔵地範囲の中央付近にあたり、「田楽辻子のみち」の南側に面して立地している。地形的には樹枝状に開析された谷戸出入り口付近に立地し、北側には滑川が近接する場所である。田楽辻子周辺遺跡の調査事例は10例以上を数え、比較的多くの調査が行われているといえる。

今回の調査では、遺構確認面は第１～７面までの合計７面を確認した。第１～５面は中世、第６・７面は堆積土層から古代に属すると考えられる。検出した遺構は方形竪穴状遺構１基、池状遺構１基、塀・柵状遺構１条、溝状遺構10条、石列１条、土坑30基、ピット183基で、このうち溝状遺構１条、土坑２基、ピット12基は古代に属すると推定される遺構である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して11箱を数える。

各面ごとに主な遺構についてみていくと、まず第１・２面（14世紀後葉～15世紀代）は溝状遺構と土坑、ピットのみで構成されていた。多数のピットが検出されたことから建物などの構築物の存在が想定されるが、調査区内では規則的な配置は確認されなかった。

第３面（14世紀前葉～中葉頃）では調査区東半から竪穴状遺構１基と石列１条が検出され、石列は長さ70㎝程の大きさのそろった切石を列状に配した遺構であった。主軸方位が竪穴状遺構とほぼ一致することから関連性がうかがわれるが、調査区の制約からごく一部の調査にとどまり性格は判然としなかった。

第４面（13世紀後葉）では、調査区の西半から砂利の集中分布が4.6×2.4ｍの範囲で確認され、層厚は最も厚いところで10㎝程を測る。調査区の東半では検出されなかったが、調査区外の北側と西側へと広がる様相が捉えられた。第一章第３節でも触れたが、④浄明寺一丁目590番２地点の５ａ面で玉砂利敷きによる整地面が確認されている（押木 2019）。ここで用いられた砂利は径２～５㎝程の円礫であり、本地点出土の玉砂利とほぼ同大であった。年代的には13世紀後半～14世紀初頭に比定されており、本地点の13世紀後葉と年代的にほぼ並行する。④地点の報告中では、鎌倉時代後期の浄明寺地区において、玉砂利を用いた整地によって屋敷地の一画を飾ることが流行したと指摘されている。本地点の事例もこうした流行の存在を示唆する一例として注意されよう。なお、玉砂利層は第５面の池状遺構を覆うように広がっていたことが指摘される。

第５面（13世紀代）においては、調査区の西側から池状遺構の一部が検出された。池状遺構の東側には隣接して溝状遺構と塀・柵状遺構と推定されるピット列が確認され、溝状遺構は幅1.5ｍ、深さ60㎝と相応の規模をもつ。この溝に沿う形で塀・柵状遺構のピット列が南北方向に延びており、排水を兼ねた区画施設となる可能性が考えられる。

第６・７面は堆積土層から古代に属する遺構確認面と考えられ、検出遺構は溝状遺構、土坑、ピットであった。第７面で検出された溝状遺構は現存幅1.80ｍ、深さ1.10ｍに及ぶ規模をもつが、調査面積が狭小であり、遺物も出土しなかったために時期も含めて詳細は判然としなかった。

引用・参考文献（著者五十音順）

石井　進　1989「大路・小路・辻子・辻」『武士の都 鎌倉』よみがえる中世３　平凡社

石井　進・大三輪龍彦編　1989『武士の都 鎌倉』よみがえる中世３　平凡社

押木弘巳　2019「田楽辻子周辺遺跡（№33）浄明寺一丁目590番２地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』平成31年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

手塚直樹　1990『釈迦堂田楽辻子遺跡』釈迦堂田楽辻子遺跡調査団

永田史子・齋藤修佑　2018「釈迦堂遺跡（№257）浄明寺一丁目598番21地点」「釈迦堂遺跡（№257）浄明寺一丁目598番35地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34』平成29年度発掘調査報告（第５分冊）　鎌倉市教育委員会

永田史子・米澤雅美　2019「田楽辻子周辺遺跡（№33）浄明寺一丁目652番８地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』平成30年度発掘調査報告（第４分冊）　鎌倉市教育委員会

根本志保　2014「田楽辻子周辺遺跡（№33）浄明寺二丁目569番10」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30』平成25年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

馬淵和雄・岡　陽一郎ほか　2002『杉本寺周辺遺跡　二階堂字杉本912番１ほか地点発掘調査報告』杉本寺周辺遺跡発掘調査団

森　孝子　2000「田楽辻子周辺遺跡遺跡（№33）鎌倉市浄明寺一丁目661番外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16』平成11年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構１出土遺物（図８）							
1	土器	ロクロかわらけ・中	11.4	6.7	3.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・大	(13.4)	(8.6)	4.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
3	磁器	青磁坏	－	－	現3.1	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ類	口縁部小破片
4	陶器	常滑甕	－	－	現6.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：黄灰色　備考：６ａ型式	口縁部小破片
5	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現6.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：褐灰色・明赤褐色　備考：10～11型式	口縁部小破片
第１面 遺構外出土遺物（図10）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	6.2	3.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロかわらけ・中	(10.4)	(5.8)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
3	磁器	青磁坏	－	－	現1.5	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ－３ｂ類	口縁部小破片
4	陶器	瀬戸緑釉小皿	－	－	現2.3	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸後期様式	口縁部小破片

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構２出土遺物（図13）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	6.8	3.6	2.3	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.0	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(4.2)	2.4	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロかわらけ・小	(8.7)	(4.4)	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/2
5	土器	ロクロかわらけ・中	11.8	6.8	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロかわらけ・中	(11.9)	(7.0)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
7	土器	ロクロかわらけ・大	(13.0)	(8.0)	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロかわらけ・大	13.6	7.1	4.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	7/8
9	土器	ロクロかわらけ・大	(13.4)	(8.6)	4.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
10	土器	ロクロかわらけ・大	13.8	8.0	3.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	7/8
11	土器	ロクロかわらけ・大	14.2	8.5	4.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
12	陶器	中国壺	(10.0)	－	現3.2	外面－鉄釉　胎土：緻密　色調：胎土－にぶい赤褐色、鉄釉－暗赤灰色	口縁部～肩部小破片
13	陶器	常滑甕	－	－	現7.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色・にぶい赤褐色　備考：６ａ型式	口縁部小破片
14	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	－	－	現3.2	胎土：微砂、小石粒　色調：黄灰色・にぶい黄橙色	口縁部小破片
溝状遺構４出土遺物（図14）							
1	土器	ロクロかわらけ・中	11.9	7.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
ピット出土遺物（図16）							
1	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現5.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい赤褐色　備考：10型式　出土遺構：ピット67	口縁部小破片
2	陶器	瀬戸平碗	(16.6)	－	現5.8	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－灰オリーブ色　備考：古瀬戸後期様式Ⅲ期　出土遺構：ピット77	1/4
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.0	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット81	略完形
4	陶器	常滑甕	－	－	現4.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・にぶい赤褐色・黒褐色　備考：６ａ型式　出土遺構：ピット83	口縁部小破片
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.5	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット85	3/4
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.0	2.3	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット92	完形
7	陶器	中国？天目茶碗	－	－	現7.6	胎土：緻密　色調：胎土－にぶい橙色、鉄釉－にぶい黄色・黒色　出土遺構：ピット101	口縁部～体部小破片
第２面 遺構外出土遺物（図17）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(6.4)	(4.0)	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3

2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.4	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(4.2)	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	(6.2)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(7.0)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.2)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(6.2)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
8	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	6.8	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/4
9	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(6.9)	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/4
10	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(6.4)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/4
11	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(7.2)	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
12	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.8)	(9.0)	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
13	陶器	瀬戸 入子	(6.5)	(3.6)	2.2	輪花形　胎土：緻密　色調：灰白色・灰オリーブ色　備考：古瀬戸中期～後期様式	2/5
14	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・にぶい黄褐色・黒褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
15	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・暗褐色・オリーブ灰色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
16	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
17	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・にぶい赤褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
18	陶器	常滑 広口壺小	(14.8)	－	現 4.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色・暗褐色・灰色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
19	陶器	常滑 広口壺大	－	－	現 6.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・暗赤褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
20	陶器	常滑 広口壺大	－	－	現 8.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色・暗褐色・灰色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
21	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗灰色・暗褐色　備考：８～９型式	口縁部 小破片
22	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：10型式	口縁部 小破片
23	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：褐色　備考：10型式	口縁部 小破片
24	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.9	胎土：白色粒、小石粒　色調：明赤褐色　備考：10型式	口縁部 小破片
25	陶器	摩耗陶片	現長 6.9	現幅 7.3	厚 1.2	常滑甕の陶片を転用　外周部－研磨　胎土：粗　色調：灰色	略完形

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
方形竪穴状遺構１出土遺物（図20）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.0	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	7/8
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.1	2.4	内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色・橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(6.4)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
4	磁器	青白磁 梅瓶	－	8.8	現 4.7	底面－無釉　外面－ヘラ彫りによる唐草文　色調：胎土－乳白色、青白磁釉－淡青色	底部 小破片
5	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・暗褐色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.2	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・暗赤褐色　備考：６ｂ～７型式	口縁部 小破片
7	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.3	胎土：白色粒、小石粒　色調：橙色・暗赤褐色　備考：８型式	口縁部 小破片
8	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.6	胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土・内外面－橙色　備考：Ⅰ類	口縁部～ 底部小破片
溝状遺構６出土遺物（図22）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	3.5	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/5
第３面 遺構外出土遺物（図26）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.2	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.5)	6.3	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
3	土器	ロクロ かわらけ・中	11.6	7.0	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形

4	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(5.8)	(3.1)	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
5	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・褐色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・にぶい赤褐色　備考：６ｂ～７型式	口縁部 小破片
7	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.8	胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土・内外面－にぶい橙色　備考：Ⅰ類	口縁部～ 底部小破片

表５　第４面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑14出土遺物（図29）							
1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 4.2	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
土坑25出土遺物（図31）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
2	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
第４面 遺構外出土遺物（図33）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.3)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4

表６　第５面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
池状遺構１出土遺物（図37）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(7.6)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	手づくね かわらけ・中	(12.7)	－	現 3.0	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、良土　色調：にぶい黄褐色　焼成：良好	1/8
3	磁器	白磁 Ⅲ	(10.6)	－	現 2.2	口唇部－口兀、炭付着　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－白色、白磁釉－白色 備考：太宰府－白磁ⅢⅨ類	口縁部 小破片
4	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.5	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
5	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰黄褐色・黒褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片

表７　遺構計測表

（）＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
溝状遺構１	第１面	〈790〉	90～120	10～20
土坑１	第１面	〈150〉	92	12
土坑２	第１面	〈80〉	99	22
土坑３	第１面	〈68〉	〈30〉	21
土坑４	第１面	〈72〉	81	14
土坑５	第１面	〈63〉	〈21〉	12
ピット１	第１面	36	31	13
ピット２	第１面	〈36〉	33	11
ピット３	第１面	38	〈26〉	10
ピット４	第１面	25	23	10
ピット５	第１面	42	(31)	10
ピット６	第１面	42	24	16
ピット７	第１面	22	21	8
ピット８	第１面	40	32	21
ピット９	第１面	31	28	9
ピット10	第１面	29	23	5
ピット11	第１面	40	35	9
ピット12	第１面	〈29〉	20	11
ピット13	第１面	33	24	20
ピット14	第１面	41	38	8
ピット15	第１面	〈30〉	29	10
ピット16	第１面	42	29	8
ピット17	第１面	36	〈31〉	7
ピット18	第１面	49	36	14
ピット19	第１面	41	38	17
ピット20	第１面	32	〈20〉	14
ピット21	第１面	31	29	17
ピット22	第１面	21	17	41
ピット23	第１面	24	20	15
ピット24	第１面	23	20	30
ピット25	第１面	〈25〉	〈23〉	17
ピット26	第１面	56	〈21〉	26
ピット27	第１面	33	31	25
ピット28	第１面	40	23	12
ピット29	第１面	56	50	10
ピット30	第１面	〈30〉	33	7
ピット31	第１面	〈40〉	〈19〉	20
ピット32	第１面	37	27	13
ピット33	第１面	32	25	18
ピット34	第１面	37	32	11
ピット35	第１面	〈45〉	〈45〉	19
ピット36	第１面	〈38〉	41	18
溝状遺構２	第２面	〈670〉	30～50	8～20
溝状遺構３	第２面	〈450〉	50～80	7～12
溝状遺構４	第２面	〈680〉	25～65	11～16
溝状遺構５	第２面	〈480〉	30～40	6～15
土坑６	第２面	71	57	20
土坑７	第２面	67	〈36〉	9
土坑８	第２面	62	49	8
土坑９	第２面	60	45	10
土坑10	第２面	〈69〉	〈33〉	13
土坑11	第２面	70	69	19
ピット37	第２面	30	〈17〉	6
ピット38	第２面	49	40	14
ピット39	第２面	31	28	10
ピット40	第２面	30	〈24〉	8
ピット41	第２面	32	〈16〉	15
ピット42	第２面	36	25	22
ピット43	第２面	40	23	12
ピット44	第２面	29	〈20〉	15
ピット45	第２面	35	33	43
ピット46	第２面	〈25〉	20	9
ピット47	第２面	32	〈23〉	9
ピット48	第２面	36	24	8
ピット49	第２面	35	26	7
ピット50	第２面	27	26	12
ピット51	第２面	23	17	14
ピット52	第２面	40	34	14
ピット53	第２面	34	29	7
ピット54	第２面	43	〈27〉	9
ピット55	第２面	41	37	18
ピット56	第２面	39	35	11
ピット57	第２面	44	〈19〉	12
ピット58	第２面	28	〈11〉	11
ピット59	第２面	33	〈23〉	12
ピット60	第２面	32	〈18〉	8
ピット61	第２面	39	32	7
ピット62	第２面	32	〈20〉	14
ピット63	第２面	33	〈30〉	10
ピット64	第２面	50	〈23〉	10
ピット65	第２面	33	〈23〉	9
ピット66	第２面	38	29	14
ピット67	第２面	40	32	11
ピット68	第２面	46	31	11
ピット69	第２面	37	23	23
ピット70	第２面	32	23	9
ピット71	第２面	(45)	44	8
ピット72	第２面	54	(45)	13
ピット73	第２面	〈32〉	32	15
ピット74	第２面	30	24	13
ピット75	第２面	43	36	11
ピット76	第２面	33	30	19
ピット77	第２面	35	24	17
ピット78	第２面	46	41	12
ピット79	第２面	29	29	12
ピット80	第２面	33	26	12
ピット81	第２面	44	〈24〉	15
ピット82	第２面	42	39	11
ピット83	第２面	44	39	15
ピット84	第２面	33	26	9
ピット85	第２面	26	26	22
ピット86	第２面	29	25	24
ピット87	第２面	33	22	7
ピット88	第２面	28	27	10
ピット89	第２面	25	〈18〉	11
ピット90	第２面	33	22	14
ピット91	第２面	45	35	10
ピット92	第２面	35	26	7
ピット93	第２面	32	30	10
ピット94	第２面	〈26〉	〈22〉	14
ピット95	第２面	52	40	13
ピット96	第２面	26	26	6
ピット97	第２面	21	〈17〉	5
ピット98	第２面	44	〈22〉	15
ピット99	第２面	〈29〉	32	6
ピット100	第２面	34	〈20〉	15
ピット101	第２面	41	37	28
ピット102	第２面	30	25	10
ピット103	第２面	〈28〉	〈15〉	10
ピット104	第２面	47	33	22
ピット105	第２面	57	36	30
ピット106	第２面	44	34	20
ピット107	第２面	36	〈29〉	24
方形竪穴状遺構１	第３面	327	〈167〉	15～35
溝状遺構６	第３面	〈250〉	25～30	6～18
溝状遺構７	第３面	〈310〉	15～50	5～16
石列１	第３面	〈200〉	－	－
土坑12	第３面	〈60〉	〈53〉	8
ピット108	第３面	51	47	25
ピット109	第３面	57	47	30
ピット110	第３面	31	30	7
ピット111	第３面	40	37	15
ピット112	第３面	42	33	15
ピット113	第３面	35	30	15
ピット114	第３面	43	31	17
ピット115	第３面	31	〈21〉	16
ピット116	第３面	38	28	21
ピット117	第３面	39	〈23〉	16
ピット118	第３面	〈30〉	〈16〉	11
ピット119	第３面	〈36〉	32	12
ピット120	第３面	42	37	10
ピット121	第３面	〈40〉	〈33〉	10
ピット122	第３面	41	35	13

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット123	第３面	37	30	16
ピット124	第３面	40	29	7
ピット125	第３面	50	40	13
ピット126	第３面	56	〈11〉	8
ピット127	第３面	52	43	6
ピット128	第３面	〈34〉	〈17〉	15
ピット129	第３面	28	24	7
ピット130	第３面	38	34	11
溝状遺構８	第４面	〈300〉	70～90	35～53
土坑13	第４面	〈80〉	〈113〉	32
土坑14	第４面	〈148〉	〈36〉	17
土坑15	第４面	64	52	51
土坑16	第４面	〈167〉	147	25
土坑17	第４面	60	41	20
土坑18	第４面	60	－	26
土坑19	第４面	〈60〉	48	25
土坑20	第４面	〈78〉	44	17
土坑21	第４面	70	－	14
土坑22	第４面	〈60〉	44	19
土坑23	第４面	73	〈33〉	21
土坑24	第４面	〈73〉	〈27〉	21
土坑25	第４面	95	〈53〉	17

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
土坑26	第４面	〈86〉	99	13
土坑27	第４面	〈70〉	〈46〉	9
ピット131	第４面	29	25	8
ピット132	第４面	24	21	8
ピット133	第４面	39	35	28
ピット134	第４面	31	26	7
ピット135	第４面	26	23	30
ピット136	第４面	44	44	45
ピット137	第４面	45	40	12
ピット138	第４面	27	22	7
ピット139	第４面	24	21	20
ピット140	第４面	30	〈21〉	18
ピット141	第４面	30	〈８〉	12
ピット142	第４面	54	48	12
ピット143	第４面	33	26	6
ピット144	第４面	35	24	5
ピット145	第４面	50	〈23〉	34
ピット146	第４面	28	〈８〉	5
ピット147	第４面	34	〈18〉	13
ピット148	第４面	48	40	14
ピット149	第４面	32	〈13〉	13
ピット150	第４面	45	35	6

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット151	第４面	47	〈41〉	8
ピット152	第４面	52	〈38〉	29
ピット153	第４面	40	27	6
ピット154	第４面	〈50〉	27	24
ピット155	第４面	46	〈31〉	26
ピット156	第４面	53	44	22
ピット157	第４面	29	21	8
ピット158	第４面	〈29〉	22	7
ピット159	第４面	50	21	12
ピット160	第４面	49	〈19〉	8
ピット161	第４面	32	〈26〉	7
ピット162	第４面	25	20	7
ピット163	第４面	39	38	12
ピット164	第４面	45	〈19〉	19
ピット165	第４面	〈37〉	31	6
ピット166	第４面	〈42〉	〈45〉	5
塀・柵状遺構１	第５面	〈200〉	－	16～28
池状遺構１	第５面	〈460〉	〈190〉	10～28
溝状遺構９	第５面	〈270〉	150	55～62
土坑28	第５面	61	53	5
ピット167	第５面	〈26〉	25	10

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット168	第５面	22	21	9
ピット169	第５面	40	〈27〉	13
ピット170	第５面	〈48〉	〈18〉	8
ピット171	第５面	30	27	15
土坑29	第６面	69	65	21
ピット172	第６面	33	28	14
ピット173	第６面	23	23	23
ピット174	第６面	37	35	15
ピット175	第６面	36	33	19
ピット176	第６面	42	〈18〉	11
ピット177	第６面	43	30	21
ピット178	第６面	36	〈17〉	22
ピット179	第６面	35	(25)	12
ピット180	第６面	34	29	22
溝状遺構10	第７面	〈70〉	〈180〉	110
土坑30	第７面	〈60〉	〈34〉	3
ピット181	第７面	30	22	4
ピット182	第７面	24	16	9
ピット183	第７面	28	26	9

※塀・柵状遺構の長軸は心々間の計測値で、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表８　出土遺物一覧表

第１面

溝状遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	156
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ類	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	平碗	4
	Ⅲ	1
	器種不明小破片	2
常滑	甕	28
	片口鉢Ⅱ類	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		196

土坑１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
合計		4

土坑４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
合計		13

土坑５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		9

ピット11		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
合計		4

ピット12		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット13		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	4
合計		9

ピット17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
合計		5

ピット18		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		8

ピット19		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

ピット20		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
合計		15

ピット27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	1
合計		17

ピット29		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
合計		18

ピット31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		8

ピット32		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	壺	1
合計		3

ピット36		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	碗	1
合計		11

第１面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	86
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ－３ｂ類	1
【陶器】		
瀬戸	縁釉小皿	1
	卸皿	1
	器種不明小破片	1
常滑	甕	22
	片口鉢Ⅰ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【瓦】		
	平瓦	1
合計		116

第２面

溝状遺構２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	318
【陶器】		
中国	壺	2
瀬戸	平碗	1
常滑	甕	2
合計		8

常滑	甕	14
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	3
合計		339

溝状遺構４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		11

溝状遺構５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【陶器】		
常滑	甕	10
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		23

土坑６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		5

土坑８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

土坑９		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

土坑10		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
中国	褐釉陶器	3
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	火鉢ⅢB類	1
合計		9

ピット25		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット37		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		2

ピット39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット42		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
合計		1

ピット45		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	2
合計		2

ピット46		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	3
合計		4

ピット49		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	1
合計		5

ピット52		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		7

ピット55		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		3

ピット58		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット62		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	1
合計		5

ピット63		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット64		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

ピット66		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
瀬戸	平底末広碗	1
常滑	甕	1
合計		9

ピット67		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅱ類	1
合計		8

ピット73		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【瓦】		
	平瓦	1
合計		8

ピット74		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット76		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット77		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
常滑	甕	1
合計		7

ピット78		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	1
合計		5

ピット79		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット80		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット81		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット83		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット84		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		9

ピット85		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット89		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【白磁】		
	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	4
【瓦】		
	平瓦	1
合計		9

ピット86		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット88		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット89		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【白磁】		
	器種不明小破片	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
合計		3

ピット91		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
合計		3

ピット92		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット94		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	1
合計		5

ピット96		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		

常滑	甕	2
合計		5

ピット100

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		4

ピット101

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
中国？	天目茶碗	1
常滑	甕	1
合計		4

第２面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	740
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ－１ｂ類	1
	盤	6
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	入子	1
	平碗	2
	Ⅲ	6
	折縁深Ⅲ	1
	卸皿	1
	器種不明小破片	5
常滑	甕	133
	広口壺小	1
	広口壺大	2
	鳶口壺	1
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	4
	摩耗陶片	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
	火鉢ⅢＢ類	1
	器種不明小破片	9
【瓦】		
	平瓦	9
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
合計		929

第３面

方形竪穴状遺構１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	51
【白磁】		
	器種不明小破片	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	2
常滑	甕	36
	片口鉢Ⅱ類	2
備前	擂鉢	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅰ類	1
【瓦】		
	平瓦	2
合計		99

溝状遺構６

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		14

溝状遺構７

産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	平瓦	6
合計		6

ピット108

産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
合計		1

ピット111

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット113

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
合計		2

ピット115

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット116

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット117

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット121

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
合計		1

ピット123

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット127

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

第３面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	223
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	器種不明小破片	3
【青白磁】		
	梅瓶	2
	合子	1
	器種不明小破片	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	平碗	1
	天目茶碗	2
	平底末広碗	1
	卸皿	1
	器種不明小破片	1
常滑	甕	70
	片口鉢Ⅰ類	4
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅰ類	1
	火鉢ⅡＣ類	2
	器種不明小破片	2
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	27
合計		346

第４面

溝状遺構８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	29
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	13
【瓦】		
	平瓦	1
合計		44

土坑14

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
合計		2

土坑15

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		2

土坑16

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑17

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

土坑23

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑24

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑25

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	5
	片口鉢Ⅱ類	1
合計		9

土坑27

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		3

ピット139

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

ピット142

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット143

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット145

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【白磁】		
	壺	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット154

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット155

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
合計		4

ピット156

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

ピット165

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

第４面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	50
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	17
	片口鉢Ⅰ類	2
【瓦】		

	平瓦	8
	合計	81

第５面

塀・柵状遺構１－Ｐ２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【金属製品】		
	器種不明	1
	合計	3

池状遺構１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	65
	かわらけ　手づくね成形	1
【白磁】		
	壺	2
	Ⅲ Ⅸ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
【青白磁】		
	梅瓶	1
	器種不明小破片	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	9
	片口鉢Ⅰ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	器種不明小破片	1
	合計	87

溝状遺構９		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
北部系	山茶碗	1
常滑	甕	3
	合計	4

土坑28		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	3

第５面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
瀬戸	天目茶碗	1
	合計	6

1．調査区遠景（南西から）

2．調査区東側北壁土層断面（南東から）

図版２

１．調査区西側第１面全景（南から）

２．調査区東側第１面全景（南から）

３．調査区西側第２面全景（北から）

４．調査区西側第３面全景（南から）

５．調査区東側第２面全景（北から）

６．第２面 溝状遺構２石組護岸（南から）

１．第３面 方形竪穴状遺構１（南から）

２．第３面 方形竪穴状遺構１（北東から）

３．第３面 石列１（西から）

図版４

１．調査区西側第４面全景（西から）

２．調査区東側第４面全景（南から）

３．調査区西側第５面全景（南から）

４．調査区東側第５面全景（北から）

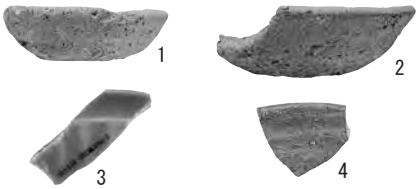
５．調査区西側第６面（古代）全景（北から）

６．調査区東側第６面（古代）全景（北から）

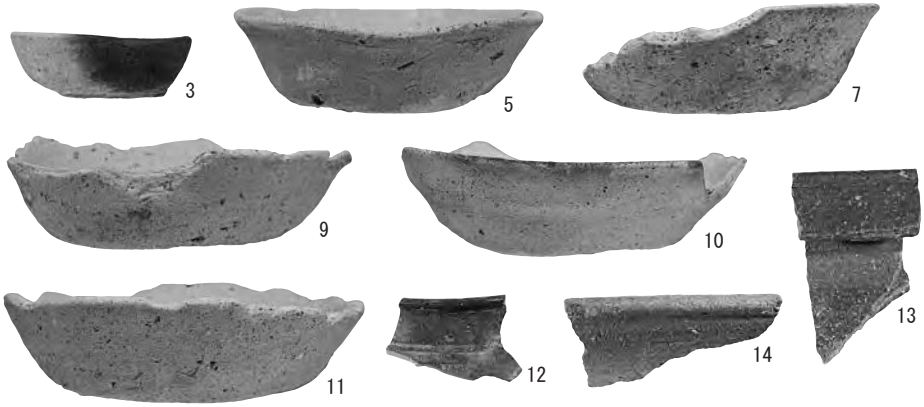
７．調査区西側第７面（古代）全景（西から）

８．調査区東側第７面（古代）全景（北から）

１．第１面 溝状遺構１出土遺物

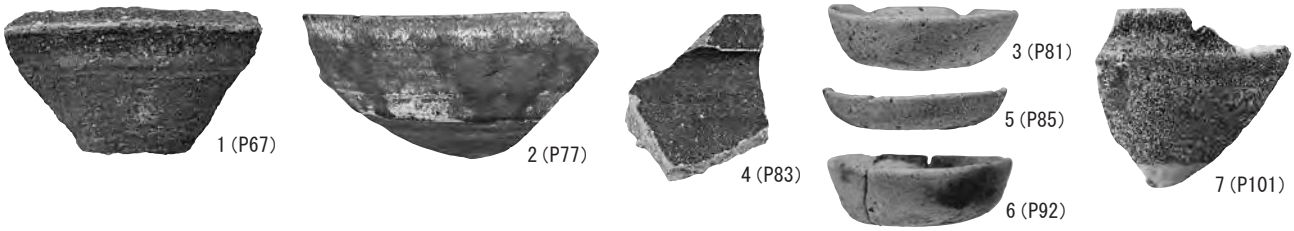


２．第１面 遺構外出土遺物



３．第２面 溝状遺構２出土遺物

４．第２面 溝状遺構４出土遺物



５．第２面 ピット出土遺物

６．第２面 遺構外出土遺物

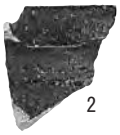
図版６

１．第３面 方形竪穴状遺構１出土遺物

２．第３面 溝状遺構６出土遺物

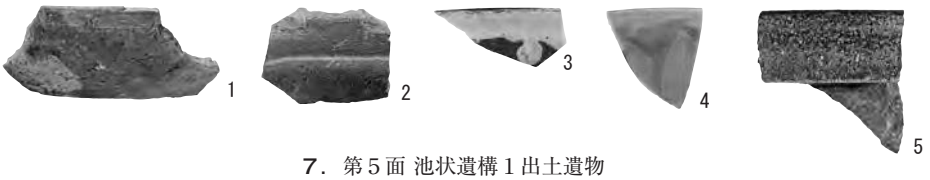
３．第３面 遺構外出土遺物

４．第４面 土坑14出土遺物



５．第４面 土坑25出土遺物

６．第４面 遺構外出土遺物



７．第５面 池状遺構１出土遺物

清涼寺跡（№183）

扇ガ谷四丁目570番１地点

例　言

1．本報は「清涼寺跡」（神奈川県遺跡台帳№183）内、鎌倉市扇ガ谷四丁目570番１地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成24年11月６日～平成25年２月１日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は67.5㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　馬淵和雄
調　査　員　　吉田桂子・根本志保・沖　元道・松原康子・森谷十美
作　業　員　　赤坂　進・岩田　濃・高柳雅一・大塚尚城・石黒　清・浅香文保
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．本報に掲載した写真は、遺構を馬淵和雄、遺物を赤間重和が撮影した。

6．測量基準杭の設置にあたっては、世界測地系（座標系ＡＥＲＡ9）を用い、図４に座標値を示した。

7．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

8．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「SRT1204」とした。

9．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

10．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：□整地・地業範囲
■炭化物分布範囲
□木片集中範囲
遺物：■煤およびタール状の黒色物が付着している部分

11．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

か わ ら け：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡Ⅻ－陶磁器分類編－』

12．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 62
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 62
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 62
第３節　周辺の考古学的調査 …… 63

第二章　堆積土層 …… 67

第三章　発見された遺構と遺物 …… 68
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 68
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 74
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 81
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 90
第５節　第５面の遺構と遺物 …… 101

第四章　まとめ …… 104

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 64
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 65
図３　調査区位置図 …… 66
図４　調査区配置図 …… 66
図５　調査区中央 土層断面図 …… 67
図６　第１面 遺構分布図 …… 68
図７　第１面 溝状遺構１ …… 69
図８　第１面 井戸１覆土出土遺物 …… 69
図９　第１面 井戸１掘り方出土遺物 …… 70
図10　第１面 井戸１ …… 70
図11　第１面 土坑２出土遺物 …… 71
図12　第１面 土坑１～６ …… 72
図13　第１面 ピット８・18・22 …… 72
図14　第１面 遺構外出土遺物 …… 73
図15　第１面 構成土出土遺物 …… 74
図16　第２面 遺構分布図 …… 75
図17　第２面 溝状遺構２ …… 76
図18　第２面 溝状遺構２出土遺物 …… 76
図19　第２面 土坑７出土遺物 …… 76
図20　第２面 土坑９出土遺物 …… 77
図21　第２面 土坑６～11 …… 77
図22　第２面 土坑10出土遺物 …… 78
図23　第２面 ピット32・33 …… 78
図24　第２面 ピット出土遺物 …… 78
図25　第２面 遺構外出土遺物 …… 79
図26　第２面 構成土出土遺物（１） …… 79
図27　第２面 構成土出土遺物（２） …… 80
図28　第３面 遺構分布図 …… 81
図29　第３面 溝状遺構３～５ …… 82
図30　第３面 溝状遺構４出土遺物 …… 82
図31　第３面 石列１ …… 83
図32　第３面 土坑12出土遺物 …… 83
図33　第３面 土坑12～14 …… 84
図34　第３面 ピット45・47・48 …… 84
図35　第３面 ピット出土遺物 …… 84
図36　第３面 遺構外出土遺物（１） …… 85

図37　第３面 遺構外出土遺物（２）…… 86
図38　第３面 遺構外出土遺物（３）…… 87
図39　第３面 遺構外出土遺物（４）…… 88
図40　第３面 構成土出土遺物（１）…… 88
図41　第３面 構成土出土遺物（２）…… 89
図42　第４面 遺構分布図 …… 90
図43　第４面 礎板建物１ …… 91
図44　第４面 礎板建物１出土遺物（１）…… 92
図45　第４面 礎板建物１出土遺物（２）…… 93
図46　第４面 溝状遺構６出土遺物 …… 94
図47　第４面 溝状遺構６～８ …… 94
図48　第４面 土坑15出土遺物 …… 95
図49　第４面 土坑16出土遺物 …… 95
図50　第４面 土坑17出土遺物 …… 96
図51　第４面 土坑15～23 …… 96
図52　第４面 土坑18出土遺物 …… 97
図53　第４面 土坑21出土遺物 …… 97
図54　第４面 土坑22出土遺物 …… 98
図55　第４面 ピット58・71・104 …… 98
図56　第４面 ピット出土遺物 …… 98
図57　第４面 遺構外出土遺物（１）…… 99
図58　第４面 遺構外出土遺物（２）……100
図59　第４面 構成土出土遺物 ……101
図60　第５面 溝状遺構９ ……101
図61　第５面 溝状遺構９出土遺物 ……102
図62　第５面 遺構分布図 ……102
図63　第５面 土坑24・25 ……103
図64　第５面 ピット137 ……103
図65　第５面 遺構外出土遺物 ……103

表　目　次

表１　清涼寺跡および周辺遺跡 調査地点一覧 … 63
表２　第１面 出土遺物観察表 ……106
表３　第２面 出土遺物観察表 ……107
表４　第３面 出土遺物観察表 ……109
表５　第４面 出土遺物観察表 ……112
表６　第５面 出土遺物観察表 ……116
表７　遺構計測表 ……116
表８　出土遺物一覧表 ……117

図　版　目　次

図版１　１．調査区遠景（北西から） …… 121
　　２．調査区中央土層断面（北から） … 121
図版２　１．調査区西側第１面全景（南から） … 122
　　２．第１面 井戸１（西から） …… 122
　　３．第１面 井戸１井戸枠（南から） … 122
図版３　１．調査区西側第２面全景（東から） … 123
　　２．第２面 溝状遺構２礫出土状態
　　（北から） …… 123
図版４　１．調査区東側第３面全景（南から） … 124
　　２．第３面 石列１（西から） …… 124
図版５　１．調査区東側第４面全景（南から） … 125
　　２．調査区東側第４面全景（東から） … 125
図版６　１．第４面 礎板建物１－Ｐ３
　　（東から） …… 126
　　２．第４面 板壁建物１板壁および溝状
　　遺構６（南東から） …… 126
　　３．第４面 板壁建物１板壁および溝状
　　遺構６（北東から） …… 126
図版７　１．第１面 井戸１覆土出土遺物 …… 127
　　２．第１面 井戸１掘り方出土遺物 … 127
　　３．第１面 土坑２出土遺物 …… 127
　　４．第１面 遺構外出土遺物 …… 127
　　５．第１面 構成土出土遺物（１） …… 127
図版８　１．第１面 構成土出土遺物（２） …… 128

２．第２面 溝状遺構２出土遺物 …… 128
３．第２面 土坑７出土遺物 …… 128
４．第２面 土坑９出土遺物 …… 128
図版９　１．第２面 土坑10出土遺物 …… 129
２．第２面 ピット出土遺物 …… 129
３．第２面 遺構外出土遺物 …… 129
４．第２面 構成土出土遺物（１）…… 129
図版10　１．第２面 構成土出土遺物（２）…… 130
２．第３面 溝状遺構４出土遺物 …… 130
３．第３面 土坑12出土遺物 …… 130
４．第３面 ピット出土遺物 …… 130
図版11　１．第３面 遺構外出土遺物（１）…… 131
図版12　１．第３面 遺構外出土遺物（２）…… 132
図版13　１．第３面 遺構外出土遺物（３）…… 133
２．第３面 構成土出土遺物 …… 133
図版14　１．第４面 礎板建物１出土遺物（１）… 134
図版15　１．第４面 礎板建物１出土遺物（２）… 135
２．第４面 溝状遺構６出土遺物 …… 135
３．第４面 土坑15出土遺物 …… 135
４．第４面 土坑16出土遺物 …… 135
５．第４面 土坑17出土遺物 …… 135
６．第４面 土坑18出土遺物 …… 135
図版16　１．第４面 土坑21出土遺物 …… 136
２．第４面 土坑22出土遺物 …… 136
３．第４面 ピット出土遺物 …… 136
４．第４面 遺構外出土遺物（１）…… 136
図版17　１．第４面 遺構外出土遺物（２）…… 137
２．第４面 構成土出土遺物 …… 137
図版18　１．第５面 溝状遺構９出土遺物 …… 138
２．第５面 遺構外出土遺物 …… 138

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市扇ガ谷四丁目570番１で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である清涼寺跡（神奈川県遺跡台帳№183）の範囲内にあたる。建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成24年３月21日～平成24年３月22日に３㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が建築予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される67.5㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、馬淵和雄が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成24年11月６日～平成25年２月１日までの３ヵ月ほどである。現地表の標高は約19.6ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、東側をⅠ区として平成24年11月６日～平成24年12月28日、西側をⅡ区として平成25年１月７日～平成25年２月15日まで調査を実施した。調査はまず重機により約50㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、Ⅰ・Ⅱ区ともに中世に属する第１～５面の合計５面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして２月15日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては世界測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市三級基準点（Ｘ＝－74813.770、Ｙ＝－25431.015）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海抜標高値は、鎌倉市三級基準点№43424（標高20.836ｍ）を基に移設した。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市扇ガ谷四丁目570番１に所在し、「清涼寺跡（№183）」の範囲内に所在する。清涼寺跡は鎌倉市街地中心部の北西に位置し、鶴岡八幡宮の西側に近接する。ＪＲ横須賀線は鎌倉駅から北鎌倉駅に向かう途中で扇ガ谷トンネルを通過し、このトンネル入り口の西隣にある支谷の開口部付近に調査地点がある。地形的には、いくつもの支谷が入り込みあたかも扇を広げたような形状の「扇ガ谷」と呼ばれる地域の北西側に位置し、扇ガ谷の西側には八幡太郎義家が山上に白旗を立てたという伝説に因んで名付けられた源氏山がある。

扇ガ谷は、法泉寺谷、清涼寺谷、会下谷、梅谷、山王谷、御前谷、智岸寺谷など複数の支谷を含むエリアであり、これらの支谷の名称は廃寺となった仏閣に由来するものが多い。この地域は中世以前には「亀ヶ谷」と呼ばれていたが、関東管領上杉定正が亀ヶ谷に住み、その居館が「扇谷殿」と称されてから「亀ヶ谷」の名は廃れたと考えられている（白井編 1976）。扇ガ谷の谷戸内には多くの寺院があり、中世においては繁華な商業域として栄えていたほか、有力な御家人の居住地でもあった。また、谷戸の中心部に武蔵大路が走っていたために、鎌倉の内外を結ぶ交通の要所でもあったとされる（伊丹・渡邊 2018）。

隣接する包蔵地としては、東側の法泉寺谷には法泉寺跡（№182）、西側には海蔵寺旧境内遺跡（№299）、武蔵大路と推定されている北西－南東道路を挟んだ南側には武蔵大路周辺遺跡（№194）と亀谷山王堂遺跡（№185）が展開している。

本遺跡名の由来となっている「新清涼寺」は、『鎌倉廃寺事典』によると宗旨未詳であり、加えて所在地も扇ガ谷の清涼寺谷と名越の竹鼻の２ヵ所があげられており、正確な所在地は不明である。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。

扇ガ谷西半での発掘調査事例は多くはなく、清涼寺跡の包蔵地範囲では今回報告地点が２ヵ所目である。本地点は南北方向に長い包蔵地範囲の南西端に位置し、推定武蔵大路の北側にあたる。①扇ガ谷４－556－４外地点は清涼寺谷の奥部に位置し、南北方向に延びる石積みを伴う溝とこれに沿う道路が検出された（伊丹 2012）。溝と道路はともに４時期にわたる作り替えが確認され、時期的に最も古い第５面では、溝壁を造り出すために丘陵裾部の岩盤をひな壇状に造成していたことが明らかとなっている。寺社の管轄下において造築された構築物と推定されており、出土遺物から13世紀後半から15世紀代という年代的位置づけがなされている。

梅谷に広がる海蔵寺旧境内遺跡の②扇ガ谷四丁目632番３地点では、狭い調査区ではあったが中世に属する多くの遺物が出土した。１～３面にわたる遺構確認面の調査が行われ、粗砂を用いて丁寧に地業された面から板壁をもつ建物や礎板列、杭列などが検出された。調査者は調査区北側の支谷崖面にあるやぐら群との関連性を鑑みて、寺院の可能性を指摘している（岡・手塚ほか 2000）。

海蔵寺旧境内遺跡のある支谷の南側にあたる山王谷には、亀谷山王堂跡が展開する。③扇ガ谷四丁目327番５地点は支谷の中央付近に位置し、13世紀後半から15世紀初頭にかけての石列や土坑、礎板、杭、柱が検出された（伊丹・石元ほか 2002）。狭い調査区であったため遺構の性格付けは困難であるが、凝灰質砂岩を用いた石列が検出されたことなどから、報告者は財力をもつ階層の居住地であった可能性を指摘している。

本遺跡の東側に隣接する法泉寺跡は扇ガ谷のほぼ中央に位置し、南北方向に延びる法泉寺谷に展開する。法泉寺谷は中心部をＪＲ横須賀線が縦走しており、④扇ガ谷四丁目518番12地点と⑤扇ガ谷四丁目518番８外地点はともに支谷の開口部に立地する。清涼寺跡の包蔵地範囲に隣接する④地点では複数回にわたる地業が認められ、５時期にわたる中世の生活面が調査された（伊丹 2008）。寺院に関連する遺構は検出されなかったが、13世紀半ばごろの東海系（八事裏山窯）の瓦や埼玉県水殿瓦窯産の瓦が出土している。なお、第５面の構成土からは奈良・平安時代や縄文時代の遺物も出土している。④地点の南東に隣接した⑤地点では、中世に属する４面にわたる生活面が報告されている（伊丹・渡邊 2018）。このうち、14世紀代と考えられる第１面からは、壁面に３～４段の石積みを伴う幅約1.9ｍの溝が検出さ

表１　清涼寺跡および周辺遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	清涼寺跡（№183）	扇ガ谷四丁目570番１地点	
①	清涼寺跡（№183）	扇ガ谷４－556－４外地点	伊丹 2012
②	海蔵寺旧境内遺跡（№299）	扇ガ谷四丁目632番３地点	岡・手塚ほか 2000
③	亀谷山王堂跡（№185）	扇ガ谷四丁目327番５地点	伊丹・石元ほか　2002
④	法泉寺跡（№182）	扇ガ谷四丁目518番12地点	伊丹 2008
⑤	法泉寺跡（№182）	扇ガ谷四丁目518番８外地点	伊丹・渡邊 2018

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

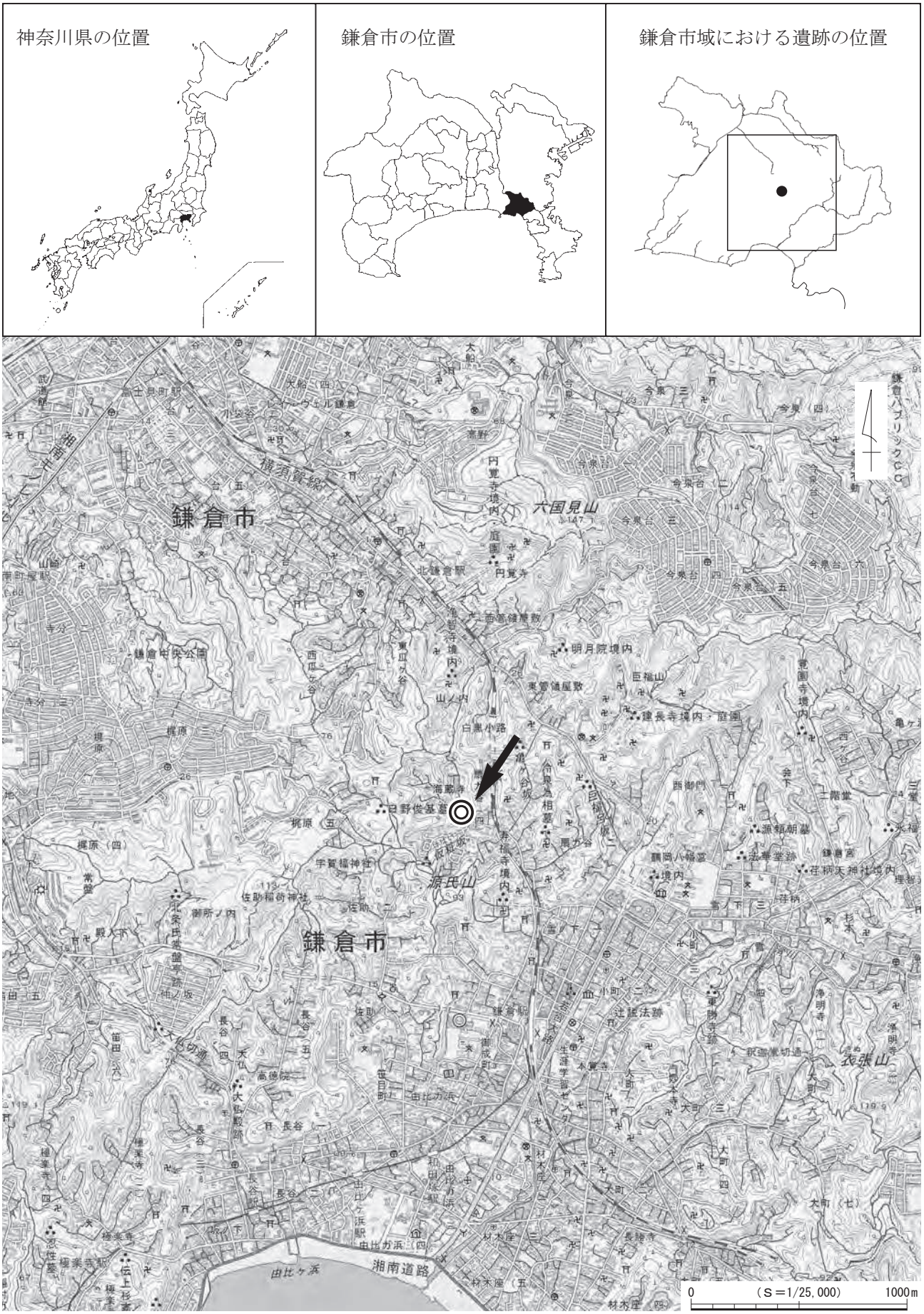
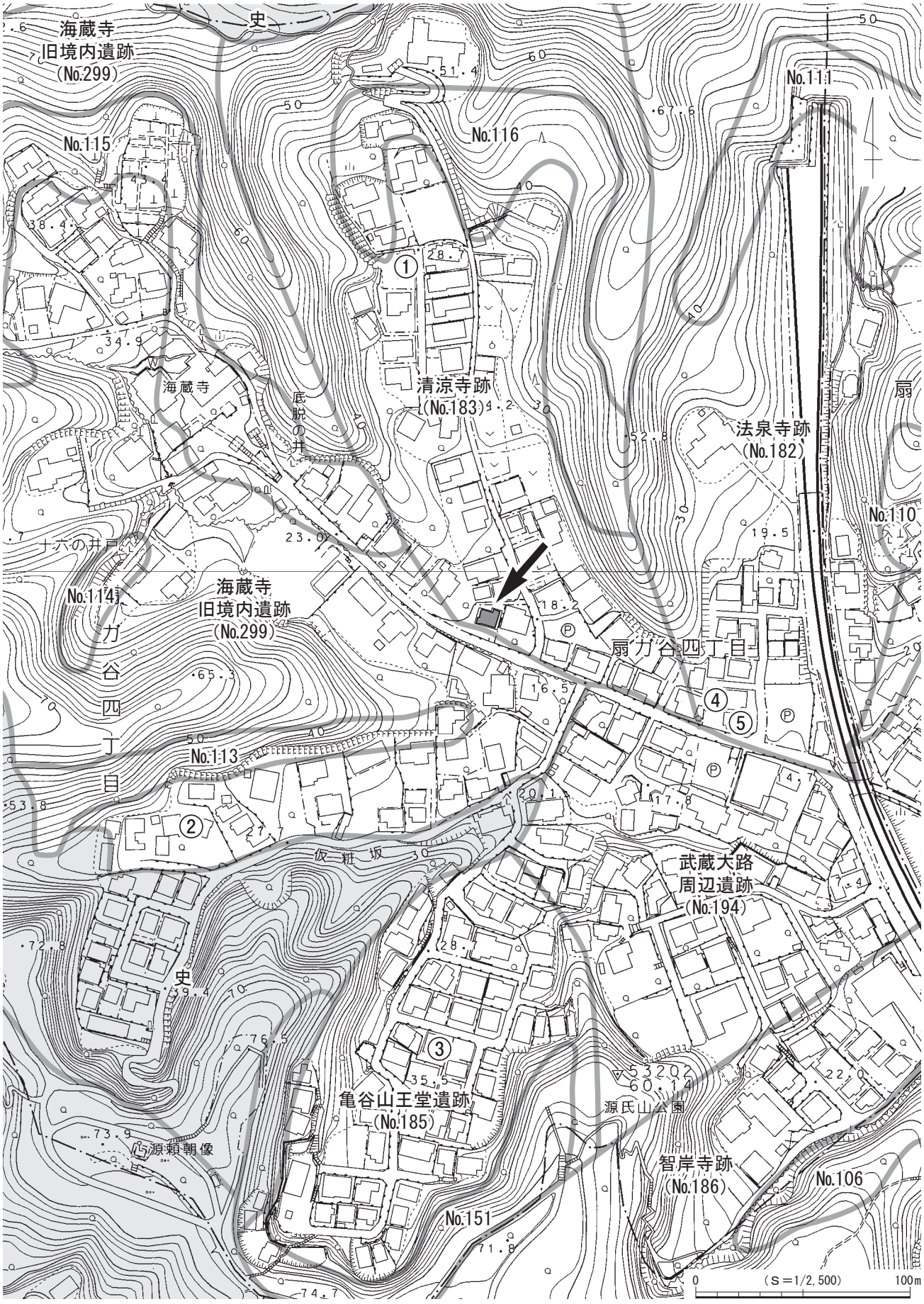

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
鎌倉市
鎌倉市
六国見山
源氏山
衣張山
湘南道路
由比ヶ浜
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字(表１の番号に対応)は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

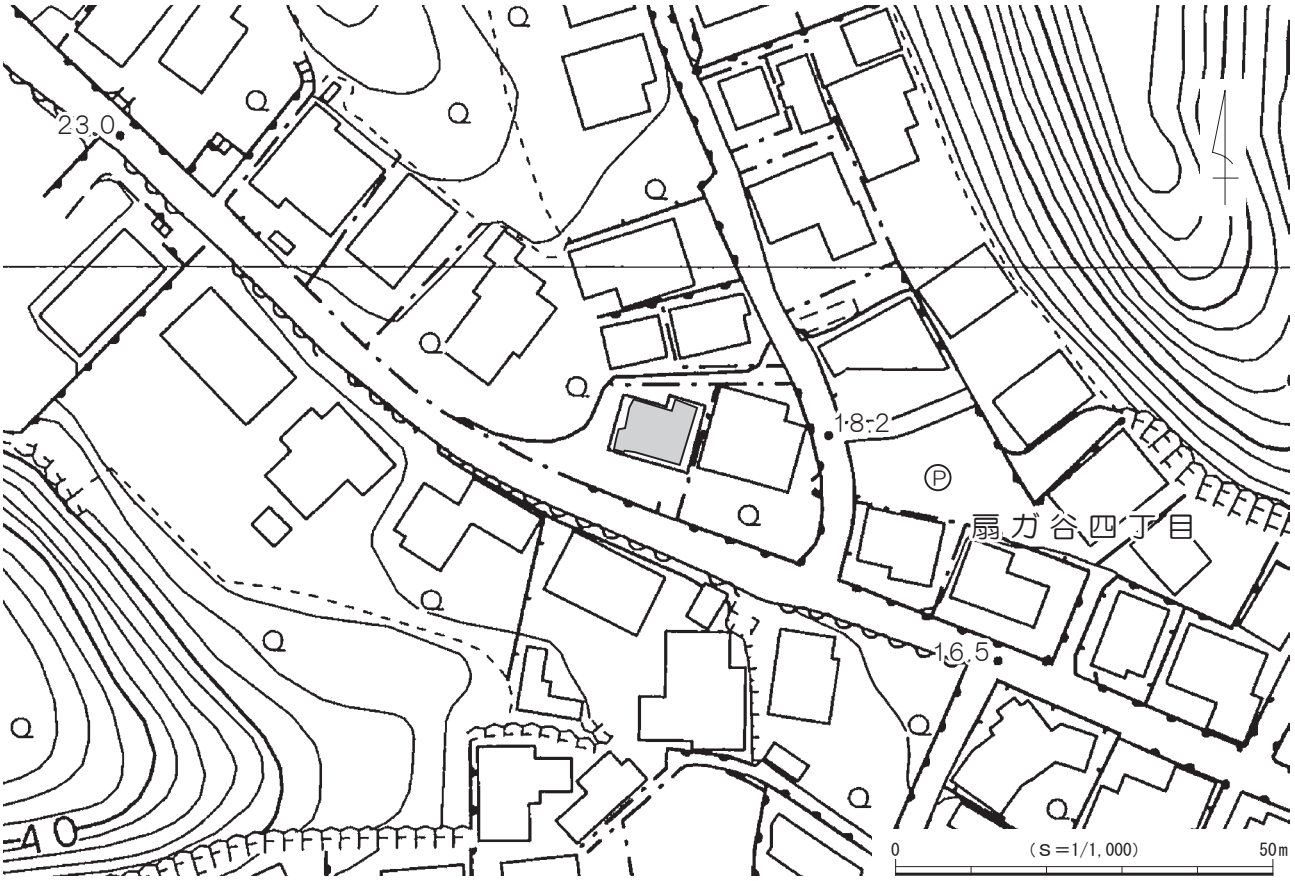


図３　調査区位置図

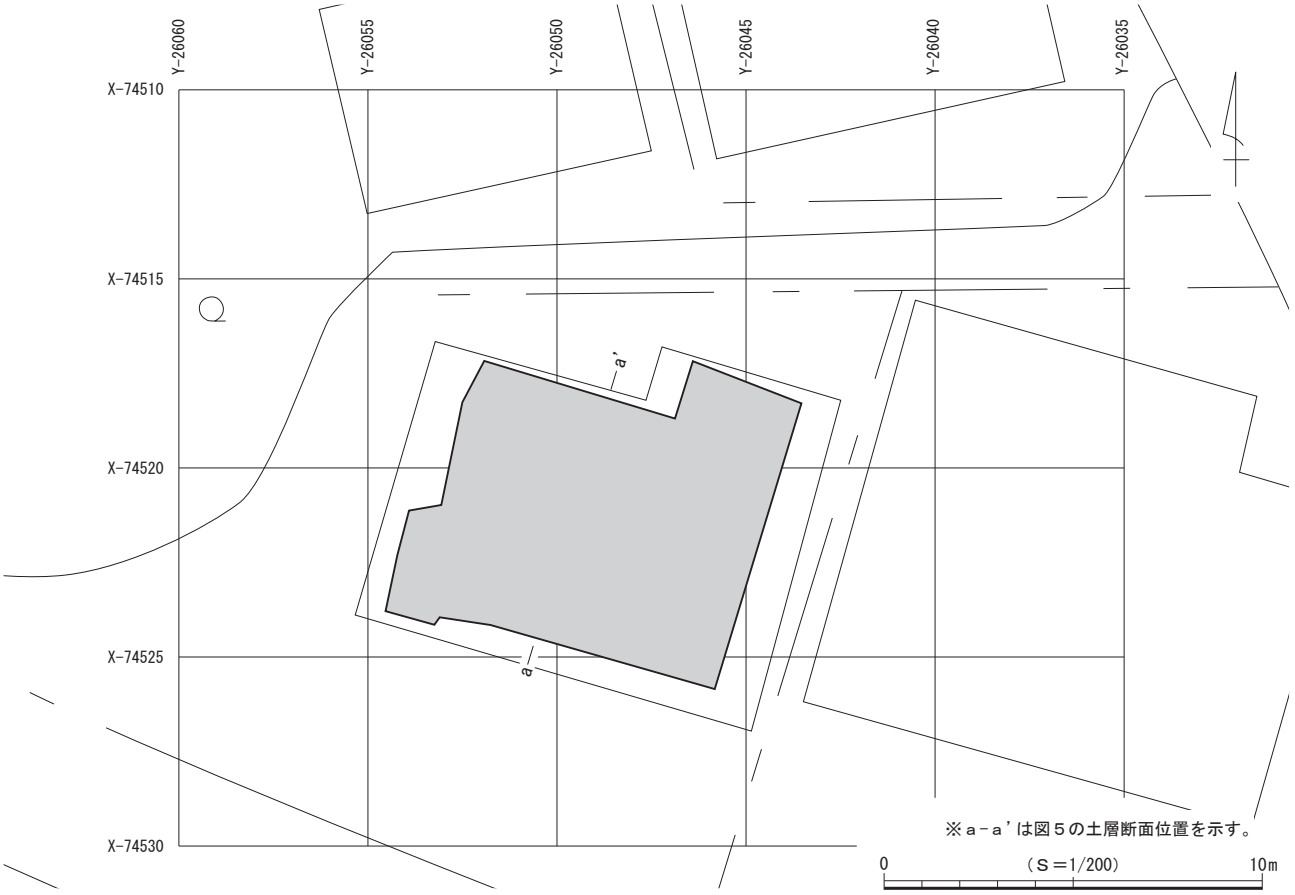


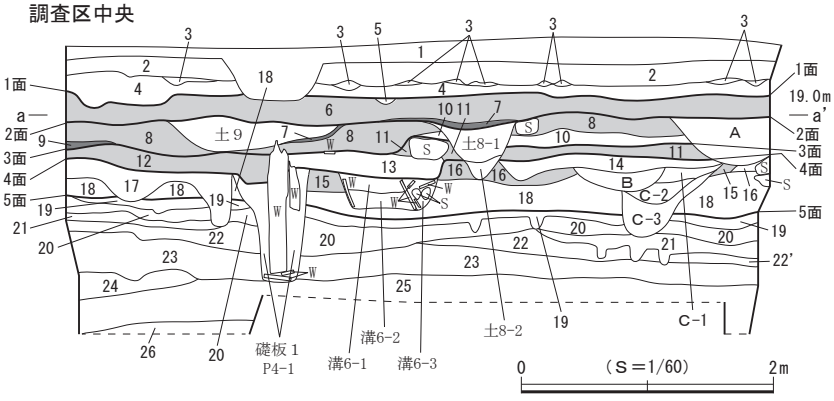
図４　調査区配置図

れ、石積みには砂質凝灰岩の切石が使用されていた。溝は東西方向に真っすぐに延びその北側には硬く締まった地業面が広がっており、武蔵大路あるいは扇川に関連する遺構の可能性が指摘されている。

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、第１～５面までの合計５面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区中央の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約19.6ｍを測り、最上部には表土（１層）、暗黄褐色砂質土（２層）、宝永火山灰層（３層）、暗黄灰色砂質土（４層）が層厚合計40～50㎝堆積している。遺構確認面の第１面は６層上面で検出した。確認面の標高は19.1～19.2ｍを測る。６層は多量の泥岩粒・泥岩ブロックを含み黒色粘土と砂を主体とする暗灰褐色粘質土層で、非常に締まりの強い整地層である。層厚は11～23㎝である。第２面は８層上面で確認し、確認面の標高は約19.0ｍを測る。８層は泥岩粒と凝灰岩ブロックを主体とする暗灰褐色砂質土層で、非常に締まりの強い整地層である。層厚は15～27㎝である。８層の上位および下位には部分的に炭層（７・９層）がみられる。第３面は11・12層上面で確認し、確認面の標高は18.7～18.8ｍを測る。11・12層は暗灰黄色ないし黄灰色の砂質土層で、凝灰岩を含む締まりの強い整地層である。層厚は11層が７～15㎝、12層が７～23㎝である。第４面は14～17層上面で確認し、確認面の標高は約18.6ｍを測る。14層は多量の泥岩ブロック・凝灰岩ブロック・木片を含み締まりの強い暗青灰色砂質土層で、層厚10㎝前後である。15層は暗灰黄色砂質土を主体とした凝灰岩粒による非常に締まりの強い整地層で、層厚15㎝前後である。16層は粘土を主体とした暗黒灰色粘質土層で、層厚３～15㎝である。17層は粘土を主体とし、少量の黒色粘土・炭化物・木片を含み締まりの弱い黒褐色粘質土層で、層厚７～25



１層　表土
２層　暗黄褐色砂質土　締まり強い。
３層　宝永火山灰
４層　暗黄灰色砂質土　泥岩粒微量含む。
５層　暗黄灰色砂質土　泥岩粒微量、黒色粘土ブロック中量含む。
６層　暗灰褐色粘質土　黒色粘土と砂主体の整地層。泥岩粒・泥岩ブロック多量に含む。締まり非常に強い。（第１面）
７層　灰黒色炭層
８層　暗灰褐色砂質土　泥岩ブロックと凝灰岩ブロックによる整地層。締まり非常に強い。（第２面）
９層　灰黒色炭層
10層　暗青灰色砂質土　凝灰岩ブロック多量に含む。締まり強い。
11層　暗灰黄色砂質土　凝灰岩粒による整地層。凝灰岩ブロック少量含む。（第３面）
12層　黄灰色砂質土　凝灰岩ブロックによる整地層。締まり非常に強い。（第３面）
13層　暗灰黄色砂質土　凝灰岩粒多量、凝灰岩ブロック少量含む。締まり弱い。
14層　暗青灰色砂質土　泥岩ブロック・凝灰岩ブロック・木片多量に含む。締まり強く、粘性あり。（第４面）
15層　暗灰黄色砂質土　凝灰岩粒による整地層。締まり非常に強い。（第４面）
16層　暗黒灰色粘質土　粘土主体。締まり強い。（第４面）
17層　黒褐色粘質土　粘土主体。黒色粘土・炭化物・木片少量含む。締まり弱い。（第４面）
18層　黒褐色粘質土　粘土主体。黒色粘土・炭化物・木片少量含む。締まりややあり。
19層　暗青灰色砂　粗砂主体。（第５面）
20層　黒褐色粘質土　粘土主体。炭化物少量含む。締まりあり。
21層　暗青灰色砂　粗砂主体。
22層　黒褐色粘質土　粘土主体。炭化物微量含む。締まりあり。
23層　暗茶褐色粘質土　黒色粘土・暗灰黒色粘土主体炭化物微量含む。締まりあり。
24層　黒褐色粘質土と暗青灰色砂層の互層
25層　黒褐色粘質土　黒色粘土主体。炭化物微量含む。締まりあり。
26層　暗青灰色砂　粗砂・小砂利主体。

〔遺構〕
土坑８
　１層　暗茶褐色粘質土　木片多量に含む。締まり弱い。
　２層　暗茶褐色砂質土　凝灰岩粒・木片多量に含む。締まりあり。
土坑９　灰黒色砂質土　粗砂主体。泥岩ブロック・凝灰岩ブロック・炭化物多量に含む。締まりあり。
溝状遺構６
　１層　黄灰色砂質土　層下部に木製品多量に含む。締まり弱い。
　２層　暗灰褐色砂質土　細砂・木片含む。締まり弱い。
　３層　暗灰褐色砂質土　凝灰岩ブロック・木片多量に含む。裏込め。
礎板建物１Ｐ４
　１層　黒褐色粘質土　粘土主体。黒色粘土・炭化物少量、木片多量含む。締まり弱い。
Ａ層　遺構覆土
Ｂ層　暗青灰色砂質土　泥岩ブロック・凝灰岩ブロック多量、木片中量含む。締まり強く、粘性あり。
Ｃ－１層　暗青灰色砂質土　泥岩ブロック・凝灰岩ブロック・木片多量に含む。締まり強く、粘性あり。
Ｃ－２層　暗黒褐色粘質土　粘土主体。木片多量に含む。締まり弱い。
Ｃ－３層　暗黒褐色粘質土　粘土主体。木片少量含む。締まり弱い。

図５　調査区中央 土層断面図

cmである。遺構確認面の最下位にあたる第５面は19層上面で確認した。確認面の標高は18.2～18.3mを測る。19層は粗砂を主体とした暗青灰色砂層で、層厚５～10cmである。19層より下位は黒褐色粘質土層と暗青灰色砂層が互層をなして堆積していた(20～26層)。

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～５面までの合計５面である。遺構確認面はいずれも中世に属し、検出した遺構は礎板建物１棟、溝状遺構９条、井戸１基、土坑25基、ピット141基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して34箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表(表８)を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第１～５面)に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の６層上面で検出した。確認面の標高は19.1～19.2mを測る。６層は多量の泥岩粒・泥岩ブロックを含み、黒色粘土と砂を主体とする暗灰褐色粘質土の非常に締まりの強い整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、井戸１基、土坑６基、

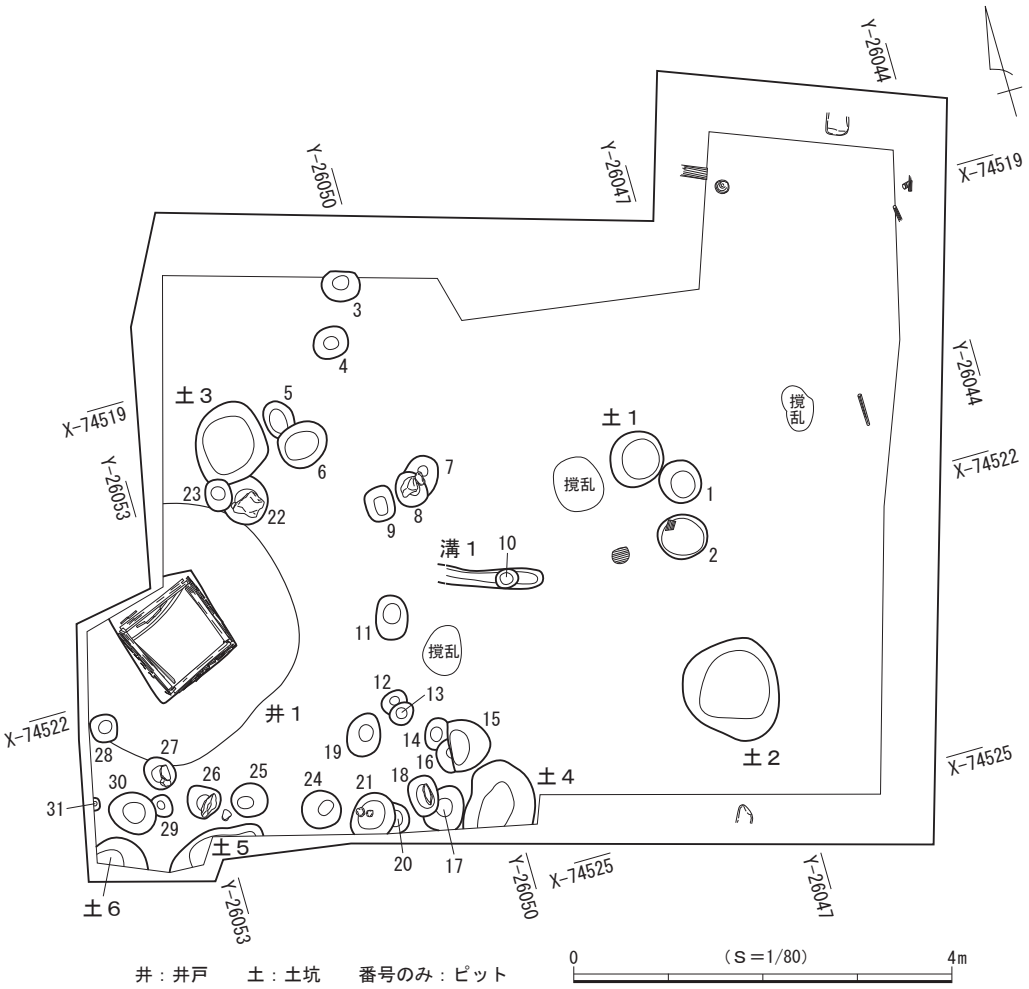


図６　第１面 遺構分布図

ピット31基である（図６）。遺構分布は調査区の中央から東側にかけては希薄で、南西側に集中が認められ、さらに調査区外の南西側に展開する様相がうかがわれた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構１（図７）

調査区の中央に位置する。ピット10と重複して底面が壊されている。東西方向におおむね真っすぐに延び、西側は調査区の境にあたり判然としなかった。検出した規模は現存長約1.0ｍ、幅20㎝、深さ16㎝で、主軸方位はＮ－72°－Ｗを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は19.01ｍを測る。

遺物はかわらけ21点、陶器１点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

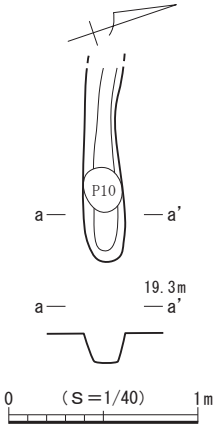


図７　第１面 溝状遺構１

（２）井　戸

井戸１（図10）

調査区西壁際の南側に位置する。北側でピット22・23、南側でピット27・28と重複して壁の一部が壊され、北西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。また、安全対策上の理由から、確認面より2.2ｍほど掘り下げた段階で調査を終了している。

検出範囲から掘り方の平面形を推定すると略円形と考えられ、中央に木製の井戸枠が遺存していた。井戸枠は方形を呈し、縦板を横桟で固定する構造である。縦板は上下２段にわたって設置されており、一段目の最下部と二段目の最上部の縦板は10㎝ほど重ねられている。規模は一辺95㎝を測り、横桟に用いられた角材は方５～６㎝、縦板は最長で1.15ｍを測る。

掘り方の規模は南北現存長2.29ｍ、東西現存長2.64ｍで、深さは検出面から約2.2ｍのところまで確認した。

出土遺物

遺物は覆土からかわらけ124点、磁器１点、陶器４点、木製品６点が、掘り方からかわらけ18点、陶器２点、石製品１点、木製品３点が出土し、このうち覆土から10点、掘り方から７点を図示した。

覆土出土遺物（図８）

１～７はロクロ成形によるかわらけで、１の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。８・９は木製品で箸状である。

掘り方出土遺物（図９）

１・２はロクロ成形によるかわらけである。３は常滑産の片口鉢Ⅱ類で６ｂ型式に比定される。４は滑石製石鍋の転用品である。５～７は木製品で、５・６は箸状、７は建築部材である。

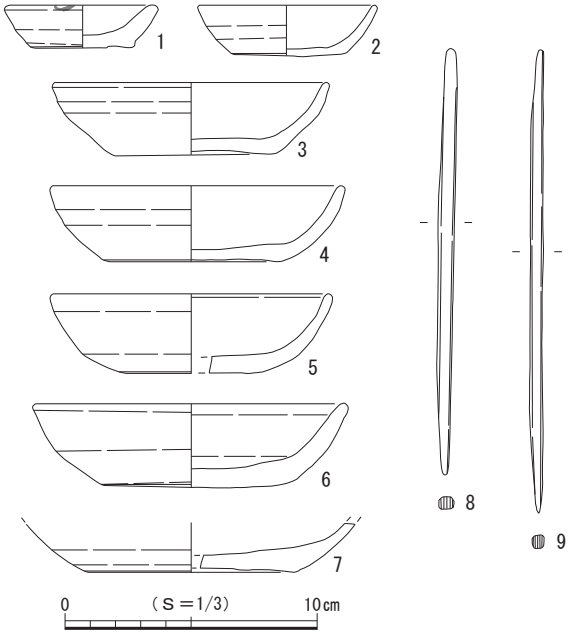


図８　第１面 井戸１覆土出土遺物

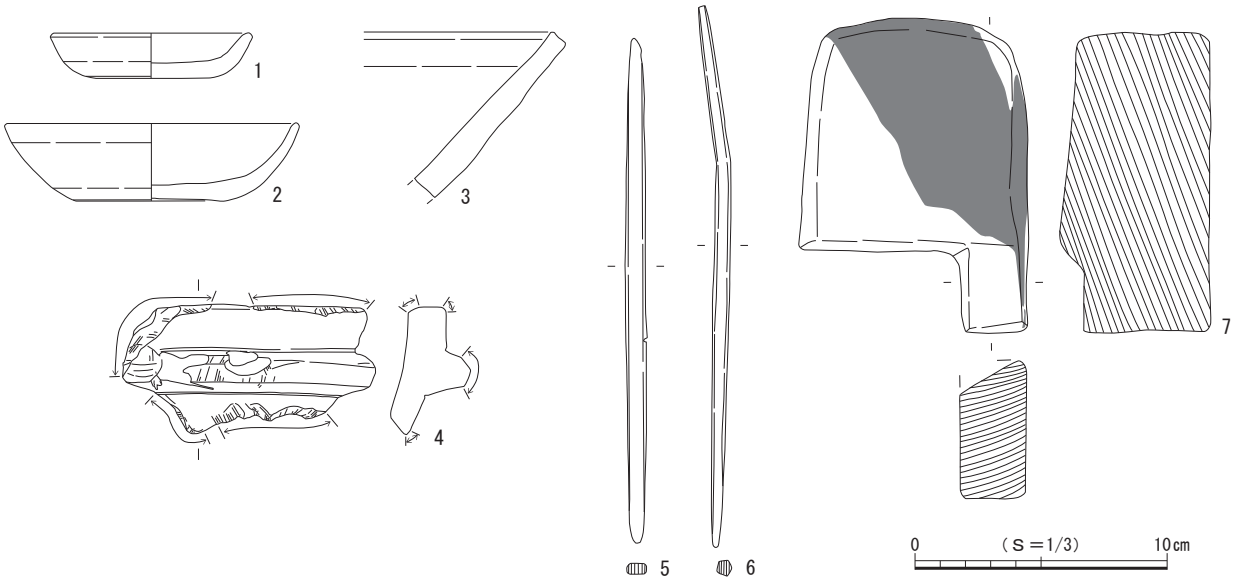


図９　第１面 井戸１掘り方出土遺物

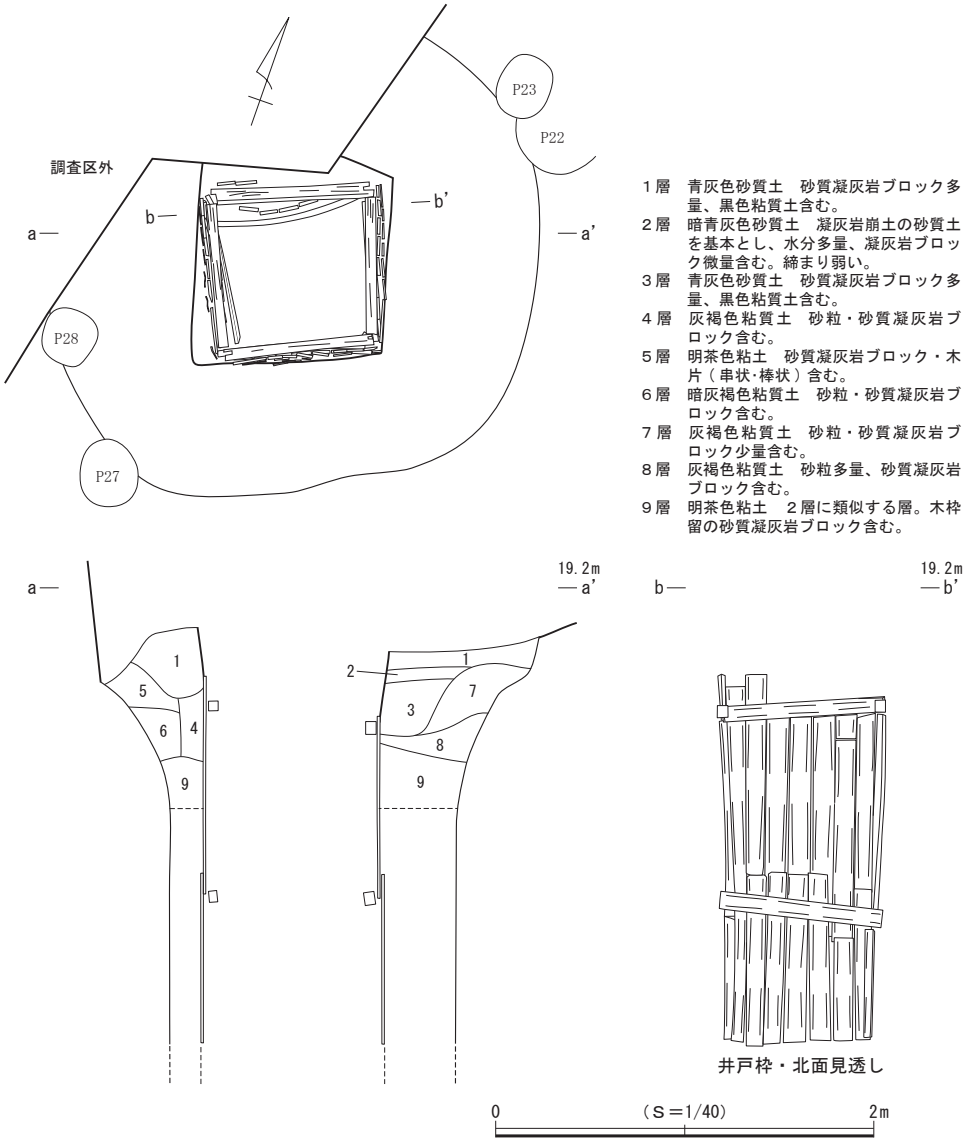


図10　第１面 井戸１

（3）土　坑

土坑１（図12）

調査区中央の東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面は平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61cm、短軸56cm、深さ26cmで、坑底面の標高は18.81ｍを測る。

遺物はかわらけ14点、陶器１点、木製品２点が出土した。

土坑２（図12）

調査区の南東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.08cm、短軸99cm、深さ28cmで、坑底面の標高は18.66ｍを測る。

出土遺物（図11）

遺物はかわらけ38点、磁器１点、陶器１点、木製品４点が出土し、このうち４点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。２は白磁碗である。３・４は木製品で用途不明である。

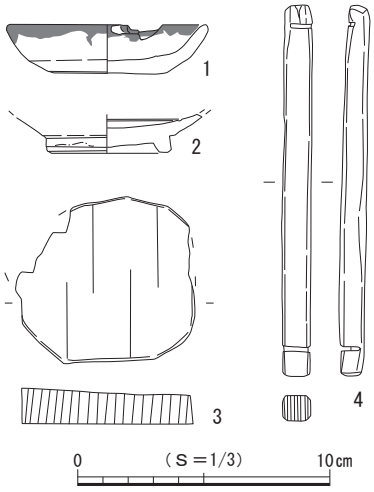


図11　第１面 土坑２出土遺物

土坑３（図12）

調査区の北西側に位置する。南側でピット22と重複して壊し、ピット23と重複して壁の一部が壊されている。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸82cm、短軸73cm、深さ11cmで、坑底面の標高は19.04ｍを測る。

遺物はかわらけ13点、石製品１点が出土した。

土坑４（図12）

調査区南壁際の中央に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長72cm、短軸70cm、深さ27cmで、坑底面の標高は18.86ｍを測る。主軸方位はＮ－38°－Ｅを指すと考えられる。

遺物はかわらけ10点、陶器１点が出土した。

土坑５（図12）

調査区の南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、西壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈し、規模は長軸現存長1.06ｍ、短軸現存長28cm、深さ17cmで、坑底面の標高は18.86ｍを測る。主軸方位はＮ－38°－Ｅを指すと考えられる。

遺物はかわらけ２点、陶器１点が出土した。

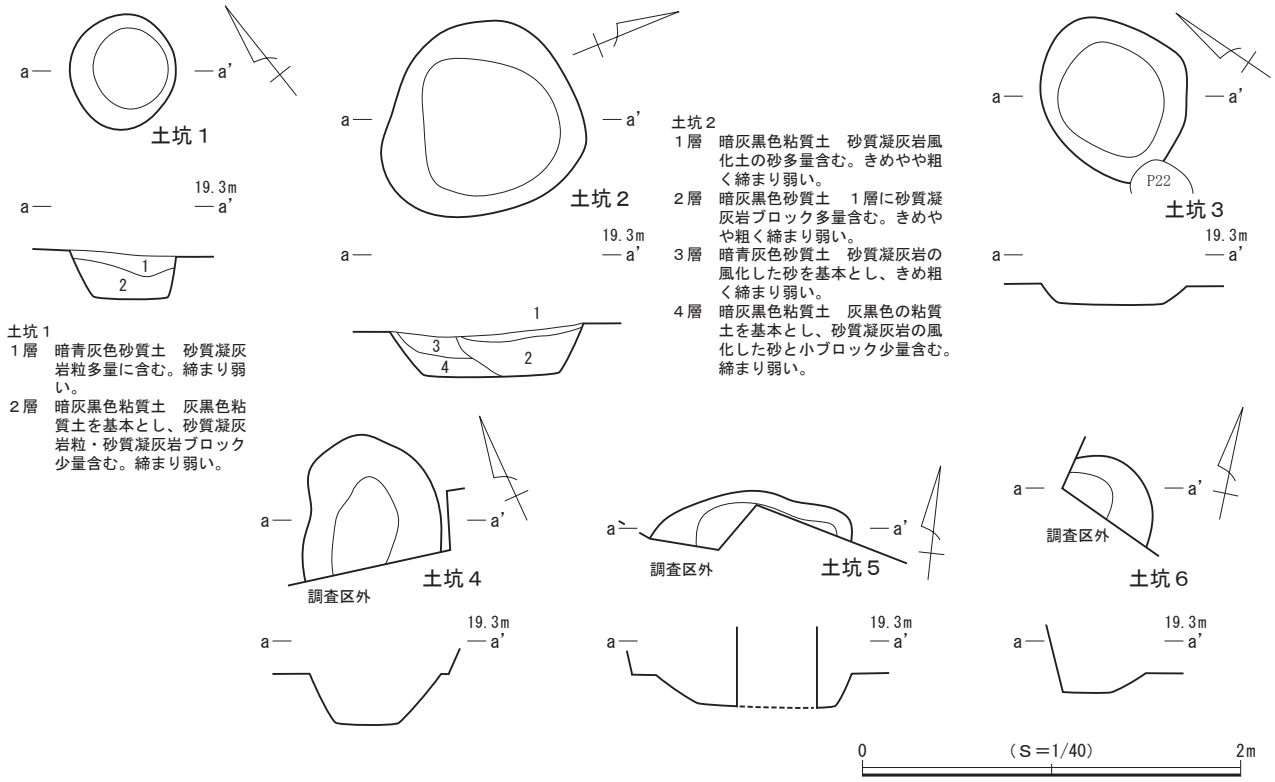


図12　第１面 土坑１～６

土坑６（図12）

調査区の南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、本址の大半が調査区外の南側へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形や主軸方位は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は北西－南東方向の現存長60㎝、北東－南西方向の現存長42㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は19.03ｍを測る。

遺物はかわらけ２点が出土した。

（４）ピット

第１面では、31基を検出した。調査区中央から西側にかけて分布し、特に調査区南西隅に密集するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形のものが多く、方形も混在し、規模は長軸13～54㎝、深さ７～35㎝を測る。31基のうち３基のピット（ピット８・18・22）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ22～34㎝、幅７～24㎝で、

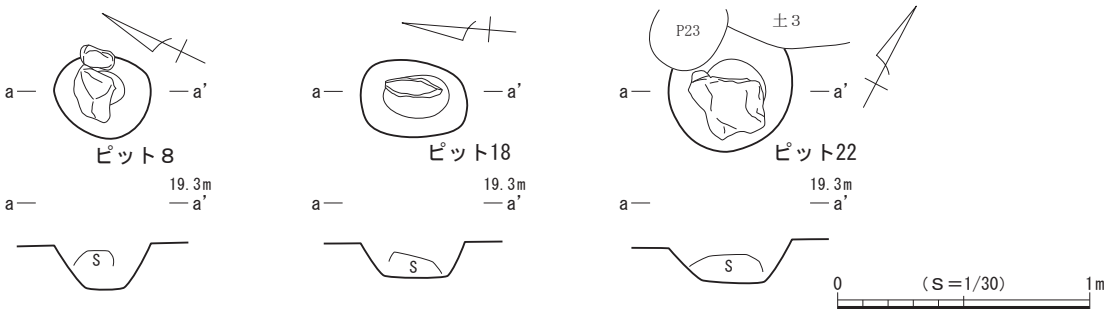


図13　第１面 ピット８・18・22

上面の標高は19.10～19.12mを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図13に図示した。

遺物は31基中、19基（ピット１・２・４～９・11・12・16・18～21・23・24・26・30）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）を参照されたい。

（５）第１面 遺構外出土遺物（図14）

第１面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち15点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけである。５は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。６・７は龍泉窯系青磁碗でⅡ－ｂ類に比定される。８は瀬戸産の入子で古瀬戸中期～後期様式に比定される。

９～15は木製品で、９は折敷、10は曲物、11は桶蓋、12は楔、13・14は用途不明、15は形代である。

（６）第１面 構成土出土遺物（図15）

第１面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、20点を図示した。

１～６はロクロ成形によるかわらけである。７は白磁碗である。８～10は龍泉窯系青磁である。８・９は碗で碗Ⅱ－ｂ類、10は坏で坏Ⅲ－３ｂ類に比定される。

11～20は木製品で、その中で11・12は漆製品となる。11・12は皿、13は箸状、14は曲物、15は連歯下駄、16は建築部材、17は楔、18は串状、19・20は棒状である。

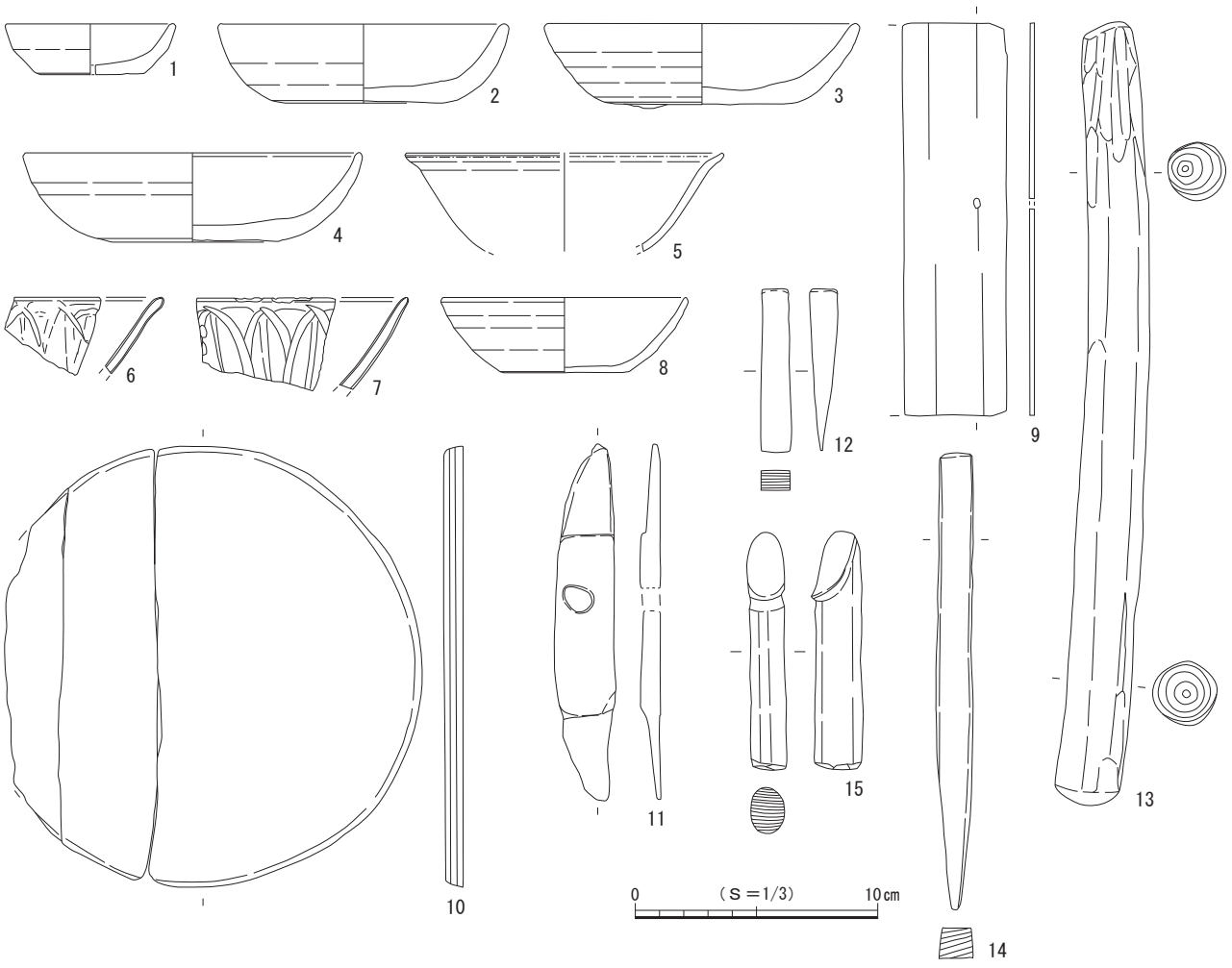


図14　第１面 遺構外出土遺物

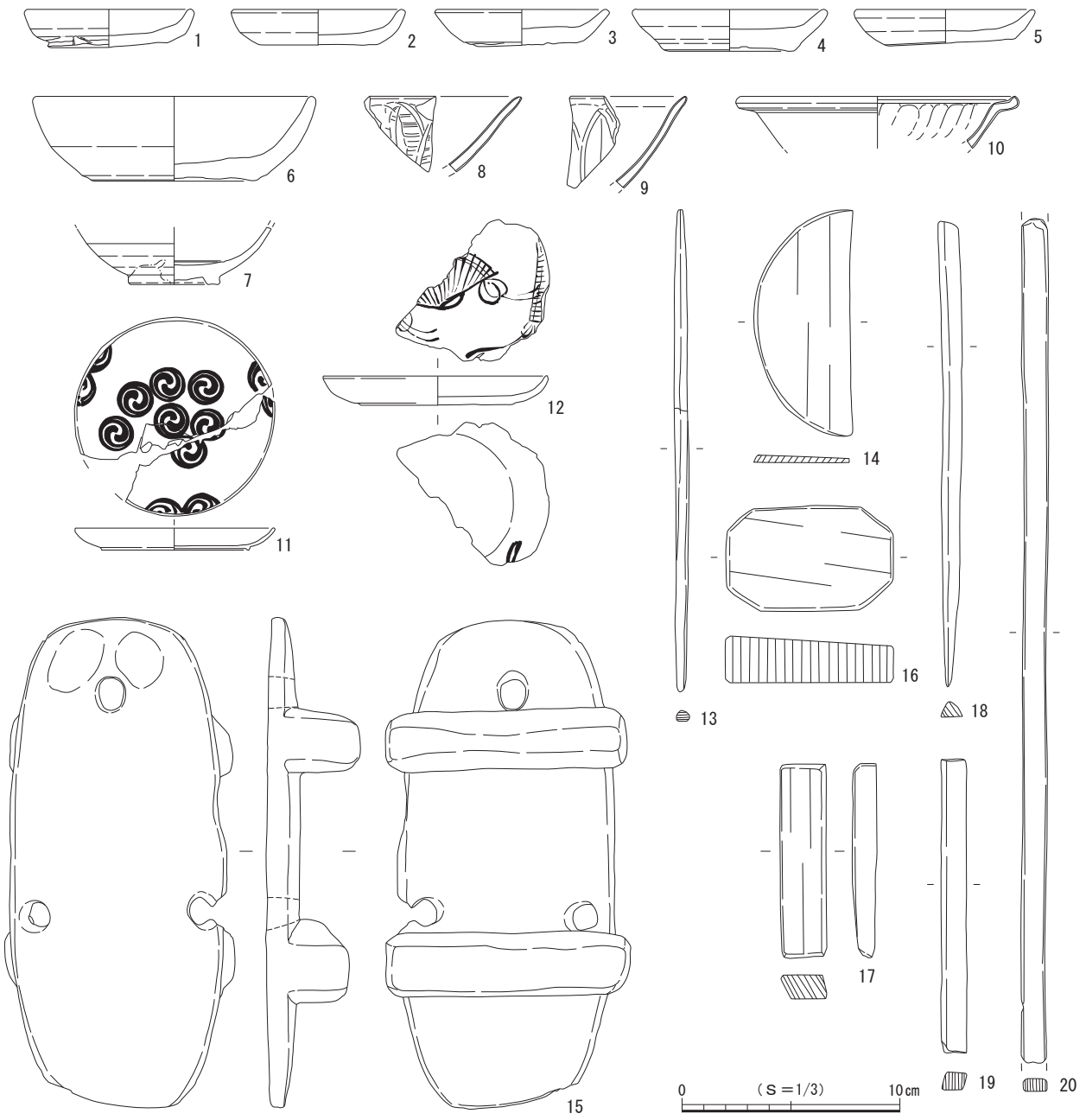


図15　第１面 構成土出土遺物

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の８層上面で検出した。確認面の標高は約19.0ｍを測る。８層は泥岩粒と凝灰岩ブロックを主体とする暗灰褐色砂質土の非常に締まりの強い整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、土坑５基、ピット10基である（図16）。調査区中央に幅0.2～1.5ｍの明瞭な整地面が南北方向に帯状に延びており、その東側に南北方向の溝状遺構、西側に土坑およびピット群が検出された。遺構の分布密度は全体に希薄である。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

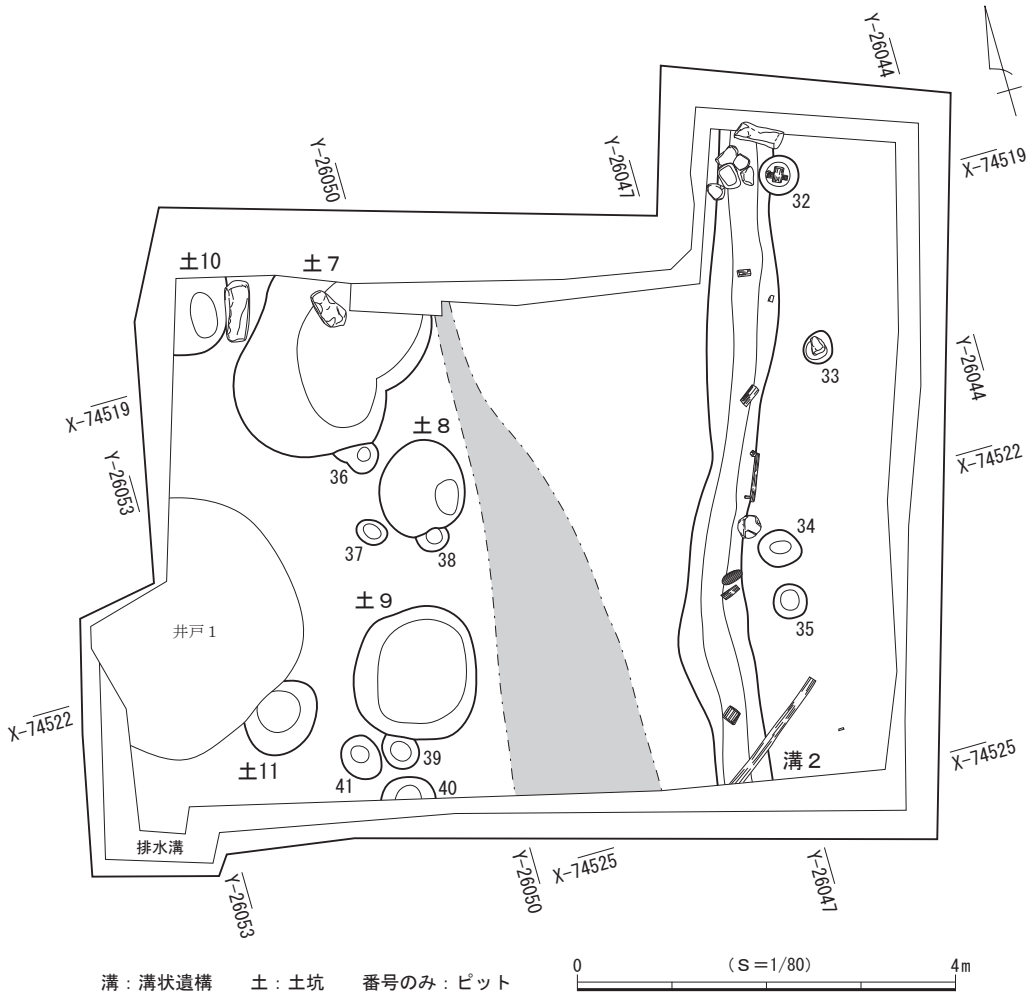


図16　第２面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構２（図17）

調査区の東側に位置する。調査区をおおむね直線的に南北方向に縦断して調査区外へと続いている。調査区内ではピット32と重複して壁の一部が壊されている。検出した規模は現存長約6.9m、幅50～80cm、深さ12～40cmで、主軸方位はＮ－17°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で18.44m、南側で18.39mを測る。東壁の中央付近に長さ50cmの横板を杭で固定した木組が認められ、護岸施設の一部と推定される。また、本址の覆土中に15～80cm大の砂質凝灰岩が多量に充填されており、廃絶の際に地固めを目的としたものと推定される（図版３－２）。

出土遺物（図18）

遺物はかわらけ６点、磁器３点、金属製品１点、木製品29点が出土し、このうち16点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけ、５は手づくね成形によるかわらけである。６は白磁碗で白磁碗Ⅸ類、７は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。８は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。９は銭貨で開元通寶（621年初鋳）である。

10～16は木製品である。10・11は箸状、12は曲物、13は草履芯、14は火きり棒、15は建築部材、16は杭である。

図17　第２面 溝状遺構２

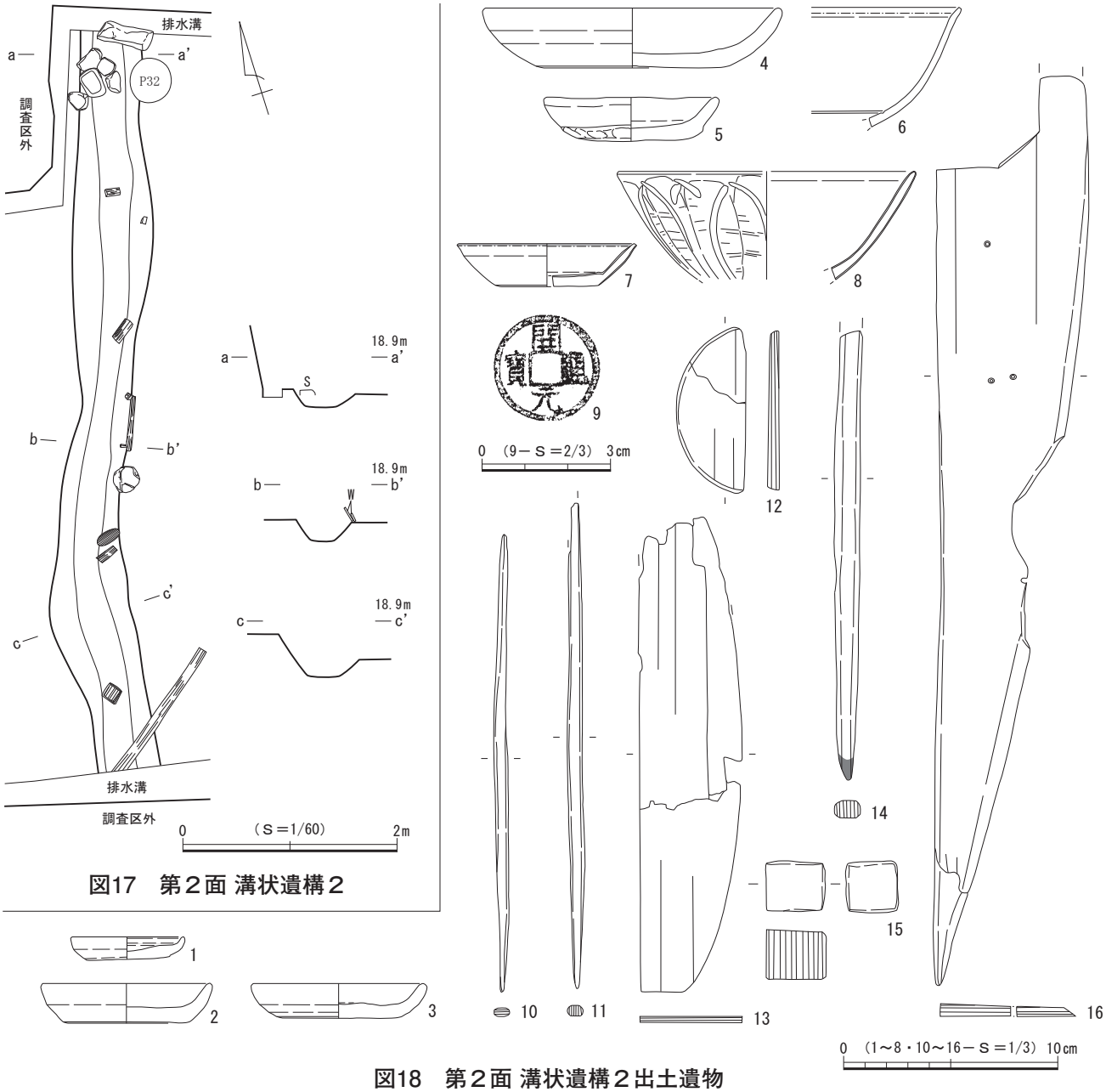


図18　第２面 溝状遺構２出土遺物

（２）土　坑

土坑７（図21）

調査区の北西側に位置する。南側でピット36と重複して壊し、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.92m、短軸1.58～1.79m、深さ33㎝で、坑底面の標高は18.71mを測る。主軸方位はN－42°－Eを指すと考えられる。

出土遺物（図19）

遺物はかわらけ22点、磁器１点、陶器５点、石製品１点、木製品７点が出土し、このうち３点を図示した。

１は常滑産の甕で６ｂ型式に比定される。２は硯である。３は木

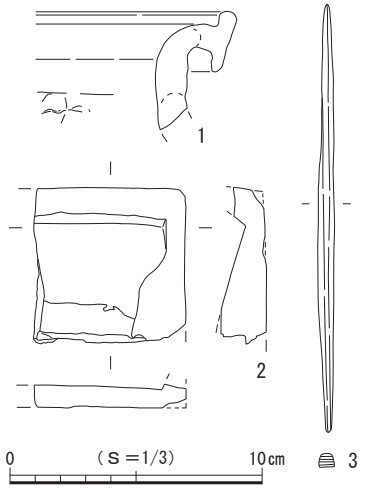


図19　第２面 土坑７出土遺物

製品の箸状である。

土坑８（図21）

調査区の西側に位置する。南側でピット38と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形はすり鉢状を呈する。規模は長軸1.00ｍ、短軸90㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は18.59ｍを測る。

遺物はかわらけ８点、磁器１点、陶器３点、石製品１点、木製品６点が出土した。

土坑９（図21）

調査区の南西側に位置する。南側でピット39と重複して壁の一部を壊している。平面形は略隅丸方形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.40ｍ、短軸1.29ｍ、深さ19㎝で、坑底面の標高は18.71ｍを測る。主軸方位はＮ－17°－Ｅを指す。

出土遺物（図20）

遺物は木製品６点が出土し、このうち５点を図示した。

１～５は木製品である。１～４は箸状、５は棒状である。

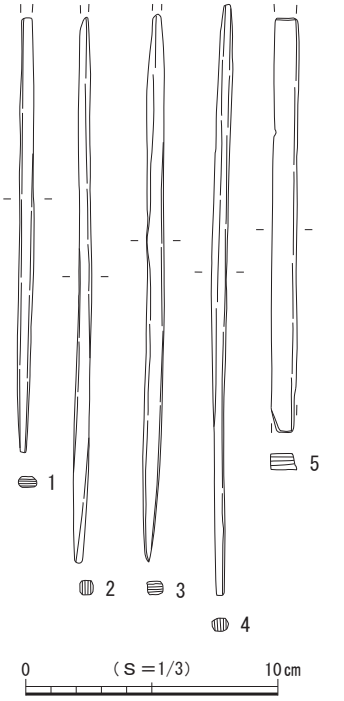


図20　第２面 土坑９出土遺物

土坑10（図21）

調査区の北西隅に位置する。他の遺構との重複は認められなかったが、北側と西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形ないし不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長80㎝、東西現存長55㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は18.88ｍを測る。

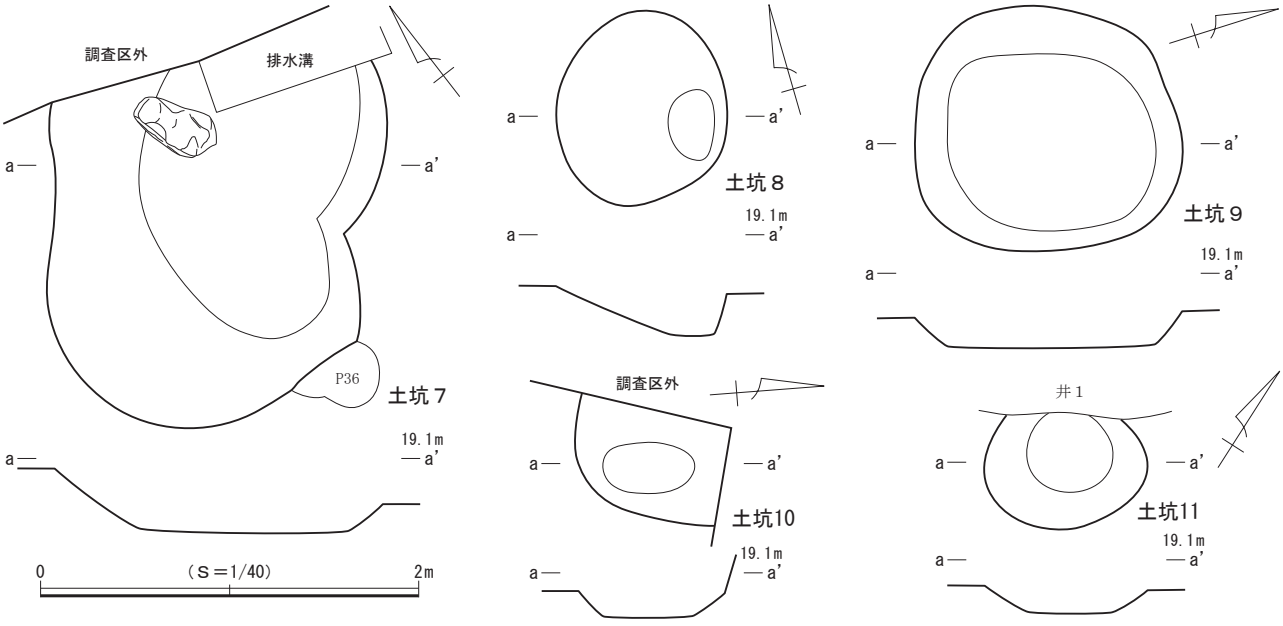


図21　第２面 土坑７～11

出土遺物（図22）

遺物はかわらけ７点、陶器１点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は木製品で棒状である。

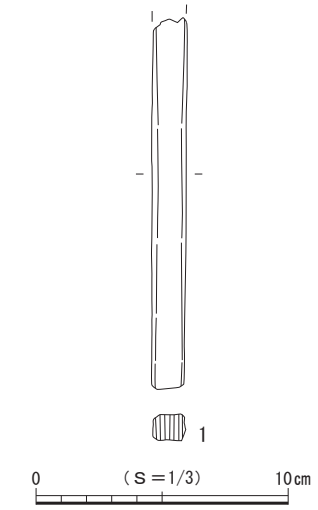


図22　第２面 土坑10出土遺物

土坑11（図21）

調査区の南西側に位置する。西側の壁と底面を第１面の井戸１によって壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸85cm、短軸現存長62cm、深さ14cmで、坑底面の標高は18.82mを測る。

遺物は出土しなかった。

（３）ピット

第２面では、10基を検出した。調査区中央に帯状に延びる整地面の西側と溝状遺構２の東側に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸32～58cm、深さ５～38cmを測る。10基のうち１基のピット（ピット32）に礎板が２枚据えられており、礎板の大きさは長さ16cmと幅４cm、長さ22cmと10cm、厚さはともに２cmほどで、上面の標高は18.42mと18.52mを測る。また、ピット33には礎石が据えられており、大きさは長さ18cm、幅14cm、上面の標高は18.39mを測る。なお、礎石や礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図23に図示した。

出土遺物（図24）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち６点を図示した。

１・２・４・５は木製品で、その中で１は漆製品となる。１は椀、２は独楽、４・５は箸状である。３・６は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。

１・２はピット34、３はピット35、４・５はピット37、６はピット38からそれぞれ出土した。

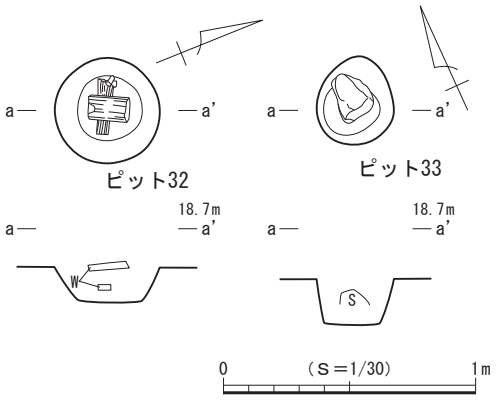


図23　第２面 ピット32・33

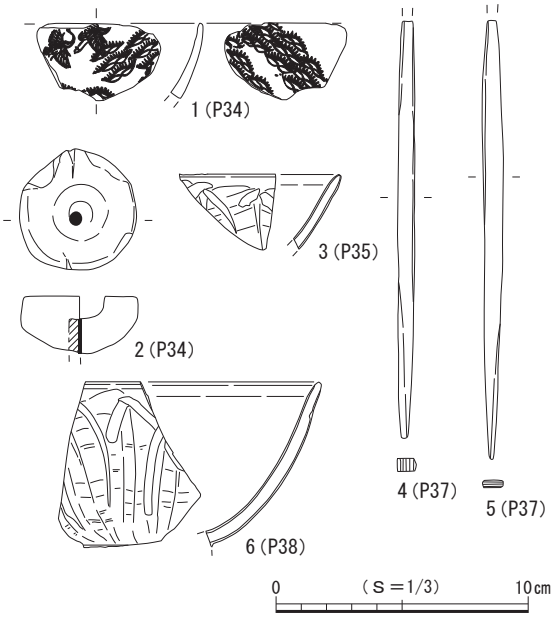


図24　第２面 ピット出土遺物

（４）第２面 遺構外出土遺物（図25）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち21点を図示した。

１～10はロクロ成形によるかわらけで、３・５・６には口縁部から体部に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。11・12は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。13～16は龍泉窯系青磁である。13～15は碗で碗Ⅱ－ｂ類、16は坏で坏Ⅲ－３ｂ類に比定される。17・18は常滑産の陶器類である。17は甕で５～６ａ型式、18は片口で６ａ型式に比定される。19は銭貨で大観通寶（1107年初鋳）である。

20・21は木製品である。20は台、21（ａ～ｄ）は折敷である。

（５）第２面 構成土出土遺物（図26・27）

第２面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち17点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２・３は土師質・瓦質土器類の火鉢でＩＣ類に比定される。４は平瓦で永福寺Ｄ類に比定される。

５～17は木製品で、その中で５は漆製品となる。５は膳、６～11は箸状、12（ａ・ｂ）は鞘、13・14は草履芯、15は楔、16は串状、17は用途不明である。

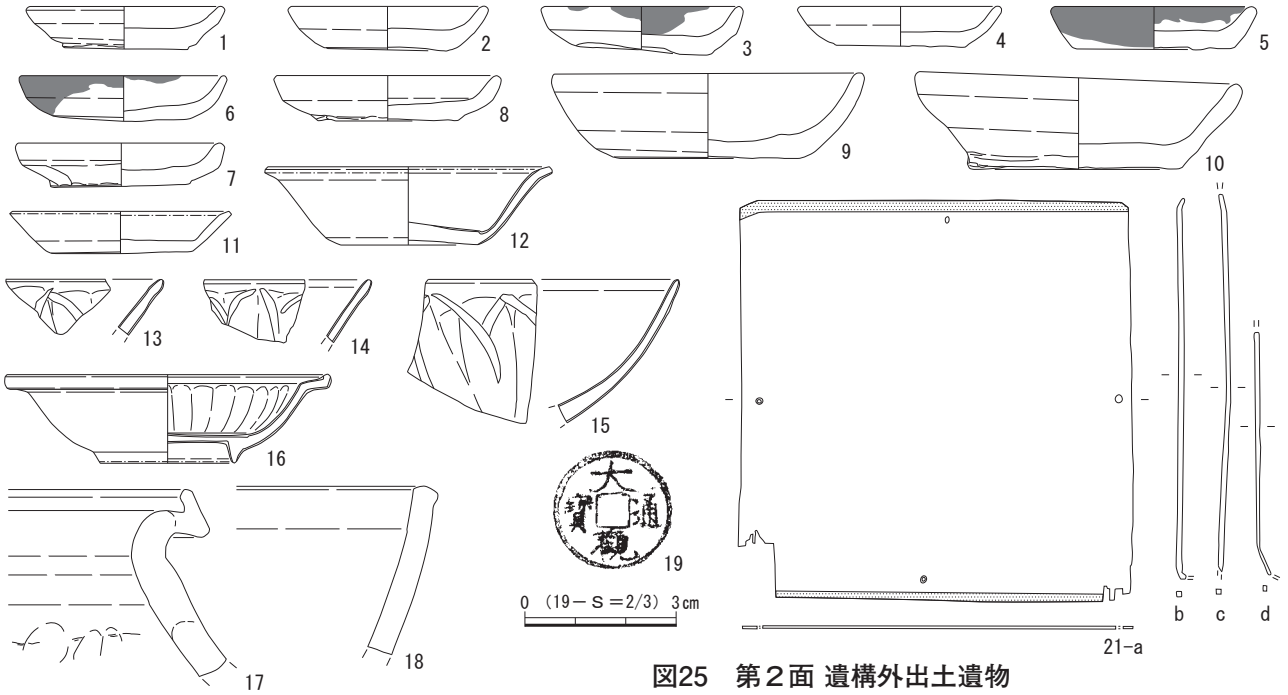


図25　第２面 遺構外出土遺物

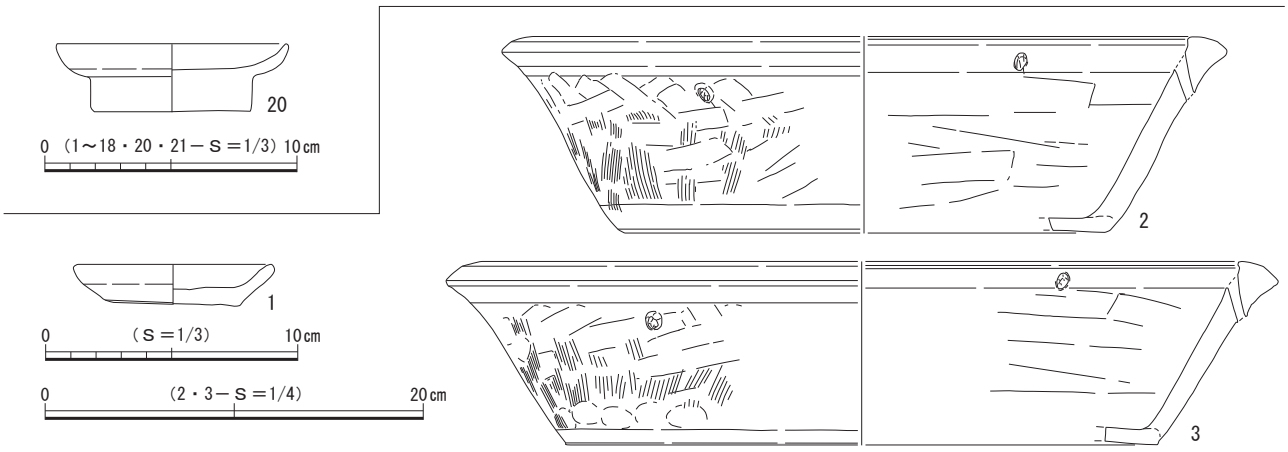


図26　第２面 構成土出土遺物（１）

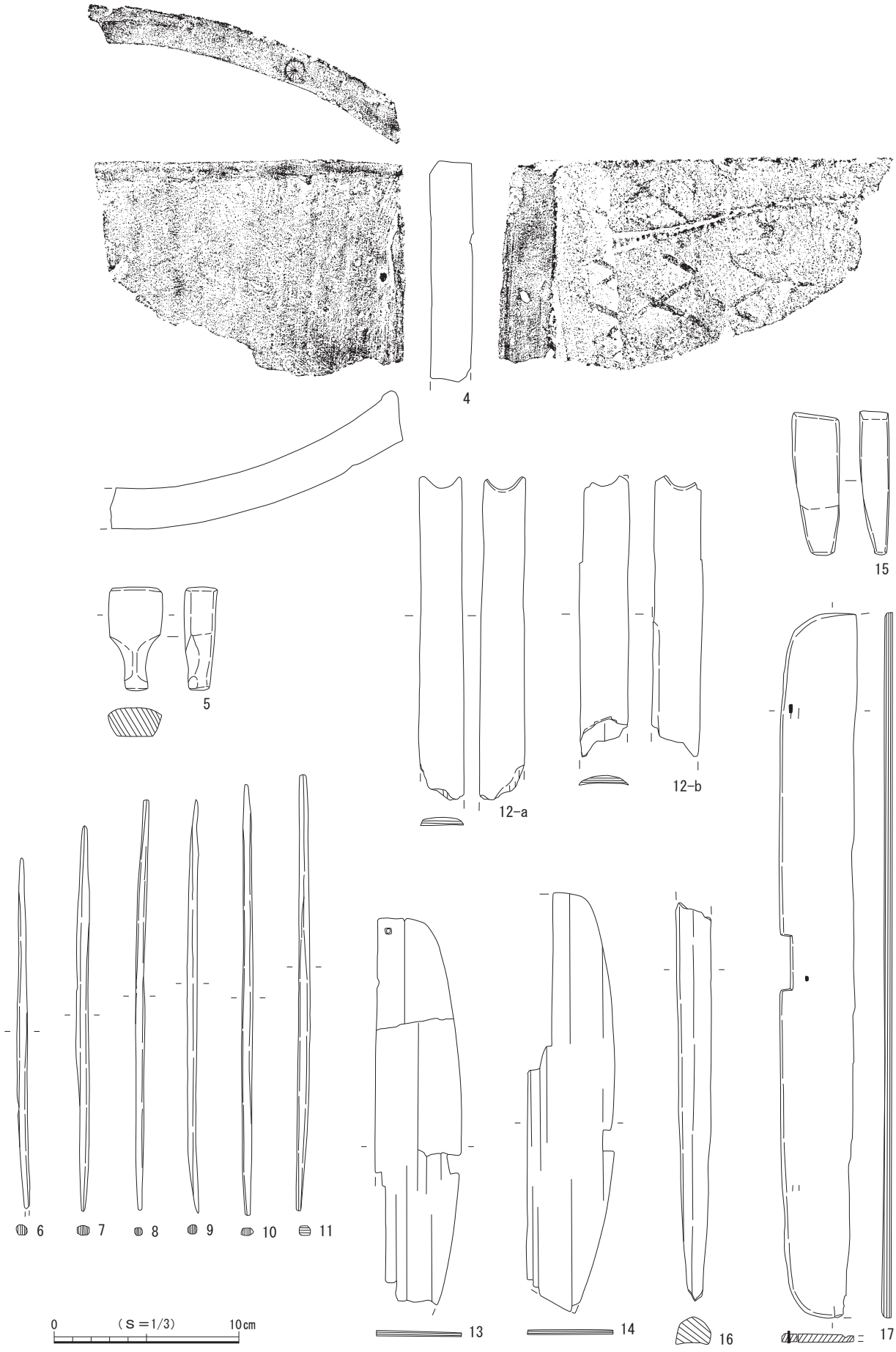


図27　第２面 構成土出土遺物（２）

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の11・12層上面で検出した。確認面の標高は18.7～18.8ｍを測る。11・12層は凝灰岩を含む暗灰黄色ないし黄灰色の砂質土の締まりの強い整地層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構３条、石列１条、土坑３基、ピット９基である（図28）。調査区の中央と東側に平行する南北方向の溝状遺構２条が延びており、その西側に土坑やピットが疎らに分布していた。溝状遺構３の東側には木片の集中範囲が南北5.8ｍ、東西1.4ｍにわたって認められ、一方の西側には明瞭な整地面が広がっていた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、骨角製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構３（図29）

調査区の東側に位置する。調査区を直線的に南北方向に縦断して調査区外へと続いている。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。検出した規模は現存長約7.0ｍ、幅60～70㎝、深さ29㎝で、主軸方位はＮ－18°－Ｅを指す。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は

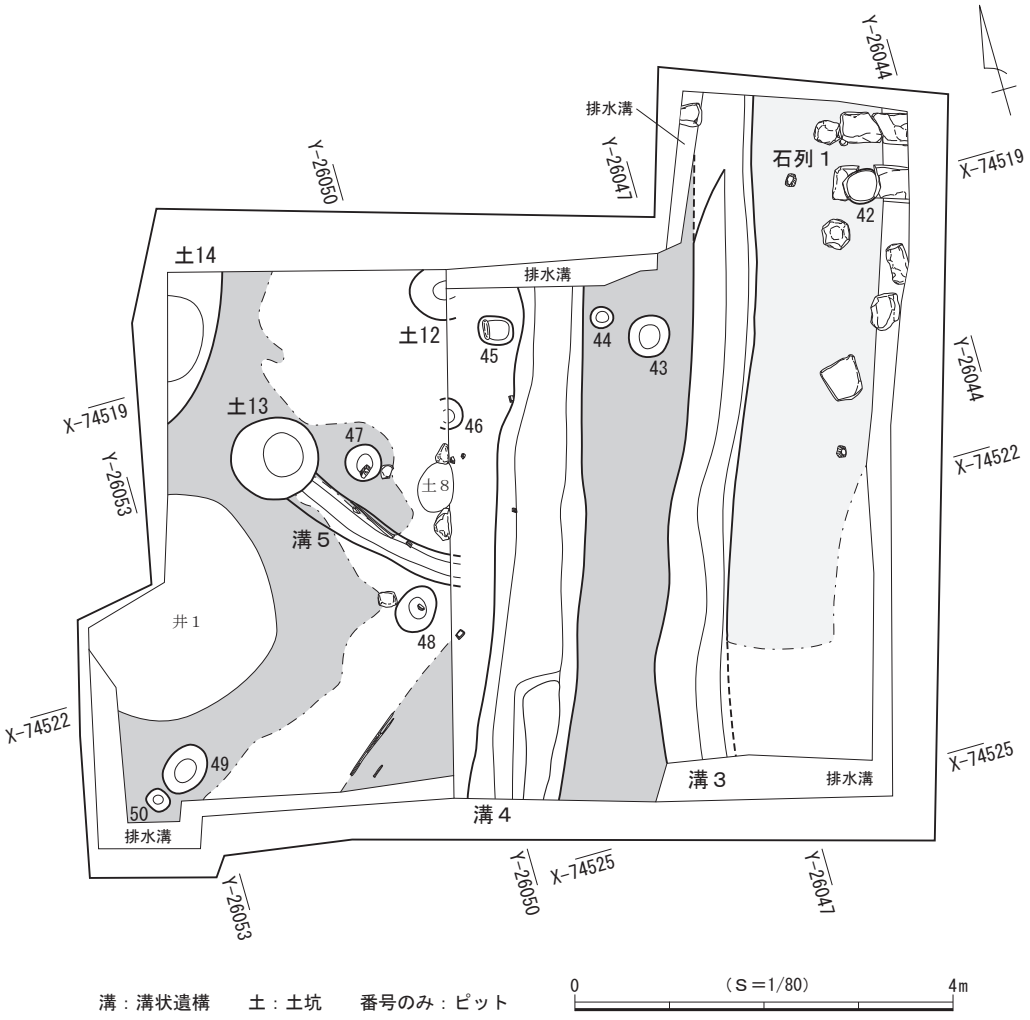


図28　第３面 遺構分布図

ほぼ平らで、標高は18.35m前後を測る。西側には本址と平行して延びる溝状遺構４が近接して検出されており、関連をもつ遺構の可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

溝状遺構４（図29）

調査区の中央に位置する。調査区を直線的に南北方向に縦断して調査区外へと続いている。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。検出した規模は現存長約5.4m、幅0.6～1.0m、深さ24cmで、主軸方位はＮ－18°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で18.44m、南側で18.55mを測り北側に向かって緩やかに傾斜する。東壁の南側に幅30cm程の段が作られ、調査区外へと続いている。東側には本址と平行して延びる溝状遺構３が近接して検出されており、関連をもつ遺構の可能性が考えられる。

出土遺物（図30）

遺物はかわらけ37点、陶器３点、木製品11点が出土し、このうち４点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２～４は木製品で、２は建築部材、３・４は用途不明である。

溝状遺構５（図29）

調査区西側の中央に位置する。緩やかに湾曲して延び、北西端部は土坑13によって壊されている。南東側は調査区の境にあたり様相が判然としなかった。検出した規模は現存長約1.9m、幅30～40cm、深さ12cmで、主軸方位は北側でＮ－35°－Ｗ、南側でＮ－62°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は18.65mを測る。北東壁の中央付近に長さ60cmほどの横板を杭で固

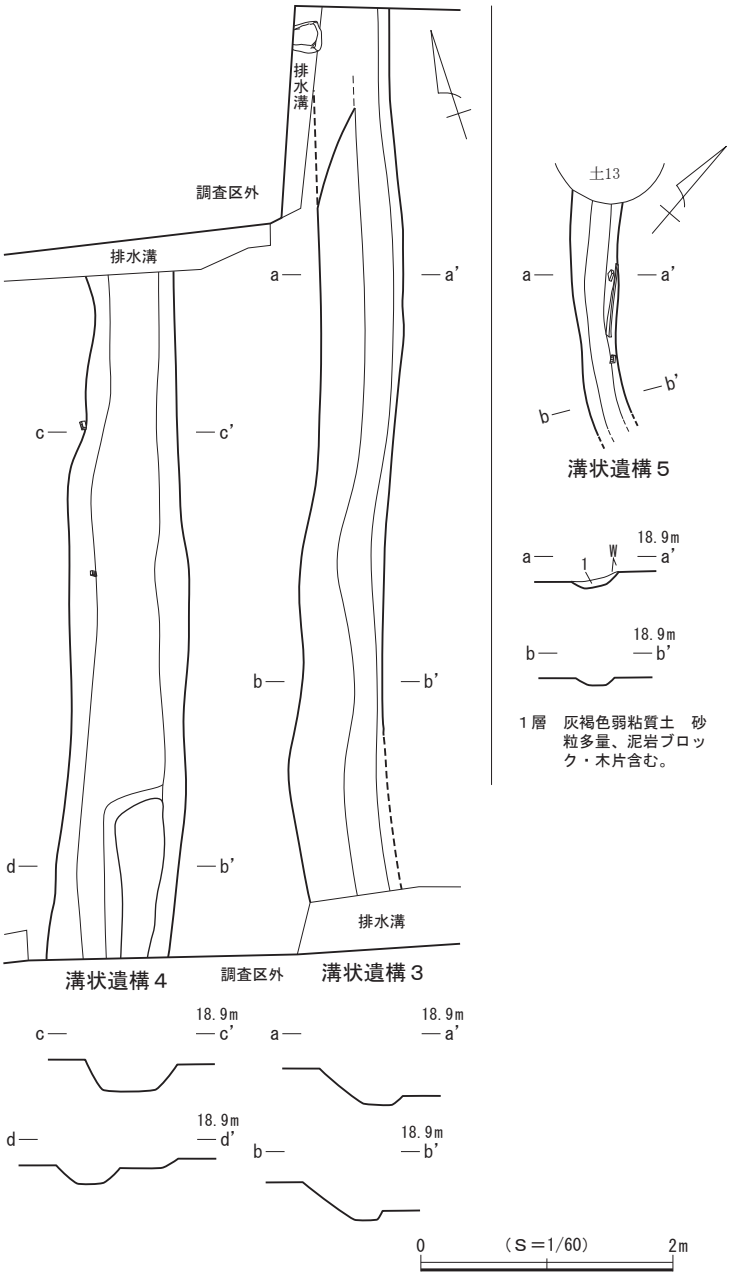


図29　第３面 溝状遺構３～５

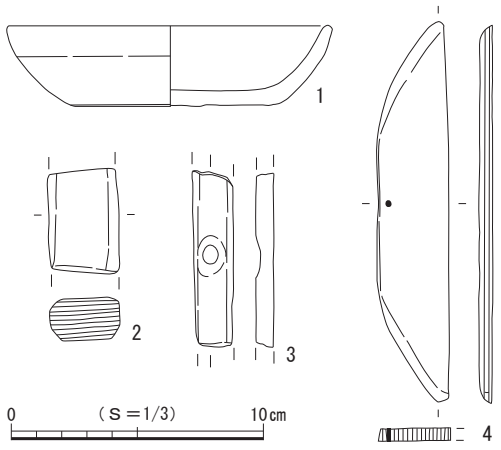


図30　第３面 溝状遺構４出土遺物

定した木組が検出され、護岸施設の一部と推定される。

遺物はかわらけ２点、石製品２点、木製品５点が出土した。

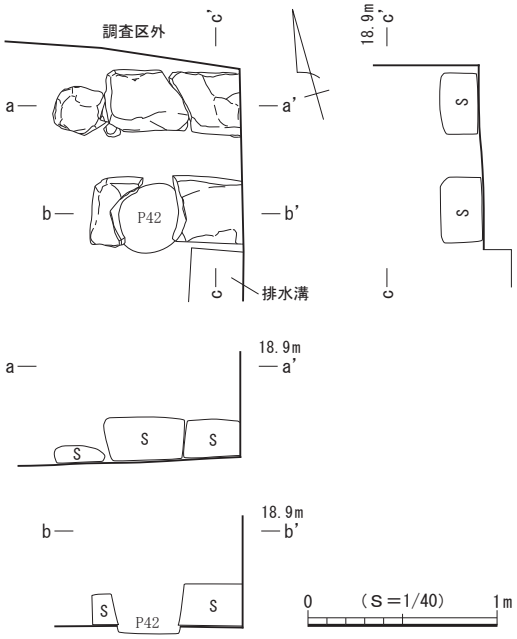


図31　第３面 石列１

（２）石　列

石列１（図31）

調査区の北東隅に位置する。南側でピット42と重複し、切石が円形状に刳り抜かれている。また、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。２列の石列が平行して東西方向に延びており、これを合わせて石列１とした。検出された規模は現存長約1.0m、幅93cm、石列の間隔は約20cmで、主軸方位はＮ－75°－Ｗを指す。切石が用いられており、大きさは長さ26～42cm、幅23～38cm、高さ10～22cmを測る。切石上面の標高は18.64m前後にほぼそろうが、北列の西端のみ18.50mと低くなる。本址は溝状遺構３・４と直行する向きで作られており、関連をもつ可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

（３）土　坑

土坑12（図33）

調査区北壁際の西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、調査区の境で検出されたため東半が判然とせず、また北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形ないし略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長53cm、東西現存長39cm、深さ14cmで、坑底面の標高は18.56mを測る。

出土遺物（図32）

遺物は木製品１点が出土し、それを図示した。

１は箸状である。

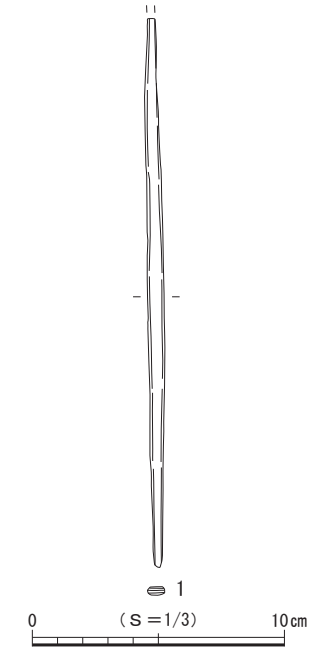


図32　第３面 土坑12出土遺物

土坑13（図33）

調査区の西側に位置する。南側で溝状遺構５と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は直径91cm、深さ18cmで、坑底面の標高は18.67mを測る。

遺物はかわらけ14点、木製品６点が出土した。

土坑14（図33）

調査区の北西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、北側と西側が調査区外へと続いており全容を把握

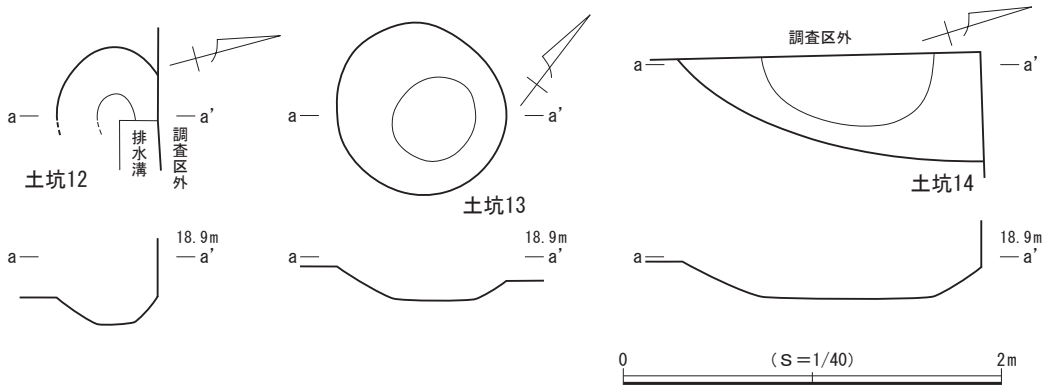


図33　第３面 土坑12～14

できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長1.60ｍ、東西現存長57㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は18.69ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

（４）ピット

第３面では、９基を検出した。調査区北東側から南西側にかけてごく疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形のものが多く、方形も混在し、規模は長軸24～55㎝、深さ４～41㎝を測る。９基のうち１基のピット（ピット45）に礫が立てられた状態で出土したほか、２基のピット（ピット47・48）に柱が立てられた状態で出土した。礫の大きさは長さ22㎝、幅６㎝、高さ18㎝、柱は幅と厚さがそれぞれ10㎝と５㎝、８㎝と２㎝である。なお、礫や柱が検出されたピットについては個別図を作成し、図34に図示した。

出土遺物（図35）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち３点を図示した。

１・３は木製品で、１は草履芯、３は曲物である。２はロクロ成形によるかわらけである。

１はピット47、２・３はピット48からそれぞれ出土した。

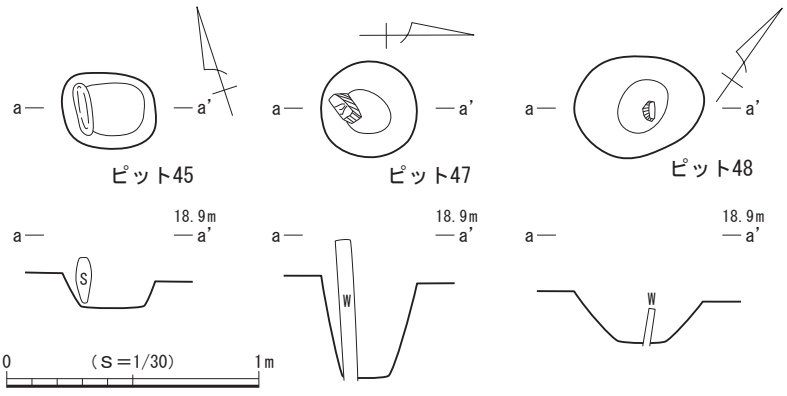


図34　第３面 ピット45・47・48

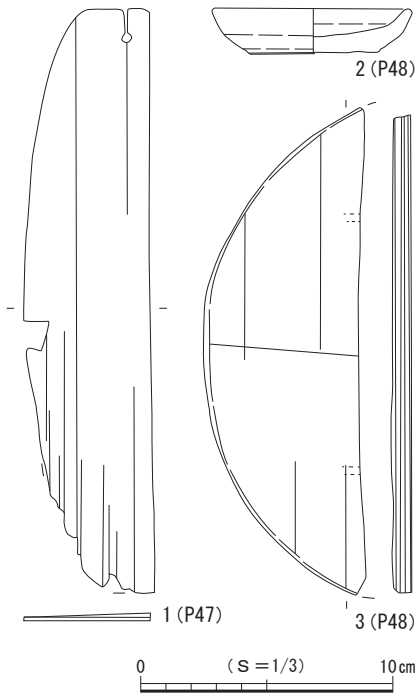


図35　第３面 ピット出土遺物

（５）第３面 遺構外出土遺物（図36～39）

第３面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち74点を図示した。

１～15はロクロ成形によるかわらけで、１・３には口縁部に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。16は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。17～19は龍泉窯系青磁碗で、17・18は碗Ⅱ－ｂ類、19は碗Ⅲ－３類に比定される。20は青白磁の合子蓋である。21は産地不明の山皿である。22は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５型式に比定される。23は平瓦で永福寺Ｄ類に比定される。24は温石である。25は骨角製品の野沓である。

26～74は木製品で、その中で26～32は漆製品となる。26～29は皿、30・31は椀、32は櫛、33～43は箸状、44～46は折敷・経木折敷、47～50は曲物、51は調度具、52～55は草履芯、56は火きり棒、57は織機具、58は建築部材、59・60は篦状、61は棒状、62～67は串状、68～74は用途不明である。

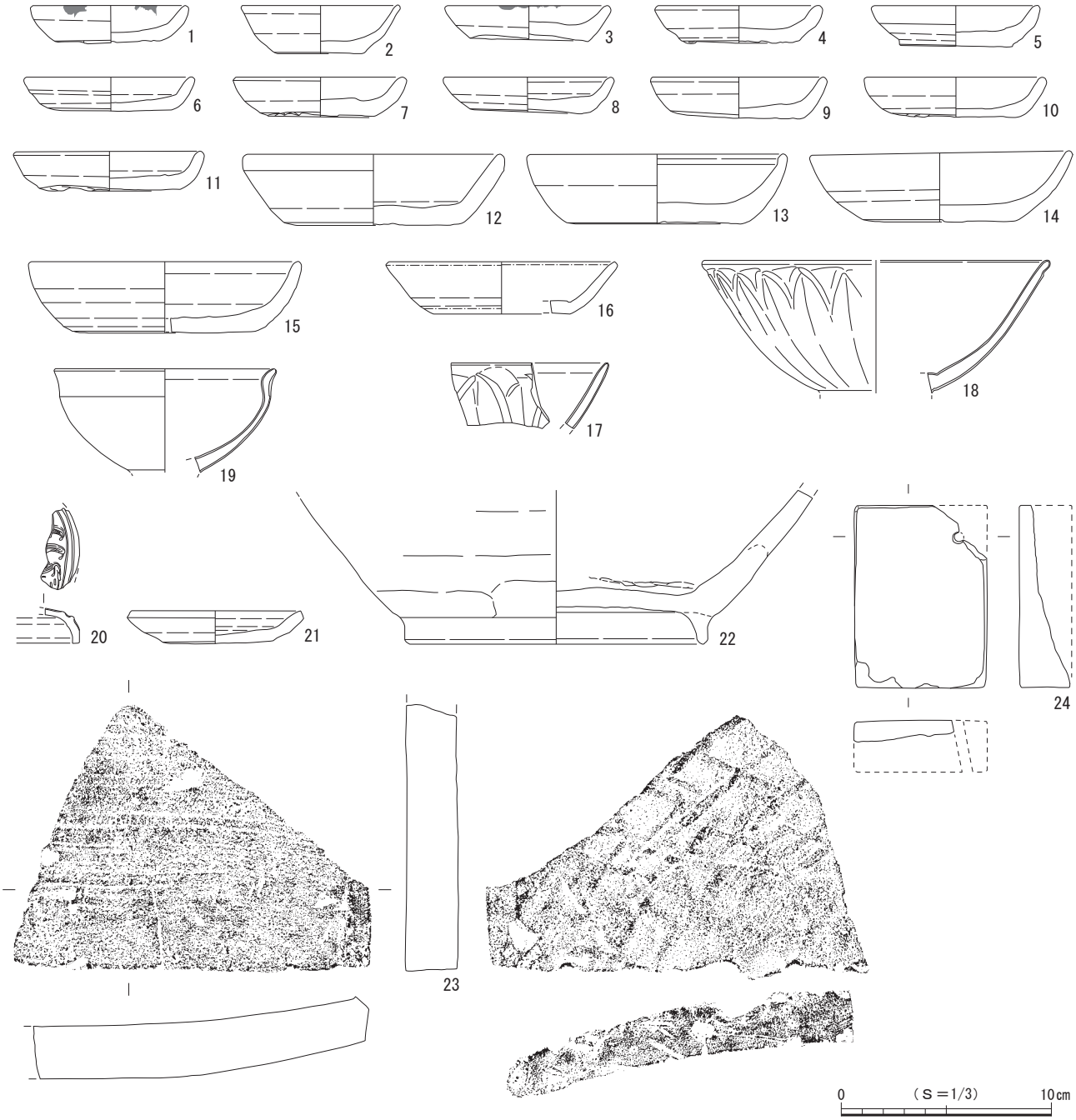


図36　第３面 遺構外出土遺物（１）

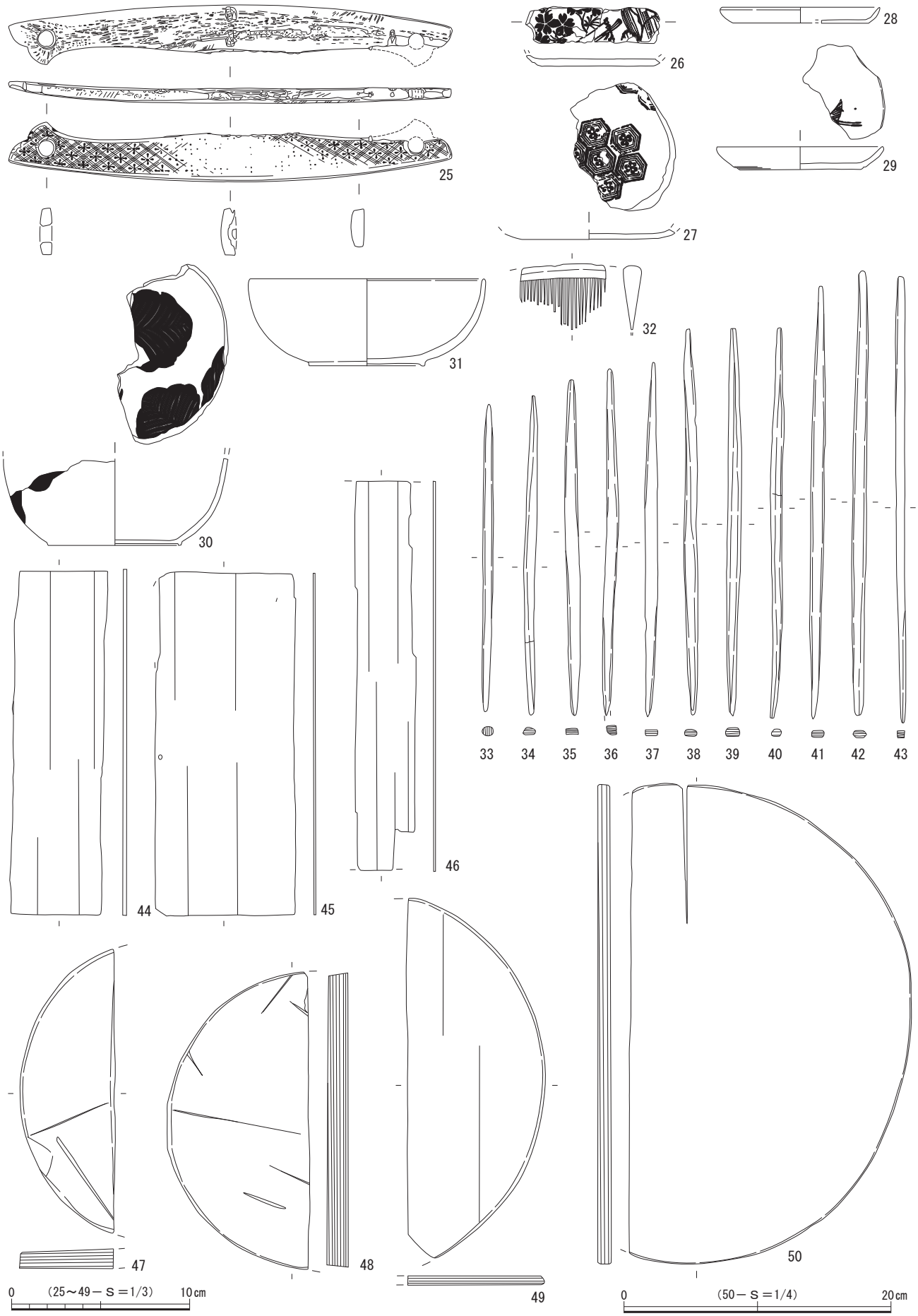


図37　第３面 遺構外出土遺物（２）

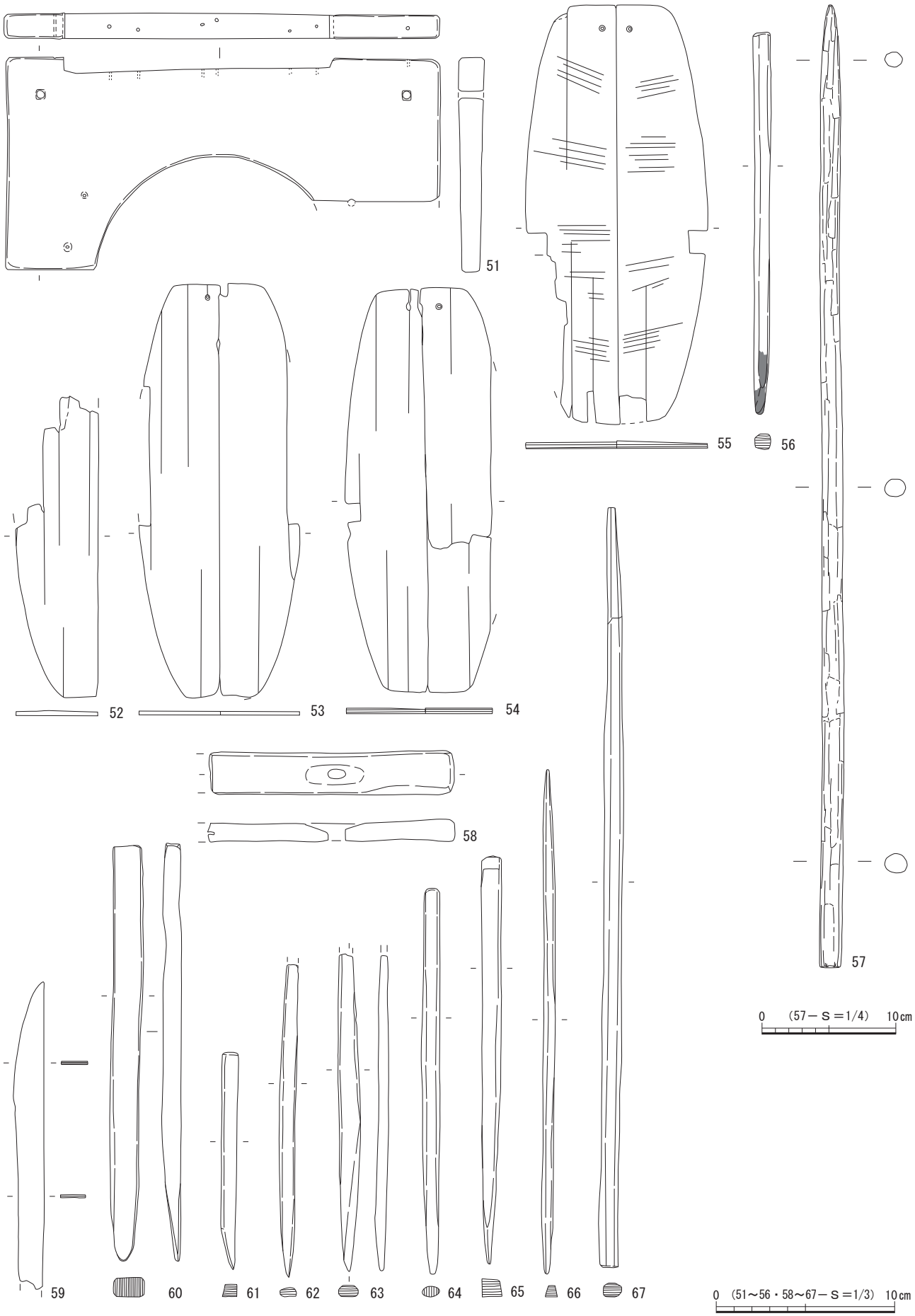


図38　第３面 遺構外出土遺物（３）

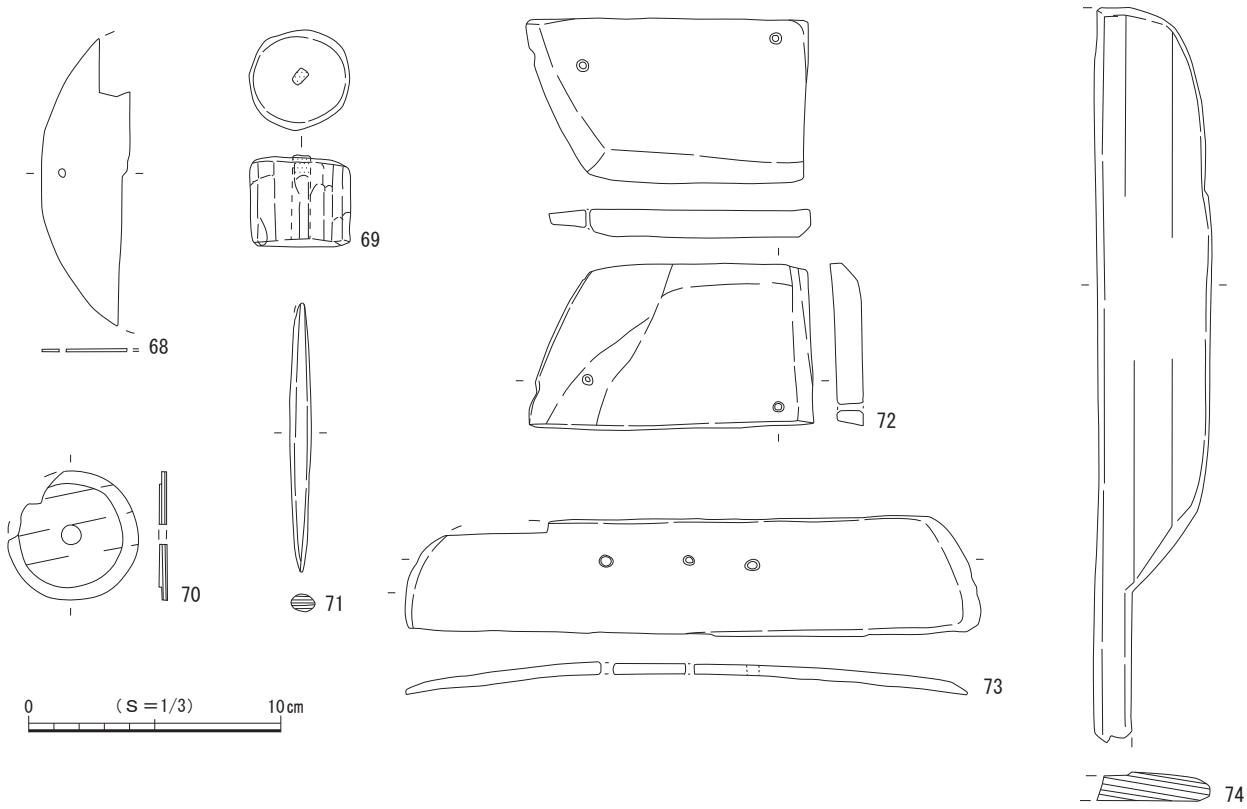


図39　第３面 遺構外出土遺物（４）

（６）第３面 構成土出土遺物（図40・41）

第３面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち30点を図示した。

１～７はロクロ成形によるかわらけで、１・４には口縁部に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。８は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。９は龍泉窯系青磁碗でⅡ－ｂ類に比定される。10は青白磁梅瓶蓋である。11は中国産陶器の黄釉盤である。12は渥美産の甕で２ａ～２ｂ類に比定される。13は平瓦で多量の離砂が付着している。

14～30は木製品で、その中で14・15は漆製品となる。14・15は皿、16～23は箸状、24は火きり棒、25は円盤状、26は篦状、27～29は串状、30は形代である。

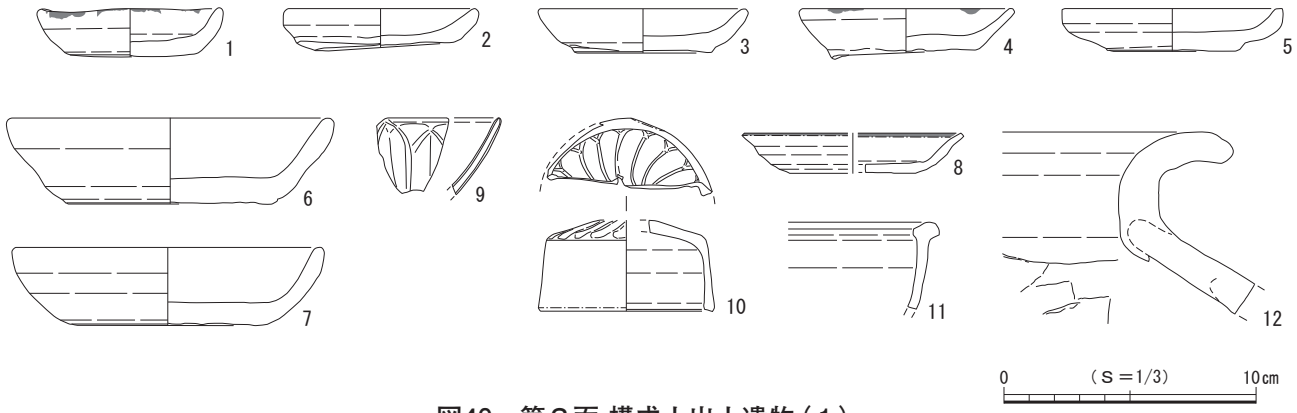


図40　第３面 構成土出土遺物（１）

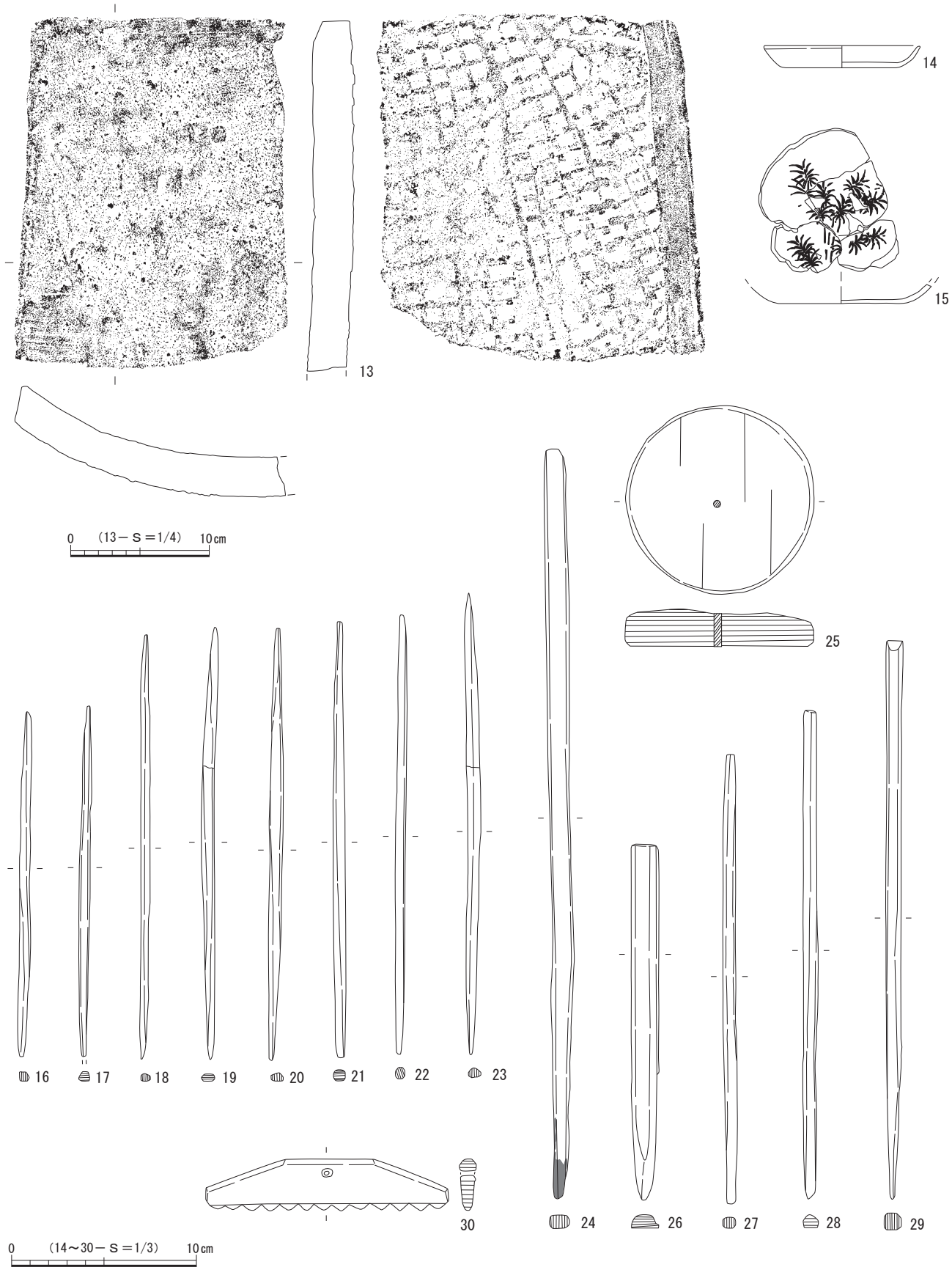


図41　第３面 構成土出土遺物（２）

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の14～17層上面で検出した。確認面の標高は約18.6ｍを測る。14層は多量の泥岩ブロック・凝灰岩ブロック・木片を含み締まりの強い暗青灰色砂質土層、15層は暗灰黄色砂質土を主体とした凝灰岩粒による非常に締まりの強い整地層、16層は粘土を主体とした暗黒灰色粘質土層、17層は粘土を主体とし、少量の黒色粘土・炭化物・木片を含み締まりの弱い黒褐色粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎板建物１棟、溝状遺構３条、土坑９基、ピット73基である（図42）。調査区の南東半に礎板建物が展開し、北西半には溝状遺構や土坑、ピットが分布しており、遺構密度がきわめて高く遺構間の重複も顕著に認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、骨角製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉頃に属すると考えられる。

（１）礎板建物

礎板建物１（図43）

調査区の南西側から北東側にかけて位置する。建物の広がりを柱穴配置から推定すると、北西側は調査区内に収まり、北東、南西、南東側は調査区外に展開する可能性が高い。本址は建物に伴う木質部が良好な状態で遺存しており、柱や壁体の様相をうかがうことができた。

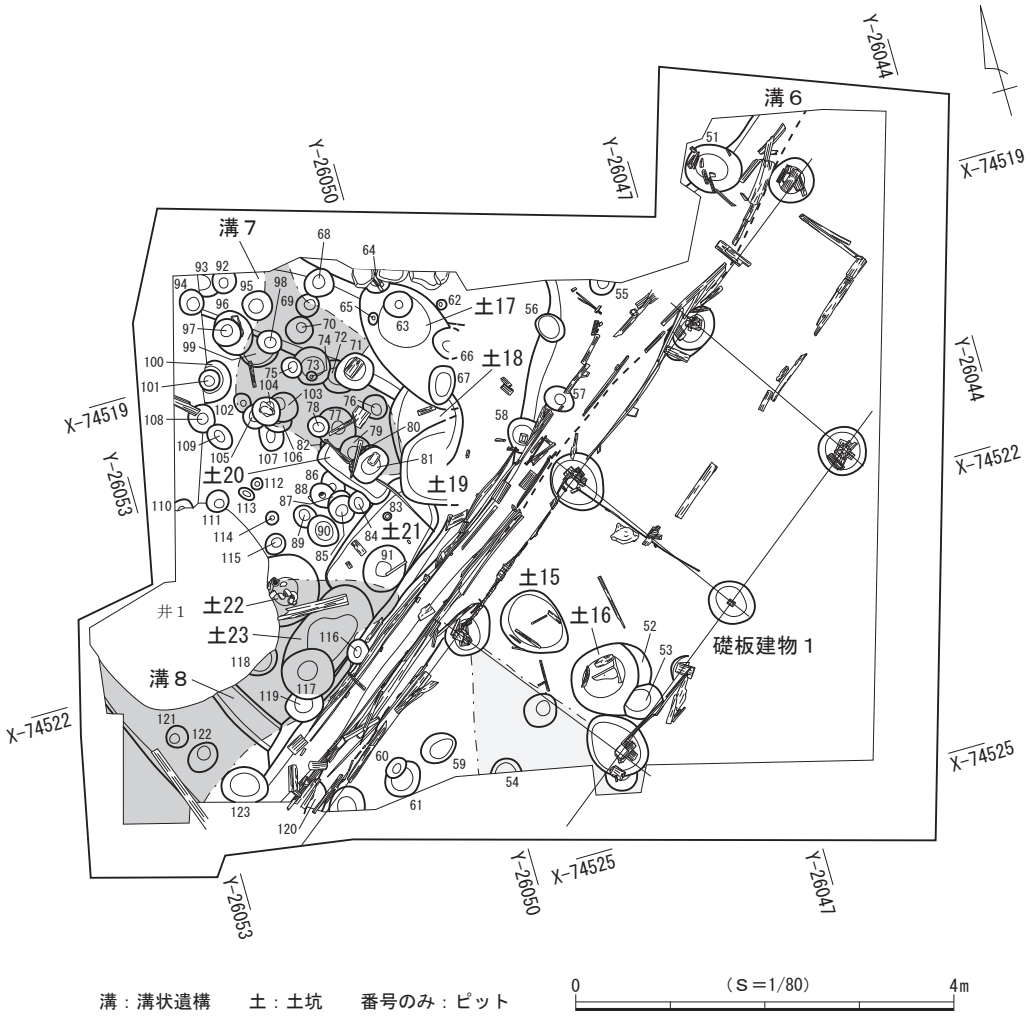


図42　第４面 遺構分布図

まず建物全体の構造について述べると、検出範囲での規模は現存長8.0m、現存幅2.1mを測り、北東－南西方向が４間以上、北西－南東方向が１間以上の大型の建物の一部と推測される。柱間寸法は北西列では北東側から1.8m、2.1m、2.0m、2.1m、南東列では2.0m等間で、北西－南東方向の柱間は2.1m等間となり、規格性が高い。Ｐ７とP10、Ｐ４とＰ９のほぼ中間位置からＰ８とP12が検出されており、柱間が約１mと狭いため補助的なピットと考えられる。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－53°－Ｅである。

建物の各ピットについて説明すると、調査区内では12本のピットを検出し、Ｐ５・Ｐ８・P12の３基を除くすべてのピットにおいて、礎板上に柱が立った状態で確認された。礎板は１枚のみが据えられているもの（Ｐ２・Ｐ４）と、２枚ないし３枚が重ねられているもの（Ｐ１・Ｐ３・Ｐ６～Ｐ９）とが認められた。礎板はピットの底面直上に据えられるものが多いが、Ｐ２のように底面から35cm上方の覆土上層に据えられているものも認められ、上面の標高は18.07～18.26mである。礎板の大きさは長さ15～22cm、幅７～15cm、厚さ２～７cmを測る。柱は方５～13cmの角材を用い、残存する長さは16～70cmで上面は切り取られていた。ピットの平面形は円形もしくは楕円形を呈し、規模は長軸33～73cm、深さ９～50cmである。ピット底面の標高は17.86～18.30mを測る。

壁体については、ピット北西列のＰ２からＰ５にかけて、柱と柱をつなぐように板壁が残存しており、規模は現存長約6.6mを測る。Ｐ２－Ｐ３とＰ４－Ｐ５の間は横板、Ｐ３－Ｐ４の間は縦板を打ち込む構造である。また、Ｐ３とＰ７間の

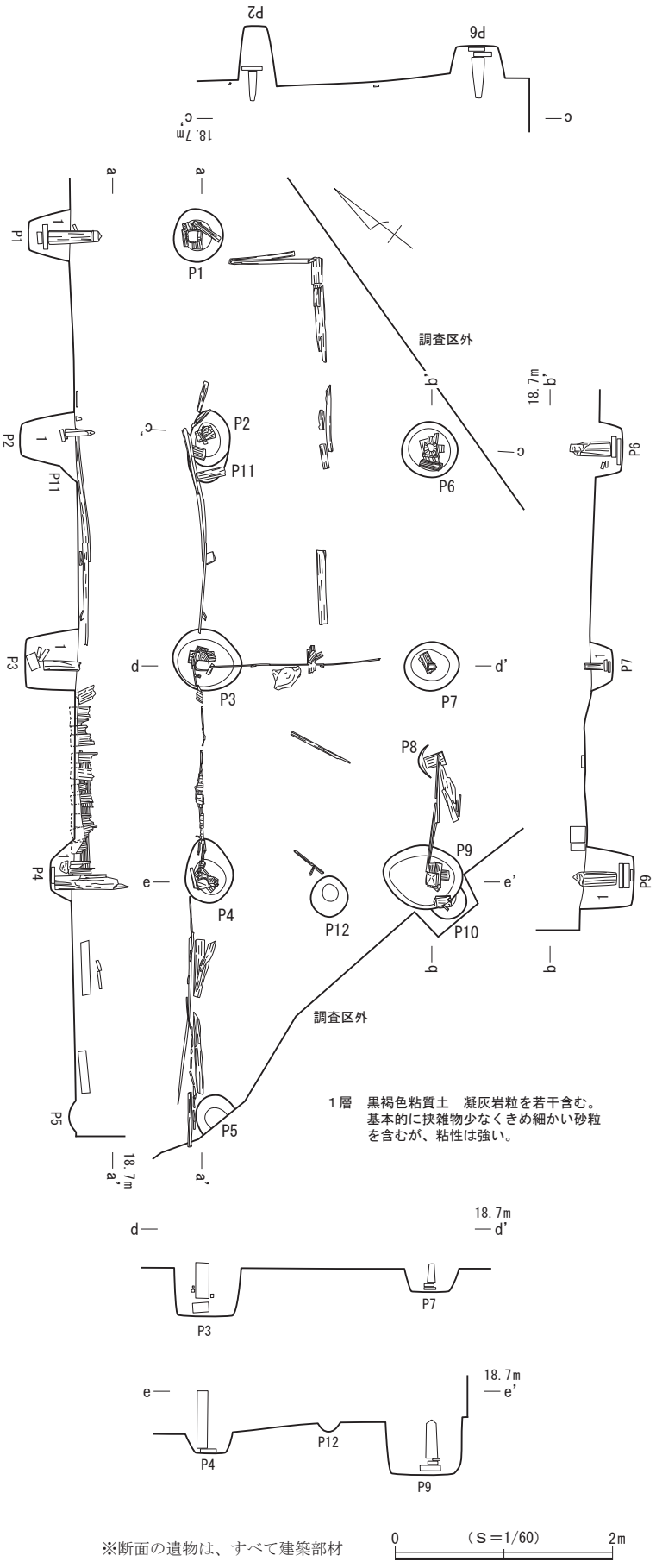


図43　第４面 礎板建物１

約1.6m、Ｐ８とＰ９間の約1.0mにも横板を打ち込み、北東側にはピットの北西列と南東列との中間に板材がＬ字状に配されており、間仕切りに関連する施設の一部と推定される。

なお、北西に面する北東－南西方向の柱穴列に近接して溝状遺構６が平行して延びており、本址と関連をもつ可能性が考えられる。

出土遺物（図44・45）

遺物はかわらけ108点、磁器１点、陶器13点、土師質・瓦質土器１点、瓦１点、木製品209点が出土し、このうち50点を図示した。

１～10はロクロ成形によるかわらけで、５には口縁部から内面に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。また、８の見込みには渦巻状の調整が認められる。

11～50は木製品で、その中で11・12は漆製品となる。11は皿、12は椀、13～37は箸状、38は折敷、39は曲物、40は扇、41は鞘、42は草履芯、43・44は篦状、45は棒状、46は形代、47～49は礎板、50は用途不明である。

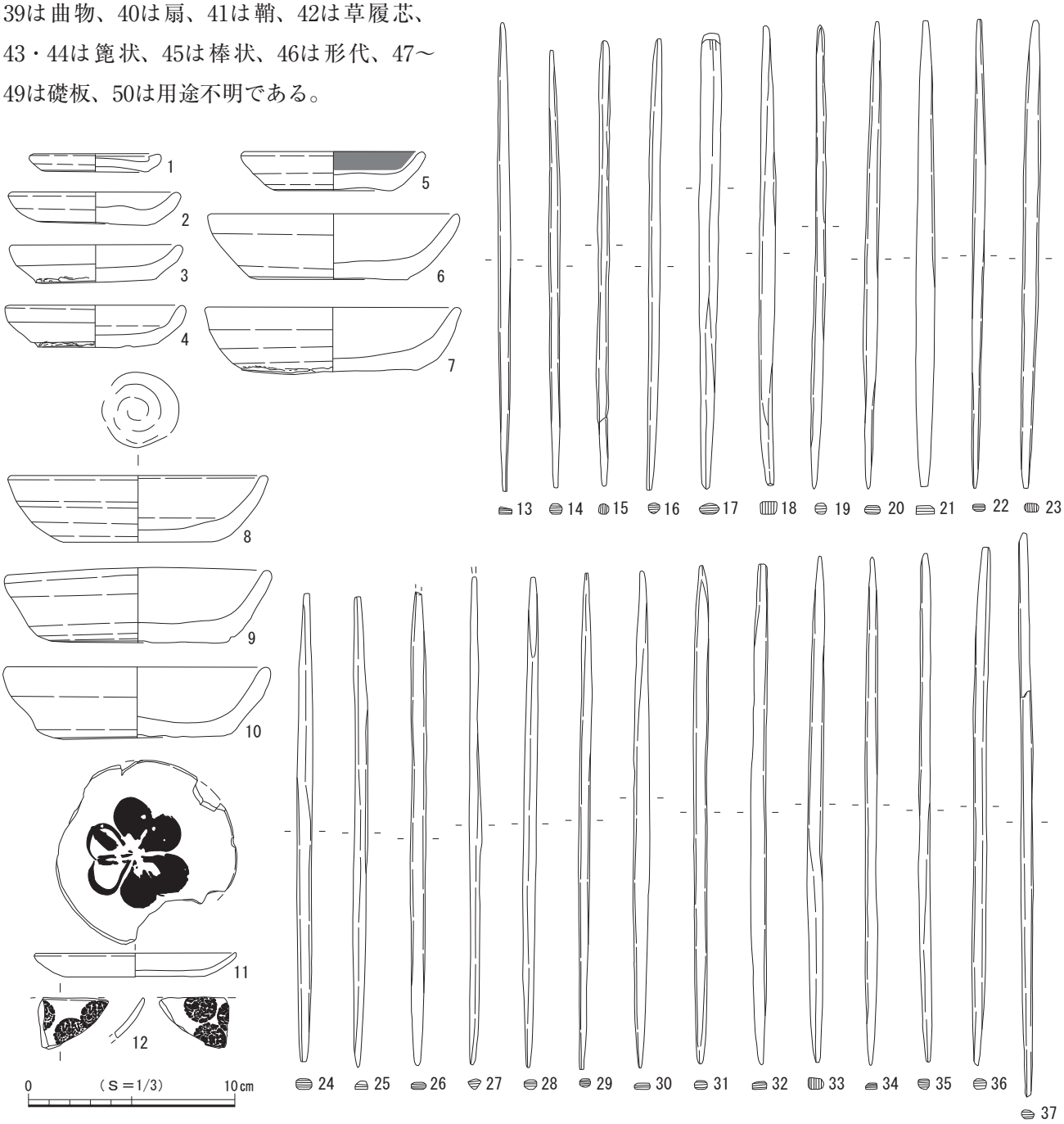


図44　第４面 礎板建物１出土遺物（１）

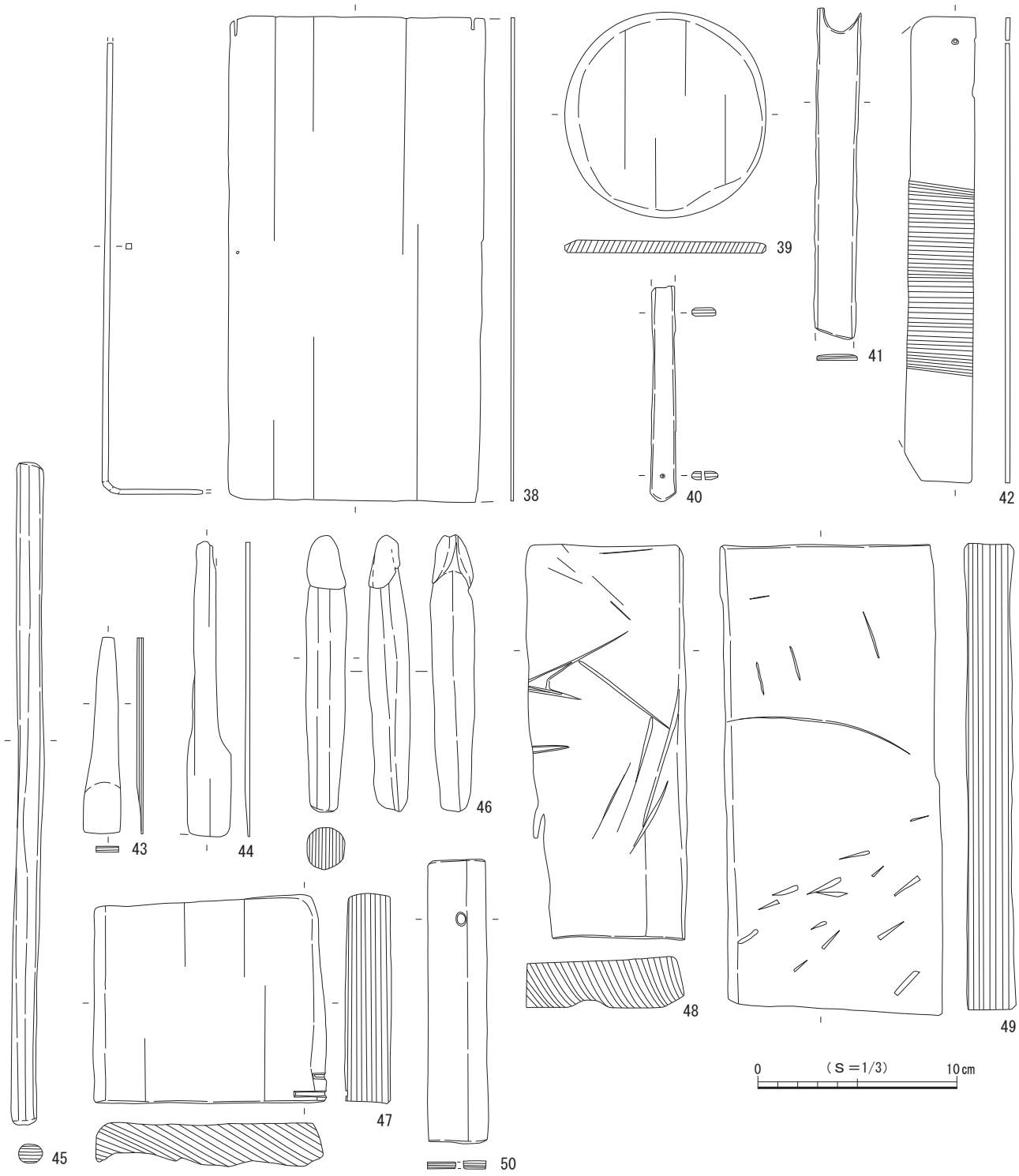


図45　第４面 礎板建物１出土遺物（２）

（２）溝状遺構

溝状遺構６（図47）

調査区の北東側から南西側にかけて位置する。調査区を直線的に北東－南西方向に縦断して調査区外へと続き、北東側で分岐して北西側にも延びている。調査区内ではピット51・55～57・123と重複して壁と底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約9.0m、幅40～50㎝、深さ20～25㎝で、主軸方位はＮ－53°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。両側の壁面に遺存

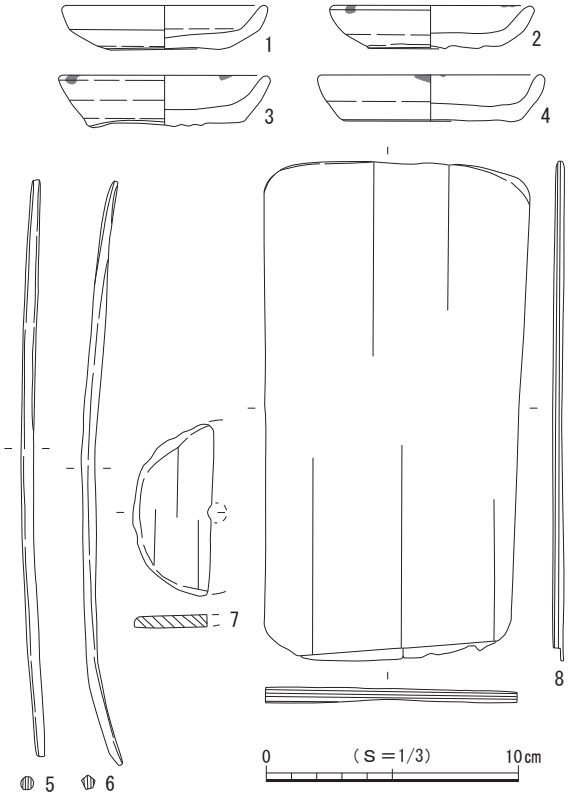


図46　第４面 溝状遺構６出土遺物

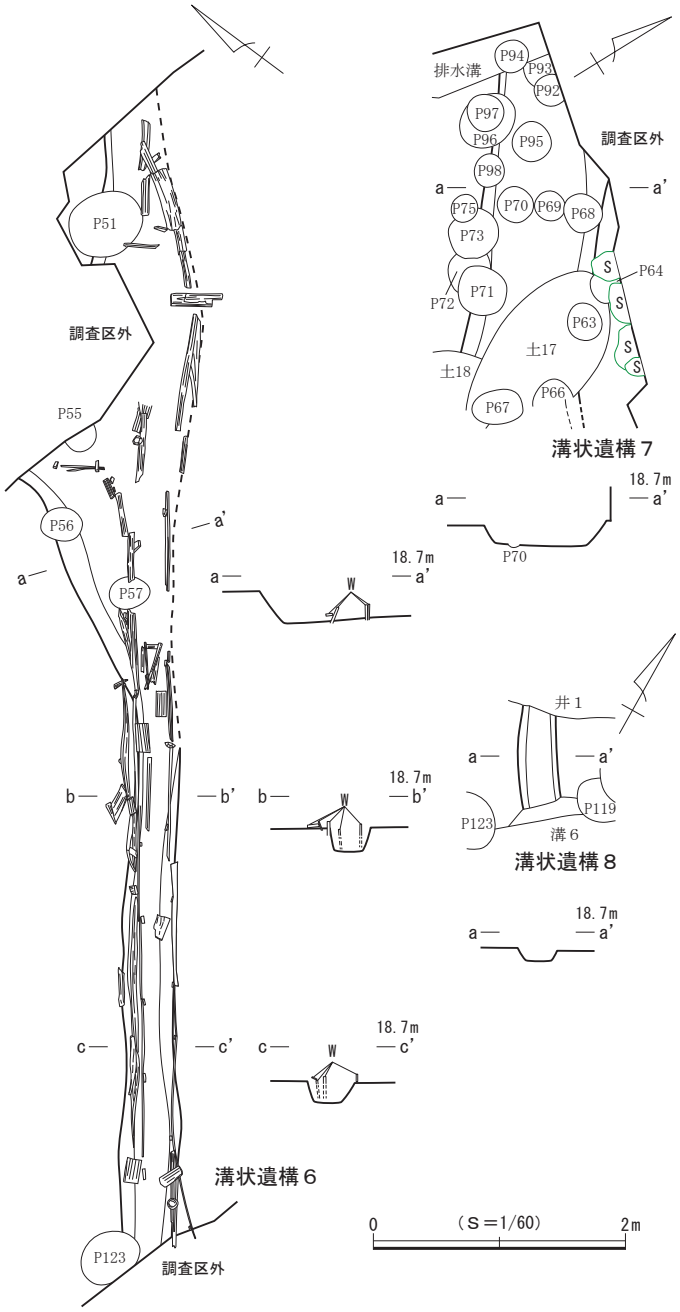


図47　第４面 溝状遺構６～８

状態の良好な木組の護岸を伴っていた。木組は長さ80～90㎝の横板を杭で固定する構造で、杭は60～70㎝間隔で打ち込まれていた。分岐して北西側に延びる部分にも同様の木組の残存が認められた。底面の標高は北東側で18.35m、南西側で18.29mを測る。

なお、本址は礎板建物１の柱穴列に沿って延びており、同建物に付随する排水施設の可能性が考えられる。

出土遺物（図46）

遺物はかわらけ43点、陶器13点、木製品40点が出土し、このうち８点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけであり、２～４の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

５～８は木製品である。５・６は箸状、７・８は用途不明である。

溝状遺構７（図47）

調査区の北西側に位置する。やや湾曲して調査区を北西－南東方向に縦断して調査区外の北側へと続き、南側は土坑17・18と重複して壊され判然としない。また、ピット68～73・92～98と重複して底面や壁を壊されている。検出した規模は現存長約2.2m、幅1.0m、深さ20㎝で、主軸方位はＮ－51°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は18.35mを測る。

遺物はかわらけ１点が出土した。

溝状遺構８（図47）

調査区の南西側に位置する。北側で第１面の井戸１、南側で溝状遺構６と重複して壊され、ごく一部の調査にとどまる。わずかに湾曲して北西－南東方向に延び、検出した規模は現存長80㎝、幅30㎝、深さ11㎝で、主軸方位はＮ－32°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は18.48ｍを測る。

遺物はかわらけ14点が出土した。

（３）土　坑

土坑15（図51）

調査区中央の南側に位置する。礎板建物１の範囲内で検出したが、新旧関係は判然としない。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸75㎝、短軸58㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は18.20ｍを測る。主軸方位はＮ－35°－Ｗを指す。

出土遺物（図48）

遺物はかわらけ２点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は木製品で蓋摘み部である。

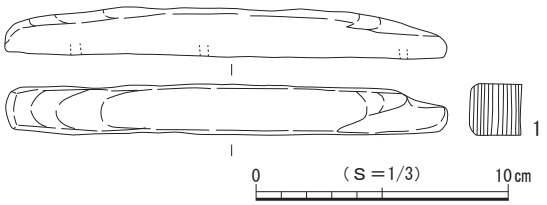


図48　第４面 土坑15出土遺物

土坑16（図51）

調査区中央の南側に位置する。礎板建物１の範囲内で検出したが、新旧関係は判然としない。東側でピット52・53と重複して壊している。平面形は不整円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は直径75㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は18.27ｍを測る。

出土遺物（図49）

遺物はかわらけ６点、木製品７点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２は木製品で、１は草履芯、２は調度具である。

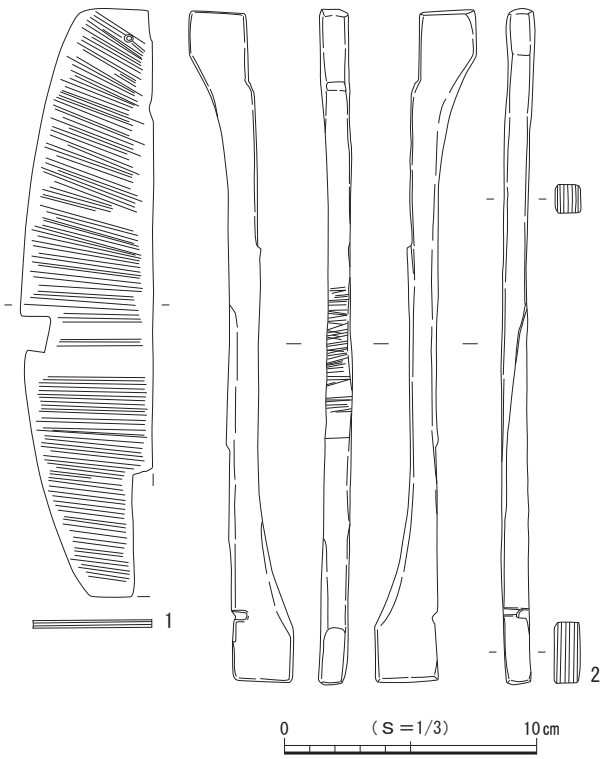


図49　第４面 土坑16出土遺物

土坑17（図51）

調査区の北西側に位置する。南側で溝状遺構７、土坑18と重複して壊し、ピット63～67と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると長楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現

存長1.50m、短軸80cm、深さ19cmで、坑底面の標高は18.41mを測る。主軸方位はN－22°－Wを指す。

出土遺物（図50）

遺物はかわらけ19点、磁器２点、骨角製品１点、木製品18点が出土し、このうち６点を図示した。

１は白磁碗で白磁碗Ⅸ類に比定される。２は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。３は骨角製品で笄である。

４～６は木製品である。４は箸状、５は杭、６は串状である。

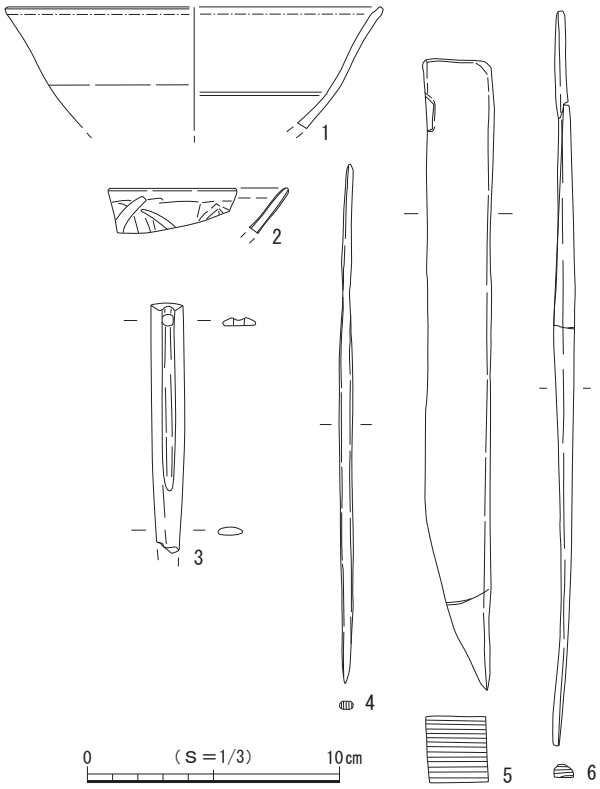


図50　第４面 土坑17出土遺物

土坑18（図51）

調査区の北西側に位置する。北側で土坑17とピット67、南側で土坑19と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.06m、短軸76cm、深さ22cmで、坑底面の標高は

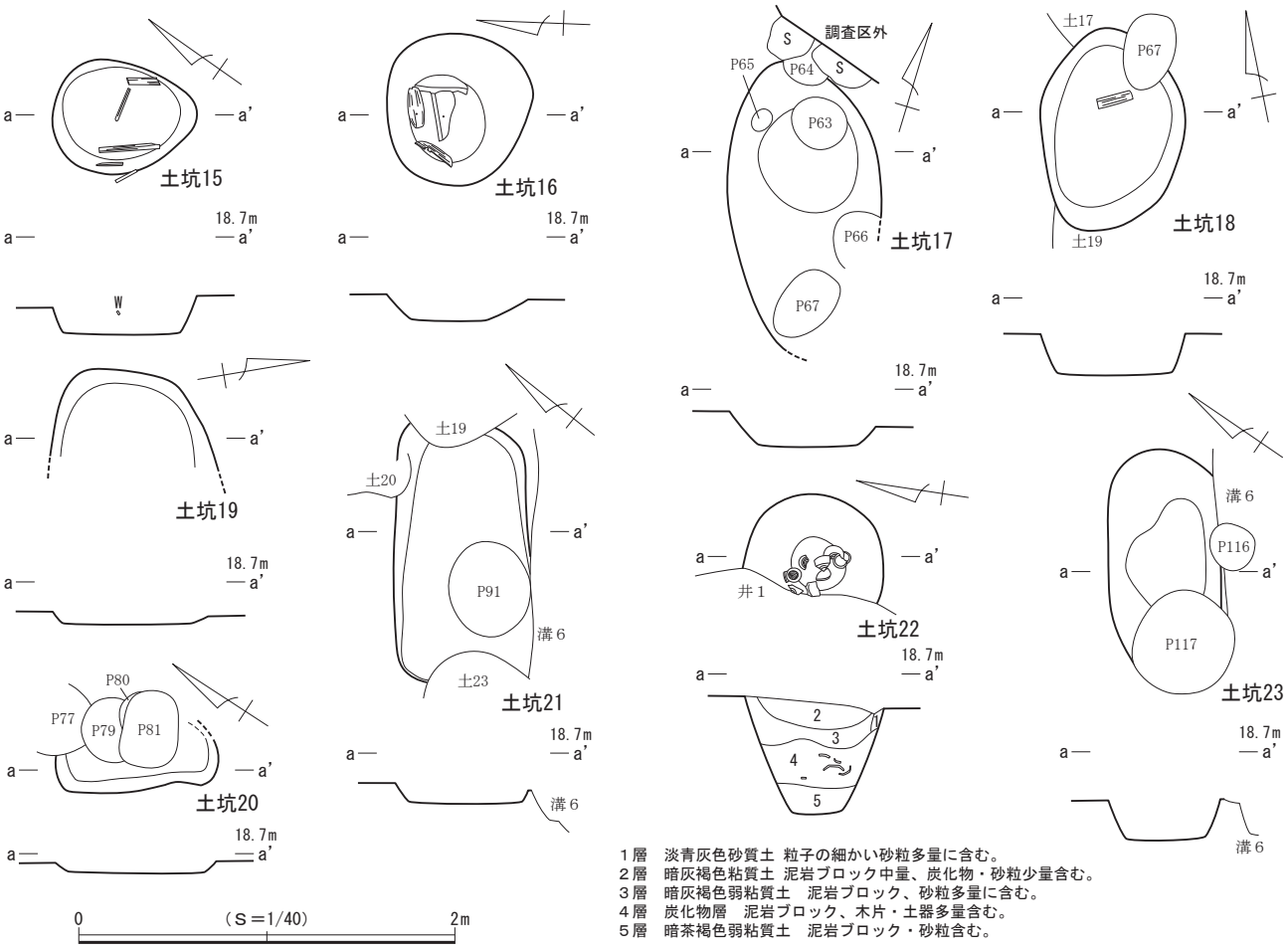


図51　第４面 土坑15～23

18.31ｍを測る。主軸方位はＮ－18°－Ｅを指す。

出土遺物（図52）

遺物はかわらけ１点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は木製品で礎板である。

土坑19（図51）

調査区中央の北側に位置する。北側で土坑18、南側で土坑21と重複して壊し、調査区の境で検出されたため東半が判然としなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長85㎝、東西現存長50㎝、深さ６㎝で、坑底面の標高は18.48ｍを測る。主軸方位はＮ－15°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑20（図51）

調査区の北西側に位置する。東側でピット77・79・80・81と重複して壁と底面が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸86㎝、短軸現存長20㎝、深さ６㎝で、坑底面の標高は18.60ｍを測る。主軸方位はＮ－35°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑21（図51）

調査区中央の西側に位置する。土坑19・20・23、溝状遺構６、ピット91と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.34ｍ、短軸現存長70㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は18.44ｍを測る。主軸方位はＮ－53°－Ｅを指す。

出土遺物（図53）

遺物はかわらけ１点、木製品２点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２は木製品で、１は建築部材、２は礎板である。

土坑22（図51）

調査区の南西側に位置する。西側で井戸１と重複して壁と底面を壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定する

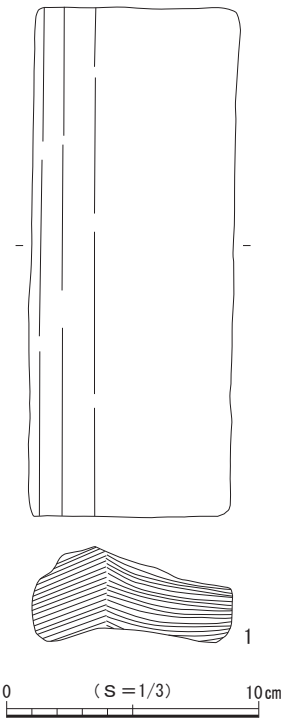


図52　第４面 土坑18出土遺物

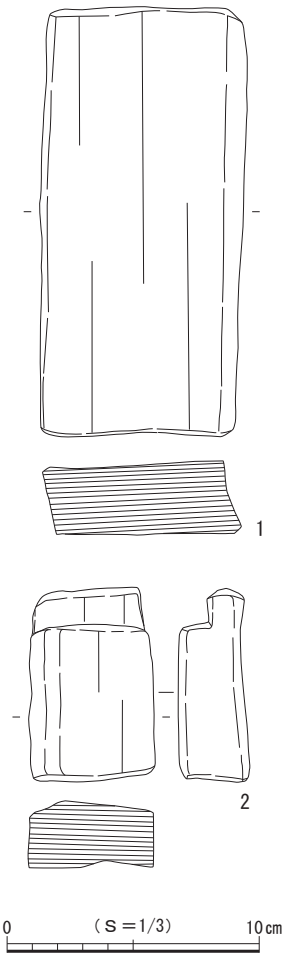


図53　第４面 土坑21出土遺物

と円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は直径74㎝、深さ64㎝で、坑底面の標高は17.95ｍを測る。

出土遺物（図54）

遺物はかわらけ57点、木製品23点が出土し、このうち５点を図示した。

１～５はロクロ成形によるかわらけである。

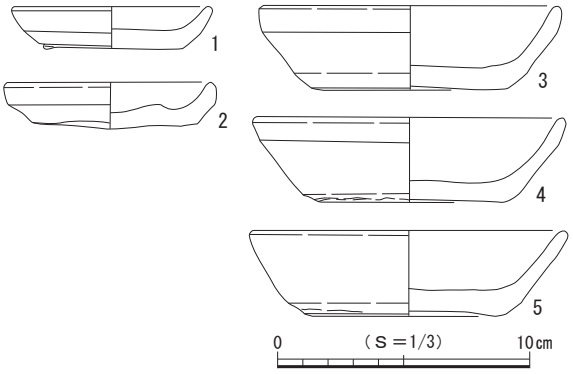


図54　第４面 土坑22出土遺物

土坑23（図51）

調査区の南西側に位置する。南東側で溝状遺構６とピット116、南西側でピット117と重複して壁と底面を壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると長楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.04ｍ、短軸58㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は18.23ｍを測る。主軸方位はＮ－54°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点、木製品１点が出土した。

（４）ピット

第４面では、73基を検出した。調査区の北西半に多くのピットが集中して分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基本とし、規模は長軸８～59㎝、深さ５～37㎝を測る。73基のうち１基のピット（ピット58）に柱が立てられた状態で出土し、柱の大きさは方10㎝を測る。また、ピット71に礎板、ピット104に礎石が据えられており、礎板の大きさは長さ20㎝、幅11㎝、厚さ２㎝、礎石の大きさは長さ16㎝、幅12㎝で、上面の標高は18.49ｍと18.67ｍを測る。なお、柱や礎板、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図55に図示した。

出土遺物（図56）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち２点を図示した。

１・２は木製品である。１は漆製品の椀、２は楔である。

１はピット61、２はピット100からそれぞれ出土した。

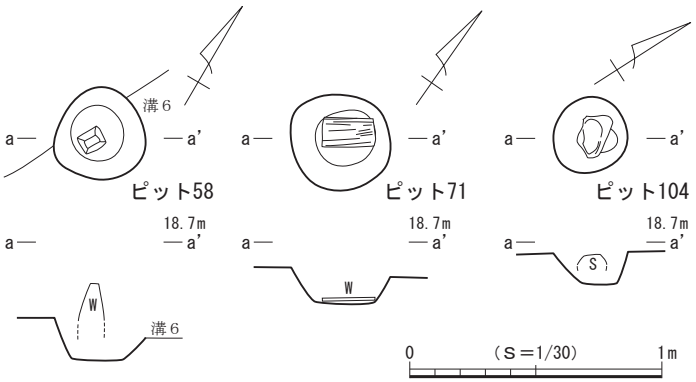


図55　第４面 ピット58・71・104

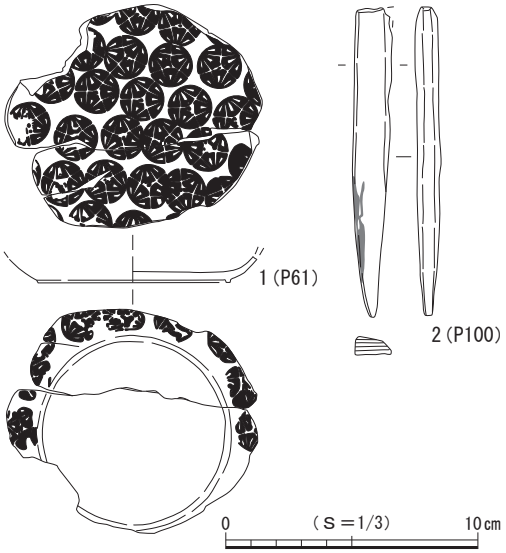


図56　第４面 ピット出土遺物

（５）第４面 遺構外出土遺物（図57・58）

第４面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち46点を図示した。

１～19はロクロ成形によるかわらけで、２・７・８・12には口縁部に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。また、16の見込みには渦巻き状の調整痕がみられる。20は同安窯系青磁皿で皿Ⅰ－２ｂ類に比定される。21・22は龍泉窯系青磁である。21は碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。22は盤である。23は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５型式に比定される。24は滑石製石鍋の転用品、25は滑石製石鍋である。26～29は金属製品である。26・27は鉄製の火箸で鎖で連結された一対のものである。28は釘、29は銭貨で開元通寶（621年初鋳）である。30は骨角製品の笄である。

31～46は木製品で、その中で31・32は漆製品となる。31は椀、32は蓋、33～36は箸状、37・38は板杓子、39は草履芯、40は連歯下駄、41は火きり棒、42は建築部材、43～46は用途不明である。

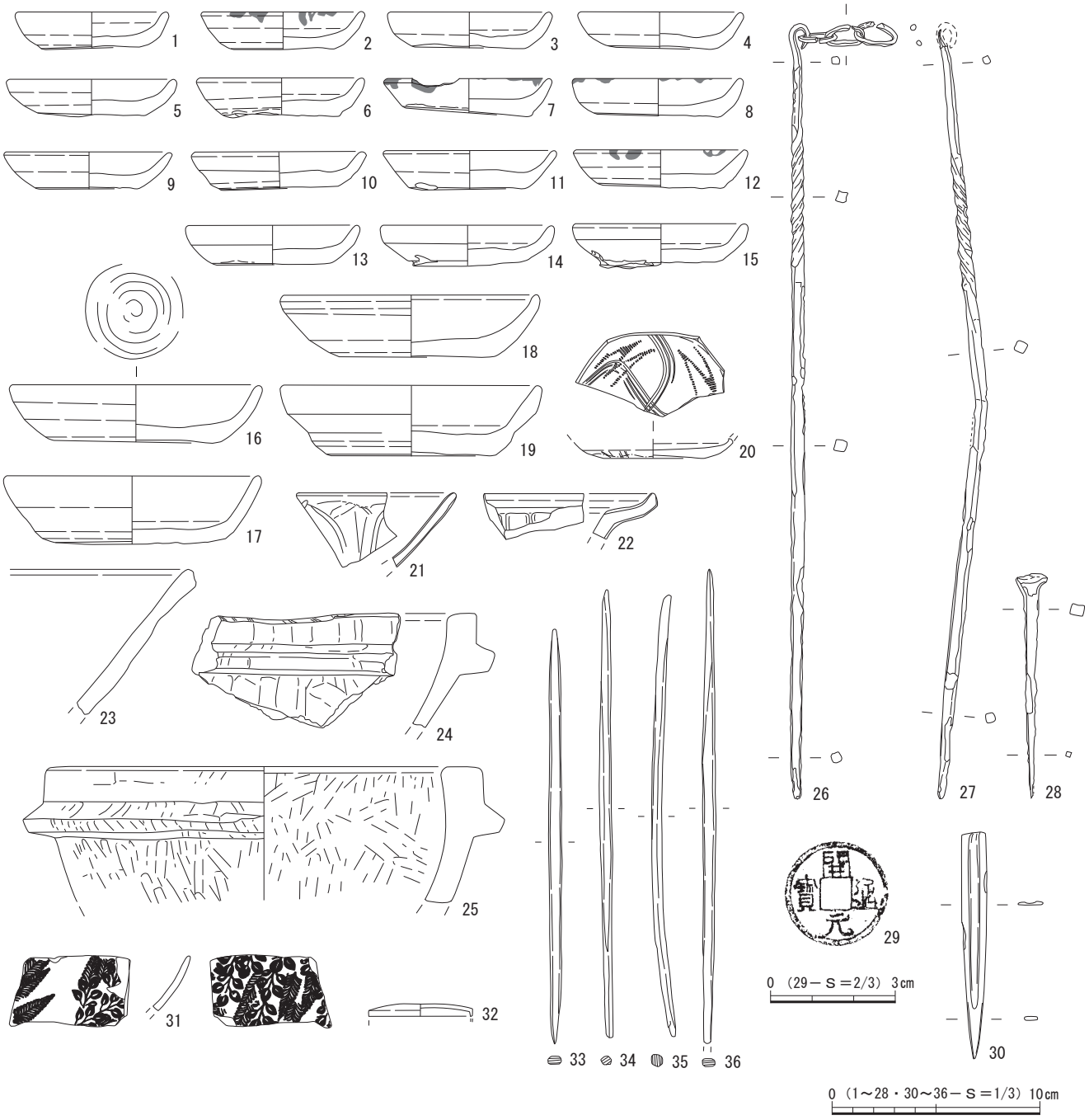


図57　第４面 遺構外出土遺物（１）

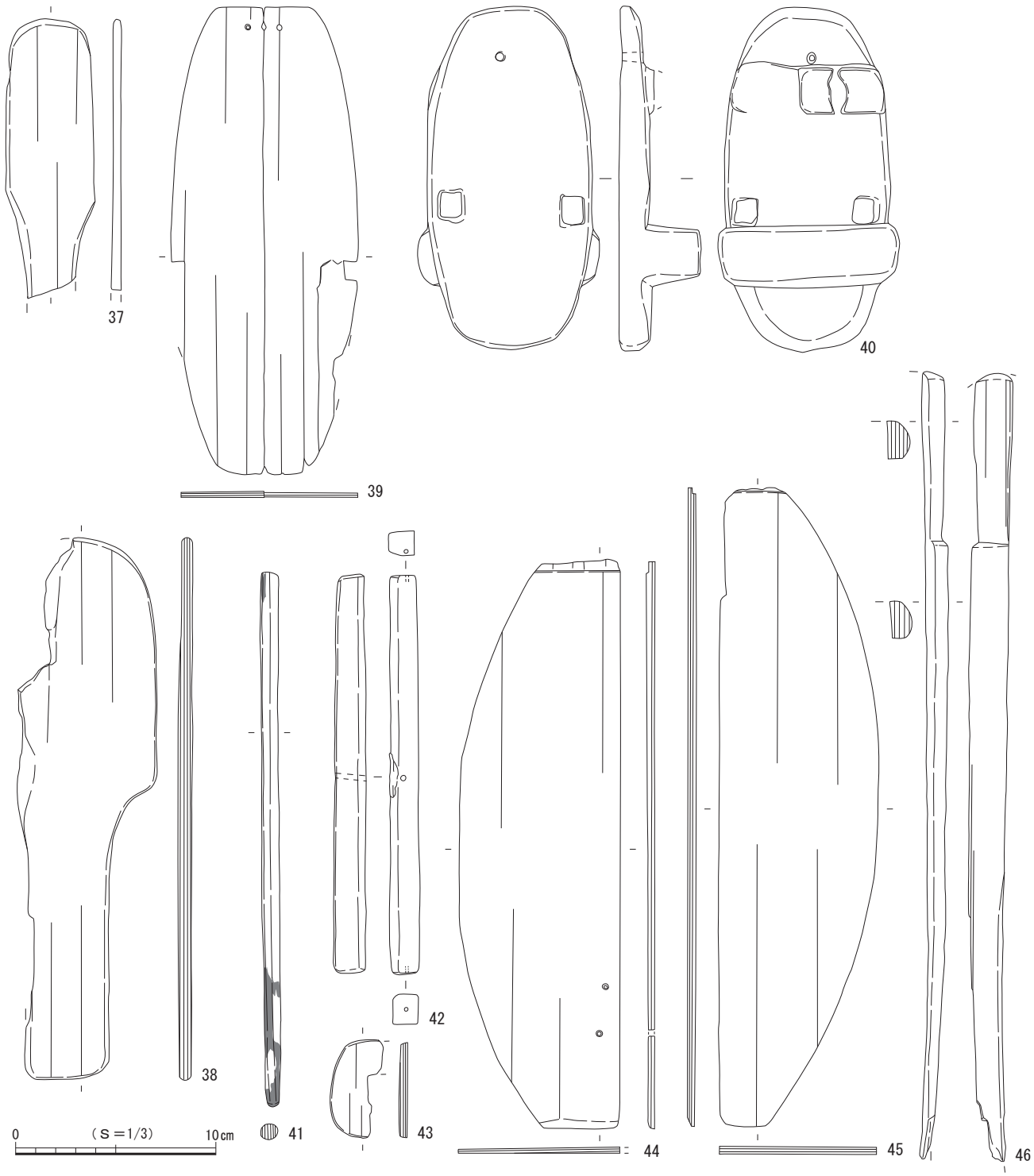


図58　第４面 遺構外出土遺物（２）

（６）第４面 構成土出土遺物（図59）

第４面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち10点を図示した。

１～５はロクロ成形によるかわらけで、２には口縁部に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。６は龍泉窯系青磁碗でⅡ－ｂ類に比定される。７は金属製品の釘である。

８～10は木製品で、その中で８は漆製品となる。８は櫛、９は板杓子、10は草履芯である。

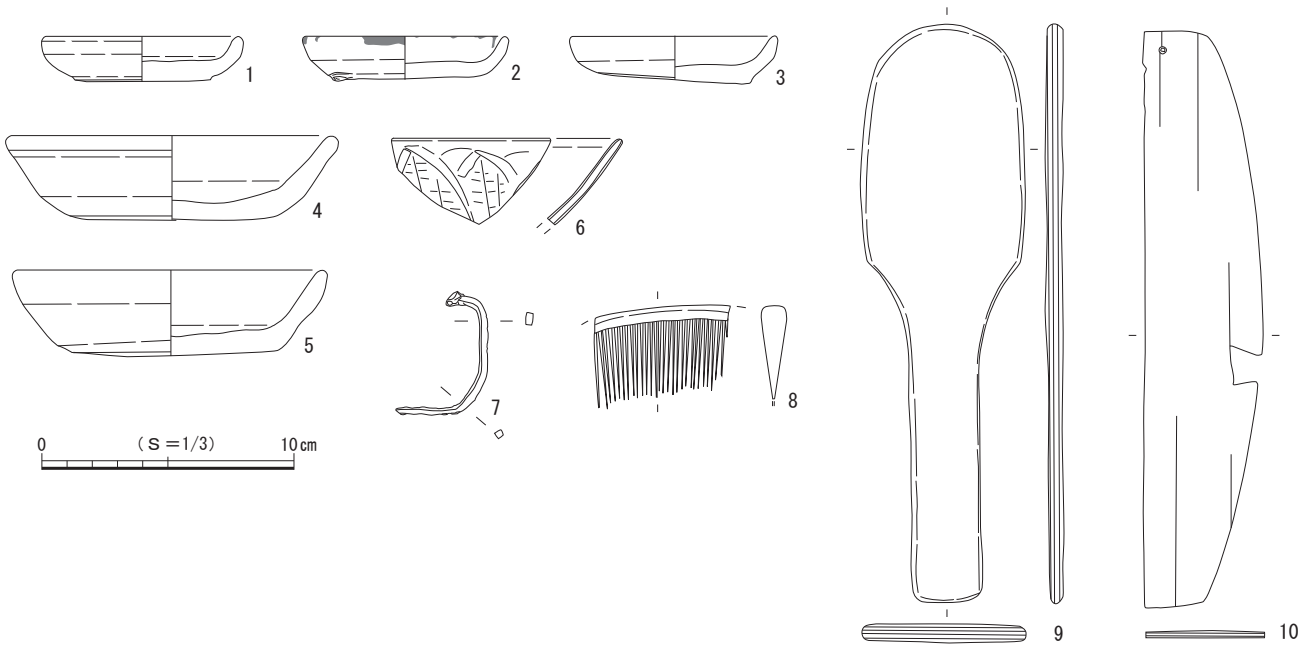


図59　第４面 構成土出土遺物

第５節　第５面の遺構と遺物

第５面の遺構は堆積土層の19層上面で検出した。確認面の標高は18.2～18.3mを測る。19層は粗砂を主体とした暗青灰色砂層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、土坑２基、ピット18基である（図62）。調査区の中央から東側にかけて遺構が疎らに分布し、重複するものは少ない。

遺物は主にかわらけ、瓦、木製品などが出土しているが、時期を特定できる遺物は少ない。上面の第４面の年代観を勘案すると、本面は13世紀前葉以前に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構９（図60）

調査区の北東側に位置する。おおむね直線的に北西－南東方向に延び、調査区外へと続いている。検出した規模は現存長約2.2m、幅0.8～1.0m、深さ47㎝で、主軸方位はＮ－46°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、底面の幅が狭く断面形はＶ字に近い形状を呈する。底面の標高は17.70mを測る。

出土遺物（図61）

遺物はかわらけ２点、陶器１点、木製品９点が出土し、このうち５点を図示した。

１～５は木製品である。１は箸状、２・３は草履芯、４・５は球である。

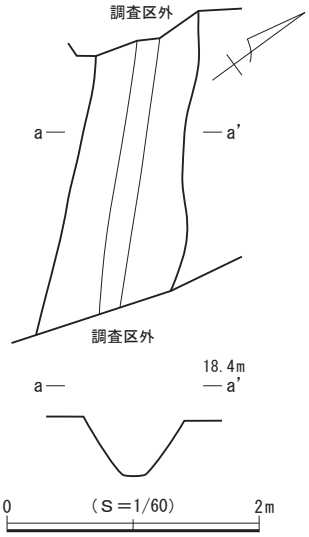


図60　第５面 溝状遺構９

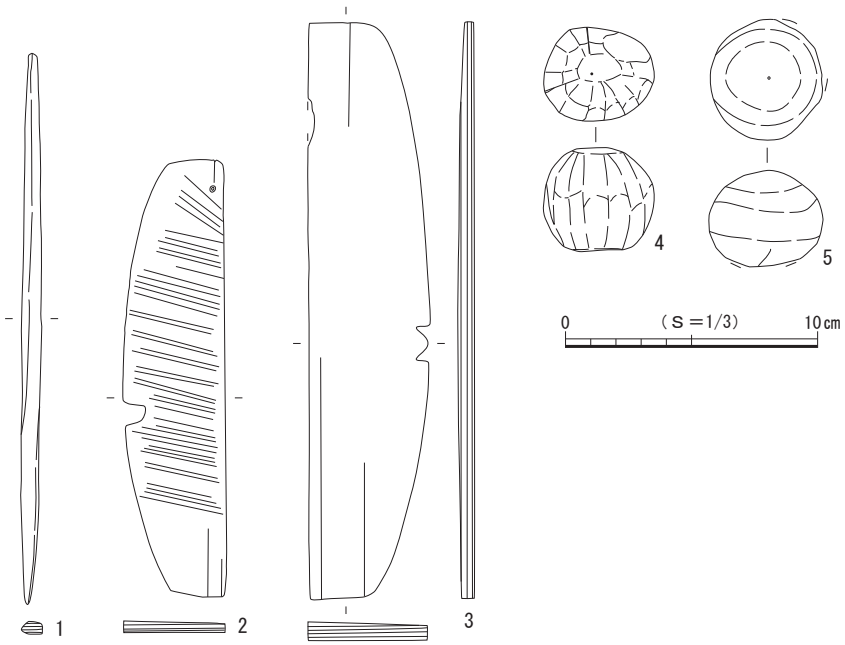


図61　第５面 溝状遺構９出土遺物

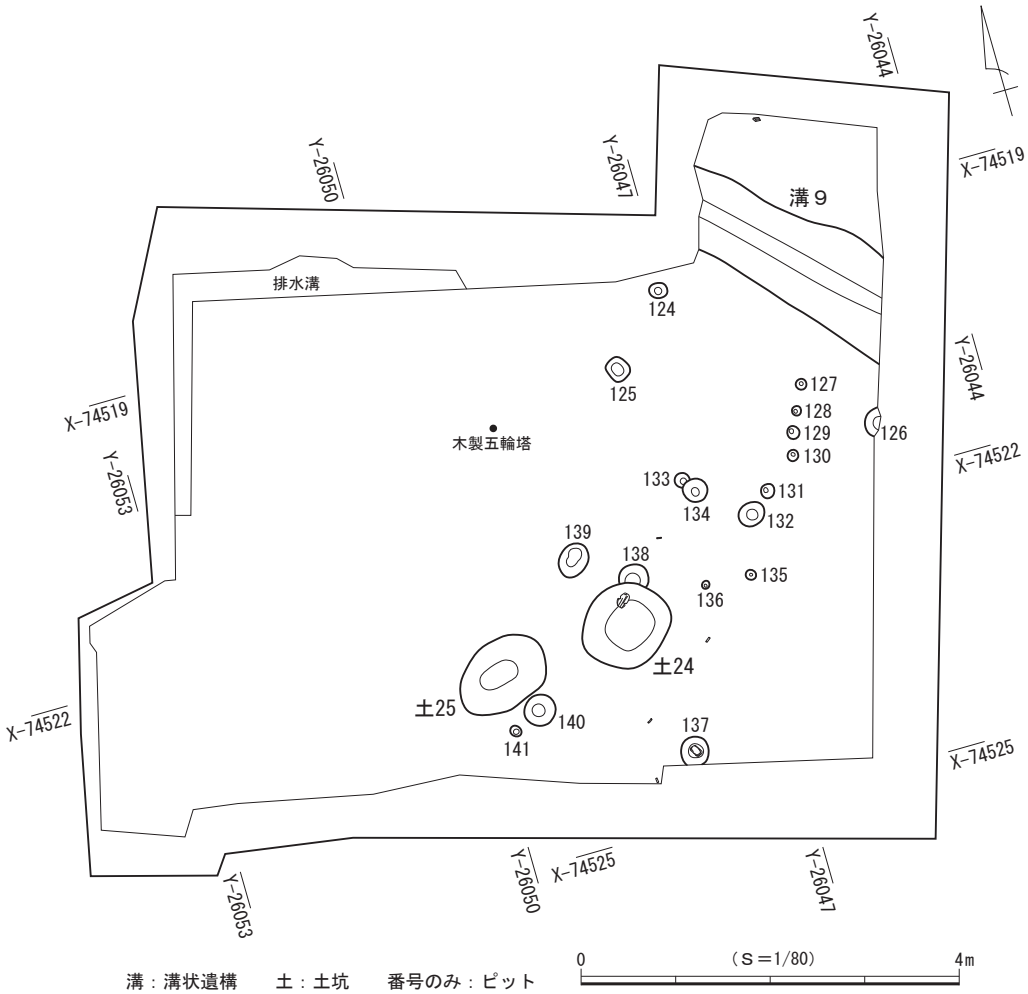


図62　第５面 遺構分布図

（2）土　坑

土坑24（図63）

調査区南側の中央付近に位置する。北側でピット138と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸91㎝、短軸84㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は18.12ｍを測る。

遺物は瓦１点、木製品３点が出土した。

土坑25（図63）

調査区南側の中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、逆台形を呈する。規模は長軸1.02ｍ、短軸71㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は18.03ｍを測る。主軸方位はＮ－75°－Ｅを指す。

遺物は木製品５点が出土した。

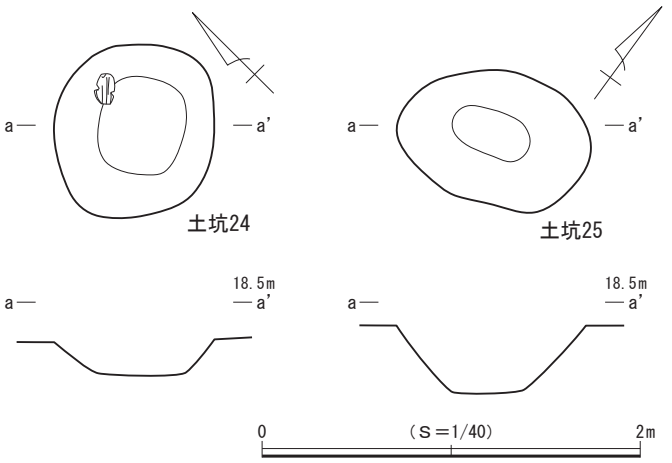


図63　第５面 土坑24・25

（3）ピット

第５面では、18基を検出した。調査区の東半に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸８～37㎝、深さ４～23㎝を測る。９基のうち１基のピット（ピット137）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ12㎝と幅８㎝、高さ４㎝で、上面の標高は18.23ｍを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図64に図示した。

遺物は出土しなかった。

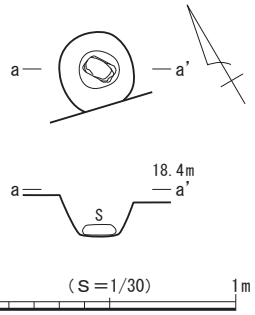


図64　第５面 ピット137

（4）第５面 遺構外出土遺物（図65）

第５面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち５点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけで、４の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。５は一木造りの五輪塔ミニチュアであるが、空風輪はもとから付属していないようである。

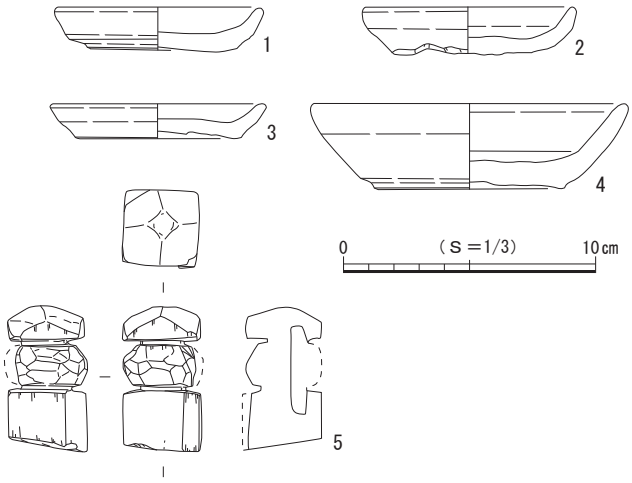


図65　第５面 遺構外出土遺物

第四章　まとめ

今回報告する扇ガ谷四丁目570番１地点は、「清涼寺跡（№183）」の範囲内に所在する。本遺跡の包蔵地範囲は鎌倉市街地中心部の北西に位置し、鶴岡八幡宮の西側に近接する。調査地点は南北に展開する包蔵地範囲の南端にあたり、武蔵大路と推定されている北西－南東道路に南面する場所に立地している。地形的には、複数の支谷が入り込みあたかも扇を広げたような形状の「扇ガ谷」と呼ばれる谷戸の北西側に位置する。

今回の調査では、遺構確認面は第１～５面までの合計５面で、いずれも中世に属する。検出した遺構は礎板建物１棟、溝状遺構９条、井戸１基、土坑25基、ピット141基で、出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して34箱を数える。

各面における主要な遺構の様相についてみていくと、最上面の第１面では井戸、溝状遺構、土坑、ピットが検出された。このうち井戸は調査区の西壁際に位置し全容は把握できなかったが、長軸95㎝を測る方形の木枠をもち、構造的には縦板を横桟で固定し２段以上積み重ねたもので、掘り方の直径が2.7ｍを超す規模をもつことが確認された。本面の遺構分布をみると東側は空白域となり、調査区西側の井戸を中心とする範囲に土坑やピットが分布する状況が認められることから、水場としての土地利用が想定される。第１面の遺構群は、出土遺物の年代観から13世紀後葉頃に属すると推定される。

第２面は調査区の東側に南北方向に延びる溝状遺構２が検出され、遺構の空白域である調査区中央部の西側に土坑とピットが疎らに分布していた。溝状遺構２の壁面には横板を杭で固定した木組が一部に残存しており、本来は木組による護岸を伴う溝であったと想定される。また、溝の覆土中には砂質凝灰岩が多量に充填されており、廃絶時における地固めの痕跡と推定される。本面の下位の遺構確認面にあたる第３面では、溝状遺構２と同じ場所に溝状遺構３が構築されており、おそらく第３面と第２面を通じて踏襲され作り替えが行われた可能性が高い。第２面の時期は、出土遺物の年代観から13世紀中葉頃と考えられる。

第３面では調査区中央において溝状遺構３と溝状遺構４が南北方向に直線的に平行して延びていた。溝同士の間隔は0.8～1.2ｍを測り、この部分に明瞭な整地面の広がりが認められた。溝状遺構３の東側には直行する主軸方位をもつ石列が検出され、この石列は調査範囲の制約からごく一部の調査にとどまり性格は判然としないが、建物などの構造物に伴う施設の一部と推定される。本面で検出された石列と溝に挟まれた整地面は、調査区外の東側に展開する何らかの構造物と、これを区画する溝を伴う通路となる可能性が想定されよう。また、本面の出土遺物には離砂が多量に付着している平瓦や、骨角製品で装飾が施された野沓、木製品でえぶり形をした形代等の出土例の少ないものが含まれていた。第３面の時期は、出土遺物の年代観から13世紀前葉～中葉頃と考えられる。

第４面では調査区の南東側から礎板建物が検出された。この礎板建物は調査区外の北東・南東・南西側へと広がることが予想され、全体的な構造や規模は判然としないが、柱間は４間以上×１間以上で長軸現存長が8.0ｍを測り、大型の建物の一部と推定される。また、柱間寸法は2.1ｍを測るものが多く、規格性が高いといえる。特筆されるのが、木質部が非常に良好な状態で遺存していたことで、壁体や礎板上に据えられた角柱、間仕切りの可能性がある建築部材などが原位置を保った状態で出土した。なお、北西側に面する柱列に沿って木組の護岸を有する溝状遺構６が検出されており、本建物に付随する排水施設となる可能性も想定される。本建物および溝状遺構６は、主軸方位が第２・３面の溝とは大きく異なっており、第４面と第３面との間に地割の変化を認めることができる。本面の北西半では溝や土

坑、ピットが密集して検出され、加えて調査区外へと続く様相が捉えられることから、土地利用頻度の高さを看取することができる。また、本面の出土遺物には見込みに渦巻状の調整痕を持つかわらけや、古手の青磁である同安窯系青磁皿、鉄製火箸一対等の出土例の少ないものが含まれていた。第４面の時期は、出土遺物の年代観から13世紀前葉頃と考えられる。

第５面の検出遺構は溝状遺構と土坑、ピットである。これらの遺構が調査区の中央南側から北東側にかけてごく疎らに分布しており、本面における遺跡の様相は判然としない。検出されたピットは18基を数えるが、径10～15㎝前後の小形のものが半数近くあり、これらは杭の痕跡と捉えられよう。また、本面からの出土遺物は少ないが、特徴的な遺物として一木造りのミニチュア五輪塔が含まれていた。第５面の時期は、出土遺物の年代観から13世紀前葉以前と考えられる。

引用・参考文献（著者五十音順）

伊丹まどか　2008「法泉寺跡（№182）扇ガ谷四丁目518番12地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』平成19年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

伊丹まどか　2012「清涼寺跡（№183）扇ガ谷４－556－４外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28』平成23年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

伊丹まどか・石元道子ほか　2002「亀谷山王堂跡（№185）扇ガ谷四丁目327番５地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18』平成13年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

伊丹まどか・渡邊美佐子　2018「法泉寺跡（№182）扇ガ谷四丁目518番８外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34』平成29年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

岡　陽一郎・手塚直樹ほか　2000「海蔵寺旧境内遺跡（№299）扇ガ谷四丁目632番３地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16』平成11年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
井戸１覆土出土遺物（図８）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	5.7	3.8	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	4.2	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	6.2	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	(5.2)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、やや粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/5
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	6.6	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	6.4	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・大	－	(8.1)	現 2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、やや粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/5
8	木製品	箸状	長 16.9	幅 0.6	厚 0.5	断面隅丸方形	完形
9	木製品	箸状	長 18.3	幅 0.5	厚 0.5	断面円形	完形
井戸１掘り方出土遺物（図９）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.4)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(5.7)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
3	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 6.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰色・褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
4	石製品	滑石製石鍋 転用品	現長 10.0	現幅 5.1	厚 1.5～2.6	滑石製石鍋の破片縁辺部を研磨　色調：灰褐色	
5	木製品	箸状	長 20.1	幅 0.8	厚 0.4	断面扁平な方形	完形
6	木製品	箸状	現長 21.4	幅 0.6	厚 0.6	断面不整形	略完形
7	木製品	建築部材	現長 9.4～12.5	現幅 2.6～9.6	厚 5.0～6.0	仕口あり　一部被焼痕	
土坑２出土遺物（図11）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	2.0	4.3	口縁部－意識的に欠き、油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
2	磁器	白磁 碗	－	4.8	現 1.5	見込み－一重圏線　高台－無釉　色調：胎土－灰白色、白磁釉－灰白色	1/5
3	木製品	用途不明	現長 6.9	現幅 6.5	厚 1.1～1.4	側面八角形に整形か	4/5
4	木製品	用途不明	長 14.6	幅 1.5	厚 1.0	両端部に切り込み	完形
第１面 遺構外出土遺物（図14）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.1)	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(6.4)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(6.5)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(7.0)	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
5	磁器	白磁 皿	(13.0)	－	現 4.0	口唇部－口兀　色調：胎土－白色、白磁釉－乳白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ区類	1/8
6	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.2	外面－蓮弁文　色調：胎土－浅黄橙色、青磁釉－黄橙色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
7	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.8	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
8	陶器	瀬戸 入子	(10.0)	(5.1)	3.1	胎土：緻密　色調：灰色　備考：古瀬戸中期～後期様式	1/3
9	木製品	折敷	長 16.3	現幅 4.3	厚 0.2	孔１ヵ所（径0.2cm）	1/4
10	木製品	曲物	直径 18.0	－	厚 0.8	曲物底板	7/8
11	木製品	桶蓋	現長 14.8	現幅 2.4	厚 0.4～0.7	孔１ヵ所（径1.2cm）	1/8
12	木製品	楔	長 6.8	幅 1.0	厚 1.1～0.1	断面三角形	完形
13	木製品	用途不明	長 32.3	直径 2.5～2.3	－	棒状で端部を面取りしている	完形
14	木製品	用途不明	長 18.8	幅 1.3	厚 1.2	断面方形　先端が尖る	完形
15	木製品	形代	長 9.8	幅 1.4～1.6	厚 1.9	陽物　丁寧な作り	完形

第１面 構成土出土遺物（図15）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.0)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.6)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.6	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、角閃石、粗土 色調：橙色　焼成：良好	3/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(5.5)	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(7.2)	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/3
7	磁器	白磁 碗	－	4.2	現 2.6	見込み－一重沈線　高台－無釉　色調：胎土－白色、白磁釉－乳白色	1/4
8	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.5	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
9	磁器	青磁 碗	－	－	現 4.2	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
10	磁器	青磁 坏	(12.6)	－	現 2.4	内面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ－３ｂ類	1/6
11	漆製品	皿	(9.2)	(6.8)	1.1	内外面－黒色漆鞣漆　内面－漆絵（手描き）・巴文　見込み中央と側面３ヵ所に施文 無高台　器肉が痩せていたため計測値は参考値	4/5
12	漆製品	皿	(10.2)	(7.0)	1.3	内外面－黒色漆鞣漆・漆絵（手描き）・檜扇文　内面－見込みと内側面に施文　外面－施文単位不明	1/4
13	木製品	箸状	現長 21.2	現幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	完形
14	木製品	曲物	現長 10.4	現幅 4.4	厚 0.2～0.3	曲物底板	1/2
15	木製品	連歯下駄	長 22.5	現幅 9.9	厚 0.7～1.6	台部－中央が張り出し端部がすぼんで長円形を呈する　歯部－台部から横に張り出して台幅よりも歯底部幅が広い　歯部－幅（10.5～10.6cm）・厚さ（3.4～4.2cm）	完形
16	木製品	建築部材	現長 38.8	幅 1.0	厚 0.6	断面隅丸長方形　丁寧な整形	完形
17	木製品	楔	長 8.9	幅 2.1	厚 1.1	断面方形	完形
18	木製品	串状	長 21.3	幅 1.0	厚 0.7	断面三角形	完形
19	木製品	棒状	現長 15.6	幅 0.9	厚 0.7～0.8	断面平行四辺形	完形
20	木製品	棒状	長 4.8	幅 7.7	厚 1.7～2.1	側縁八角形に整形	

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

溝状遺構２出土遺物（図18）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	5.1	3.4	1.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、粗土　色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.5)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.3)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	8.2	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/4
5	土器	手づくね かわらけ・小	7.9	－	2.1	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
6	磁器	白磁 碗	－	－	現 5.6	口唇部－口兀　色調：胎土－白色、白磁釉－灰白色　備考：太宰府－白磁碗Ⅸ類	口縁部～ 体部小破片
7	磁器	白磁 皿	(8.2)	(4.8)	2.0	口唇部－口兀・煤付着　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－灰色、白磁釉－灰白色 備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	1/4
8	磁器	青磁 碗	(13.8)	－	現 5.1	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	1/5
9	金属製品	銭貨	直径 2.6	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
10	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な楕円形	完形
11	木製品	箸状	現長 22.6	幅 0.7	厚 0.5	断面隅丸方形　丁寧な整形	略完形
12	木製品	曲物	現長 7.4	現幅 3.3	厚 0.4～0.5	曲物底板　復元径（7.8）cm	1/2
13	木製品	草履芯	現長 22.2	幅 4.9	厚 0.3	端部－直線的　側縁部－切り取り部が頂点となる山形を呈する　切り取り部－前方に深く切り込む台形	1/2
14	木製品	火きり棒	現長 21.0	幅 1.2	厚 0.8	断面隅丸方形	
15	木製品	建築部材	長 2.3	幅 2.4	厚 2.3	方形	完形
16	木製品	杭	現長 42.6	－	厚 0.4～0.6	先端部鋭角に整形　片端部加工痕　小孔３ヵ所残る・釘痕か	

土坑７出土遺物（図19）

1	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.7	胎土：白色粒、白色粒、小石粒　色調：灰色・暗赤褐色　備考：６ｂ型式	口縁部 小破片
2	石製品	硯	現長 6.2	現幅 6.1	厚 1.8	石材－凝灰岩	海部 小破片
3	木製品	箸状	長 17.0	幅 0.6	厚 0.4	断面扁かまぼこ形	完形

土坑９出土遺物（図20）

1	木製品	箸状	現長 17.2	幅 0.6	厚 0.4	断面扁平な隅丸方形	
2	木製品	箸状	現長 21.6	幅 0.5	厚 0.5	断面方形	
3	木製品	箸状	現長 21.6	幅 0.6	厚 0.5	断面隅丸方形	略完形
4	木製品	箸状	長 23.3	幅 0.6	厚 0.5	断面長円形	完形
5	木製品	棒状	現長 16.3	幅 0.9～1.0	厚 0.6	調度具部材か　断面方形	

土坑10出土遺物（図22）

1	木製品	棒状	現長 14.7	幅 1.3	厚 1.0	断面隅丸方形　丁寧な整形	

ピット出土遺物（図24）

1	漆製品	椀	－	－	現 2.3	内外面－黒色漆黎漆・内外面漆絵（スタンプ）　内面－鶴文・松文　外面－松文　出土遺構：ピット34	口縁部片
2	木製品	独楽	現長 4.9	現幅 4.7	現 2.2	芯は中央部からややずれていた　出土遺構：ピット34	略完形
3	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.0	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類　出土遺構：ピット35	口縁部 小破片
4	木製品	箸状	現長 16.5	幅 0.7	厚 0.5	断面方形　出土遺構：ピット37	
5	木製品	箸状	現長 17.4	幅 0.8	厚 0.3	断面扁平な方形　出土遺構：ピット37	
6	磁器	青磁 碗	－	－	現 6.6	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類　出土遺構：ピット38	口縁部 小破片

第２面 遺構外出土遺物（図25）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.6	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.7	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.0	1.9	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.8	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.7	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.0	1.8	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(5.2)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	7.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
11	磁器	白磁 Ⅲ	8.6	5.2	1.7	口唇部－口兀　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－白色、白磁釉－乳白色　備考：太宰府－白磁ⅢⅨ類	4/5
12	磁器	白磁 Ⅲ	(11.2)	5.3	3.1	口唇部－口兀　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁ⅢⅨ類	2/3
13	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.2	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
14	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.3	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
15	磁器	青磁 碗	－	－	現 5.7	外面－蓮弁文　色調：胎土－暗灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
16	磁器	青磁 坏	(12.7)	(5.3)	3.5	内面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁坏Ⅲ－３ｂ類	1/3
17	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
18	陶器	常滑 片口	－	－	現 6.7	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色・灰褐色・茶褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
19	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－大観通寶（北宋・1107）　書体－楷書	完形
20	木製品	台	(9.1)	(6.2)	厚 2.7	全面－木地のままで黎漆していない	2/3
21－a	木製品	折敷	長 14.9～15.1	幅 15.4	厚 0.1～0.2	四辺に縁が付く　折敷表面に縁材の痕跡残る　四辺の中央に小孔あり　縁は外れて出土したため別に実測・計測している　備考：21a～dは同一個体	略完形
21－b	木製品	折敷 部品	現長 15.1	－	厚 0.1～0.2	縁材　断面正方形　備考：21－aの部品	略完形

21－c	木製品	折敷 部品	現長 14.9	－	厚 0.1～0.2	縁材　断面正方形　備考：21－aの部品	略完形
21－d	木製品	折敷 部品	現長 9.6	－	厚 0.1～0.2	縁材　断面正方形　備考：21－aの部品	略完形

第２面 構成土出土遺物（図26・27）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.8	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
2	土師質・ 瓦質土器	火鉢	(38.4)	(25.4)	10.4	内外面－ハケメ　口縁部直下－穿孔　胎土：砂粒、白色粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：ＩＣ類	1/5
3	土師質・ 瓦質土器	火鉢	(44.0)	(31.4)	9.7	内外面－ハケメ　口縁部直下－穿孔　胎土：砂粒、白色粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：ＩＣ類	1/5
4	瓦	平瓦	現長 11.9	現幅 17.1	厚 2.2	凸面－糸切痕・布目・叩き目　凹面－糸切痕・布目　胎土：粗　色調：灰褐色　備考：永福寺Ｄ類	1/6
5	漆製品	膳	5.6	2.9	厚 1.5	膳脚部品　全面－黒色漆鞣漆　差し込み部欠損	完形
6	木製品	箸状	現長 19.0	幅 0.6	厚 0.5	断面長円形	略完形
7	木製品	箸状	長 20.9	幅 0.7	厚 0.5	断面方形　丁寧な整形	完形
8	木製品	箸状	長 22.2	幅 0.4	厚 0.4	断面円形　丁寧な整形	完形
9	木製品	箸状	長 22.3	幅 0.5	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
10	木製品	箸状	長 23.3	幅 0.6	厚 0.4	断面長円形	完形
11	木製品	箸状	長 23.6	幅 0.6	厚 0.5	断面隅丸方形	完形
12－a	木製品	鞘	現長 17.5	幅 2.3	厚 0.3～0.4	断面かまぼこ型　12ｂと同一個体	
12－b	木製品	鞘	現長 15.2	幅 2.6	厚 0.1～0.4	断面半円形　12ａと同一個体	
13	木製品	草履芯	現長 20.9	現幅 4.6	厚 0.2～0.3	端部－方形の小孔あり・合わせの部分が最先端となり直線的　側縁部－切り取り部が頂点となり山型を呈する　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む	1/2
14	木製品	草履芯	現長 22.7	現幅 4.6	厚 0.2	端部－不明　側縁部－切り取り部が頂点となる山形状を呈する　切り取り部－台形	1/3
15	木製品	楔	長 7.7	幅 1.2～2.6	厚 0.6～1.6	断面方形	完形
16	木製品	串状	現長 21.6	現幅 1.9	厚 1.5	断面半円形	
17	木製品	用途不明	現長 38.2	現幅 4.1	厚 0.3～0.5	側縁部角を隅丸に整形　遺存する側縁部中央に方形の切り込みあり　側縁両端部辺に２ヵ所並んで小孔・１ヵ所には木釘遺存　中央切り込み辺に木釘痕　調度具部材か	

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

溝状遺構４出土遺物（図30）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.6	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
2	木製品	建築部材	現長 3.7～4.2	幅 2.6～2.8	厚 1.6～1.7	角部を隅丸に整形	
3	木製品	用途不明	現長 7.0	幅 1.4～1.6	厚 0.5～0.7	窪みあり	
4	木製品	用途不明	現長 15.0	現幅 2.8	厚 0.5	曲物底板か　側縁部中央辺に木釘遺存	

土坑12出土遺物（図32）

1	木製品	箸状	現長 21.7	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平な方形	略完形

ピット出土遺物（図35）

1	木製品	草履芯	現長 23.2	現幅 5.0	厚 0.1～0.3	端部－小孔あり・直線的　側縁部－切り取り部が頂点となる山型を呈する　切り取り部－前方に深く切り込む平行四辺形　遺存状態が悪い　出土遺構：ピット47	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.7	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明赤褐色　焼成：良好　出土遺構：ピット48	略完形
3	木製品	曲物	現長 19.4	現幅 6.1	厚 0.7～0.8	底板部分　欠損部側面に２ヵ所の木釘痕・修理痕と思われる　刃物痕あり　出土遺構：ピット48	1/3

第３面 遺構外出土遺物（図36～39）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明赤褐色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	4.0	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.6	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.1	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色・明赤褐色　焼成：良好	3/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.1	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形

8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.8	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.0	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	5.2	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.1	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(7.3)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/4
13	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	(7.2)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	5.8	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
15	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.2)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明黄褐色　焼成：良好	1/2
16	磁器	白磁 皿	(10.7)	(6.4)	2.5	口唇部－口兀　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－灰白色、白磁釉－乳白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	1/4
17	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.1	外面－蓮弁文　色調：胎土－暗灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
18	磁器	青磁 碗	(16.3)	－	現 6.3	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色・橙色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	1/5
19	磁器	青磁 碗	(10.4)	－	現 4.9	天目型　色調：胎土－灰白色、青磁釉－明緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅲ－３類	1/3
20	磁器	青白磁 合子蓋	－	－	現 1.7	上面－型押しによる鳳凰文？　色調：胎土－灰白色、青白磁釉－青白色	1/6
21	陶器	産地不明 山皿	8.0	4.8	1.6	胎土：砂粒、白色粒、黒色粒、小石粒　色調：灰色	完形
22	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	(14.4)	現 7.3	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰褐色・赤褐色　備考：５型式	1/4
23	瓦	平瓦	現長 13.0	現幅 17.0	厚 2.1～2.5	凸面－菱形格子状の叩き目　凹面－糸切痕　胎土：粗　色調：橙色　備考：永福寺Ｄ類	1/6
24	石製品	温石	長 8.7	幅 6.4	厚 2.5	孔１ヵ所（径0.5㎝）　石材－滑石	1/2
25	骨角 製品	野沓	長 24.9	幅 1.9～2.7	厚 0.3～0.8	表面－陰刻による四方襷文（黒漆充填）、孔２ヵ所（径0.8㎝）、中央使用による摩滅 右端－鉄製角釘による補修痕跡　側縁－黒漆　裏面－固定の為の孔１ヵ所（径0.3㎝） 素材－鹿角の角幹	略完形
26	漆製品	皿	－	－	現 1.3	内外面－黒色漆錆漆　内面－漆絵（手描き）・桜文・笹文・柳文・不明文　無高台　外面下部に顕著にロクロ挽き痕	底部 小破片
27	漆製品	皿		(7.6)	現 0.8	内外面－黒色漆錆漆　内面－漆絵（スタンプ）・亀甲花文・見込み中央と側面に施文 無高台	1/5
28	漆製品	皿	(8.8)	(6.6)	0.9	内外面黒色漆錆漆・無文・無高台	1/4
29	漆製品	皿	(9.4)	(6.8)	現 1.3	内外面－黒色漆錆漆・内面漆絵（手描き）・鶴文　無高台　外面下部顕著にロクロ挽き痕が残る	1/4
30	漆製品	椀	－	(6.6)	現 4.8	内外面－黒色漆錆漆・漆絵（手描き）・葵文（葉脈は針掻技法を使用）	1/4
31	漆製品	椀	(13.2)	(6.4)	(4.9)	内外面－黒色漆錆漆　外底部－「一」の線刻あり・錆漆前に線刻している　輪高台 歪み大のため復元値は参考値	2/3
32	漆製品	櫛	現長 4.8	現幅 3.6	厚 0.1～1.0	梳き櫛　黒色漆錆漆　丁寧な整形　残存歯数25本	1/2
33	木製品	箸状	長 17.3	幅 0.6	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
34	木製品	箸状	長 17.9	幅 0.7	厚 0.4	断面不整形	完形
35	木製品	箸状	長 18.8	幅 0.7	厚 0.3	断面方形	完形
36	木製品	箸状	現長 19.5	幅 0.7	厚 0.5	断面不整形	略完形
37	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
38	木製品	箸状	長 21.7	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な方形	完形
39	木製品	箸状	現長 21.7	幅 0.8	厚 0.5	断面隅丸長方形	完形
40	木製品	箸状	長 21.9	幅 0.7	厚 0.4	断面不整形	完形
41	木製品	箸状	長 24.2	幅 0.6	厚 0.4	断面扁平　丁寧な整形	完形
42	木製品	箸状	長 24.9	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平　丁寧な整形	完形
43	木製品	箸状	長 25.1	幅0.4	厚 0.4	断面正方形	完形
44	木製品	折敷	長 19.3	現幅 5.1	厚 0.2		
45	木製品	折敷	長 19.4	現幅 7.9	厚 0.1	角部分隅切り　一辺に小孔遺存	
46	木製品	経木折敷	長 21.9	現幅 3.4	厚 0.1		
47	木製品	曲物	現長 15.9	現幅 5.4	厚 0.9～1.1	底板部分　刃物痕あり　やや厚めに整形	1/3

48	木製品	曲物	現長 16.7	現幅 8.1	厚 1.1～1.2	底板部分　片面に刃物痕　復元径(16.8)㎝	1/2
49	木製品	曲物	現長 20.2	現幅 7.7	厚 0.5	底板部分　復元径(21.8)㎝	1/2
50	木製品	曲物	現長 35.9	現幅 21.1	厚 0.9～1.0	曲物底板部か　復元径(36.0)㎝　歪み大	2/3
51	木製品	調度具	現長 24.3	現幅 11.9	厚 1.0～1.4	器種不明(台座側面部か)　頂部側面に８ヵ所の木釘痕　側面部に小孔４ヵ所遺存　丁寧な整形	
52	木製品	草履芯	現長 16.9	現幅 4.6	厚 0.2～0.3	端部－直線的　側縁部－切り取り部が頂点となる山形を呈する　切り取り部－不明	1/4
53	木製品	草履芯	長 22.7	現幅 8.2	厚 0.2～0.3	端部－直線的・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となり山型を呈する　切取り部－台形	略完形
54	木製品	草履芯	長 23.2	現幅 9.0	厚 0.2	端部－小孔あり・直線的　側縁部－曲線的　切り取り部－不明　合わせ部－先端部近くに◇の切り込みあり	略完形
55	木製品	草履芯	長 23.5	現幅 10.2	厚 0.3～0.4	端部－小孔あり・直線的　側縁部－切り取り部が頂点となり山型を呈する　切り取り部方形を呈する	略完形
56	木製品	火きり棒	長 21.4	幅 0.9	厚 0.8	端部焼痕　断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
57	木製品	織機具	長 72.1	径 1.4～1.7	－	断面略円形　丁寧な整形	完形
58	木製品	建築部材	現長 13.8	幅 2.2～2.5	厚 1.0～1.3	端部に仕口あり　中央辺に孔が貫通する	
59	木製品	箆状	現長 17.2	幅 1.4～1.7	厚 0.2	丁寧な整形	略完形
60	木製品	箆状	長 23.3	幅 1.7	厚 1.0	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
61	木製品	棒状	長 12.2	幅 0.8	厚 0.7	断面方形　端部鋭角に整形	完形
62	木製品	串状	現長 17.5	幅 0.9	厚 0.5	断面方形	
63	木製品	串状	長 17.7	幅 1.1	厚 0.6	片端部鋭角に整形　断面隅丸方形　丁寧な整形	
64	木製品	串状	長 21.6	幅 1.0	厚 0.6	断面長楕円形	完形
65	木製品	串状	長 22.9	幅 1.0～1.1	厚 0.9～1.0	断面方形	完形
66	木製品	串状	長 28.3	幅 0.4～0.7	厚 0.6	断面台形	完形
67	木製品	串状	長 42.1	幅 1.0	厚 0.8	断面楕円形　丁寧な整形	完形
68	木製品	用途不明	現長 11.6	現幅 3.5	厚 0.1	復元径(15.2㎝)　経木折敷の再加工か　側縁近くに小孔あり	
69	木製品	用途不明	直径 4.0	－	厚 3.5	断面円形　側面丁寧な整形痕　中心に鉄釘遺存　釘－現長3.4㎝・幅0.8㎝・厚0.5㎝	
70	木製品	用途不明	直径 5.2	内径 4.2	厚 0.2～0.3	中央に孔が開く　丁寧な整形	略完形
71	木製品	用途不明	現長 10.7	幅 1.0	厚 0.7	両端を鋭角に整形　断面楕円形　丁寧な整形	略完形
72	木製品	用途不明	現長 11.2	現幅 6.6	厚 0.4～1.1	端材か　穿孔２ヵ所遺存　側縁部斜めに整形	
73	木製品	用途不明	現長 22.9	現幅 4.6	厚 0.4	中央辺に３ヵ所の穿孔あり、間隔は芯芯で3.3㎝・2.5㎝を測り規則性はない　材がやや反っている	
74	木製品	用途不明	現長 29.2	現幅 4.5	厚 0.9～1.1	鋤か	

第３面 構成土出土遺物（図40・41）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	4.9	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.9	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.2)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.5	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(4.8)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(7.8)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	7.0	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
8	磁器	白磁 皿	(8.6)	(5.0)	1.6	口唇部－口兀・煤付着　底面－ヘラ切り・施釉　色調：胎土－灰色、白磁釉－乳白色　備考：太宰府－白磁Ⅲ区類	1/5
9	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.0	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
10	磁器	青白磁 梅瓶蓋	(6.8)	天井部径 (5.3)	現 3.6	上面－型押しによる花弁文　色調：胎土－白色、青白磁釉－青白色	1/3
11	陶器	中国 黄釉盤	－	－	現 3.4	胎土：粗　色調：胎土－にぶい黄橙色、黄釉－にぶい黄色	口縁部 小破片
12	陶器	渥美 甕	－	－	現 7.2	胎土：白色粒　色調：暗褐色　備考：２ａ～２ｂ型式	口縁部 小破片
13	瓦	平瓦	現長 25.8	現幅 19.5	厚 2.5～3.0	凸面－格子状の叩き目　凹面－糸切痕　胎土：粗　色調：橙色　備考：多量の雛砂が内外面に付着	1/3

14	漆製品	皿	(8.4)	(6.0)	1.2	内外面－黒色漆糅漆・無文・無高台	1/2
15	漆製品	皿	－	(6.8)	現 0.9	内外面－黒色漆糅漆　内面－漆絵（手描き）・笹文　無高台　遺存状態が悪いため計測値は参考値	1/5
16	木製品	箸状	長 18.7	幅 0.5	厚 0.5	断面方形	完形
17	木製品	箸状	現長 19.0	幅 0.6	厚 0.5	断面台形　遺存状態悪い	略完形
18	木製品	箸状	長 23.0	幅 0.5	厚 0.4	断面円形　丁寧な整形	完形
19	木製品	箸状	長 23.3	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な楕円形	完形
20	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.7	厚 0.5	断面不整形	完形
21	木製品	箸状	長 23.6	幅 0.6	厚 0.6	断面円形　丁寧な整形	完形
22	木製品	箸状	長 23.8	幅 0.5	厚 0.6	断面円形　丁寧な整形	完形
23	木製品	箸状	長 25.0	幅 0.7	厚 0.5	断面不整形	完形
24	木製品	火きり棒	長 40.6	幅 1.1	厚 0.7	断面楕円形　丁寧な整形　端部焼痕	完形
25	木製品	円盤状	直径 10.2	－	厚 1.8～2.0	中心に木釘痕　燈明台か	
26	木製品	篦状	長 19.3	幅 1.5	厚 0.7	断面半円形　丁寧な整形	完形
27	木製品	串状	長 24.3	幅 0.7	厚 0.9～1.0	断面隅丸方形	完形
28	木製品	串状	長 26.4	幅 0.8	厚 0.7	断面半円形	完形
29	木製品	串状	長 30.2	幅 0.9	厚 0.9	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
30	木製品	形代	長 13.1	幅 2.5～2.8	厚 0.2～0.9	えぶり型　中央に穿孔　丁寧な整形	完形

表５　第４面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
礎板建物１出土遺物（図44・45）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	4.8	0.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、良土　色調：鈍い橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.0	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.3	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	5.3	1.9	口縁部～内面－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、粗土　色調：にぶい黄褐色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.2	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	7.7	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.2	3.2	見込み－渦巻き状の調整　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土色調：橙色　焼成：良好	3/4
9	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.2	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.6	3.4	見込み－渦巻き状の調整　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　備考：二次焼成	3/4
11	漆製品	皿	(9.6)	(6.8)	1.1	内外面－黒色漆　内面－漆絵（手描き）・酢漿草文　無高台　歪み大	2/3
12	漆製品	椀	－	－	現 2.6	内外面－黒色漆・内外面漆絵（スタンプ）・藤文	口縁部 小破片
13	木製品	箸状	長 22.7	幅 0.6	厚 0.3～0.4	断面扁平な方形	完形
14	木製品	箸状	長 21.2	幅 0.6	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
15	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.5	厚 0.5	断面円形	完形
16	木製品	箸状	長 21.8	幅 0.6	厚 0.5	断面円形	完形
17	木製品	箸状	長 22.1	幅 1.0	厚 0.5	断面扁平な楕円形	完形
18	木製品	箸状	長 22.2	幅 0.7	厚 0.6	断面方形	完形
19	木製品	箸状	長 22.4	幅 0.5	厚 0.5	断面円形	完形
20	木製品	箸状	長 22.6	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な方形	完形
21	木製品	箸状	長 22.6	幅 0.9	厚 0.4	断面扁平な方形	完形

22	木製品	箸状	長 22.7	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
23	木製品	箸状	長 22.7	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な楕円形	完形
24	木製品	箸状	長 22.7	幅 0.7	厚 0.5	断面隅丸方形	完形
25	木製品	箸状	長 22.8	幅 0.6	厚 0.4	断面不整形	完形
26	木製品	箸状	現長 23.0	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平な方形	略完形
27	木製品	箸状	長 23.6	幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	略完形
28	木製品	箸状	長 23.7	幅 0.6	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
29	木製品	箸状	長 24.0	幅 0.5	厚 0.4	断面円形　丁寧な整形	完形
30	木製品	箸状	長 24.1	幅 0.8	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
31	木製品	箸状	長 24.2	幅 0.6	厚 0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
32	木製品	箸状	長 24.2	幅 0.7	厚 0.4	断面方形	完形
33	木製品	箸状	長 24.5	幅 0.8	厚 0.5～0.6	断面隅丸方形	完形
34	木製品	箸状	長 24.6	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
35	木製品	箸状	長 24.7	幅 0.5	厚 0.5	断面方形	完形
36	木製品	箸状	長 25.1	幅 0.6	厚 0.5	断面隅丸方形	完形
37	木製品	箸状	長 27.4	幅 0.6	厚 0.4	断面円形　丁寧な整形	完形
38	木製品	折敷	現長 24.3	現幅 12.8	幅 0.1	隅丸に整形　一辺中央に小孔あり　縁－角部は３ヵ所内側に切り込みを入れて曲げている、現長27.1cm・現幅12.8cm・厚0.3cm	
39	木製品	曲物	直径 10.4	－	厚 0.4～0.6	内外面－黒色に変色　側縁に沿って黒色部分が脱色しており、曲物側板の接着部と考えられる	完形
40	木製品	扇	現長 10.8	現幅 1.2～1.3	厚 0.4	端部辺に要の小孔　親骨か	
41	木製品	鞘	現長 16.6	現幅 2.0	厚 0.3	断面かまぼこ型	1/2
42	木製品	草履芯	長 23.4	現幅 3.2～3.4	厚 0.2	端部－直線的・焼痕あり　側縁部・切り取り部－形状不明　中央辺に藁状圧痕が遺存	2/3
43	木製品	箆状	長 9.9	幅 0.6～1.9	厚 0.1～0.3	漆工具か　丁寧な整形	完形
44	木製品	箆状	現長 14.8	現幅 0.9～2.2	厚 0.1～0.2	丁寧な整形	略完形
45	木製品	棒状	長 33.3	幅 1.2	厚 1.0	断面円形　丁寧な整形	完形
46	木製品	形代	長 13.9	幅 1.9	厚 2.1	陽物　丁寧な整形　全体に炭化している　断面円形	完形
47	木製品	礎板	長 10.5	幅 11.7	厚 1.5～2.1		完形
48	木製品	礎板	長 19.9	幅 7.9	厚 2.2～2.5	刃物痕あり	完形
49	木製品	礎板	長 23.6	幅 10.8	厚 2.1～2.5	刃物痕あり	完形
50	木製品	用途不明	現長 14.3	現幅 2.9	厚 0.3～0.4	小孔あり	

溝状遺構６出土遺物（図46）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.3)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.9	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.7	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.3)	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
5	木製品	箸状	長 22.9	幅 0.5	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
6	木製品	箸状	長 23.1	幅 0.5	厚 0.4	断面不整形	完形
7	木製品	用途不明	現長 6.8	現幅 3.2	厚 0.4～0.5	中央に穿孔か	1/2
8	木製品	用途不明	現長 19.7	現幅 9.8～10.6	厚 0.3～0.6	蓋か　角は隅丸に加工	

土坑15出土遺物（図48）

1	木製品	蓋 摘み部	現長 17.6	現幅 2.0	厚 2.0	鍋蓋の摘み部　蓋板と接着部に木釘３本遺存	

土坑16出土遺物（図49）

1	木製品	草履芯	現長 23.3	現幅 4.7	厚 0.3	端部－小孔あり・直線的　側縁部－切り取り部が頂点となる山型を呈する　切り取り部－前方に深く切り込む平行四辺形　藁状圧痕が残る	1/2

2	木製品	調度具	現長 26.5～26.6	幅 1.0	厚 1.1～2.4	調度具部材　器種不明　一部刃物痕あり　木釘孔か・両端近くに抉りあり	

土坑17出土遺物（図50）

1	磁器	白磁 碗	(14.8)	－	現 4.8	口唇部－口兀　色調：胎土－白色、白磁釉－乳白色　備考：太宰府－白磁碗Ⅸ類	1/8
2	磁器	青磁 碗	－	－	現 1.8	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－b類	口縁部 小破片
3	骨角 製品	笄	現長 9.9	幅 0.8～1.3	厚 0.3	笄から転用か　端部－再加工　孔1ヵ所（径0.4cm）　素材－鹿中足骨	1/2
4	木製品	箸状	長 20.6	幅 0.5	厚 0.3	断面隅丸方形　丁寧な整形	完形
5	木製品	杭	長 25.0	直径 2.5	－	断面方形　端部鋭角に整形	
6	木製品	串状	長 29.2	幅 0.7	厚 0.5	断面半円形	完形

土坑18出土遺物（図52）

1	木製品	礎板	長 20.3	幅 8.0	厚 2.3～3.3		完形

土坑21出土遺物（図53）

1	木製品	建築部材	長 7.7	幅 4.3～5.0	厚 2.2～2.7	仕口あり　位置部焼痕	
2	木製品	礎板	長 17.0	幅 8.1	厚 2.6～2.8		完形

土坑22出土遺物（図54）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.4	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(6.7)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	7.1	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色　焼成：良好	3/4
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	7.3	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3

ピット出土遺物（図56）

1	漆製品	椀	－	(7.6)	現 0.9	内外面－黒色漆繰漆・内外面漆絵（スタンプ）・文様種不明（円文の中に花文を三分割・鞠文か）　輪高台　出土遺構：ピット61	2/3
2	木製品	楔	長 12.3	幅 1.4	厚 0.5～0.7	やや雑な整形　端部焼痕　出土遺構：ピット100	完形

第4面 遺構外出土遺物（図57・58）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	4.7	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.3	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.2	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.8	口縁部－意識的に打ち欠く・油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.7	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	4.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.6	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	5.2	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	4.8	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.2	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	3/4
16	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.6	2.8	見込み－渦巻き状の調整　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.8	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	6.7	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	完形
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.6)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3

20	磁器	青磁 皿	－	(4.8)	現 1.0	内面－櫛描き文・櫛点描文　底面－釉を掻き取る　色調：胎土－灰色、青磁釉－淡黄色　備考：太宰府－同安窯系青磁Ⅲ－２ｂ類	1/5
21	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.6	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
22	磁器	青磁 盤	－	－	現 2.2	内面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色	口縁部 小破片
23	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 6.9	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰色　備考：５型式	口縁部～ 体部小破片
24	石製品	滑石製石鍋 転用品	－	－	現 10.5	羽釜型　上端部－砥石状の使用痕跡　外面－煤付着　色調：灰黒色	
25	石製品	滑石製石鍋	(20.4)	－	現 6.5	羽釜型　内外面－煤付着　色調：灰黒色	1/5
26	金属 製品	火箸	長 37.4	径 0.2～0.7	－	箸－持ち手部分は捻り状、根本を輪状にして鎖でつなぐ（楕円形の輪３つ残存、径1.8×2.0㎝、厚0.2～0.6㎝）　材質－鉄　備考：27と対になる	完形
27	金属 製品	火箸	長 37.1	径 0.2～0.7	－	箸－持ち手部分は捻り状　材質－鉄　備考：26と対になる	略完形
28	金属 製品	釘	現長 10.7	釘頭幅 1.5	厚 0.2～0.6	角釘　材質－鉄	略完形
29	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－隷書	完形
30	骨角 製品	笄	現長 10.9	幅 1.2	厚 0.1～0.2	端部－再加工　素材－鹿中足骨	略完形
31	漆製品	椀	－	－	現 2.6	内外面－黒色漆黎漆・内外面漆絵（スタンプ）・草文（文様種不明）	口縁部 小破片
32	漆製品	蓋	直径 5.0	－	0.4	内外面赤色漆黎漆の後黒色漆を重ねて黎漆か　無文　良品	略完形
33	木製品	箸状	現長 19.9	幅 0.6	厚 0.4	断面扁平な隅丸方形　丁寧な整形	完形
34	木製品	箸状	現長 21.6	幅 0.5	厚 0.4	断面円形　丁寧な整形	完形
35	木製品	箸状	現長 22.3	幅 0.5	厚 0.6	断面円形	完形
36	木製品	箸状	現長 22.7	幅 0.6	厚 0.4	断面扁平な隅丸方形	完形
37	木製品	板杓子	現長 14.0	現幅 4.4	厚 0.4～0.5	先端部摩耗・使用痕か　握り部欠損	1/2
38	木製品	板杓子	長 27.1	現幅 6.9	厚 0.5～0.7	端部－再加工端部	4/5
39	木製品	草履芯	長 23.4	現幅 9.4	厚 0.2～0.3	端部－直線的・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となり曲線的　切り取り部－前方に深く切り込む方形を呈する	略完形
40	木製品	連歯下駄	長 17.2	現幅 8.2	厚 1.0～1.5	台部中央が張り出し四隅の丸い小判型を呈する　歯部は台部から横に張り出す　歯部－現長9.1㎝・現幅3.1㎝・現厚4.1㎝　前歯欠損　前坪小孔　後坪方形	3/4
41	木製品	火きり棒	長 26.7	幅 0.8	厚 0.8	断面円形　丁寧な整形　両端に焼痕	完形
42	木製品	建築部材	現長 19.9	現幅 1.3	厚 1.5	器種不明　部材中央辺と側面に木釘痕　一部面取り	
43	木製品	用途不明	現長 4.9	現幅 1.9～2.2	厚 0.3～0.4	楕円形を呈し中央部に方形の孔が開くと思われる	
44	木製品	用途不明	現長 28.5	現幅 7.1	厚 0.2～0.3	近接した位置に２ヵ所の小孔あり　側面円形に整形か	
45	木製品	用途不明	現長 32.0	現幅 7.9	厚 0.3～0.4	側面円形に整形か	
46	木製品	用途不明	現長 39.4	現幅 1.3～2.0	厚 0.6～1.0	断面円形に整形か	

第４面 構成土出土遺物（図59）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.5)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	7.2	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(7.0)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
6	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.4	外面－蓮弁文　色調：胎土－暗灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
7	金属 製品	釘	現長 8.6	幅 0.2～0.5	厚 0.2～0.3	角釘　２ヵ所を折り曲げる　材質－鉄	略完形
8	漆製品	櫛	現長 5.4	現幅 3.7	厚 0.1～0.9	梳き櫛　黒色漆黎漆　丁寧な整形　残存歯数29本	2/3
9	木製品	板杓子	長 23.0	幅 6.5	厚 0.6～0.7	丁寧な整形　使用痕不明	完形
10	木製品	草履芯	長 22.9	現幅 4.7	厚 0.2～0.3	端部－直線的・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となり山型を呈する　切り取り部－台形で前方に深く切り込む	1/2

表６　第５面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構９出土遺物（図61）							
1	木製品	箸状	長 21.8	幅 0.8	厚 0.4～0.5	断面不整形	完形
2	木製品	草履芯	長 18.4	幅 4.0	厚 0.3～0.4	端部－直線的・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となる山形を呈する　切り取り部－やや変形した台形　藁状圧痕あり	1/2
3	木製品	草履芯	長 23.9	幅 4.7	厚 0.4～0.7	端部－直線的・小孔なし　側縁部－切り取り部が頂点となる山型を呈する　切り取り部－M字型に切り込まれる　加工前（二分割に剝ぐ前）	完形
4	木製品	球	長 4.4	幅 3.8	厚 4.1	毬杖の球　側面丁寧な整形痕	完形
5	木製品	球	長 4.8	幅 4.4	厚 3.8	毬杖の球　丁寧な整形	完形
第５面 遺構外出土遺物（図65）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.0	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロかわらけ・小	8.2	4.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	(8.3)	(6.2)	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、角閃石、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロかわらけ・中	(12.3)	(7.2)	3.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
5	木製品	五輪塔ミニチュア	幅 3.0	厚 2.9	全高 5.7	一木造り　地輪高2.4cm、水輪高1.7cm、火輪高1.3cm、各輪間に0.2cmの接合部を有する　空風輪はない	略完形

表７　遺構計測表

（）＝推定値、〈〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
溝状遺構１	第１面	〈100〉	20	16
井戸１	第１面	95	92	〈150〉
井戸１（掘り方）	第１面	〈264〉	〈229〉	〈220〉
土坑１	第１面	61	56	26
土坑２	第１面	108	99	28
土坑３	第１面	82	73	11
土坑４	第１面	〈72〉	70	27
土坑５	第１面	〈106〉	〈28〉	17
土坑６	第１面	〈60〉	〈42〉	10
ピット１	第１面	44	43	－
ピット２	第１面	52	46	22
ピット３	第１面	40	〈31〉	35
ピット４	第１面	37	32	19
ピット５	第１面	33	30	16
ピット６	第１面	53	46	13
ピット７	第１面	33	〈23〉	15
ピット８	第１面	38	32	19
ピット９	第１面	36	30	22
ピット10	第１面	24	20	25
ピット11	第１面	46	32	18
ピット12	第１面	27	(22)	14
ピット13	第１面	26	21	8
ピット14	第１面	33	〈24〉	13
ピット15	第１面	54	〈42〉	9
ピット16	第１面	35	〈16〉	9
ピット17	第１面	49	(40)	7
ピット18	第１面	42	30	7
ピット19	第１面	46	34	25
ピット20	第１面	32	〈14〉	18
ピット21	第１面	45	〈43〉	16
ピット22	第１面	〈47〉	47	17
ピット23	第１面	33	27	11
ピット24	第１面	41	40	30
ピット25	第１面	38	35	22
ピット26	第１面	34	32	18
ピット27	第１面	35	30	12
ピット28	第１面	29	28	10
ピット29	第１面	24	〈21〉	8
ピット30	第１面	51	42	17
ピット31	第１面	13	〈６〉	10
溝状遺構２	第２面	〈690〉	50～80	12～40
土坑７	第２面	〈192〉	158～179	33
土坑８	第２面	100	90	36
土坑９	第２面	140	129	19
土坑10	第２面	〈80〉	〈55〉	14
土坑11	第２面	85	〈62〉	14
ピット32	第２面	41	41	14
ピット33	第２面	35	30	19
ピット34	第２面	44	38	13
ピット35	第２面	36	35	5
ピット36	第２面	〈38〉	〈37〉	11
ピット37	第２面	32	25	7
ピット38	第２面	34	〈23〉	22
ピット39	第２面	43	36	11
ピット40	第２面	58	〈23〉	10
ピット41	第２面	48	39	38
溝状遺構３	第３面	〈700〉	60～70	29
溝状遺構４	第３面	〈540〉	60～100	24
溝状遺構５	第３面	〈190〉	30～40	12
石列１	第３面	〈100〉	〈93〉	－
土坑12	第３面	〈53〉	〈39〉	14
土坑13	第３面	91	89	18
土坑14	第３面	〈160〉	〈57〉	19
ピット42	第３面	(37)	36	4
ピット43	第３面	44	42	14
ピット44	第３面	24	22	6
ピット45	第３面	36	29	14
ピット46	第３面	32	〈15〉	8
ピット47	第３面	38	38	41
ピット48	第３面	51	38	21
ピット49	第３面	55	41	19
ピット50	第３面	24	21	19
礎板建物１	第４面	〈800〉	〈210〉	８～50
溝状遺構６	第４面	〈900〉	40～50	20～25
溝状遺構７	第４面	〈220〉	100	20
溝状遺構８	第４面	〈80〉	30	11
土坑15	第４面	75	58	20
土坑16	第４面	75	73	15
土坑17	第４面	〈150〉	80	19
土坑18	第４面	106	76	22
土坑19	第４面	〈85〉	〈50〉	6
土坑20	第４面	86	〈20〉	6
土坑21	第４面	〈134〉	〈70〉	10
土坑22	第４面	74	〈53〉	64
土坑23	第４面	〈104〉	58	20
ピット51	第４面	59	50	14
ピット52	第４面	〈45〉	〈13〉	－
ピット53	第４面	〈36〉	35	7
ピット54	第４面	33	〈15〉	7
ピット55	第４面	26	〈15〉	14
ピット56	第４面	31	26	29
ピット57	第４面	32	25	8
ピット58	第４面	36	〈25〉	９～17
ピット59	第４面	39	29	7
ピット60	第４面	23	17	9
ピット61	第４面	37	36	6
ピット62	第４面	10	10	8
ピット63	第４面	30	27	30
ピット64	第４面	〈21〉	〈19〉	9
ピット65	第４面	12	9	12
ピット66	第４面	32	(30)	34
ピット67	第４面	40	27	30
ピット68	第４面	30	30	32
ピット69	第４面	24	22	12
ピット70	第４面	28	27	11
ピット71	第４面	38	37	14
ピット72	第４面	(39)	(32)	18
ピット73	第４面	(40)	37	17
ピット74	第４面	11	9	28
ピット75	第４面	22	20	5
ピット76	第４面	25	(24)	21
ピット77	第４面	(45)	(40)	24
ピット78	第４面	22	21	7
ピット79	第４面	〈28〉	〈23〉	10
ピット80	第４面	〈18〉	〈３〉	－
ピット81	第４面	41	29	34
ピット82	第４面	〈９〉	〈４〉	23
ピット83	第４面	8	8	16
ピット84	第４面	23	〈11〉	12
ピット85	第４面	28	〈27〉	7
ピット86	第４面	〈23〉	〈15〉	9
ピット87	第４面	〈23〉	〈５〉	－
ピット88	第４面	〈23〉	24	23
ピット89	第４面	〈19〉	22	5
ピット90	第４面	33	30	14
ピット91	第４面	50	44	30
ピット92	第４面	25	〈21〉	5
ピット93	第４面	〈23〉	〈15〉	13
ピット94	第４面	26	25	9
ピット95	第４面	30	30	6
ピット96	第４面	48	39	－
ピット97	第４面	29	29	29
ピット98	第４面	26	23	5
ピット99	第４面	〈35〉	40	15
ピット100	第４面	43	〈30〉	19
ピット101	第４面	21	21	8
ピット102	第４面	(21)	17	8
ピット103	第４面	31	〈18〉	9
ピット104	第４面	30	29	14
ピット105	第４面	25	〈16〉	7
ピット106	第４面	〈28〉	〈12〉	18
ピット107	第４面	〈22〉	25	8
ピット108	第４面	29	27	10
ピット109	第４面	29	27	13
ピット110	第４面	〈18〉	〈11〉	10
ピット111	第４面	23	22	20
ピット112	第４面	12	12	7
ピット113	第４面	17	10	7
ピット114	第４面	13	13	5
ピット115	第４面	23	20	4
ピット116	第４面	25	(23)	21
ピット117	第４面	55	52	25
ピット118	第４面	37	〈15〉	16
ピット119	第４面	40	(35)	19
ピット120	第４面	〈31〉	〈29〉	10
ピット121	第４面	23	23	37
ピット122	第４面	34	27	21
ピット123	第４面	49	(38)	12
溝状遺構９	第５面	〈220〉	80～100	47
土坑24	第５面	91	84	17
土坑25	第５面	102	71	36
ピット124	第５面	19	16	5
ピット125	第５面	25	22	23
ピット126	第５面	31	〈16〉	21
ピット127	第５面	11	11	9
ピット128	第５面	10	9	6
ピット129	第５面	13	12	11
ピット130	第５面	12	11	12
ピット131	第５面	15	14	13
ピット132	第５面	28	24	4
ピット133	第５面	〈17〉	15	4
ピット134	第５面	25	24	10
ピット135	第５面	10	10	10
ピット136	第５面	8	7	4
ピット137	第５面	32	29	13
ピット138	第５面	31	20	8
ピット139	第５面	37	29	9
ピット140	第５面	33	32	12
ピット141	第５面	12	10	6

※礎板建物の深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表８　出土遺物一覧表

表土

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	52
【染付磁器】		
肥前	小丸碗	1
【陶器】		
常滑	甕	4
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	菊丸瓦	1
	桟瓦	1
【石製品】		
	石臼	1
	合計	62

第１面

溝状遺構１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	23

井戸１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	123
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	3
【木製品】		
	箸状	3
	建築部材	1
	棒状・串状	1
	用途不明	1
	合計	135

井戸１掘り方

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	1
【石製品】		
	滑石製石鍋転用品	1
【木製品】		
	箸状	2
	建築部材	1
	合計	24

土坑１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	箸状	1
	用途不明	1
	合計	17

土坑２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	38
【白磁】		
	碗	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	建築部材	1
	用途不明	3
	合計	44

土坑３

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【石製品】		
	砥石	1
	合計	14

土坑４

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	11

土坑５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

土坑６

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	9

ピット２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	28
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	29

ピット４

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット６

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット９

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット11

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	4

ピット12

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット16

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット18

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット19

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	11

ピット20

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット21

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	4
	合計	5

ピット23

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット24

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	15
	合計	18

ピット26

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット30

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

第１面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ　ロクロ成形	655
【白磁】		
	皿Ⅸ類	6
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
	器種不明小破片	4
【青白磁】		
	梅瓶蓋	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
	褐釉陶器	2
瀬戸	香炉	2
	入子	1
	擂鉢	1
	卸皿	1
	器種不明小破片	6
常滑	甕	68
	片口鉢Ⅰ類	1
北部系	山茶碗	2
備前	擂鉢	1
【土器】		
	火鉢小破片	5
【瓦】		
	丸瓦	2
	平瓦	2
【木製品】		
	箸状	2
	折敷	1
	調理具（曲物）	1
	桶蓋	1
	建築部材	3
	楔	1
	用途不明	3
	形代	1
	合計	779

第１面 構成土

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	249
【白磁】		
	碗	1
	皿Ⅸ類	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	3
	坏Ⅲ－３ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	21
	片口鉢Ⅰ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＢ類	1
	火鉢ＩＣ類	1
	碗	2
【木製品】		
	漆製品（皿）	2
	箸状	2
	調理具（曲物）	1
	連歯下駄	1
	建築部材	1
	楔	1
	棒状・串状	3
	合計	296

第２面

溝状遺構２		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	5
	かわらけ　手づくね成形	1
	【白磁】	
	碗Ⅸ類	1
	皿Ⅸ類	1
	【青磁】	
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	【金属製品】	
	銭貨	1
	【木製品】	
	箸状	24
	調理具（曲物）	1
	草履芯	1
	火きり棒	1
	建築部材	1
	杭	1
	合計	39

土坑７		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	22
	【青磁】	
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	【陶器】	
常滑	甕	5
	【石製品】	
	硯	1
	【木製品】	
	漆製品（皿）	1
	箸状	4
	用途不明	2
	合計	36

土坑８		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	8
	【白磁】	
	皿Ⅸ類	1
	【陶器】	
常滑	甕	3
	【石製品】	
	硯	1
	【木製品】	
	漆製品（皿）	1
	箸状	3
	草履芯	1
	用途不明	1
	合計	19

土坑９		
産　地	器　種	破片数
	【木製品】	
	漆製品（皿）	1
	箸状	4
	棒状・串状	1
	合計	6

土坑10		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	7
	【陶器】	
常滑	鳶口壺	1
	【木製品】	
	棒状・串状	1
	合計	9

ピット34		
産　地	器　種	破片数
	【木製品】	
	漆製品（椀）	1
	独楽	1
	合計	2

ピット35		
産　地	器　種	破片数
	【青磁】	
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	合計	1

ピット37		
産　地	器　種	破片数
	【木製品】	
	箸状	3
	折敷	4
	用途不明	4
	合計	11

ピット38		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	3
	【青磁】	
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	【陶器】	
常滑	甕	2
	合計	6

ピット39		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット40		
産　地	器　種	破片数
	【白磁】	
	皿Ⅸ類	1
	【木製品】	
	用途不明	1
	合計	2

ピット41		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	6
	【陶器】	
常滑	甕	2
	合計	8

第２面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	722
	かわらけ　手づくね成形	1
	【白磁】	
	合子蓋	1
	碗（陽刻）	1
	碗Ⅸ類	1
	皿Ⅸ類	7
	【青磁】	
	碗Ⅱ－ｂ類	11
龍泉窯系	坏Ⅲ－３ｂ類	1
	器種不明小破片	7
	【青白磁】	
	梅瓶蓋	1
	【陶器】	
瀬戸	器種不明小破片	2
	甕	47
常滑	片口	1
	片口鉢Ⅱ類	3
	【土師質・瓦質土器】	
	火鉢ＩＢ類	1
	火鉢小破片	1
	【瓦】	
	平瓦	3
	【石製品】	
	砥石	2
	【金属製品】	
	銭貨	2
	釘	1
	器種不明	1
	【木製品】	
	漆製品（皿）	2
	箸状	6
	折敷	4
	台	1
	草履芯	1
	火処具	1
	篦状状	1
	用途不明	10
	合計	843

第２面 構成土		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	350
	【白磁】	
	皿	2
	皿Ⅸ類	1
	【陶器】	
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	58
	片口鉢Ⅰ類	1
	【土師質・瓦質土器】	
	火鉢ＩＣ類	2
	【瓦】	
	平瓦	1
	【木製品】	
	漆製品（膳）	1
	箸状	6
	鞘	2
	草履芯	2
	楔	1
	棒状・串状	1
	用途不明	1
	合計	430

第３面

溝状遺構４		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	36
	【陶器】	
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
	【木製品】	
	箸状	4
	草履芯	1
	建築部材	1
	用途不明	5
	合計	51

溝状遺構５		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	2
	【石製品】	
	滑石製石鍋	2
	【木製品】	
	箸状	5
	合計	9

土坑12		
産　地	器　種	破片数
	【木製品】	
	箸状	1
	合計	1

土坑13		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	14
	【木製品】	
	箸状	5
	用途不明	1
	合計	20

ピット43		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【青磁】	
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	【陶器】	
常滑	甕	1
	合計	3

ピット45		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	【陶器】	
常滑	甕	1
	合計	2

ピット47		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	3
	【木製品】	
	草履芯	1
	合計	4

ピット48		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	9
	【陶器】	
常滑	甕	1
	【木製品】	
	箸状	2
	調理具（曲物）	1
	合計	13

ピット50		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

第３面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
	【かわらけ】	
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	821
	【白磁】	
	皿Ⅸ類	5
	【青磁】	
	碗Ⅱ－ｂ類	8
龍泉窯系	碗Ⅲ－３類	1
	坏Ⅲ－ｂ類	2
	皿	1
	【青白磁】	
	合子蓋	1
	【陶器】	
中国	黄釉盤	1
常滑	甕	49
	片口鉢Ⅰ類	14
産地不明	山皿	1
	【土師質・瓦質土器】	
	火鉢小破片	4
	【瓦】	
	平瓦	3
	【石製品】	
	滑石製石鍋	2
	温石	1
	【骨角製品】	
	野沓	1
	【木製品】	
	漆製品（椀）	3
	漆製品（皿）	12
	漆製品（櫛）	1
	箸状	288
	折敷	3
	経木折敷	1
	調理具（曲物）	4
	調度具	1
	草履芯	10
	火きり棒	2
	織機具	1

	建具	2
	円盤状	1
	建築部材	9
	篦状	2
	棒状・串状	14
	用途不明	18
	合計	1,288

第３面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	195
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	5
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
	碗Ⅲ類	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
	梅瓶蓋	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
	黄釉盤	1
渥美	甕	1
常滑	甕	5
	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	3
【木製品】		
	漆製品（皿）	2
	箸状	9
	経木折敷	1
	火きり棒	1
	円盤状	1
	篦状	2
	棒状・串状	4
	用途不明	1
	形代	1
	合計	240

第４面

礎板建物１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	89
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ－１類	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	7
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【瓦】		
	丸瓦	1
【木製品】		
	漆製品（皿）	7
	漆製品（椀）	1
	箸状	135
	折敷	1
	調理具（曲物）	1
	扇	1
	鞘	1
	草履芯	1
	篦状	2
	建築部材	47
	棒状・串状	1
	用途不明	3
	形代	1
	礎板	3
	合計	306

礎板建物１－Ｐ１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

礎板建物１－Ｐ４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	4
	合計	14

礎板建物１－Ｐ９		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

礎板建物１－Ｐ10		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

礎板建物１－Ｐ12		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【木製品】		
	箸状	2
	用途不明	2
	合計	5

溝状遺構６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	43
【陶器】		
常滑	甕	12
	片口鉢Ⅰ類	1
【木製品】		
	箸状	38
	用途不明	2
	合計	96

溝状遺構７		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

溝状遺構８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
	合計	14

土坑15		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【木製品】		
	蓋摘み部	1
	合計	3

土坑16		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【木製品】		
	草履芯	1
	調度具	1
	用途不明	5
	合計	13

土坑17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	19
【白磁】		
	碗Ⅸ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1

【骨角製品】		
	笄	1
【木製品】		
	箸状	11
	調理具（曲物）	2
	杭	1
	棒状・串状	3
	用途不明	1
	合計	40

土坑18		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【木製品】		
	礎板	1
	合計	2

土坑21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【木製品】		
	礎板	1
	建築部材	1
	合計	3

土坑22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	57
【木製品】		
	箸状	8
	調理具（曲物）	7
	用途不明	8
	合計	80

土坑23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【木製品】		
	用途不明	1
	合計	11

ピット53		
産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	丸瓦	1
	合計	1

ピット58		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット61		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	合計	1

ピット71		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット72		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	建具	1
	合計	1

ピット77		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	箸状	2

	建具	2
	合計	4

ピット88		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	建築部材	17
	合計	17

ピット91		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット94		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット100		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	楔	1
	合計	2

ピット101		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット108		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット111		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット113		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	礎板	1
	合計	1

ピット116		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット117		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット118		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	用途不明	1
	合計	1

ピット120		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	礎板	1
	合計	1

ピット121		
産　地	器　種	破片数

【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット122		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット130		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	用途不明	2
	合計	2

ピット135		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	用途不明	1
	合計	1

ピット137		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	棒状・串状	1
	合計	1

ピット141		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	礎板	1
	合計	1

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	445
【白磁】		
	Ⅲ区類	2
【青磁】		
同安窯系	Ⅲ－２ｂ類	1
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	盤	2
	器種不明小破片	4
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
常滑	甕	30
	片口鉢Ⅰ類	9
【瓦】		
	丸瓦	2
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	滑石製石鍋転用品	1
	硯	1
【骨角製品】		
	笄	1
【金属製品】		
	火箸	2
	銭貨	1
	釘	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	漆製品（皿）	5
	漆製品（蓋）	1
	箸状	194
	折敷	1
	調理具（曲物）	1
	板杓子	2
	草履芯	1
	連歯下駄	1
	火きり棒	1
	建具	3
	建築部材	20
	棒状・串状	6
	用途不明	27
	合計	771

第４面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	123
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	3
	盤	1
	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	7
	片口鉢Ⅰ類	2
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	板杓子	1
	草履芯	1
	合計	143

第５面

溝状遺構９		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	広口壺大	1
【木製品】		
	箸状	5
	草履芯	2
	球	2
	合計	12

土坑24		
産　地	器　種	破片数
【瓦】		
	平瓦	1
【木製品】		
	用途不明	3
	合計	4

土坑25		
産　地	器　種	破片数
【木製品】		
	草履芯	3
	用途不明	2
	合計	5

第５面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	34
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
【木製品】		
	箸状	24
	建具	1
	五輪塔ミニチュア	1
	棒状・串状	20
	用途不明	2
	杭	3
	合計	87

1．調査区遠景（北西から）

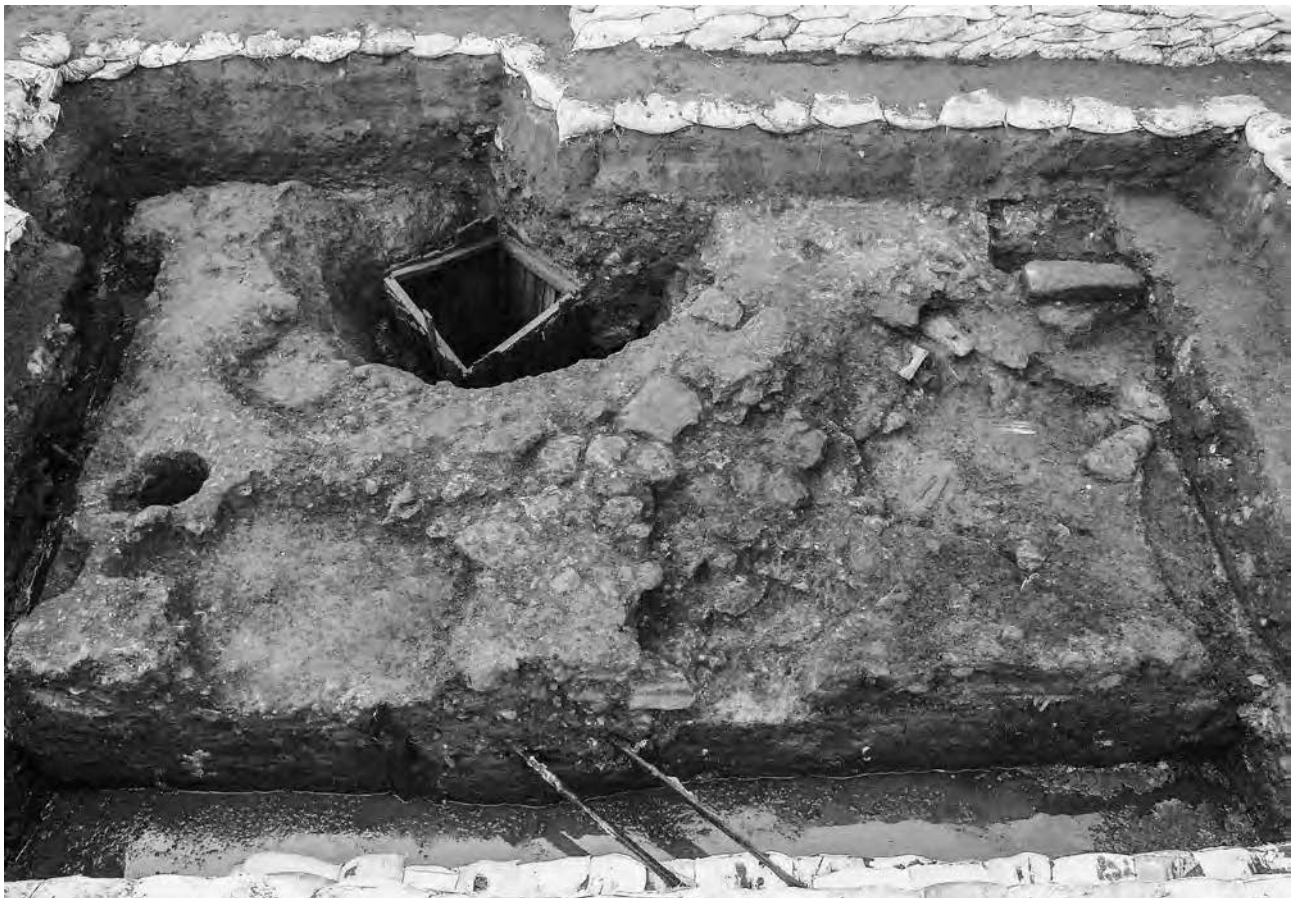
2．調査区中央土層断面（北から）

図版２

１．調査区西側第１面全景（南から）

２．第１面 井戸１（西から）

３．第１面 井戸１井戸枠（南から）



１．調査区西側第２面全景（東から）

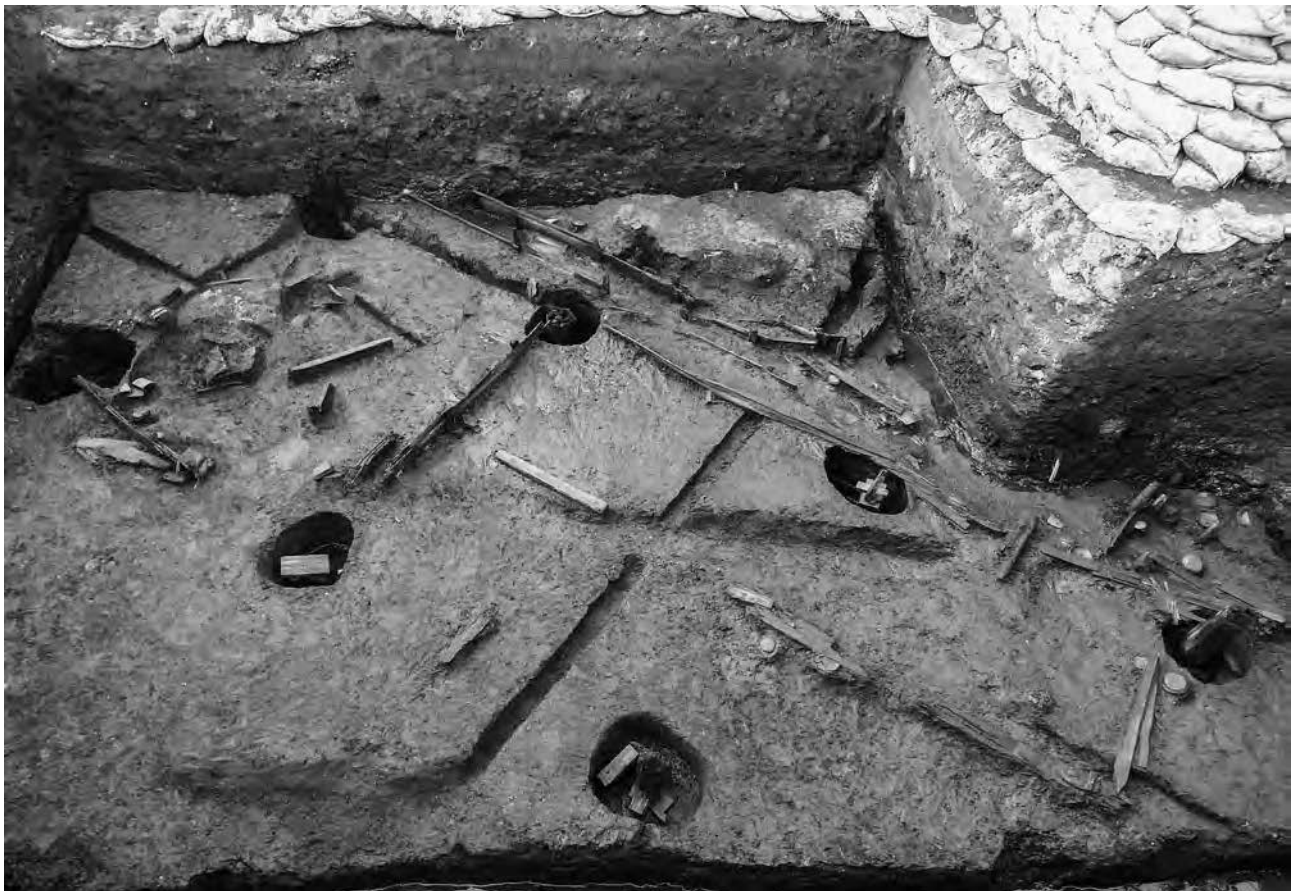
２．第２面 溝状遺構２礫出土状態（北から）

図版４

１．調査区東側第３面全景（南から）

２．第３面 石列１（西から）

１．調査区東側第４面全景（南から）



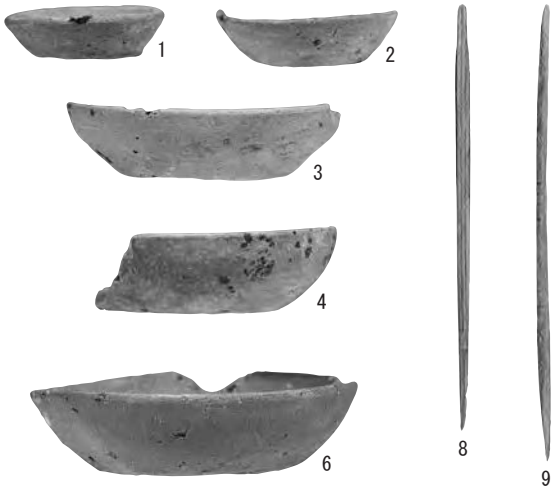
２．調査区東側第４面全景（東から）

図版６

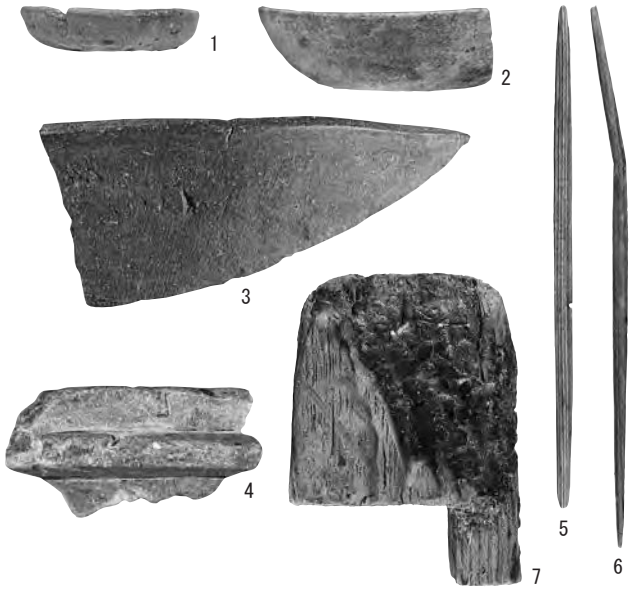
１．第４面 礎板建物１－Ｐ３（東から）

２．第４面 板壁建物１板壁および溝状遺構６（南東から）

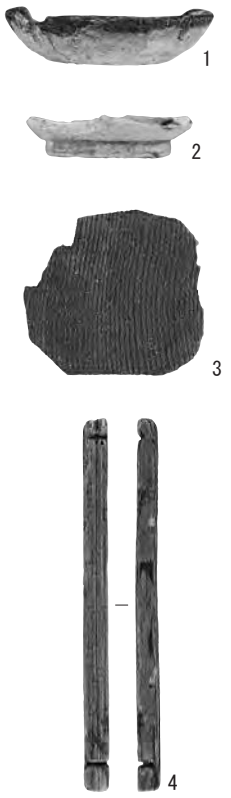
３．第４面 板壁建物１板壁および溝状遺構６（北東から）



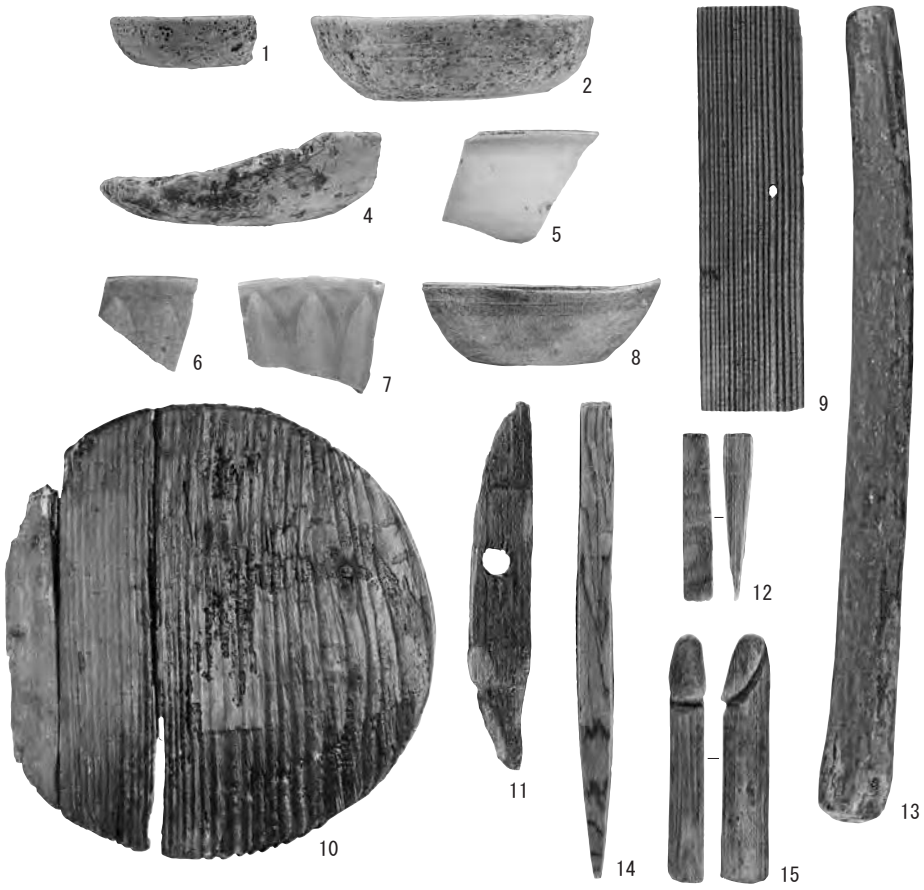
１．第１面 井戸１覆土出土遺物



２．第１面 井戸１掘り方出土遺物



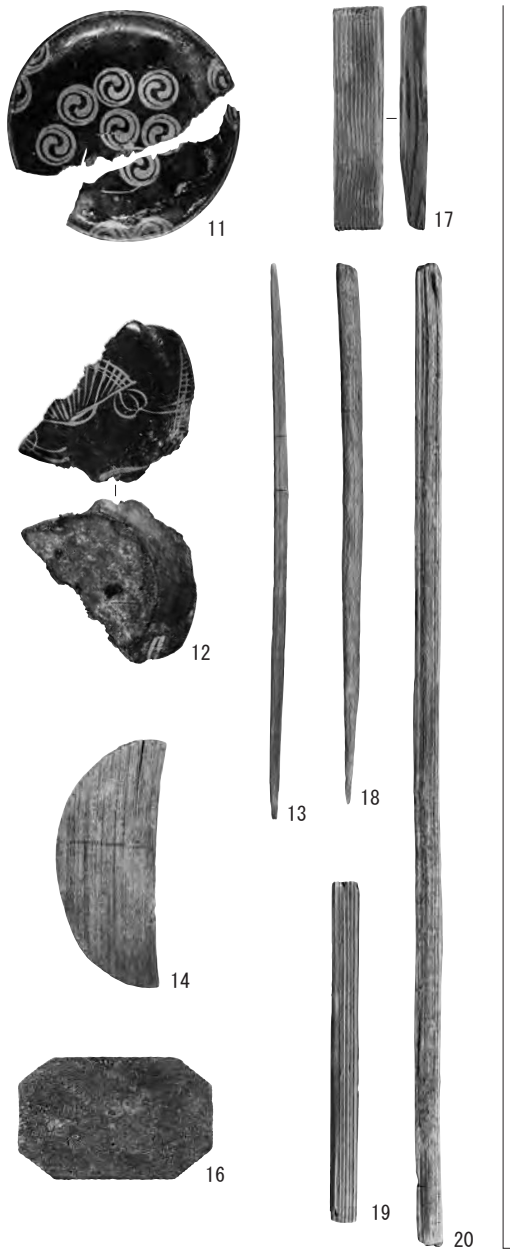
３．第１面 土坑２出土遺物

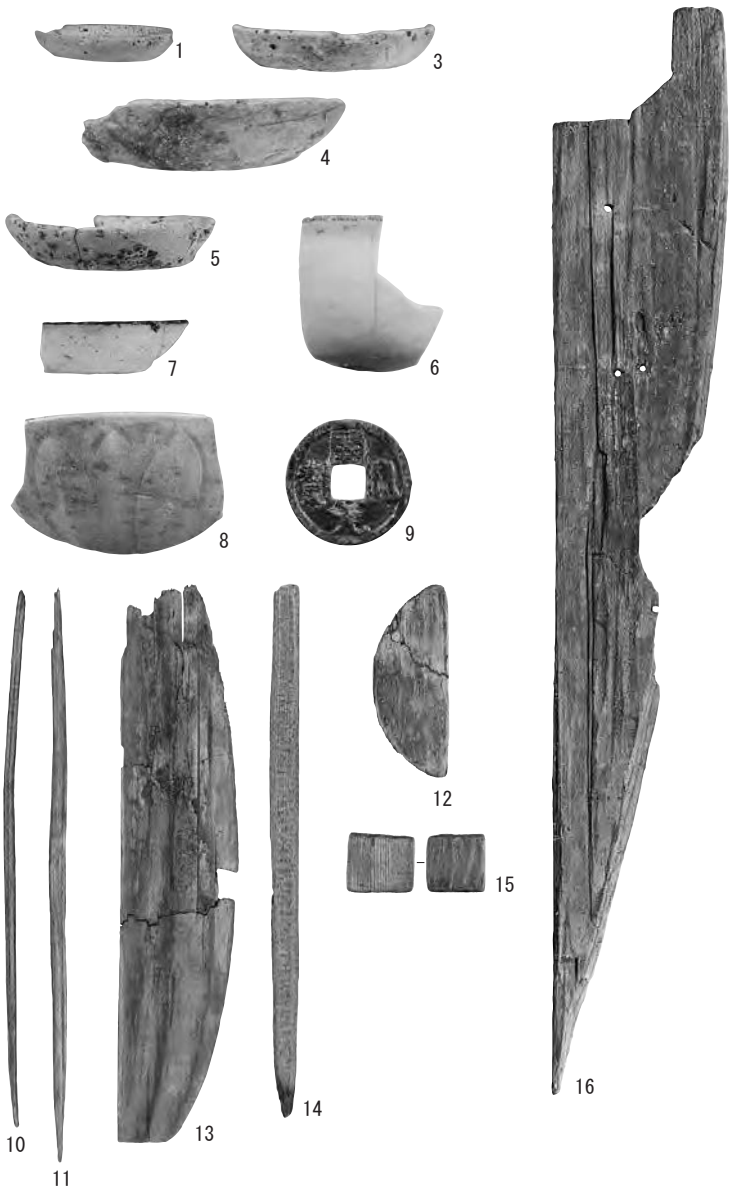


４．第１面 遺構外出土遺物

５．第１面 構成土出土遺物（１）

図版８



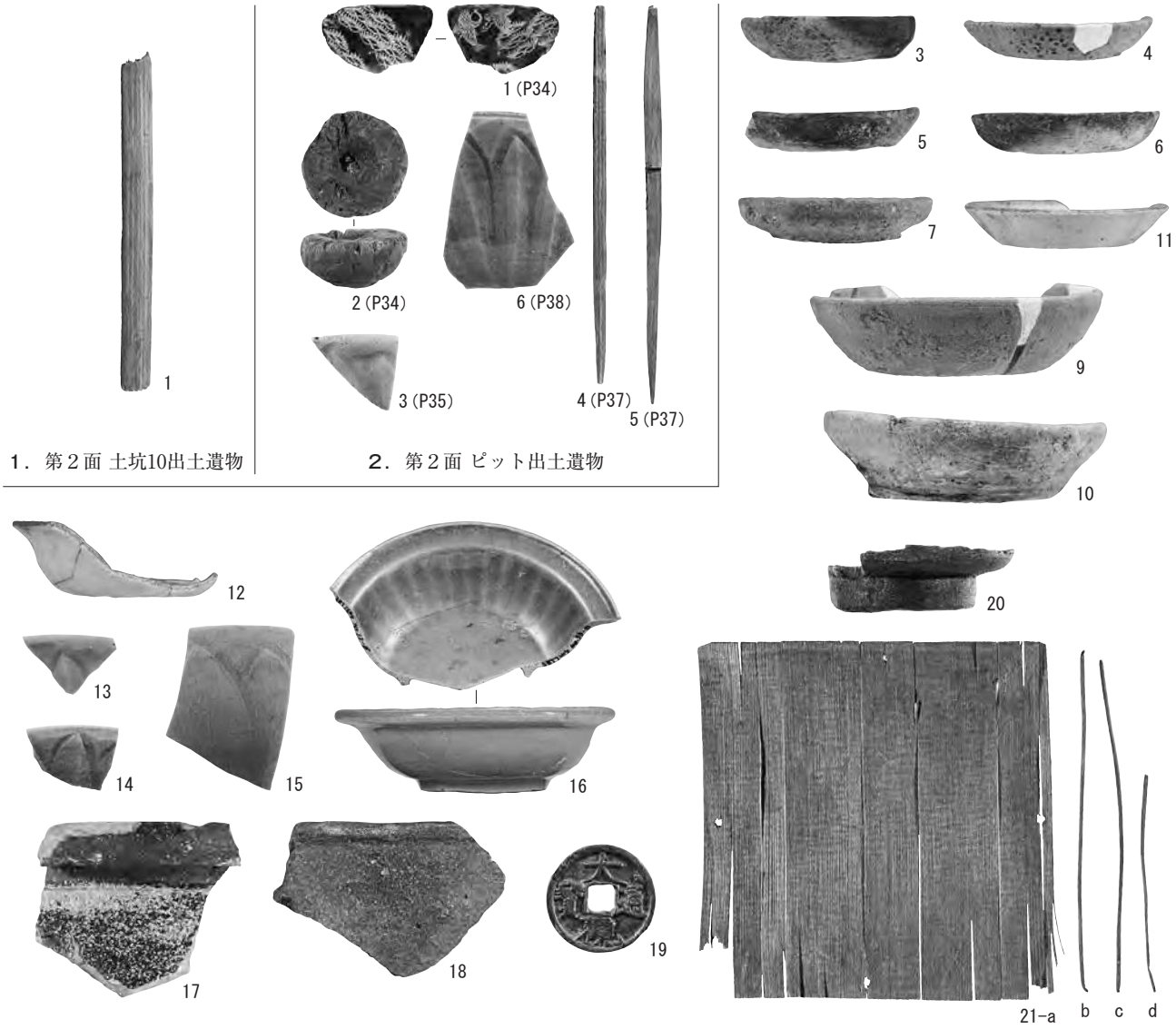


2．第２面 溝状遺構２出土遺物

1．第１面 構成土出土遺物（２）

3．第２面 土坑７出土遺物

4．第２面 土坑９出土遺物

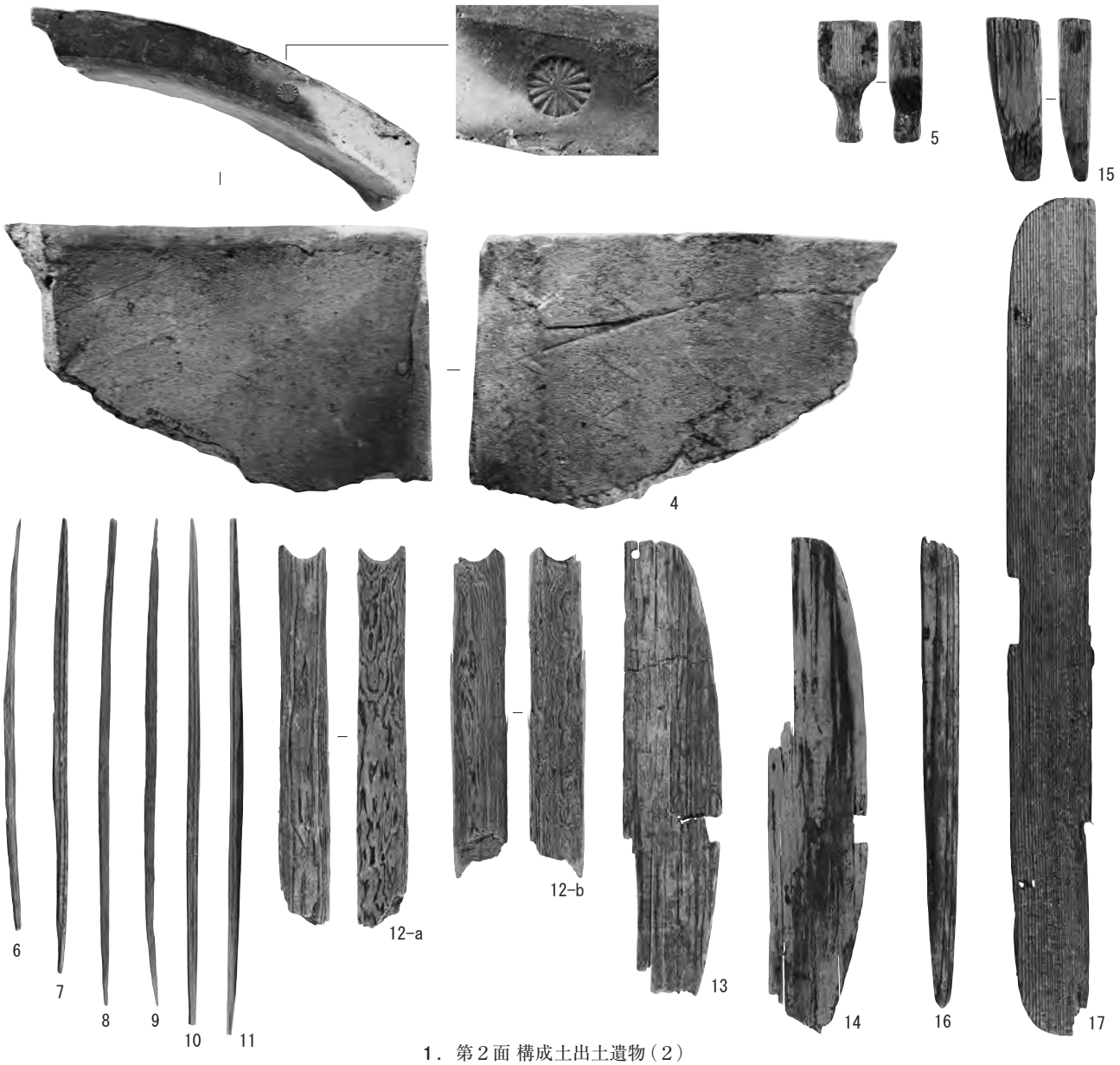


１．第２面 土坑10出土遺物　　２．第２面 ピット出土遺物

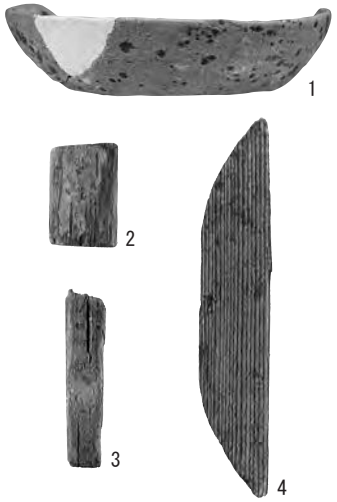
３．第２面 遺構外出土遺物

４．第２面 構成土出土遺物（１）

図版10

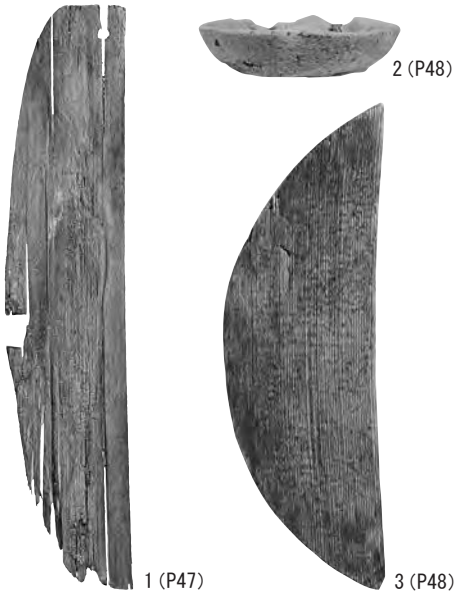


1．第２面 構成土出土遺物（２）

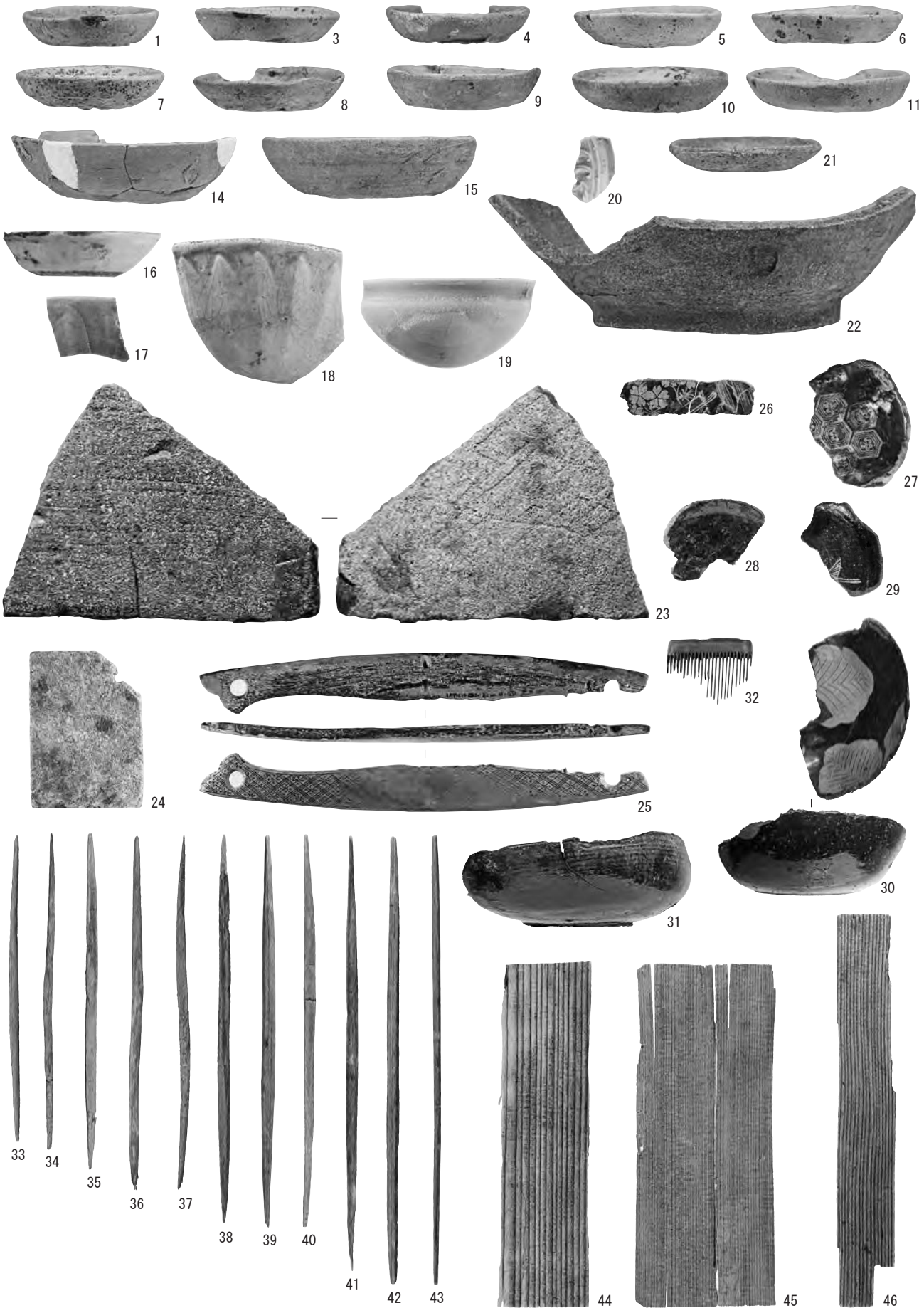


2．第３面 溝状遺構４出土遺物

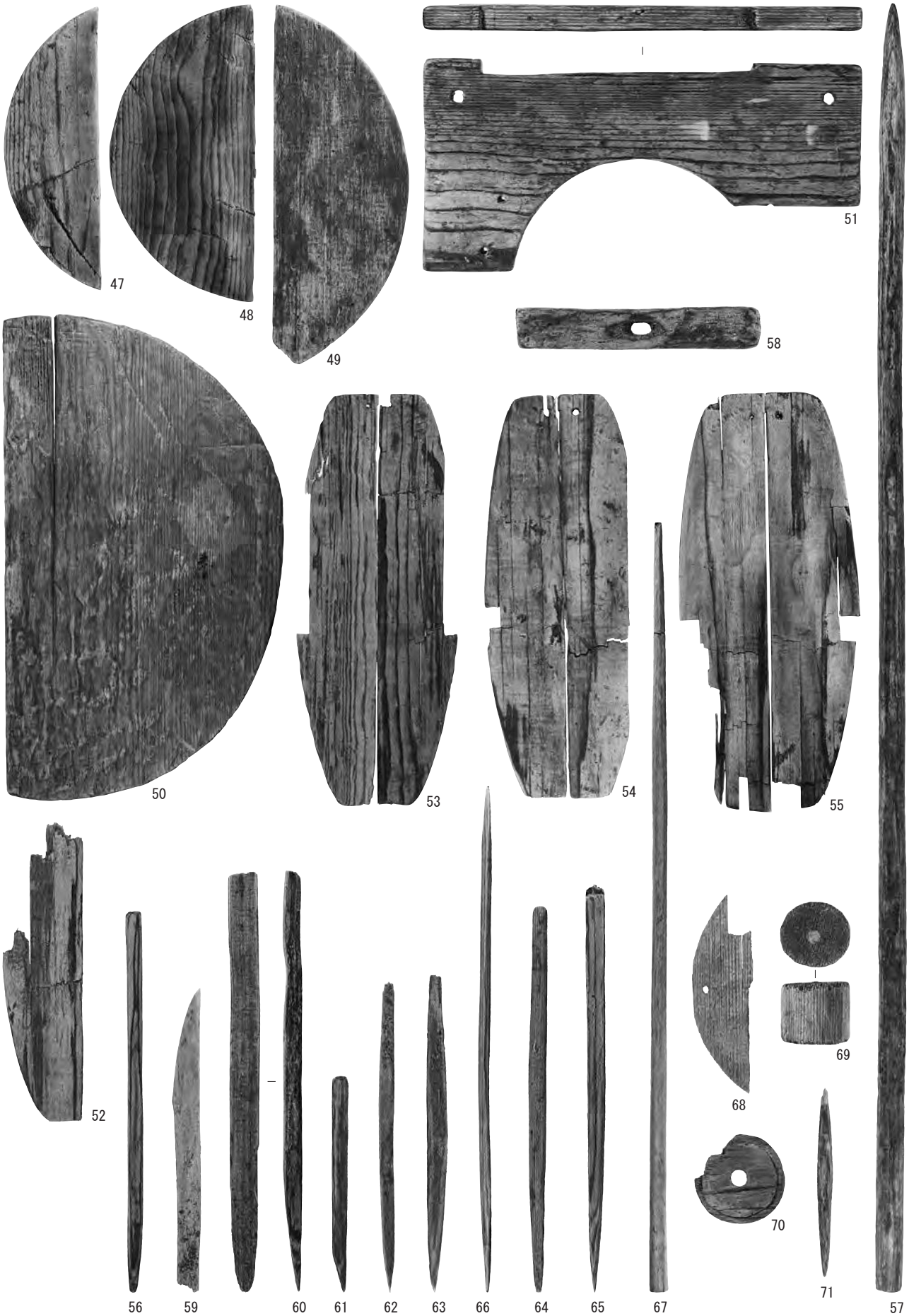
3．第３面 土坑12出土遺物



4．第３面 ピット出土遺物

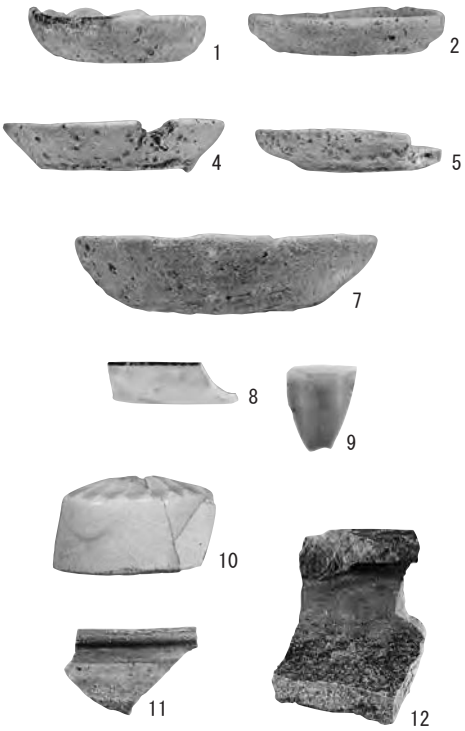


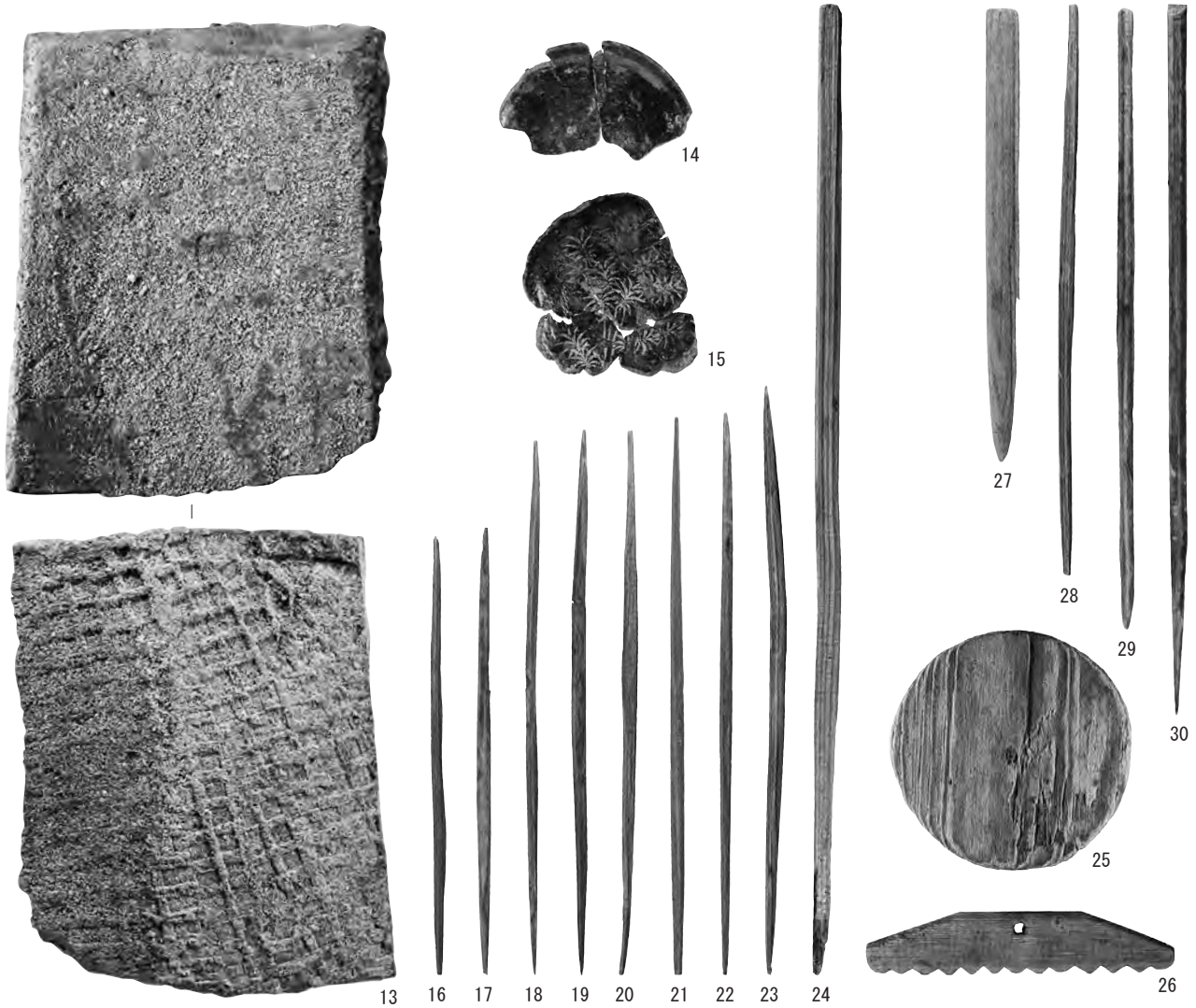
1．第３面 遺構外出土遺物（１）



1．第３面 遺構外出土遺物（２）

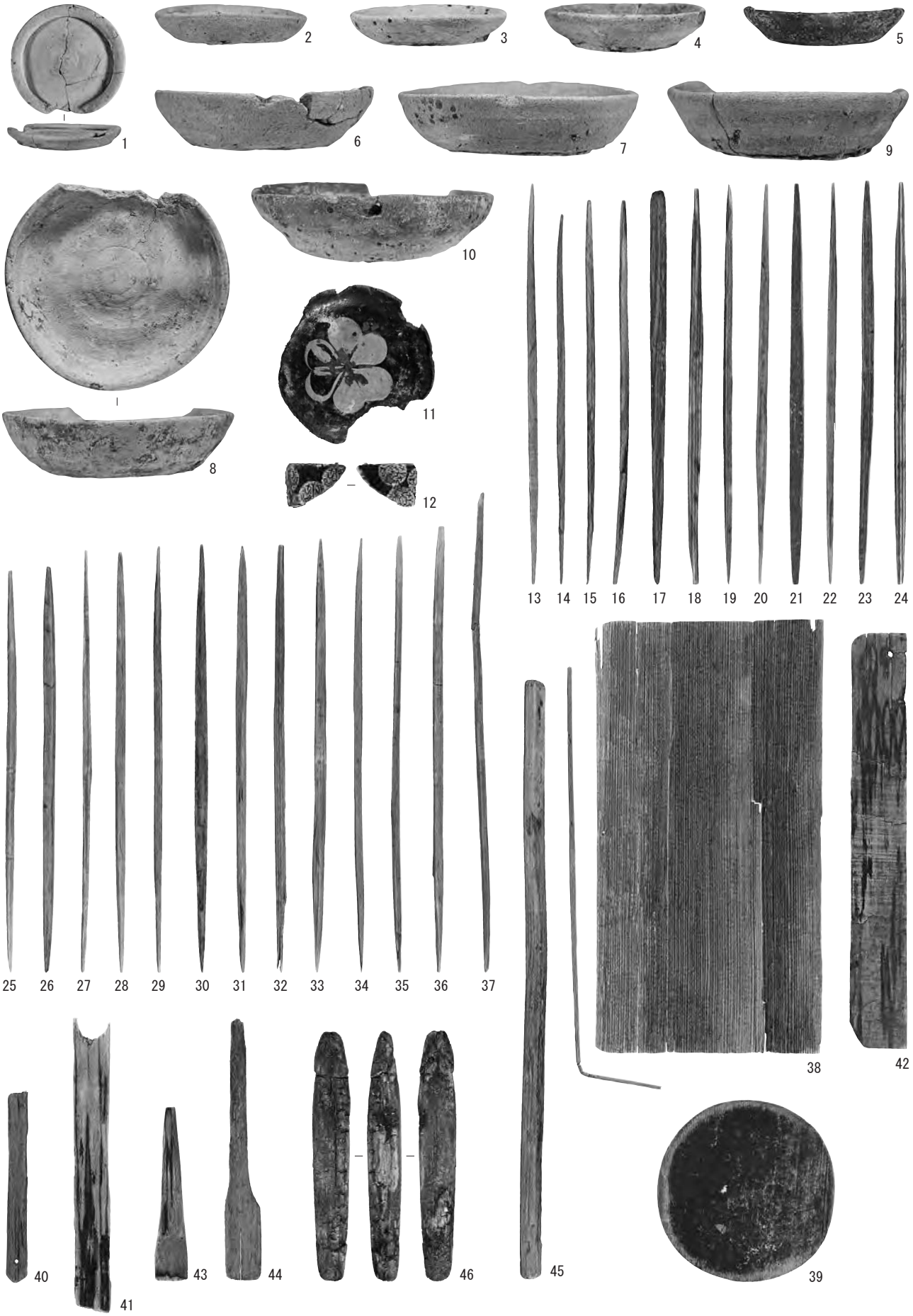
1．第３面 遺構外出土遺物（３）



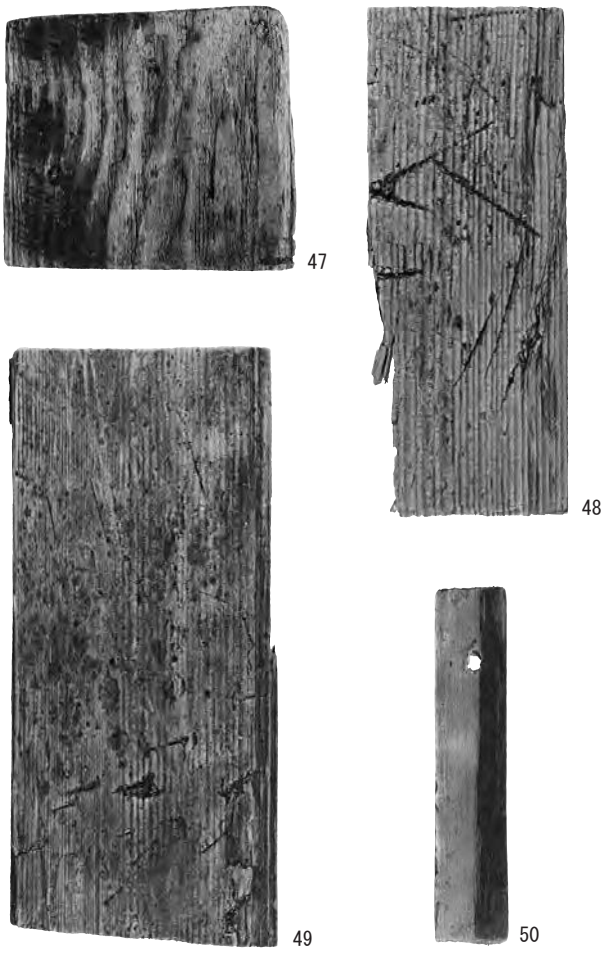


2．第３面 構成土出土遺物

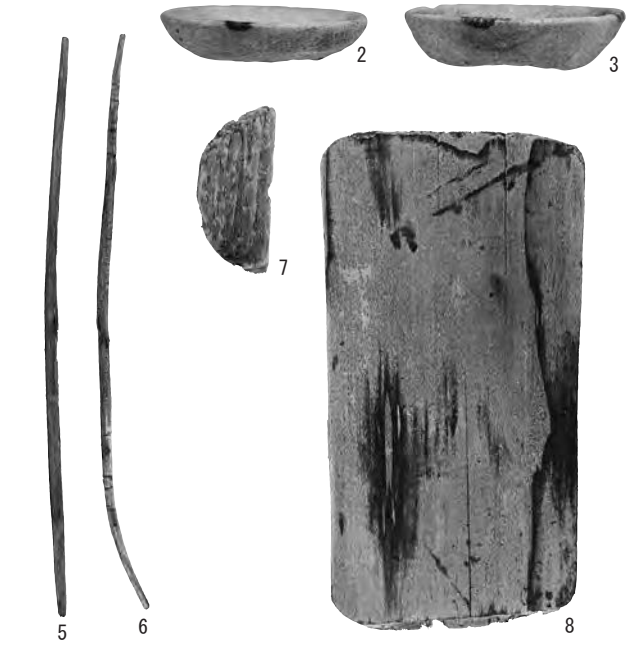
図版14



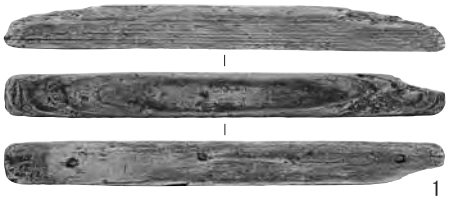
1．第４面 礎板建物１出土遺物（１）



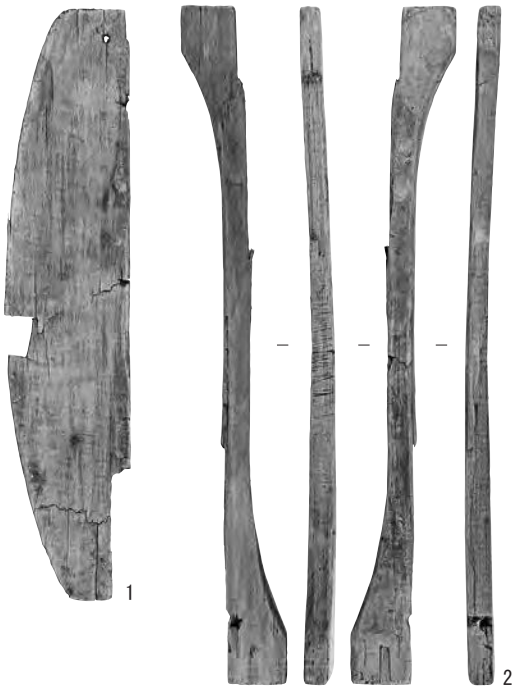
1．第４面 礎板建物１出土遺物（２）



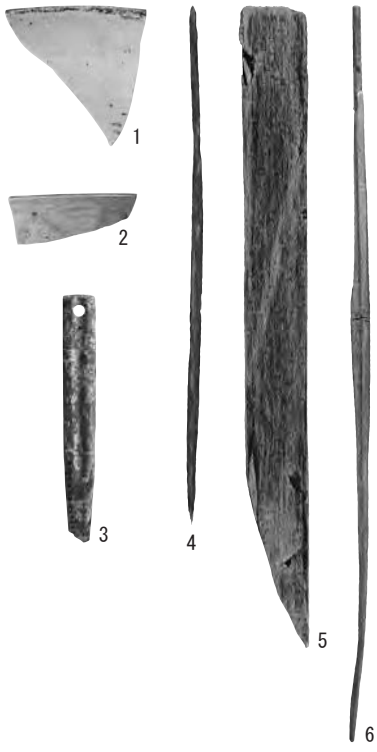
2．第４面 溝状遺構６出土遺物



3．第４面 土坑15出土遺物



4．第４面 土坑16出土遺物

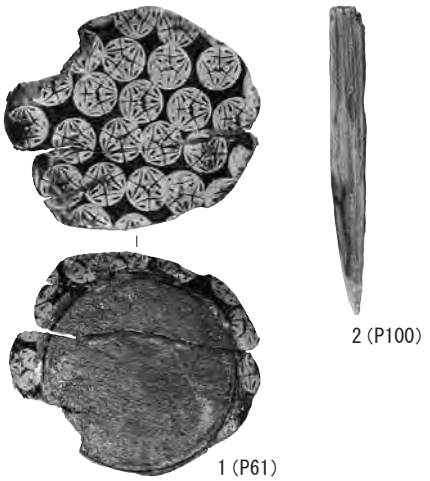


5．第４面 土坑17出土遺物

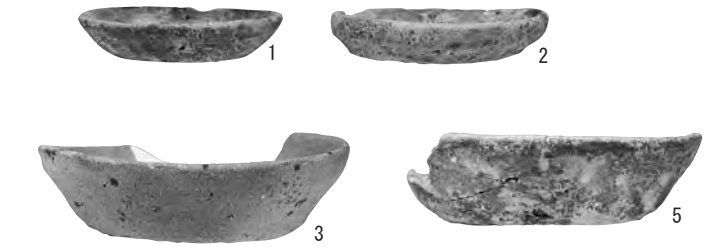
6．第４面 土坑18出土遺物

図版16

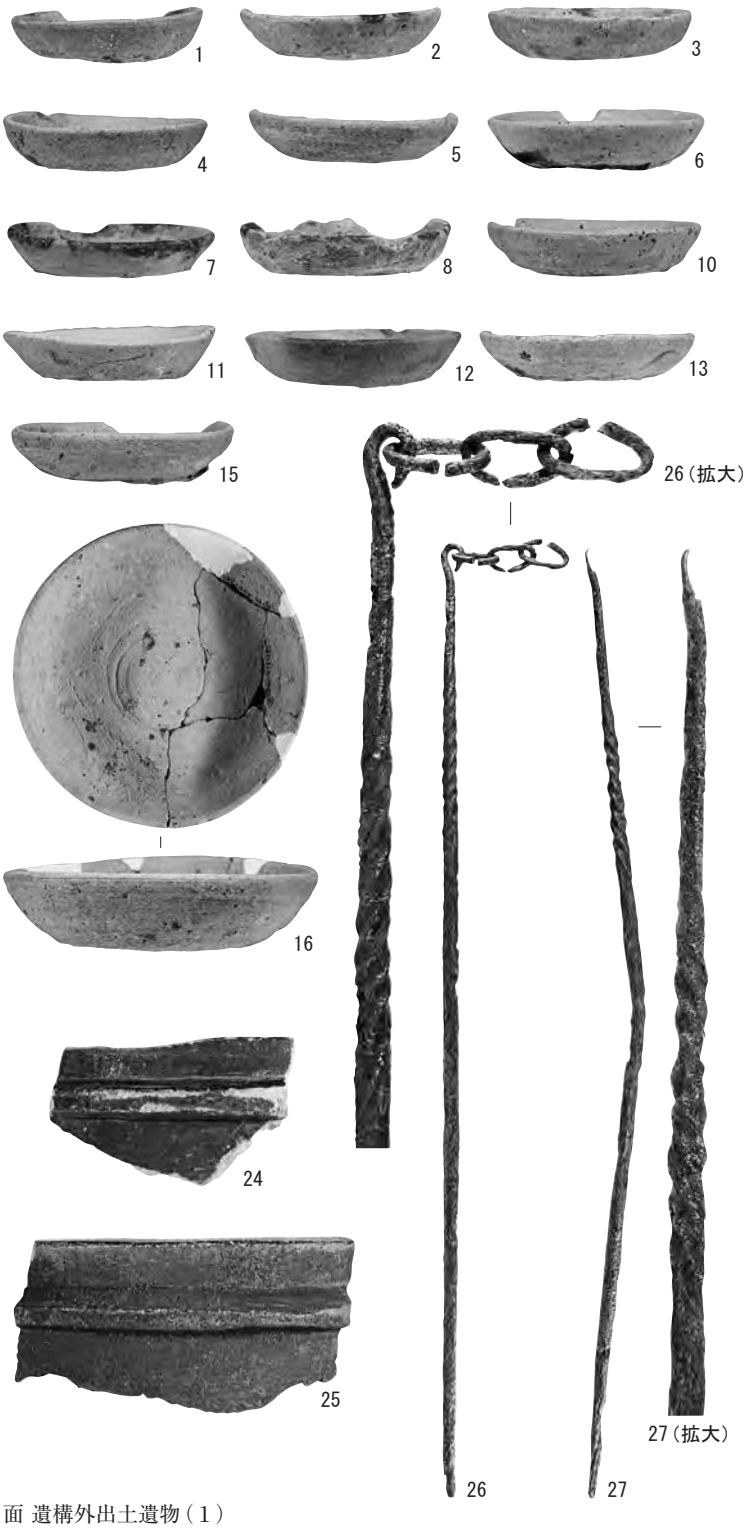
1．第４面 土坑21出土遺物



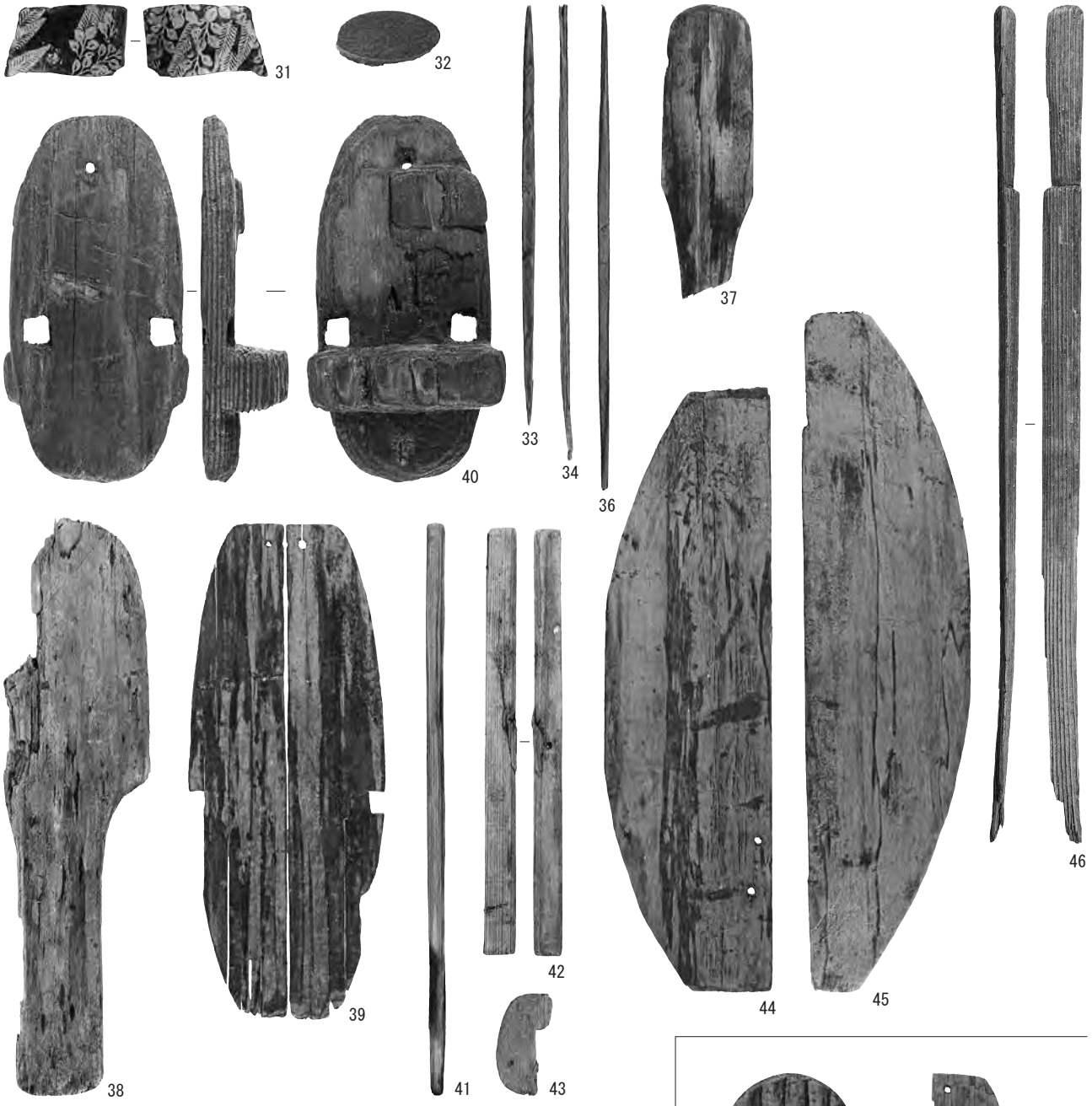
3．第４面 ピット出土遺物



2．第４面 土坑22出土遺物



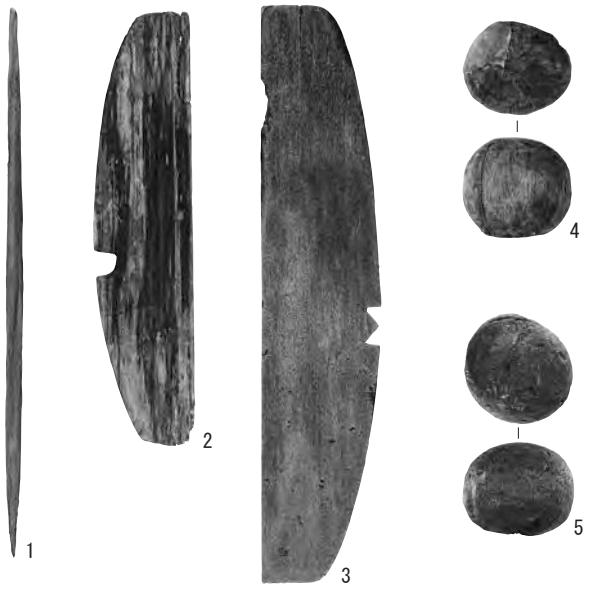
4．第４面 遺構外出土遺物（１）



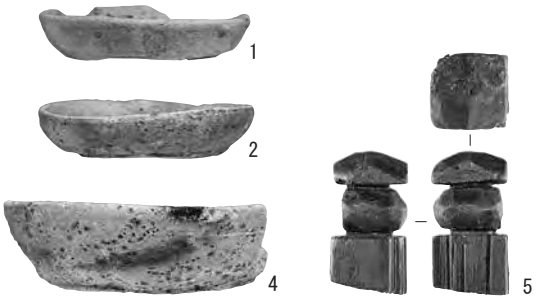
1．第４面 遺構外出土遺物（２）

2．第４面 構成土出土遺物

図版18



1．第５面 溝状遺構９出土遺物



2．第５面 遺構外出土遺物

名越ヶ谷遺跡（№231）

大町四丁目1884番14地点

例　言

1．本報は「名越ヶ谷遺跡」（神奈川県遺跡台帳№231）内、鎌倉市大町四丁目1884番14地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成24年９月25日～平成24年12月７日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は45㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　山口正紀
調　査　員　　岡田慶子・平井里永子
作　業　員　　赤坂　進・永野幹晴・安藤宗幸・廣田善幸
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．第四章の花粉分析は、パレオ・ラボに委託した。

6．本報に掲載した写真は、遺構を山口正紀、遺物を赤間和重が撮影した。

7．測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系ＡＥＲＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

8．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

9．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＮＧ1203」とした。

10．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

11．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：□整地・地業範囲
遺物：■煤およびタール状の黒色物が付着している部分

12．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

か わ ら け：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』

13．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 143
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 143
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 143
第３節　周辺の考古学的調査 …… 144

第二章　堆積土層 …… 148

第三章　発見された遺構と遺物 …… 148
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 150
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 154
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 166
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 172

第四章　自然科学分析 …… 173
名越ヶ谷遺跡の花粉分析 …… 173

第五章　まとめ …… 174

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 145
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 146
図３　調査区位置図 …… 147
図４　調査区配置図 …… 147
図５　調査区南壁 土層断面図 …… 149
図６　第１面 溝状遺構１ …… 150
図７　第１面 遺構分布図 …… 150
図８　第１面 落ち込み１ …… 151
図９　第１面 土坑１～８ …… 152
図10　第１面 土坑４出土遺物 …… 152
図11　第１面 土坑５出土遺物 …… 153
図12　第１面 土坑６出土遺物 …… 153
図13　第１面 ピット３・９・21 …… 153
図14　第１面 遺構外出土遺物 …… 154
図15　第２面 遺構分布図 …… 155
図16　第２面 方形竪穴状遺構１ …… 156
図17　第２面 方形竪穴状遺構１出土遺物 …… 156
図18　第２面 方形竪穴状遺構２ …… 156
図19　第２面 溝状遺構２・３ …… 157
図20　第２面 溝状遺構３出土遺物 …… 157
図21　第２面 方形土坑５出土遺物 …… 158
図22　第２面 方形土坑１～６ …… 159
図23　第２面 方形土坑６出土遺物 …… 159
図24　第２面 土坑９～28 …… 163
図25　第２面 土坑29～32 …… 165
図26　第２面 ピット出土遺物 …… 166
図27　第２面 遺構外出土遺物 …… 166
図28　第３面 遺構分布図 …… 167
図29　第３面 溝状遺構５出土遺物 …… 167
図30　第３面 溝状遺構４～６ …… 168
図31　第３面 土坑33～42 …… 170
図32　第３面 土坑41出土遺物 …… 170

図33　第３面 遺構外出土遺物 …… 171
図34　第４面 遺構分布図 …… 172
図35　第４面 溝状遺構７ …… 172
図36　第４面 遺構外出土遺物 …… 173

表　目　次

表１　名越ヶ谷遺跡 調査地点一覧 …… 144
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 176
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 176
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 178
表５　第４面 出土遺物観察表 …… 178
表６　遺構計測表 …… 179
表７　出土遺物一覧表 …… 179

図　版　目　次

図版１　１．調査地点近景（南から） …… 183
２．調査区南壁土層断面（北西から） … 183
図版２　１．調査区南側第１面全景（東から） … 184
２．調査区北側第１面全景（東から） … 184
３．調査区南側第２面全景（東から） … 184
４．調査区北側第２面全景（東から） … 184
図版３　１．調査区南側第３面全景（東から） … 185
２．調査区北側第３面全景（東から） … 185
３．調査区南側第４面全景（東から） … 185
４．調査区北側第４面全景（西から） … 185
図版４　１．第１面 土坑４出土遺物 …… 186
２．第１面 土坑５出土遺物 …… 186
３．第１面 土坑６出土遺物 …… 186
４．第１面 遺構外出土遺物 …… 186
５．第２面 方形竪穴状遺構１出土遺物
…… 186
６．第２面 溝状遺構３出土遺物 …… 186
７．第２面 方形土坑５出土遺物 …… 186
図版５　１．第２面 方形土坑６出土遺物 …… 187
２．第２面 ピット出土遺物 …… 187
３．第２面 遺構外出土遺物 …… 187
４．第３面 溝状遺構５出土遺物 …… 187
５．第３面 土坑41出土遺物 …… 187
６．第３面 遺構外出土遺物 …… 187
７．第４面 遺構外出土遺物 …… 187

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市大町四丁目1884番14で実施した個人住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である名越ヶ谷遺跡（神奈川県遺跡台帳№231）の範囲内にあたり、当該地周辺の調査状況から、地下に中世の遺構が存在することは確実であった。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査などの措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される45㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、山口正紀が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成24年９月25日～平成24年12月７日までの２ヵ月半ほどである。現地表の標高は約10.1ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、北西側をⅠ区として平成24年９月25日～平成24年11月１日、南東側をⅡ区として平成24年11月２日～平成24年12月７日まで調査を実施した。調査はまず重機により約40㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、Ⅰ・Ⅱ区ともに中世に属する第１～４面の合計４面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして12月７日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお測量に際しては、日本測地系（座標系ＡＥＲＡ９）に準じた、鎌倉市三級基準点（Ｘ＝－76362.102、Ｙ＝－24634.864）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海抜標高値は、鎌倉市三級基準点№53229（標高11.168ｍ）を基に移設した。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市大町四丁目1884番14に所在し、「名越ヶ谷遺跡（№231）」の範囲内に所在する。名越ヶ谷遺跡は鎌倉市の南東部域に位置し、鎌倉市街地から名越切通しに向かう県道鎌倉葉山線の東側一帯の、丘陵部を除いた名越ヶ谷のほぼ全域が包蔵地範囲となっている。調査地点は名越ヶ谷の開口部の東寄りに位置し、谷の中央を流れる逆川までの距離は直線にして50ｍほどである。名越ヶ谷は奥行きが１㎞以上で開口部付近の幅は300ｍ以上を測り、市内でも広大な谷戸の一つである。標高は開口部付近で約７ｍ、谷戸の中ほどで12～13ｍ、最奥部の黄金ヶ谷付近では30ｍを超え、谷戸幅も狭くなっている。谷戸の両端に延びる小支谷は雛壇状に連なっており、現在はその多くが住宅地に変貌している。

本遺跡の名称となっている「名越ヶ谷」は、『新編相模国風土記稿』鎌倉郡の項に「東方名越町より東南北三方に亘りて総名とす」とあり、松葉ヶ谷、花ヶ谷、山王ヶ谷、六坊ヶ谷、黄金ヶ谷などの支谷を含む谷戸群を総称して「名越ヶ谷」と呼ばれていたと考えられる。

隣接する包蔵地としては、名越ヶ谷中央の南に延びるやや広い谷戸部に慈恩寺遺跡（№230）、斜向いの北側に延びる幅の狭い支谷には名越山王堂遺跡（№234）、谷戸最奥部北端には北条時政邸跡／大町釈迦堂口遺跡（№235）、開口部の南東端には安国論寺遺跡（№323）、本遺跡の南西側境界となっている県道鎌倉葉山線の南側には米町遺跡（№245）が広がっている。

名越ヶ谷の周辺には日蓮宗寺院が点在しており、谷の開口部南東側には安国論寺や妙法寺、開口部北側奥野支谷には大寶寺、横須賀線の線路を越えたすぐ南側には長松寺が所在している。この他にも名

越ヶ谷内には慈恩寺、木束寺、田代観音堂、山王堂などの廃寺があったとされる（白井編 1976、貫・川副 1980）。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。

本地点は北東－南西方向に長い包蔵地範囲の南西端に位置し、県道鎌倉葉山線からやや東に入った場所にある。

本遺跡が展開する名越ヶ谷の谷戸全体をみてみると、開口部付近の平地に調査地点が集中していることが分かる。このうち、逆川の右岸に立地する主な調査地点には①～⑥の６地点がある。地図中では逆川から最も離れた丘陵裾部寄りに①大町三丁目1217番１地点が位置し、13世紀中頃～15世紀代にかけての５面以上の整地地業を伴う生活面と、県道鎌倉葉山線と同軸方向の掘立柱建物や塀、通路状遺構、井戸、木組施設、土坑などが発見され、塀や通路などの境界施設の存在からも屋敷地を示唆するような遺跡と考えられている（菊川 1995）。②大町三丁目2354番１、６地点からは２～７面にわたる中世の遺構面が確認され、井戸や土坑、柱穴が検出されている（福田 2019）。出土遺物から13世紀後半代～15世紀代の年代観が想定され、井戸を中心とした水場空間として利用された町屋の裏手であったと考えられている。②地点から50ｍほど北に位置する④大町三丁目2356番３地点では、13世紀中葉～14世紀後葉に至る３面の整地地業を伴う生活面が確認され、礎板建物や柱穴群、井戸、通路状遺構、庭園の一部と推測される玉砂利敷き面、かわらけ溜まりなどが検出されている（宮田・諸星ほか 2001）。逆川に面した③大町三丁目2353番２外地点では、中世に属する第２・３面から石組と木組による護岸を伴う河川が検出された（永田・齋藤 2018）。遺物は12世紀末～14世紀代の時間幅の広いものが混在していたが、護岸跡からは13世紀前葉～後葉頃の遺物が出土している。同様の護岸跡は③地点から逆川を100ｍほど遡ったところに位置する⑥大町三丁目1826番９地点の調査でも検出されており、旧逆川の右岸に形成された13世紀前半期の木組や、木組と石組とで構成された護岸施設の変遷が明らかにされている（手塚・野本 2002）。

逆川の左岸に目を転ずると、河川際に位置する⑦大町四丁目1880番６地点（田代・大坪 1995）、本調査地点の南側に隣接する⑧大町四丁目1888番の一部地点（山口 2012）、⑨大町四丁目1888番地点（汐見・野本ほか 2000）、調査面積が1,000㎡を超える規模の大きな調査が行われた⑩大町四丁目1901番16筆地点（宮田・滝澤・鯉渕 2003）がある。このうち⑩地点は妙法寺と安国論寺に挟まれた支谷の入口部分に位置し、付近には北条時政以来、北条氏の山荘があったとの伝承もある。13世紀前葉～14世紀後葉に至

表１　名越ヶ谷遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町四丁目1884番14地点	未報告
①	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町三丁目1217番１地点	菊川 1995
②	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町三丁目2354番１、６地点	福田 2019
③	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町三丁目2353番２外地点	永田・齋藤 2018
④	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町三丁目2356番３地点	宮田・諸星ほか 2001
⑤	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町三丁目2356番11地点	宮田　2003
⑥	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町三丁目1826番９地点	手塚・野本 2002
⑦	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町四丁目1880番６地点	田代・大坪 1995
⑧	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町四丁目1888番の一部地点	山口 2012
⑨	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町四丁目1888番地点	汐見・野本ほか 2000
⑩	名越ヶ谷遺跡（№231）	大町四丁目1901番16筆地点	宮田・滝澤・鯉渕 2003

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

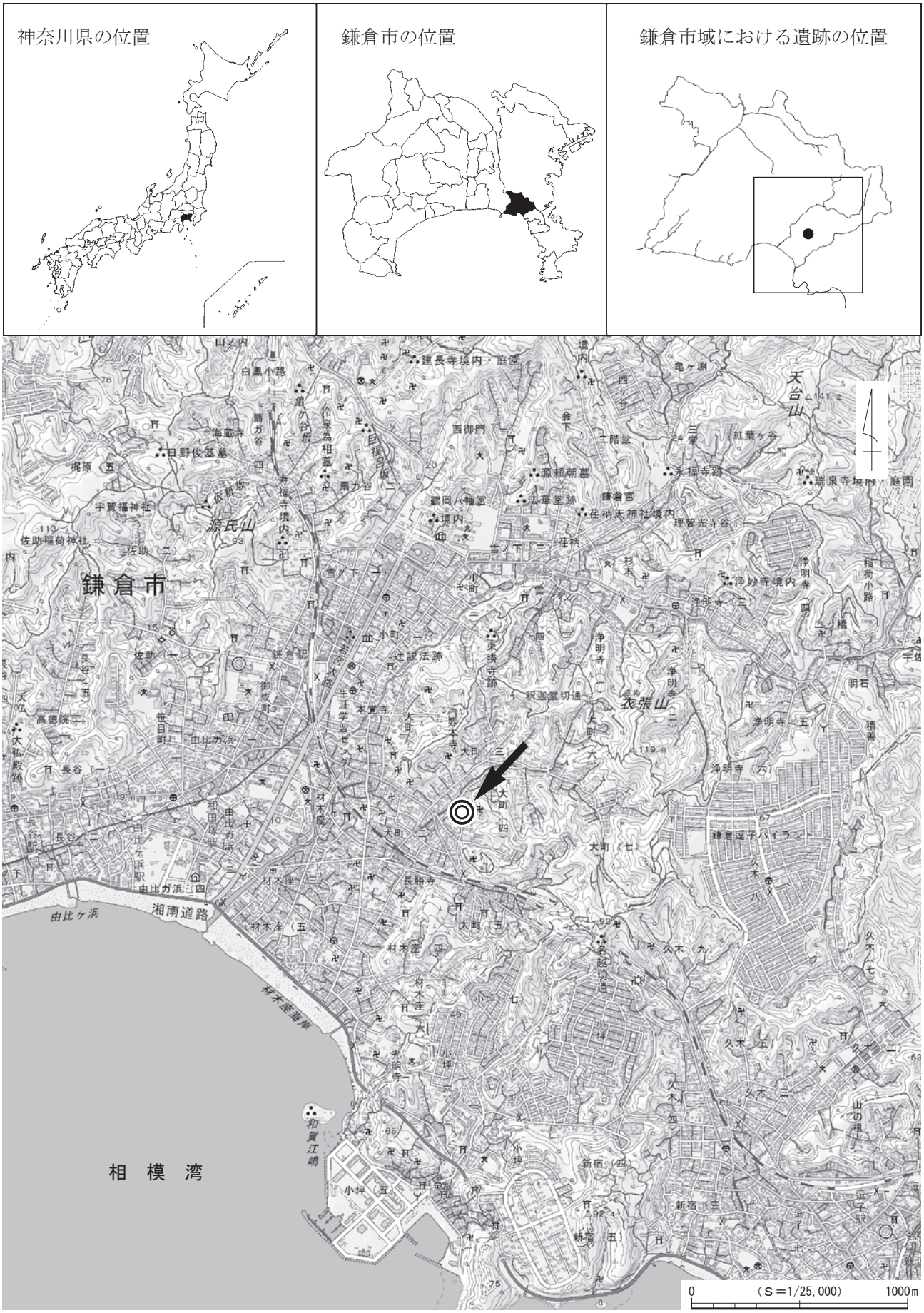
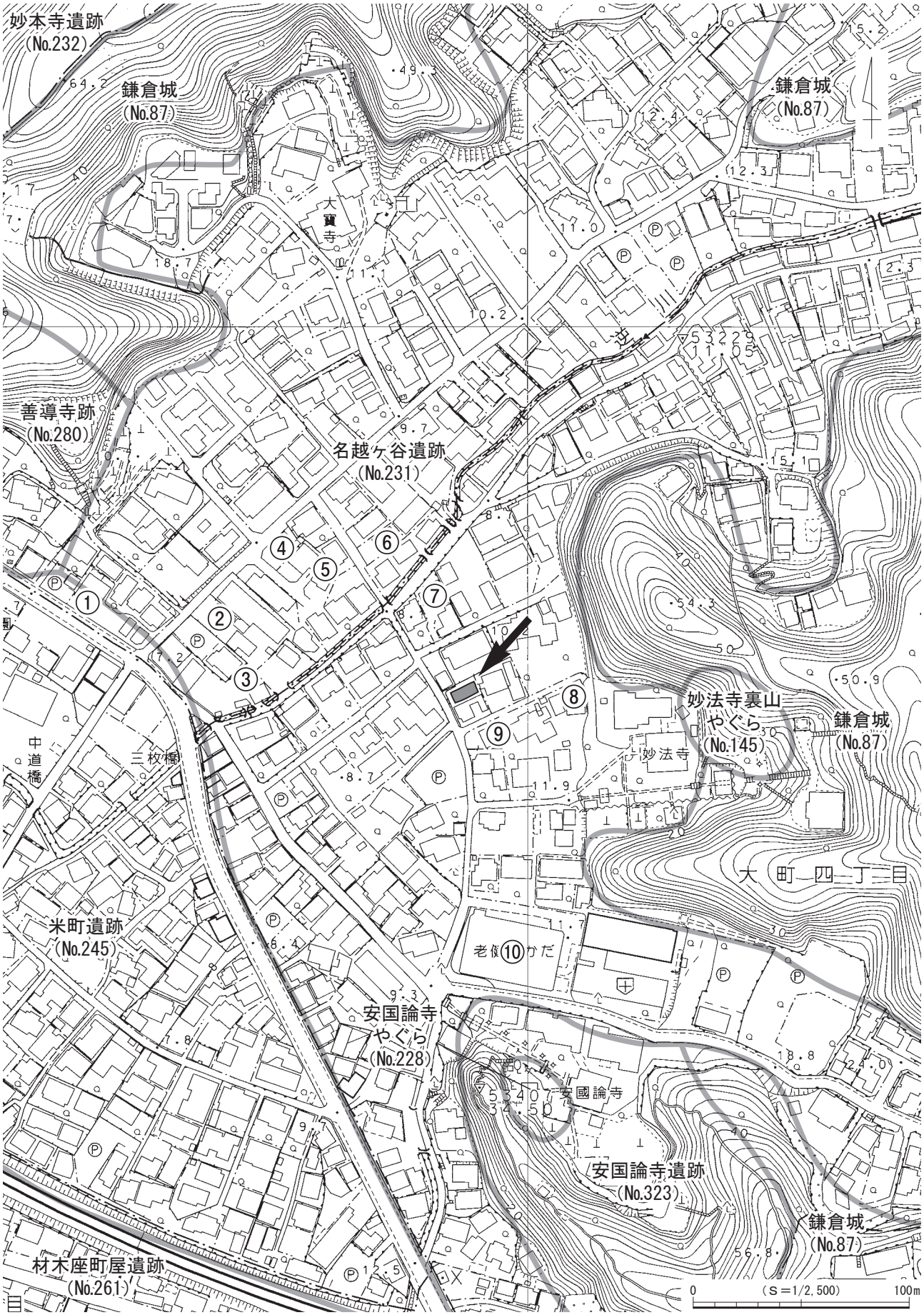

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
鎌倉市
相模湾
由比ヶ浜
湘南道路
材木座海岸
源氏山
天台山
衣張山
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

図３　調査区位置図

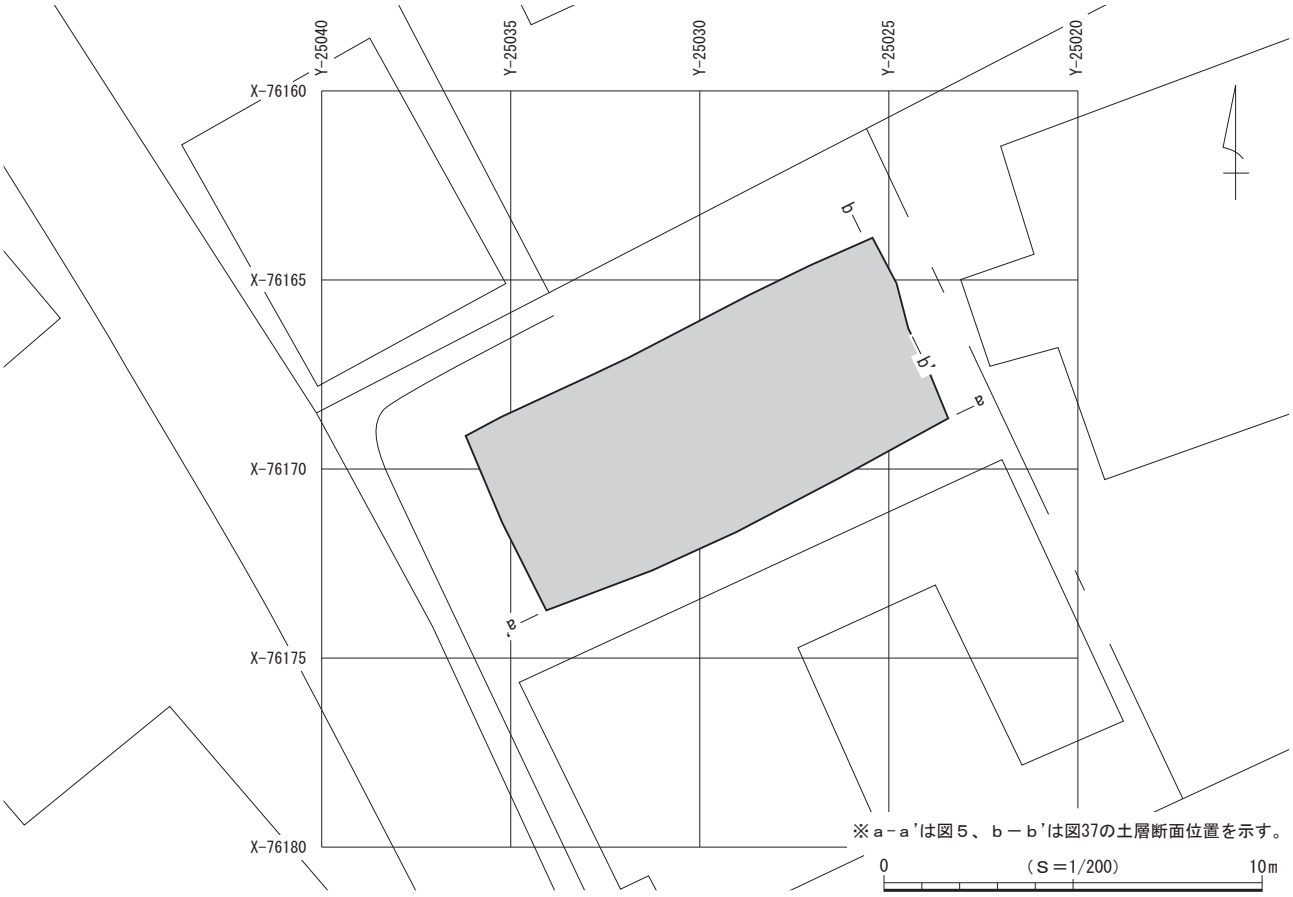


図４　調査区配置図

る大規模な造成を伴う３面の生活面と、３時期以上の遺構群の変遷が確認されている。調査区内は東西溝によって大きく南北に区分されており、この溝には柵ないし塀と考えられる柱穴列が伴っていた。この他に特大の井戸や柵列・側溝を伴う道路、玉砂利敷き遺構、門、礎石建物、掘立柱建物、木組遺構などが確認されており、大規模な屋敷地の可能性が考えられている。また、出土遺物の中には白磁碗などの優品も多くみられることから、相当規模の財力をもった人物あるいは御家人などの屋敷地であったと推測されている。

第二章　堆積土層

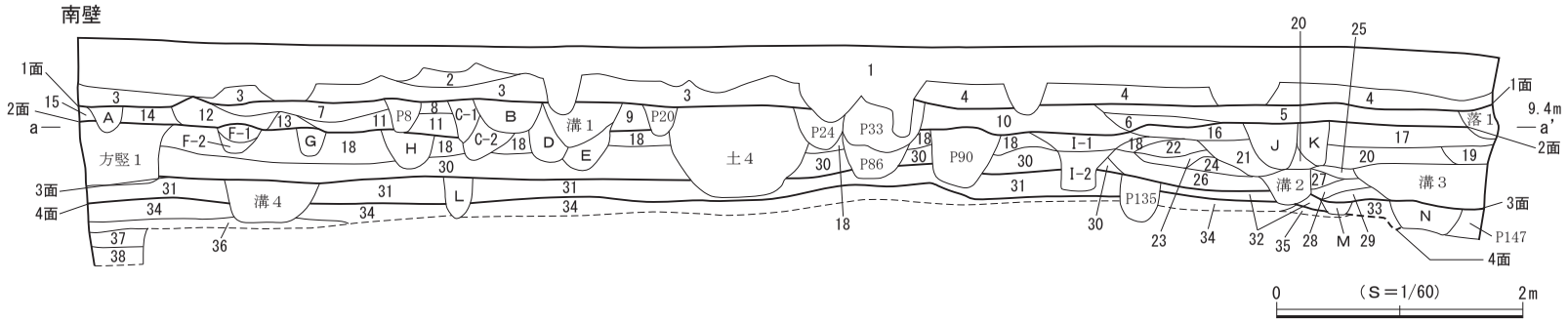
今回の調査における遺構確認面は、第１～４面の合計４面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区南壁の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約10.1ｍを測り、最上部には表土（１層）、暗褐色弱粘質土層（２・３層）、褐色弱粘質土層（４層）が、層厚合計43～55㎝堆積している。遺構確認面の第１面は５・７～10・12・14・15層上面で検出した。確認面の標高は約9.6ｍを測る。第１面を構成する堆積土は８層に分層されるが、その主体は泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物を含む褐色、茶褐色、暗褐色を呈する弱粘質土層である。層厚は、９・10層が20㎝前後、その他の層が10㎝前後である。第２面は16～18層上面で確認し、確認面の標高は約9.4ｍを測る。16層は中量の泥岩粒・泥岩ブロック、少量の炭化物・かわらけ片を含みやや締まりのある褐色弱粘質土層で、層厚10～15㎝である。17層は多量の泥岩粒・泥岩ブロック、中量の炭化物、少量のかわらけ片を含み締まりのある褐色弱粘質土層で、層厚15～20㎝である。18層は少量の泥岩粒、微量の炭化物・かわらけ片を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、層厚11～27㎝である。第３面は31～33層上面で確認し、確認面の標高は8.8～9.1ｍを測る。31層は極微量の泥岩粒・褐鉄粒・炭化物、少量の灰色粘土ブロックを含みやや締まりのある灰黒色粘質土層で、層厚10～20㎝である。32層は中量の褐鉄、微量の炭化物を含みやや粘性のある暗褐色砂質土層で、層厚５～10㎝である。33層は微量の泥岩粒・炭化物・かわらけ片、中量の泥岩ブロック、少量の灰色粘土粒を含み締まり・粘性のある黒褐色砂質土層で、層厚10～20㎝である。遺構確認面の最下位にあたる第４面は34層上面で確認し、確認面の標高は8.6～8.9ｍを測る。34層は微量の褐鉄粒少量の細砂を含みやや締まりのある灰褐色粘質土層で、層厚15㎝前後である。34層の下位は砂質土層（36～38層）で、38層では褐鉄を多く含み締まりが非常に強い無遺物層となる。

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～４面までの合計４面である。遺構確認面はいずれも中世に属し、検出した遺構は方形竪穴状遺構２基、溝状遺構７条、落ち込み１ヵ所、方形土坑６基、土坑42基、ピット150基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して12箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表７）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～４面）に説明する。



１層　表土
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
３層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片極微量含む。締まりあり。
４層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物少量、かわらけ片中量含む。締まり若干あり。
５層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック中量、炭化物中量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。（第１面）
６層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
７層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック少量、炭化物少量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。（第１面）
８層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物微量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。（第１面）
９層　茶褐色砂質土　黒色砂質粘質土・炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。やや粘性あり。（第１面）
10層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片多量、黒色粘土含む。締まりややあり。（第１面）
11層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片少量含む。締まりあり。
12層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりあり。（第１面）
13層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量、黒色粘土質ブロック少量含む。締まりあり。
14層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。（第１面）
15層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、炭化物・かわらけ片中量含む。締まりあり。（第１面）
16層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片少量含む。締まりややあり。（第２面）
17層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物中量、かわらけ片少量含む。締まりあり。（第２面）
18層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。（第２面）
19層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。
20層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ片少量含む。締まりあり。
21層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。
22層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック中量、炭化物少量、かわらけ片中量含む。締まりあり。
23層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量、小石１点含む。締まりあり。
24層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物少量、かわらけ片中量含む。締まりあり。
25層　褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック微量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
26層　暗褐色砂質土　泥岩粒微量、泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。やや粘性あり。
27層　褐色弱粘質土　泥岩ブロック少量、泥岩粒中量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
28層　褐色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
29層　褐色弱粘質土　泥岩粒微量、泥岩ブロック微量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
30層　茶褐色粘質土　泥岩粒・炭化物極微量、粗砂少量含む。締まり若干あり。
31層　灰黒色粘質土　泥岩粒・褐鉄粒・炭化物極微量、灰色粘土ブロック少量含む。締まりややあり。（第３面）
32層　暗褐色砂質土　褐鉄中量、炭化物微量、粘性ややあり。（第３面）
33層　黒褐色砂質土　泥岩粒微量、泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片微量、灰色粘土粒少量含む。締まりあり。粘性ややあり。（第３面）
34層　灰褐色粘質土　褐鉄粒微量、細砂少量含む。締まりややあり。（第４面）
35層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
36層　灰褐色砂質土　褐鉄粒少量含む。締まりあり。粘性ややあり
37層　灰黄色砂質土　暗灰色粘土ブロック極微量含む。締まりあり。
38層　暗黄色砂質土　褐鉄砂多く、非常に締まる。
[遺構]
Ａ層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｂ層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
C-1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、炭化物・かわらけ片微量含む。やや締まりややあり。
C-2層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。
Ｄ層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック微量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
Ｅ層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物・かわらけ片微量、黒色粘土若干含む。締まりあり。
F-1層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック微量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
F-2層　黒色砂質土　泥岩粒少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｇ層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりあり。
Ｈ層　遺構覆土
I-1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック１点、炭化物・かわらけ片微量、黒色土含む。締まりあり。
I-2層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック微量、かわらけ粒、炭化物微量、かわらけ片少量、黒色粘質土、黒色砂質土含む。締まりあり。
Ｊ層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量、小石・砂質凝灰岩含む。やや締まりあり。
Ｋ層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック微量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｌ層　遺構覆土
Ｍ層　暗褐色砂質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｎ層　暗褐色砂質土　泥岩粒微量、泥岩ブロック１点、炭化物少量、かわらけ片微量、砂質凝灰岩１点含む。締まりややあり。

図５　調査区南壁 土層断面図

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の５・７～10・12・14・15層上面で検出され、確認面の標高は約9.6ｍを測る。この８層に区分された土層の主体は泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物を含む褐色、茶褐色、暗褐色を呈する弱粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、落ち込み１ヵ所、土坑８基、ピット57基である。東西方向に長い調査区のほぼ全域にわたって遺構が分布しているが、遺構間の重複は少なかった。また、調査区東側の東西約2.2ｍ、南北約1.8ｍの範囲に明瞭な整地面の広がりが確認された。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

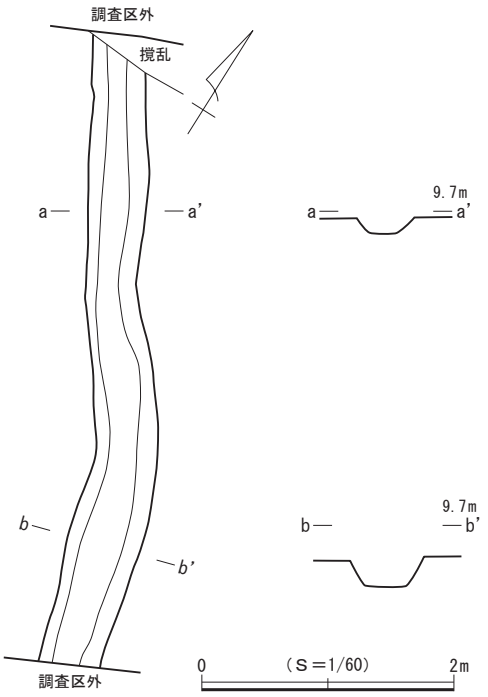


図６　第１面 溝状遺構１

（１）溝状遺構

溝状遺構１（図６）

調査区中央の東側に位置する。南側がわずかに湾曲するが、南北方向におおむね直線的に延びて調査区外へと続く。調査区内ではピット11～13・18と重複して壁と底面の一部を壊している。検出した規模は現存長約5.0ｍ、幅40～60㎝、深さ14～25㎝で、主軸方位はＮ－30°－Ｗ

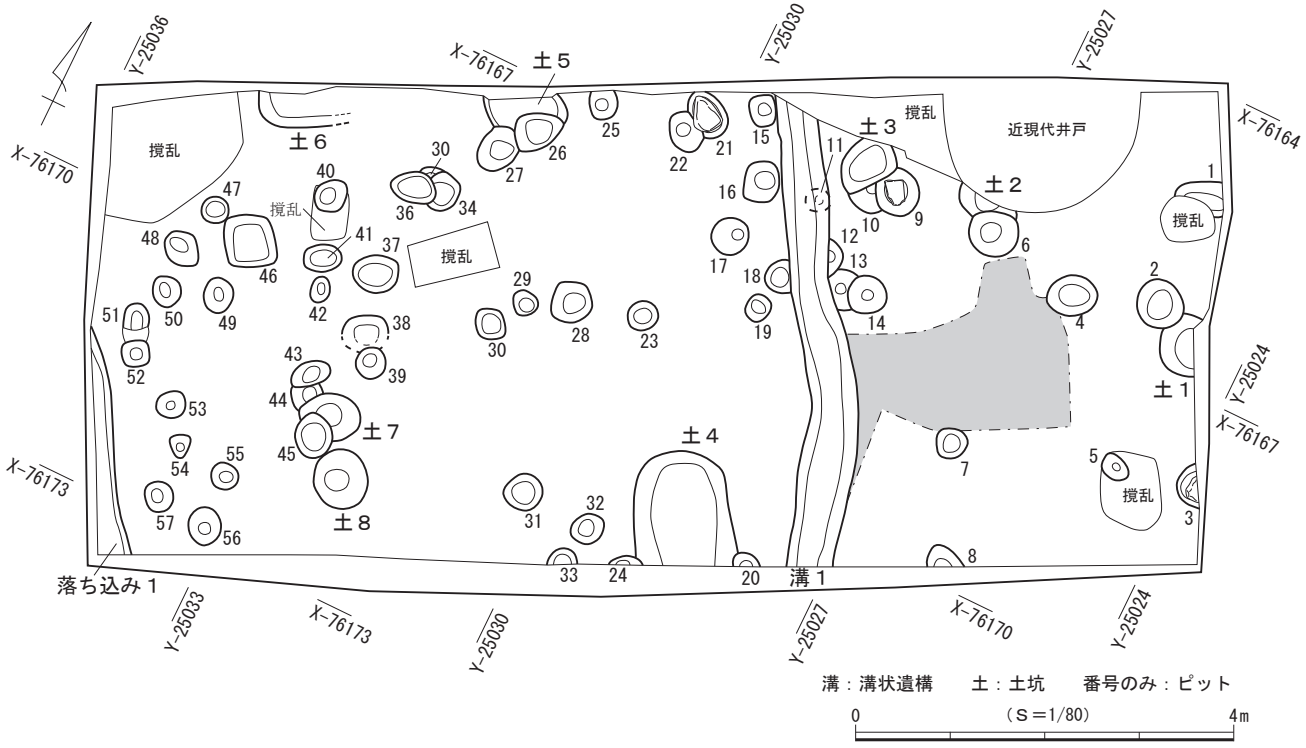


図７　第１面 遺構分布図

を指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で9.54m、南側で9.21mを測り、北側から南側に向かって傾斜している。

遺物はかわらけ41点、陶器３点が出土した。

（２）落ち込み

落ち込み１（図８）

調査区西壁際の南側に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、西側と南側が調査区外へと続いており北東壁の一部を確認したのみである。平面形は判然としないが、上端と下端のプランはほぼ直線的に南北方向に延びている。底面は平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長2.40m、東西現存長35cm、深さ20～25cmで、底面の標高は9.30mを測る。主軸方位はＮ－35°－Ｗを指すと考えられる。本址の性格は不明であるが、第２面で方形竪穴状遺構が複数基検出されていることから、同種の遺構である可能性も考えられる。

遺物は出土しなかった。

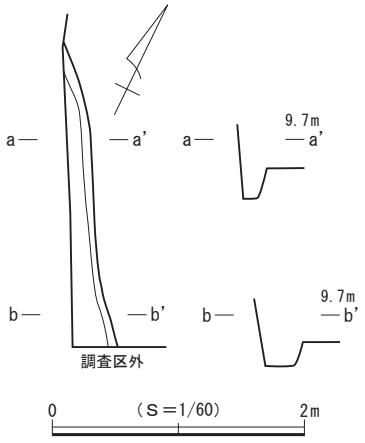


図８　第１面 落ち込み１

（３）土　坑

土坑１（図９）

調査区東壁際の中央に位置する。西側でピット２と重複して壁が壊され、東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北66cm、東西現存長36cm、深さ37cmで、坑底面の標高は9.21mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑２（図９）

調査区北東側に位置する。北側で近現代の井戸、南側でピット６と重複して大部分を壊され、全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸67cm、短軸現存長23cm、深さ47cmで、坑底面の標高は9.15mを測る。

遺物はかわらけ11点が出土した。

土坑３（図９）

調査区の北東側に位置する。南側でピット９・10と重複して壊し、北側で撹乱によって壁の一部が失われているが全容をほぼ把握することができた。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63cm、短軸46cm、深さ15cmで、坑底面の標高は9.47mを測る。主軸方位はＮ－38°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

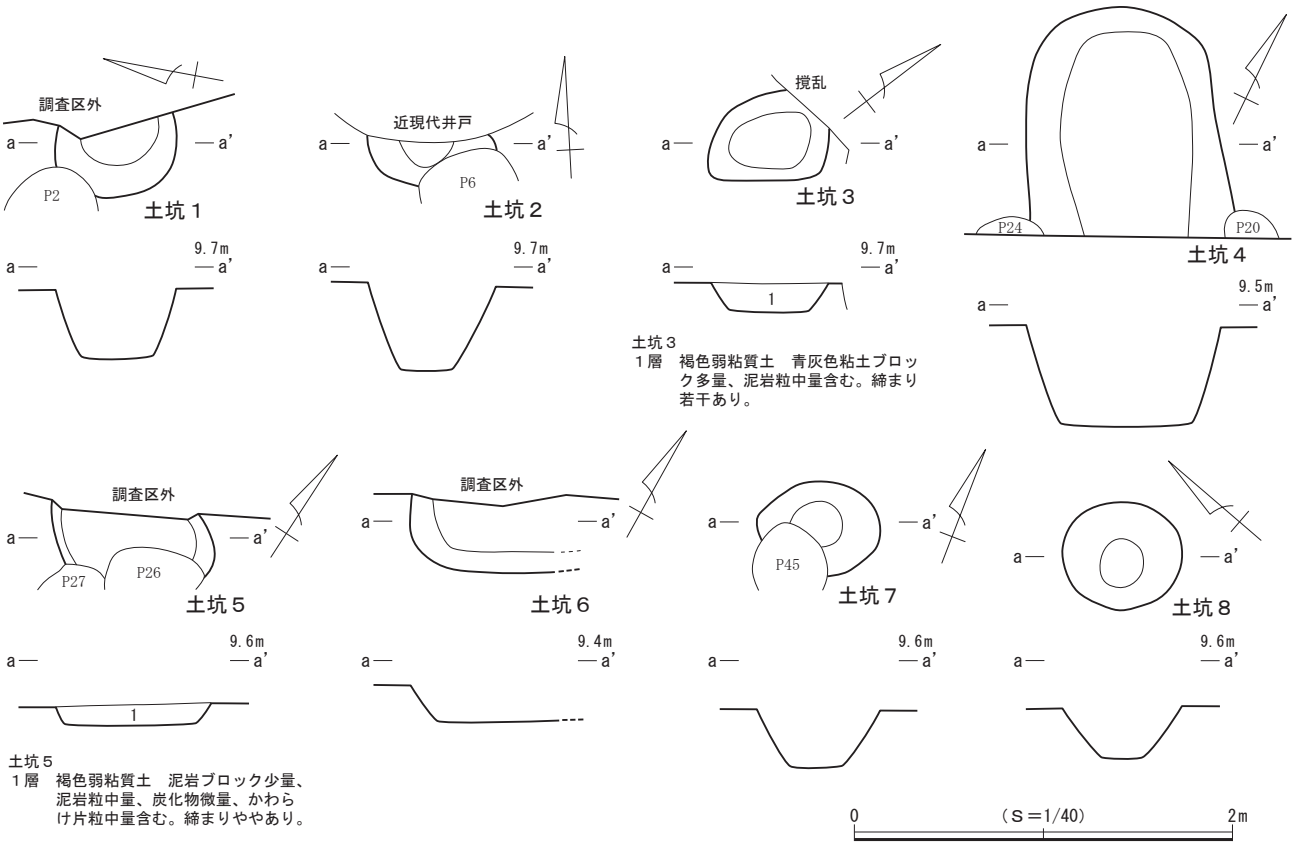


図９　第１面 土坑１～８

土坑４（図９）

調査区南壁際の中央に位置する。東側でピット20、西側でピット24と重複して壁の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると長楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.21m、短軸1.08m、深さ53cmと掘り込みが深く、坑底面の標高は8.87mを測る。主軸方位はＮ－27°－Ｗを指す。

出土遺物（図10）

遺物はかわらけ39点、磁器１点、陶器１点、土師質・瓦質土器１点が出土し、このうち４点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけ、４は手づくね成形によるかわらけであり、２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

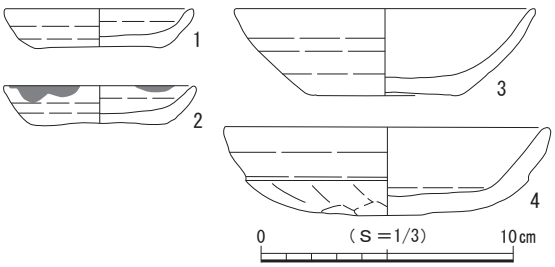


図10　第１面 土坑４出土遺物

土坑５（図９）

調査区北壁際の中央西側に位置する。南側でピット26・27と重複して壁と底面の一部が壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長35cm、東西現存長91cm、深さ11cmで、坑底面の標高は9.25mを測る。

出土遺物（図11）

遺物はかわらけ４点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は常滑産の甕で５型式に比定される。

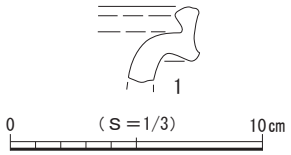


図11　第１面 土坑５出土遺物

土坑６（図９）

調査区北壁際の西側に位置する。東側は削平により失われ、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長39cm、東西現存長78cm、深さ19cmで、坑底面の標高は9.08mを測る。

出土遺物（図12）

遺物はかわらけ４点、磁器１点、陶器１点、金属製品１点が出土し、このうち３点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は龍泉窯系青磁碗でⅠ類に比定される。３は釘である。

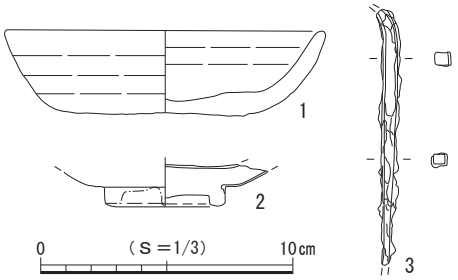


図12　第１面 土坑６出土遺物

土坑７（図９）

調査区の南西側に位置する。西側でピット44と重複して壊し、南側でピット45と重複して壁と底面の一部が壊され全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65cm、短軸50cm、深さ31cmで、坑底面の標高は9.04mを測る。主軸方位はＮ－69°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑８（図９）

調査区の南西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はやや大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63cm、短軸57cm、深さ28cmで、坑底面の標高は9.09mを測る。

遺物はかわらけ13点、陶器１点が出土した。

（４）ピット

第１面では、57基を検出した。調査区全域にやや疎らに分布し、溝状遺構１の西側にやや集中する様相が捉えられたが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸25～56cm、深さ６～48cmを測る。57基のうち３基のピット（ピット３・９・21）に礎石が据えられており、全容

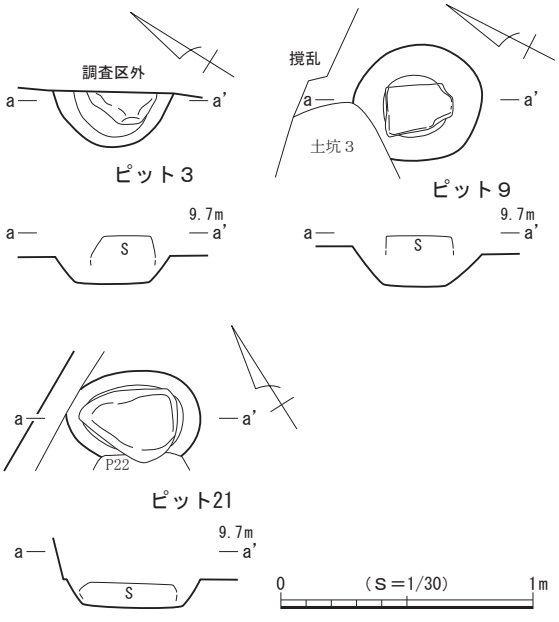


図13　第１面 ピット３・９・21

を把握できたピット９と21は礎石の大きさが長さ27㎝、幅19㎝と長さ39㎝、幅29㎝で、上面の標高は9.70ｍと9.58ｍを測る。なお、礎石が検出されたピットについては個別図を作成し、図13に図示した。

遺物は57基中、31基（ピット１・２・４・６・７・９・10・13・14・16・17・19・23・25～27・31・34・36・37・39・40・48～50・52～57）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表７）を参照されたい。

（５）第１面 遺構外出土遺物（図14）

第１面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち24点を図示した。

１～13はロクロ成形によるかわらけ、14・15は手づくね成形によるかわらけで、１・２・４には口縁部に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。16・17は龍泉窯系青碗で、16は碗Ⅰ類、17は碗Ⅱ－ｂ類に比定される。18は瀬戸産の卸皿で古瀬戸中期様式Ⅰ期に比定される。19は渥美産の甕で２ｂ型式に比定される。20・21は常滑産の甕で５型式に比定される。22は東播系の鉢でⅥ～Ⅶ期に比定される。23は土師質・瓦質土器の火鉢でⅢ類に比定される。24は銭貨で開元通寶（621年初鋳）である。

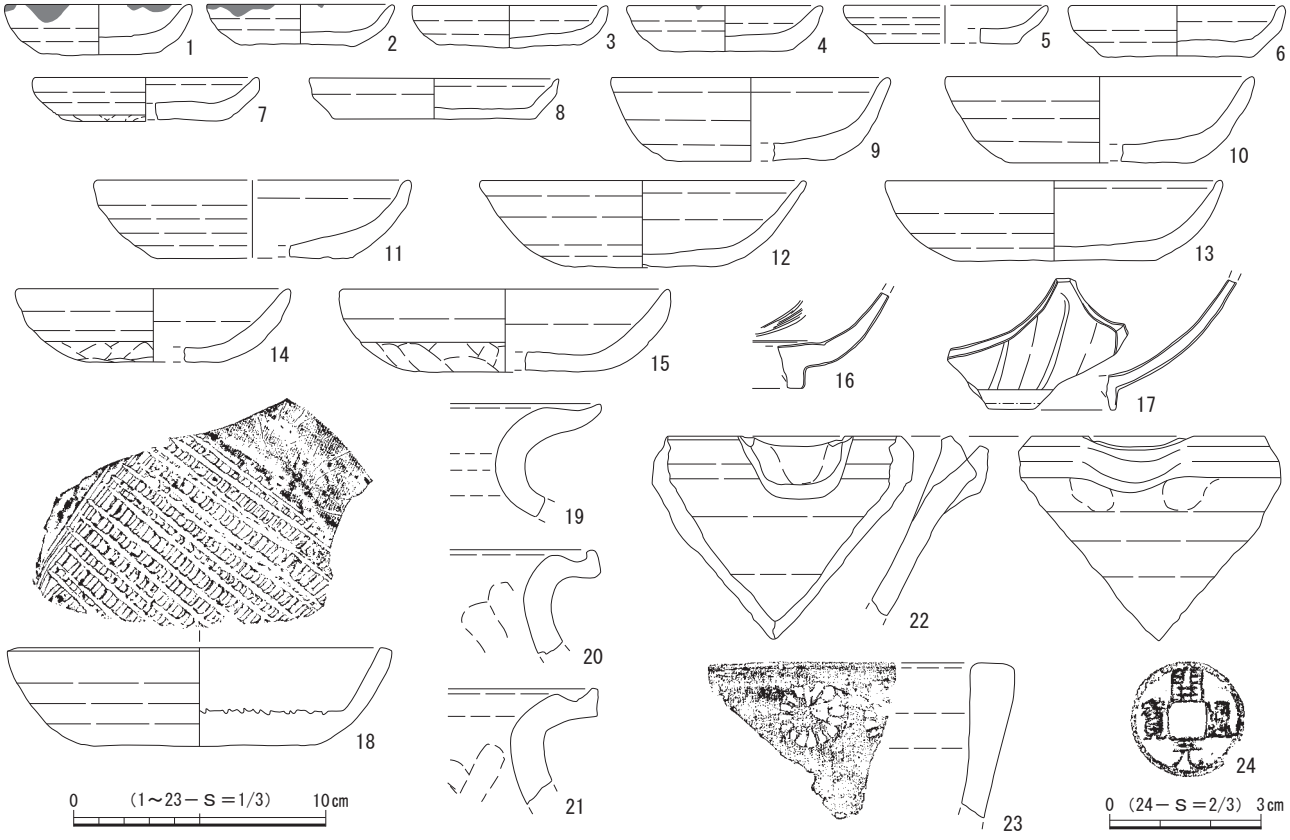


図14　第１面 遺構外出土遺物

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の16～18層上面で検出され、確認面の標高は約9.4ｍを測る。16層は中量の泥岩粒・泥岩ブロック、少量の炭化物・かわらけ片を含みやや締まりのある褐色弱粘質土層、17層は多量の泥岩粒・泥岩ブロック、中量の炭化物、少量のかわらけ片を含み締まりのある褐色弱粘質土層、18層は少量の泥岩粒、微量の炭化物・かわらけ片を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、これらの層

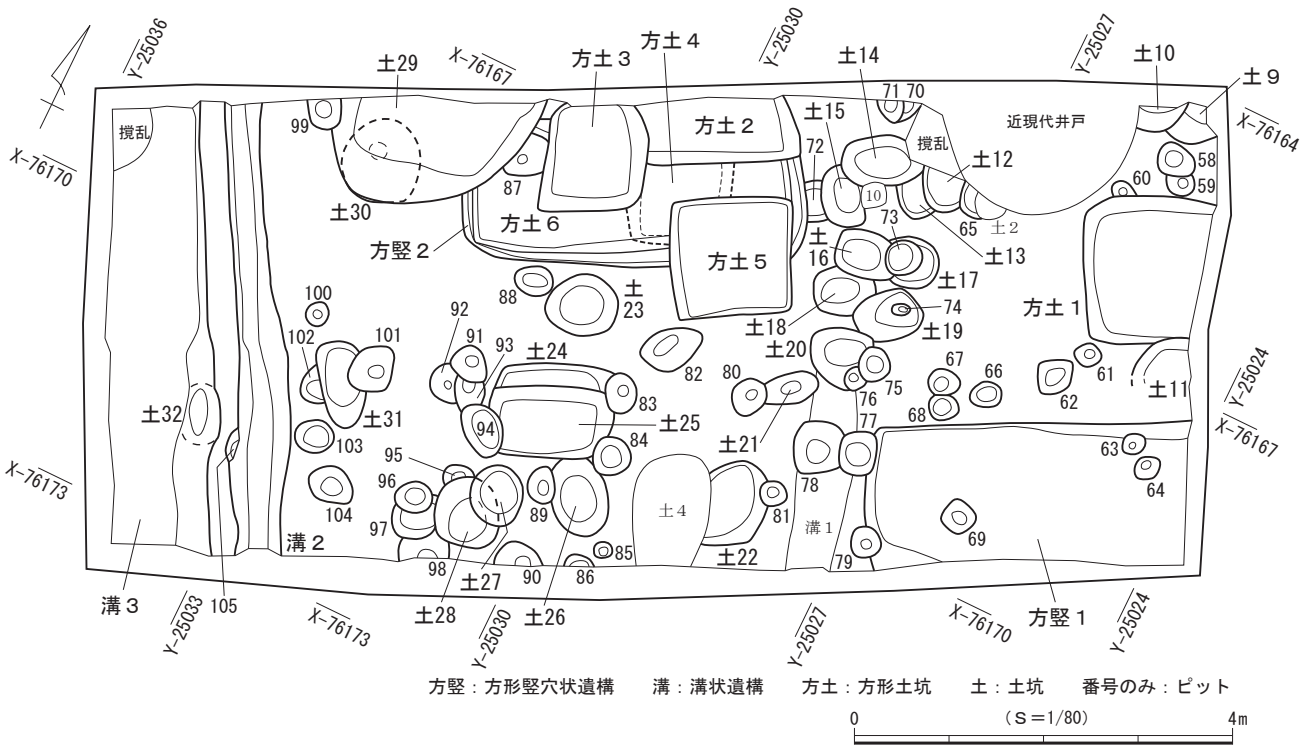


図15　第２面 遺構分布図

を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は方形竪穴状遺構２基、溝状遺構２条、方形土坑６基、土坑24基、ピット48基である。調査区の西端付近に南北方向に延びる溝状遺構が検出され、その東側に遺構が密に分布していた。遺構間の重複も多く認められたが、方形竪穴状遺構と方形土坑の主軸方位が溝状遺構とほぼ同じであり、短期間に繰り返し作り替えが行われたと推定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

（１）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構１（図16）

調査区の南東隅に位置する。西側でピット69・77・79、北側でピット63・64と重複して壁や底面の一部が壊され、東側と南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると長方形と考えられ、底面はほぼ平らで、壁はやや開いて立ち上がる。規模は長軸現存長3.40ｍ、短軸現存長1.50ｍ、深さ45㎝で、底面の標高は8.95ｍを測る。主軸方位はＮ－62°－Ｅを指す。

出土遺物（図17）

遺物はかわらけ304点、磁器３点、陶器33点、土師質･瓦質土器１点、瓦１点、石製品１点が出土し、このうち15点を図示した。

１～９はロクロ成形によるかわらけ、10～13は手づくね成形によるかわらけで、３・６の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。14は土師質・瓦質土器の火鉢でＩＣ類に比定される。15は方柱形の石製品（軽石）で用途不明である。

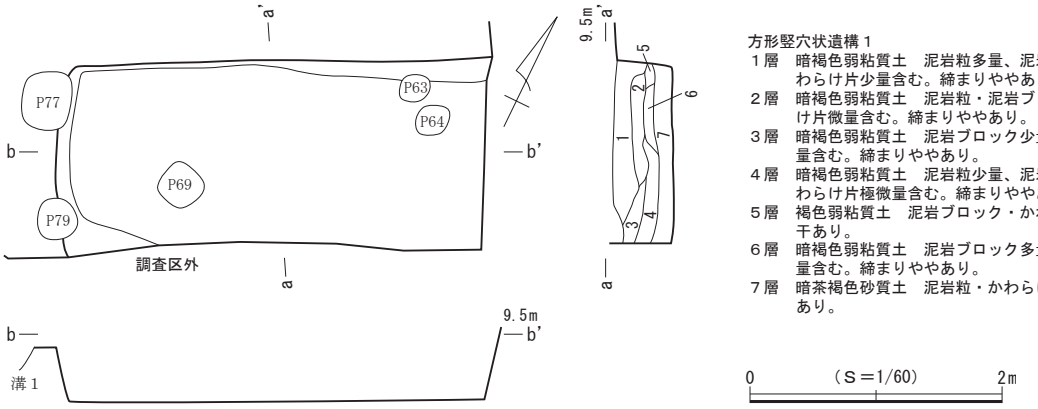


図16　第２面 方形竪穴状遺構１

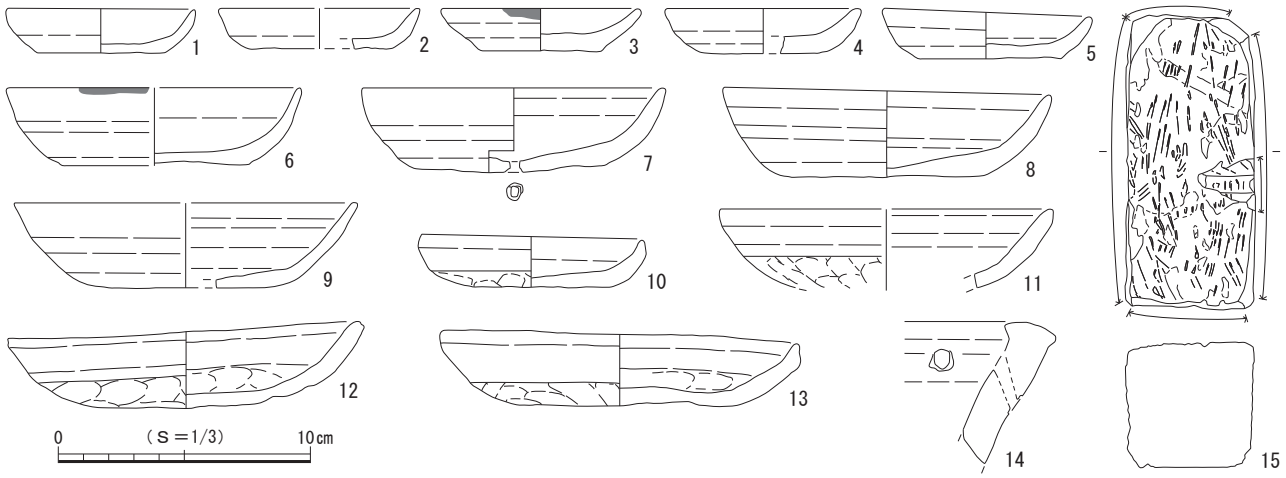


図17　第２面 方形竪穴状遺構１出土遺物

方形竪穴状遺構２（図18）

調査区北壁際の中央に位置する。方形土坑２～５、土坑29、ピット87と重複して壁と底面の大部分が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると方形あるいは長方形と考えられ、底面は東側から西側へ向かって傾斜する。壁はわずかに開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.71ｍ、東西3.65ｍ、深さ45㎝で、底面の標高は東側が9.20ｍ、西側が9.05ｍを測る。主軸方位はＮ－64°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

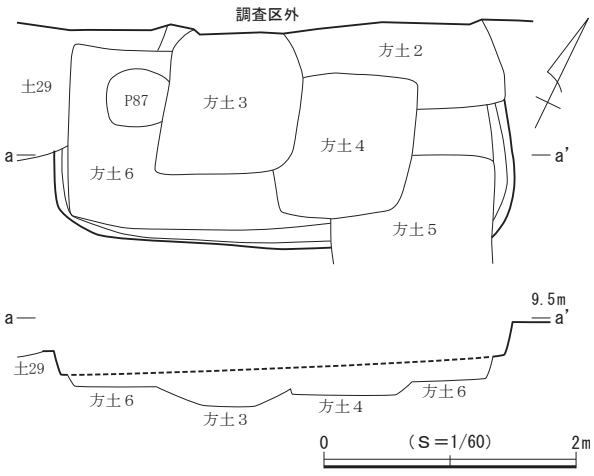


図18　第２面 方形竪穴状遺構２

（２）溝状遺構

溝状遺構２（図19）

調査区の西側に位置する。南北方向にほぼ直線的に縦断して調査区外の南北側へと続いている。調査区内ではピット105と重複し壁と底面を壊している。検出した規模は現存長約4.8ｍ、幅35～62㎝、深さ

23㎝で、主軸方位はＮ－28°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は8.83ｍを測る。西側に隣接する溝状遺構３が平行して延びており、関連をもつ遺構の可能性も考えられる。

遺物はかわらけ68点、陶器７点、金属製品１点が出土した。

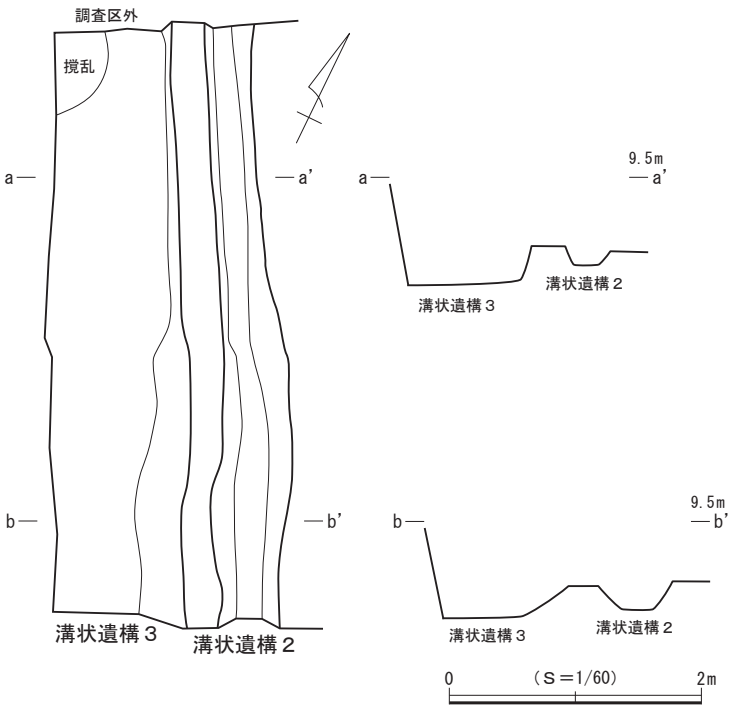


図19　第２面 溝状遺構２・３

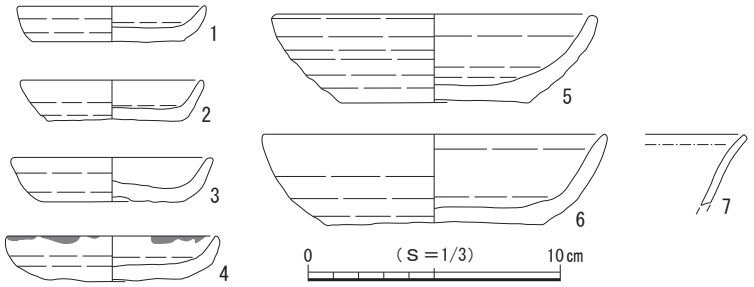


図20　第２面 溝状遺構３出土遺物

溝状遺構３（図19）

調査区の西壁際に位置する。調査区の壁に沿って南北方向にほぼ直線的に縦断して、調査区外の南北側および西側に続いている。調査区内では土坑32と重複して上面を壊し、北側の底面の一部が撹乱によって壊される。検出した規模は現存長約4.8ｍ、現存幅0.9～1.2ｍ、深さ29㎝で、主軸方位はＮ－27°－Ｗを指す。西壁は調査区外にあるため様相は判然としないが、東壁は北半ではわずかに開いて立ち上がり、南半では大きく開く。底面はほぼ平らで、標高は北側で8.66ｍ、南側で8.75ｍを測り、南側から北側へ向かって傾斜する。東側に隣接する溝状遺構２が平行して延びており、関連をもつ遺構の可能性も考えられる。

出土遺物（図20）

遺物はかわらけ126点、磁器１点、陶器16点が出土し、このうち７点を図示した。

１～６はロクロ成形によるかわらけで、４の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。７は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。

（３）方形土坑

方形土坑１（図22）

調査区東壁際の中央付近に位置する。北側でピット60と重複して壊し、南側で土坑11と重複して壁の一部が壊されている。東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北1.56ｍ、東西現存長1.36ｍ、深さ28㎝で、坑底面の標高は9.09ｍを測る。主軸方位はＮ－63°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点が出土した。

方形土坑２（図22）

調査区北壁際の中央に位置する。南側で方形竪穴状遺構２、方形土坑４・６と重複して壊し、西側で方形土坑３と重複して壁と底面の一部が壊されている。北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁はやや開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長69㎝、東西現存長1.59ｍ、深さ44㎝で、坑底面の標高は9.01ｍを測る。主軸方位はＮ－63°－Ｅを指すと考えられる。

遺物はかわらけ26点、磁器１点、陶器６点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

方形土坑３（図22）

調査区北壁際の中央付近に位置する。方形土坑２・４・６、ピット87と重複して壊し、北側が調査外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると南北方向にやや長い隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.15ｍ、短軸1.07ｍ、深さ15㎝で、坑底面の標高は8.79ｍを測る。主軸方位はＮ－25°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ19点、陶器１点が出土した。

方形土坑４（図22）

調査区中央の北側に位置する。方形土坑２・３・５・６と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不略方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.14ｍ、短軸1.07ｍ、深さ13㎝で、坑底面の標高は8.89ｍを測る。主軸方位はＮ－23°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ61点、陶器５点が出土した。

方形土坑５（図22）

調査区中央のやや北側に位置する。北側で方形竪穴状遺構２、方形土坑４・６と重複して壊している。平面形は方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はごくわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い形状を呈する。規模は一辺1.27ｍ、深さ46㎝で、坑底面の標高は8.99ｍを測る。主軸方位はＮ－27°－Ｗを指す。

出土遺物（図21）

遺物はかわらけ34点、陶器２点、金属製品１点が出土し、このうち４点を図示した。

１・２は手づくね成形によるかわらけである。３は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。４は釘である。

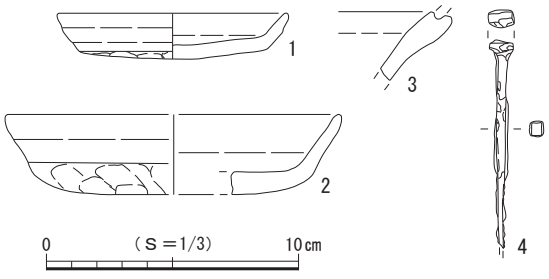
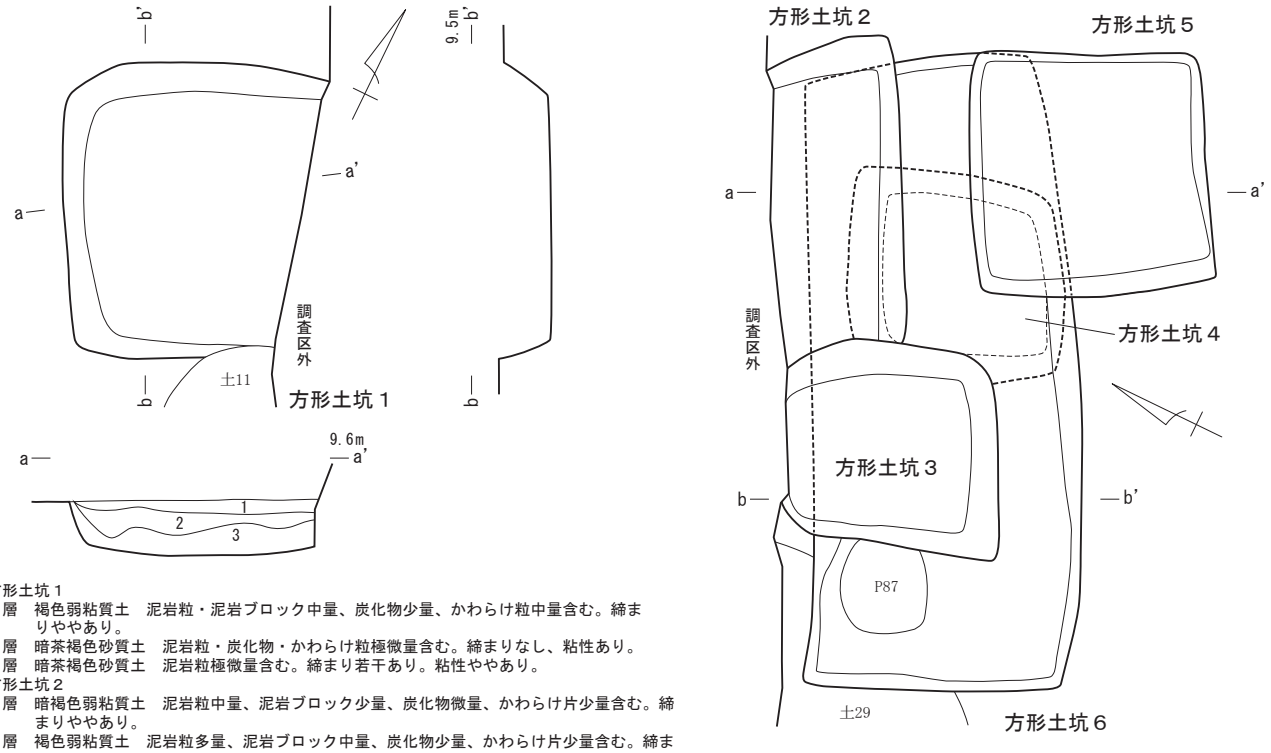


図21　第２面 方形土坑５出土遺物

方形土坑６（図22）

調査区北壁際の中央に位置する。方形土坑４と重複して壊し、方形土坑２・３・５、土坑28、ピット87と重複して壁と底面が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると東西方向に主軸をもつ長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈



方形土坑１
１層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物少量、かわらけ粒中量含む。締まりややあり。
２層　暗茶褐色砂質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ粒極微量含む。締まりなし、粘性あり。
３層　暗茶褐色砂質土　泥岩粒極微量含む。締まり若干あり。粘性ややあり。
方形土坑２
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック少量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
２層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック中量、炭化物少量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
３層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
４層　暗茶褐色砂質土　泥岩粒微量含む。締まり・粘性若干あり。
５層　灰褐色砂質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片微量含む。締まり・粘性あり。
方形土坑３
１層　褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック中量、炭化物極微量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
３層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック多量、炭化物極微量、かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
４層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック中量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まり若干あり。
方形土坑４
１層　暗灰色粘質土　泥岩粒微量、炭化物少量含む。締まりなし。
方形土坑５
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、炭化物少量、かわらけ片極微量含む、締まりややあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック中量・炭化物・かわらけ片少量含む。締まり若干あり。
３層　暗灰色粘質土　泥岩粒少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
４層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック少量、暗黄色粘土ブロック・炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まり若干あり。
５層　灰褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック・炭化物微量含む。締まりあり。
６層　暗茶褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
方形土坑６
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック・炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・茶褐色砂・炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
３層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・少量、炭化物極微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
４層　暗灰色弱粘質土　泥岩粒少量、凝灰質砂岩微量含む。締まり若干あり。
５層　暗灰色弱粘質土　泥岩ブロック・茶褐色砂多量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
６層　茶褐色砂質土　泥岩粒・暗茶褐色粘土ブロック微量含む。締まりなし。

図22　第２面 方形土坑１～６

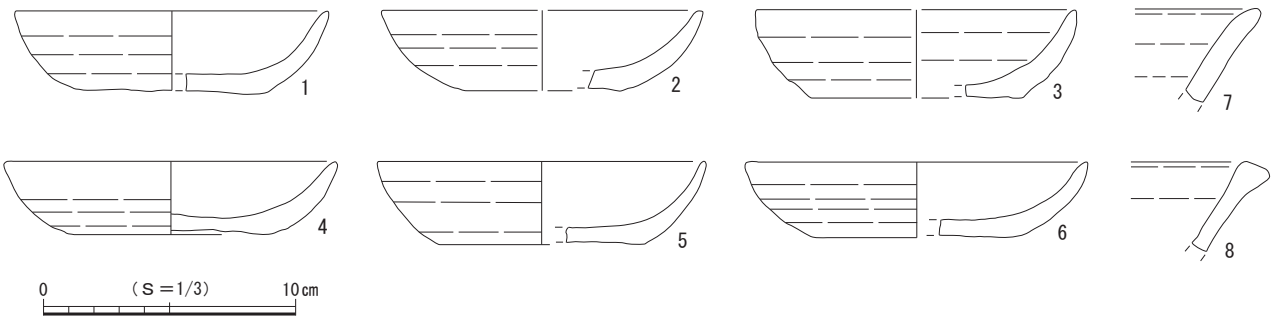


図23　第２面 方形土坑６出土遺物

する。規模は長軸3.36m、短軸1.40m、深さ17cmで、坑底面の標高は8.95mを測る。主軸方位はN－65°－Eを指す。

出土遺物（図23）

遺物はかわらけ179点、磁器３点、陶器25点、土師質・瓦質土器１点、石製品１点が出土し、このうち８点を図示した。

１～６はロクロ成形によるかわらけである。７は渥美産の片口鉢で２ｂ型式、８は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。

（４）土　坑

土坑９（図24）

調査区の北東隅に位置する。西側で土坑10と重複して壁と底面の一部が壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈すると考えられる。規模は南北現存長43cm、東西現存長55cm、深さ60cmで、坑底面の標高は8.80mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑10（図24）

調査区の北東隅に位置する。東側で土坑９と重複して壊している。西側を近現代の井戸によって失われ、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形や底面の様相は判然としない。壁は開いて立ち上がり、規模は南北現存長27cm、東西現存長50cm、深さ60cmである。坑底面の標高は8.77mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑11（図24）

調査区東壁際の中央に位置する。北側で方形土坑１と重複して壁の一部を壊している。東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長70cm、東西現存長60cm、深さ16cmで、坑底面の標高は9.20mを測る。

遺物はかわらけ９点、陶器３点が出土した。

土坑12（図24）

調査区の北東側に位置する。西側で土坑13と重複して壊し、東側をピット65、北側を撹乱によって壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長40cm、東西現存長47cm、深さ11cmで、坑底面の標高は9.21mを測る。

遺物はかわらけ11点が出土した。

土坑13（図24）

調査区の北東側に位置する。東側で土坑12、西側で土坑14と重複して壁と底面を壊され、全容を把握

できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長52㎝、東西現存長39㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は9.32ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑14（図24）

調査区の北東側に位置する。西側で土坑15と重複して壊し、南側を第１面のピット10、北側を撹乱によって壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸87㎝、短軸53㎝、深さ28㎝で、坑底面の標高は9.19ｍを測る。主軸方位はＮ－66°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑15（図24）

調査区の北東側に位置する。西側でピット72と重複して壊し、北側で土坑14と第１面のピット10によって壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66㎝、短軸現存長45㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は9.20ｍを測る。主軸方位はＮ－39°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑16（図24）

調査区の北東側に位置する。東側で土坑17、南側で土坑18と重複して壊し、東側でピット73と重複して壁の一部が壊されている。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長66㎝、短軸50㎝、深さ43㎝で、坑底面の標高は9.06ｍを測る。主軸方位はＮ－77°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ４点、陶器２点が出土した。

土坑17（図24）

調査区の北東側に位置する。西側で土坑16、ピット73と重複して壁と底面が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸55㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は9.26ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑18（図24）

調査区中央の東側に位置する。北側で土坑16、東側で土坑19と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸66㎝、短軸53㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は9.11ｍを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑19（図24）

調査区中央の東側に位置する。西側で土坑18と重複して壊し、南側で土坑20と重複して壁の一部が壊されている。南壁の遺存状態が悪いため全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、南西側が大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70㎝、短軸現存長48㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は9.31ｍを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑20（図24）

調査区の中央付近に位置する。東側でピット75・76と重複して壁と底面の一部が壊され、南壁の上面を第１面の溝状遺構１によって削平されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、南側が大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は径65㎝、深さ54㎝で、坑底面の標高は8.95ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑21（図24）

調査区の中央付近に位置する。西側でピット80と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸32㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は9.22ｍを測る。主軸方位はＮ－51°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ３点が出土した。

土坑22（図24）

調査区南壁際の中央に位置する。東側でピット81と重複して壁の一部が壊され、西側を第１面の土坑４によって削平されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.00ｍ、短軸71㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は9.27ｍを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。

遺物はかわらけ８点、陶器２点が出土した。

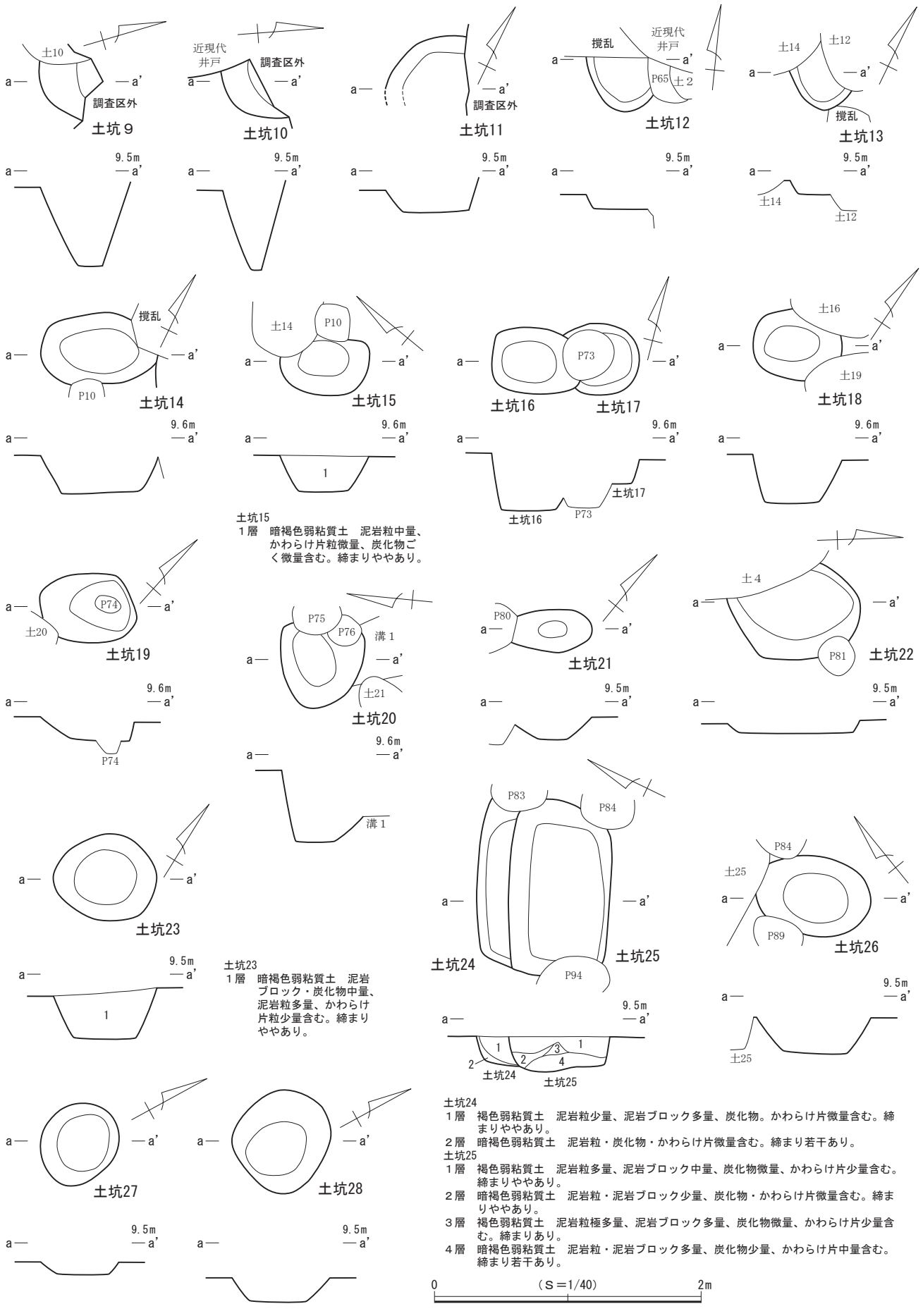
土坑23（図24）

調査区中央の西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸78㎝、短軸65㎝、深さ39㎝で、坑底面の標高は9.01ｍを測る。主軸方位はＮ－59°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑24（図24）

調査区中央の南西側に位置する。東側でピット83、南側で土坑25と重複して大部分が壊されており、全容を把握することができなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い形状を呈する。規模は長軸現存



土坑15
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、かわらけ片粒微量、炭化物ごく微量含む。締まりややあり。

土坑23
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック・炭化物中量、泥岩粒多量、かわらけ片粒少量含む。締まりややあり。

土坑24
１層　褐色弱粘質土　泥岩粒少量、泥岩ブロック多量、炭化物。かわらけ片微量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片微量含む。締まり若干あり。

土坑25
１層　褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック中量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
３層　褐色弱粘質土　泥岩粒極多量、泥岩ブロック多量、炭化物微量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
４層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物少量、かわらけ片中量含む。締まり若干あり。

図24　第２面 土坑９～28

長1.14ｍ、短軸現存長24㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は9.19ｍを測る。主軸方位は重複する土坑25と同じＮ－69°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点が出土した。

土坑25（図24）

調査区中央の南西側に位置する。北側で土坑24と重複して壊し、土坑26、ピット83・84・94と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は南側がごくわずかに開いて立ち上がり、北側および東西側は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.32ｍ、短軸76㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は9.10ｍを測る。主軸方位は重複する土坑24と同じＮ－69°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ10点、陶器３点が出土した。

土坑26（図24）

調査区南壁際の中央西側に位置する。北側で土坑25とピット84、西側でピット89と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は北から南に向かってわずかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長87㎝、短軸60㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は南側で9.07ｍを測る。主軸方位はＮ－48°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑27（図24）

調査区南壁際の西側に位置する。南側で土坑28と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は略円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64㎝、短軸56㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は9.27ｍを測る。

遺物はかわらけ11点が出土した。

土坑28（図24）

調査区南壁際の西側に位置する。西側でピット95・97と重複して壊し、北側で土坑27と重複して壁の上面を壊されているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸74㎝、短軸69㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は9.06ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑29（図25）

調査区北壁際の西側に位置する。東側で方形竪穴状遺構２、方形土坑６、ピット87、南側で土坑30と重複して壊し、西側でピット99と重複して壁の一部が壊されている。北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長1.15ｍ、東西現存長2.10ｍ、深さ11㎝で、坑底面の標高は南側で8.93ｍを測る。

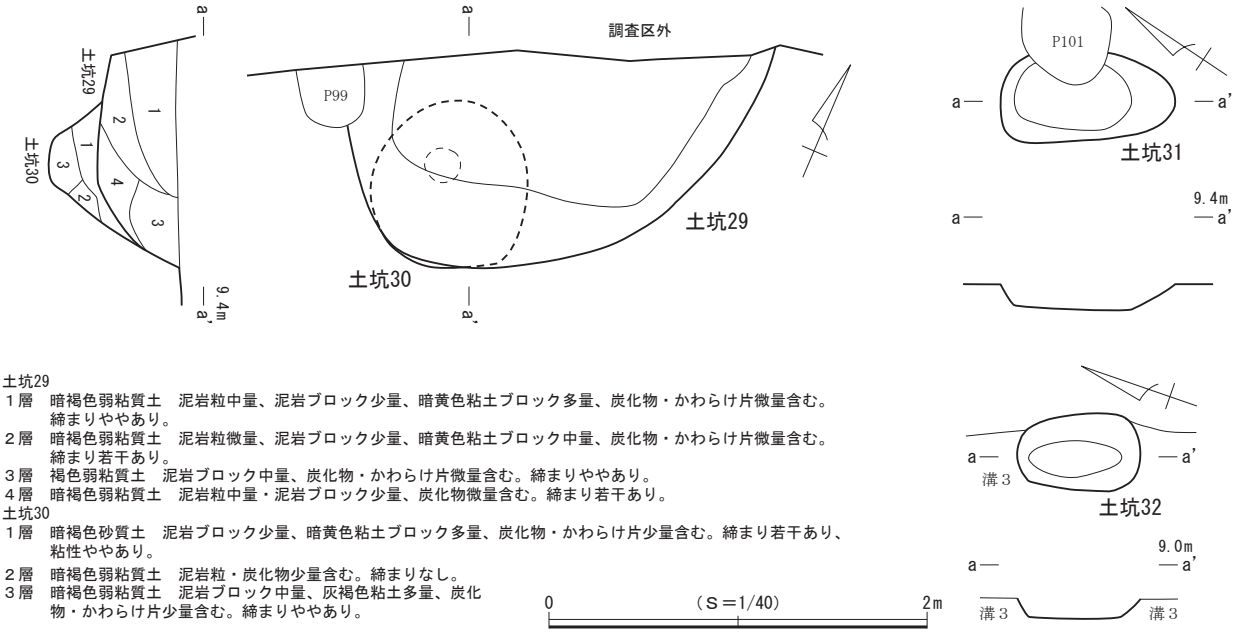


図25　第２面 土坑 29～32

遺物は出土しなかった。

土坑30（図25）

調査区北壁際の西側に位置する。上面を土坑29によって削平されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形を呈し、底面は小さく平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は漏斗状を呈する。規模は長軸90㎝、短軸80㎝、深さ69㎝で、坑底面の標高は8.55ｍを測る。

遺物はかわらけ15点が出土した。

土坑31（図25）

調査区西側に位置する。西側でピット102と重複して壊し、東側でピット101と重複して壁と底面の一部が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、皿状を呈する。規模は長軸92㎝、短軸現存長47㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は8.91ｍを測る。主軸方位はＮ－33°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑32（図25）

調査区の南西側に位置する。上面を溝状遺構３によって削平されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65㎝、短軸40㎝、深さ10㎝で、坑底面の標高は8.72ｍを測る。主軸方位はＮ－19°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

（５）ピット

第２面では、48基を検出した。溝状遺構２の東側にほぼ満遍なく分布し、重複するものも認められた

が、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸23～57㎝、深さ５～37㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図26）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表７）に掲げたが、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。いずれもピット66から出土した。

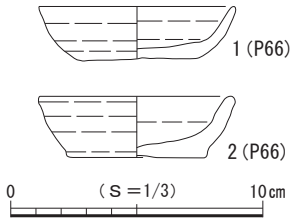


図26　第２面 ピット出土遺物

（６）第２面 遺構外出土遺物（図27）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち10点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけ、４は手づくね成形によるかわらけである。５は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅰ－２類に比定される。７は瀬戸産の卸皿で古瀬戸前期様式Ⅳ期に比定される。８～10は常滑産の陶器類である。８は甕で６ａ型式に比定される。９は片口鉢Ⅰ類、10は片口鉢Ⅱ類である。

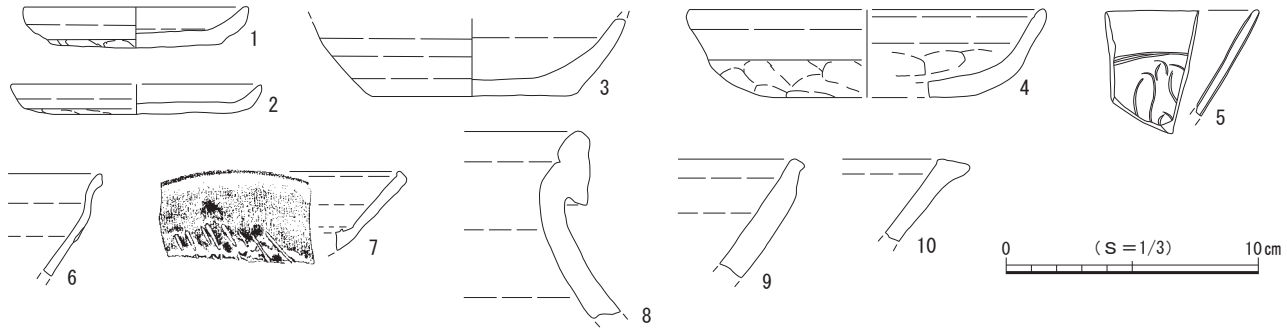


図27　第２面 遺構外出土遺物

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の31～33層上面で検出され、確認面の標高は8.8～9.1ｍを測る。31層は極微量の泥岩粒・褐鉄粒・炭化物、少量の灰色粘土ブロックを含みやや締まりのある灰黒色粘質土層、32層は中量の褐鉄、微量の炭化物を含みやや粘性のある暗褐色砂質土層、33層は微量の泥岩粒・炭化物・かわらけ片、中量の泥岩ブロック、少量の灰色粘土粒を含み締まりと粘性のある黒褐色砂質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構３条、土坑10基、ピット42基である。調査区の中央と東側に南北方向の溝が延び、中央の溝の両側は遺構の空白域が多く認められた。遺構間の重複は認められたが、密度はさほど高くはなかった。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構４（図30）

調査区の東側に位置する。南北方向にほぼ直線的に延びて南側は調査区外へと続き、北側は近現代の

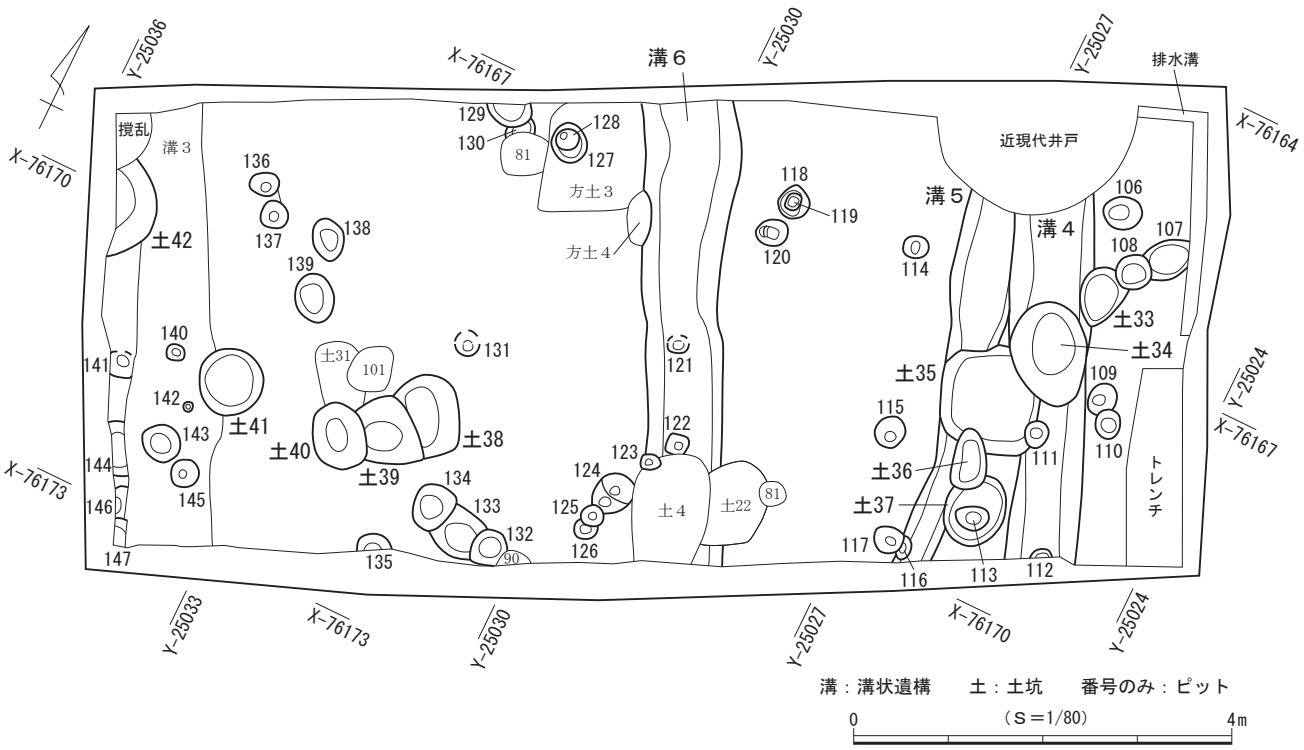


図28　第３面 遺構分布図

井戸によって削平されている。調査区内では土坑33・34・35、ピット111・112と重複して壁と底面の一部が壊され、西側に隣接して溝状遺構５が延びており、北側で重複して壁の一部を壊している。検出した規模は現存長約3.9m、幅65～90㎝、深さ25㎝で、主軸方位はＮ－23°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は北側が8.46m、南側が8.65mを測り、北側へ向かってわずかに傾斜する。

遺物はかわらけ69点、磁器１点、陶器２点が出土した。

溝状遺構５（図30）

調査区の東側に位置する。わずかに湾曲しながら南北方向に延びて南側は調査区外へと続き、北側は近現代の井戸によって削平されている。調査区内では土坑35・36・37、ピット116・117と重複して壁と底面の一部が壊され、東側に隣接して溝状遺構４が延びており、北側で重複して壁の一部が壊されている。検出した規模は現存長約4.0m、幅40～65㎝、深さ27㎝で、主軸方位はＮ－17°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は8.64mを測る。

出土遺物（図29）

遺物はかわらけ33点、陶器２点、土師質・瓦質土器１点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけ、２は手づくね成形によるかわらけである。

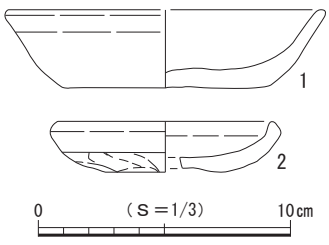
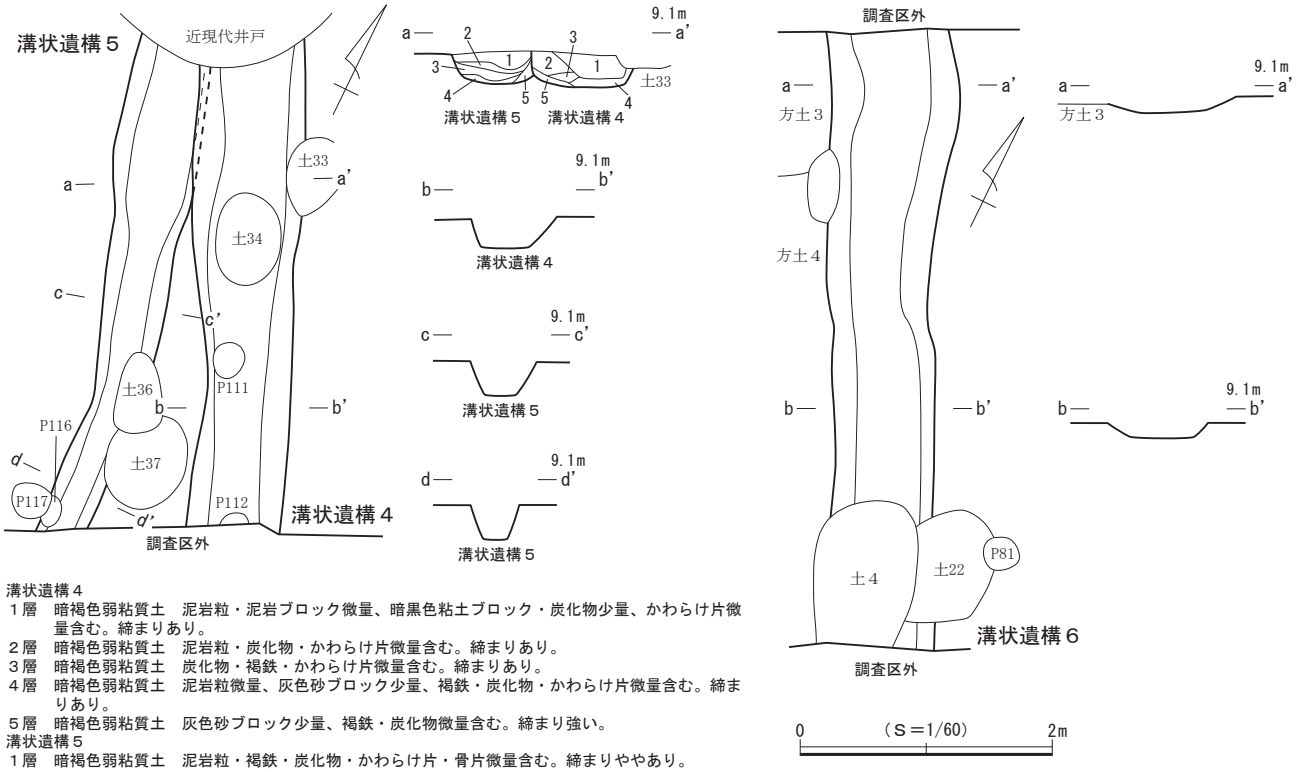


図29　第３面 溝状遺構５出土遺物



溝状遺構４
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・泥岩ブロック微量、暗黒色粘土ブロック・炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。
３層　暗褐色弱粘質土　炭化物・褐鉄・かわらけ片微量含む。締まりあり。
４層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒微量、灰色砂ブロック少量、褐鉄・炭化物・かわらけ片微量含む。締まりあり。
５層　暗褐色弱粘質土　灰色砂ブロック少量、褐鉄・炭化物微量含む。締まり強い。
溝状遺構５
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・褐鉄・炭化物・かわらけ片・骨片微量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・褐鉄・炭化物微量含む。締まりあり。
３層　黒茶色弱粘質土　泥岩粒・灰色砂ブロック・刻色土ブロック微量、褐鉄少量含む。締まりあり。
４層　暗褐色弱粘質土　灰色砂ブロック少量、黒色粘土ブロック微量含む。
５層　暗褐色砂質土　褐鉄少量含む。粘性ややあり。

図30　第３面 溝状遺構４～６

溝状遺構６（図30）

調査区の中央に位置する。南北方向にほぼ直線的に延びて縦断し、調査区外へと続いている。調査区内では方形土坑３・４、土坑４・22、ピット121～123と重複して壁と底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約4.9m、幅0.8～1.0m、深さ12cmで、主軸方位はＮ－25°－Ｗを指す。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。底面はほぼ平らで、標高は南北側とも8.90mを測る。

遺物はかわらけ29点、土師器２点、須恵器１点が出土した。

（２）土　坑

土坑33（図31）

調査区の北東側に位置する。西側で溝状遺構４と重複して壊し、北側でピット108と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65cm、短軸47cm、深さ13cmで、坑底面の標高は8.81mを測る。主軸方位はＮ－11°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ９点が出土した。

土坑34（図31）

調査区の東側に位置する。溝状遺構４、土坑35と重複してそれぞれの壁と底面の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面は緩やかに湾曲する。壁は開いて立ち上がり、断面形はＵ字状を呈する。規模は長軸1.10m、短軸80cm、深さ25cmで、坑底面の標高は南側で9.64mを測る。主軸方位はＮ－

36° －Wを指す。

遺物はかわらけ６点が出土した。

土坑35（図31）

調査区の南東側に位置する。溝状遺構４・５と重複して壊し、北側で土坑34、南側で土坑36、ピット111と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.14m、短軸1.04m、深さ20cmで、坑底面の標高は8.64mを測る。主軸方位はＮ－21°－Wを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑36（図31）

調査区の南東側に位置する。溝状遺構５、土坑35・37と重複して壁や底面の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面ほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64cm、短軸37cm、深さ23cmで、坑底面の標高は8.64mを測る。主軸方位はＮ－26°－Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑37（図31）

調査区の南東側に位置する。西側で溝状遺構５と重複して壊し、北側で土坑36、中央でピット113と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77cm、短軸64cm、深さ18cmで、坑底面の標高は8.75mを測る。主軸方位はＮ－７°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ８点が出土した。

土坑38（図31）

調査区の南西側に位置する。西側で土坑39と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸85cm、短軸現存長52cm、深さ29cmで、坑底面の標高は8.76mを測る。主軸方位はＮ－36°－Wを指す。

遺物はかわらけ８点が出土した。

土坑39（図31）

調査区の南西側に位置する。東側で土坑38と重複して壊し、西側で土坑40と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長87cm、短軸73cm、深さ32cmで、坑底面の標高は8.66mを測る。底面の形状を基準にすると主軸方位はＮ－67°－Ｅを指す。

遺物は土師器７点が出土した。

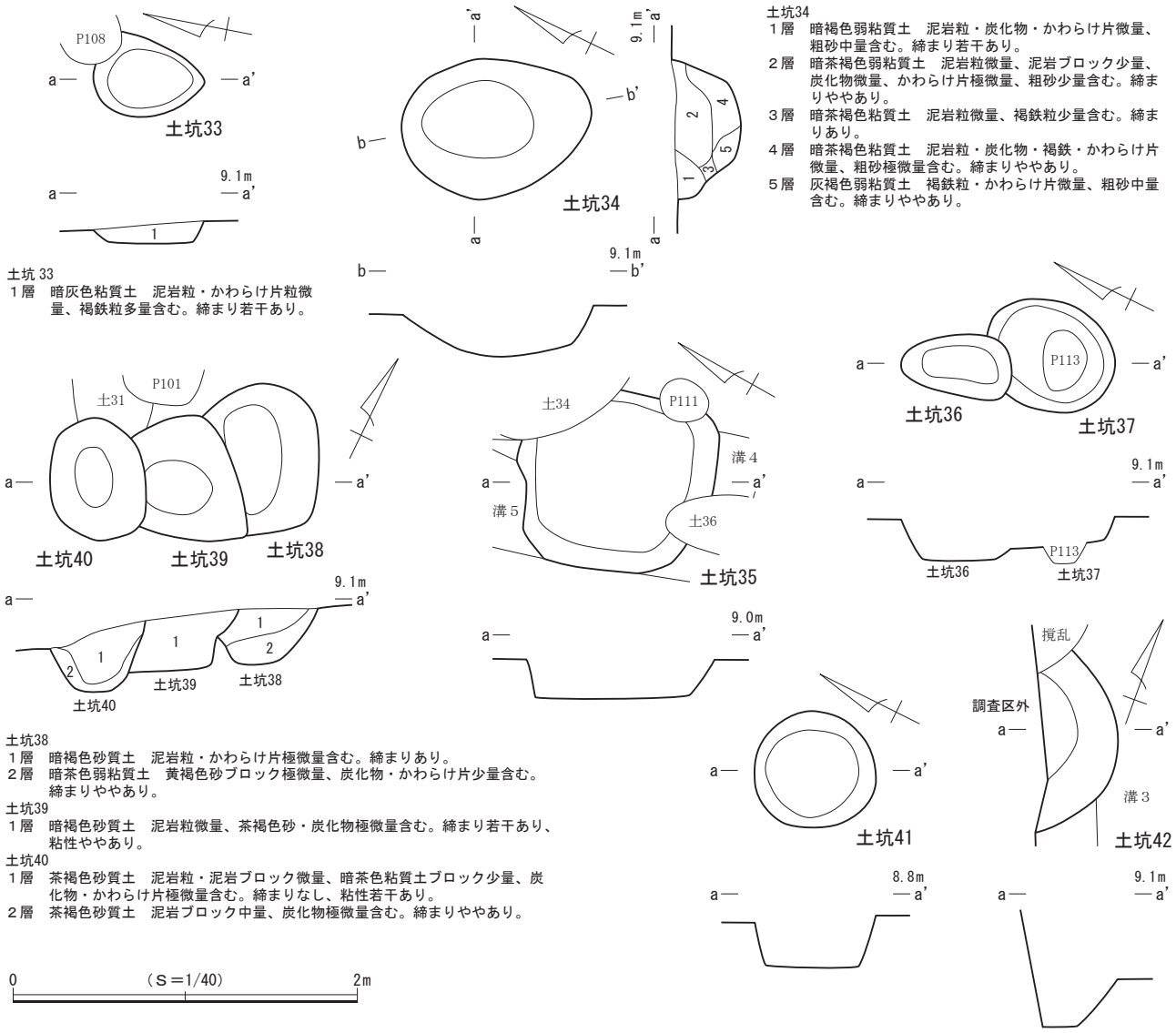


図31　第３面 土坑 33～42

土坑40（図31）

調査区の南西側に位置する。東側で土坑39と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸71cm、短軸55cm、深さ29cmで、坑底面の標高は8.55mを測る。主軸方位はN－40°－Wを指す。

遺物はかわらけ11点が出土した。

土坑41（図31）

調査区の西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長径70cm、深さ31cmで、坑底面の標高は8.38mを測る。

出土遺物（図32）

遺物はかわらけ16点、陶器１点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

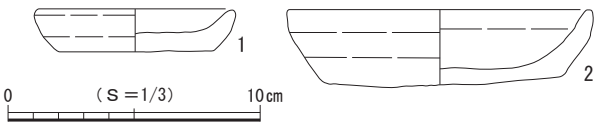


図32　第３面 土坑41出土遺物

土坑42（図31）

調査区西壁際の北側に位置する。北側を撹乱によって失われ、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.07ｍ、東西現存長42㎝、深さ28㎝で、坑底面の標高は8.34ｍを測る。

遺物はかわらけ５点、陶器１点が出土した。

（３）ピット

第３面では、42基を検出した。調査区の全域に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸10～58㎝、深さ５～75㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は42基中、13基（ピット106～109・112・115・116・133・134・138・141・144・145）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表７）を参照されたい。

（４）第３面 遺構外出土遺物（図33）

第３面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち21点を図示した。

１～７はロクロ成形によるかわらけ、８～16は手づくね成形によるかわらけである。17～19は龍泉窯系青磁碗で、17は碗０類、18・19は碗Ⅰ類に比定される。20は渥美産の片口鉢で２ｂ型式に比定される。21は平瓦である。

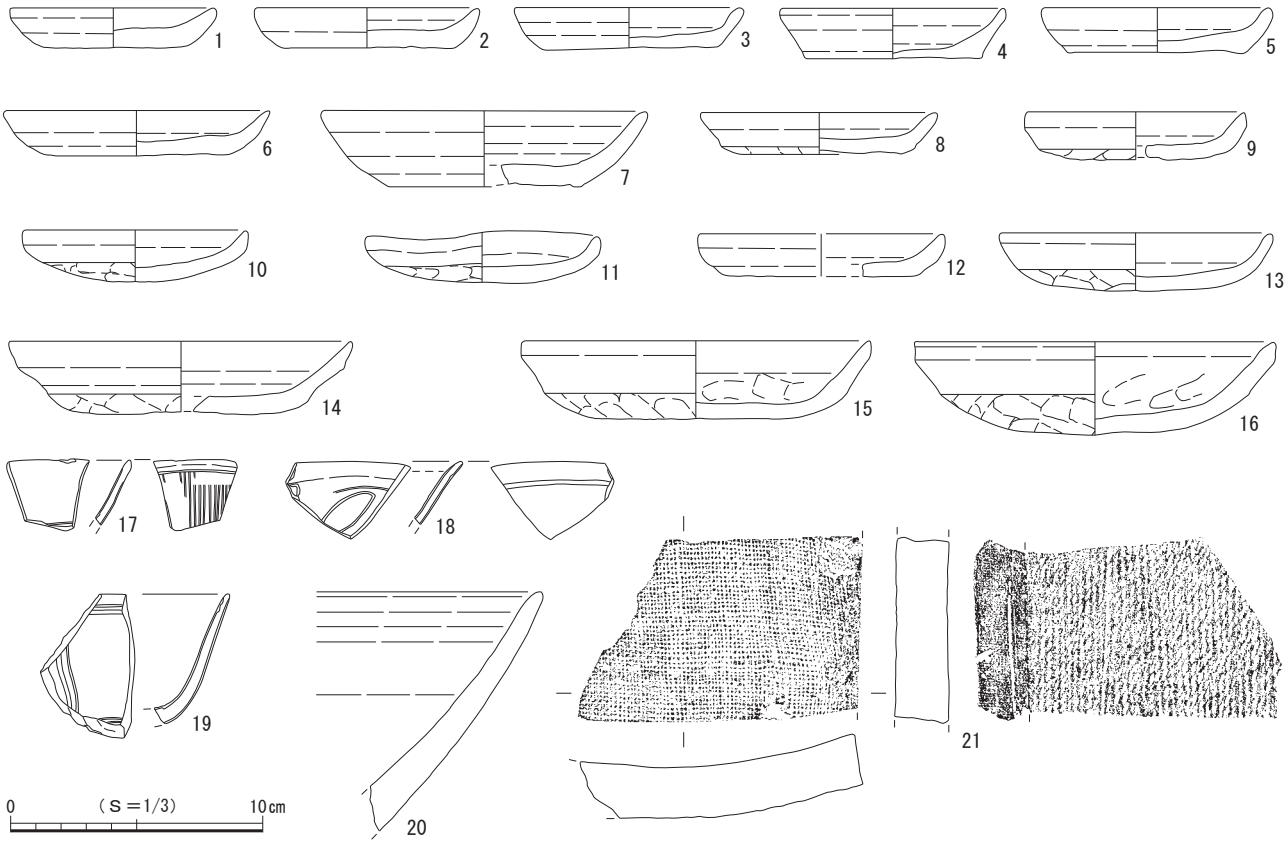


図33　第３面 遺構外出土遺物

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の34層上面で検出され、確認面の標高は8.6～8.9ｍを測る。34層は微量の褐鉄粒少量の細砂を含みやや締まりのある灰褐色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、ピット３基である。遺構は種類・数ともに非常に少なく、調査区の北寄りからピット３基と溝状遺構が東西に離れて検出された。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、土師器、須恵器、石製品、金属製品などが出土している。年代を特定する遺物が少ないが、本面の属する時期は少なくとも13世紀以前と考えられる。

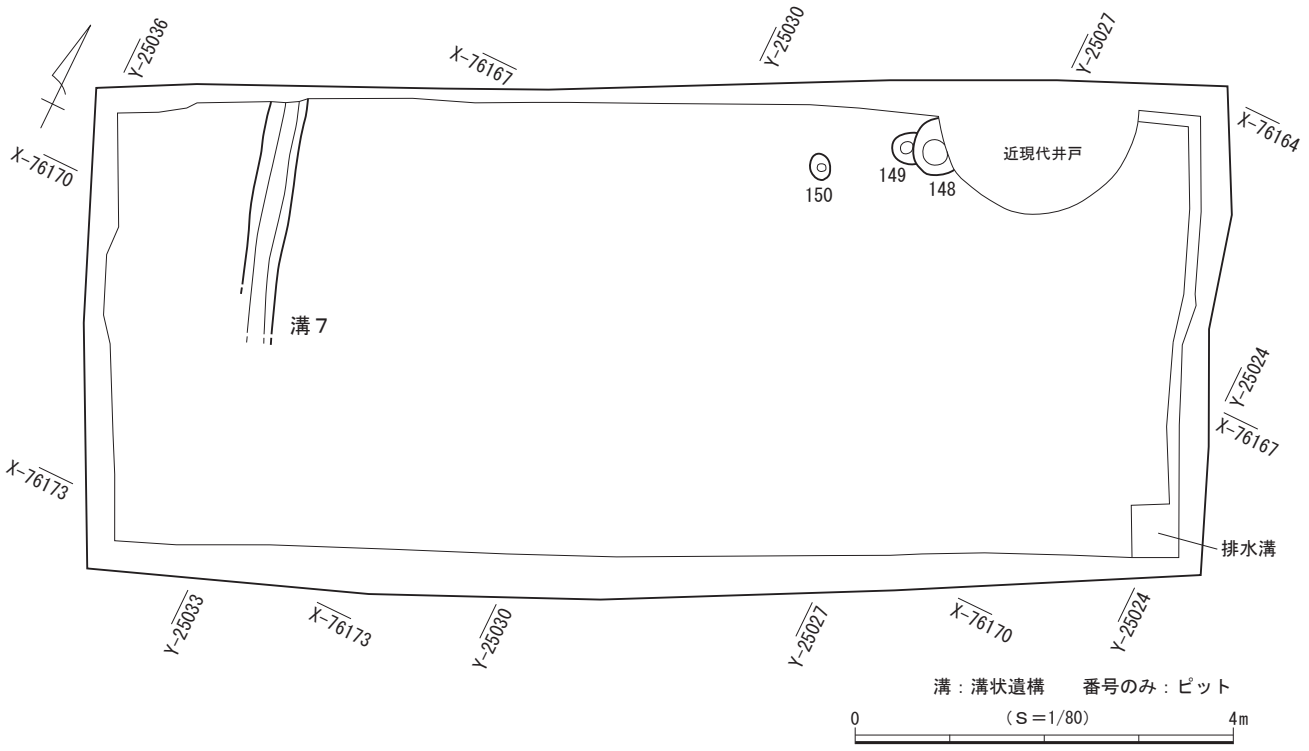


図34　第４面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構７（図35）

調査区の北西側に位置する。南北方向にほぼ直線的に延び、北側は調査区外へと続くが南側は遺存状態が悪く様相は判然としない。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。検出した規模は現存長約2.5ｍ、幅40㎝、深さ９～12㎝で、主軸方位はＮ－17°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側が8.71ｍ、南側が8.65ｍを測り、南側に向かってわずかに傾斜する。

遺物は出土しなかった。

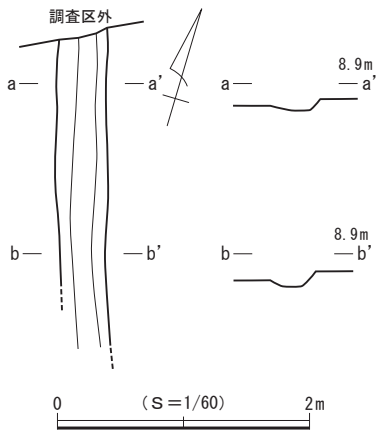


図35　第４面 溝状遺構７

（2）ピット

第４面では、３基を検出した。調査区の北東側にまとまって分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形で、規模は長軸28～56㎝、深さ９～12㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

ピットから遺物は出土しなかった。

（3）第４面 遺構外出土遺物（図36）

第４面では遺構から遺物は出土せず、すべて遺構外からの出土であった。このうち５点を図示した。

１は手づくね成形によるかわらけである。２は東金子窯の製品と考えられる須恵器坏で、９世紀中頃に比定される。３は土師器で武蔵型の小形台付甕であり、８世紀後半以降に比定される。４は砥石、５は銭貨で咸淳元寶（1265年初鋳）である。

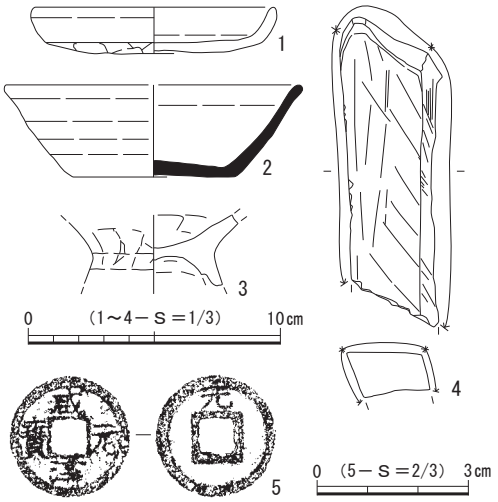


図36　第４面 遺構外出土遺物

第四章　自然科学分析

名越ヶ谷遺跡の花粉分析

森　将志（パレオ・ラボ）

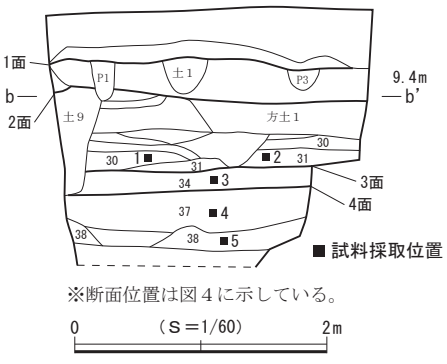
１．はじめに

神奈川県鎌倉市に所在する名越ヶ谷遺跡において、古植生を検討するために花粉分析用の試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析の結果を示し、考察を行った。

２．試料と方法

分析試料は、Ⅱ区北壁から採取された５試料である（付図１、付表１）。これらの試料から、次の手順で花粉分析を実施した。

試料（湿重量約３～４ｇ）を遠沈管にとり、10％水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46％フッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。今回の分析試料は、複数枚を検鏡しても産出傾向を把握するのに必要な数の花粉化石が得られないと判断されたため、プレパラート１枚の全面を検鏡するにとどめた。



付図１　調査区東壁 サンプル採取位置

付表１　分析試料一覧

試料No.	採取地点	層位	土層
1	Ⅱ区北壁	30層	茶褐色粘質土
2		31層	灰黒色粘質土
3		34層	灰褐色粘質土
4		37層	灰黄色砂質土
5		38層	暗黄色砂質土

３．結果

今回の分析試料には花粉化石がほとんど含まれておらず、検出された花粉は、スギ属(31層)とハンノキ属(31層)、ヨモギ属(30層)がわずかである(付表２)。なお、今回は十分な量の花粉化石を得られなかったため、分布図は示していない。

付表２　産出花粉化石一覧表

学名	和名	30層	31層	34層	37層	38層
樹木						
Cryptomeria	スギ属	－	3	－	－	－
Alnus	ハンノキ属	－	1	－	－	－
草本						
Artemisia	ヨモギ属	1	－	－	－	－
Arboreal pollen	樹木花粉	－	4	－	－	－
Nonarboreal pollen	草本花粉	1	－	－	－	－
Total Pollen	花粉総数	1	4	－	－	－

４．考察

今回の分析試料には花粉化石がほとんど含まれていなかった。花粉化石が産出しない原因の１つとしては、堆積物の粒径の大きさの影響が考えられる。花粉粒の大きさは一般的にシルト・粘土サイズであり、植物から散布された花粉粒は、陸域や水域に落下した場合、微細粒子と同じような挙動を示すと思われる。今回分析した試料(№４・５)は砂質堆積物であり、砂を主体とした本試料には流失等により、花粉化石がとどまらなかったものと思われる。一方で、№１～３は粘質土であるにもかかわらず、花粉化石がほとんど含まれていなかった。一般的に、花粉は乾燥や紫外線、土壌バクテリアなどに弱く、これらの要因が強く働く環境にさらされると分解、消失してしまうことが多い。№１～３では、上記の要因が強く働く酸化的な堆積環境および保存環境であったと思われる。今回は十分な量の花粉化石が得られなかったため、古植生について言及するのが難しい。

第五章　まとめ

今回報告する大町四丁目1884番14地点は、「名越ヶ谷遺跡(№231)」の範囲内に所在する。本遺跡は鎌倉市の南東部域に位置し、市街地から名越切通しに向かう県道鎌倉葉山線の東側一帯の、丘陵部を除いた名越ヶ谷のほぼ全域が包蔵地範囲となっている。名越ヶ谷は奥行きが１㎞以上あり、開口部付近の幅は300ｍ以上を測る市内でも広大な谷戸の一つで、谷の中央には逆川が流れる。本地点は北東－南西方向に長い包蔵地範囲の南西端、名越ヶ谷開口部の東寄りに位置し、逆川からの距離は直線にして50ｍほどである。

本調査で検出した遺構確認面は第１～４面までの合計４面で、いずれも中世に属する。検出した遺構は方形竪穴状遺構２基、溝状遺構７条、落ち込み１ヵ所、方形土坑６基、土坑42基、ピット150基で、出土遺物は遺物収納箱(60×40×14㎝)に換算して12箱を数える。

第１～４面の各面で溝状遺構が検出されており、主軸方位はいずれも西側に振れた南北方向で調査区を縦断し、時期が新しくなるにつれて西寄りの方向を指す。溝状遺構の規模は幅が１ｍ以下で、深さが30㎝に満たない小規模なものであり、第２面の溝状遺構３のみが残存幅1.2ｍを超えるやや大きな規模をもつ。溝状遺構の北側は逆川の方向に向かって延び、底面の標高が南側よりも北側がおおむね低くなっていることから、排水を兼ねた区画施設となる可能性が想定される。

第１～４面のうちで遺構密度が最も高く生活痕跡が濃く残されていたのは第２面で、出土遺物から推定される年代は13世紀前葉～中葉頃であった。方形竪穴状遺構や方形土坑などが溝状遺構と主軸方向を同じくして構築されており、遺構間の重複も多くみられた。また、ピットも多数検出されたが、調査区内においては建物などの構築物を示すような規則的な配置は認められなかった。

ここで近接する調査事例に目を向けると、図２に示した⑦大町四丁目1880番６地点は本報告地点の

北側45ｍに位置し、14世紀代の底面に方形の掘り込みをもつ溝状遺構が検出されている（田代・大坪1995）。また、本地点の南側約20ｍに位置する図２の⑨大町四丁目1888番地点では、５面にわたる調査が行われ、掘立柱建物（13世紀前半）、方形竪穴状遺構、溝状遺構、土坑、ピットで構成される遺構群が検出された（汐見・野本ほか 2000）。出土遺物からは13世紀初頭から14世紀代という年代観が推定されており、13世紀前葉から中葉とされる本地点よりも遺跡としての存続期間が長いといえる。検出遺構のうち掘立柱建物は13世紀前半とされており、⑨地点は屋敷地の一画である可能性が指摘されている。

今回検出された遺構群と近接する調査地点の様相とを合わせて本地点の性格を推定すると、屋敷地の裏手のような土地利用が想定されよう。なお、本地点最下面にあたる第４面から土師器と須恵器の破片が出土している。隣接する⑨地点の中世地山層下でも土師器細片の出土が確認されており、周辺に古代の遺跡が埋没している可能性が推測される。

引用・参考文献（著者五十音順）

菊川英政　1995「４．名越ヶ谷遺跡（№231）大町三丁目1217番１地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11』平成６年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

汐見一夫・野本賢二ほか　2000「名越ヶ谷遺跡（№231）大町四丁目1888番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16』平成11年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

田代郁夫・大坪聖子　1995「１．名越ヶ谷遺跡（№231）大町四丁目1880番６地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11』平成６年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

手塚直樹・野本賢二　2002「名越ヶ谷遺跡（№231）大町三丁目1826番９地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18』平成11年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

永田史子・齋藤修佑　2018「名越ヶ谷遺跡（№231）大町三丁目2353番２外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告34』平成29年度発掘調査報告（第４分冊）　鎌倉市教育委員会

福田　誠　2019「名越ヶ谷遺跡（№231）大町三丁目2354番１、６地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告35』平成30年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

宮田　眞　2003「名越ヶ谷遺跡（№231）大町三丁目2356番11地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』平成14年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

宮田　眞・滝澤晶子・鯉渕義紀　2003『神奈川県・鎌倉市 名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書（医療法人財団額田記念会老健ぬかだ建設に伴う発掘調査）』名越ヶ谷遺跡発掘調査団　有限会社博通

宮田　眞・諸星真澄ほか　2001『神奈川県・鎌倉市 名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』名越ヶ谷遺跡発掘調査団

山口正紀　2012「名越ヶ谷遺跡（№231）大町四丁目1888番の一部地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28』平成23年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑４出土遺物（図10）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.0	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.4	1.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・中	11.8	6.4	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/5
4	土器	手づくねかわらけ・中	(12.8)	－	3.5	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
土坑５出土遺物（図11）							
1	陶器	常滑甕	－	－	現3.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：黄褐色・灰黄色　備考：５型式	口縁部小破片
土坑６出土遺物（図12）							
1	土器	ロクロかわらけ・中	12.6	7.5	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
2	磁器	青磁碗	－	4.8	現1.7	畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	底部小破片
3	金属製品	釘	現長10.2	幅0.7	厚0.5	角釘　材質－鉄	4/5
第１面 遺構外出土遺物（図14）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	(4.6)	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.7	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(5.6)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(5.2)	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：いぶい橙色　焼成：良好	1/4
5	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(5.6)	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/6
6	土器	ロクロかわらけ・小	8.4	6.0	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
7	土器	ロクロかわらけ・小	(8.8)	(5.8)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
8	土器	ロクロかわらけ・小	(9.9)	(8.0)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
9	土器	ロクロかわらけ・中	(11.0)	(6.8)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
10	土器	ロクロかわらけ・中	(12.2)	(7.6)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
11	土器	ロクロかわらけ・中	(12.4)	(7.8)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/6
12	土器	ロクロかわらけ・中	12.8	6.0	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
13	土器	ロクロかわらけ・大	(13.2)	8.2	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
14	土器	手づくねかわらけ・中	(10.8)	－	2.9	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
15	土器	手づくねかわらけ・中	(12.8)	－	3.3	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
16	磁器	青磁碗	－	－	現3.8	内面－櫛描文・沈線　畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	底部小破片
17	磁器	青磁碗	－	－	現5.2	外面－蓮弁文　畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	体部～底部小破片
18	陶器	瀬戸卸皿	14.4	9.4	3.9	胎土：緻密　色調：胎土－にぶい黄橙色、灰釉－灰白色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ期	1/2
19	陶器	渥美甕	－	－	現4.5	胎土：微砂　色調：黒褐色　備考：２ｂ型式	口縁部小破片
20	陶器	常滑甕	－	－	現4.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：にぶい橙色　備考：５型式	口縁部小破片
21	陶器	常滑甕	－	－	現4.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：５型式	口縁部小破片
22	陶器	東播系鉢	－	－	現8.1	胎土：白色粒　色調：灰色　備考：Ⅵ～Ⅶ期	口縁部小破片
23	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現	内外面－磨き　外面－連珠貼り付け文・スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：Ⅲ類	口縁部小破片
24	金属製品	銭貨	直径2.3	孔径0.7	厚0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	略完形

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
方形竪穴状遺構１出土遺物（図17）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.4)	(5.0)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4

2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.8)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/6
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.8)	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.7	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.4)	3.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/6
7	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.6	3.4	底面－焼成後穿孔１ヵ所（径0.3㎝）、回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.0	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.2)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/6
10	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	－	2.1	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
11	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	－	現 3.1	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/5
12	土器	手づくね かわらけ・大	13.6	－	現 3.4	底面・内底－指頭ナデ消し　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
13	土器	手づくね かわらけ・大	14.2	－	現 3.0	底面・内底－指頭ナデ消し　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
14	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 5.6	内外面－ハケメ　口縁部直下－穿孔　胎土：砂粒、白色粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：ＩＣ類	口縁部 小破片
15	石製品	用途不明	長 11.7	幅 5.0	厚 5.0	方柱形　石材－軽石	略完形

溝状遺構３出土遺物（図20）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.2	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.1	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.6)	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/5
5	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.7	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	8.6	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
7	磁器	白磁 皿	－	－	現 7.8	口唇部－口兀　色調：胎土－灰色、白磁釉－灰白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	口縁部 小破片

方形土坑５出土遺物（図21）

1	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	－	1.8	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
2	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	－	3.2	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、良土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
3	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 2.7	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
4	金属 製品	釘	現長 8.2	頭幅 1.0	厚 0.5	角釘　材質－鉄	略完形

方形土坑６出土遺物（図23）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.5	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(6.2)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/5
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(8.4)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/5
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.3)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.2)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(8.2)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
7	陶器	渥美 片口鉢	－	－	現 3.6	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：２ｂ型式	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 3.6	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片

ピット出土遺物（図26）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.7	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット66	5/6
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.4)	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット66	1/4

第２面 遺構外出土遺物（図27）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.6)	1.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/6

3	土器	ロクロ かわらけ・大	－	8.0	現 3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄褐色　焼成：良好	2/3
4	土器	手づくね かわらけ・中	(12.2)	－	3.5	底面・内底－指頭ナデ消し　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/6
5	磁器	青磁 碗	－	－	現 4.2	内面－劃花文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ－２ａ類	口縁部 小破片
6	陶器	中国 天目茶碗	－	－	現 4.1	胎土：緻密　色調：胎土－黄灰色、鉄釉－黒褐色	口縁部 小破片
7	陶器	瀬戸 卸皿	－	－	現 3.1	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－灰白色　備考：古瀬戸前期様式Ⅳ期	口縁部～ 底部小破片
8	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
9	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 4.7	胎土：白色粒　色調：暗褐色	口縁部 小破片
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.3	胎土：白色粒　色調：褐色	口縁部 小破片

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構５出土遺物（図29）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.0)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	－	2.0	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
土坑41出土遺物（図32）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	9.7	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
第３面 遺構外出土遺物（図33）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.8)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.8	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.8	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	4/5
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好　備考：二次焼成	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	(7.6)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	－	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	－	1.7	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/4
9	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	(5.0)	1.9	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/3
10	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	－	2.1	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
11	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	－	2.1	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
12	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	－	1.7	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/6
13	土器	手づくね かわらけ・中	(10.8)	－	2.3	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
14	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	－	2.9	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
15	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	－	3.1	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	1/3
16	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	－	3.7	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	3/4
17	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.6	外面－櫛描文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗０類	口縁部 小破片
18	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.5	内面－劃花文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	口縁部 小破片
19	磁器	青磁 碗	－	－	現 5.2	内面－区画劃花文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	口縁部 小破片
20	陶器	渥美 片口鉢	－	－	現 9.5	胎土：微砂、白色粒　色調：灰色　備考：２ｂ型式	口縁部 小破片
21	瓦	平瓦	現長 7.4	現幅 10.9	厚 2.1	凸面－縄叩き、凹面－布目　胎土：粗　色調：灰色	1/8

表５　第４面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第４面 遺構外出土遺物（図36）							
1	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	－	1.9	底面－指頭ナデ消し、内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/2

2	須恵器	坏	(11.8)	(6.4)	3.7	ロクロ成形　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好　備考：東金子窯	1/4
3	土師器	小形台付甕	−	−	現 2.8	外面・内面－ヘラナデ　胎土：砂粒、赤色粒　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　備考：武蔵型	脚部小破片
4	石製品	砥石	現長 12.4	現幅 3.9	厚 2.7	4面に使用痕跡　石材－粘板岩	
5	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－咸淳元寶（南宋・1265）　背文字－元　書体－楷書	完形

表6　遺構計測表

（ ）＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
溝状遺構1	第1面	〈500〉	40～60	14～25
落ち込み1	第1面	〈240〉	〈35〉	20～25
土坑1	第1面	66	〈36〉	37
土坑2	第1面	67	〈23〉	47
土坑3	第1面	63	46	15
土坑4	第1面	〈121〉	108	53
土坑5	第1面	〈91〉	〈35〉	11
土坑6	第1面	〈78〉	〈39〉	19
土坑7	第1面	65	50	31
土坑8	第1面	63	57	28
ピット1	第1面	〈51〉	〈26〉	11
ピット2	第1面	52	48	20
ピット3	第1面	47	〈22〉	11
ピット4	第1面	54	42	18
ピット5	第1面	42	23	12
ピット6	第1面	52	47	24
ピット7	第1面	33	32	8
ピット8	第1面	40	〈23〉	12
ピット9	第1面	51	46	16
ピット10	第1面	〈32〉	〈15〉	37
ピット11	第1面	26	24	38
ピット12	第1面	40	〈16〉	15
ピット13	第1面	43	〈19〉	37
ピット14	第1面	41	40	24
ピット15	第1面	33	27	12
ピット16	第1面	43	37	48
ピット17	第1面	39	39	37
ピット18	第1面	34	〈27〉	8
ピット19	第1面	28	25	16
ピット20	第1面	28	〈14〉	6
ピット21	第1面	53	(37)	10
ピット22	第1面	44	(31)	24
ピット23	第1面	33	30	14
ピット24	第1面	36	〈9〉	6
ピット25	第1面	〈30〉	29	7
ピット26	第1面	53	38	23
ピット27	第1面	51	39	28
ピット28	第1面	42	42	27
ピット29	第1面	27	26	17
ピット30	第1面	32	30	6
ピット31	第1面	42	39	8
ピット32	第1面	37	30	11
ピット33	第1面	32	〈17〉	7
ピット34	第1面	40	(34)	10
ピット35	第1面	〈26〉	〈12〉	21
ピット36	第1面	47	33	12
ピット37	第1面	48	40	12
ピット38	第1面	49	38	16
ピット39	第1面	33	31	9
ピット40	第1面	39	33	34
ピット41	第1面	40	29	6
ピット42	第1面	27	20	6
ピット43	第1面	44	25	15
ピット44	第1面	33	〈14〉	21
ピット45	第1面	48	40	8
ピット46	第1面	56	53	13
ピット47	第1面	29	28	22
ピット48	第1面	42	35	20
ピット49	第1面	37	32	10
ピット50	第1面	32	30	20
ピット51	第1面	〈28〉	27	11
ピット52	第1面	29	27	11
ピット53	第1面	31	28	17
ピット54	第1面	25	19	7
ピット55	第1面	29	28	15
ピット56	第1面	40	34	22
ピット57	第1面	32	30	18
方形竪穴状遺構1	第2面	〈340〉	〈150〉	45
方形竪穴状遺構2	第2面	365	〈171〉	45
溝状遺構2	第2面	〈480〉	35～62	23
溝状遺構3	第2面	〈480〉	90～120	29
方形土坑1	第2面	156	〈136〉	28
方形土坑2	第2面	〈159〉	〈69〉	44
方形土坑3	第2面	〈115〉	107	15
方形土坑4	第2面	114	107	13
方形土坑5	第2面	127	125	46
方形土坑6	第2面	336	140	17
土坑9	第2面	〈55〉	〈43〉	60
土坑10	第2面	〈50〉	〈27〉	60
土坑11	第2面	〈70〉	〈60〉	16
土坑12	第2面	〈47〉	〈40〉	11
土坑13	第2面	〈52〉	〈39〉	10
土坑14	第2面	87	53	28
土坑15	第2面	66	〈45〉	27
土坑16	第2面	〈66〉	50	43
土坑17	第2面	〈60〉	55	18
土坑18	第2面	66	53	36
土坑19	第2面	70	〈48〉	16
土坑20	第2面	65	−	54
土坑21	第2面	〈60〉	32	17
土坑22	第2面	100	71	10
土坑23	第2面	78	65	39
土坑24	第2面	〈114〉	〈24〉	19
土坑25	第2面	132	76	25
土坑26	第2面	〈87〉	60	27
土坑27	第2面	64	56	9
土坑28	第2面	74	69	18
土坑29	第2面	〈210〉	〈115〉	11
土坑30	第2面	90	80	69
土坑31	第2面	92	〈47〉	13
土坑32	第2面	65	40	10
ピット58	第2面	41	34	19
ピット59	第2面	29	〈21〉	21
ピット60	第2面	〈17〉	21	20
ピット61	第2面	24	24	14
ピット62	第2面	45	38	13
ピット63	第2面	23	21	15
ピット64	第2面	30	25	9
ピット65	第2面	〈27〉	〈17〉	26
ピット66	第2面	34	27	20
ピット67	第2面	34	28	14
ピット68	第2面	32	27	21
ピット69	第2面	33	32	20
ピット70	第2面	〈18〉	〈10〉	20
ピット71	第2面	〈24〉	26	19
ピット72	第2面	44	〈15〉	25
ピット73	第2面	〈36〉	〈30〉	34
ピット74	第2面	20	12	24
ピット75	第2面	35	34	18
ピット76	第2面	25	23	18
ピット77	第2面	47	39	27
ピット78	第2面	55	〈47〉	37
ピット79	第2面	33	32	20
ピット80	第2面	40	34	19
ピット81	第2面	28	26	13
ピット82	第2面	55	44	14
ピット83	第2面	42	33	13
ピット84	第2面	41	40	12
ピット85	第2面	20	17	8
ピット86	第2面	32	12	11
ピット87	第2面	〈46〉	46	19
ピット88	第2面	42	31	14
ピット89	第2面	38	29	16
ピット90	第2面	52	〈23〉	30
ピット91	第2面	42	34	19
ピット92	第2面	41	〈27〉	18
ピット93	第2面	〈25〉	31	11
ピット94	第2面	57	40	25
ピット95	第2面	33	14	13
ピット96	第2面	40	33	11
ピット97	第2面	45	(48)	5
ピット98	第2面	54	〈23〉	18
ピット99	第2面	〈31〉	35	16
ピット100	第2面	26	23	11
ピット101	第2面	48	46	35
ピット102	第2面	39	〈22〉	15
ピット103	第2面	42	36	18
ピット104	第2面	41	39	13
ピット105	第2面	〈42〉	〈11〉	14
溝状遺構4	第3面	〈390〉	65～90	25
溝状遺構5	第3面	〈400〉	40～65	27
溝状遺構6	第3面	〈490〉	80～100	12
土坑33	第3面	65	47	13
土坑34	第3面	110	80	25
土坑35	第3面	114	104	20
土坑36	第3面	64	37	23
土坑37	第3面	77	64	18
土坑38	第3面	85	〈52〉	29
土坑39	第3面	87	73	32
土坑40	第3面	71	55	29
土坑41	第3面	70	68	31
土坑42	第3面	〈107〉	〈42〉	28
ピット106	第3面	41	34	32
ピット107	第3面	〈43〉	40	10
ピット108	第3面	38	36	10
ピット109	第3面	35	29	48
ピット110	第3面	31	26	11
ピット111	第3面	29	25	18
ピット112	第3面	23	〈9〉	28
ピット113	第3面	35	26	27
ピット114	第3面	27	23	27
ピット115	第3面	32	30	44
ピット116	第3面	25	(16)	41
ピット117	第3面	32	28	56
ピット118	第3面	35	33	24
ピット119	第3面	18	15	39
ピット120	第3面	34	28	34
ピット121	第3面	23	18	75
ピット122	第3面	22	22	44
ピット123	第3面	22	17	11
ピット124	第3面	(48)	38	31
ピット125	第3面	24	22	8
ピット126	第3面	25	(21)	23
ピット127	第3面	42	36	11
ピット128	第3面	〈25〉	〈19〉	31
ピット129	第3面	45	〈24〉	8
ピット130	第3面	34	〈8〉	8
ピット131	第3面	27	26	14
ピット132	第3面	44	〈39〉	22
ピット133	第3面	50	〈38〉	22
ピット134	第3面	49	41	21
ピット135	第3面	37	〈17〉	9
ピット136	第3面	30	25	15
ピット137	第3面	29	29	13
ピット138	第3面	45	23	10
ピット139	第3面	52	41	10
ピット140	第3面	19	17	5
ピット141	第3面	28	〈24〉	11
ピット142	第3面	10	〈9〉	14
ピット143	第3面	40	38	10
ピット144	第3面	58	〈13〉	8
ピット145	第3面	29	29	7
ピット146	第3面	〈32〉	〈11〉	6
ピット147	第3面	〈29〉	〈12〉	13
溝状遺構7	第4面	〈250〉	40	9～12
ピット148	第4面	56	〈35〉	12
ピット149	第4面	33	〈23〉	11
ピット150	第4面	28	21	9

表7　出土遺物一覧表

第1面

溝状遺構1		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	41
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	44

土坑2		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
	合計	11

土坑4		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	36
	かわらけ　手づくね成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	1

【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
	合計	42

土坑5		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	5

土坑6		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ～Ⅱ類	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	7

土坑7		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑8		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	14

ピット1		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット2		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	5

ピット4		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	5

ピット6		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	13

ピット7		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット9		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

ピット10		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット13		
産　地	器　種	破片数
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
	合計	1

ピット14		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット16		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	3
	合計	13

ピット17		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット19		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット26		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	5

ピット31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	7

ピット34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット36		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット39		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット48		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	皿	1
	合計	3

ピット49		
産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	鉄滓	1
	合計	1

ピット50		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット52		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット53		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット54		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット55		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	8

ピット56		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	6

ピット57		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

第1面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	599
	かわらけ　手づくね成形	7
【白磁】		
	Ⅲ区類	2
	器種不明小破片	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
	碗Ⅱ－b類	4
	壺	1
	器種不明小破片	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	2
瀬戸	卸皿	2
	器種不明小破片	7
渥美	甕	2
常滑	甕	95
	片口鉢Ⅰ類	3
	片口鉢Ⅱ類	3
東播系	鉢	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ⅠC類	1
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢Ⅳ類	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	3
	合計	739

第2面

方形竪穴状遺構1		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	299
	かわらけ　手づくね成形	5
【白磁】		
	壺	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－b類	1
	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	29
	片口鉢Ⅰ類	3
北部系	山茶碗	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ⅠC類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	用途不明	1
	合計	343

溝状遺構2		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	64
	かわらけ　手づくね成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	5
	片口鉢Ⅱ類	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	76

溝状遺構3		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	125
	かわらけ　手づくね成形	1
【白磁】		
	Ⅲ区類	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	2
常滑	甕	14
	合計	143

方形土坑1		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

方形土坑2		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	26
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－b類	1

【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	4
	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ⅠC類	1
合計		34

方形土坑3		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	19
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		20

方形土坑4		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	61
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	3
合計		63

方形土坑5		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	27
	かわらけ　手づくね成形	7
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	2
【金属製品】		
	釘	1
合計		37

方形土坑6		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	179
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	2
	盤	1
【陶器】		
瀬戸	壺	1
	器種不明小破片	2
渥美	片口鉢	1
常滑	甕	19
	片口鉢Ⅰ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【石製品】		
	砥石	1
合計		209

土坑11		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		12

土坑12		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

土坑15		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑16		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		6

土坑21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

土坑22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		10

土坑23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

土坑24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
合計		10

土坑25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		13

土坑26		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

土坑27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

土坑30		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
合計		15

土坑31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット58		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		9

ピット60		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット61		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット65		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
合計		7

ピット66		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	56
【陶器】		
常滑	甕	3
合計		59

ピット71		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット72		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット73		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
合計		17

ピット75		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット76		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット77		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

ピット78		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
合計		12

ピット79		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット80		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

ピット82		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
合計		5

ピット83		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		6

ピット88		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット89		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット93		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		7

ピット105		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
合計		4

第2面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	454
	かわらけ　手づくね成形	8
【白磁】		
	Ⅲ区類	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	6
	碗Ⅰ－2類	1
	碗Ⅱ－b類	1
【陶器】		
中国	天目茶碗	1
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	46
	片口鉢Ⅰ類	5
	片口鉢Ⅰ類	5
【金属製品】		
	釘	5
合計		536

第3面

溝状遺構4		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	58
	かわらけ　手づくね成形	10
【青磁】		
龍泉窯系	碗小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	1
北部系	山茶碗	1
合計		72

溝状遺構5		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	22
	かわらけ　手づくね成形	11
【陶器】		
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
合計		36

溝状遺構6		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	29
【土師器】		
	器種不明小破片	2
【須恵器】		
	甕	1
合計		32

土坑33		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
合計		9

土坑34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

土坑35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

土坑37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

土坑38		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
合計		8

土坑39		
産　地	器　種	破片数
【土師器】		
	器種不明小破片	7
合計		7

土坑40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
合計		11

土坑41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		17

土坑42		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		6

ピット106		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
合計		9

ピット107		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
合計		3

ピット108		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット109		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
合計		5

ピット112		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		6

ピット115		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【白磁】		
	器種不明小破片	1
合計		2

ピット116		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット133		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット134		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット138		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット141		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

ピット144		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
中国	無釉陶器	1
合計		9

ピット145		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

第3面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	23
	かわらけ　手づくね成形	619
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	1
【青磁】		
同安窯系	Ⅲ	1
	器種不明小破片	2
龍泉窯系	碗０類	1
	碗Ⅰ類	2
	器種不明小破片	3
【陶器】		
中国	黄釉盤	1
瀬戸	平碗	1
	器種不明小破片	3
渥美	甕	3
	片口鉢	1
常滑	甕	46
	片口鉢Ⅰ類	8
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
【瓦】		
	平瓦	5
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	2
合計		726

第４面

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	かわらけ　手づくね成形	16
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	碗	1
【土師器】		
	小型台付甕	1
	甕小破片	30
【須恵器】		
	坏	1
	坏蓋	2
	はそう	1
	甕	2
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	1
合計		70

1．調査地点近景（南から）

2．調査区南壁土層断面（北西から）

図版２

１．調査区南側第１面全景（東から）

２．調査区北側第１面全景（東から）

３．調査区南側第２面全景（東から）

４．調査区北側第２面全景（東から）

１．調査区南側第３面全景（東から）

２．調査区北側第３面全景（東から）

３．調査区南側第４面全景（東から）

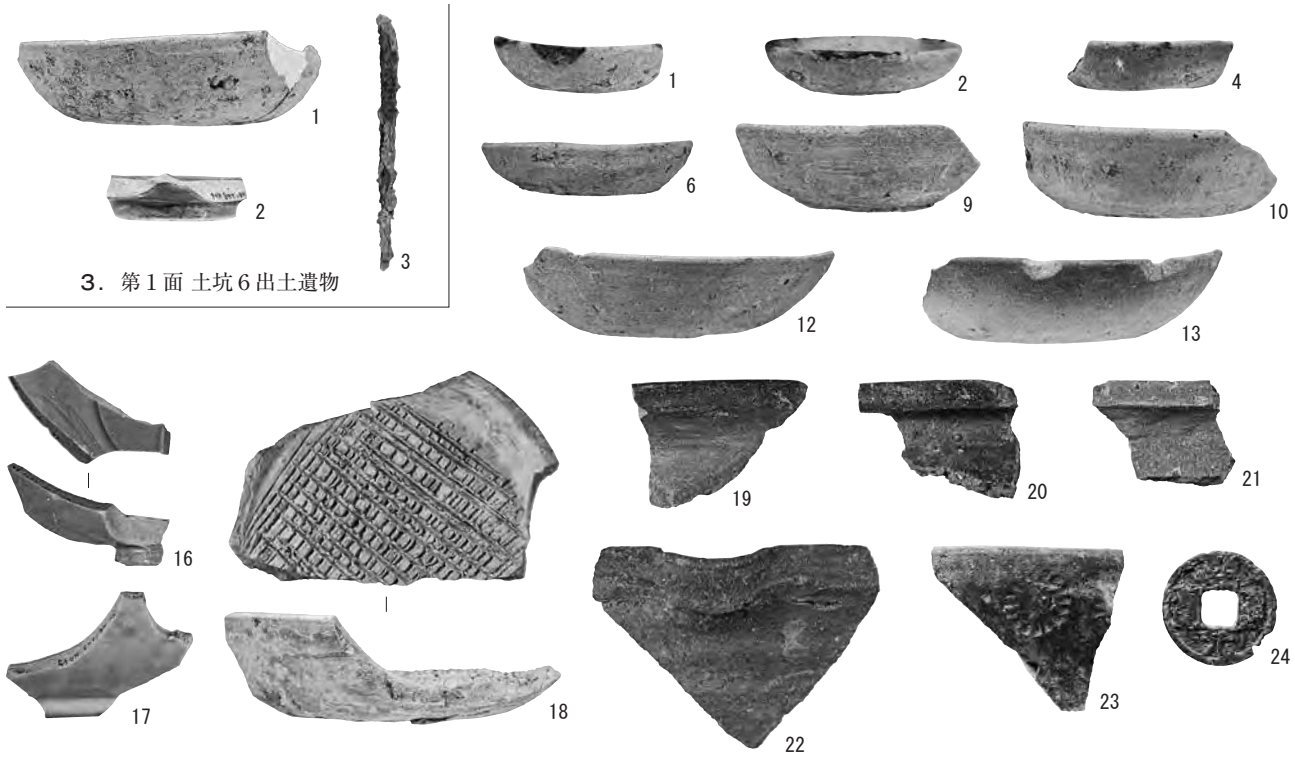
４．調査区北側第４面全景（西から）

図版４

１．第１面 土坑４出土遺物

２．第１面 土坑５出土遺物

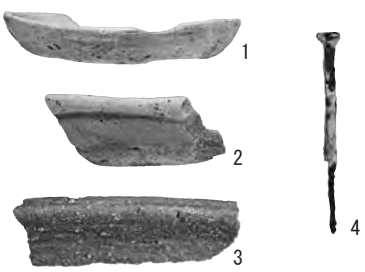
３．第１面 土坑６出土遺物



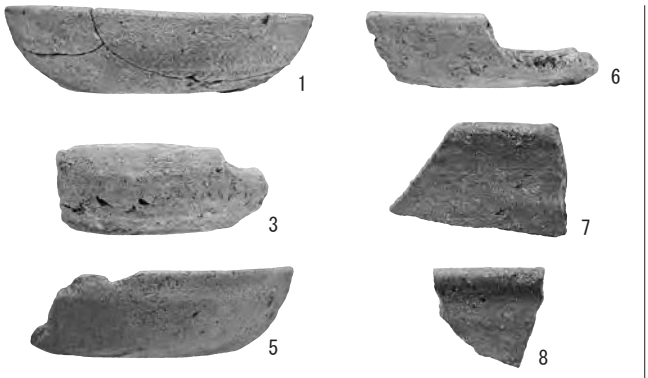
４．第１面 遺構外出土遺物

５．第２面 方形竪穴状遺構１出土遺物

６．第２面 溝状遺構３出土遺物

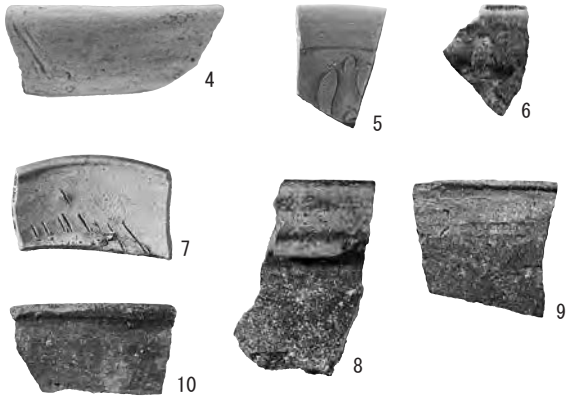


７．第２面 方形土坑５出土遺物



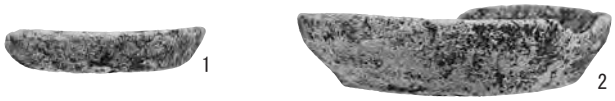
１．第２面 方形土坑６出土遺物

２．第２面 ピット出土遺物

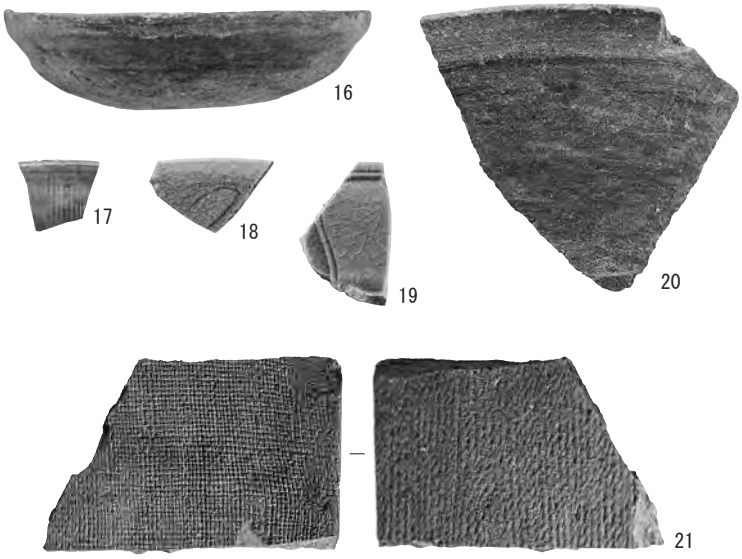


３．第２面 遺構外出土遺物

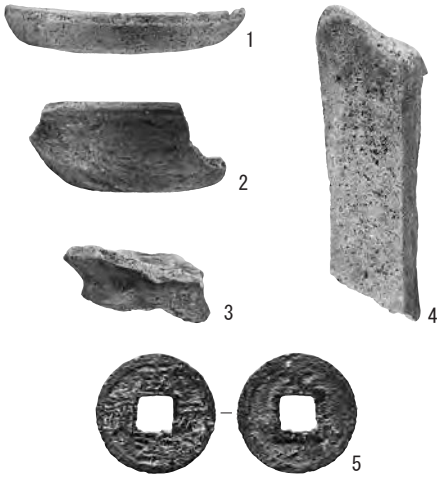
４．第３面 溝状遺構５出土遺物



５．第３面 土坑41出土遺物



６．第３面 遺構外出土遺物



７．第４面 遺構外出土遺物

若宮大路周辺遺跡群（№242）

御成町773番２地点

例　言

1．本報は「若宮大路周辺遺跡群」（神奈川県遺跡台帳№242）内、鎌倉市御成町773番２地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成25年５月16日～平成25年７月24日にかけて、店舗併用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は65㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　山口正紀
調　査　員　　本城　裕・岡田慶子
作　業　員　　鈴木啓之・赤坂　進・永野幹晴・沼上三代治・吉澤　功
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．第四章の出土動物遺体の鑑定・執筆は、中村若枝氏にご協力をいただいた。なお、鑑定については東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏にご助言をいただいた。

6．本報に掲載した写真は、遺構を山口正紀、遺物を赤間和重が撮影した。

7．測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）を用い、図５に座標値を示した。

8．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

9．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＷＡ1302」とした。

10．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

11．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺物：■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分

12．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

か わ ら け：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』

13．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 194
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 194
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 194
第３節　周辺の考古学的調査 …… 197

第二章　堆積土層 …… 200

第三章　発見された遺構と遺物 …… 200
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 200
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 207
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 218
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 233

第四章　自然科学分析 …… 235
若宮大路周辺遺跡群御成町773番２地点出土の動物遺体について …… 235

第五章　まとめ …… 240

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 195
図２　若宮大路周辺遺跡群の周辺遺跡 …… 196
図３　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 198
図４　調査区位置図 …… 199
図５　調査区配置図 …… 199
図６　調査区北壁 土層断面図 …… 201
図７　第１面 遺構分布図 …… 202
図８　第１面 方形竪穴状遺構１ …… 202
図９　第１面 方形竪穴状遺構１出土遺物 …… 202
図10　第１面 方形竪穴状遺構２ …… 203
図11　第１面 溝状遺構１ …… 203
図12　第１面 土坑３出土遺物 …… 204
図13　第１面 土坑６出土遺物 …… 204
図14　第１面 土坑８出土遺物 …… 205
図15　第１面 土坑１～14 …… 206
図16　第１面 ピット出土遺物 …… 207
図17　第１面 遺構外出土遺物 …… 207
図18　第２面 遺構分布図 …… 208
図19　第２面 溝状遺構２出土遺物 …… 208
図20　第２面 溝状遺構２～４ …… 209
図21　第２面 溝状遺構３ａ出土遺物 …… 210
図22　第２面 溝状遺構３ｂ出土遺物 …… 210
図23　第２面 溝状遺構４出土遺物 …… 211
図24　第２面 方形土坑１ …… 211
図25　第２面 方形土坑１出土遺物 …… 211
図26　第２面 土坑17出土遺物 …… 212
図27　第２面 土坑19出土遺物 …… 212
図28　第２面 土坑23出土遺物 …… 213
図29　第２面 土坑24出土遺物 …… 213
図30　第２面 土坑15～33 …… 214

図31　第２面 ピット54 …… 216
図32　第２面 ピット出土遺物 …… 217
図33　第２面 遺構外出土遺物 …… 217
図34　第３面 遺構分布図 …… 218
図35　第３面 板壁建物１ …… 219
図36　第３面 板壁建物１出土遺物 …… 220
図37　第３面 方形竪穴状遺構３～８ …… 222
図38　第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物（１）… 223
図39　第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物（２）… 224
図40　第３面 方形竪穴状遺構５出土遺物 …… 225
図41　第３面 方形竪穴状遺構６出土遺物 …… 225
図42　第３面 方形竪穴状遺構７出土遺物 …… 225
図43　第３面 方形竪穴状遺構８出土遺物 …… 226
図44　第３面 溝状遺構５ …… 226
図45　第３面 井戸１ …… 226
図46　第３面 井戸１出土遺物 …… 227
図47　第３面 土坑35出土遺物 …… 227
図48　第３面 土坑36出土遺物 …… 227
図49　第３面 土坑34～47 …… 228
図50　第３面 土坑41出土遺物 …… 229
図51　第３面 土坑42出土遺物 …… 230
図52　第３面 土坑45出土遺物 …… 230
図53　第３面 ピット出土遺物 …… 231
図54　第３面 遺構外出土遺物（１）…… 231
図55　第３面 遺構外出土遺物（２）…… 232
図56　第３面 遺構外出土遺物（３）…… 233
図57　第４面 遺構分布図 …… 233
図58　第４面 溝状遺構６・７ …… 234

表　目　次

表１　若宮大路周辺遺跡群 調査地点一覧 …… 197
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 241
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 242
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 245
表５　遺構計測表 …… 250
表６　出土遺物一覧表 …… 251

図　版　目　次

図版１　１．調査区近景（北から） …… 255
　　２．調査区東側北壁土層断面（南から） 255
図版２　１．調査区西側第１面全景（西から）・256
　　２．調査区東側第１面全景（西から）・256
　　３．調査区西側第２面全景（西から）・256
　　４．調査区東側第２面全景（西から）・256
図版３　１．第２面 溝状遺構３ｂ（西から）… 257
　　２．第２面 溝状遺構３ａ・３ｂ（東から）
　　…… 257
　　３．第２面 溝状遺構４（南から）…… 257
図版４　１．調査区西側第３面全景（南から）・258
　　２．調査区東側第３面全景（南から）・258
図版５　１．第３面 板壁建物１板壁検出状況
　　（北から） …… 259
　　２．第３面 板壁建物１板壁下部（北から）
　　…… 259
　　３．第３面 板壁建物１板壁南側（南から）
　　…… 259
　　４．第３面 板壁建物１板壁中央（西から）
　　…… 259
　　５．第３面 板壁建物１板壁北側（北から）
　　…… 259
　　６．第３面 板壁建物１板壁下部南側断面
　　（北から） …… 259
図版６　１．第３面 板壁建物１東側礎板列
　　（南から） …… 260
　　２．第３面 板壁建物１西側ピット列
　　（南から） …… 260

３．第３面 板壁建物１西側側板（西から）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 260
４．第３面 板壁建物１東側側板（西から）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 260
５．第３面 板壁建物１Ｐ４（南から）・ 260
図版７　１．調査区西側第４面全景（北から）・ 261
２．調査区東側第４面全景（南から）・ 261
図版８　１．第１面 方形竪穴状遺構１出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 262
２．第１面 土坑３出土遺物・・・・・・・・・ 262
３．第１面 土坑６出土遺物・・・・・・・・・ 262
４．第１面 土坑８出土遺物・・・・・・・・・ 262
５．第１面 ピット出土遺物・・・・・・・・・ 262
６．第１面 遺構外出土遺物・・・・・・・・・ 262
７．第２面 溝状遺構２出土遺物・・・・・ 262
８．第２面 溝状遺構３ａ出土遺物・・・ 262
９．第２面 溝状遺構３ｂ出土遺物・・・ 262
10．第２面 溝状遺構４出土遺物・・・・・ 262
11．第２面 方形土坑１出土遺物・・・・・ 262
12．第２面 土坑17出土遺物・・・・・・・・・ 262
図版９　１．第２面 土坑19出土遺物・・・・・・・・・ 263
２．第２面 土坑23出土遺物・・・・・・・・・ 263
３．第２面 土坑24出土遺物・・・・・・・・・ 263
４．第２面 ピット出土遺物・・・・・・・・・ 263
５．第２面 遺構外出土遺物・・・・・・・・・ 263
図版10　１．第３面 板壁建物１出土遺物・・・・・ 264
２．第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物
（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 264
図版11　１．第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物
（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 265
２．第３面 方形竪穴状遺構５出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 265
図版12　１．第３面 方形竪穴状遺構６出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 266
２．第３面 方形竪穴状遺構７出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 266
３．第３面 方形竪穴状遺構８出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 266
４．第３面 井戸１出土遺物・・・・・・・・・ 266
５．第３面 土坑35出土遺物・・・・・・・・・ 266
６．第３面 土坑36出土遺物・・・・・・・・・ 266
７．第３面 土坑41出土遺物・・・・・・・・・ 266
８．第３面 土坑42出土遺物・・・・・・・・・ 266
図版13　１．第３面 土坑45出土遺物・・・・・・・・・ 267
２．第３面 ピット出土遺物・・・・・・・・・ 267
３．第３面 遺構外出土遺物（１）・・・・・ 267
図版14　１．第３面 遺構外出土遺物（２）・・・・・ 268

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市御成町773番２で実施した店舗併用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である若宮大路周辺遺跡群（神奈川県遺跡台帳№242）の範囲内にあたる。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成24年６月27日～平成24年６月28日に６㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が建築予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される65㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、山口正紀が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成25年５月16日～平成25年７月24日までの２ヵ月ほどである。現地表の標高は約4.3ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、西側をⅠ区として平成25年５月16日～平成25年７月１日、東側をⅡ区として平成25年７月３日～平成25年７月24日まで調査を実施した。調査はまず重機により約30㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、Ⅰ・Ⅱ区ともに中世に属する第１～４面の合計４面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして７月24日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお測量に際しては、日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市三級基準点（Ｘ＝－76124.047、Ｙ＝－25720.176）、（Ｘ＝－76211.347、Ｙ＝－25769.039）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海抜標高値は、鎌倉市三級基準点№53224（標高8.112ｍ）を基に移設した。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市御成町773番２に所在し、「若宮大路周辺遺跡群（№242）」の範囲内に所在する。若宮大路周辺遺跡群は鎌倉市街地のほぼ中心に位置し、国指定史跡「若宮大路」を挟んでおおむね東西に展開している。遺跡の南限は県道鎌倉葉山線の六地蔵から大町四つ角までで、西は現在の今小路通りの寿福寺前から六地蔵まで、東は宝戒寺裏の滑川に係る宝戒寺橋から夷堂橋を経て小町大路を南に下った大町四つ角まで、北は鶴岡八幡宮前の三ノ鳥居の南を東西に走る横大路から窟堂前を通って西の今小路通りに至るまでの範囲に相当し、南北約1,000ｍ、東西500～700ｍの広がりをもつ（図２）。

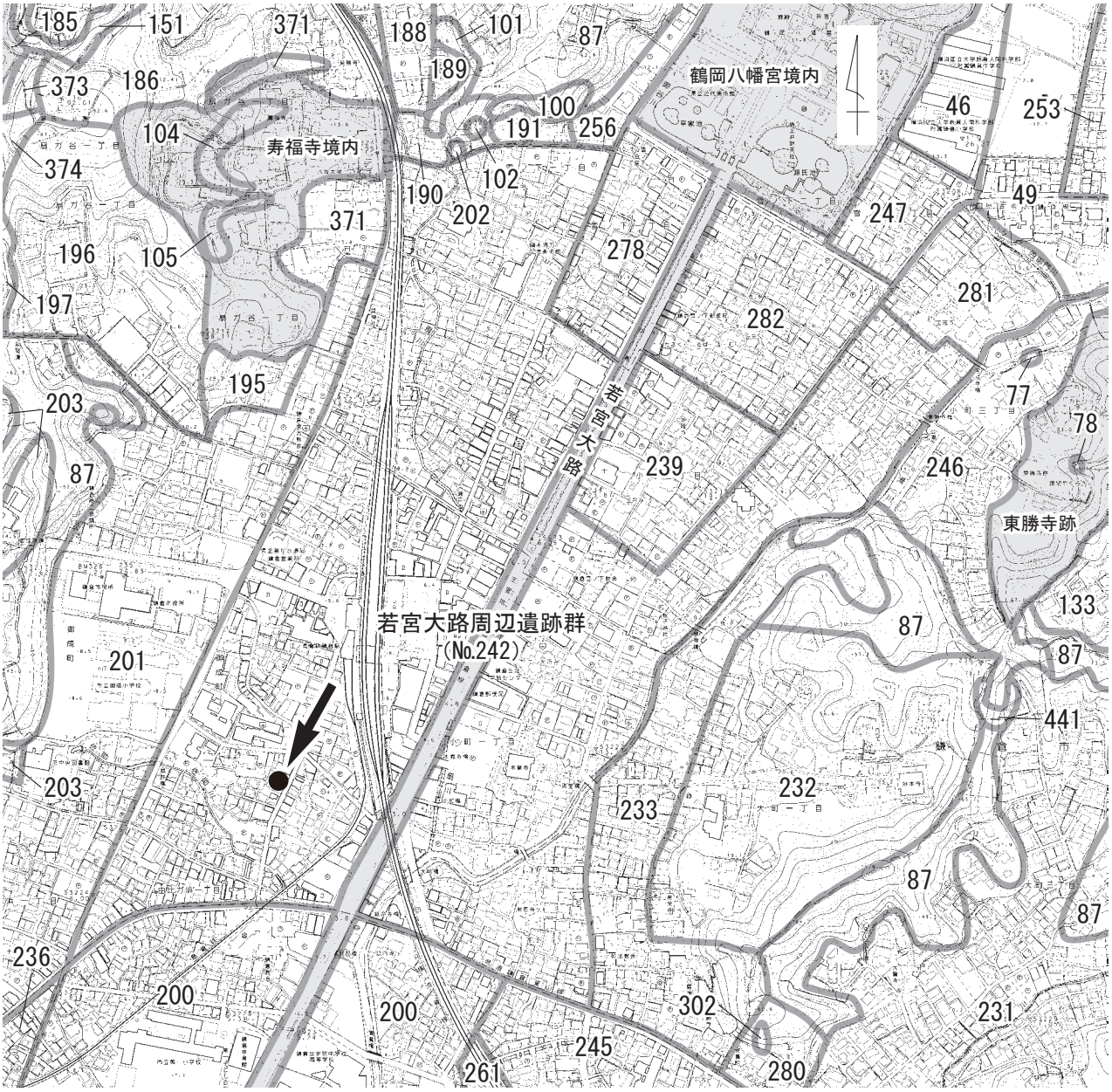
隣接する包蔵地としては、若宮大路北端の東側に北条小町邸跡（№282）があり、その南側には宇津宮辻子幕府跡（№239）が所在する。また、若宮大路西側には北条時房・顕時邸跡（№278）が位置している。

鎌倉市は神奈川県の南東部に位置し、南側が相模湾に面しており、三方を丘陵によって囲まれている。市域の南東を北東から南西に流れる滑川が形成した沖積地が、海に向かって開く三角形状に広がり、その北側の頂点に鶴岡八幡宮が位置する。遺跡は現在の海岸線から直線距離にして約1.7㎞の沖積低地上にあり、現地表面の標高は約4.3ｍを測る。

遺跡名となっている「若宮大路」は、鶴岡八幡宮前から由比ガ浜へ向かって一直線に延びる参道であ

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
鎌倉市
源氏山
衣張山
相　模　湾
湘南道路
由比ヶ浜
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図



※矢印は本調査地点、数字は神奈川県遺跡台帳による遺跡№を示す。

図２　若宮大路周辺遺跡群の周辺遺跡

り、寿永元年(1182)３月に源頼朝が妻である政子の安産祈願をかねて自らの指揮のもとに大路を造成したといわれる。そして以後、中世都市鎌倉における基軸線となっている。

鶴岡八幡宮の周辺は、宇津宮辻子幕府や若宮大路幕府が置かれ、加えて有力御家人などの居宅が造営された地域である。当初源頼朝は大倉の地に幕府を開いたが、三代執権北条泰時は大倉幕府を宇津宮辻子幕府に遷し、さらに11年後には若宮大路幕府に遷す。若宮大路東側の地域は、当時北条泰時・時頼邸や若宮大路幕府などが営まれた最重要拠点といえ、若宮大路西側の地域では、発掘調査によって若宮大路沿いに延びる幅約３ｍにも及ぶ複雑な構造の木組をもつ大溝が検出されるとともに、若宮大路に面した大規模な屋敷地の存在が推定されている。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図３）。

本地点は若宮大路周辺遺跡群の南西側にあたり、今小路と若宮大路に挟まれた、ＪＲ鎌倉駅から南西方向に200ｍの場所に位置している。

今小路に面した場所には①御成町788番３外地点、②第85地点（御成町872番１）がある。①地点では１～４面にわたる確認面が捉えられ、２・３面からは13世紀後半～14世紀前半にかけての方形竪穴状遺構や板囲い建物など、町屋的な性格を示す遺構群が検出された（菊川 1997、大三輪・菊川・兼行 1998）。方形竪穴状遺構には最下部にあたる板壁が原位置を保って残存していたほか、底が抜けた曲物が埋設されていた。②地点でも同様に方形竪穴状遺構や板壁建物が検出され、町屋区域の一画であったと推定されている（降矢・齋木 2002）。年代的にも①地点とほぼ同じ頃に営まれたと考えられている。

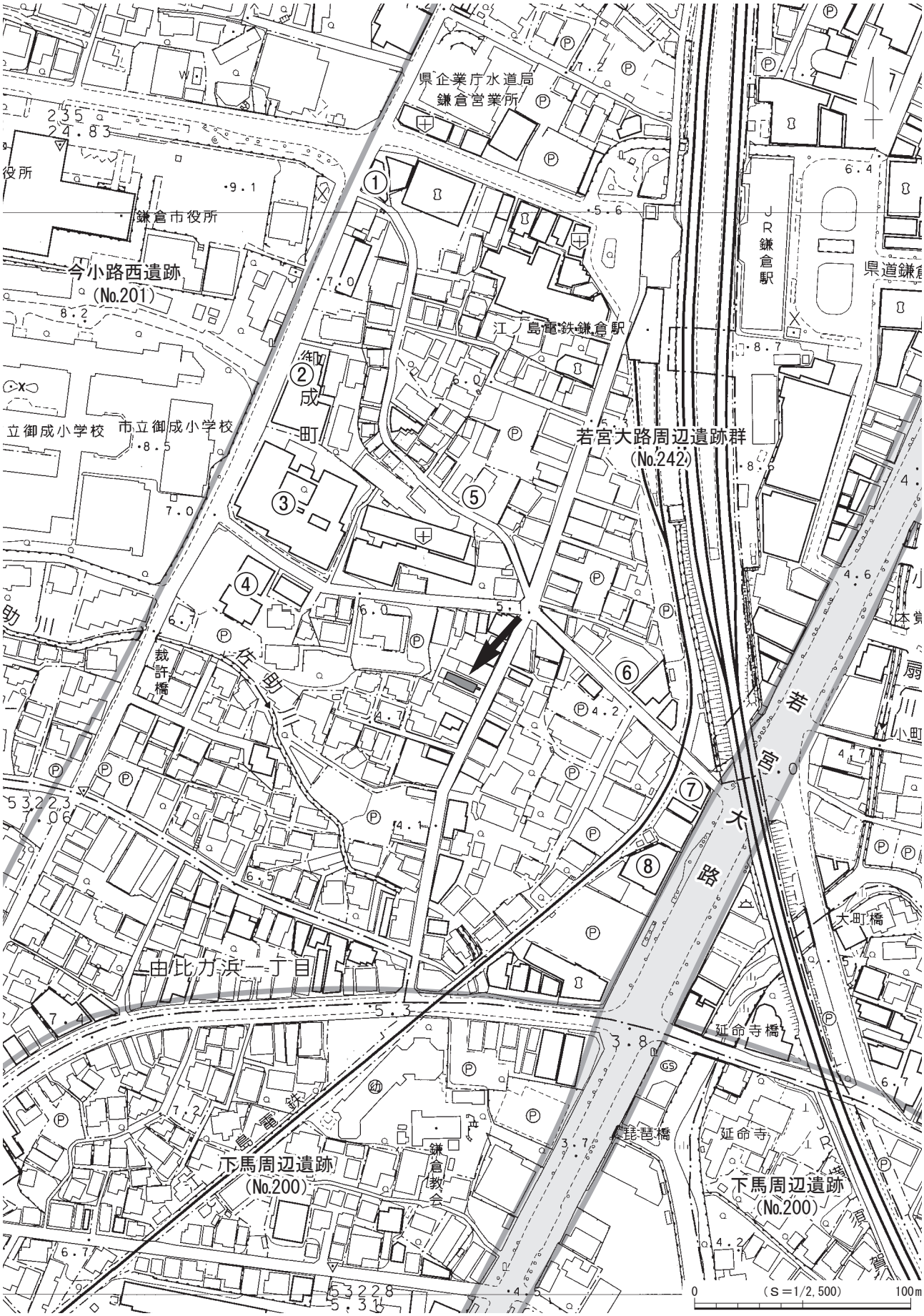
今小路と江ノ島電鉄に挟まれた地域では、③御成町783番１他４筆地点、④御成町763番５地点、⑤御成町843番１地点、⑥御成町868番地点の調査が行われている。御成小学校の東側に隣接する③地点では調査面積1.800㎡に及ぶ広い範囲の調査が実施され、68基を数える方形竪穴状遺構や井戸、土坑墓などが検出された（降矢・齋木・押木 2009）。方形竪穴状遺構には土台の角材や根太材が底面に残存するものも認められ、時期は13世紀後半～14世紀前半ないし後半頃と推定されている。④地点からは13世紀後半を中心時期とする多様な構造をもつ方形竪穴状遺構群が検出され、物流拠点の一つであったことが指摘されている（齋木・降矢 2011）。⑤地点では中世に属する４面の生活面が確認され、13世紀前半～中頃を最盛期とする遺構群が検出された（宮田・森 2017）。遺構の種別は溝や井戸、方形竪穴状遺構などであり、町屋の性格をもつと指摘されている。⑥地点ではⅠ期からⅣ期に大別される遺構群が検出され、年代的には13世紀前半～14世紀後半に位置づけられる（木村・菊川ほか 1993）。このうち14世紀前半～中頃の石垣が17ｍにわたって延びており、その東側からは多数の掘立柱建物が検出された。本地点は、西側に隣接する今小路西遺跡に先行して屋敷地として利用された地域として捉えられている。

若宮大路に面する調査地点としては、⑦御成町872番14地点、⑧御成町884番６地点がある。このうち、⑧地点では古代および中世の遺構群が検出された（宮田・滝澤 1999）。古代の遺構としては河川と土坑が確認され、河川の覆土から弥生時代後期から９世紀にわたる幅広い年代の遺物が出土している。また、中世では３時期に大別される遺構群が検出され、２ａ面から13世紀初頭～中頃にかけての木製品集中地点や掘立柱建物、井戸、土坑、かわらけ溜まりなど多様な遺構群の存在が明らかとなった。１面の遺構は方形竪穴建築址と土坑で、方形竪穴建築址１から青磁露胎双魚文鉢が出土している。

表１　若宮大路周辺遺跡群 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町773番２地点	
①	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町788番３外地点	菊川 1997、大三輪・菊川・兼行 1998
②	若宮大路周辺遺跡群（№242）	第85地点（御成町872番１）	降矢・齋木 2002
③	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町783番１他４筆地点	降矢・齋木・押木 2009
④	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町763番５地点	齋木・降矢 2011
⑤	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町843番１地点	宮田・森 2017
⑥	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町868番地点	木村・菊川ほか 1993
⑦	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町872番14地点	木村ほか 1992
⑧	若宮大路周辺遺跡群（№242）	御成町884番６地点	宮田・滝澤 1999

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。



※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図３　調査区の位置と周辺の関連遺跡

図４　調査区位置図

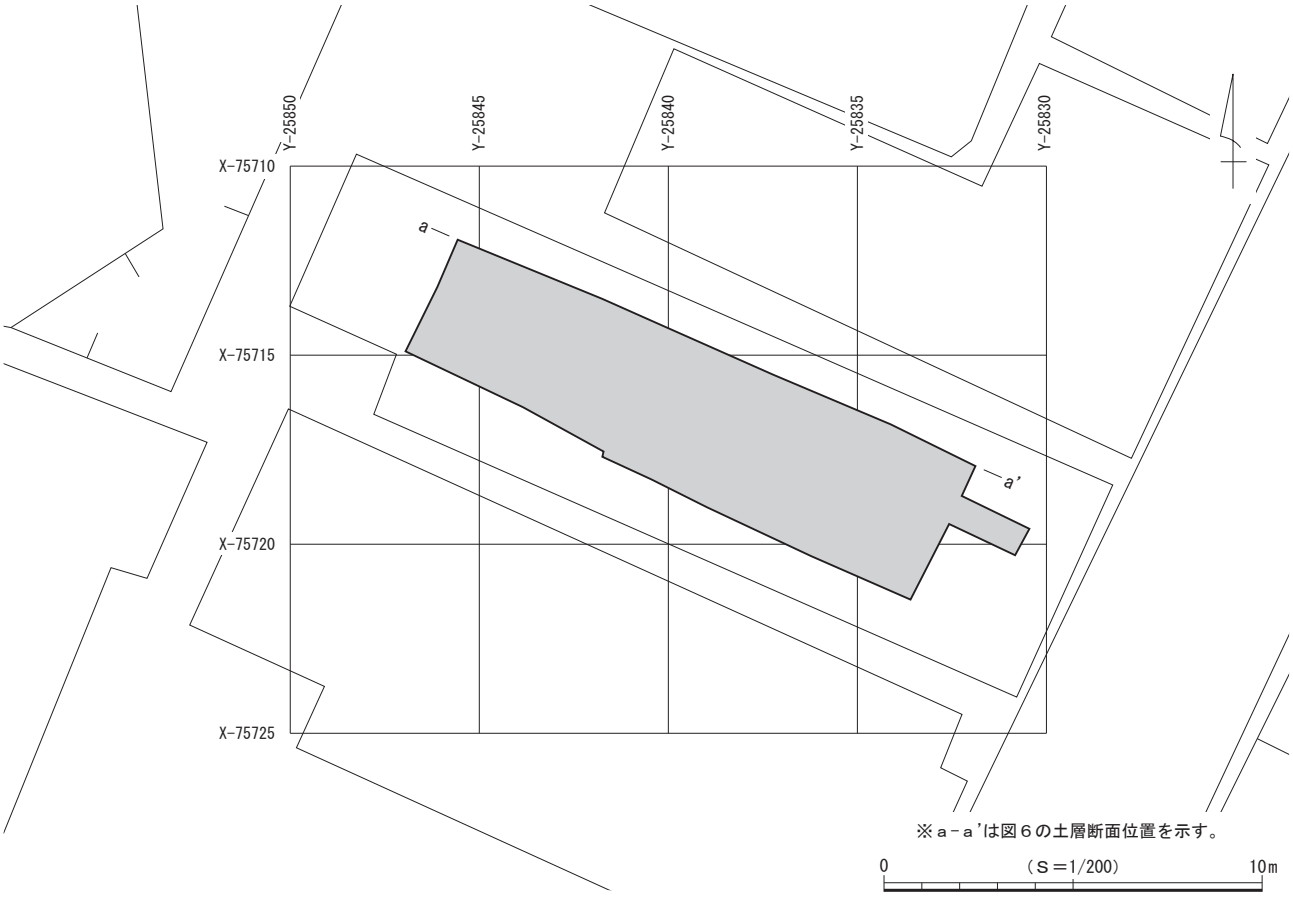


図５　調査区配置図

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、第１～４面までの合計４面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区北壁の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約4.3ｍを測り、最上部には層厚２～47㎝の表土（１層）が堆積している。遺構確認面の第１面は２～７層上面で検出した。確認面の標高は4.1～4.3ｍを測る。２層は微量の泥岩粒・かわらけ片を含みやや締まりのある茶褐色弱粘質土層で、層厚10㎝前後である。３層は少量の泥岩ブロックと極微量の炭化物を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、層厚10～20㎝である。４層は中量の泥岩ブロック、少量の炭化物・貝片・かわらけ片を含み締まりのある暗褐色弱粘質土層で、層厚６～20㎝である。５層は微量の泥岩ブロック、多量の貝片、微量のかわらけ片を含みやや締まりのある暗褐色弱粘質土層で、層厚15㎝前後である。６層は中量の泥岩ブロック、少量の炭化物・かわらけ片を含みやや締まりのある茶褐色砂質土層で、層厚３～12㎝である。７層は少量の泥岩ブロックと微量のかわらけ片を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層で、層厚20㎝前後である。第２面は12層上面で確認し、確認面の標高は4.0～4.1ｍを測る。12層は微量の泥岩粒、多量の貝片、微量のかわらけ片を含み締まりのある暗褐色粘質土層で、層厚10～27㎝である。第３面は15・16・18層上面で確認し、確認面の標高は約3.9ｍを測る。15層は少量の貝片を含み締まりのある暗褐色砂質土層で、層厚10～24㎝である。16層は微量の貝細片と細砂を含み締まりのある黒褐色粘質土層で、層厚23㎝前後である。18層は少量の貝片を含む黒褐色砂質土層である。遺構確認面の最下位にあたる第４面は21・22層上面で確認し、確認面の標高は3.2ｍ前後を測る。21層は微量の泥岩粒、多量の粗砂を含み非常に締まりの強い青灰色粘質土層で、層厚10～15㎝である。22層は細かい砂粒を主体として多量の貝片を含みやや締まりのある暗茶色砂層で、層厚８㎝前後である。21・22層の下位は黄褐色砂層（23層）で、多量の貝砂を含んだ非常に締まりの強い層となる。

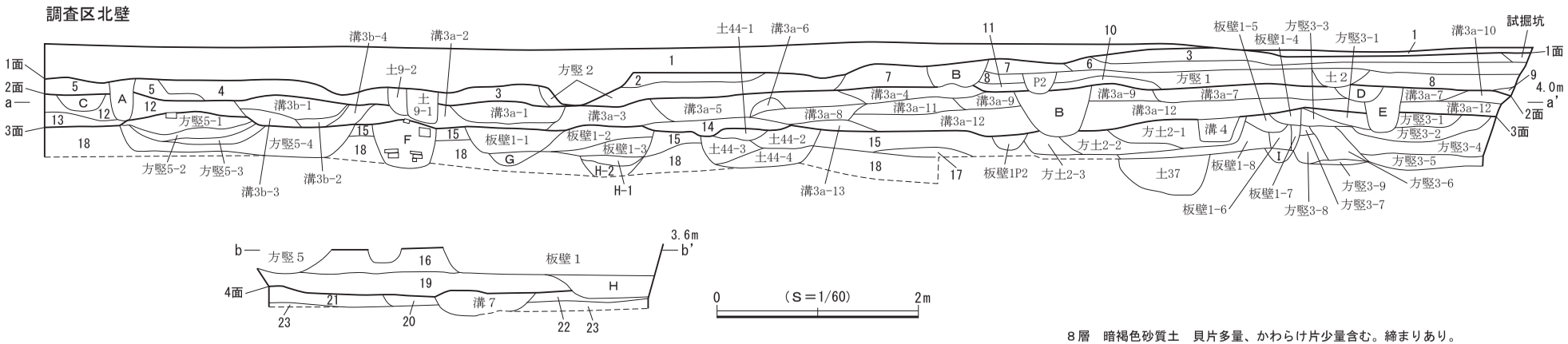
第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～４面までの合計４面である。遺構確認面はいずれも中世に属し、検出した遺構は板壁建物１棟、方形竪穴状遺構８基、溝状遺構７条、井戸１基、方形土坑１基、土坑47基、ピット94基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して21箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表６）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～４面）に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の２～７層上面で検出した。確認面の標高は4.1～4.3ｍを測る。２層は微量の泥岩粒・かわらけ片を含みやや締まりのある茶褐色弱粘質土層、３層は少量の泥岩ブロックと極微量の炭化物を含み締まりのある茶褐色弱粘質土層、４・５層は中量の泥岩ブロック、少量の炭化物・貝片・かわらけ片を含み締まりのある暗褐色弱粘質土層、６層は中量の泥岩ブロック、少量の炭化物・かわらけ片を含みやや締まりのある茶褐色砂質土層、７層は少量の泥岩ブロックと微量のかわらけ片を含み締



１層　表土
２層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒・かわらけ片微量含む。締まりややあり。（第１面）
３層　茶褐色弱粘質土　泥岩ブロック少量、炭化物極微量含む。締まりあり。（第１面）
４層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック中量、炭化物・貝片・かわらけ片少量含む。締まりあり。（第１面）
５層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック微量、貝片多量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。（第１面）
６層　茶褐色砂質土　泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片少量含む。締まりややあり。（第１面）
７層　茶褐色弱粘質土　泥岩ブロック少量、かわらけ片微量含む。締まりあり。（第１面）
８層　茶褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
９層　茶褐色砂質土　泥岩ブロック中量含む。締まりややあり。
10層　暗茶色弱粘質土　泥岩粒中量、泥岩ブロック微量、炭化物・貝片・かわらけ片中量含む。締まりあり。
11層　灰褐色弱粘質土　泥岩ブロック主体。締まりあり。
12層　暗褐色粘質土　泥岩粒微量、貝片多量、かわらけ片微量含む。締まりあり。（第２面）
13層　暗褐色粘質土　貝片少量含む。締まりややあり。
14層　暗褐色粘質土　泥岩ブロック少量、貝片中量含む。締まりあり。
15層　暗褐色砂質土　貝片少量含む。締まりあり。（第３面）
16層　黒褐色粘質土　貝細片微量、細砂含む。締まりあり。（第３面）
17層　褐色砂層　貝片少量含む。締まりややあり。
18層　黒褐色砂質土　貝細片少量含む。（第３面）
19層　青灰色粘質土　泥岩粒・貝細片微量、細砂含む。締まり強い。
20層　青灰色砂質土　締まりなし。（第４面）
21層　青灰色粘質土　泥岩粒極微量、粗砂多量に含む。締まり非常に強い。（第４面）
22層　暗茶色砂　貝細片多量に含む。締まりややあり。砂粒細かい。（第４面）
23層　黄褐色砂　貝砂多量に含む。締まり非常に強い。

〔遺構〕
板壁建物１
１層　暗褐色粘質土　貝片・木片中量含む。締まりなし。
２層　暗褐色粘質土　泥岩ブロック多量、貝片中量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
３層　暗灰褐色粘質土　貝細片少量含む。締まりややあり。
４層　暗茶色弱粘質土　炭化物多量、貝片・かわらけ片微量含む。締まりなし。
５層　暗灰色粘質土　泥岩粒・炭化物少量、貝片多量、かわらけ片少量含む。締まりなし。
６層　暗灰色粘質土　暗茶色粘土ブロック多量、炭化物・貝片微量含む。締まりあり。
７層　暗茶褐色粘質土　貝片・木片微量含む。締まりあり。
８層　暗灰色砂質土　泥岩粒極微量、貝細片少量、木片極微量含む。締まりややあり。
板壁建物１P2　暗灰色粘質土　泥岩ブロック、貝細片少量含む。締まりややあり。
方形竪穴状遺構２　茶褐色粘質土　泥岩ブロック・かわらけ片少量含む。締まりなし。
方形竪穴状遺構３
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック少量、貝片･木片中量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒多量、泥岩ブロック少量、炭化物微量、貝片多量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
３層　暗茶褐色粘質土　泥岩粒・炭化物・貝細片少量含む。締まりなし。
４層　暗灰色弱粘質土　泥岩粒少量、炭化物微量、貝片中量、木片・かわらけ片少量含む。締まりあり。
５層　暗灰色粘質土　泥岩粒少量、青灰色砂・貝片中量、木片少量含む。締まりややあり。
６層　暗灰色弱粘質土　泥岩粒。炭化物・少量、貝片中量、木片・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
７層　暗茶褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・木片微量含む。締まりややあり。
８層　暗茶褐色弱粘質土　泥岩粒微量、貝片少量、木片微量含む。締まりあり。
９層　暗灰色弱粘質土　泥岩ブロック・貝片少量含む。締まりあり。
方形竪穴状遺構５
１層　暗褐色砂質土　泥岩粒少量、貝片・木片多量に含む。締まりややあり。
２層　茶褐色粘質土　黒褐色粘土ブロック・木片多量に含む。締まりややあり。
３層　黒灰色粘質土　貝細片少量、木片多量に含む。締まりややあり。
４層　黒灰色粘質土　泥岩粒微量、貝細片少量、木片微量含む。締まりややあり。
溝状遺構３ｂ１
１層　暗褐色弱砂質土　泥岩ブロック少量、貝片中量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色弱砂質土　貝片少量含む。締まりあり。
３層　暗褐色弱砂質土　泥岩粒・貝片少量、木片多量に含む。締まりややあり。
４層　灰黒色弱粘質土　貝片少量、木片微量含む。締まりあり。
溝状遺構３ａ
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物少量、貝片多量、かわらけ片少量、粗砂多量に含む。締まりなし。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒微量、貝片少量、木片微量含む。締まりなし。
３層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック少量、貝片多量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
４層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ片少量含む。締まりなし。
５層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量含む。締まりややあり。
６層　暗灰色砂質土　泥岩粒・貝片少量含む。締まりややあり。
７層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック・炭化物・貝細片・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
８層　暗褐色砂質土　貝片多量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
９層　暗褐色砂質土　炭化物微量、貝片中量、かわらけ片微量含む。締まりあり。
10層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒中量、炭化物・貝片・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
11層　暗灰色砂質土　泥岩ブロック・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
12層　暗褐色砂質土　泥岩ブロック・貝片・かわらけ片微量含む。締まりあり。
13層　暗褐色砂質土　炭化物微量、貝片中量、かわらけ片微量含む。締まりあり。
方形土坑２
１層　暗灰色弱粘質土　泥岩ブロック多量、炭化物微量、貝片・木片多量に含む。締まりややあり。
２層　暗灰色粘質土　泥岩粒多量、炭化物極微量、貝片中量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
３層　暗灰色粘質土　泥岩粒・炭化物極微量、貝片少量含む。締まりあり。
土坑７　茶褐色弱粘質土　泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
土坑９
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・貝片・かわらけ片中量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒微量、貝片多量、かわらけ片微量、小石含む。締まりややあり。
土坑37　茶褐色粘質土　泥岩粒少量、暗茶色粘質土多量、木片少量含む。締まりなし。
土坑44
１層　黒灰色弱粘質土　泥岩ブロック少量、炭化物微量含む。締まりややあり。
２層　黒灰色弱粘質土　泥岩粒少量､炭化物極微量､貝片少量含む。締まりややあり。
３層　黒灰色弱粘質土　泥岩粒・少量、貝砂多量、木片少量、かわらけ片微量含む。締まりなし。
４層　黒灰色弱粘質土　泥岩粒微量、貝細片多量、木片少量含む。締まりなし。
P2　茶褐色弱粘質土　泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ａ層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック少量、貝細片中量、暗黄色貝砂多量に含む。締まりややあり。
Ｂ層　遺構覆土
Ｃ層　暗褐色砂質土　泥岩ブロック、炭化物微量、貝片中量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｄ層　暗茶色弱粘質土　泥岩ブロック・炭化物・貝細片・かわらけ片少量含む。締まりなし。
Ｅ層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック・炭化物少量、貝片・木片中量、かわらけ片少量含む。締まりなし。
Ｆ層　黒灰色粘質土　泥岩粒微量、貝片中量、木片少量、細砂多量に含む。締まりややあり。
Ｇ層　黒褐色粘質土　木片多量、かわらけ片微量含む。締まりなし。
H-1層　黒褐色粘質土　炭化物・貝細片少量含む。締まりあり。
H-2層　黒褐色粘質土　貝砂多量に含む。締まりなし。
Ｉ層　暗灰色砂質土　泥岩粒・炭化物・貝細片・木片少量、青灰色砂ブロック微量含む。締まりあり。

図６　調査区北壁 土層断面図

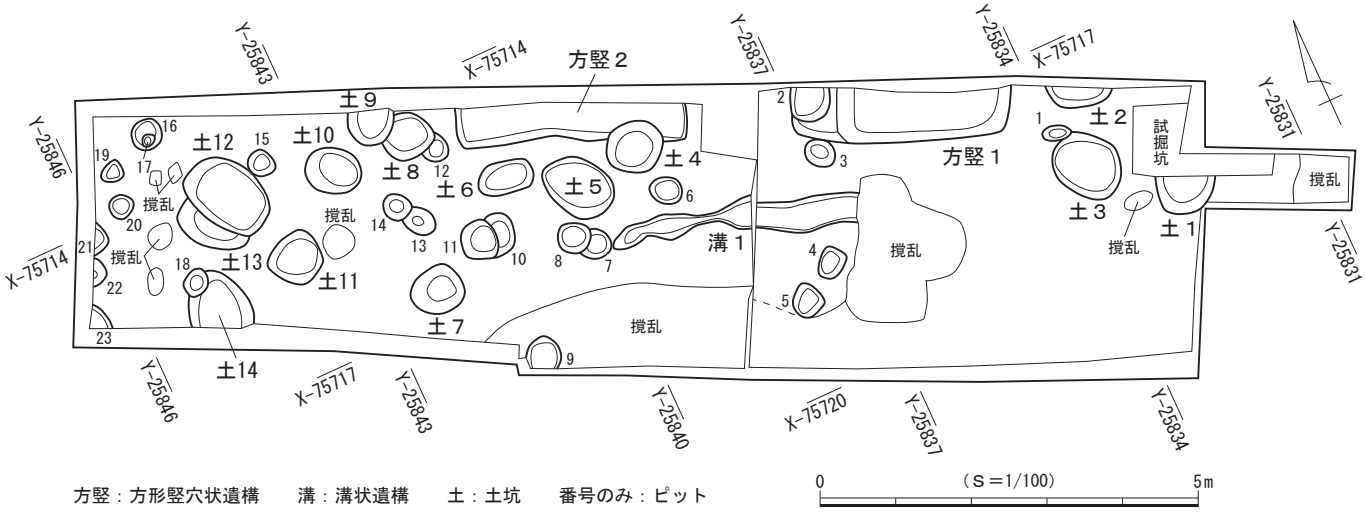


図７　第１面 遺構分布図

まりのある茶褐色弱粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は方形竪穴状遺構２基、溝状遺構１条、土坑14基、ピット23基である（図７）。東西方向に長い調査区の南東部を除くほぼ全域に遺構が分布しているが、遺構間の重複は少なかった。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品などのほか、方形竪穴状遺構２・６、ピット63、構成土、遺構外からは貝類も多く出土しており、これらの年代観から本面は14世紀代に属すると考えられる。

（１）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構１（図８）

調査区北壁際の東側に位置する。西側でピット２と重複して壁と底面の一部が壊され、北側が調査区外へと続いており、南壁付近のみを検出した。底面は西から東に向かって傾斜し、壁は大きく開いて立ち上がる。西側にテラス状の張り出しが認められ、別遺構の可能性もあるがここでは本址に伴う付属施設と捉えた。主体部分の規模は南北現存長72㎝、東西2.84ｍ、深さ20㎝、底面の標高は3.89ｍで、張り出し部の規模は南北現存長70㎝、東西59㎝、深さ８㎝を測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。

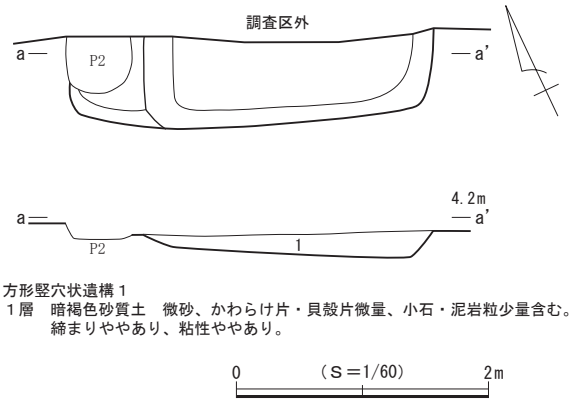


図８　第１面 方形竪穴状遺構１

出土遺物（図９）

遺物はかわらけ53点、磁器１点、陶器10点が出土し、このうち３点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。

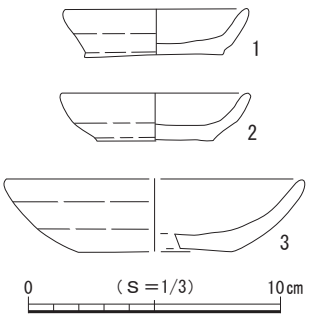


図９　第１面 方形竪穴状遺構１出土遺物

方形竪穴状遺構２（図10）

調査区北壁際の中央付近に位置する。南側で土坑

４と重複して壁と底面の一部が壊され、本址の大半が北側の調査区外へと続いており、南壁付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。規模は南北現存長51㎝、東西3.05ｍ、深さ５～９㎝で、底面の標高は3.96ｍを測る。主軸方位はＮ－66°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ50点、磁器１点、陶器６点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

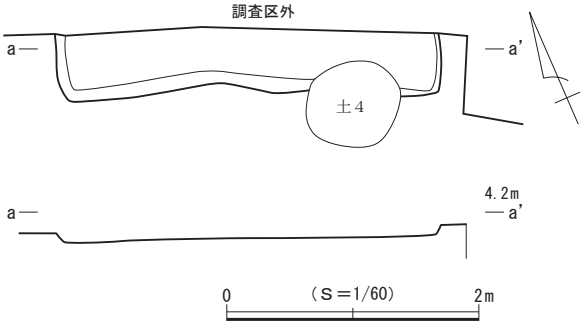


図10　第１面 方形竪穴状遺構２

（２）溝状遺構

溝状遺構１（図11）

調査区の中央に位置し、東西方向にわずかに蛇行して延びて東端は撹乱によって壊されている。他の遺構との重複は認められなかった。検出した規模は現存長約3.2ｍ、幅10～45㎝、深さ６～10㎝で、主軸方位はＮ－74°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は東側で4.04ｍ、西側で4.06ｍを測る。

遺物はかわらけ３点が出土した。

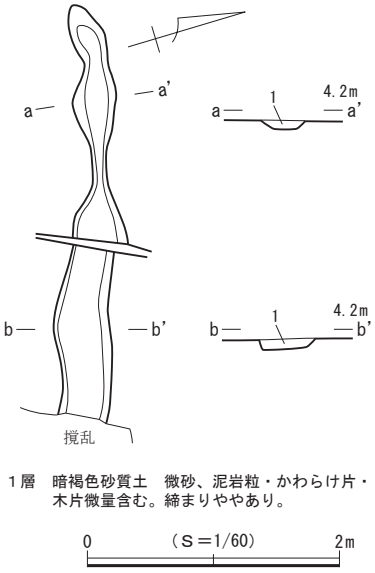


図11　第１面 溝状遺構１

（３）土　坑

土坑１（図15）

調査区の東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかったが、北側のおよそ半分が試掘坑によって失われ全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形ないしは円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長50㎝、東西80㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は3.92ｍを測る。主軸方位はＮ－26°－Ｅを指すと推定される。

遺物はかわらけ４点、磁器１点、陶器２点、石製品１点が出土した。

土坑２（図15）

調査区の北東隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、本址の大半が北側の調査区外へと続いており、南壁付近のみを検出した。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長27㎝、東西現存長88㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は4.04ｍを測る。

遺物はかわらけ６点、磁器１点が出土した。

土坑３（図15）

調査区の北東隅に位置する。北側でピット１と重複して壁の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形で、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸95㎝、短軸77㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は3.93ｍを測る。主軸方位はＮ－43°－Ｗを指す。

出土遺物（図12）

遺物はかわらけ３点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけであり、口縁部から体部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

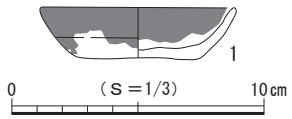


図12　第１面 土坑３出土遺物

土坑４（図15）

調査区中央の北側に位置する。北側で方形竪穴状遺構２と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は略円形で、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77cm、短軸68cm、深さ15cmで、坑底面の標高は4.00ｍを測る。

遺物はかわらけ２点、陶器２点が出土した。

土坑５（図15）

調査区のほぼ中央に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形で、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.00ｍ、短軸71cm、深さ20cmで、坑底面の標高は3.92ｍを測る。主軸方位はＮ－42°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ12点、陶器３点、石製品１点が出土した。

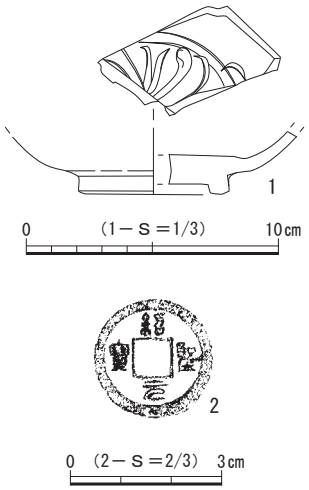


図13　第１面 土坑６出土遺物

土坑６（図15）

調査区中央の西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形で、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸74cm、短軸43cm、深さ12cmで、坑底面の標高は4.01ｍを測る。主軸方位はＮ－83°－Ｗを指す。

出土遺物（図13）

遺物はかわらけ４点、磁器１点、陶器１点、金属製品１点が出土し、このうち２点を図示した。

１は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅰ－２類に比定される。２は銭貨で紹聖元寶（1094年初鋳）である。

土坑７（図15）

調査区の南西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整円形で、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、北壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70cm、短軸62cm、深さ18cmで、坑底面の標高は3.93ｍを測る。

遺物はかわらけ２点、陶器４点が出土した。

土坑８（図15）

調査区北壁際の西側に位置する。東側でピット12と重複して壊し、西側で土坑９と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63cm、短軸59cm、深さ９cmで、坑底面の標高は3.97ｍを測る。

出土遺物（図14）

遺物はかわらけ９点、陶器５点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

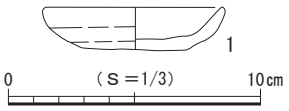


図14　第１面 土坑８出土遺物

土坑９（図15）

調査区北壁際の西側に位置する。東側で土坑８と重複して壊し、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長47cm、短軸60cm、深さ20cmで、坑底面の標高は3.88mを測る。主軸方位はＮ－39°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ25点、磁器１点、陶器１点が出土した。

土坑10（図15）

調査区の西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形で、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、西壁は大きく開く。断面形は逆台形を呈し、規模は長軸74cm、短軸59cm、深さ18cmである。坑底面の標高は3.93mを測り、主軸方位はＮ－60°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑11（図15）

調査区の西側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は不整隅丸方形で、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、西壁は大きく開く。断面形は皿状を呈する。規模は長軸69cm、短軸64cm、深さ７cmで、坑底面の標高は4.01mを測る。主軸方位はＮ－66°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ７点、磁器１点が出土した。

土坑12（図15）

調査区の西端付近に位置する。西側で土坑13と重複して壁と底面の半分以上を壊している。平面形は不整隅丸長方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.18m、短軸83cm、深さ12cmで、坑底面の標高は3.97mを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ12点、磁器１点、陶器３点が出土した。

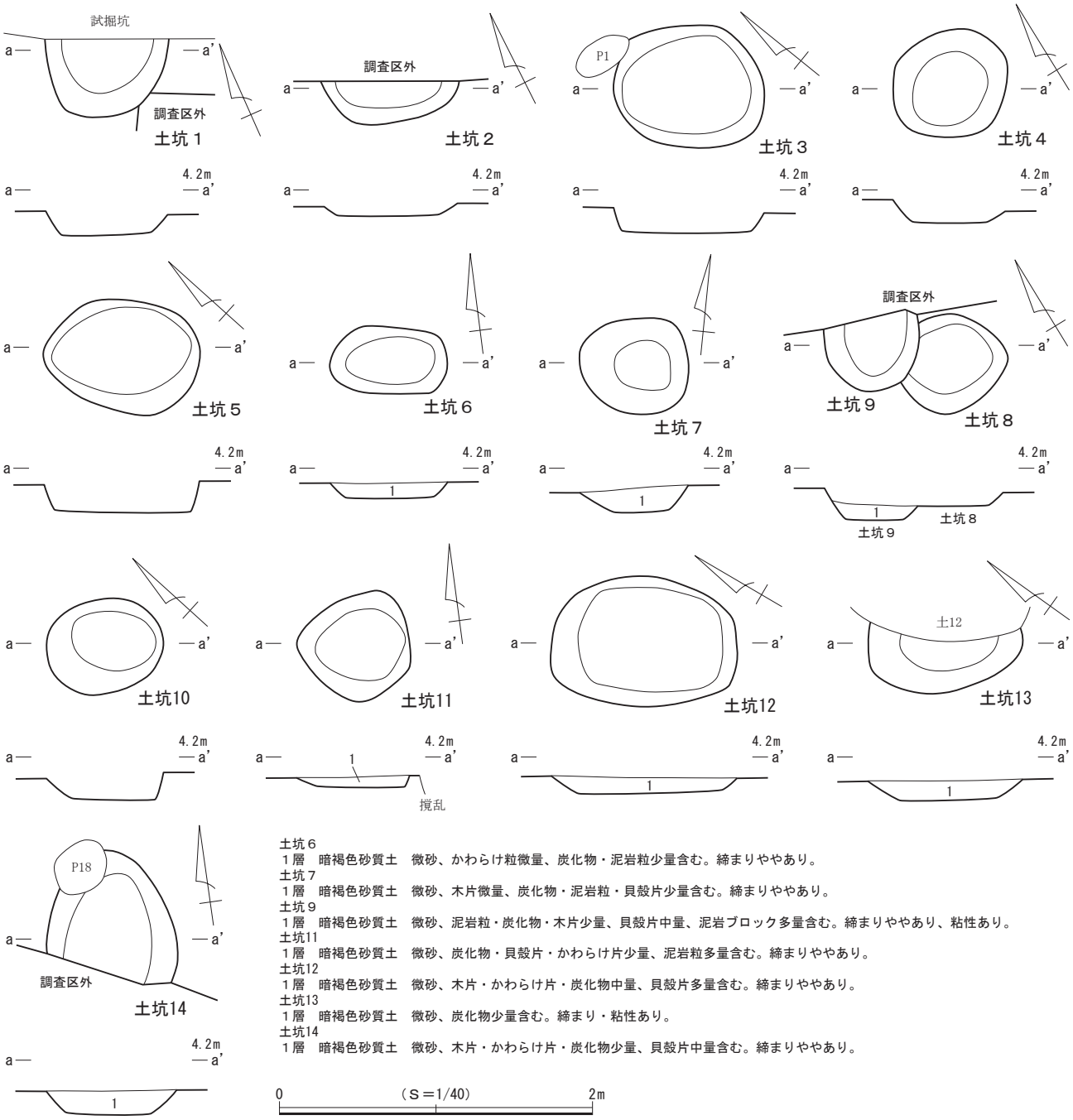
土坑13（図15）

調査区の西端付近に位置する。東側で土坑12と重複して全体のおよそ半分が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸98cm、短軸現存長35cm、深さ13cmで、坑底面の標高は3.93mを測る。主軸方位はＮ－36°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑14（図15）

調査区南壁際の西側に位置する。北側でピット18と重複して壁と底面の一部が壊され、南側が調査区



土坑６
１層　暗褐色砂質土　微砂、かわらけ粒微量、炭化物・泥岩粒少量含む。締まりややあり。
土坑７
１層　暗褐色砂質土　微砂、木片微量、炭化物・泥岩粒・貝殻片少量含む。締まりややあり。
土坑９
１層　暗褐色砂質土　微砂、泥岩粒・炭化物・木片少量、貝殻片中量、泥岩ブロック多量含む。締まりややあり、粘性あり。
土坑11
１層　暗褐色砂質土　微砂、炭化物・貝殻片・かわらけ片少量、泥岩粒多量含む。締まりややあり。
土坑12
１層　暗褐色砂質土　微砂、木片・かわらけ片・炭化物中量、貝殻片多量含む。締まりややあり。
土坑13
１層　暗褐色砂質土　微砂、炭化物少量含む。締まり・粘性あり。
土坑14
１層　暗褐色砂質土　微砂、木片・かわらけ片・炭化物少量、貝殻片中量含む。締まりややあり。

図15　第１面 土坑１～14

外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長76㎝、短軸84㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は3.85ｍを測る。主軸方位はＮ－17°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ18点、陶器３点が出土した。

（４）ピット

第１面では、23基を検出した。調査区西半を中心として疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と方形を基調とし、規模は長軸17～55㎝、深さ６～23㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図16）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表６）に掲げたが、このうち４点を図示した。

１・３・４はロクロ成形によるかわらけである。２は常滑産の片口碗で４型式に比定される。

１・２はピット５、３・４はピット６からそれぞれ出土した。

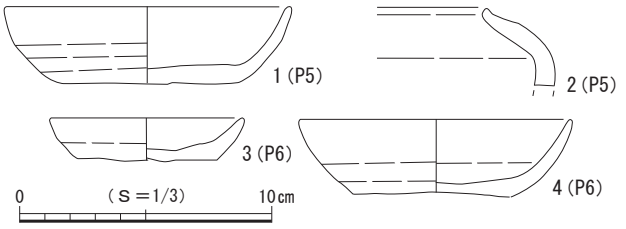


図16　第１面 ピット出土遺物

（５）第１面 遺構外出土遺物（図17）

第１面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち15点を図示した。

１～５はロクロ成形によるかわらけで、１には口縁部に油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。６・７は瀬戸産の陶器類である。６は入子で古瀬戸中期様式、７は折縁小皿で古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期に比定される。８～13は常滑産の陶器類である。８・９は甕で６ａ～６ｂ型式、10～13は片口鉢Ⅱ類で８～９型式に比定される。14は砥石である。15は銭貨で至道元寶（995年初鋳）である。

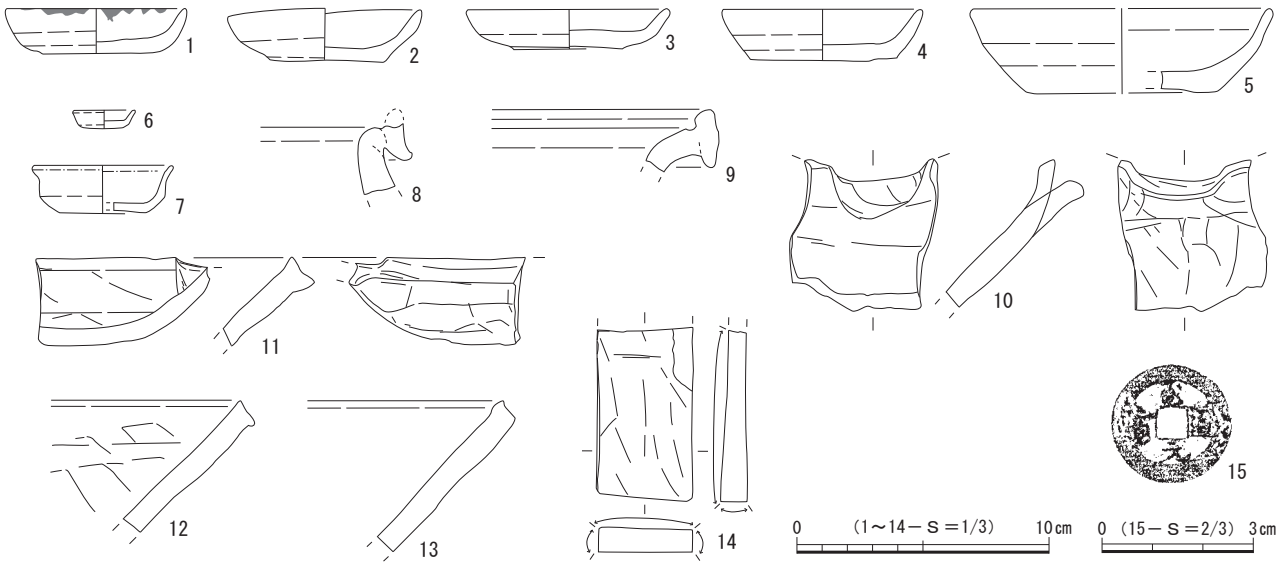


図17　第１面 遺構外出土遺物

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の12層上面で検出した。確認面の標高は4.0～4.1ｍを測る。12層は微量の泥岩粒、多量の貝片、微量のかわらけ片を含み締まりのある暗褐色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構３条、方形土坑１基、土坑19基、ピット55基である（図18）。溝状遺構は壁際に杭が連続して打ち込まれた護岸を伴っており、現在と同じ地割方向に延びていた。遺構は調査区の全域に密に分布し、遺構間の重複も多く認められた。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

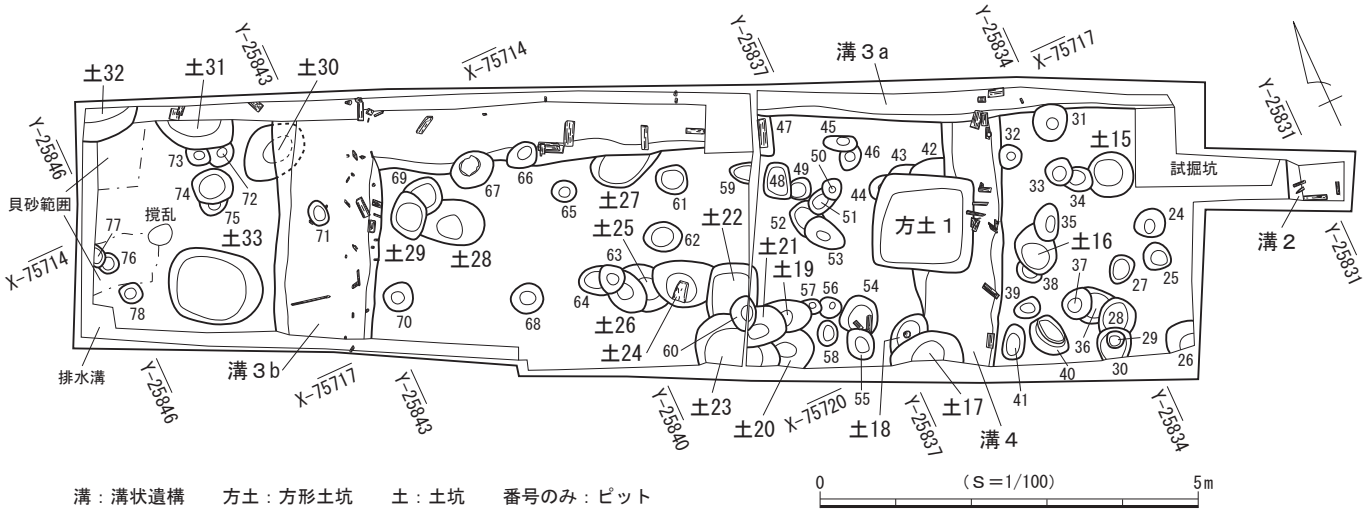


図18　第２面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構２（図20）

調査区の東端に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。調査区の制約からごく一部を検出したに過ぎないが、南北方向に延びる溝と考えられる。検出した規模は現存長約50㎝、現存幅90㎝、深さ23㎝で、主軸方位はＮ－21°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、底面はほぼ平らで、標高は3.61ｍを測る。溝状遺構３ａと直交、溝状遺構３ｂおよび溝状遺構４と平行する向きで延伸しており、関連をもつ遺構となる可能性がある。

出土遺物（図19）

遺物はかわらけ１点、陶器２点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。

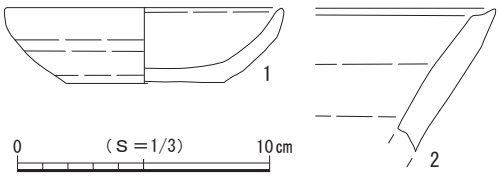


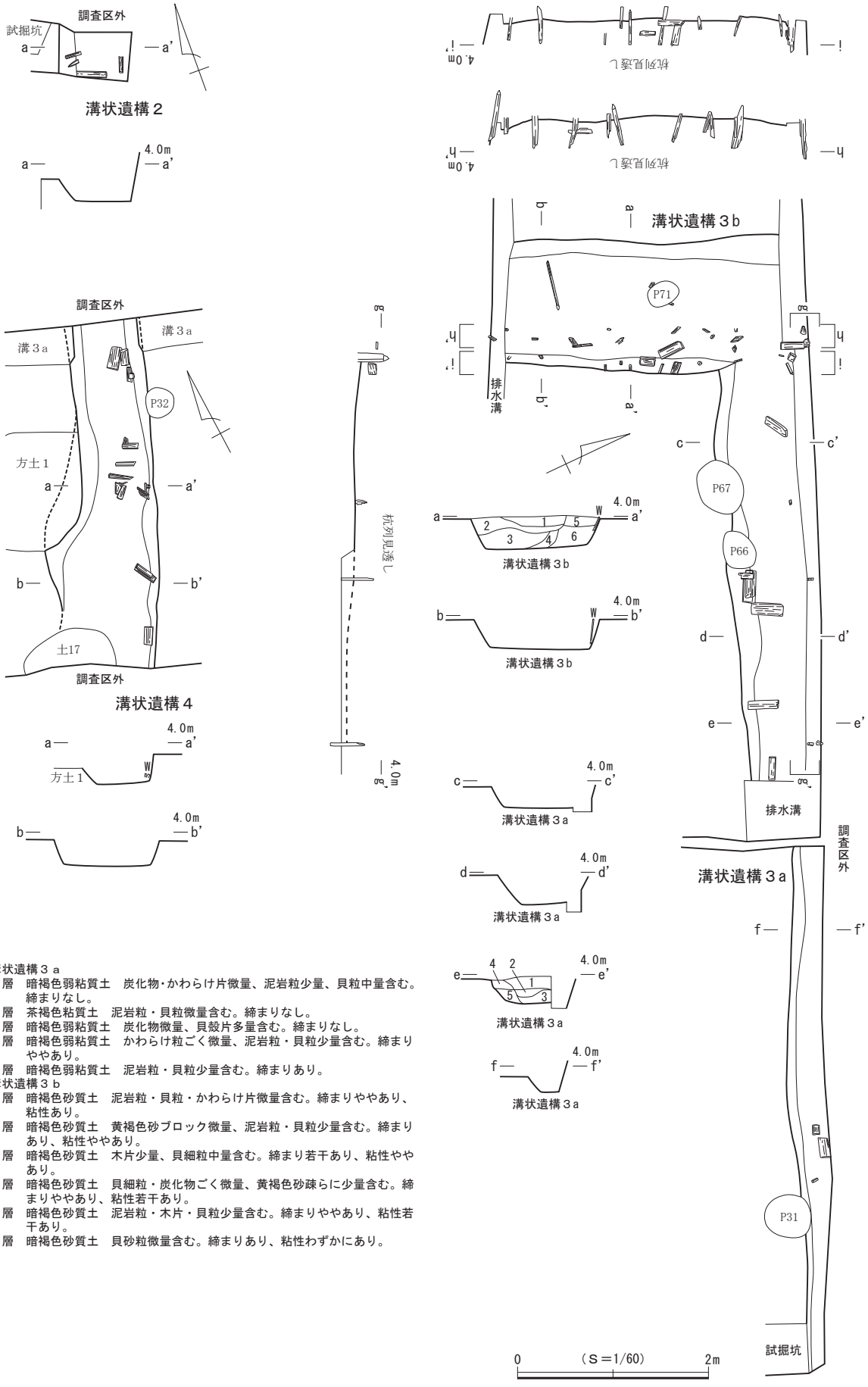
図19　第２面 溝状遺構２出土遺物

溝状遺構３ａ・３ｂ（図20）

調査区の北壁に沿って東西方向に延び、東端は調査区外の東側に続く。西側は直角に折れて調査区外の南側に続いており、この一連の溝の東西側を３ａとし、南北側を３ｂとして記述する。

溝状遺構３ａは南側で土坑27と重複して壊し、ピット66・67・31と重複して壁の一部が壊されている。検出した規模は現存長約10.5ｍ、現存幅20～80㎝、深さ16～30㎝で、主軸方位はＮ－68°－Ｗを指す。南壁は開いて立ち上がり、北壁は調査区外にあるため確認できなかった。底面はほぼ平らで、標高は東側で3.75ｍ、中央付近で3.66ｍ、西側で3.73ｍを測る。西半の底面からは打ち込まれた杭が３本検出され、その間隔は西側から2.3ｍ、1.7ｍである。

溝状遺構３ｂは北西側で土坑30と重複して全体の半分ほどを壊している。検出した規模は現存長約2.9ｍ、幅約1.4ｍ、深さ31㎝で、主軸方位はＮ－27°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は南北側とも3.66ｍを測る。東壁および東壁際の底面に杭が連続して打ち込まれており、立ったままの良好な状態で遺存していた。杭列は２列確認され、杭の間隔は西列が25～70㎝、東列が20～85㎝とばらつきがある。



溝状遺構３ａ
１層　暗褐色弱粘質土　炭化物･かわらけ片微量、泥岩粒少量、貝粒中量含む。締まりなし。
２層　茶褐色粘質土　泥岩粒・貝粒微量含む。締まりなし。
３層　暗褐色弱粘質土　炭化物微量、貝殻片多量含む。締まりなし。
４層　暗褐色弱粘質土　かわらけ粒ごく微量、泥岩粒・貝粒少量含む。締まりややあり。
５層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・貝粒少量含む。締まりあり。
溝状遺構３ｂ
１層　暗褐色砂質土　泥岩粒・貝粒・かわらけ片微量含む。締まりややあり、粘性あり。
２層　暗褐色砂質土　黄褐色砂ブロック微量、泥岩粒・貝粒少量含む。締まりあり、粘性ややあり。
３層　暗褐色砂質土　木片少量、貝細粒中量含む。締まり若干あり、粘性ややあり。
４層　暗褐色砂質土　貝細粒・炭化物ごく微量、黄褐色砂疎らに少量含む。締まりややあり、粘性若干あり。
５層　暗褐色砂質土　泥岩粒・木片・貝粒少量含む。締まりややあり、粘性若干あり。
６層　暗褐色砂質土　貝砂粒微量含む。締まりあり、粘性わずかにあり。

図20　第２面 溝状遺構２～４

３ａは溝状遺構２・４と平行し、３ｂは直交する向きで延伸しており、関連をもつ遺構となる可能性がある。

出土遺物（図21・22）

溝状遺構３ａからはかわらけ124点、磁器２点、陶器23点、金属製品１点、木製品１点が出土し、このうち４点を図示した。

図21の１・２はロクロ成形によるかわらけである。３は常滑産の片口鉢Ⅱ類で６ａ～６ｂ型式に比定される。４は漆製品の椀である。

溝状遺構３ｂからはかわらけ136点、磁器４点、陶器42点が出土し、このうち12点を図示した。

図22の１～８はロクロ成形によるかわらけで、２・７の口縁部から体部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。９は渥美産の甕で２ｂ型式に比定される。10～12は常滑産の陶器類である。10は甕で５型式、11・12は片口鉢Ⅱ類で６ａ～６ｂ型式に比定される。

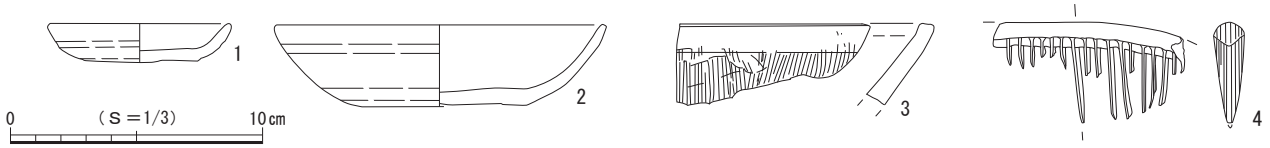


図21　第２面 溝状遺構３ａ出土遺物

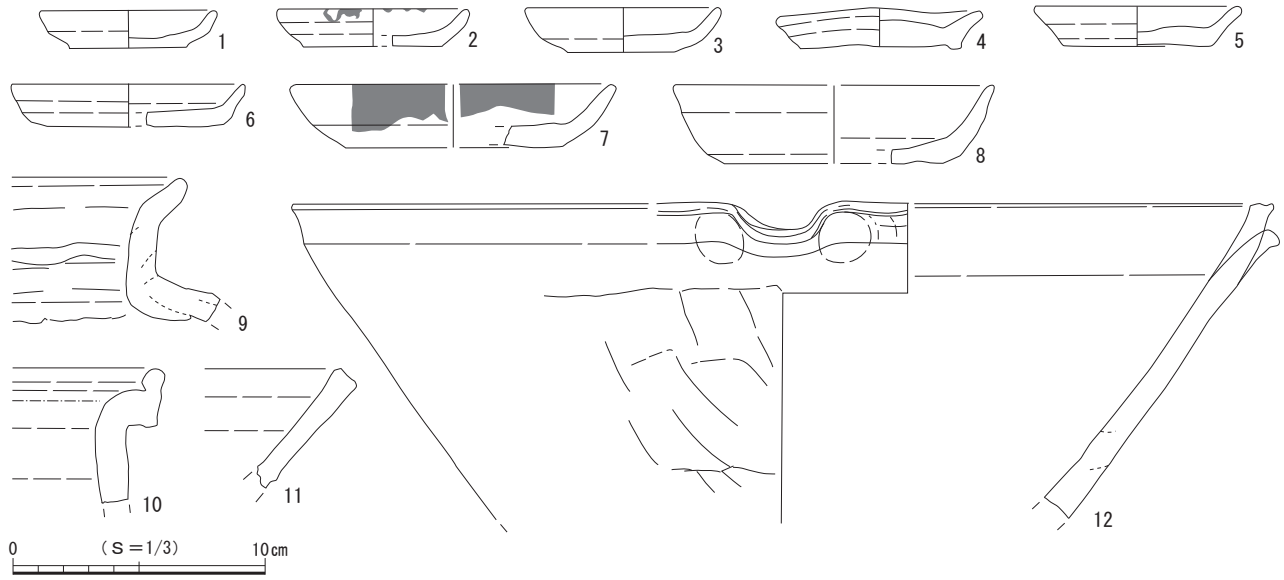


図22　第２面 溝状遺構３ｂ出土遺物

溝状遺構４（図20）

調査区の東側に位置する。溝状遺構３ａ、方形土坑１、土坑17・18、ピット32と重複して壁と底面の一部が壊されている。南北方向に真っすぐに延び、北側は溝状遺構３ａと重複し南側は調査区外へと続く。検出した規模は現存長約3.7m、幅0.8～1.2m、深さ31㎝で、主軸方位はＮ－25°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で3.58m、南側で3.66mを測る。溝状遺構３ａと直交し、溝状遺構２および溝状遺構３ｂと平行する向きで延伸しており、関連をもつ遺構となる可能性がある。

出土遺物（図23）

遺物はかわらけ104点、磁器４点、陶器11点、土師質・瓦質土器１点、瓦１点、石製品１点、金属製

品２点が出土し、このうち12点を図示した。

１～11はロクロ成形によるかわらけで、２・５の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。12は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。

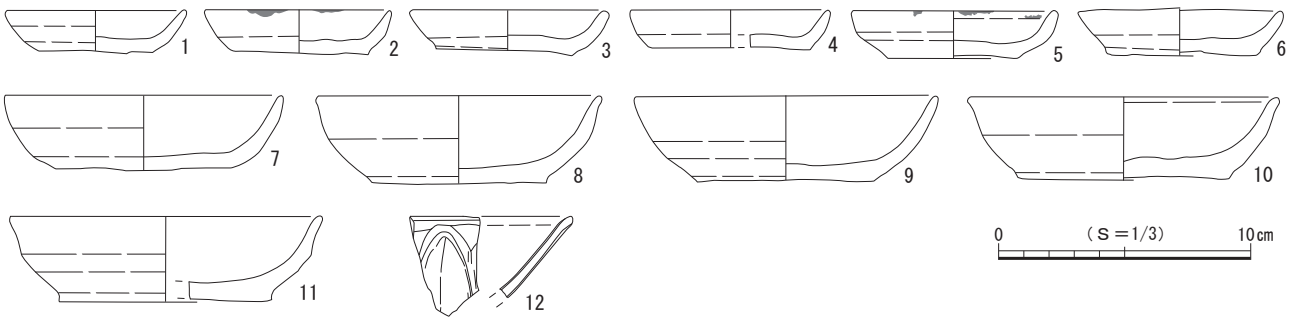


図23　第２面 溝状遺構４出土遺物

（２）方形土坑

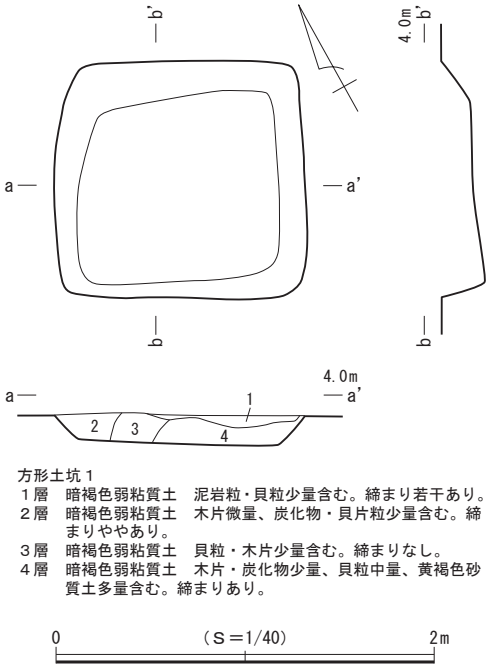
方形土坑１（図24）

調査区の東側に位置する。北側でピット42～44、東側で溝状遺構４と重複してそれぞれを壊している。平面形は隅丸方形で、底面は北側から南側に向かって傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.32m、短軸1.25m、深さ14～21㎝で、坑底面の標高は3.75mを測る。主軸方位はＮ－60°－Ｗを指す。

出土遺物（図25）

遺物はかわらけ19点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。



方形土坑１
１層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・貝粒少量含む。締まり若干あり。
２層　暗褐色弱粘質土　木片微量、炭化物・貝片粒少量含む。締まりややあり。
３層　暗褐色弱粘質土　貝粒・木片少量含む。締まりなし。
４層　暗褐色弱粘質土　木片・炭化物少量、貝粒中量、黄褐色砂質土多量含む。締まりあり。

図24　第２面 方形土坑１

（３）土　坑

土坑15（図30）

調査区の北東側に位置する。東側でピット34と重複して壁の一部が壊されているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略円形で、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は直径61㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は3.66mを測る。

遺物はかわらけ４点、陶器２点が出土した。

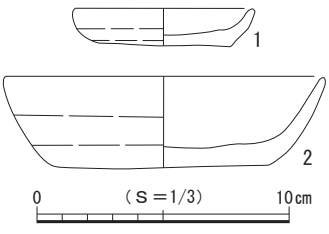


図25　第２面 方形土坑１出土遺物

土坑16（図30）

調査区の東側に位置する。南側でピット38と重複して壊し、北側でピット35と重複して壁の一部が壊されるが全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形はⅢ状を呈する。規模は長軸62㎝、短軸50㎝、深さ７㎝で、坑底面の標高は3.83mを測る。主軸方位はＮ－14°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ７点が出土した。

土坑17（図30）

調査区南壁際の東側に位置する。北側で溝状遺構４、土坑18と重複して壁と底面の一部を壊し、南側のおよそ半分が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸94㎝、短軸現存長39㎝、深さ36㎝で、坑底面の標高は3.57ｍを測る。主軸方位はＮ－87°－Ｗを指す。

出土遺物（図26）

遺物はかわらけ７点、磁器１点、陶器９点、土師質・瓦質土器１点が出土し、このうち４点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。４は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。

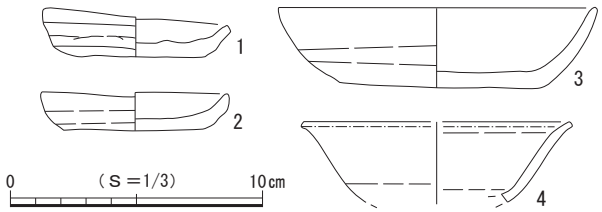


図26　第２面 土坑17出土遺物

土坑18（図30）

調査区南壁際の東側に位置する。南側で土坑17と重複して全体の半分ほどが壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長63㎝、短軸現存長35㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は3.69ｍを測る。主軸方位はＮ－50°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ14点、磁器２点、陶器20点、土師質・瓦質土器２点が出土した。

土坑19（図30）

調査区南壁際の中央付近に位置する。東側でピット57、南側で土坑20と重複して壊し、西側で土坑21と重複して全体のおよそ半分が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸42㎝、深さ26㎝で、坑底面の標高は3.64ｍを測る。主軸方位はＮ－71°－Ｗを指す。

出土遺物（図27）

物はかわらけ43点、磁器１点、陶器３点、金属製品３点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は常滑産甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。

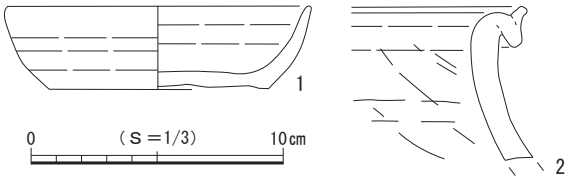


図27　第２面 土坑19出土遺物

土坑20（図30）

調査区南壁際の中央付近に位置する。北側で土坑19・21、西側で土坑23と重複して壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると円形ないし楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長52㎝、東西現存長60㎝、深さ30㎝で、坑底面の標高は3.59ｍを測る。底面の形状から主軸方位を推定すると、Ｎ－68°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑21（図30）

調査区南壁際の中央付近に位置する。東側で土坑19、南側で土坑20・23と重複して壊し、北側でピット60と重複して壁と底面の一部が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60㎝、短軸現存長52㎝、深さ41㎝で、坑底面の標高は3.50ｍを測る。主軸方位はＮ－83°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ39点、磁器１点、陶器２点が出土した。

土坑22（図30）

調査区の中央付近に位置する。西側で土坑24と重複して壊し、南側で土坑21・23、ピット60と重複して壁と底面の一部を壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長67㎝、短軸65㎝、深さ13㎝で、坑底面の標高は3.84ｍを測る。主軸方位はＮ－26°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ12点が出土した。

土坑23（図30）

調査区南壁際の中央東側に位置する。東側で土坑20、北側で土坑22と重複して壊し、東側で土坑21、ピット60と重複して壁と底面の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形ないし略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長1.10ｍ、短軸現存長75㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は3.78ｍを測る。本址の平面形を楕円形としてみた場合に、主軸方位はＮ－17°－Ｗを指すと考えられる。

出土遺物（図28）

遺物はかわらけ59点、陶器７点、金属製品５点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

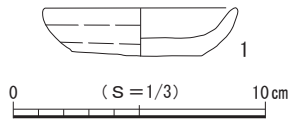


図28　第２面 土坑23出土遺物

土坑24（図30）

調査区の中央付近に位置する。西側で土坑25と重複して壊し、東側で土坑22と重複して壁の一部が壊され全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長75㎝、短軸61㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は3.76ｍを測る。主軸方位はＮ－61°－Ｗを指す。南壁寄りの底面直上から長さ27㎝、幅18㎝の板材が出土し、礎板をもつピットとなる可能性も想定される。

出土遺物（図29）

遺物はかわらけ７点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

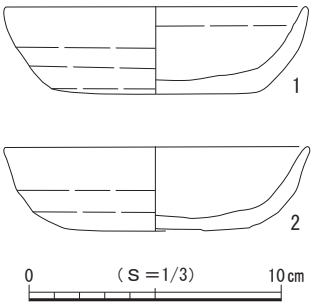
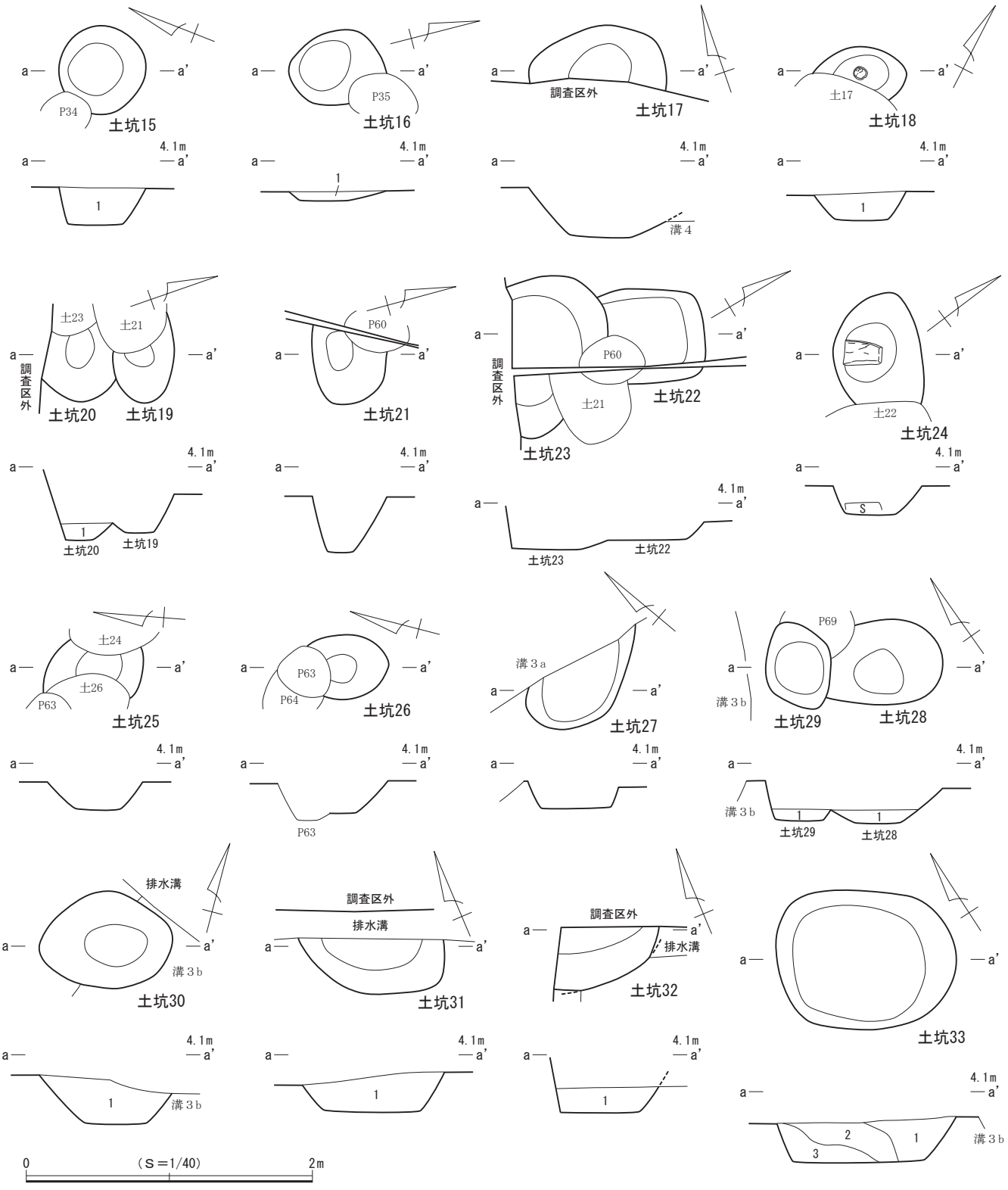


図29　第２面 土坑24出土遺物



土坑15
1層　暗褐色弱粘質土　かわらけ粒・炭化物中量、泥岩粒多量含む。締まりなし。
土坑16
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒微量、木片少量含む。締まり若干あり。
土坑18
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒微量、貝粒・木片少量含む。締まりなし。
土坑20
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、貝片粒多量含む。締まりなし。
土坑28
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ粒・貝粒・木片少量含む。締まり若干あり。
土坑29
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・炭化物・かわらけ粒・貝粒少量含む。締まり若干あり。
土坑30
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩ブロック・貝粒・木片少量含む。締まりややあり。
土坑31
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒少量、貝片粒・木片中量含む。締まり若干あり。
土坑32
1層　暗褐色弱粘質土　泥岩粒・貝細粒少量含む。締まり若干あり。
土坑33
1層　暗褐色粘質土　泥岩粒・かわらけ片微量、貝片粒少量含む。締まり若干あり。
2層　暗褐色粘質土　泥岩粒・貝粒少量、青灰色砂疎らに少量含む。締まりややあり。
3層　暗褐色粘質土　貝粒・木片微量、茶褐色粘土ブロック少量含む。締まりなし。

図30　第２面 土坑15～33

土坑25（図30）

調査区の中央付近に位置する。東側で土坑24、西側で土坑26と重複して全体の2/3近くが壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長74cm、短軸現存長57cm、深さ19cmで、坑底面の標高は3.78mを測る。主軸方位はN－33°－Wを指す。

遺物はかわらけ７点、磁器１点、陶器１点が出土した。

土坑26（図30）

調査区の中央付近に位置する。東側で土坑25と重複して壊し、北側でピット63と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長60cm、短軸44cm、深さ23cmで、坑底面の標高は3.76mを測る。主軸方位はN－15°－Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑27（図30）

調査区中央の北側に位置する。北側で溝状遺構３ａと重複して全体のおよそ半分が壊されており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い形状を呈する。規模は長軸現存長73cm、短軸現存長62cm、深さ18cmで、坑底面の標高は3.79mを測る。主軸方位はN－65°－Eを指す。

遺物はかわらけ１点が出土した。

土坑28（図30）

調査区の西側に位置する。西側で土坑29、ピット69と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形はすり鉢形を呈する。規模は長軸現存長78cm、短軸59cm、深さ24cmで、坑底面の標高は3.69mを測る。主軸方位はN－59°－Wを指す。

遺物はかわらけ３点、磁器１点、金属製品２点が出土した。

土坑29（図30）

調査区の西側に位置する。北側でピット69、東側で土坑28と重複して壁と底面の一部を壊している。平面形は不整楕円形で、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64cm、短軸48cm、深さ28cmで、坑底面の標高は3.70mを測る。主軸方位はN－18°－Eを指す。

遺物はかわらけ４点、磁器２点が出土した。

土坑30（図30）

調査区の西側に位置する。東側で溝状遺構３ｂと重複して壁の上面が壊されているが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸93cm、短軸68cm、深さ34cmで、坑底面の標高は3.62mを測る。主軸方位はN－74°－Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑31（図30）

調査区北壁際の西側に位置する。南側でピット72・73と重複して壊し、北側のおよそ半分が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長96㎝、短軸現存長40㎝、深さ27㎝で、坑底面の標高は3.70ｍを測る。主軸方位はＮ－22°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑32（図30）

調査区の北西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、本址の大半が調査区外の北側に続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形や主軸方位は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長43㎝、東西現存長68㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は3.70ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑33（図30）

調査区の南西隅付近に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形は略楕円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.25ｍ、短軸96㎝、深さ32㎝で、坑底面の標高は3.60ｍを測る。主軸方位はＮ－56°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ27点、陶器18点、木製品１点が出土した。

（４）ピット

第２面では、55基を検出した。調査区全域に分布し、特に調査区東側に密集するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形のものが多く、方形も混在し、規模は長軸20～57㎝、深さ４～30㎝を測る。55基のうち１基のピット（ピット54）に礎板が２枚出土し、礎板の大きさは西側が長さ12㎝、幅６㎝、厚さ４㎝、東側が長さ22㎝、幅６㎝、厚さ４㎝で、上面の標高は3.79ｍと3.84ｍを測る。なお、礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図31に図示した。

出土遺物（図32）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表６）に掲げたが、このうち18点を図示した。

１・12・18は常滑産の陶器類である。１は甕で６ｂ～７型式、12は片口鉢Ⅰ類、18は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。２～４・８～11・13～17はロクロ成形によるかわらけで、14～16の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。５は同安窯系青磁皿で皿Ⅰ－１ｂ類に比定される。６・７は銭貨である。６は開元通寶（621年初鋳）、７は元豊通寶（1078年初鋳）である。

１はピット39、２はピット41、３～７はピット43、８～12はピット48、

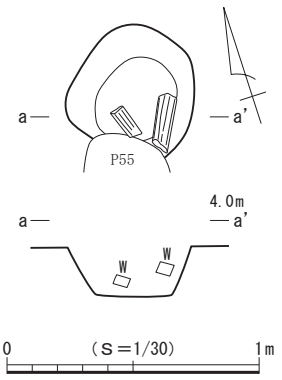


図31　第２面 ピット 54

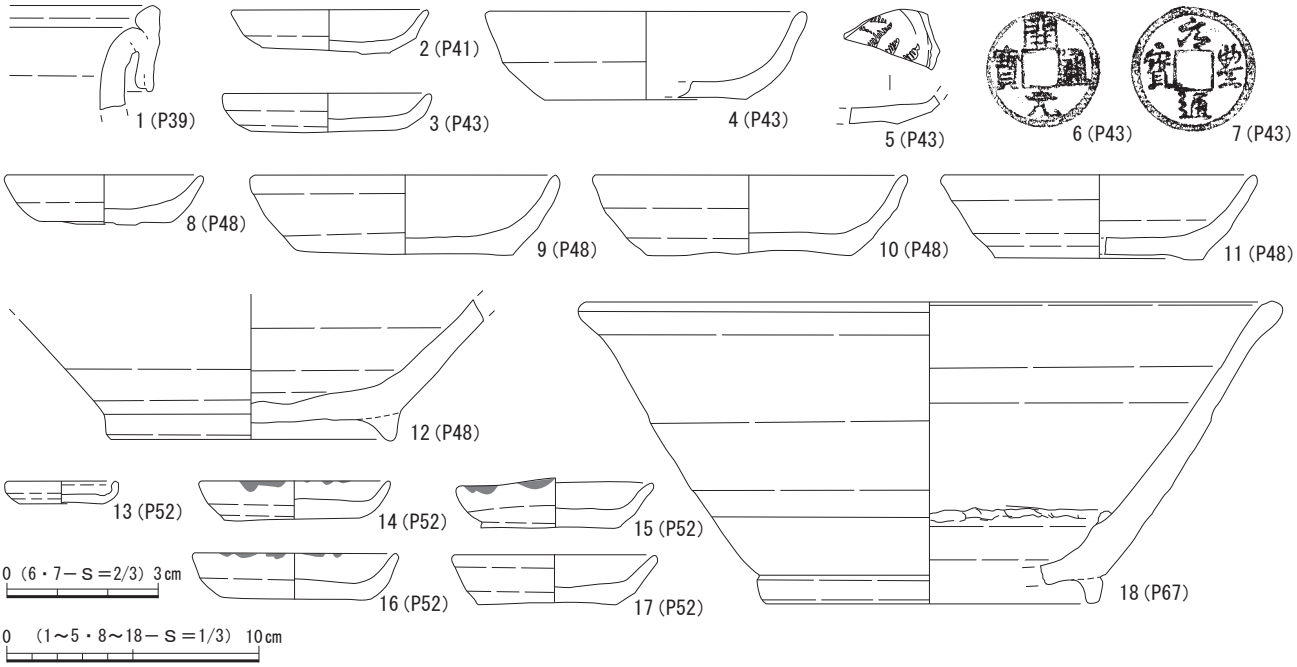


図32　第２面 ピット出土遺物

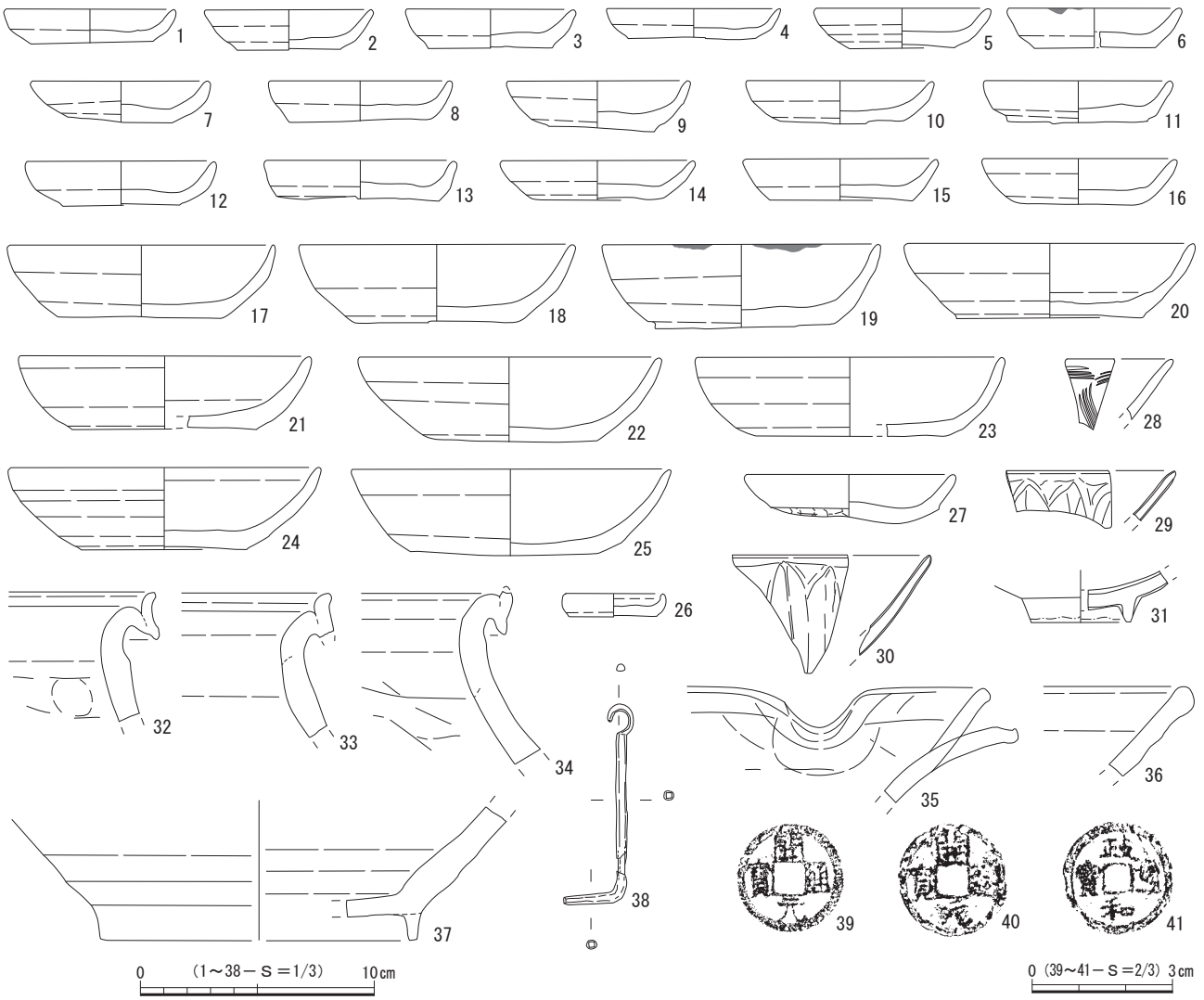


図33　第２面 遺構外出土遺物

13～17はピット52、18はピット67からそれぞれ出土した。

（５）第２面 遺構外出土遺物（図33）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち41点を図示した。

１～25はロクロ成形によるかわらけ、26・27は手づくね成形によるかわらけであり、６・19の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。28～31は龍泉窯系青磁碗で、28は碗Ⅰ－６ａ類、29・30は碗Ⅱ－ｂ類、31は碗Ⅲ類に比定される。32～37は常滑産の陶器類である。32～34は甕で６ａ型式、35～37は片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。38～41は金属製品である。38はフック状の用途不明の製品である。39～41は銭貨で、39・40は開元通寶（621年初鋳）、41は政和通寶（1111年初鋳）である。

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の15・16・18層上面で検出した。確認面の標高は約3.9ｍを測る。15層は少量の貝片を含み締まりのある暗褐色砂質土層、16層は微量の貝細片と細砂を含み締まりのある黒褐色粘質土層、18層は少量の貝片を含む黒褐色砂質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は板壁建物１棟、方形竪穴状遺構６基、溝状遺構１条、井戸１基、土坑14基、ピット16基である（図34）。主体となる遺構は調査区の中央に展開する板壁建物で、調査区外の南北側に続いており全容は把握できなかったものの、倒れた板壁材が良好な状態で遺存していた。また、板壁建物の範囲内には方形竪穴状遺構や方形土坑、土坑が重複して検出されており、その多くは時期差をもつものと推定される。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、骨角製品、金属製品、木製品などのほか、板壁建物１、方形竪穴状遺構６・７、土坑34・41・45・46、遺構外からは動物遺体・貝類も多く出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

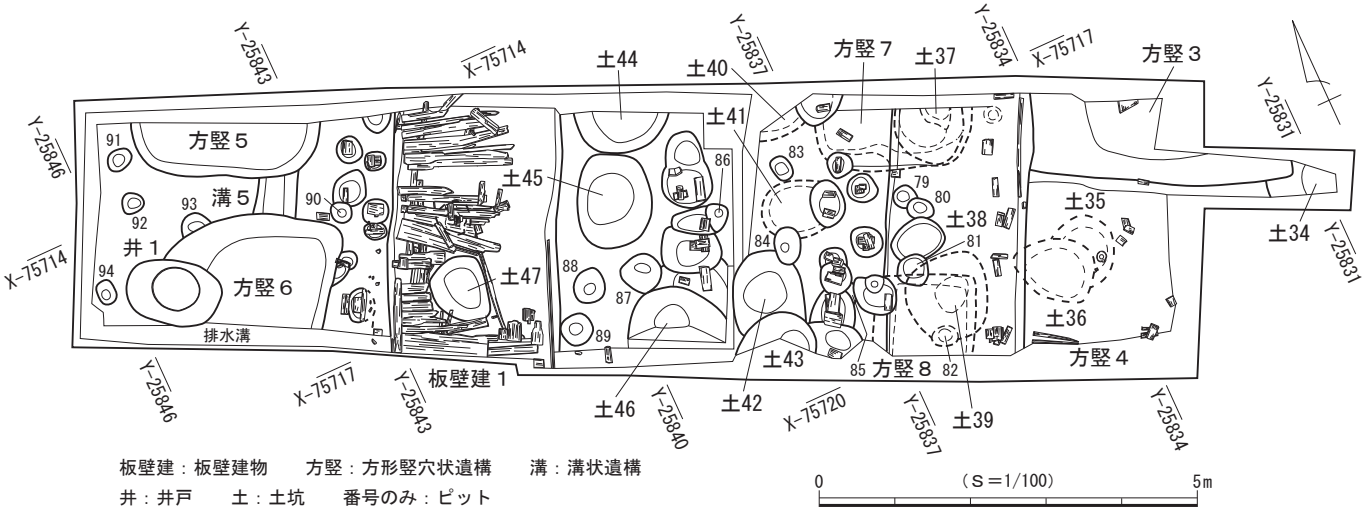


図34　第３面 遺構分布図

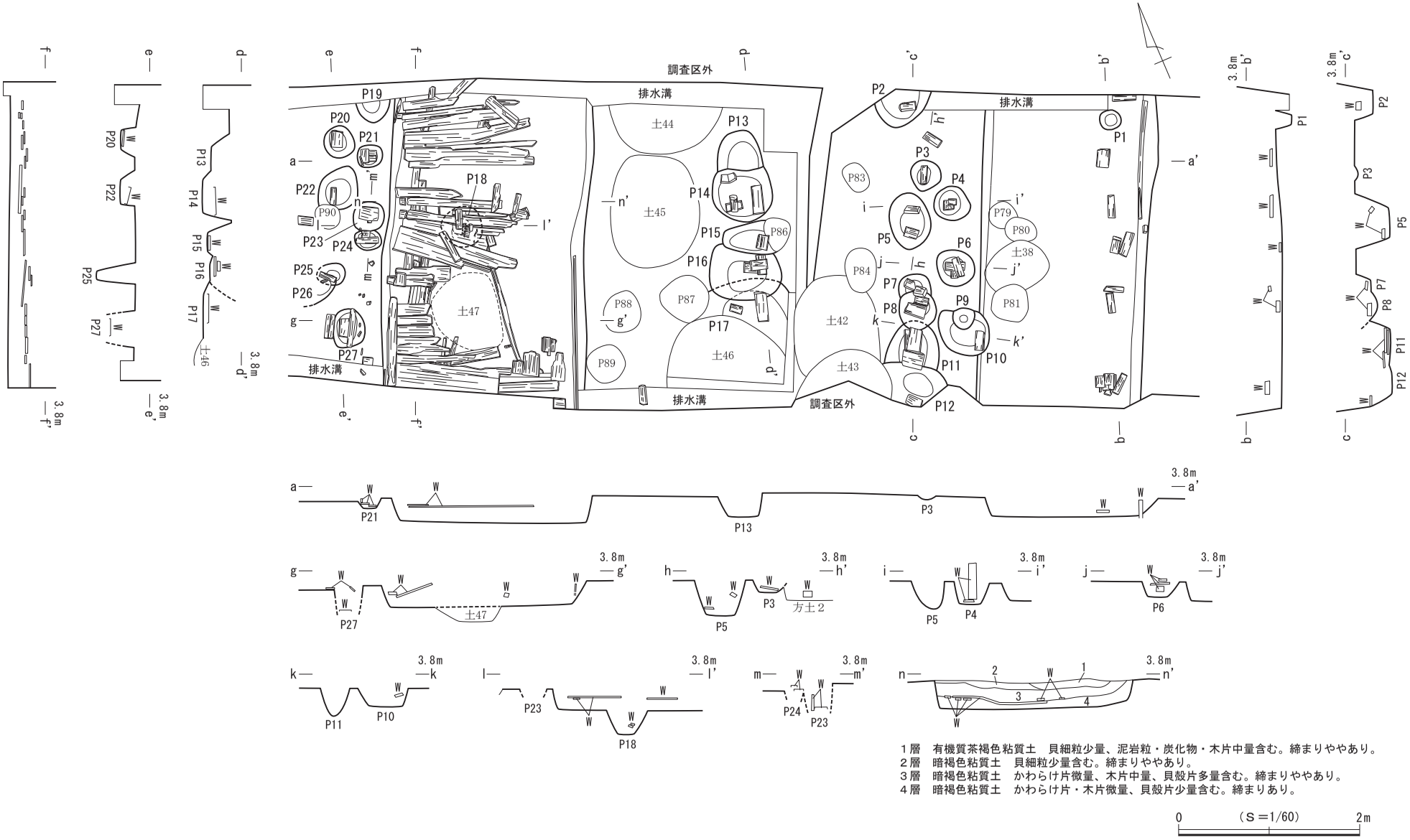


図35　第３面 板壁建物１

（1）板壁建物

板壁建物１（図35）

調査区の中央に位置する。方形竪穴状遺構３・４・７・８、土坑36・37・39～41、ピット82と重複して壁の上面を壊し、土坑42～47、ピット79～81・83～89と重複して床面を壊されている。

南北側は調査区外へと続いており全容を把握できなかったが、検出範囲から推定すると南北方向を長軸とする大型の建物であったと考えられる。調査区内での建物構造は、東西両側が一段低く掘り込まれ、中央部が高くなる。規模は南北現存長3.45m、東西8.45mで、西側のピット列を含めた規模は9.1mを測り、主軸方位はＮ－50°－Ｅを指す。

東側の低い部分をみていくと、幅1.85m、深さ19cm、床面の標高が3.47mで、東壁北側に長さ1.3m、幅約15cm、厚さ４cmの横板が打ち込まれた状態で遺存していた。また、平らな底面上には東壁に沿って礎板が列状に配置され、その間隔は北側から順に60cm、60cm、50cm、60cm、80cmを測る。

西側の低い部分は幅2.25m、深さ30cm、床面の標高が3.40mで、西壁側には板壁が建物の外側から内側に倒れた状態のまま遺存していた。板壁材の西側には、壁の下部に渡された横板と考えられる南北方向の板材２～３段が認められ、これに直交する向きで板材を隙間なく並べている。用いられた木材の大きさは、長さ約1.4m、幅10～30cm、厚さ２～３cmを測る。この板壁は土層断面で４層とした最下層堆積土の上面から検出されていることから、ある程度埋没が進んだ段階あるいは人為的な埋め戻しが行われた後に倒壊したと推定される。また、東壁南側に長さ1.7m、幅約15cm、厚さ２cmの横板が打ち込ま

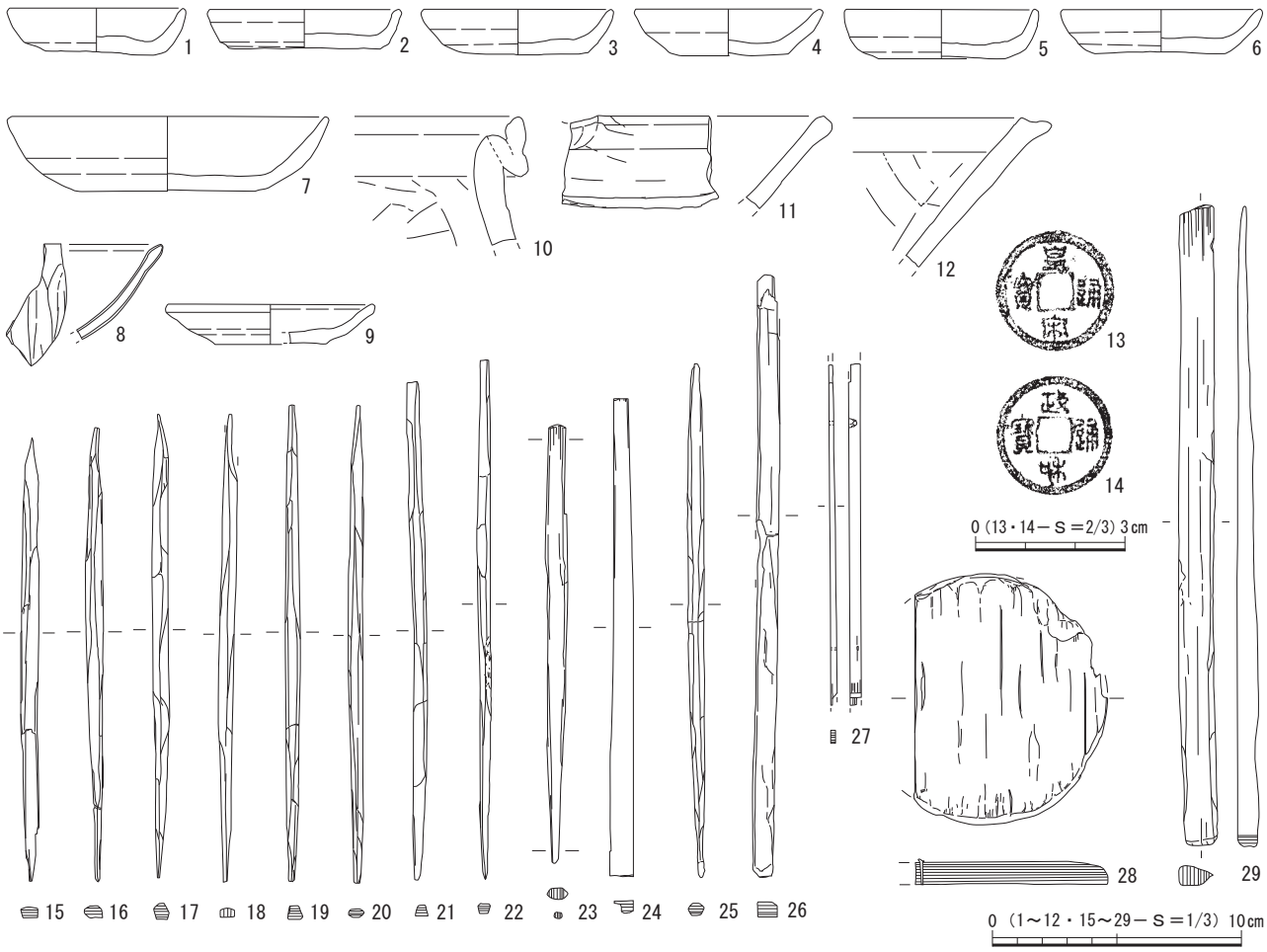


図36　第３面 板壁建物１出土遺物

れ、南側の調査区外へと続いている。

板壁の西側に隣接してピット９基（Ｐ19～Ｐ27）からなる南北方向のピット列が検出された。Ｐ19を除くすべてのピットに礎板が据えられており、廂の出を構成するピットの可能性がある。ピットの規模は長軸29～49㎝、深さ12～44㎝で、礎板の大きさは長さ15～43㎝、幅５～15㎝、厚さ約２㎝を測る。

建物の中心部は4.36ｍの幅で一段高まり、標高は3.70ｍを測る。そこからピット16基（Ｐ２～Ｐ17）が検出され、東側と中央部に南北方向におおむね列状に配置されている。柱間は40～50㎝と狭く、床束柱の可能性が高い。Ｐ９・Ｐ13以外のピットには礎板が据えられており、Ｐ４の礎板上には方８㎝の柱が据えられ立った状態で出土した。ピットの規模は長軸34～79㎝、深さ17～39㎝で、礎板の大きさは長さ10～25㎝、幅６～17㎝、厚さ２～４㎝である。

出土遺物（図36）

遺物はかわらけ376点、磁器10点、陶器73点、土師質・瓦質土器3点、瓦１点、石製品２点、金属製品４点、木製品15点が出土し、このうち29点を図示した。

１～７はロクロ成形によるかわらけである。８は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。９は産地不明の山皿である。10～12は常滑産の陶器類である。10は甕で６ａ型式、11は片口鉢Ⅰ類、12は片口鉢Ⅱ類である。13・14は銭貨で、13は皇宋通寶（1038年初鋳）、14は政和通寶（1111年）である。

15～29は木製品である。15～22は箸状、23は串状、24～26は棒状、27は建築部材、28は円盤状、29は用途不明である。

（２）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構３（図37）

調査区の北東隅に位置する。東側で土坑34、南側で方形竪穴状遺構４と重複して壊し、西側で板壁建物１と重複して壁の上面が壊されている。また、本址の大半が調査区外の北側に続いており、南壁付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.08ｍ、東西現存長3.87ｍ、深さ14㎝で、底面の標高は3.33ｍを測る。主軸方位はＮ－63°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

方形竪穴状遺構４（図37）

調査区の南東隅に位置する。土坑35・36と重複して壁の上面を壊し、北側で方形竪穴状遺構３、西側で板壁建物１、方形土坑３と重複して壁の上面が壊されている。調査区外の南側と東側に続いており全容を把握できなかった。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いてごく緩やかに立ち上がる。規模は南北現存長2.45m、東西現存長3.10m、深さ20㎝で、底面の標高は3.19ｍを測る。主軸方位はＮ－63°－Ｗを指す。

出土遺物（図38・39）

遺物はかわらけ149点、磁器５点、陶器57点、土師質・瓦質土器１点、瓦１点、石製品３点、骨角製品１点、金属製品１点、木製品67点が出土し、このうち55点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけで、１の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。５は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。６は白磁壺である。７は瀬戸産の卸皿で古瀬戸中期様式に比定される。８～10は常滑産の陶器類である。８は甕で６ａ型式、９は小型片口鉢、10は片口鉢Ⅱ類で６ａ～６ｂ型式に比定される。11は温石である。12は骨角製品の笄である。

13～55は木製品で、その中で13～23は漆製品となる。13～19は皿、20・21は椀、22は櫛、23は漆製品

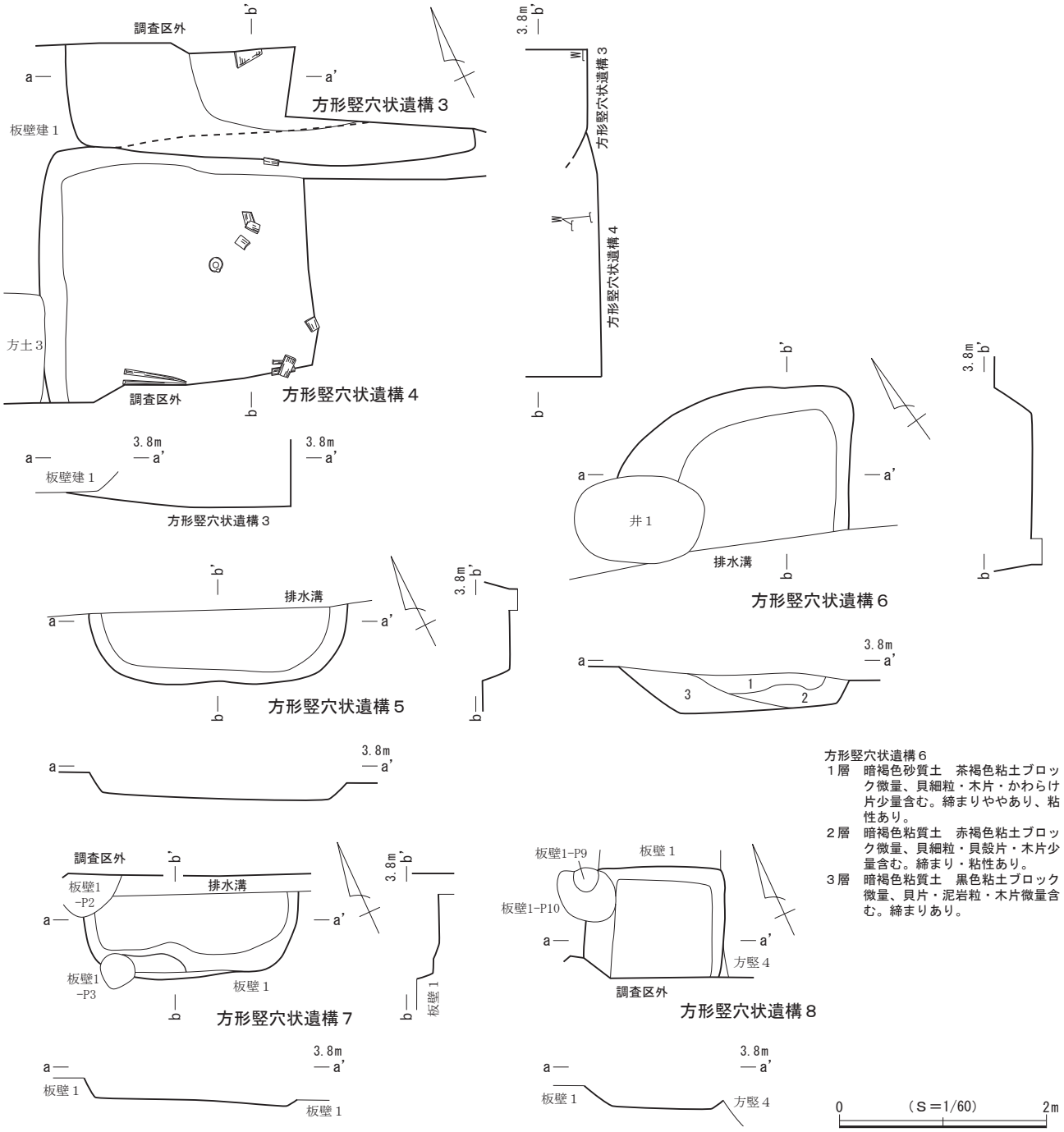


図37　第３面 方形竪穴状遺構３～８

の器種不明、24～34は箸状、35～37は曲物、38～40は草履芯、41は栓、42は串状、43～52は棒状、53・54は調度具、55は用途不明である。

方形竪穴状遺構５（図37）

調査区の北西隅に位置する。南東側で溝状遺構５と重複して壊している。本址の大半が調査区外の北側に続いており、南壁付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長68㎝、東西現存長2.50ｍ、深さ28㎝で、底面の標高は3.49ｍを測る。主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。

出土遺物（図40）

遺物はかわらけ２点、陶器９点、木製品19点が出土し、このうち10点を図示した。

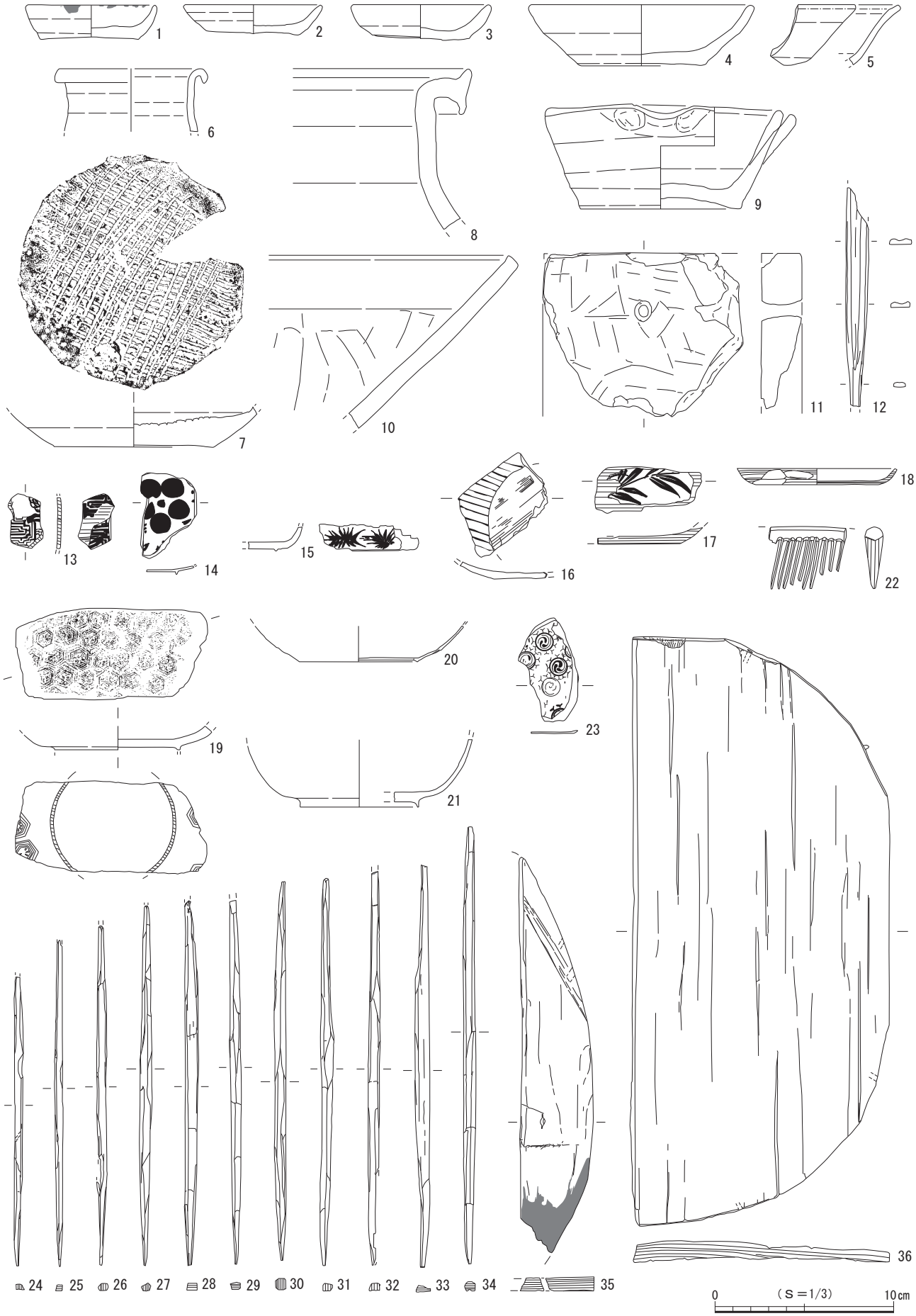


図38　第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物（１）

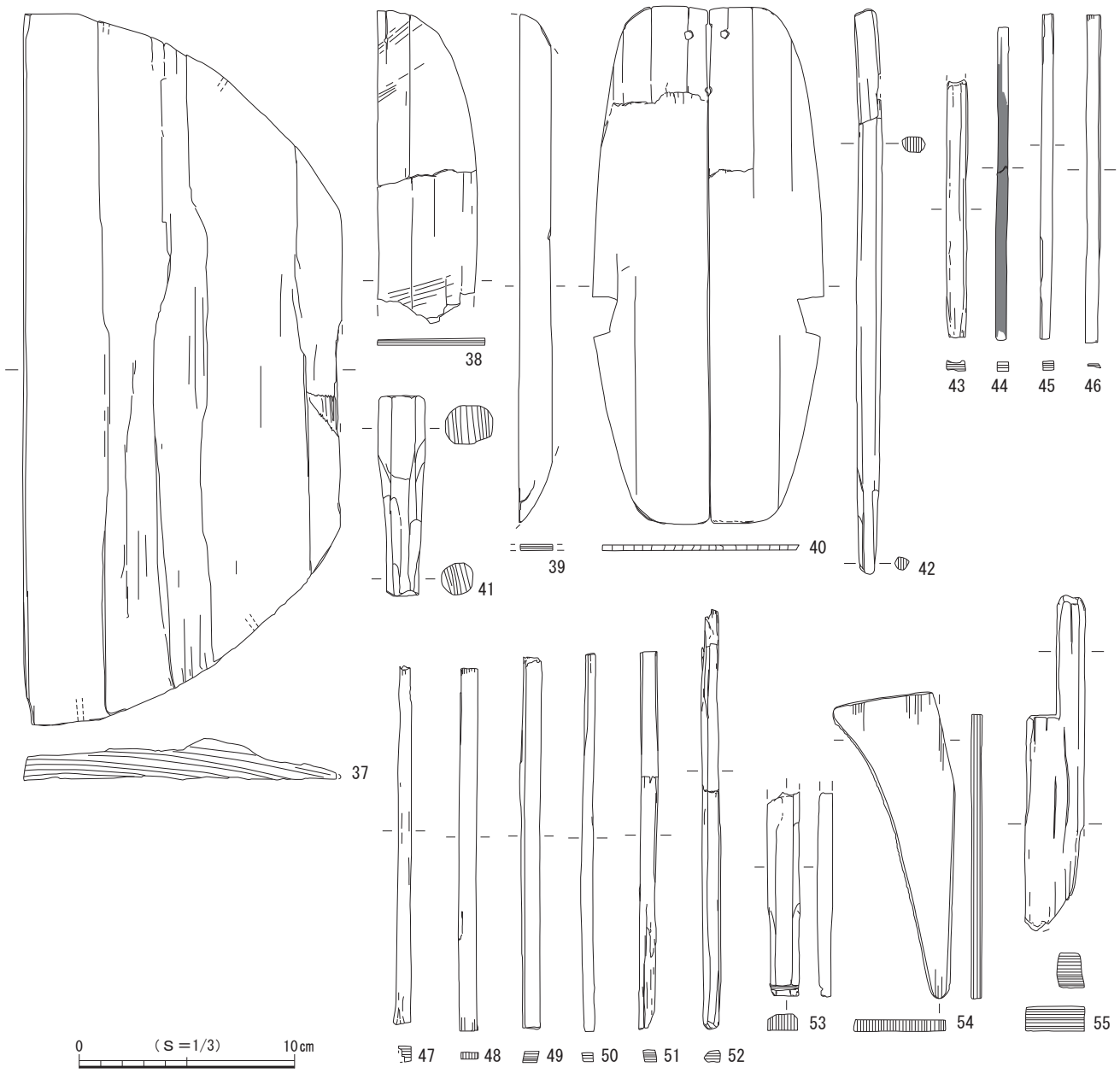


図39　第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物（２）

１はロクロ成形によるかわらけである。２～10は木製品である。２～６は箸状、７は笄、８・９は草履芯、10は棒状である。

方形竪穴状遺構６（図37）

調査区の南西側に位置する。北側で溝状遺構５と重複して壊し、西側で井戸１と重複して壁と底面の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。底面は東から西に向かってわずかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、西壁は大きく開く。規模は南北現存長１.40m、東西現存長2.26m、深さ44㎝で、底面の標高は3.3mを測る。主軸方位はＮ－55°－Ｗを指す。

出土遺物（図41）

遺物はかわらけ19点、磁器３点、陶器15点、木製品10点が出土し、このうち９点を図示した。

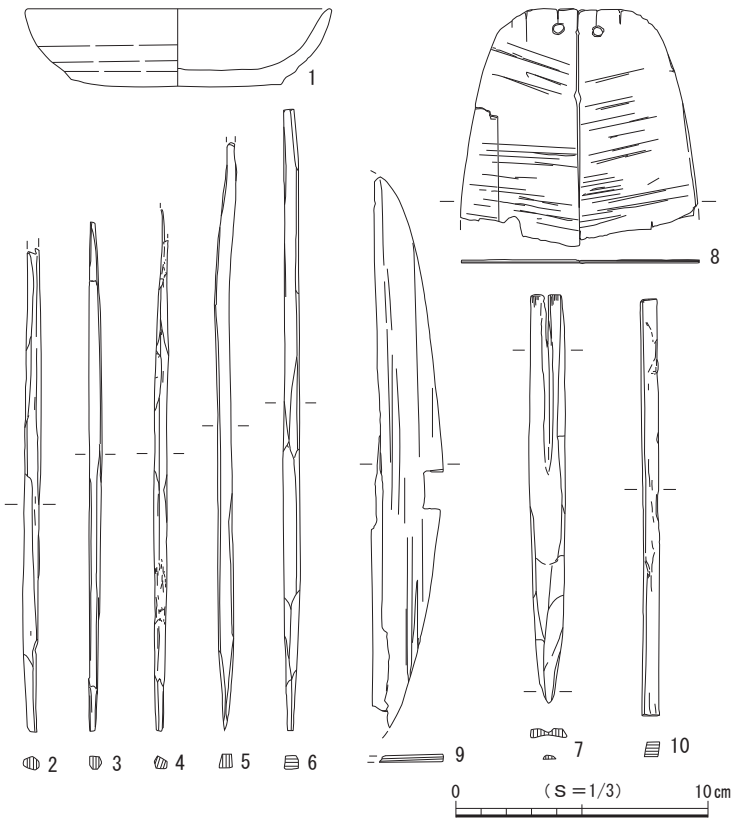


図40　第３面 方形竪穴状遺構５出土遺物

１～９は木製品である。１～３は箸状、４・５は草履芯、６は火きり棒、７～９は棒状である。

方形竪穴状遺構７（図37）

調査区北壁際の東側に位置する。西側で土坑37と重複して壊し、西側で板壁建物１のＰ２、南側でＰ３と重複して壁と底面の一部が壊されている。北側が調査区外へと続いており南壁付近のみを検出した。底面は西から東に向かってごくわずかに傾斜しており、壁は開いて立ち上がる。南西側にテラス状の小さな低い段が認められる。規模は南北現存長81㎝、東西現存長2.08ｍ、深さ24㎝で、底面の標高は3.44ｍを測る。主軸方位はＮ－67°－Ｗを指す。

出土遺物（図42）

遺物はかわらけ16点、磁器１点、陶器４点、木製品１点が出土し、このうち４点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけで、２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。３は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅰ－４類に比定される。４は木製品の連歯下駄である。

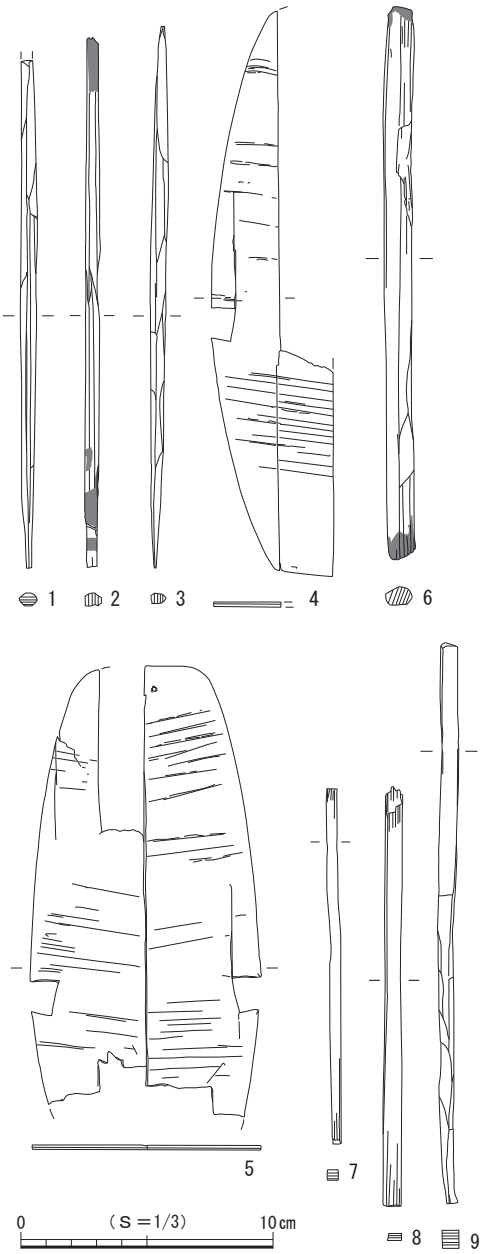


図41　第３面 方形竪穴状遺構６出土遺物

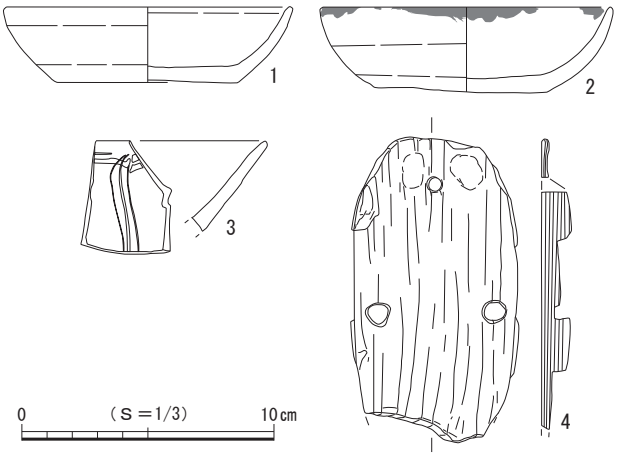


図42　第３面 方形竪穴状遺構７出土遺物

方形竪穴状遺構８（図37）

調査区南壁際の東側に位置する。北側で土坑39、ピット82と重複して壊し、西側で板壁建物１のＰ10と重複して壊される。南側が調査区外側に続いており全容を把握できなかった。底面は西から東に向かってごくわずかに傾斜しており、壁は大きく開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.07ｍ、東西1.34ｍ、深さ22㎝で、底面の標高は3.40ｍを測る。主軸方位はＮ－27°－Ｅを指す。

出土遺物（図43）

遺物はかわらけ60点、磁器６点、陶器21点が出土し、このうち８点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけである。５は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。６は青白磁の小皿である。７・８は常滑産の陶器類である。７は常滑産の甕で５～６ａ型式、８は片口鉢Ⅱ類で６ａ型式に比定される。

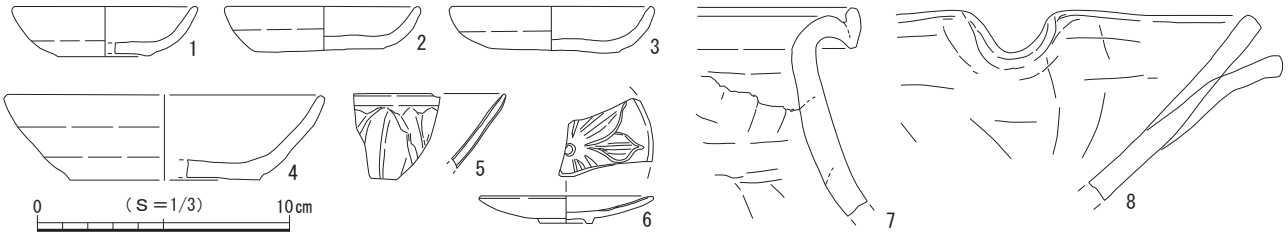


図43　第３面 方形竪穴状遺構８出土遺物

（３）溝状遺構

溝状遺構５（図44）

調査区の西側に位置する。北側で方形竪穴状遺構５、南側で方形竪穴状遺構６と重複して壊され、ごく一部が残存するのみであった。検出した規模は現存長約50㎝、幅50～60㎝、深さ26㎝で、主軸方位はＮ－30°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は3.40ｍを測る。東側に隣接する礎板建物１の方位軸と同じで、関連をもつ可能性も考えられる。

遺物はかわらけ１点、陶器９点が出土した。

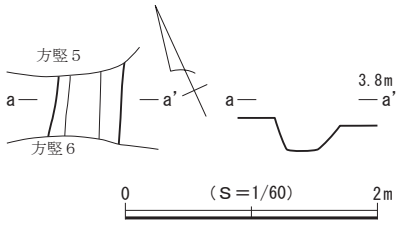


図44　第３面 溝状遺構５

（４）井　戸

井戸１（図45）

調査区の南西隅に位置する。東側で方形竪穴状遺構６と重複して壁と底面の一部を壊している。開口部の平面形は略楕円形を呈し、確認面から90㎝下方では円形の掘り込みとなる。壁は井戸底から30㎝ほどは垂直に立ち上がり、そこから開いて立ち上がる。井戸枠は検出されなかった。規模は開口部で長軸1.24ｍ、短軸84㎝、円形の掘り方は長軸63㎝、短軸55㎝で、確認面からの深さは1.25ｍを測る。主軸方位はＮ－53°－Ｗを指す。

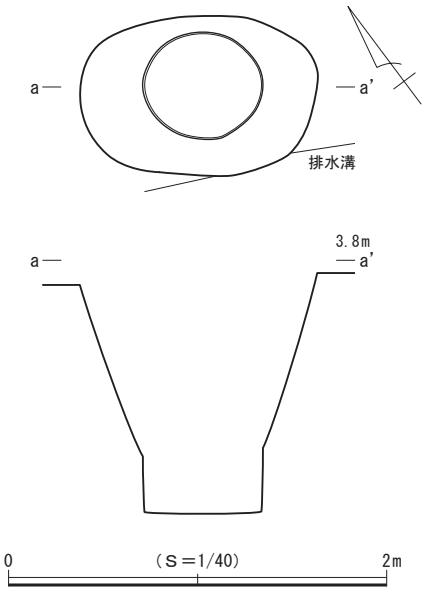


図45　第３面 井戸１

出土遺物（図46）

遺物はかわらけ４点、陶器１点、木製品８点が出土し、このうち８点を図示した。

１～８は木製品である。１～６は箸状、７は串状、８は草履芯である。

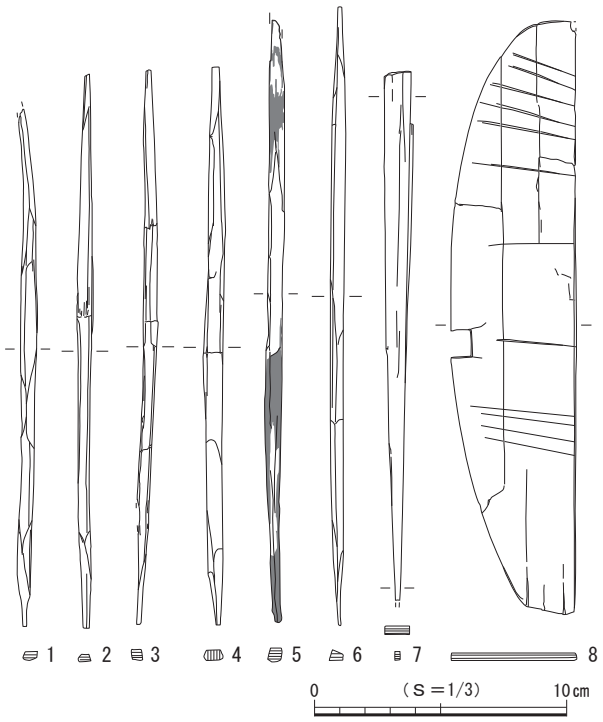


図46　第３面 井戸１出土遺物

（５）土　坑

土坑34（図49）

調査区の東端に位置する。西側で方形竪穴状遺構３と重複して壁の上面が壊され、本址の大半が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長45㎝、東西現存長93㎝、深さ26㎝で、坑底面の標高は3.31ｍを測る。

遺物はかわらけ２点、陶器１点が出土した。

土坑35（図49）

調査区東側に位置する。方形竪穴状遺構４、西側で土坑36と重複して壁の上面が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整円形で、底面は南側から北側に向かってごくわずかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸96㎝、短軸83㎝、深さ12㎝で、坑底面の標高は3.04ｍを測る。

出土遺物（図47）

遺物はかわらけ８点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

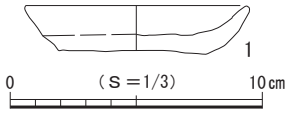


図47　第３面 土坑35出土遺物

土坑36（図49）

調査区の東側に位置する。東側で土坑35と重複して壊し、板壁建物１と方形竪穴状遺構４に壁の上面が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.07ｍ、短軸80㎝、深さ18㎝で、坑底面の標高は3.45ｍを測る。主軸方位はＮ－47°－Ｗを指す。

出土遺物（図48）

遺物はかわらけ５点、磁器１点、陶器５点、瓦１点、木製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は漆製品の椀である。

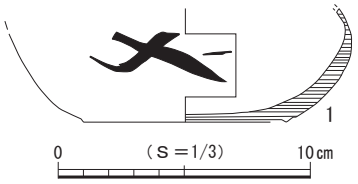


図48　第３面 土坑36出土遺物

土坑37（図49）

調査区北壁際の東側に位置する。壁の上面を方形竪穴状遺構７によって壊され、北側が調査区外へと

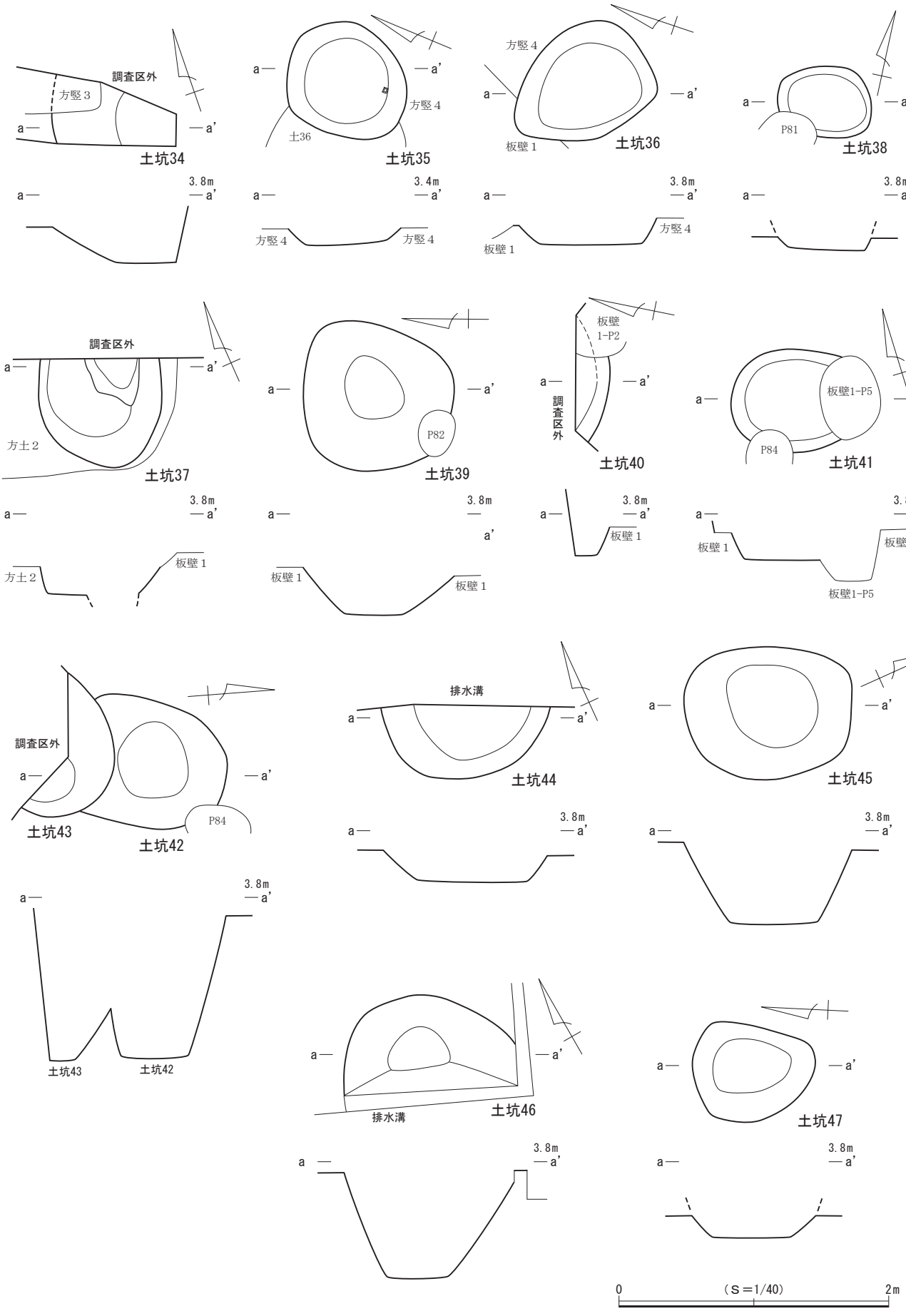


図49　第３面 土坑34～47

続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長79㎝、短軸90㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は3.21ｍを測る。主軸方位はＮ－23°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土した。

土坑38（図49）

調査区の東側に位置する。板壁建物１と重複して壊し、南側でピット81と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略楕円形を呈し、底面は西から東に向かってわずかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69㎝、短軸52㎝、深さ９㎝で、坑底面の標高は3.39ｍを測る。主軸方位はＮ－79°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ２点が出土した。

土坑39（図49）

調査区の東側に位置する。板壁建物１と方形竪穴状遺構８、ピット81・82に壁の上面を壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は直径1.11ｍ、深さ35㎝で、坑底面の標高は3.06ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑40（図49）

調査区北壁際の中央付近に位置する。東側で板壁建物１のＰ２に壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形は判然としない。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形と推定され、規模は南北現存長25㎝、東西現存長85㎝、深さ21㎝である。坑底面の標高は3.51ｍを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑41（図49）

調査区中央の東側に位置する。東側で板壁建物１のＰ５、南側でピット84と重複して壁と底面の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長68㎝、短軸76㎝、深さ20㎝で、坑底面の標高は3.47ｍを測る。主軸方位はＮ－73°－Ｗを指す。

出土遺物（図50）

遺物はかわらけ21点、陶器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。

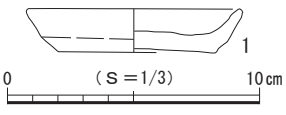


図50　第３面 土坑41出土遺物

土坑42（図49）

調査区南壁際の中央東側に位置する。北側でピット84、南側で土坑43と重複して壁の一部が壊され、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長85㎝、短軸92㎝、深さ1.05ｍで、坑底面の標高は2.61ｍを測る。主軸方位はＮ－19°－Ｅを指す。

出土遺物（図51）

遺物はかわらけ２点、木製品２点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２は木製品で、１は椀、２は篦である。

土坑43（図49）

調査区南壁際の中央東側に位置する。板壁建物１、土坑42と重複して壊し、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形と推定される。規模は北東－南西方向の現存長90㎝、北西－南東方向の現存長86㎝、深さ1.08ｍで、坑底面の標高は2.61ｍを測る。主軸方位はＮ－60°－Ｅを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

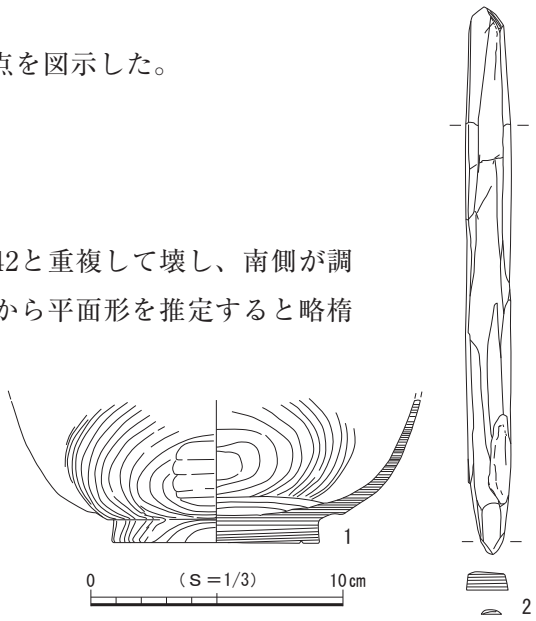


図51　第３面 土坑42出土遺物

土坑44（図49）

調査区北壁際の中央に位置する。板壁建物１と重複して壁の上面が壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長54㎝、東西現存長1.25m、深さ24㎝で、坑底面の標高は3.43ｍを測る。

遺物はかわらけ５点、陶器２点、土師質・瓦質土器１点が出土した。

土坑45（図49）

調査区の中央に位置する。板壁建物１と重複して壁の上面が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.23ｍ、短軸98㎝、深さ61㎝で、坑底面の標高は3.11ｍを測る。主軸方位はＮ－25°－Ｅを指す。

出土遺物（図52）

遺物はかわらけ36点、陶器８点、須恵器１点、木製品10点が出土し、このうち10点を図示した。

１～10は木製品である。１～６は箸状、７は下駄、８～10は串状である。

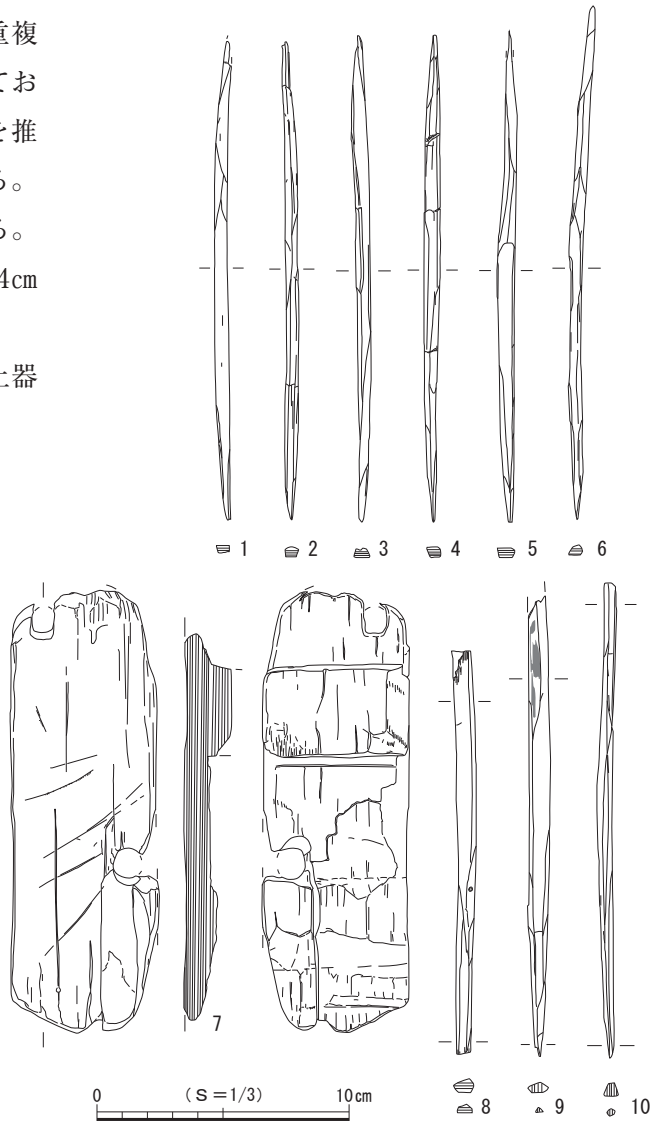


図52　第３面 土坑45出土遺物

土坑46（図49）

調査区南壁際の中央に位置する。礎板建物１のＰ17と重複して壊し、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形ないし略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長80㎝、東西現存長1.28ｍ、深さ84㎝で、坑底面の標高は2.94ｍを測る。

遺物はかわらけ12点、陶器４点、須恵器１点が出土した。

土坑47（図49）

調査区西側に位置する。板壁建物１の板壁を壊して作られていた。平面形は不整楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸90㎝、短軸71㎝、深さ16㎝で、坑底面の標高は3.24ｍを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。

遺物はかわらけ４点、陶器２点が出土した。

（６）ピット

第３面では、16基を検出した。調査区西側と板壁建物１の範囲を中心に疎らに分布し、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形がみられ、規模は長軸29～49㎝、深さ６～37㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

出土遺物（図53）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表６）に掲げたが、このうち１点を図示した。

１はピット89から出土した常滑産の鳶口壺である。

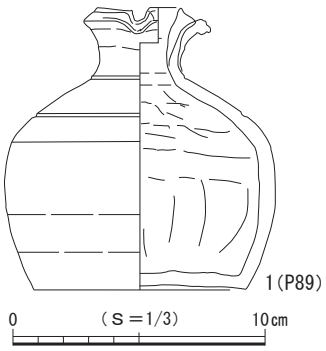


図53　第３面 ピット出土遺物

（７）第３面 遺構外出土遺物（図54 ～ 56）

第３面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち70点を図示した。

１～18はロクロ成形によるかわらけ、19は手づくね成形によるかわらけで、１の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。20は瀬戸産の柄付片口で古瀬戸中期様式Ⅳ期に比定さ

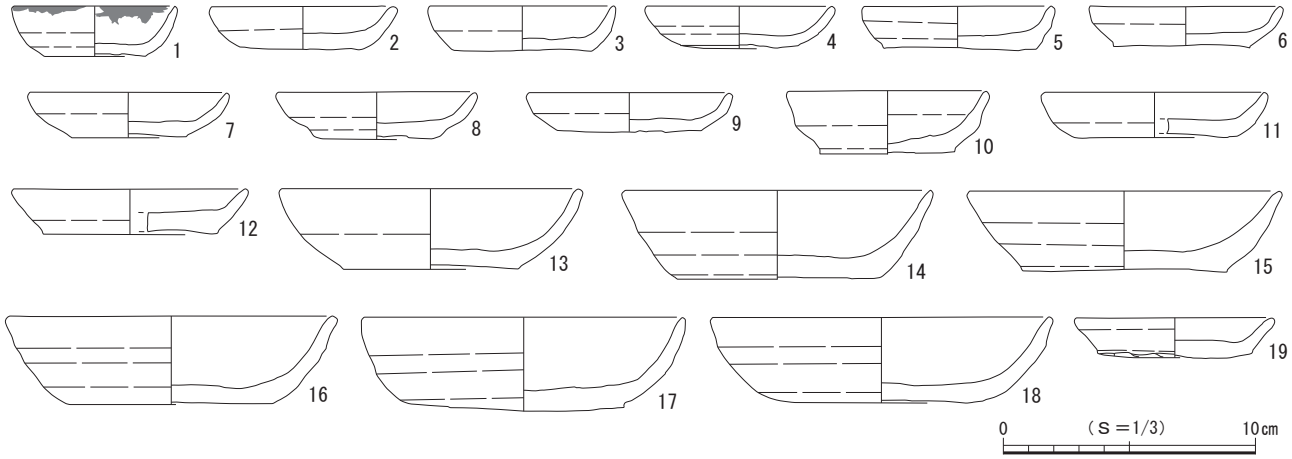


図54　第３面 遺構外出土遺物（１）

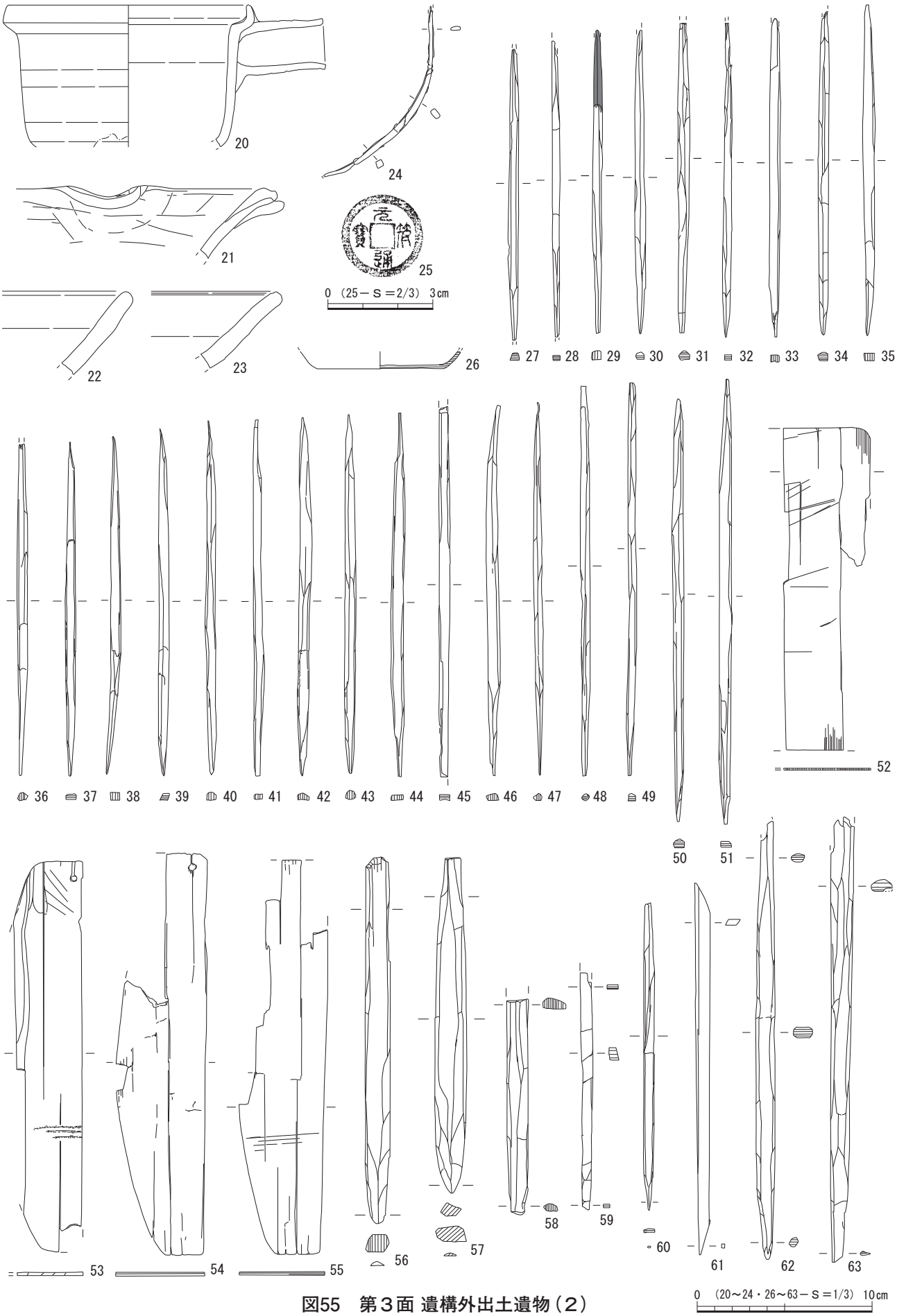


図55　第３面 遺構外出土遺物（２）

れる。21は渥美産の片口鉢で２ｂ型式に分類される。22・23は常滑産の片口鉢Ⅰ類である。24・25は金属製品である。24は釘、25は銭貨で元符通寶（1098年初鋳）である。

26～70は木製品で、26は漆製品となる。26は皿、27～51は箸状、52は折敷、53～55は草履芯、56・57は篦、58～63は串状、64～67は棒状、68は円盤状、69・70は用途不明である。

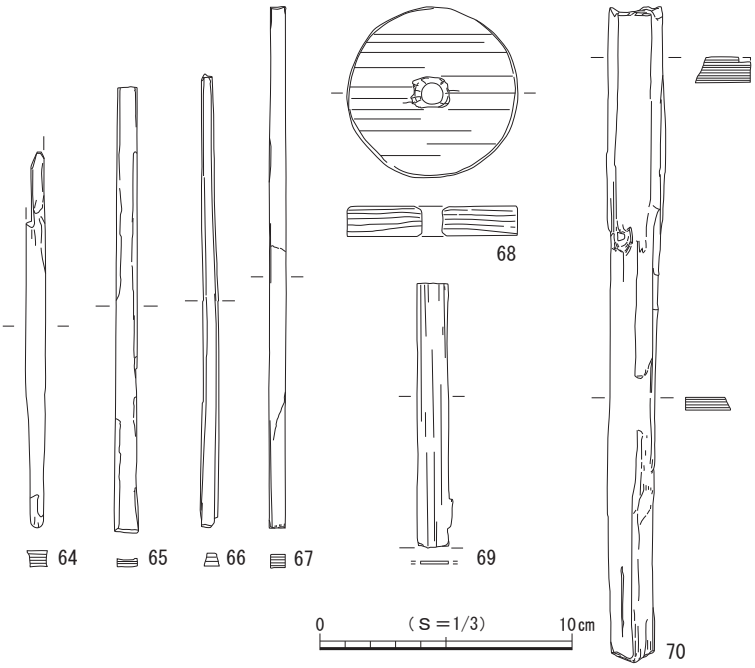


図56　第３面 遺構外出土遺物（３）

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の21・22層上面で検出した。確認面の標高は約3.2mを測る。21層は微量の泥岩粒、多量の粗砂を含み非常に締まりの強い青灰色粘質土層、22層は細かい砂粒を主体として多量の貝片を含みやや締まりのある暗茶色砂層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構２条で、調査区の東西に１ヵ所ずつ設定したトレンチ状の調査範囲から東西および南北方向に延伸して確認された（図57）。

遺物は主にかわらけ、須恵器などが出土しているが、遺物量は少なく時期を特定することは困難である。従って上面となる第３面の年代観13世紀中葉以前に属すると考えられる。なお、遺構外からは須恵器の甕および坏片が少数出土している。

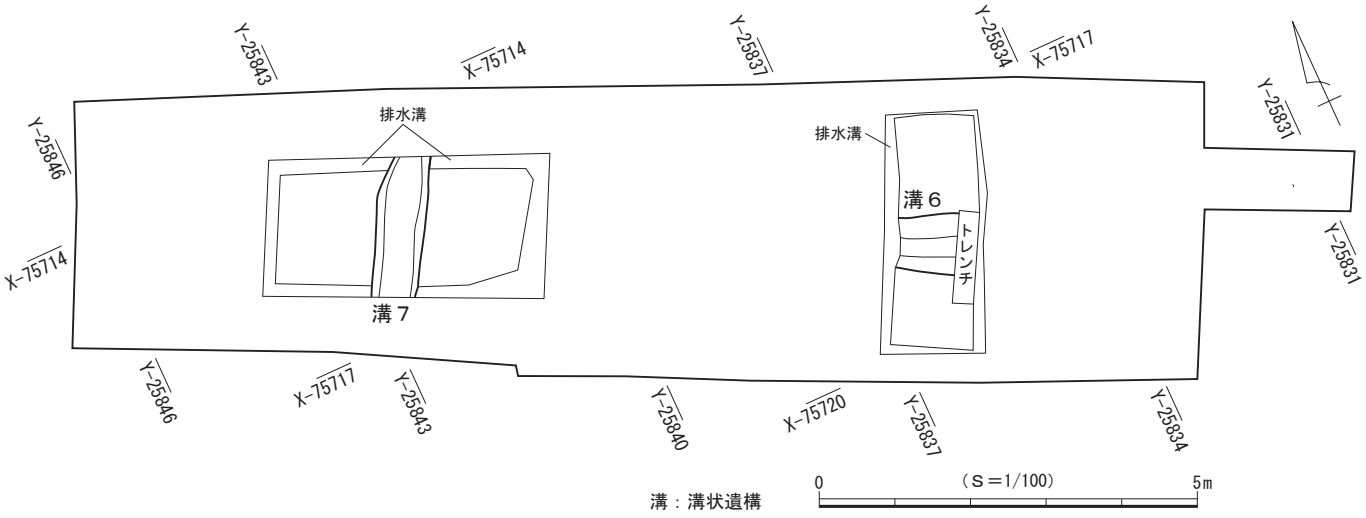


図57　第４面 遺構分布図

（１）溝状遺構

溝状遺構６（図58）

調査区の東側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。南北方向に長い調査範囲の中央を東西方向に横断し範囲外へと延びるが、西側の調査範囲からは本址の続きと考えられる遺構は検出されておらず、その東側に端部が収まると推定される。検出した規模は現存長約80㎝、幅80㎝、深さ22㎝で、主軸方位はＮ－65°－Ｗを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は2.80ｍを測る。東側に位置する溝状遺構７と直交する向きで延伸し、関連をもつ可能性も考えられる。

遺物は出土しなかった。

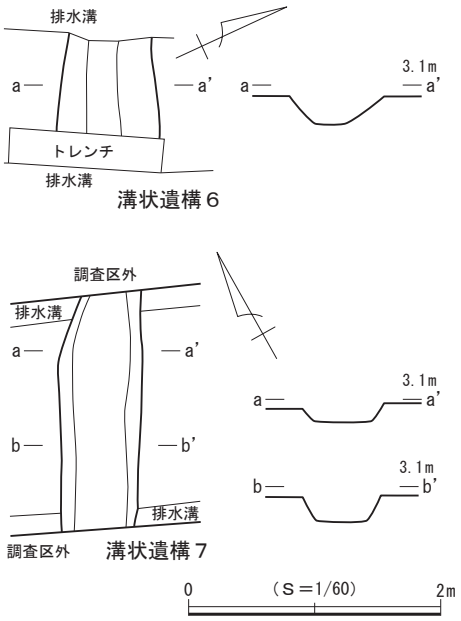


図58　第４面 溝状遺構６・７

溝状遺構７（図58）

調査区の西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。東西方向に長い調査範囲の中央を南北方向に縦断し範囲外へと延びる。検出した規模は現存長約1.9ｍ、幅50～70㎝、深さ10～21㎝で、主軸方位はＮ－30°－Ｅを指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北側で2.94ｍ、南側で2.84ｍを測る。西側に位置する溝状遺構６と直交する向きで延伸し、関連をもつ可能性も考えられる。

遺物は出土しなかった。

第四章　自然科学分析

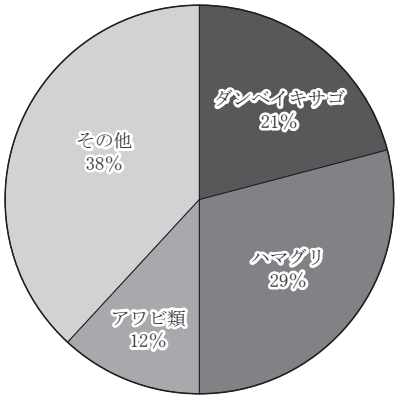
若宮大路周辺遺跡群御成町773番２地点出土の動物遺体について

中村　若枝

付表１　検出された動物遺体の種名表

軟体動物門 Phylum MULLUSCA	腹足綱 Class Gastropoda	原始腹足目 Order Archaeogastropoda	ミミガイ科 Family Haliotidae	マダカアワビ *Haliotis madaka*
				クロアワビ *Haliotis discus*
				メカイアワビ *Haliotis gigantea*
			ニシキウズガイ科 Family Trochidae	クボガイ *Chlorostoma lischkei*
				コシダカガンガラ *Omphalius rusticus*
				バテイラ *Omphalius pfeifferi pfeifferi*
				イボキサゴ *Umbonium moniliferum*
				ダンベイキサゴ *Umbonium giganteum*
			サザエ科 Family Turbinidae	サザエ *Turbo sazae*
			オオヘビガイ科 Family Vermetidae	オオヘビガイ *Serpulorbis imbricatus*
			タマガイ科 Family Naticidae	ツメタガイ *Glossaulax didyma*
				ホソヤツメタ *Glossaulax didyma hosoyai*
		中腹足目 Order Mesogastropoda	ウミニナ科 Family Batillariidae	イボウミニナ *Batillaria multiformis*
			フジツガイ科 Family Cymatiidae	カコボラ *Cymatium parthenopeum*
		新腹足目 Order Neogastropoda	アッキガイ科 Family Muricidae	アカニシ *Rapana venosa*
			エゾバイ科 Family Buccinidae	バイ *Babylonia japonica*
		腸紐目 Order Entomoenata	トウガタガイ科 Family Pyramidellidae	ヒメゴウナ *Monotygma eximia*
	二枚貝綱 Class Pelecypoda	フネガイ目 Order Arcoida	フネガイ科 Family Arcidae	サルボウ *Scapharca kagoshimensis*
				ハイガイ *Tegillarca granosa*
				サトウガイ *Anadara broughtomii*
		カキ目 Order Veneroida	イタボガキ科 Family Ostreida	マガキ *Crassostrea gigas*
		マルスダレガイ目 Order Veneroida	バカガイ科 Family Mactridae	シオフキ *Mactra veneriformis*
			シジミ科 Family Corbiculidae	ヤマトシジミ *Corbicula japonica*
			マルスダレガイ科 Family Veneridae	ハマグリ *Meretorx Lusoria*
				チョウセンハマグリ *Meretorx lamarckii*
				ウチムラサキ *Saxidomus purpurata*
				オニアサリ *Notochione jedoensis*
				シラオガイ *Circe scripta*
脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA	条鰭綱 Class Actinopterygii	スズキ目 Order Perciformes	タイ科 Family Sparidae	タイ科の一種 *Sparidae sp. Indent.*
			サバ科 Family Scombridae	カツオ *Katsuwonus pelamis*
	鳥綱 Class Aves	キジ目 Order Galliformes	キジ科 Family Phasianidae	ニワトリ *Gallus gallus domesticus*
	哺乳綱 Class Mammalia	ウシ目 Order Artiodactyla	イノシシ科 Family Suidae	イノシシ *sus scrofa*
			シカ科 Family Cervidae	ニホンジカ *Cervus nippon*

若宮大路周辺遺跡群
御成町773番２地点
貝類
総数＝414



付図１　出土貝類の組成

付表２　出土動物遺体一覧

遺構名	貝類	魚類	鳥類	獣類
第１面 方形竪穴状遺構２	メカイアワビ(1穿孔1あり)			
第１面 ピット63	アカニシ(1軸部分のみ)			
第１面 遺構外	メカイアワビ(1チョーク化)、サザエ(蓋1)、ホソヤツメタ(1)、アカニシ(3軸のみ)ハマグリ(L1R2)			
第１面 構成土	ダンベイキサゴ(1)、サザエ(蓋1)、ホソヤツメタ(2)、アカニシ(1)、ハイガイ(L1)、ハマグリ(破片)			
第３面 方形竪穴状遺構６	マダカアワビ(1)、クロアワビ(2)、ダンベイキサゴ(3)，ホソヤツメタ(1)、アカニシ(7打割)、ハマグリ(L3R4)、チョウセンハマグリ(L1R1)			
第３面 板壁建物１	マダカアワビ(1)、クロアワビ(1)、メカイアワビ(1)、イボキサゴ(14)、ダンベイキサゴ(13)、サザエ(3蓋4)、ホソヤツメタ(1)、ウミニナ(1)、アカニシ(6)、バイ(3)、マガキ(L1)、サルボウ(L1)、サトウガイ(R1)、シオフキ(L1)、ヤマトシジミ(L2R3)、ハマグリ(L17R20)			イノシシ：尺骨(L1) 骨頭はずれ・若い
第３面 板壁建物１－Ｐ４	ハマグリ(R1)			
第３面 板壁建物１－P14	イボキサゴ(2)、ダンベイキサゴ(7)、ハマグリ(L9R9)			
第３面 板壁建物１－P26	サザエ(1)			
第３面 方形竪穴状遺構７	メカイアワビ(1)、サザエ(1)、アカニシ(1)、サルボウ(R1)、ハマグリ(L2R5)			
第３面 土坑34	メカイアワビ(1穿孔3)　アカニシ(4)、ハマグリ(L5R3)			
第３面 土坑41	メカイアワビ(1切痕)、クロアワビ(2)、サザエ(蓋1)、ハマグリ(L1)			
第３面 土坑45	クロアワビ(1)、イボキサゴ(1)、ダンベイキサゴ(2)、ホソヤツメタ(1)、アカニシ(2)、バイ(1)、ハマグリ(L11R6)、			
第３面 土坑46	クロアワビ(1穿孔1)、ダンベイキサゴ(2)、サザエ(3)、アカニシ(1)、バイ(1)、ハマグリ(L2)、チョウセンハマグリ(R2)			
第３面 遺構外	マダカアワビ(1)、メカイアワビ(破片)、クロアワビ(5)、クボガイ(1)、コシダカガンガラ(2)、バテイラ(1)、イボキサゴ(3)、ダンベイキサゴ(36)、サザエ(9蓋7)、オオヘビガイ(1)、ツメタガイ(1)、ホソヤツメタ(6)、カコボラ(1)、アカニシ(22打割)、バイ(11)、ヒメゴウナ(2)、シオフキ(L1)、ヤマトシジミ(L2R2)、ハマグリ(L37R16)、チョウセンハマグリ(R4)、ウチムラキ(L1)、オニアサリ(L1)、シラオガイ(L1R1)	タイ科：尾椎(1) カツオ：腹椎(1)	ニワトリ：上腕骨(L1)、大腿骨(L1近位端～)	イノシシ：肩甲骨（R1)、 シカ：肋骨(2)

付表３　出土動物遺体写真図版対応表（写真１～６）

№.	種名	部位	左右	出土遺構	備考
1	マダカアワビ			第３面 板壁建物１	
2	クロアワビ			第３面 土坑41	
3	メカイアワビ			第３面 遺構外	
4	クボガイ			第３面 遺構外	
5	コシダカガンガラ			第３面 遺構外	２点
6	バテイラ			第３面 遺構外	
7	イボキサゴ			第３面 遺構外	
8	ダンベイキサゴ			第３面 遺構外	
9	サザエ　ふた			第３面 遺構外	
10	オオヘビガイ			第３面 遺構外	
11	ツメタガイ			第３面 遺構外	
12	ホソヤツメタ			第３面 遺構外	
13	イボウミニナ			第３面 板壁建物１	
14	カコボラ			第３面 遺構外	
15	アカニシ			第３面 遺構外	
16	バイ			第３面 遺構外	
17	ヒメゴウナ			第３面 遺構外	２点
18	サルボウ		左	第３面 板壁建物１	
19	サトウガイ		右	第３面 方形土坑２	
20	マガキ		左	第３面 遺構外	

№.	種名	部位	左右	出土遺構	備考
21	シオフキ		左	第３面 遺構外	
22	ヤマトシジミ		左	第３面 遺構外	
23	ハマグリ		左	第３面 遺構外	
24	チョウセンハマグリ		右	第３面 方形竪穴６	
25	ウチムラサキ		左	第３面 遺構外	幼体
26	オニアサリ		左	第３面 遺構外	
27	シラオガイ		右	第３面 遺構外	
28	タイ科	尾椎		第３面 遺構外	
29	タイ科	ウロコ		第３面 遺構外	
30	カツオ	腹椎		第３面 遺構外	
31	イノシシ	肩甲骨	右	第３面 遺構外	
32	イノシシ	尺骨	左	第３面 板壁建物１	
33	アカニシ			第３面 方形竪穴６	打割 ５点
34	メカイアワビ			第３面 土坑34	穿孔
35	メカイアワビ			第３面 板壁建物１	切痕
36	メカイアワビ			第３面 板壁建物１	穿孔
37	クロアワビ			第３面 土坑46	穿孔
38	マダカアワビ			第３面 土坑41	切痕
39	マダカアワビ			第３面 方形竪穴６	穿孔
40	メカイアワビ			第２面 遺構外	風化

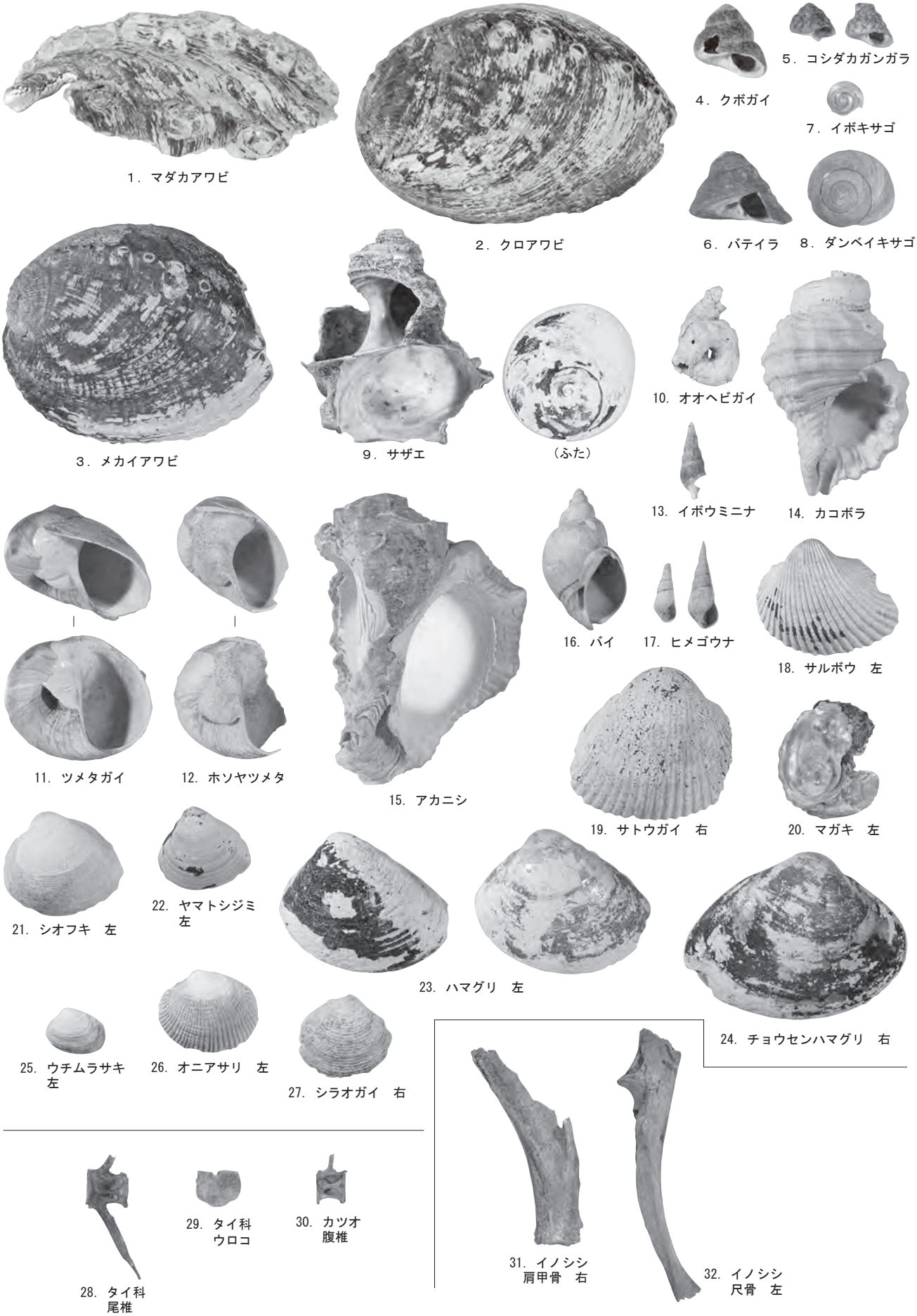
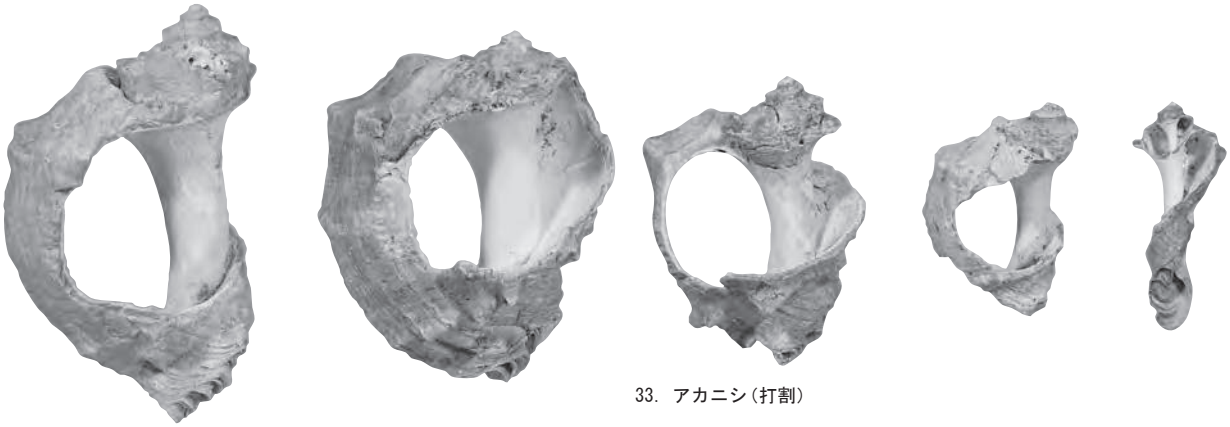

1．マダカアワビ
2．クロアワビ
3．メカイアワビ
4．クボガイ
5．コシダカガンガラ
6．バテイラ
7．イボキサゴ
8．ダンベイキサゴ
9．サザエ
（ふた）
10．オオヘビガイ
11．ツメタガイ
12．ホソヤツメタ
13．イボウミニナ
14．カコボラ
15．アカニシ
16．バイ
17．ヒメゴウナ
18．サルボウ　左
19．サトウガイ　右
20．マガキ　左
21．シオフキ　左
22．ヤマトシジミ
左
23．ハマグリ　左
24．チョウセンハマグリ　右
25．ウチムラサキ
左
26．オニアサリ　左
27．シラオガイ　右
28．タイ科
尾椎
29．タイ科
ウロコ
30．カツオ
腹椎
31．イノシシ
肩甲骨　右
32．イノシシ
尺骨　左

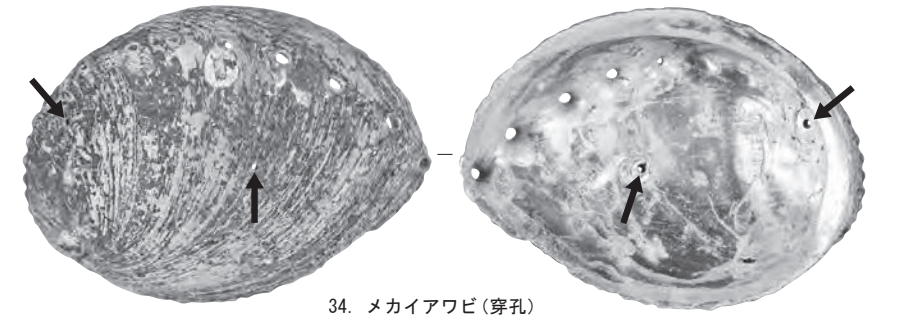
写真１　出土動物遺体（１）



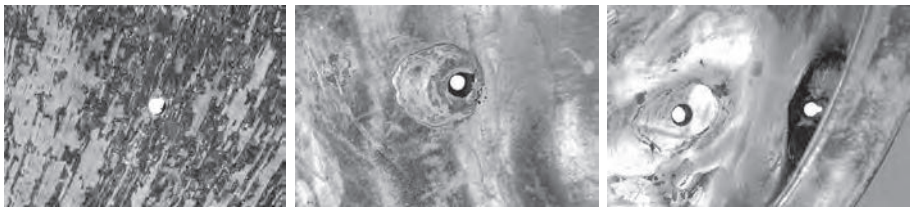
33. アカニシ（打割）

写真２　出土動物遺体（２）

33アカニシ（写真２）は、打ち欠いた跡があり、完存するのは小型な貝に限られる。アカニシの殻は厚く固いので生きているものを抜き出すのは難しい。刺身にする場合は、金槌などで殻を割って取り出す方が確実であるという記事を目にした。岡山県朝口市寄島町では、金槌で打割り身を取り出す調理方法の動画を配信している。殻口を下にまな板の上に置き、金槌を振り下ろすと、殻にヒビが入る。さらに殻軸の端を手で押さえ、回転させながら打ち続けると殻軸だけになり、数分で身が取り出せる。若宮大路の事例も、刺身用に取り出すために打ち欠いたものと推定される。刺身で食べる習慣は古く、万葉集にはタイの刺身を題材にした歌が詠まれているという（芝2012）。もっとも、文献に登場するのを待つまでもなく、魚や貝は縄文時代から食材として身近にあったものである。アワビ・サザエに劣らないとされるアカニシの味は、鎌倉の人々の食文化にも彩を添えていたことであろう。



34. メカイアワビ（穿孔）



穿孔部アップ　外側　　穿孔部アップ　内側

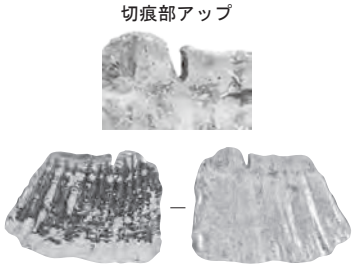
写真３　出土動物遺体（３）

34メカイアワビ（写真３）には、３ヵ所に径３㎜の穿孔が認められた。山口県では魔除けのため軒下に下げる民俗事例（伊藤1981）があるが、本標本には紐スレの跡はみられない。また、タコが小さい穴をあけ、そこから唾液を注入しマヒさせ摂餌することがあるようだ（小島 1988）。本標本は、内面の径の方が外側よりわずかに大きく、内面から開けており、アワビの身を除去後、穿孔したと推定される。奇妙なのは、孔の周囲（14×12㎜内外）に、再生した真珠層がパール光沢を放っていることである。貝殻

の内側から穴をあけているとすると、貝はすでに死んでいる。そのような状態で増殖するのであろうか。矢野（1989）によれば、『和漢三才図絵』を引用し、細工により仏像や念仏題目などを浮かびあがらせることができるとある。「漆で描き、アワビの孔を蠟でふさぎ、良く乾燥させた後酢を入れる。20日ほどおいて洗うと、ウルシのついていた部分が盛り上がっている。」という。穴の側面を観察すると黒漆かどうかは不明だが、黒いものが付着しているが盛り上がりは観察できない。また酢を入れる際、この穴もふさぐ必要がある。孔が人為的なものか否かを含め、類例を待ち検討を重ねたい。

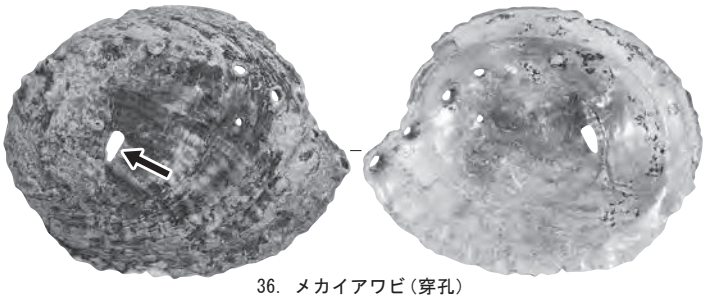
35（写真４）は、板状に切り取った鮑の破片に、さらに切り込みを加えようとしたものである。虹色光沢を持った真珠層をはめ込む螺鈿細工用の素材なのであろう。鎌倉時代には、馬具の装飾として人気があった。

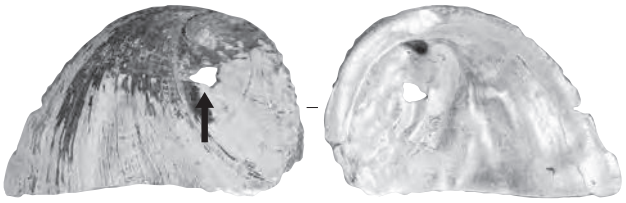
37（写真５）は、見突き漁による穿孔と推定される。貝殻に残された痕跡から、当時の生活の一端が垣間見られる。

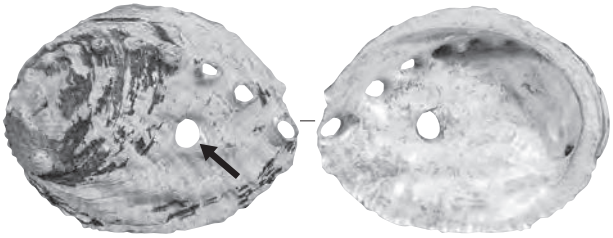


35. メカイアワビ（切痕）

写真４　出土動物遺体（４）
螺鈿細工用加工品


36. メカイアワビ（穿孔）


38. マダカアワビ（切痕）


37. クロアワビ（穿孔）

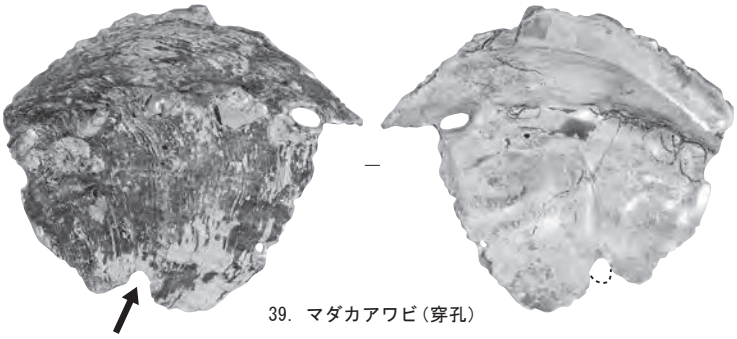

39. マダカアワビ（穿孔）

写真５　出土動物遺体（５）　貝突き漁によると推定される孔

引用・参考文献

伊藤　彰　1981『防長海辺の民俗』東洋図書出版

小島　博　1988「マダコのアワビ殻穿孔」『La mer』26:115－119　日仏海洋学会

芝　恒雄　2012「日本人と刺身」『水産大学校研究報告』60（３）

矢野憲一　1989『鮑（あわび）』ものと人間の文化史62　法政大学出版局

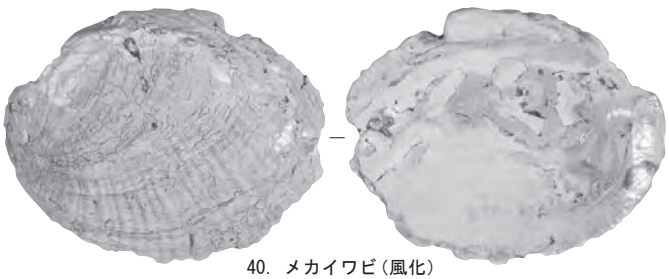

40. メカイワビ（風化）

写真６　出土動物遺体（６）

第五章　まとめ

今回報告する御成町773番２地点は、「若宮大路周辺遺跡群（№242）」の範囲内に所在する。本遺跡は鎌倉市街地の中心地区に位置し、「若宮大路」を挟んだ東西側に展開している。本地点は包蔵地範囲の南西側にあたり、若宮大路と今小路に挟まれた、ＪＲ鎌倉駅の南西方向約200ｍの場所に位置している。地形的には現在の海岸線から直線距離にして約1.7㎞の沖積低地上にあり、現地表面の標高は4.3ｍを測る。

今回の調査では、遺構確認面は第１～４面までの合計４面で、いずれも中世に属する。検出した遺構は方形竪穴状遺構８基、溝状遺構７条、板壁建物１棟、井戸１基、方形土坑１基、土坑47基、ピット94基で、出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して21箱を数える。

各面における主要な遺構についてみていくと、第１面（14世紀代）では方形竪穴状遺構と土坑があまり重複することなく分布していた。

第２面（13世紀後葉頃）では東西および南北方向の溝と土坑、ピット群が確認され、溝はＬ字状に延びるもの（溝状遺構３ａ・３ｂ）と南北方向に延びるもの（溝状遺構４）とが認められた。溝状遺構３ｂの壁際と底面上には打ち込まれた杭列が検出され、護岸施設や柵などを伴っているものと推定される。これらの溝は整った作りで、建物などの施設を区画する役割をもっていたと推測される。

第３面（13世紀中葉～後葉頃）からは板壁建物と方形竪穴状遺構、溝状遺構、井戸、土坑、ピットが検出され、このうち主要な遺構は板壁建物である。検出範囲での規模は南北現存長3.45ｍ、東西現存長8.45ｍを測り、形状からは南北方向に主軸をもつ大型の建物と考えられる。東西に長い調査区のために建物構造は一部を把握し得たのみであるが、東西両側の幅1.8～2.2ｍの範囲が一段低く掘り込まれ、中央の幅約4.3ｍの部分が高くなり、そこから床束柱と考えられる柱列が検出されている。また、西壁からは板壁が建物の内側に向かって倒壊した状態で出土し、遺存状態は非常に良好であった。この板壁は幅15㎝前後の羽目板を横板で固定したもので、中央と南側には幅約30㎝を測る幅広の板材が用いられていた。こうした検出状況から建物構造を推定すると、両側に通路ないし土間のような空間があり、中央に床を張った空間が広がる板壁によって囲まれた建物を想定することができる。なお、調査区東側から検出された方形竪穴状遺構は板壁建物と重複して壊されており、短い時間幅における新旧関係をもつ遺構と捉えられる。

最下面の第４面では２条の溝状遺構が直行する向きで検出されたが、調査面積が狭小なため遺跡の様相は判然としない。また、遺物が少なく年代を特定することが困難で、第３面の13世紀中葉～後葉という時期を手がかりとしてそれ以前と推定される。

第１面と第３面では動物遺体が多く出土遺物した。特に貝類が多く、その中には身を取り出すための敲打痕や打ち欠いた痕跡が観察されるアカニシ、貝突き漁を示す痕跡をもつマダカアワビ等が含まれており（第四章参照）、鎌倉時代の食生活を考える上で貴重な資料となった。

周辺の調査地点の様相については第一章第３節で触れたが、今小路に沿った場所に位置する各地点およびその東側に位置する調査地点では、13世紀前半～14世紀後半にかけての方形竪穴状遺構が多数検出されているが、本地点では密集する様相は捉えられなかった。今回の調査成果として特筆されるのは第３面の板壁建物で、良好な状態で残存する板壁や通路ないし土間空間に挟まれた床張りの建物は、13世紀中葉～後葉頃における町屋の様相を具体的に知る上で重要な資料を提示したといえる。なお、第１面から第４面にかけて、遺構の主軸方位は一貫して共通しており現在の地割まで引き継がれている。

引用・参考文献（著者五十音順）

大三輪龍彦・菊川英政・兼行佻枝　1998『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書　御成町788番３外地点』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団

菊川英政　1997「若宮大路周辺遺跡群－御成町788番３外地点－」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告13』平成８年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

木村美代治ほか　1992「７．若宮大路周辺遺跡群（№242）」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書８』平成３年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

木村美代治・菊川英政ほか　1993『若宮大路周辺遺跡群（御成町868番地）発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団

齋木秀雄・降矢順子　2011『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書－御成町763番５地点－』鎌倉遺跡調査会

降矢順子・齋木秀雄　2002『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書　第85地点』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団　鎌倉遺跡調査会

降矢順子・齋木秀雄・押木弘己　2009『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書　御成町783番１他４筆地点』有限会社 鎌倉遺跡調査会

宮田　眞・滝澤晶子　1999『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団

宮田　眞・森　健一郎　2017『若宮大路周辺遺跡群（№242）発掘調査報告書　鎌倉市御成町843番１地点』株式会社 博通

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
方形竪穴状遺構１出土遺物（図９）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	5.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	4.6	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロかわらけ・中	(11.7)	(6.2)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	1/2
土坑３出土遺物（図12）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	4.7	2.1	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4
土坑６出土遺物（図13）							
1	磁器	青磁碗	－	(6.0)	現2.5	内面－片彫蓮花文　畳付－無釉　色調：胎土－灰色、青磁釉－灰オリーブ色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ－２類	1/8
2	金属製品	銭貨	直径2.4	孔径0.8	厚0.1	銭名－紹聖元寶（北宋・1094）　書体－篆書	完形
土坑８出土遺物（図14）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	4.1	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
ピット出土遺物（図16）							
1	土器	ロクロかわらけ・中	11.3	7.2	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット５	略完形
2	陶器	常滑片口碗	－	－	現3.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：４型式　出土遺構：ピット５	口縁部小破片
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.5)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰褐色・褐灰色　焼成：良好　出土遺構：ピット６	1/2
4	土器	ロクロかわらけ・中	10.8	6.2	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット６	略完形
第１面 遺構外出土遺物（図17）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.6	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.7	4.5	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.9)	(4.3)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2

4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.8)	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明赤褐色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(7.6)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/8
6	陶器	瀬戸 入子	2.4	1.6	0.8	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－浅黄色　備考：古瀬戸中期様式	略完形
7	陶器	瀬戸 折縁小皿	(5.4)	(3.4)	1.9	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、鉄釉－褐色　備考：古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1/3
8	陶器	常滑 甕	－	－	現 2.3	胎土：白色粒、黒色粒　色調：灰色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
9	陶器	常滑 甕	－	－	現 2.5	胎土：白色粒、黒色粒、小石粒　色調：褐灰色・褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色	片口部 小破片
11	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
12	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.2	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：９型式	口縁部 小破片
13	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 6.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：８～９型式	口縁部 小破片
14	石製品	砥石	現長 6.9	現幅 3.8	厚 1.1	３面に使用痕跡　石材－粘板岩	1/2
15	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－至道元寶（北宋・995）　書体－行書	完形

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
溝状遺構２出土遺物（図19）							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	(6.2)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
2	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 5.7	胎土：微砂、小石粒　色調：暗赤褐色	口縁部 小破片
溝状遺構３ａ出土遺物（図21）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.6)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	7.0	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
3	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.2	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
4	漆製品	櫛	現長 7.3	現幅 4.2	現厚 0.2～1.2	全面－黒色漆糅漆　解き櫛　残存歯数16本	
溝状遺構３ｂ出土遺物（図22）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.6)	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.5)	1.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(4.3)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.4	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色・褐灰色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄褐色・褐灰色　焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.8)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄色 焼成：良好	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(8.6)	2.5	口縁部～体部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、小礫、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/7
8	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.6)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/6
9	陶器	渥美 甕	－	－	現 5.7	胎土：黒色粒　色調：褐灰色・暗灰色・黒褐色　備考：２ｂ型式	口縁部 小破片
10	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.4	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・褐灰色　備考：５型式	口縁部 小破片
11	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.7	胎土：小石粒　色調：灰褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
12	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(39.0)	－	現 12.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
溝状遺構４出土遺物（図23）							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.5	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.2	1.8	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.3)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	完形

7	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	7.0	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(7.0)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	8.4	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、小礫、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
11	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(8.4)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
12	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.2	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片

方形土坑１出土遺物（図25）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	5.2	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.3	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4

土坑17出土遺物（図26）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.6	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5
3	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	8.0	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
4	磁器	白磁 皿	(10.5)	－	現 3.2	口唇部－口兀　色調：胎土－白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	口縁部 小破片

土坑19出土遺物（図27）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.8)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
2	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.1	胎土：白色粒、小石粒　色調：褐色・暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片

土坑23出土遺物（図28）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.1	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	4/5

土坑24出土遺物（図29）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	8.0	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	5/6
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.4)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2

ピット出土遺物（図32）

1	陶器	常滑 甕	－	－	現 4.1	胎土：白色粒、黒色粒　色調：暗赤褐色　備考：６ｂ～７型式　出土遺構：ピット39	口縁部 小破片
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.1	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット41	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.8	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット43	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(8.0)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット43	2/3
5	磁器	青磁 皿	－	－	現 1.1	内面－櫛点描文　底面－釉を掻き取る　色調：胎土－灰白色、青磁釉－灰オリーブ色　備考：太宰府－同安窯系青磁皿Ⅰ－１ｂ類　出土遺構：ピット43	底部 小破片
6	金属 製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－隷書　出土遺構：ピット43	完形
7	金属 製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元豊通寶（北宋・1078）　書体－行書　出土遺構：ピット43	完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.8	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット48	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	8.0	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット48	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	8.0	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット48	2/3
11	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.3)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット48	1/3
12	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	11.1	現 5.6	胎土：白色粒、黒色粒、小石粒　色調：褐灰色　出土遺構：ピット48	1/5
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(4.3)	3.4	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット52	2/3
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.2	1.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好　出土遺構：ピット52	略完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット52	略完形
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰褐色　焼成：良好　出土遺構：ピット52	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット52	完形
18	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	(27.2)	(13.4)	12.0	胎土：微砂、白色粒、黒色粒、小石粒　色調：灰白色　備考：５～６ａ型式　出土遺構：ピット67	2/3

遺構外出土遺物（図33）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.2	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形

2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.4)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	5.4	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.4	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	4.5	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.2)	1.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.5	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	3/4
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.9	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	5.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	2/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	7.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい褐色　焼成：良好	2/3
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	5.8	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい褐色　焼成：良好	2/3
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.1)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい褐色　焼成：良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.0	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3
17	土器	ロクロ かわらけ・中	11.3	7.0	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	4/5
18	土器	ロクロ かわらけ・中	11.5	7.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：暗赤褐色　焼成：良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.4	3.6	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	完形
20	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.0)	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(7.9)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/3
22	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	7.0	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい褐色　焼成：良好	3/4
23	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	(7.9)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	2/3
24	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(7.0)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：明褐色　焼成：良好	1/4
25	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	8.1	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	完形
26	土器	手づくね かわらけ・極小	4.2	3.8	1.0	底面－指頭ナデ消し＋板状圧痕　内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、白色粒子、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
27	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	－	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	3/4
28	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.6	外面－劃花文　色調：胎土－黄灰色、青磁釉－オリーブ黄色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ－６ａ類	口縁部 小破片
29	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.1	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
30	磁器	青磁 碗	－	－	現 4.3	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
31	磁器	青磁 碗	－	(4.2)	現 2.2	畳付－無釉　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅲ類	底部 小破片
32	陶器	常滑 甕	－	－	現 5.6	胎土：白色粒、黒色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
33	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.2	胎土：白色粒、黒色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
34	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.4	胎土：白色粒、黒色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片
35	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 5.0	胎土：微砂、小石粒　色調：黒褐色・暗赤褐色	片口部 小破片
36	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 3.8	胎土：微砂、小石粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
37	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	(13.6)	現 5.7	胎土：微砂、小石粒　色調：黄灰色　備考：５～６ａ型式	底部 小破片
38	金属 製品	用途不明	長 12.6	頭頂部幅 1.1～1.2	厚 0.2	Ｌ字状で、頭頂部をフック状に加工　材質－鉄	略完形
39	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
40	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－開元通寶（唐・621）　書体－楷書	完形
41	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－楷書	完形

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
板壁建物１出土遺物（図36）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	4.3	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小礫、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	(7.5)	(6.0)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	2/3
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	4.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・小	(7.5)	(4.8)	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	1/3
5	土器	ロクロかわらけ・小	(7.5)	(5.0)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	2/3
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.9	5.3	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロかわらけ・中	(12.7)	7.0	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	2/3
8	磁器	青磁碗	－	－	現3.8	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部小破片
9	陶器	産地不明山皿	(8.2)	(4.4)	1.6	胎土：黒色微粒　色調：灰褐色	1/3
10	陶器	常滑甕	－	－	現5.2	胎土：白色粒、黒色粒　色調：暗褐色　備考：６ａ型式	口縁部小破片
11	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	－	－	現3.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：褐灰色・暗灰黄色	口縁部～小破片
12	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現6.0	胎土：白色粒、小石粒　色調：黒褐色・暗赤褐色	口縁部～体部小破片
13	金属製品	銭貨	直径2.5	孔径0.7	厚0.1	銭名－皇宋通寶（北宋・1038）　書体－篆書	完形
14	金属製品	銭貨	直径2.4	孔径0.6	厚0.1	銭名－政和通寶（北宋・1111）　書体－篆書	完形
15	木製品	箸状	長17.9	幅0.7	厚0.4	断面方形	完形
16	木製品	箸状	長18.2	幅0.7	厚0.5	断面不整形	完形
17	木製品	箸状	長18.7	幅0.6	厚0.6	断面不整形	完形
18	木製品	箸状	長18.8	幅0.6	厚0.4	断面方形	完形
19	木製品	箸状	長19.1	幅0.6	厚0.5	断面台形	完形
20	木製品	箸状	長19.2	幅0.6	厚0.4	断面隅丸方形　丁寧な整形　端部鋭角に整形	完形
21	木製品	箸状	現長20.0	幅0.5	厚0.4	断面台形	
22	木製品	箸状	長20.8	幅0.5	厚0.4	断面方形	完形
23	木製品	串状	長17.6	幅0.3～0.7	厚0.3～0.4	断面楕円形	完形
24	木製品	棒状	現長19.2	幅0.8	厚0.5	断面方形	
25	木製品	棒状	長20.7	幅0.6	厚0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
26	木製品	棒状	現長24.2	幅0.8	厚0.6	断面隅丸方形	
27	木製品	建築部材	現長13.7	幅0.2	厚0.5	断面方形　小孔あり	
28	木製品	円盤状	直径(10.1)	現幅7.8	厚0.9	蓋か　桜皮遺存・修理痕か	4/5
29	木製品	用途不明	現長25.7	幅1.4	厚0.3～0.8	断面方形	
方形竪穴状遺構４出土遺物（図38・39）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	5.6	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.1	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロかわらけ・中	(12.3)	(6.7)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄色　焼成：良好	1/3
5	磁器	白磁皿	－	－	現3.4	口唇部－口兀　色調：胎土－灰白色、白磁釉－灰白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	口縁部～体部小破片
6	磁器	白磁壺	(8.0)	－	現3.5	色調：胎土－灰白色、白磁釉－灰オリーブ色	口縁部～頸部小破片
7	陶器	瀬戸卸皿	－	4.0	現2.3	胎土：緻密　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式	1/2
8	陶器	常滑甕	－	－	現9.0	胎土：黒色粒、白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ型式	口縁部小破片
9	陶器	常滑小型片口鉢	13.4	9.0	5.8	胎土：赤色粒、小石粒　色調：灰色	完形

10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 9.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部～ 体部小破片
11	石製品	温石	現長 10.2	幅 11.0	厚 2.3	孔１ヵ所（径0.5㎝）　石材－滑石	
12	骨角 製品	笄	長 12.3	幅 1.3	厚 0.3	素材－鹿中足骨	1/2
13	漆製品	皿	現長 3.0	現幅 1.9	現厚 0.2	内外面－黒色漆membrane漆　内面－漆絵（スタンプ）・文様種不明	胴部片
14	漆製品	皿	－	－	現 0.7	内外面－黒色漆membrane漆・漆絵（手描き）・梅文・不明文　輪高台	底部小破片
15	漆製品	皿	－	－	現 1.5	内外面－黒色漆membrane漆・漆絵（スタンプ）・重六角文	底部小破片
16	漆製品	皿	－	－	現 1.1	内外面－黒色漆membrane漆　内面－漆絵（手描き）・櫛描き文	底部小破片
17	漆製品	皿	－	－	現 1.0	内外面－黒色漆membrane漆　内面－漆絵（手描き）・笹文　無高台	底部小破片
18	漆製品	皿	8.8	6.8	0.9	内面－赤色漆membrane漆　外面－黒色漆membrane漆　無高台	1/3
19	漆製品	皿	－	7.0	現 1.5	内外面－黒色漆membrane漆　外面－漆絵（手描き）・草花文	1/3
20	漆製品	椀	—	3.3	現 2.0	内外面－黒色漆membrane漆　輪高台	1/6
21	漆製品	椀	—	6.7	現 3.4	内外面－黒色漆membrane漆　輪高台	1/4
22	漆製品	櫛	現長 3.5	現幅 1.0	現厚 0.2～1.0	全面－黒色漆membrane漆　解き櫛　残存歯数10本	
23	漆製品	器種不明	現長 5.7	現幅 3.2	厚 0.9	内外面－黒色漆membrane漆　内面漆絵（スタンプ）州浜文　巴文	
24	木製品	箸状	現長 16.2	幅 0.4	厚 0.3	断面方形	
25	木製品	箸状	現長 18.2	幅 0.4	厚 0.3	断面方形	
26	木製品	箸状	現長 19.0	幅 0.5	厚 0.4	断面円形	
27	木製品	箸状	現長 20.1	幅 0.6	厚 0.4	断面不整形	
28	木製品	箸状	現長 20.3	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	
29	木製品	箸状	現長 20.4	幅 0.6	厚 0.4	断面不整形	
30	木製品	箸状	長 21.2	幅 0.6	厚 0.6	断面隅丸方形	完形
31	木製品	箸状	長 21.7	幅 0.6	厚 0.4	断面不整形	完形
32	木製品	箸状	現長 22.1	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	
33	木製品	箸状	現長 22.5	幅 0.8	厚 0.4	断面不整形	
34	木製品	箸状	長 24.5	幅 0.6	厚 0.5	断面円形	完形
35	木製品	曲物	現長 20.2	現幅 4.1	厚 0.8	曲物底板部分　側縁部に2ヵ所の木釘痕遺存　一部焼痕	
36	木製品	曲物	現長 33.0	現幅 14.3	現厚 0.6～1.1	曲物底板部分　側縁部に4ヵ所の木釘痕遺存　遺存状態が悪く歪み大	1/2
37	木製品	曲物	現長 33.0	現幅 14.5	現厚 1.0～1.8	曲物底板部分　側縁部に4ヵ所の木釘痕遺存　遺存状態が悪く歪み大	1/2
38	木製品	草履芯	現長 14.5	現幅 4.7	厚 0.3	端部－直線的・小孔あり	1/4
39	木製品	草履芯	現長 23.5	現幅 1.4	厚 0.3	形状不明	
40	木製品	草履芯	長 24.0	幅 10.6	厚 0.2	端部－山型に切り込み最先端は山型の頂点となる・小孔あり　側縁部－切り取り部が頂点となる山型を呈する　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む	完形
41	木製品	栓	長 9.3	直径 1.5～2.2	－	断面円形　やや雑な整形	完形
42	木製品	串状	長 26.2	幅 0.7～1.1	厚 0.6～0.7	断面楕円形	完形
43	木製品	棒状	現長 12.0	幅 0.9	厚 0.5	断面方形	完形
44	木製品	棒状	長 14.5	幅 0.5	厚 0.4	断面方形　焼痕あり	完形
45	木製品	棒状	長 15.1	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形
46	木製品	棒状	長 15.2	幅 0.6	厚0.2	断面長方形	完形
47	木製品	棒状	長 16.7	幅 0.6	厚 0.7	断面方形	完形
48	木製品	棒状	長 16.8	幅 0.8	厚 0.3	断面方形	完形
49	木製品	棒状	長 17.3	幅 0.8	厚 0.5	断面方形	完形
50	木製品	棒状	長 17.5	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形

51	木製品	棒状	長 17.5	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	完形
52	木製品	棒状	現長 19.5	幅 0.8	厚 0.5	断面方形	
53	木製品	調度具	現長 9.5	幅 1.4	厚 0.7	調度具　丁寧に側面面取り	
54	木製品	調度具	現長 14.2	幅 4.9	厚 0.5	調度具　丁寧な整形	
55	木製品	用途不明	現長 15.5	現幅 1.3～2.8	現厚 1.6		

方形竪穴状遺構５出土遺物（図40）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.1	8.4	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい褐色　焼成：良好	完形
2	木製品	箸状	現長 19.2	幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	
3	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.5	厚 0.5	断面不整形	完形
4	木製品	箸状	現長 20.7	幅 0.5	厚 0.5	断面不整形	
5	木製品	箸状	現長 23.3	幅 0.5	厚 0.5	断面方形	
6	木製品	箸状	長 24.7	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	完形
7	木製品	笄	長 16.2	幅 0.4～1.3	厚 0.2～0.3	端部欠損　丁寧な整形	略完形
8	木製品	草履芯	現長 9.4	現幅 9.4	厚 0.1	端部山型に切り込み最先端はその山型の頂点となる・小孔あり　側縁部－不明　切り取り部－不明	1/3
9	木製品	草履芯	現長 21.9	現幅 2.6	厚 0.3	端部－不明　側縁部－曲線的　切り取り部－台形	
10	木製品	棒状	現長 16.6	幅 0.6	厚 0.6	断面方形	完形

方形竪穴状遺構６出土遺物（図41）

1	木製品	箸状	現長 20.1	幅 0.6	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	
2	木製品	箸状	現長 21.0	幅 0.6	厚 0.5	両端部焼痕　断面不整形	
3	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.6	厚 0.4	断面不整形	完形
4	木製品	草履芯	現長 22.4	現幅 2.7	厚 0.2	端部－不明　側縁部－曲線的　切り取り部平行四辺形で前方に深く切り込む　藁状圧痕あり	1/3
5	木製品	草履芯	現長 17.8	現幅 9.2	厚 0.2	端部－直線的・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む　藁状圧痕あり	2/3
6	木製品	火きり棒	現長 22.0	幅 1.1	厚 0.7	両端に焼痕　断面楕円形	
7	木製品	棒状	現長 14.2	幅 0.4	厚 0.4	断面方形	
8	木製品	棒状	現長 16.6	幅 0.6	厚 0.3	断面方形	
9	木製品	棒状	長 22.3	幅 0.5～0.7	厚 0.1～0.7	断面方形	完形

方形竪穴状遺構７出土遺物（図42）

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	7.2	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	6.8	3.4	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	3/4
3	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.6	外面－二又片刃による分割文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－オリーブ灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅰ－４類	口縁部 小破片
4	木製品	連歯下駄	現長 12.1	現幅 6.5	厚 0.8	台部－中央がやや張り出し小判型を呈する　歯部－台部から横に張り出し台幅よりも歯底部が広い台形前坪横に指圧痕	4/5

方形竪穴状遺構８出土遺物（図43）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(3.7)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小礫、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.2	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄褐色　焼成：良好	5/6
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(7.5)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄褐色　焼成：良好	1/3
5	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.0	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
6	磁器	青白磁 小皿	(6.8)	2.0	1.1	内面－型押し花弁文　色調：胎土－灰白色、青白磁釉－明緑青色	1/6
7	陶器	常滑 甕	－	－	現 8.3	胎土：黒色粒、白色粒、小石粒　色調：黒褐色・暗オリーブ灰色　備考：５～６ａ型式	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 7.3	胎土：白色粒　色調：褐灰色・黒褐色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片

井戸１出土遺物（図46）

1	木製品	箸状	現長 20.5	幅 0.6	厚 0.3	断面不整形　一部焼痕	
2	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.5	厚 0.3	断面方形	完形

3	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形
4	木製品	箸状	長 22.1	幅 0.8	厚 0.4	断面隅丸方形	完形
5	木製品	箸状	現長 23.7	幅 0.6	厚 0.6	断面方形　全体に焼痕	
6	木製品	箸状	長 24.5	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形
7	木製品	串状	現長 21.0	幅 0.2～1.0	厚 0.3	断面方形　端部鋭角に整形	
8	木製品	草履芯	現長 23.5	現幅 5.0	厚 0.3	端部－不明　側縁部－曲線的　切り取り部－方形　藁状圧痕あり	1/2

土坑35出土遺物（図47）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	5.9	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	2/3

土坑36出土遺物（図48）

1	漆製品	椀	—	(8.0)	現 4.5	内外面－黒色漆黎漆　外面－漆絵（手描き）・不明文	1/3

土坑41出土遺物（図50）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形

土坑42出土遺物（図51）

1	木製品	椀	—	(8.2)	現 5.7	生地椀か　総高台	
2	木製品	箆	長 21.7	幅 0.8～1.7	厚 0.2～0.6	丁寧な整形　断面扁平な隅丸方形	略完形

土坑45出土遺物（図52）

1	木製品	箸状	長 19.0	幅 0.5	厚 0.3	断面方形	完形
2	木製品	箸状	長 19.0	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形
3	木製品	箸状	長 19.3	幅 0.6	厚 0.4	断面不整形	完形
4	木製品	箸状	長 19.3	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	完形
5	木製品	箸状	長 19.5	幅 0.7	厚 0.4	断面方形	完形
6	木製品	箸状	長 20.4	幅 0.5	厚 0.4	断面半円形	完形
7	木製品	下駄	現長 17.5	現幅 5.8	厚 1.0	連歯下駄　歯部－厚さ1.9cm　遺存状態悪く形状不明	2/3
8	木製品	串状	現長 15.9	幅 0.6～0.8	厚 0.3～0.5	断面不整形	
9	木製品	串状	現長 18.2	幅 0.3～0.8	厚 0.2～0.3	断面楕円形　一部焼痕　端部鋭角に整形	
10	木製品	串状	長 18.9	幅 0.3～0.5	厚 0.2～0.5	断面台形　端部鋭角に整形	完形

ピット出土遺物（図53）

1	陶器	常滑 鳶口壺	(3.3)	8.4	11.2	外面－沈線３条　胎土：白色粒、黒色粒　色調：灰色　出土遺構：ピット89	3/4

第３面 遺構外出土遺物（図54～56）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.4)	(4.0)	2.0	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.9	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	4.7	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.0	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.4	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	4.5	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.7)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/2
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.4)	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄灰色　焼成：良好	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.4)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	1/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.9)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	8.0	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	3/4
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	8.0	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3

15	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.1	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色　焼成：良好	5/6
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(8.0)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
17	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	8.5	3.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰黄褐色　焼成：良好	4/5
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(13.4)	(8.0)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/3
19	土器	手づくね かわらけ・小	(7.7)	－	(1.6)	底面－指頭ナデ消し　内底－ナデ　胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
20	陶器	瀬戸 柄付片口	(13.8)	－	現 8.1	把手貼り付け　胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－オリーブ灰色　備考：古瀬戸中期様式Ⅳ期	1/3
21	陶器	渥美 片口鉢	－	－	現 4.4	胎土：微砂、白色粒　色調：灰黒色　備考：２ｂ型式	口縁部 小破片
22	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 4.0	胎土：微砂、白色粒、黒色粒　色調：灰色	片口部 小破片
23	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	－	現 4.8	胎土：微砂、白色粒、黒色粒　色調：灰色・黒褐色	口縁部 小破片
24	金属 製品	釘	現長 13.5	幅 0.4～0.5	厚 0.3～0.4	角釘　材質－鉄	略完形
25	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元符通寶（北宋・1098）　書体－篆書	完形
26	漆製品	皿	―	(7.2)	現 1.0	内面－赤色漆黎漆　外面－黒色漆黎漆　無高台	1/3
27	木製品	箸状	現長 16.5	幅 0.5	厚 0.4	断面半円形	
28	木製品	箸状	現長 17.0	幅 0.4	厚 0.3	断面方形	
29	木製品	箸状	現長 17.3	幅 0.5	厚 0.5	断面方形　焼痕あり	
30	木製品	箸状	現長 17.4	幅 0.5	厚 0.4	断面円形　丁寧な整形	
31	木製品	箸状	現長 17.7	幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	
32	木製品	箸状	現長 18.0	幅 0.4	厚 0.3	断面方形	
33	木製品	箸状	現長 18.3	幅 0.5	厚 0.4	断面方形　焼痕あり	
34	木製品	箸状	現長 18.5	幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	
35	木製品	箸状	長 18.9	幅 0.6	厚 0.3	断面方形	完形
36	木製品	箸状	現長 19.0	幅 0.6	厚 0.4	断面円形	
37	木製品	箸状	長 19.1	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
38	木製品	箸状	長 19.4	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形
39	木製品	箸状	長 19.9	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形
40	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.5	厚 0.4	断面方形	完形
41	木製品	箸状	長 20.4	幅 0.5	厚 0.3	断面方形	完形
42	木製品	箸状	長 20.5	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	完形
43	木製品	箸状	長 20.5	幅 0.6	厚 0.5	断面円形　丁寧な整形	完形
44	木製品	箸状	長 20.8	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平な方形	完形
45	木製品	箸状	現長 21.2	幅 0.6	厚 0.3	断面方形	
46	木製品	箸状	長 21.2	幅 0.7	厚 0.4	断面不整形	完形
47	木製品	箸状	長 21.4	幅 0.5	厚 0.4	断面不整形	完形
48	木製品	箸状	長 22.3	幅 0.5	厚 0.4	断面方形　丁寧な整形	完形
49	木製品	箸状	長 22.5	幅 0.4	厚 0.4	断面台形	完形
50	木製品	箸状	長 24.2	幅 0.6	厚 0.5	断面不整形	完形
51	木製品	箸状	長 25.4	幅 0.7	厚 0.3	断面方形	完形
52	木製品	折敷	長 18.5	現幅 5.0	厚 0.1	刃物痕あり	
53	木製品	草履芯	現長 22.3	現幅 3.8	厚 0.2	端部直線的・小孔あり　側縁部－不明　切り取り部－不明	1/3
54	木製品	草履芯	長 23.0	現幅 5.0	厚 0.2	端部－不明・小孔あり　側縁部－曲線的　切り取り部－平行四辺形で前方に深く切り込む	2/3
55	木製品	草履芯	長 22.6	現幅 4.9	厚 0.2	端部－不明　側縁部－曲線的　切り取り部－不明	2/3

56	木製品	箆	長 19.2	幅 0.7～1.8	厚 0.1～0.9	断面不整形	完形
57	木製品	箆	長 20.8	幅 0.3～1.8	厚 0.2～1.0	断面不整形	完形
58	木製品	串状	現長 12.3	幅 0.8～1.3	厚 0.4～0.6	断面かまぼこ型	
59	木製品	串状	現長 13.5	幅 0.4～0.6	厚 0.2～0.7	断面方形　加工途中か	
60	木製品	串状	長 17.6	幅 0.2～0.6	厚 0.1～0.3	断面扁平な方形　端部鋭角に整形	完形
61	木製品	串状	現長 21.2	幅 0.2～0.8	厚 0.2～0.3	断面平行四辺形　両端を斜めに整形	
62	木製品	串状	現長 25.1	幅 0.5～1.0	厚 0.5～0.6	断面隅丸方形　丁寧な整形　端部鋭角に整形	
63	木製品	串状	現長 25.5	幅 0.7～1.3	厚 0.3～0.6	断面半円形　先端部鋭角に整形	
64	木製品	棒状	現長 14.9	0.8	0.6	断面方形	
65	木製品	棒状	現長 17.7	幅 0.8	厚 0.3	断面方形	完形
66	木製品	棒状	現長 20.0	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	完形
67	木製品	棒状	現長 20.7	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	完形
68	木製品	円盤状	直径 6.8	孔径 1.8	厚 1.2	中央に孔が開く	完形
69	木製品	用途不明	現長 10.5	現幅 1.3～2.8	厚 0.1	経木折敷破片か	
70	木製品	用途不明	現長 26.0	現幅 1.7～2.2	厚 0.2～1.0	断面長方形　木釘痕あり	

表５　遺構計測表

（ ）＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
方形竪穴状遺構１	第１面	284	〈72〉	20
方形竪穴状遺構２	第１面	305	〈51〉	5～9
溝状遺構１	第１面	〈320〉	10～45	6～10
土坑１	第１面	80	〈50〉	16
土坑２	第１面	〈88〉	〈27〉	9
土坑３	第１面	95	77	16
土坑４	第１面	77	68	15
土坑５	第１面	100	71	20
土坑６	第１面	74	43	12
土坑７	第１面	70	62	18
土坑８	第１面	63	59	9
土坑９	第１面	〈47〉	60	20
土坑10	第１面	74	59	18
土坑11	第１面	69	64	7
土坑12	第１面	118	83	12
土坑13	第１面	98	〈35〉	13
土坑14	第１面	〈76〉	84	18
ピット１	第１面	38	19	8
ピット２	第１面	51	〈45〉	9
ピット３	第１面	41	35	12
ピット４	第１面	41	31	16
ピット５	第１面	39	38	15
ピット６	第１面	43	35	10
ピット７	第１面	39	〈30〉	15
ピット８	第１面	43	39	15
ピット９	第１面	〈43〉	45	11
ピット10	第１面	55	〈24〉	15
ピット11	第１面	51	47	15
ピット12	第１面	33	〈26〉	12
ピット13	第１面	〈40〉	33	14
ピット14	第１面	36	33	21
ピット15	第１面	35	32	11
ピット16	第１面	40	39	6
ピット17	第１面	17	15	22
ピット18	第１面	35	30	12
ピット19	第１面	30	24	6
ピット20	第１面	31	30	8
ピット21	第１面	44	〈18〉	23
ピット22	第１面	37	〈17〉	16
ピット23	第１面	〈31〉	〈31〉	8
溝状遺構２	第２面	〈50〉	〈90〉	23

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
溝状遺構３a	第２面	〈1050〉	〈20～80〉	16～30
溝状遺構３b	第２面	〈290〉	140	31
溝状遺構４	第２面	〈370〉	80～120	31
方形土坑１	第２面	132	125	14～21
土坑15	第２面	61	－	27
土坑16	第２面	62	50	7
土坑17	第２面	94	〈39〉	36
土坑18	第２面	〈63〉	〈35〉	20
土坑19	第２面	〈60〉	42	26
土坑20	第２面	〈60〉	〈52〉	30
土坑21	第２面	〈60〉	〈52〉	41
土坑22	第２面	〈67〉	65	13
土坑23	第２面	〈110〉	〈75〉	20
土坑24	第２面	〈75〉	61	18
土坑25	第２面	〈74〉	〈57〉	19
土坑26	第２面	〈60〉	44	23
土坑27	第２面	〈73〉	〈62〉	18
土坑28	第２面	〈78〉	59	24
土坑29	第２面	64	48	28
土坑30	第２面	93	68	34
土坑31	第２面	〈96〉	〈40〉	27
土坑32	第２面	〈68〉	〈43〉	18
土坑33	第２面	125	96	32
ピット24	第２面	39	37	18
ピット25	第２面	35	34	18
ピット26	第２面	〈33〉	〈32〉	4
ピット27	第２面	38	30	14
ピット28	第２面	47	〈39〉	14
ピット29	第２面	22	22	23
ピット30	第２面	44	〈40〉	15
ピット31	第２面	48	44	26
ピット32	第２面	31	29	11
ピット33	第２面	35	34	23
ピット34	第２面	31	〈29〉	12
ピット35	第２面	48	32	14
ピット36	第２面	45	〈13〉	14
ピット37	第２面	42	37	16
ピット38	第２面	36	〈15〉	27
ピット39	第２面	34	24	24
ピット40	第２面	57	42	17
ピット41	第２面	46	28	18

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット42	第２面	〈45〉	〈24〉	－
ピット43	第２面	〈27〉	〈12〉	－
ピット44	第２面	〈35〉	〈13〉	12
ピット45	第２面	44	20	20
ピット46	第２面	〈25〉	27	17
ピット47	第２面	〈53〉	〈18〉	－
ピット48	第２面	46	34	16
ピット49	第２面	〈26〉	27	4
ピット50	第２面	27	26	17
ピット51	第２面	〈26〉	28	6
ピット52	第２面	〈27〉	〈37〉	20
ピット53	第２面	56	37	21
ピット54	第２面	〈52〉	48	20
ピット55	第２面	39	34	20
ピット56	第２面	30	〈28〉	17
ピット57	第２面	20	〈15〉	8
ピット58	第２面	33	26	20
ピット59	第２面	〈27〉	27	11
ピット60	第２面	46	34	28
ピット61	第２面	41	37	11
ピット62	第２面	50	39	12
ピット63	第２面	37	33	18
ピット64	第２面	37	〈27〉	8
ピット65	第２面	31	27	14
ピット66	第２面	43	33	30
ピット67	第２面	57	46	28
ピット68	第２面	42	38	17
ピット69	第２面	47	〈30〉	20
ピット70	第２面	37	37	23
ピット71	第２面	33	24	10
ピット72	第２面	〈35〉	37	21
ピット73	第２面	29	〈21〉	20
ピット74	第２面	51	45	12
ピット75	第２面	35	〈15〉	14
ピット76	第２面	〈27〉	27	6
ピット77	第２面	〈24〉	〈16〉	8
ピット78	第２面	27	26	9
板壁建物１	第３面	345	845	－
方形竪穴状遺構３	第３面	〈387〉	〈108〉	14
方形竪穴状遺構４	第３面	〈310〉	〈245〉	20

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
方形竪穴状遺構５	第３面	250	〈68〉	28
方形竪穴状遺構６	第３面	〈226〉	〈140〉	44
方形竪穴状遺構７	第３面	〈208〉	〈81〉	24
方形竪穴状遺構８	第３面	134	〈107〉	22
溝状遺構５	第３面	〈50〉	50～60	26
井戸１	第３面	124	84	125
土坑34	第３面	〈93〉	〈45〉	26
土坑35	第３面	96	83	12
土坑36	第３面	107	80	18
土坑37	第３面	〈79〉	90	20
土坑38	第３面	69	52	9
土坑39	第３面	111	－	35
土坑40	第３面	〈85〉	〈25〉	21
土坑41	第３面	〈68〉	76	20
土坑42	第３面	〈85〉	92	105
土坑43	第３面	〈90〉	〈86〉	108
土坑44	第３面	〈125〉	〈54〉	24
土坑45	第３面	123	98	61
土坑46	第３面	〈128〉	〈80〉	84
土坑47	第３面	90	71	16
ピット79	第３面	〈32〉	29	17
ピット80	第３面	35	26	28
ピット81	第３面	39	〈27〉	6
ピット82	第３面	34	26	26
ピット83	第３面	33	24	12
ピット84	第３面	49	34	32
ピット85	第３面	〈44〉	〈39〉	37
ピット86	第３面	46	29	17
ピット87	第３面	49	47	30
ピット88	第３面	43	41	20
ピット89	第３面	40	40	20
ピット90	第３面	29	26	11
ピット91	第３面	34	26	18
ピット92	第３面	28	26	24
ピット93	第３面	40	〈22〉	22
ピット94	第３面	31	23	29
溝状遺構６	第４面	〈80〉	80	22
溝状遺構７	第４面	〈190〉	50～70	10～21

表６　出土遺物一覧表

表土

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
【染付磁器】		
瀬戸	端反碗	1
	小杯	1
【陶器】		
常滑	甕	9
【瓦】		
	平瓦	2
	合計	19

第１面

方形竪穴状遺構１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	53
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	9
	合計	64

方形竪穴状遺構２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	50
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	5
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	合計	58

溝状遺構１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

土坑１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
【石製品】		
	砥石	1
	合計	8

土坑２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	1
	合計	7

土坑３

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

土坑４

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	4

土坑５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	3
【石製品】		
	砥石	1
	合計	16

土坑６

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ－２類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	7

土坑７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	6

土坑８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【陶器】		
常滑	甕	5
	合計	14

土坑９

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	25
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ－２ａ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	27

土坑11

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ－2類	1
	合計	8

土坑12

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	16

土坑14

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	21

ピット１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	8

ピット３

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	3
【石製品】		
	砥石	1
	合計	16

ピット４

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	1
	合計	5

ピット５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	32
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口碗	1
	合計	36

ピット６

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	鉄滓	1
	合計	9

ピット９

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	9

ピット11

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット15

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	壺	1
	合計	8

ピット16

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	8

ピット17

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【陶器】		
瀬戸	入子	1
	合計	17

ピット18

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
	合計	16

ピット20

産　地	器　種	破片数
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ⅡＣ類	1
	合計	1

ピット21

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

ピット23

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

第１面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	260
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	3
	碗Ⅲ類	1
	器種不明小破片	2
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	水注	1
	入子	2
常滑	擂鉢	1
	折縁深皿	2
	卸皿	3
	折縁小皿	1
	器種不明小破片	14
	甕	205
	片口鉢Ⅱ類	4
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	2
【瓦】		
	丸瓦	2
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	507

第２面

溝状遺構２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	1
	合計	3

溝状遺構３ａ

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	124
【白磁】		
	Ⅲ Ⅸ類	1

【青白磁】		
	合子	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	20
	片口鉢Ⅱ類	2
【金属製品】		
	釘	1
【木製品】		
	漆製品(櫛)	1
	合計	151

溝状遺構３ｂ		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	128
	かわらけ　手づくね成形	8
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1
	器種不明小破片	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ－２類	1
	盤	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	2
瀬戸	瓶子	1
渥美	甕	5
常滑	甕	29
	片口鉢Ⅰ類	3
	片口鉢Ⅱ類	2
	合計	182

溝状遺構４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	104
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
	碗Ⅱ－ｂ類	2
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	洗	1
常滑	甕	10
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
【瓦】		
	丸瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	2
	合計	124

方形土坑１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	19
	合計	19

土坑15		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	6

土坑16		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

土坑17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1

【陶器】		
常滑	甕	6
	片口鉢Ⅰ類	3
【土師質・瓦質土器】		
	土鍋	1
	合計	18

土坑18		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
【白磁】		
	碗Ⅸ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	17
	片口鉢Ⅰ類	3
【土師質・瓦質土器】		
	土鍋	1
	火鉢小破片	1
	合計	38

土坑19		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	43
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1
【陶器】		
常滑	甕	3
【金属製品】		
	釘	3
	合計	50

土坑21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	39
【白磁】		
	壺	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	42

土坑22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
	合計	12

土坑23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	59
【陶器】		
常滑	甕	7
【金属製品】		
	釘	5
	合計	71

土坑24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

土坑25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	9

土坑27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

土坑28		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	合計	6

土坑29		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
	合計	6

土坑33		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	26
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
常滑	甕	14
	片口鉢Ⅰ類	3
【木製品】		
	箸状	1
	合計	46

ピット24		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット25		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
	合計	6

ピット27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	9

ピット28		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット30		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット31		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット32		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	合計	3

ピット37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
常滑	甕	1
	合計	7

ピット39		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	1

ピット40		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
常滑	甕	1
	合計	3

ピット41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット43		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【青磁】		
同安窯系	皿Ⅰ－１ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	合計	20

ピット44		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット46		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	6
	合計	6

ピット48		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	8

ピット50		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

ピット52		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
	合計	18

ピット53		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
	合計	11

ピット56		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	11

ピット57		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	28
	合計	28

ピット61		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	7

ピット62		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
常滑	甕	1
北部系	山茶碗	1
	合計	10

ピット63		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	13

ピット65		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット66		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット67		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	5

ピット68		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット70		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット72		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

ピット74		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	2

ピット75		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

第２面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	786
	かわらけ　手づくね成形	8
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1
	器種不明小破片	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ－２類	3
	碗Ⅰ－６ａ類	1
	碗Ⅱ－ｂ類	8
	碗Ⅲ類	1
	器種不明小破片	4
【青白磁】		
	梅瓶	4
【陶器】		
瀬戸	入子	1
	小杯	1
	折縁深皿	1
	卸皿	2
	器種不明小破片	2
常滑	甕	176
	壺	1
	片口鉢Ⅰ類	15
	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢小破片	2
【瓦】		
	平瓦	2
【石製品】		
	滑石製石鍋	2
	砥石	4
【金属製品】		
	銭貨	3
	釘	2
	用途不明	1
	合計	1,037

第３面

板壁建物１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	295
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
	皿	1
	盤	1
	器種不明小破片	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	44
	片口鉢Ⅰ類	8
	片口鉢Ⅱ類	1
産地不明	山皿	1
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
	火鉢ＩＢ類	1
	火鉢Ⅲ類	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	硯	1
【金属製品】		
	銭貨	2
【木製品】		
	箸状	8
	串状・棒状	4
	建築部材	1
	円盤状	1
	用途不明	1
	合計	379

板壁建物１－Ｐ５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	3
【金属製品】		
	釘	1
	合計	6

板壁建物１－Ｐ８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	5

板壁建物１－Ｐ９		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	2

板壁建物１－Ｐ12		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	5

板壁建物１－Ｐ13		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1
	合計	6

板壁建物１－Ｐ14		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	11
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	13

板壁建物１－Ｐ17		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	2
	合計	10

板壁建物１－Ｐ19		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

板壁建物１－Ｐ20		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

板壁建物１－Ｐ21		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	4
	合計	5

板壁建物１－Ｐ22		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

板壁建物１－Ｐ23		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	32
【青白磁】		
	梅瓶	1
	皿Ⅸ類	3
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	40

板壁建物１－Ｐ26		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

板壁建物１－Ｐ27		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

方形竪穴状遺構４		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	149
【白磁】		
	壺	1
	皿Ⅸ類	3
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	47
	小型片口鉢	1
	片口鉢Ⅰ類	7
	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【瓦】		
	丸瓦	1
【石製品】		

	温石	1
	砥石	2
【骨角製品】		
	笄	1
【金属製品】		
	器種不明	1
【木製品】		
	漆製品（皿）	8
	漆製品（椀）	4
	漆製品（櫛）	1
	漆製品（器種不明）	1
	箸状	32
	調理具（曲物）	3
	草履芯	3
	栓	1
	串状・棒状	11
	調度具	2
	用途不明	1
合計		285

方形竪穴状遺構５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	2
常滑	甕	7
【木製品】		
	箸状	5
	調理具（曲物）	3
	笄	1
	草履芯	4
	串状・棒状	5
	用途不明	1
合計		30

方形竪穴状遺構６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	19
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	3
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
渥美	甕	4
常滑	甕	9
	片口鉢Ⅰ類	1
【木製品】		
	箸状	4
	草履芯	2
	火きり棒	1
	串状・棒状	3
合計		47

方形竪穴状遺構７		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ－４類	1
【陶器】		
常滑	甕	4
【木製品】		
	連歯下駄	1
合計		22

方形竪穴状遺構８		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	60
【白磁】		
	Ⅲ区類	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	器種不明小破片	2
【青白磁】		
	小皿	1
【陶器】		
常滑	甕	13
	壺	2
常滑	片口鉢Ⅰ類	3
	片口鉢Ⅱ類	3
合計		87

溝状遺構５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	9
合計		10

井戸１		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	1
【木製品】		
	箸状	6
	串状・棒状	1
	草履芯	1
合計		13

土坑34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		3

土坑35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ　ロクロ成形	6
合計		8

土坑36		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	1
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅰ類	2
【瓦】		
	平瓦	1
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
合計		13

土坑37		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

土坑38		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
合計		2

土坑41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		22

土坑42		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【木製品】		
	漆製品（椀）	1
	篦	1
合計		4

土坑44		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＢ類	1
合計		8

土坑45		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	36
【陶器】		
常滑	甕	7
	片口鉢Ⅰ類	1
【須恵器】		
	甕	1
【木製品】		
	箸状	6
	下駄	1
	串状・棒状	3
合計		55

土坑46		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	4
【須恵器】		
	坏	1
合計		17

土坑47		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	2
合計		6

ピット78		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット84		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		2

ピット87		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計		1

ピット88		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

ピット89		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	鳶口壺	1
合計		1

ピット92		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
合計		1

第３面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	478
	かわらけ　手づくね成形	1
【白磁】		
	Ⅲ区類	2
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	3
	器種不明小破片	2
【青白磁】		
	合子蓋	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	柄付片口	4
	皿	1
渥美	甕	5
	片口鉢	1
常滑	甕	125
	壺	2
	片口鉢Ⅰ類	22
北部系	山茶碗	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
	火鉢小破片	6
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
【木製品】		
	漆製品（皿）	1
	箸状	28
	折敷	3
	草履芯	3
	篦	2
	串状・棒状	18
	円盤状	1
	用途不明	5
合計		722

第４面

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	24
【須恵器】		
	甕	2
	坏	2
合計		28

1．調査区近景（北から）

2．調査区東側北壁土層断面（南から）

図版２

１．調査区西側第１面全景（西から）

２．調査区東側第１面全景（西から）

３．調査区西側第２面全景（西から）

４．調査区東側第２面全景（西から）

１．第２面 溝状遺構３ｂ（西から）

２．第２面 溝状遺構３ａ・３ｂ（東から）

３．第２面 溝状遺構４（南から）

図版４

１．調査区西側第３面全景（南から）

２．調査区東側第３面全景（南から）

１．第３面 板壁建物１板壁検出状況（北から）

２．第３面 板壁建物１板壁下部（北から）

３．第３面 板壁建物１板壁南側（南から）

４．第３面 板壁建物１板壁中央（西から）

５．第３面 板壁建物１板壁北側（北から）

６．第３面 板壁建物１板壁下部南側断面（北から）

図版６

１．第３面 板壁建物１東側礎板列（南から）

２．第３面 板壁建物１西側ピット列（南から）

３．第３面 板壁建物１西側側板（西から）

４．第３面 板壁建物１東側側板（西から）

５．第３面 板壁建物１Ｐ４（南から）

１．調査区西側第４面全景（北から）

２．調査区東側第４面全景（南から）

図版８

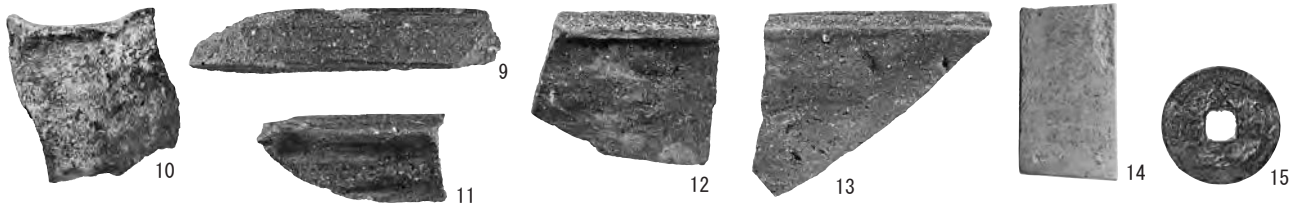
1．第１面 方形竪穴状遺構１出土遺物

2．第１面 土坑３出土遺物

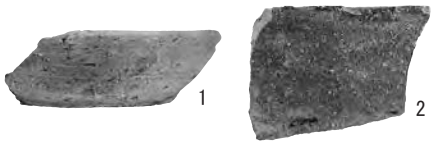
3．第１面 土坑６出土遺物

4．第１面 土坑８出土遺物

5．第１面 ピット出土遺物

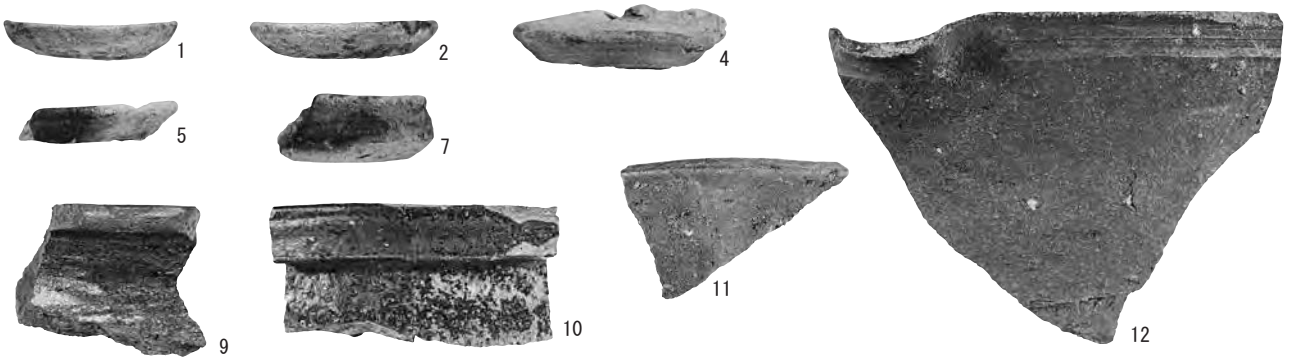


6．第１面 遺構外出土遺物



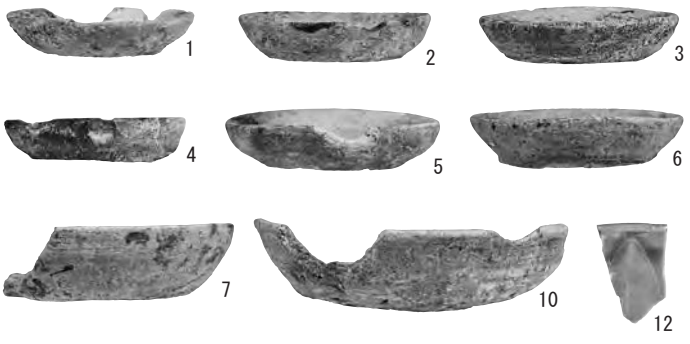
7．第２面 溝状遺構２出土遺物

8．第２面 溝状遺構３ａ出土遺物



9．第２面 溝状遺構３ｂ出土遺物

11．第２面 方形土坑１出土遺物



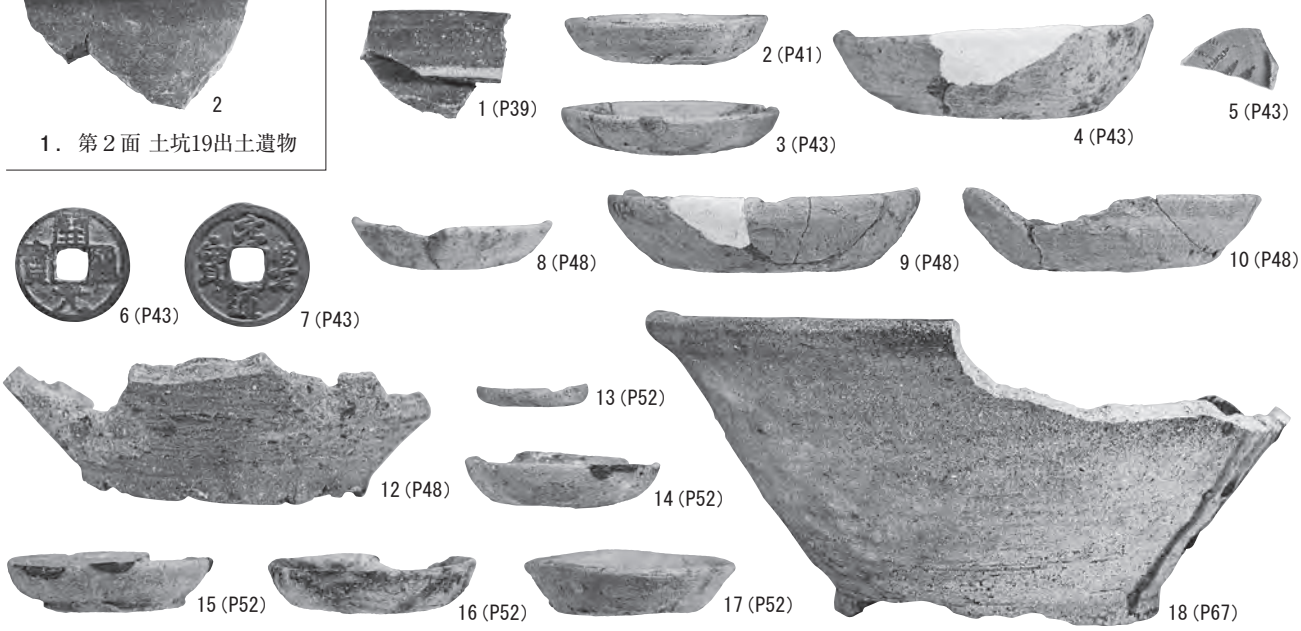
10．第２面 溝状遺構４出土遺物

12．第２面 土坑17出土遺物

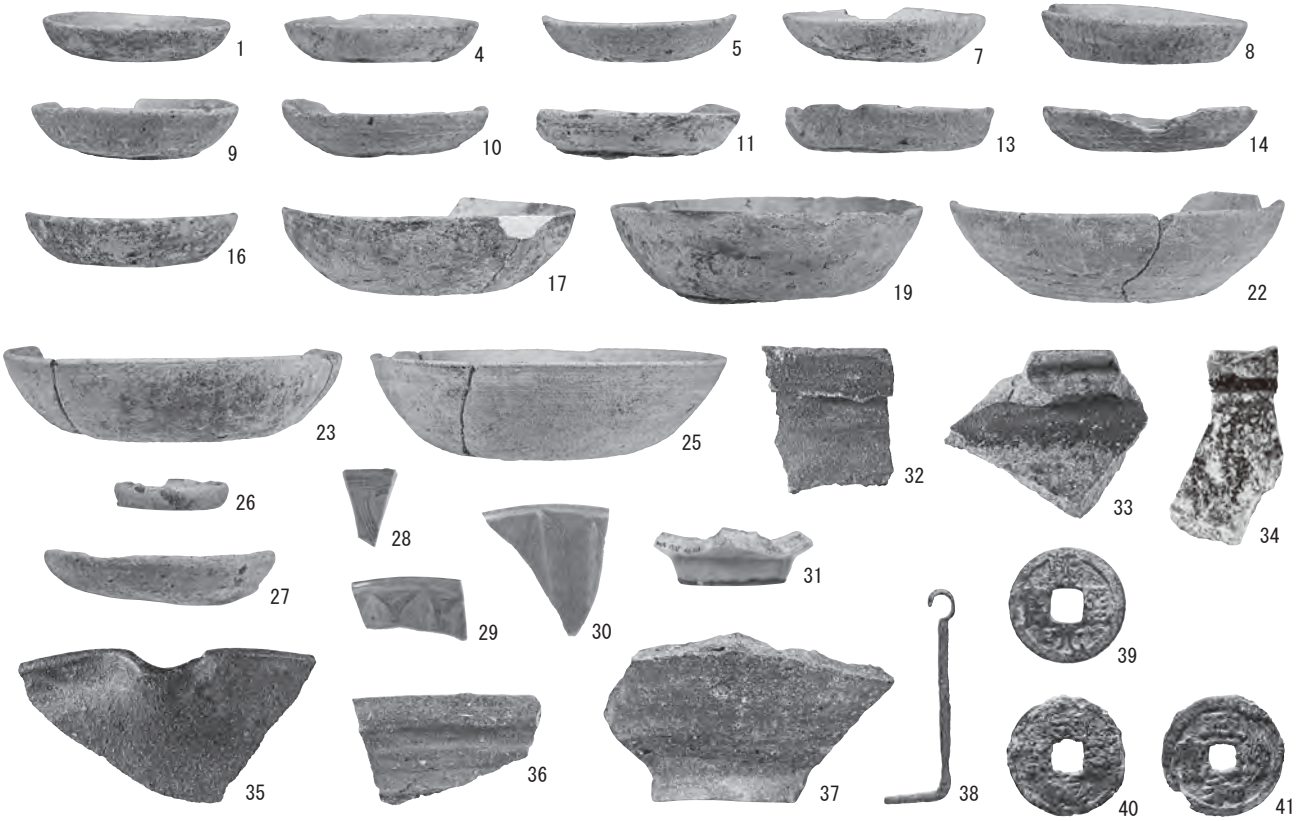
１．第２面 土坑19出土遺物

２．第２面 土坑23出土遺物

３．第２面 土坑24出土遺物

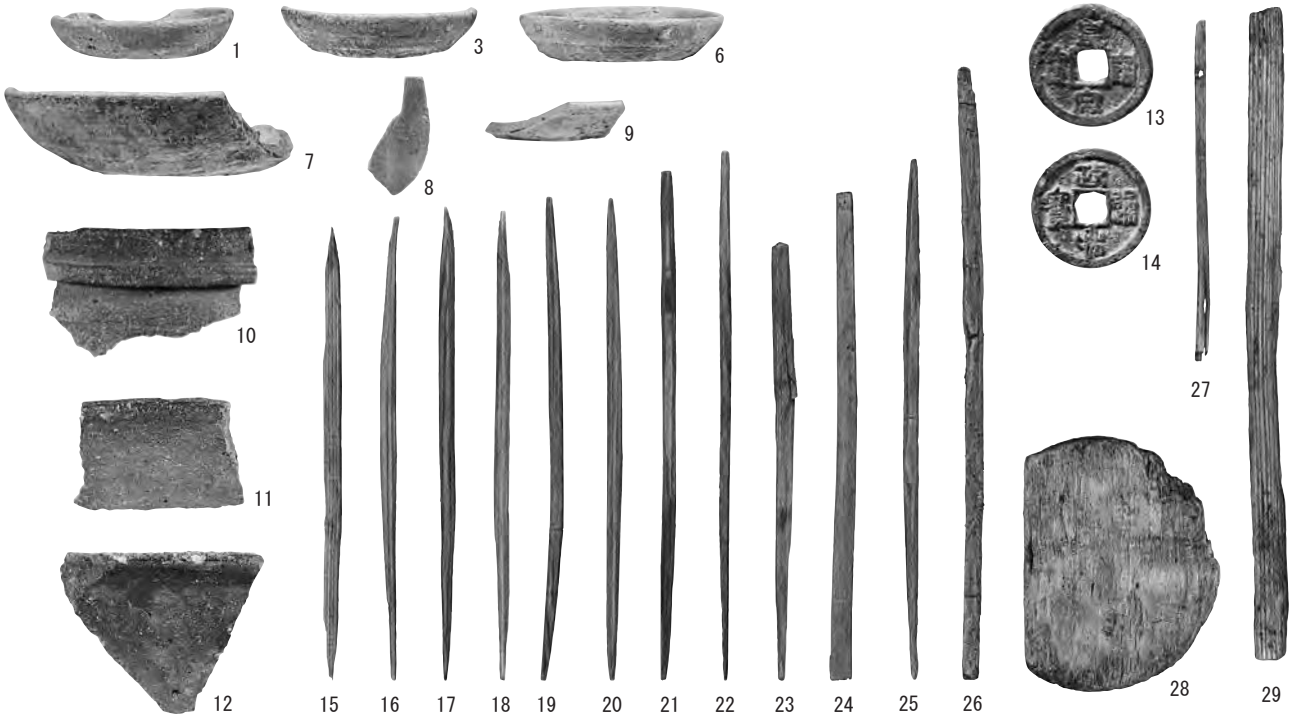


４．第２面 ピット出土遺物

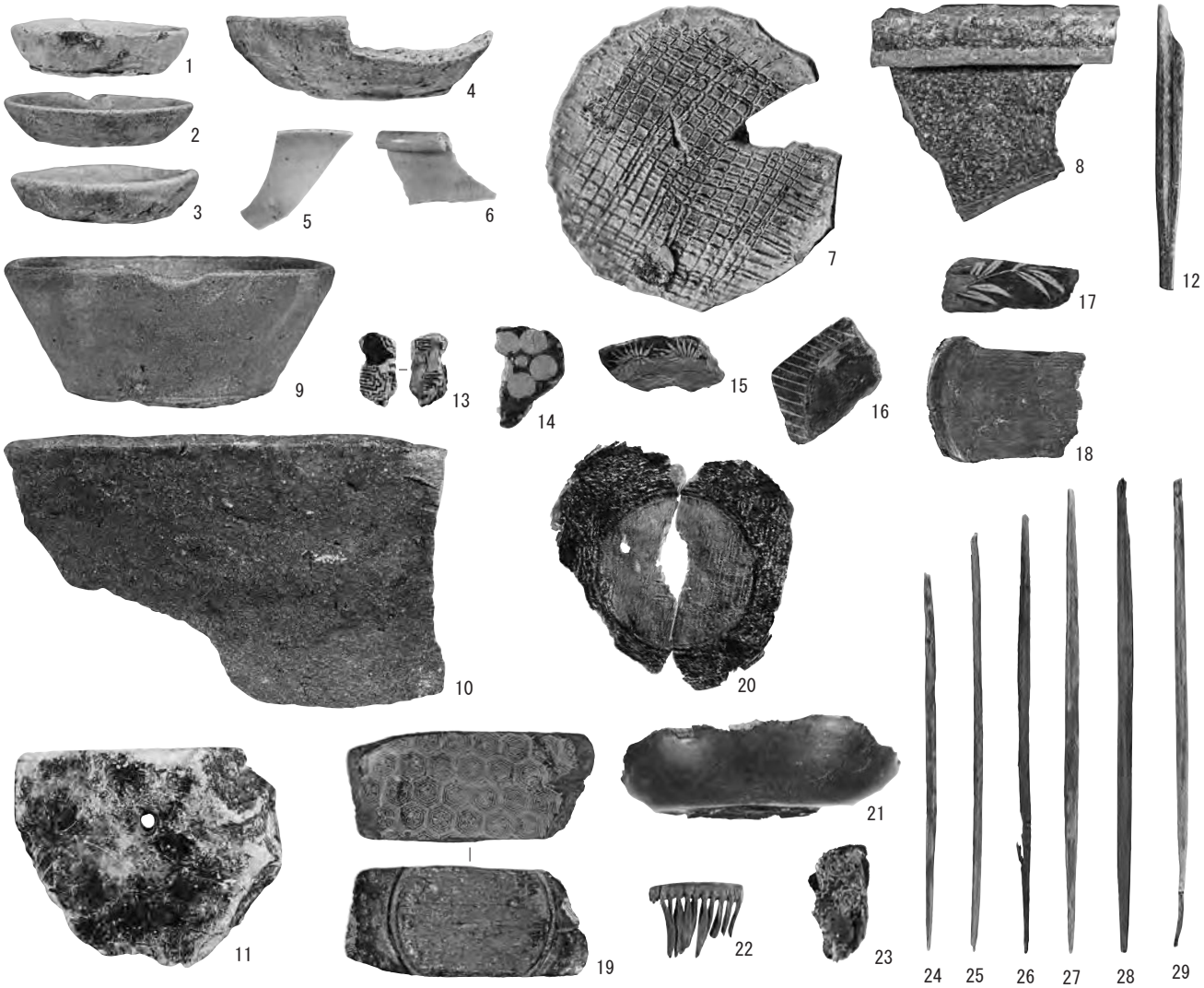


５．第２面 遺構外出土遺物

図版10



1．第３面 板壁建物１出土遺物



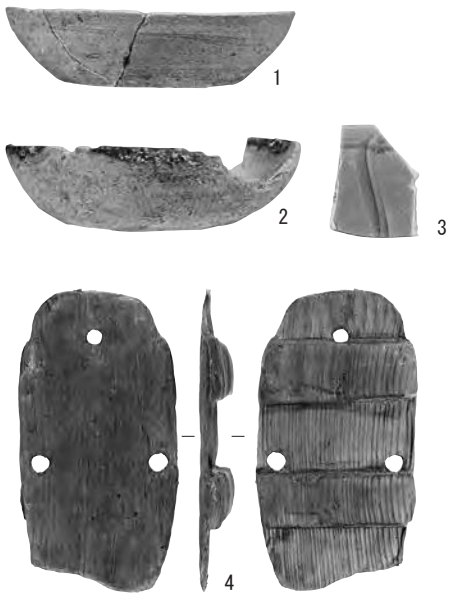
2．第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物（１）

1．第３面 方形竪穴状遺構４出土遺物（２）

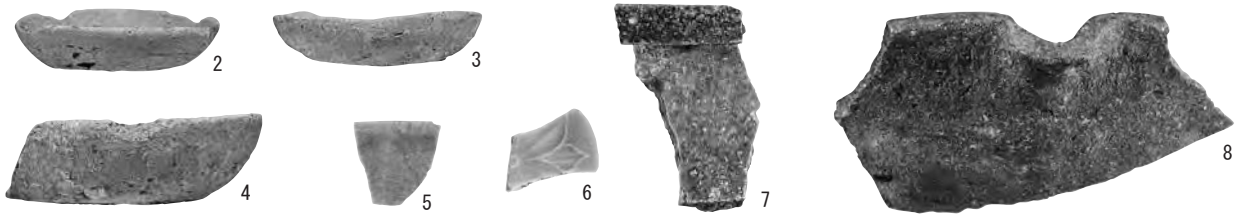
2．第３面 方形竪穴状遺構５出土遺物

図版12

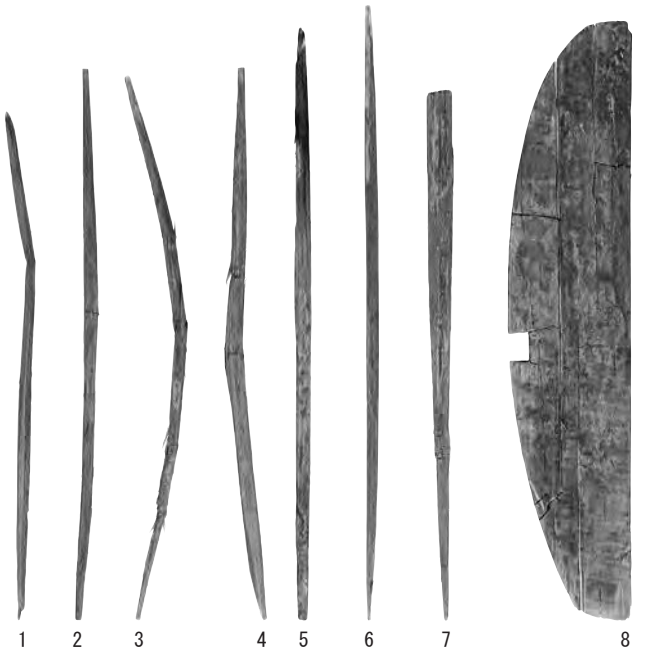
1．第３面 方形竪穴状遺構６出土遺物



2．第３面 方形竪穴状遺構７出土遺物



3．第３面 方形竪穴状遺構８出土遺物



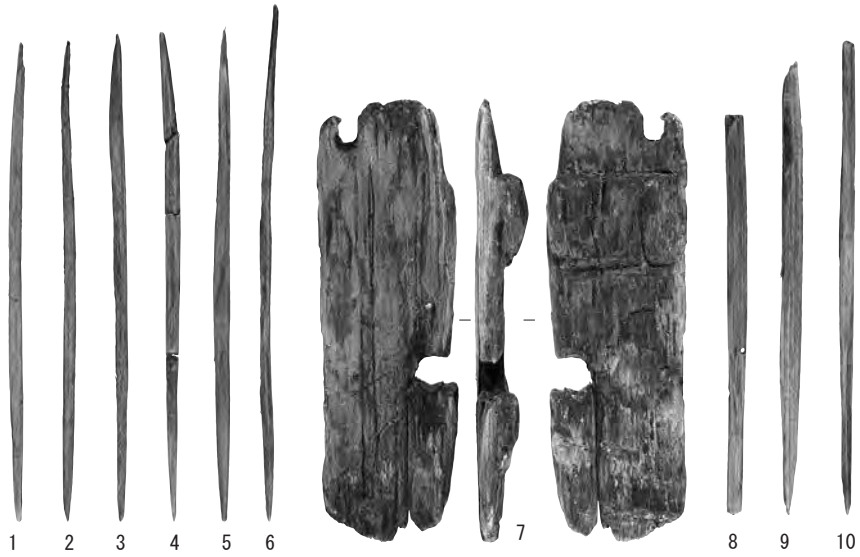
4．第３面 井戸１出土遺物

6．第３面 土坑36出土遺物

5．第３面 土坑35出土遺物

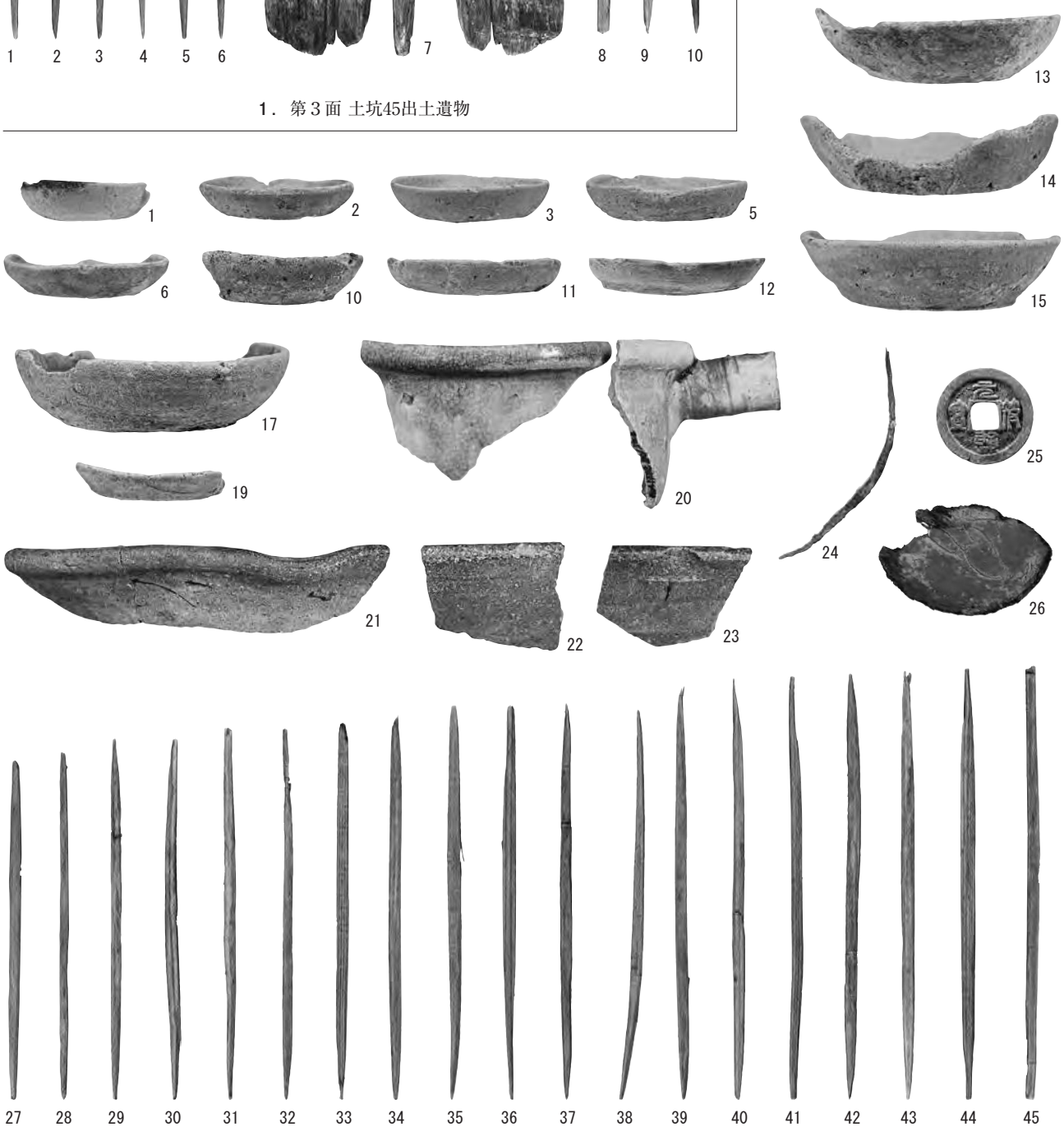
7．第３面 土坑41出土遺物

8．第３面 土坑42出土遺物



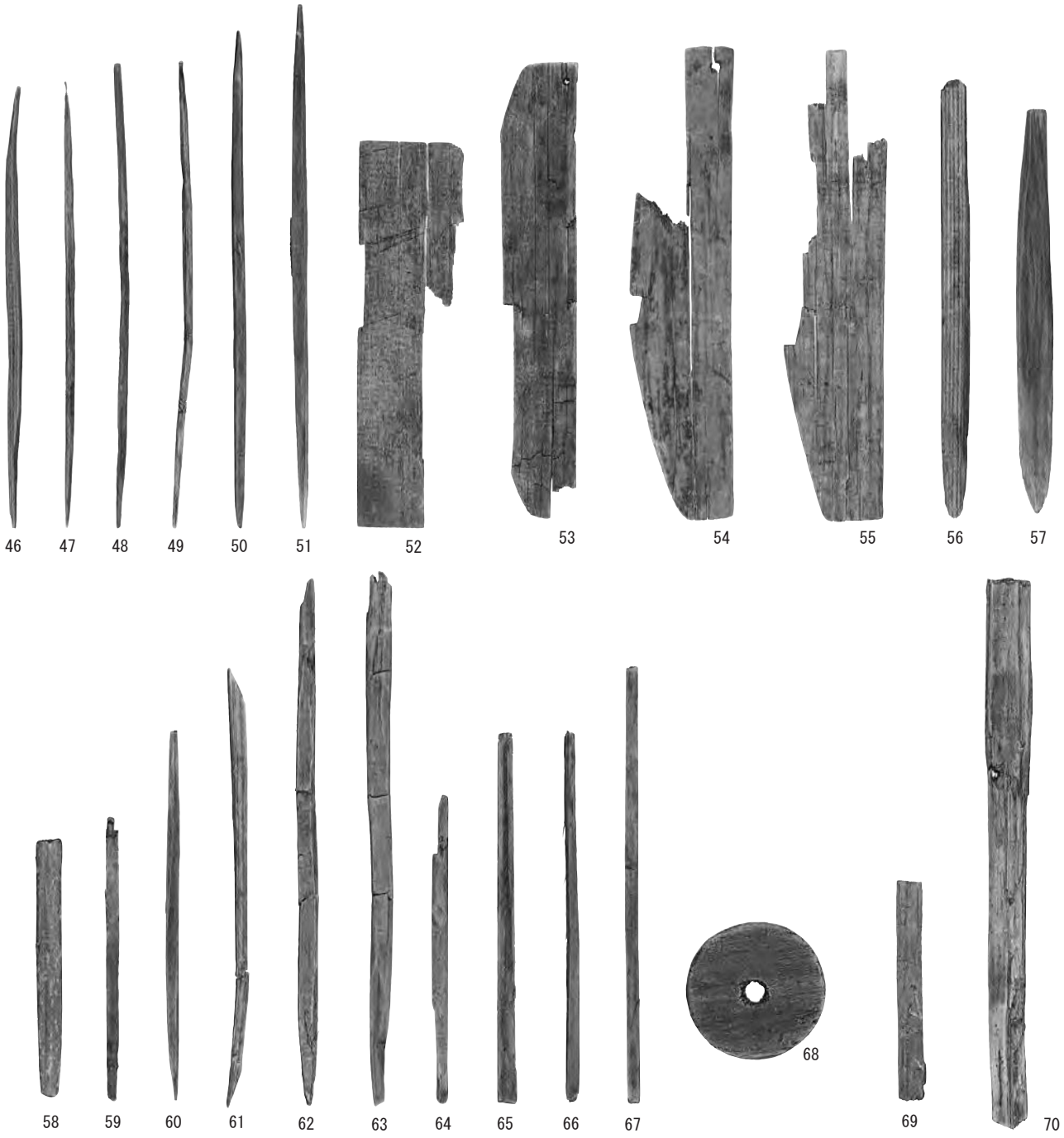
1．第３面 土坑45出土遺物

2．第３面 ピット出土遺物



3．第３面 遺構外出土遺物（１）

図版14



1．第３面 遺構外出土遺物（２）

長谷小路周辺遺跡（№236）

由比ガ浜三丁目204番５地点

例　言

1．本報は「長谷小路周辺遺跡」（神奈川県遺跡台帳№236）内、鎌倉市由比ガ浜三丁目204番５地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成23年１月14日～平成23年３月31日にかけて、店舗併用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は72㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　山口正紀
調　査　員　　吉田桂子・本城　裕
作　業　員　　赤坂　進・佐藤美隆・吉澤　功・田口康雄
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．第四章の出土火葬人骨の鑑定・執筆は、聖マリアンナ医科大学解剖学講座水嶋崇一郎氏・平田和明氏に、出土動物遺体の鑑定・執筆は、中村若枝氏にご協力をいただいた。なお、鑑定については東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏にご助言をいただいた。

6．本報に掲載した写真は、遺構を山口正紀、遺物を赤間和重が撮影した。

7．測量基準杭の設置にあたっては、世界測地系（座標系ＡＥＲＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

8．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

9．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＨＫＳ1009」とした。

10．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

11．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺物：■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分

12．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

か わ ら け：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿 易 陶 磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』

13．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 274
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 274
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 274
第３節　周辺の考古学的調査 …… 275

第二章　堆積土層 …… 279

第三章　発見された遺構と遺物 …… 280
第１節　第１面（第１ａ～１ｃ面）の遺構と遺物 …… 280
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 293
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 297
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 300

第四章　自然科学分析 …… 303
長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目204番５地点より出土した古代の火葬人骨について …… 303
長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目204番５地点出土の動物遺体について …… 304

第五章　まとめ …… 314

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 276
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 277
図３　調査区位置図 …… 278
図４　調査区配置図 …… 278
図５　調査区南壁 土層断面図 …… 279
図６　第１ａ面 遺構分布図 …… 281
図７　第１ｂ面 遺構分布図 …… 281
図８　第１ｃ面 遺構分布図 …… 282
図９　第１ａ面 方形竪穴状遺構２出土遺物 … 282
図10　第１ａ面 方形竪穴状遺構１～４・６～９ …… 283
図11　第１ａ面 方形竪穴状遺構３出土遺物 … 283
図12　第１ａ面 方形竪穴状遺構４出土遺物 … 284
図13　第１ａ面 方形竪穴状遺構５出土遺物 … 284
図14　第１ａ面 方形竪穴状遺構６出土遺物 … 284
図15　第１ａ面 方形竪穴状遺構８出土遺物 … 285
図16　第１ａ面 方形竪穴状遺構９出土遺物 … 285
図17　第１ｂ面 方形竪穴状遺構10出土遺物 … 286
図18　第１ｂ面 方形竪穴状遺構11出土遺物 … 286
図19　第１ｂ面 方形竪穴状遺構12出土遺物 … 287
図20　第１ｂ面 方形竪穴状遺構13出土遺物 … 287
図21　第１ｂ面 方形竪穴状遺構10～14 …… 288
図22　第１ｂ面 方形竪穴状遺構14出土遺物 … 289
図23　第１ｃ面 方形竪穴状遺構15～17 …… 289
図24　第１ｃ面 方形竪穴状遺構15出土遺物 … 290
図25　第１ｃ面 方形竪穴状遺構16出土遺物 … 290
図26　第１ｃ面 方形竪穴状遺構17出土遺物 … 291
図27　第１ａ面 方形土坑１ …… 291

図28　第１ａ面 土坑１出土遺物 …… 291
図29　第１ａ面 土坑１～３ …… 292
図30　第１ａ面 土坑２出土遺物 …… 292
図31　第１ａ～１ｃ面 遺構外出土遺物 …… 293
図32　第２面 遺構分布図 …… 293
図33　第２面 方形竪穴状遺構18出土遺物 …… 294
図34　第２面 方形竪穴状遺構18～25 …… 295
図35　第２面 方形竪穴状遺構24出土遺物 …… 296
図36　第２面 方形竪穴状遺構25出土遺物 …… 296
図37　第２面 土坑４～６ …… 297
図38　第３面 遺構分布図 …… 297
図39　第３面 竪穴状遺構１ …… 298
図40　第３面 竪穴状遺構１出土遺物 …… 298
図41　第３面 掘立柱建物１ …… 299
図42　第３面 溝状遺構１ …… 299
図43　第３面 火葬墓１ …… 300
図44　第３面 火葬墓１出土遺物 …… 300
図45　第４面 遺構分布図 …… 301
図46　第４面 溝状遺構２ …… 301
図47　第４面 火葬墓２ …… 301
図48　第４面 火葬墓２出土遺物 …… 302
図49　第４面 土坑７・８ …… 302

表　目　次

表１　長谷小路周辺遺跡および周辺遺跡 調査地点一覧 …… 275
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 316
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 318
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 319
表５　第４面 出土遺物観察表 …… 319
表６　遺構計測表 …… 319
表７　出土遺物一覧表 …… 319

図　版　目　次

図版１　１．調査地点近景（西から） …… 323
　　２．調査区南壁土層断面（北から） … 323
図版２　１．調査区南側第１ｂ面全景（南から） …… 324
　　２．調査区北側第１ｂ面全景（南から） …… 324
図版３　１．第１ａ面 方形竪穴状遺構１切石出土状態（南から） …… 325
　　２．第１ａ面 方形竪穴状遺構４切石出土状態（東から） …… 325
　　３．第１ｂ面 方形竪穴状遺構11（南から） …… 325
図版４　１．調査区南側第２面全景（南から）・326
　　２．調査区北側第２面全景（南から）・326
図版５　１．調査区北側第３面全景（南から）・327
　　２．調査区南側第３面全景（南から）・327
図版６　１．第３面 竪穴状遺構１および火葬墓１（西から） …… 328
　　２．第３面 火葬墓１掘り方（北から）・328
　　３．第３面 火葬墓１（東から）…… 328
　　４．第３面 火葬墓１（西から）…… 328
図版７　１．調査区北東側第４面全景（北から）329
　　２．第４面 火葬墓２土層断面（東から） …… 329
　　３．第４面 火葬墓２（西から）…… 329
　　４．調査区南側第４面全景（南から）・329
図版８　１．第１ａ面 方形竪穴状遺構２出土遺物 …… 330
　　２．第１ａ面 方形竪穴状遺構３出土遺物 …… 330
　　３．第１ａ面 方形竪穴状遺構４出土遺物 …… 330

4．第１ａ面 方形竪穴状遺構５出土遺物 ····· 330
5．第１ａ面 方形竪穴状遺構６出土遺物 ····· 330
6．第１ａ面 方形竪穴状遺構８出土遺物 ····· 330
7．第１ａ面 方形竪穴状遺構９出土遺物 ····· 330
8．第１ｂ面 方形竪穴状遺構10出土遺物 ····· 330
9．第１ｂ面 方形竪穴状遺構11出土遺物 ····· 330
10．第１ｂ面 方形竪穴状遺構12出土遺物 ····· 330
図版９ 1．第１ｂ面 方形竪穴状遺構13出土遺物 ····· 331
2．第１ｂ面 方形竪穴状遺構14出土遺物 ····· 331
3．第１ｃ面 方形竪穴状遺構15出土遺物 ····· 331
4．第１ｃ面 方形竪穴状遺構16出土遺物 ····· 331
5．第１ｃ面 方形竪穴状遺構17出土遺物 ····· 331
6．第１ａ面 土坑１出土遺物 ····· 331
7．第１ａ面 土坑２出土遺物 ····· 331
8．第１ａ～１ｃ面 遺構外出土遺物 · 331
9．第２面 方形竪穴状遺構18出土遺物 ····· 331
図版10 1．第２面 方形竪穴状遺構24出土遺物 ····· 332
2．第２面 方形竪穴状遺構25出土遺物 ····· 332
3．第３面 竪穴状遺構１出土遺物 ··· 332
4．第３面 火葬墓１出土遺物 ····· 332
5．第４面 火葬墓２出土遺物 ····· 332

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市由比ガ浜三丁目204番５で実施した店舗併用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である長谷小路周辺遺跡（神奈川県遺跡台帳№236）の範囲内にあたり、当該地周辺の調査状況から、地下に中世の遺構が存在することは確実であった。建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査などの措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される範囲の72㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、山口正紀が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成23年１月14日～平成23年３月31日までの２ヵ月半ほどである。現地表の標高は約9.6ｍを測る。廃土処理の都合から調査区を２区に分け、南側をⅠ区として平成23年１月14日～平成23年２月８日、北側をⅡ区として平成23年２月９日～平成23年３月31日まで調査を実施した。調査はまず重機により約60㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、Ⅰ・Ⅱ区ともに中世に属する第１～４面の合計４面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして３月31日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては世界測地系（座標系ＡＥＲＡ９）に準じた、鎌倉市四級基準点（Ｘ＝－76177.393、Ｙ＝－26662.792）、（Ｘ＝－76139.698、Ｙ＝－26661.443）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市由比ガ浜三丁目204番５に所在し、「長谷小路周辺遺跡（№236）」の範囲内に含まれる。長谷小路周辺遺跡は鎌倉市の南部域に位置し、東は和田一族を弔ったとされる和田塚、西は長谷寺に隣接する東西１㎞に及ぶ包蔵地範囲をもつ。調査地点は江ノ島電鉄由比ヶ浜駅の北西約150ｍの県道311号線に面した南側にあり、由比ガ浜からは直線距離で400ｍほどの場所に立地する。地形的には中世において「浜地」と呼ばれた砂丘地帯で、遺跡範囲の西端には鎌倉の西側境界として認識されていた稲瀬川が南流する。この稲瀬川は長谷大谷を源流として高徳院大仏の東を流れ、由比ガ浜で相模湾へと注ぐ。また、北側には遺跡名ともなっている長谷小路が東西方向に延び、東へ向かうと六地蔵、そして名越を抜けて逗子に至り、西へ向かうと長谷観音へと通じる。

本地点の北西側には甘縄神明神社が鎮座する。この社は1712年（正徳二年）成立の社伝である『相州鎌倉郡神輿山甘縄寺神明宮縁起略』によると、710年（和銅三年）八月に行基によって草創されたという古社である。安達盛長が守護に当たり、かつては社殿の近くに安達氏代々の屋敷があったと推察されている。「甘縄」という地名は現在の行政上では消えてしまったが、鎌倉時代には若宮大路二ノ鳥居に近い無量寺ヶ谷から長谷観音前交差点に至る旧市街地西南部の広汎な地域を指していた（馬淵ほか 2007）。

隣接する包蔵地としては、山側には東から今小路西遺跡（№201）、笹目遺跡（№207）、甘縄神社遺跡群（№177）、高徳院周辺遺跡（№327）、桑ヶ谷療病院跡（№294）、海側には東から由比ガ浜中世集団墓地

遺跡（№372）、由比ガ浜南遺跡（№315）が広がる。また、本遺跡の西側には鎌倉時代の末期には成立していたとされる浄土宗の長谷寺がある。江戸時代以来、多くの参詣者で賑わいをみせており、木造の仏像としては日本最大といわれている十一面観世音菩薩の巨像を本尊としている。

第３節　周辺の考古学的調査

本地点は東西方向に長い包蔵地範囲の中央部に位置し、県道311号線の南側に面している。本遺跡の包蔵地範囲内では比較的多くの調査が行われており、その成果が蓄積されつつある。ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。

包蔵地範囲内を東西方向に延びる県道311号線の北側に位置する①長谷一丁目205番12地点では、13世紀中葉～14世紀前葉の土坑やピットが検出されたほか、古墳時代前期や８～９世紀代の土師器が出土している（汐見ほか 2002）。

本地点と同じく県道311号線の南側に面する場所では、②由比ガ浜三丁目207－１外３筆地点、③由比ガ浜三丁目206番６外地点、④由比ガ浜三丁目202番２外地点、⑤由比ガ浜三丁目199番１地点、⑥由比ガ浜三丁目194番25外地点の調査が行われている。西側から順に調査内容をみていくと、②地点では13世紀後半から14世紀前半にかけての方形竪穴状遺構を中心とする遺構群が検出された（齋木ほか 2015）。その東側に隣接する③地点においても13世紀後半から14世紀前半にかけての３時期にわたる中世の遺構群が検出され、掘立柱建物から方形竪穴群へという土地利用の変化が明らかにされた（赤堀ほか 2015）。東隣に位置する④・⑤地点でも方形竪穴群が検出されており、この一帯に同遺構が広がる様相が明らかになりつつある（齋木ほか 1992、齋木ほか 1990）。なお、④地点からは古代の竪穴住居址や古墳時代前期の土器集積、時期の判然としない土坑墓が検出されており、古代以前の遺構の存在が明らかにされている。⑥地点では多量のフイゴの羽口とスラグが出土しており、「炉状遺構」１基が確認されている（齋木ほか 1990）。

県道311号線の南側から江ノ島電鉄由比ヶ浜駅にかけての地域では、⑦由比ガ浜三丁目194番24地点、⑧由比ガ浜三丁目194番71地点、⑨由比ガ浜三丁目194番１、262番１地点、⑩由比ガ浜三丁目２番200地点、⑪由比ガ浜三丁目194番50地点で調査が行われている。⑦地点は14世紀代に属する方形竪穴や土坑が検出され、それらの下層から古墳時代前期と８～10世紀代の遺物群が出土した（宗臺ほか 1991）。古墳時代前期の遺物に駿河地方に分布の中心をもつ大廓式の大型台付甕があり、残存状態が良好で器形復元されている。⑧地点では14世紀代の土坑群が検出されたほか、９世紀後葉の竪穴住居址２軒が調査されている（松吉ほか 2017）。⑨地点では１～５面にわたる遺構確認面が検出され、弥生時代後期末か

表１　長谷小路周辺遺跡および周辺遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目204番５地点	
①	長谷小路周辺遺跡（№236）	長谷一丁目205番12地点	汐見ほか 2002
②	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目207－１外３筆地点	齋木ほか 2015
③	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目206番６外地点	赤堀ほか 2015
④	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目202番２外地点	齋木ほか 1992
⑤	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目199番１地点	齋木ほか 1990
⑥	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目194番25外地点	齋木ほか 1989・1990
⑦	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目194番24地点	宗臺ほか 1991
⑧	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目194番71地点	松吉ほか 2017
⑨	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目194番１、262番１地点	降矢・齋木ほか 2016
⑩	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目２番200地点	宮田ほか 1997
⑪	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目194番50地点	汐見ほか 2004
⑫	甘縄神社周辺遺跡群（№177）	長谷一丁目262番14外地点	本報告

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
鎌倉市
源氏山
相　模　湾
湘南道路
由比ヶ浜
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図

※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

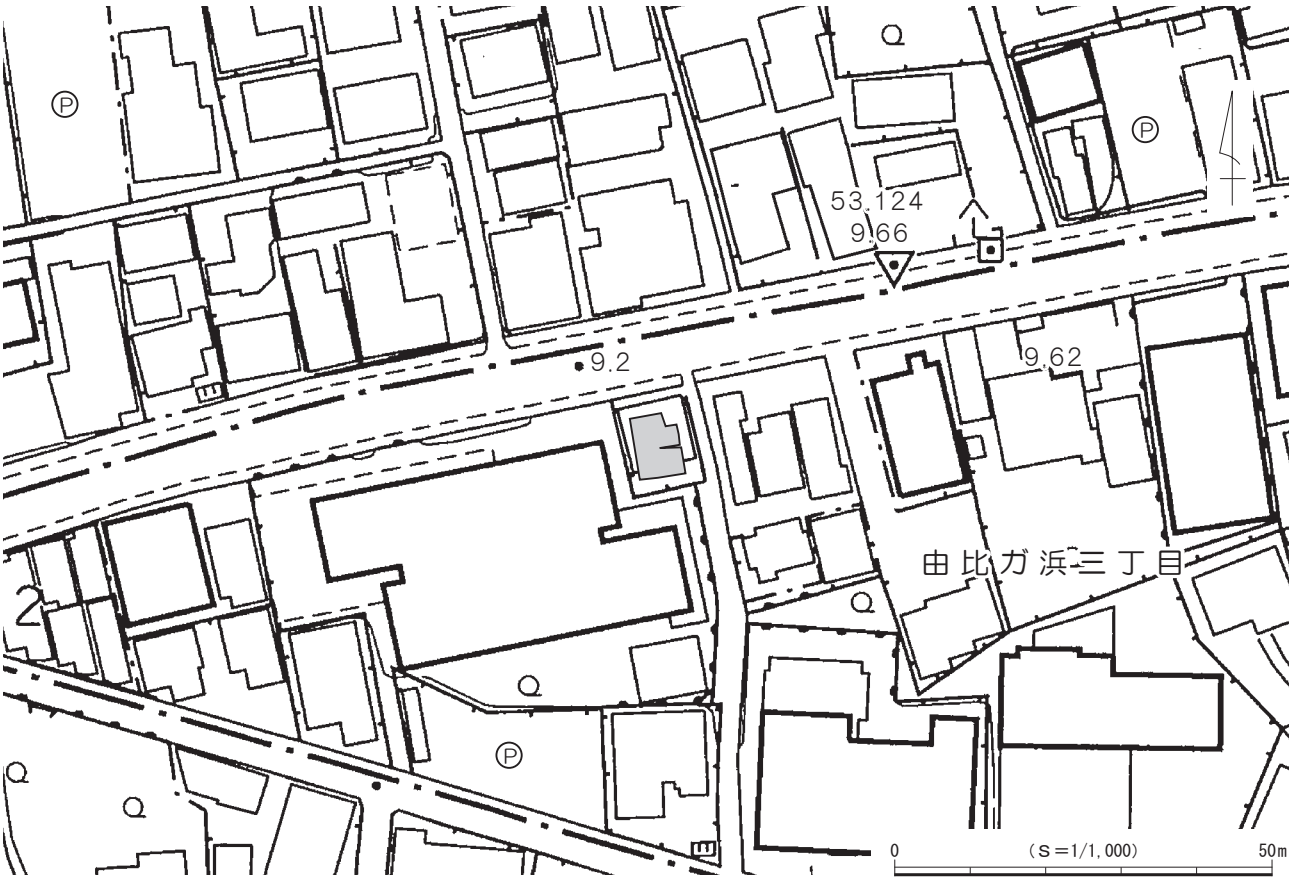


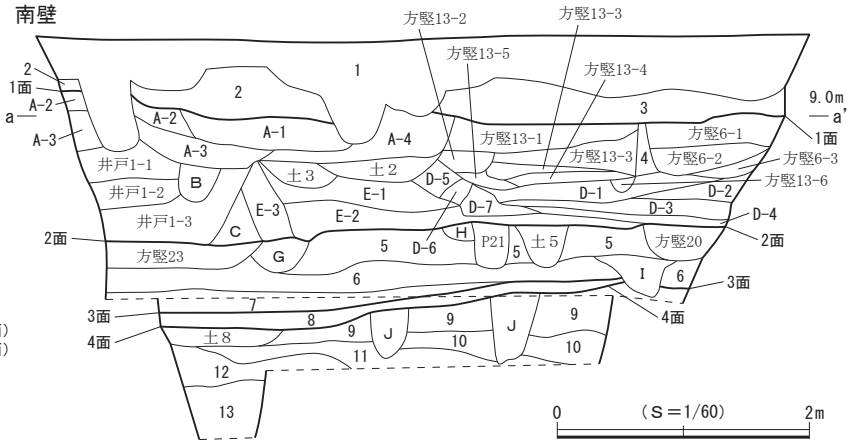
図３　調査区位置図

図４　調査区配置図

ら中世にかけての遺構が調査された（降矢・齋木ほか 2016）。３面から石棺墓と土坑墓が検出されており、石棺墓には若年の女性が埋葬されていた。副葬品などの遺物を伴わないため時期決定が困難であるが、検出面や類例から古墳時代後期と推定されている。また、２面ではカマドをもつ竪穴住居址18軒が発見され、７世紀中葉～９世紀前半にかけての集落が存在したことが明らかとなった。中世の遺構は１面で確認され、３時期に大別される方形竪穴や井戸、溝状遺構、土坑墓、土坑などが調査された。出土遺物からは12世紀末から15世紀中頃という年代観が推定されている。⑩地点では８世紀に属する大人と子供の合葬骨が出土し、大人の頭骨こめかみ付近に一対の金銅製耳環が伴っていた（宮田ほか 1997）。江ノ島電鉄由比ヶ浜駅の北側に隣接する⑪地点からは中世に属する遺構が２面で確認され、周辺の調査地点と同様に方形建物と土坑が検出されている（汐見ほか 2004）。本地点では遺構の内外から多数の銭貨が出土しており、報告者は隣接する今小路西遺跡で模鋳銭鋳造失敗品とその鋳型が出土したこととの関連について指摘している。

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、中世が第１・２面、古代が第３・４面の合計４面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区南壁の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。



１層　表土
２層　茶色砂　泥岩粒・炭化物少量、貝片微量、かわらけ片中量含む。締まりややあり。
３層　茶色砂　泥岩粒・炭化物微量、貝片・かわらけ片少量含む。締まりややあり。
４層　茶色砂　泥岩粒微量、炭化物中量、貝片・かわらけ片少量含む。締まりややあり。（第１面）
５層　黄褐色砂　淡茶色砂・炭化物微量、貝片少量含む。締まりあり。（第２面）
６層　暗茶色砂　炭化物微量、貝片中量、黄褐色砂多量に含む。締まりあり。
７層　暗茶色砂　淡茶褐色砂多量、炭化物極微量含む。締まりややあり。
８層　淡茶褐色砂　炭化物極微量含む。締まりあり。（第３面）
９層　明茶褐色砂　暗褐色砂少量含む。締まりあり。（第４面）
10層　暗茶褐色砂　締まりあり。
11層　暗茶褐色砂　明茶褐色砂多量に含む。締まりあり。
12層　暗茶褐色砂　暗褐色砂斑紋状に含む。締まりあり。
13層　黒褐色弱粘質砂　締まりあり。

〔遺構〕

方形竪穴状遺構６
１層　暗褐色砂質土　泥岩粒少量、灰白色土ブロック多量、炭化物少量、貝片微量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
２層　暗褐色砂質土　泥岩粒微量、炭化物・貝片少量、かわらけ片微量含む。締まりあり。
３層　黄褐色砂　炭化物・貝片少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。

方形竪穴状遺構13
１層　暗褐色砂　泥岩粒微量、炭化物・貝片中量、かわらけ片少量含む。締まりあり。
２層　茶褐色砂　泥岩粒微量、炭化物多量、貝片少量含む。締まりややあり。
３層　暗褐色砂　泥岩粒微量、黄褐色砂中量、炭化物・貝片・かわらけ片少量含む。締まりなし。
４層　黄褐色砂　灰褐色弱粘土ブロック多量、炭化物少量含む。締まりあり。
５層　黄褐色砂　泥岩粒微量、炭化物・貝片少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
６層　黄褐色砂　炭化物・灰褐色弱粘土ブロック少量含む。締まりなし。

方形竪穴状遺構20　明黄褐色砂　炭化物・貝片・茶褐色砂少量含む。締まりなし。

方形竪穴状遺構23　淡茶色砂　炭化物・貝片中量含む。締まりややあり。

井戸１
１層　黄茶褐色砂　泥岩粒微量、炭化物多量、貝片中量かわらけ片微量含む。締まりややあり。
２層　黄茶褐色砂　泥岩粒微量、炭化物多量、貝片少量含む。締まりややあり。
３層　黄茶褐色砂　暗褐色弱粘土ブロック・炭化物少量、貝片多量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。

土坑２　暗褐色弱粘質砂　泥岩粒・貝片少量、炭化物多量、灰褐色弱粘土ブロック中量含む。締まりややあり。

土坑３　黄褐色砂　炭化物・灰褐色弱粘土ブロック中量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。

土坑５　黄褐色砂　炭化物少量、貝片中量、黒褐色土・茶褐色土ブロック多量含む。締まりややあり。

土坑８　明茶褐色砂　炭化物微量、暗褐色砂中量含む。締まりややあり。

P21　淡褐色砂　炭化物・黒褐色土ブロック少量、貝片中量含む。締まりややあり。

Ａ−１層　明茶褐色砂　泥岩粒中量、炭化物少量、貝片微量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。
Ａ−２層　茶褐色砂　泥岩粒微量、炭化物・貝片・かわらけ少量含む。締まりややあり。
Ａ−３層　茶褐色砂　泥岩粒・炭化物少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ａ−４層　茶褐色砂　炭化物・貝片少量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｂ層　遺構覆土
Ｃ層　黄褐色砂　炭化物・暗褐色弱粘土ブロック少量、貝片中量含む。締まりあり。
Ｄ−１層　淡黄褐色砂　泥岩粒微量、暗褐色弱粘土ブロック・炭化物少量、貝片多量に含む。締まりややあり。
Ｄ−２層　淡黄褐色砂　暗褐色弱粘土ブロック微量、炭化物少量、貝片中量含む。締まりややあり。
Ｄ−３層　茶褐色砂　暗褐色弱粘土ブロック少量、炭化物・貝片中量、かわらけ片微量含む。締まりややあり。
Ｄ−４層　明黄褐色砂　炭化物・貝片中量含む。層下部に暗褐色弱粘質土と炭層が薄く入る。締まりややあり。
Ｄ−５層　明黄褐色砂　泥岩粒微量、炭化物少量含む。締まりあり。
Ｄ−６層　茶褐色砂　泥岩粒微量、黄褐色砂・炭化物・貝片中量含む。締まりややあり。
Ｄ−７層　淡黄褐色砂　暗褐色弱粘土ブロック中量、炭化物・貝片少量含む。締まりややあり。
Ｅ−１層　黄褐色砂　暗褐色弱粘土ブロック中量、炭化物少量、かわらけ片微量、貝片中量含む。締まりややあり。
Ｅ−２層　黄褐色砂　泥岩ブロック少量、暗褐色弱粘土ブロック多量、炭化物少量、貝片中量含む。締まりややあり。
Ｅ−３層　明黄褐色砂　暗褐色弱粘土ブロック微量、炭化物中量、貝片少量含む。締まりややあり。
Ｇ層　明黄褐色砂　炭化物少量、暗褐色弱粘土ブロック・貝片中量含む。締まりあり。
Ｈ層　淡褐色砂　炭化物少量、貝片中量含む。締まりややあり。
Ｉ層　淡黄褐色砂　炭化物微量含む。暗褐色砂が互層上に堆積。締まりややあり。
Ｊ層　明黄褐色砂　淡茶褐色砂微量含む。締まりややあり。

図５　調査区南壁 土層断面図

なお、土層断面で確認された落ち込みの中には、平面的に捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約9.6ｍを測り、最上部には表土（１層）、茶色砂層（２・３層）が、層厚合計43～70㎝堆積している。遺構確認面の第１面は４層上面で検出した。確認面の標高は9.0～9.2ｍを測る。４層は微量の泥岩粒、中量の炭化物、少量の貝片・かわらけ片を含みやや締まりのある茶色砂層で、層厚約40㎝である。第２面は５層上面で確認し、確認面の標高は8.0～8.1ｍを測る。５層は微量の淡茶色砂・炭化物、少量の貝片を含み締まりのある黄褐色砂層で、層厚20～35㎝である。５層の下位には暗茶色砂層（６・７層）が堆積している。第３面は８層上面で確認し、確認面の標高は7.5～7.7ｍを測る。８層はごく微量の炭化物を含み締まりのある淡茶褐色砂層で、層厚５～13㎝である。遺構確認面の最下位にあたる第４面は９層上面で確認し、確認面の標高は7.1～7.5ｍを測る。９層は少量の暗褐色砂を含み締まりのある明茶褐色砂層で、層厚12～35㎝である。９層の下位は暗茶褐色砂層（10～12層）で、さらに下位の標高6.9ｍ以下は締まりのある黒褐色弱粘質砂層であった。

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～４面までの合計４面である。遺構確認面は第１・２面が中世に属し、第３・４面は中世と古代が同一面で調査され、検出した遺構は掘立柱建物１棟、方形竪穴状遺構25基、竪穴状遺構１基、溝状遺構２条、火葬墓２基、方形土坑１基、土坑８基、ピット20基である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して18箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表７）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～４面）に説明する。

第１節　第１面（第１ａ～１ｃ面）の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の４層上面で検出され、確認面の標高は9.0～9.2ｍを測る。４層は微量の泥岩粒、中量の炭化物、少量の貝片・かわらけ片を含みやや締まりのある茶色砂層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。第１面の遺構は重複が激しく、切り合い関係からおよそ３時期に細別区分されることから、新しい方から順番に第１ａ面、第１ｂ面、第１ｃ面として分割して遺構分布図を作成した（図６～８）。報告に際しては第１面の遺構として種別ごとにまとめて記述を行い、細別帰属面については個別の記載中で触れることとした。検出した遺構は方形竪穴状遺構17基、方形土坑１基、土坑３基、ピット４基である。

遺構を細別帰属面ごとにみていくと、第１ａ面は方形竪穴状遺構９基、方形土坑１基、土坑３基、ピット２基、第１ｂ面は方形竪穴状遺構５基で、調査区全域に満遍なく分布している（図６・７）。第１ｃ面は方形竪穴状遺構３基とピット２基であり、第１ａ・１ｂ面と比較すると遺構の空白域が目立つ（図８）。遺構は各面とも調査区外へと続いていることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

第１ａ～１ｃ面は、短い時間幅の中で形成された複雑な切り合い関係を整理する上で細分した面であり、遺構群の年代はほぼ同時期のものと判断される。遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、骨角製品、金属製品などのほか、方形竪穴状遺構１～４・５～16、方形土坑１、土坑１～３、遺構外からは動物遺存体や貝類も多く出土している。これらの年代観から第１ａ～１ｃ面は１面総体として13世紀後葉～14世紀前葉頃に属すると考えられる。

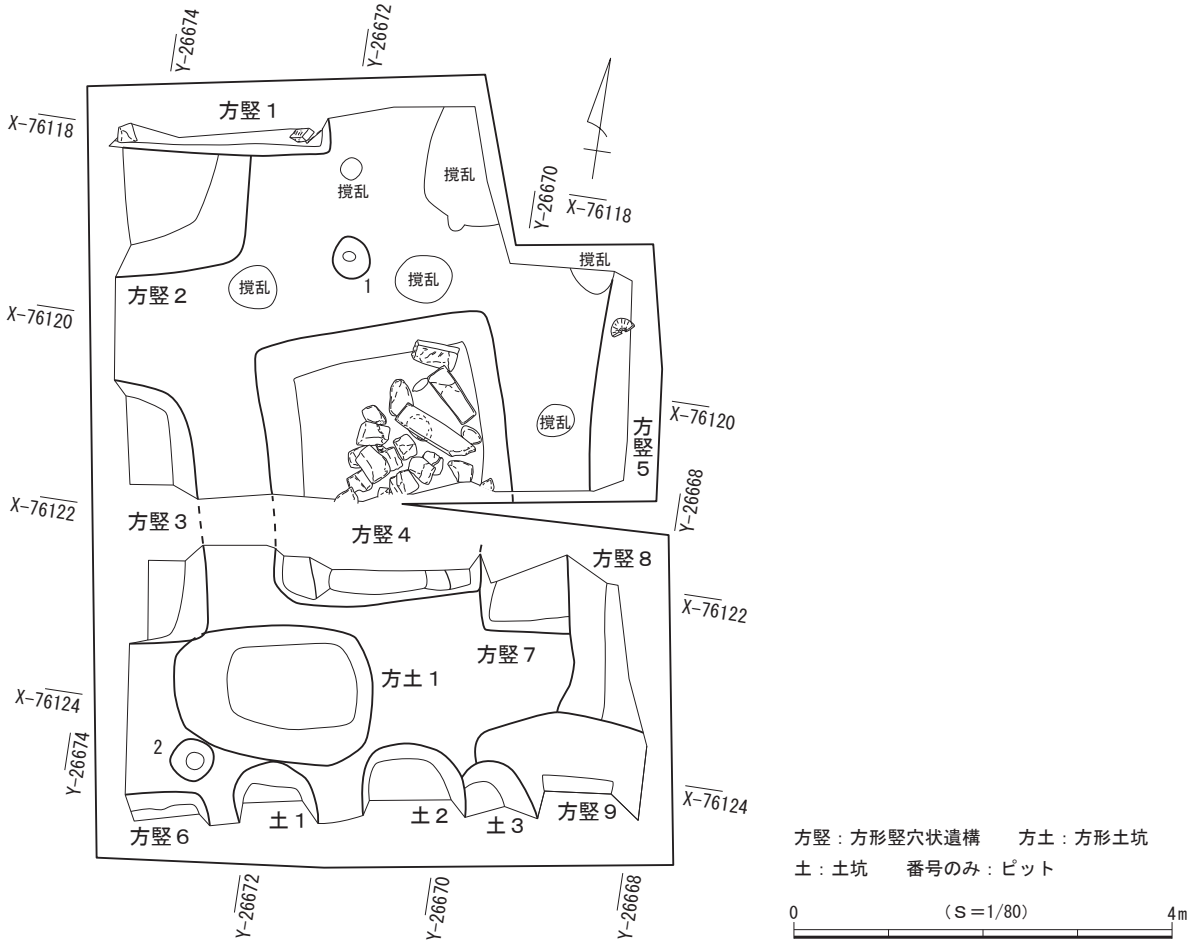


図６　第１ａ面 遺構分布図

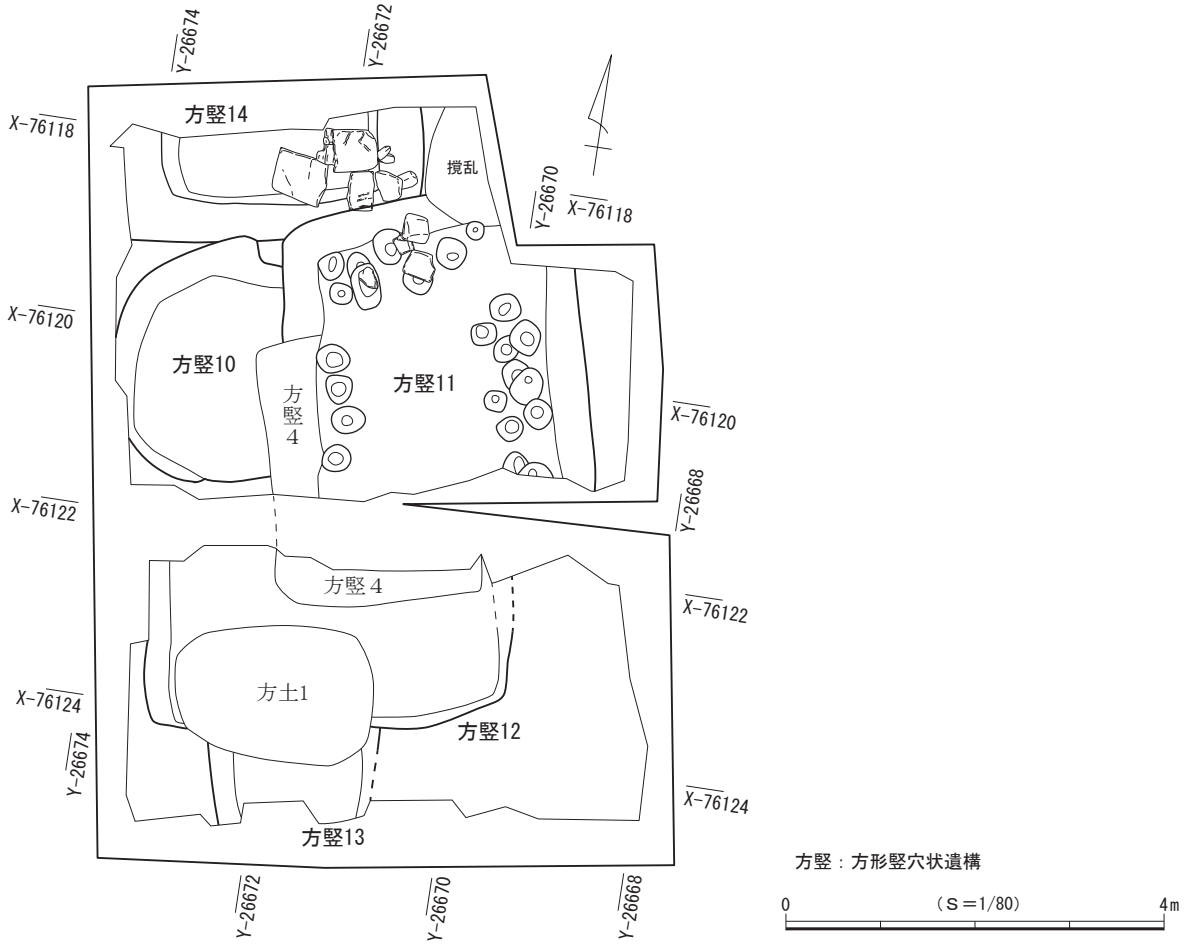


図７　第１ｂ面 遺構分布図

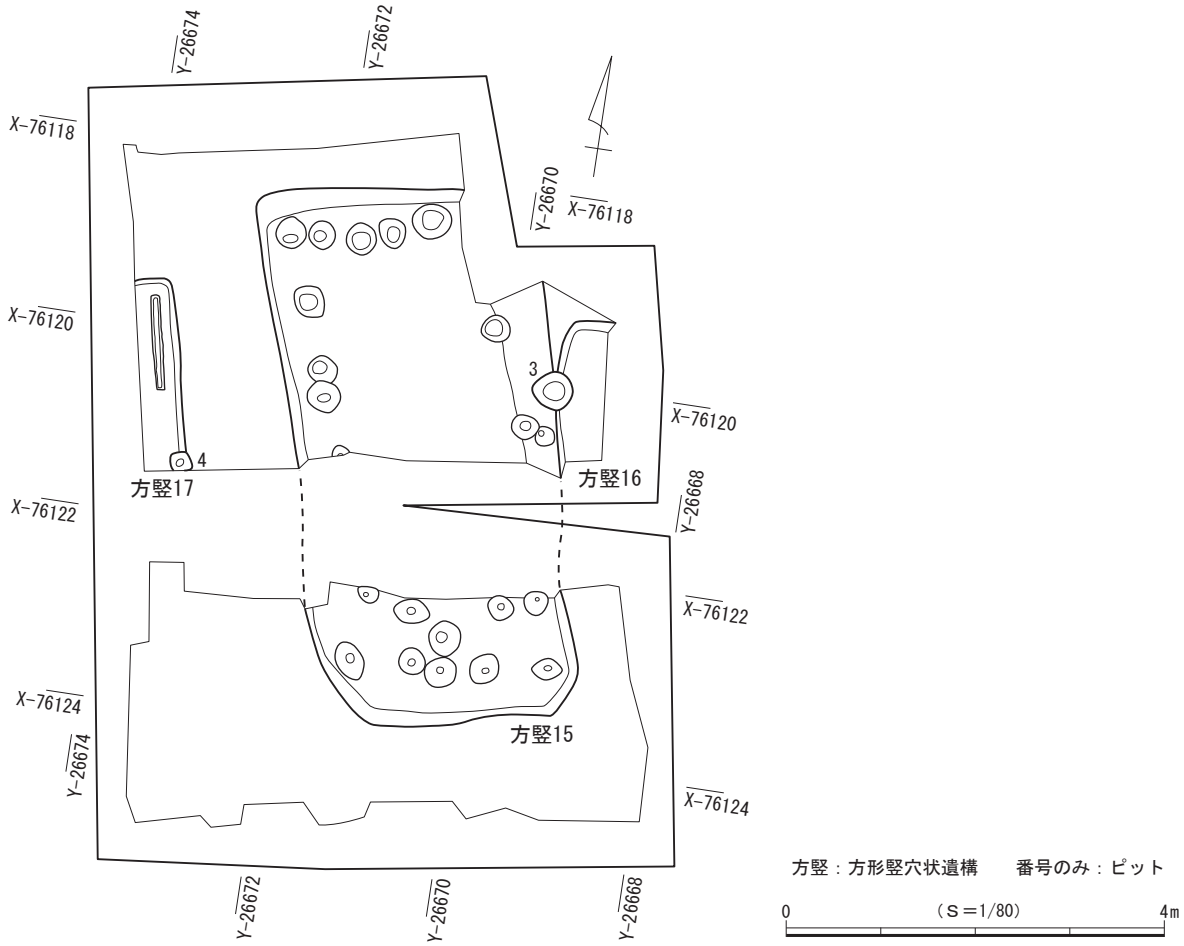


図８　第１ｃ面 遺構分布図

（１）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構１（図10）

第１ａ面に帰属し、調査区の北西隅に位置する。南側で方形竪穴状遺構２と重複して壊し、北側が調査区外へと続いており南壁際のみを検出した。底面は東側から西側に向かって傾斜し、壁はわずかに開いて立ち上がる。規模は南北現存長35㎝、東西現存長2.36ｍ、深さ50～74㎝で、底面の標高は東側が8.51ｍ、西側が8.30ｍを測る。主軸方位はＮ－83°－Ｅを指す。覆土中から砂質凝灰岩の切石が出土し、東側の切石は柱状を呈し、立てた状態で遺存していた。

遺物はかわらけ19点、陶器１点、土師質・瓦質土器２点、瓦１点、金属製品４点が出土した。

方形竪穴状遺構２（図10）

第１ａ面に帰属し、調査区の北西隅に位置する。北側で方形竪穴状遺構１と重複して壊され、西側が調査区外へと続いており南東側のコーナー部付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.37ｍ、東西現存長1.35ｍ、深さ55㎝で、底面の標高は8.40ｍを測る。主軸方位はＮ－５°－Ｗを指すと推定される。

出土遺物（図９）

遺物はかわらけ57点、陶器10点、土師質・瓦質土器３点が出土し、このうち３点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。

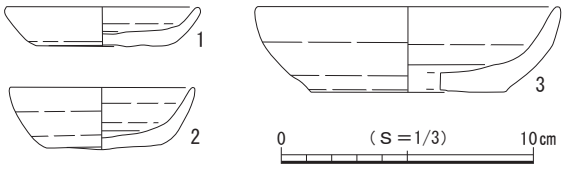


図９　第１ａ面 方形竪穴状遺構２出土遺物

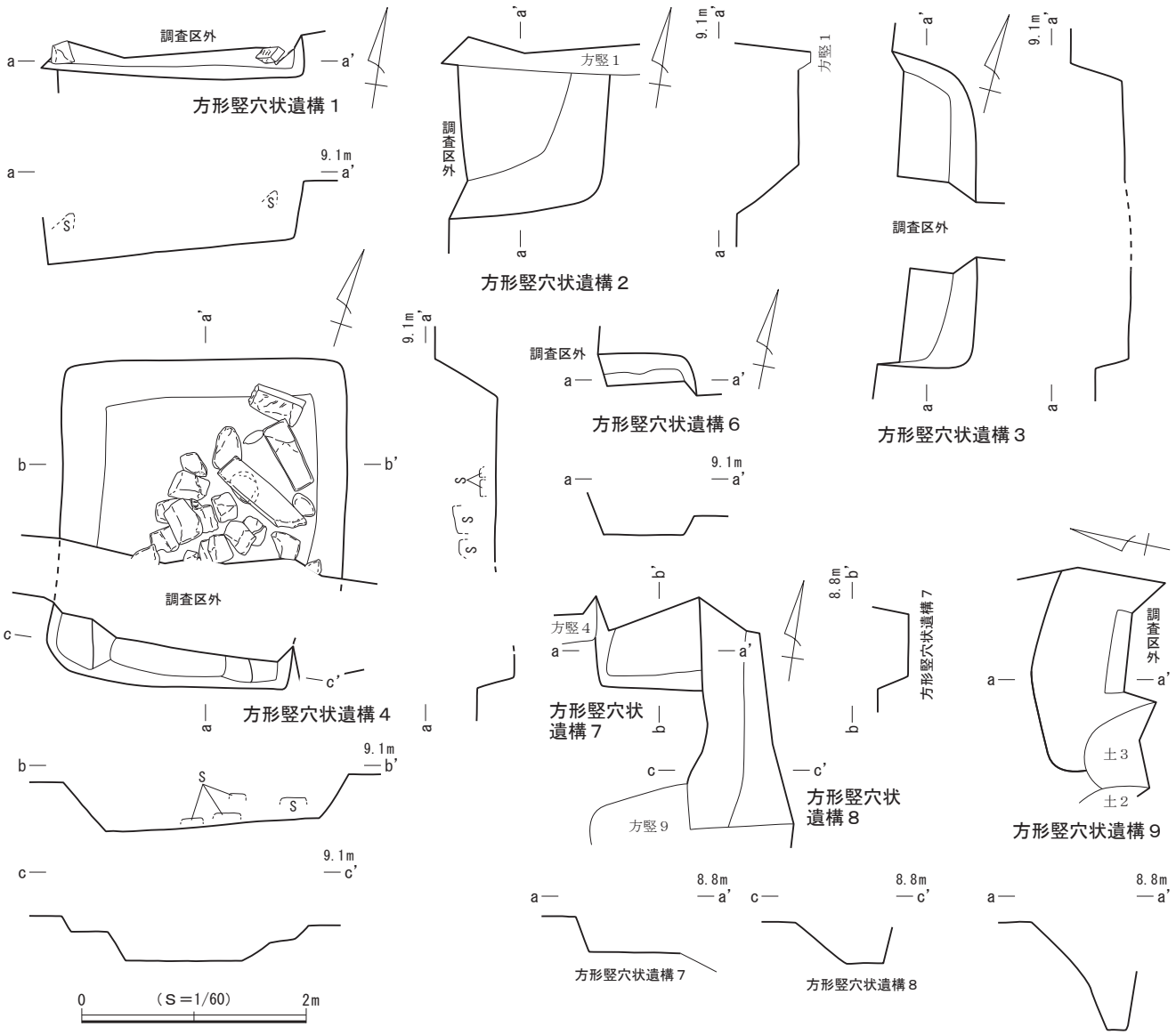


図10　第１a面 方形竪穴状遺構１～４・６～９

方形竪穴状遺構３（図10）

第１a面に帰属し、調査区西壁際の中央に位置する。南東側で方形土坑１とわずかに重複して壁を壊し、西側が調査区外へと続いており東壁付近のみを検出した。底面は緩やかな凹凸をもち、壁はやや開いて立ち上がる。規模は南北2.80m、東西現存長80㎝、深さ31～47㎝で、底面の標高は8.40mを測る。主軸方位はN－13°－Wを指すと推定される。

出土遺物（図11）

遺物はかわらけ58点、陶器10点、骨角製品１点、金属製品６点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

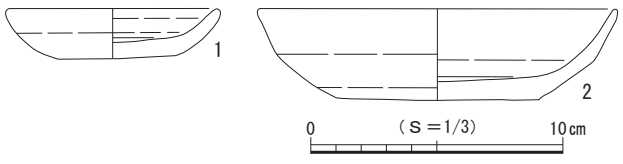


図11　第１a面 方形竪穴状遺構３出土遺物

方形竪穴状遺構４（図10）

第１a面に帰属し、調査区の中央に位置する。南東側で方形竪穴状遺構７と重複して壊され、南側が調査区の境の未調査区となっており、全容を把握することができなかった。検出範囲から平面形を推定

すると南北方向にやや長い隅丸方形と考えられ、底面は北東側から南西側に向かって傾斜し、壁は開いて立ち上がる。南壁の東西端に段が形成され、段の底面の標高は東側が8.49m、西側が8.59mで、底面との比高は15～25cmである。規模は長軸2.93m、短軸2.54m、深さ30～54cmで、底面の標高は東側が8.65m、南側が8.31mを測る。主軸方位はＮ－18°－Ｗを指す。覆土中から砂質凝灰岩の切石や安山岩、泥岩が出土し、大きさは長さ25～85cmを測る。出土層位は底面の直上から覆土上層にかけてで、原位置は保っておらず廃棄された状況を呈している。

出土遺物（図12）

遺物はかわらけ363点、磁器４点、陶器51点、瓦２点、骨角製品１点、金属製品25点が出土し、このうち４点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。４は瀬戸産の卸皿に形状が似た皿で、古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期に比定される。５は骨角製品の笄である。

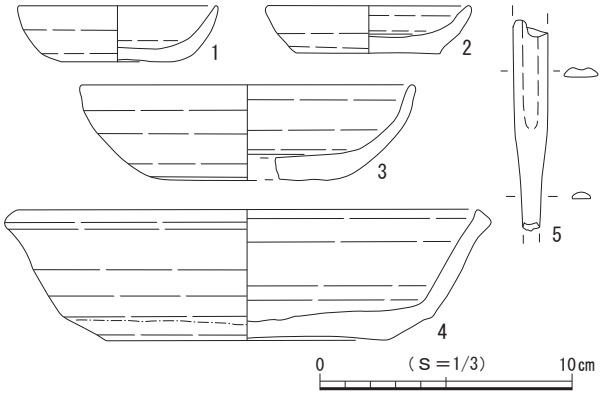


図12　第１ａ面 方形竪穴状遺構４出土遺物

方形竪穴状遺構５（図６）

第１ａ面に帰属し、調査区東壁際の北側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、東側が調査区外へと続いており西壁の一部のみを検出した。ごく一部の調査にとどまり、平面形や壁面、底面の形状や標高は判然とせず、個別図は掲載しなかった。ここでは規模と主軸方位の記載のみとなるが、南北現存長2.23m、東西現存長40cmで、主軸方位はほぼ真北を指すと推定される。

出土遺物（図13）

遺物はかわらけ88点、磁器１点、陶器13点、土師質・瓦質土器１点、石製品１点、金属製品13点が出土し、このうち５点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。４は瀬戸産の卸皿で古瀬戸後期様式Ⅰ期に比定される。５は金属製品で釘である。

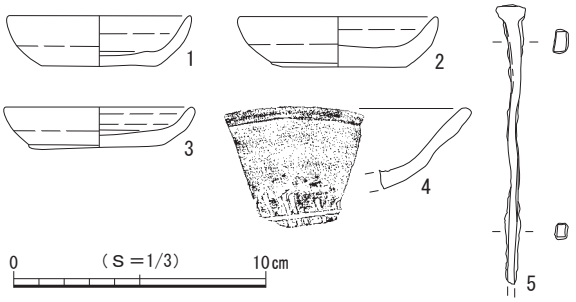


図13　第１ａ面 方形竪穴状遺構５出土遺物

方形竪穴状遺構６（図10）

第１ａ面に帰属し、調査区の南西隅に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており北東側のコーナー部付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長29cm、東西現存長90cm、深さ17cmで、底面の標高は8.61mを測る。主軸方位はＮ－78°－Ｅを指すと推定される。

出土遺物（図14）

遺物はかわらけ５点、磁器１点、陶器１点、土師質・瓦質土器２点、石製品１点、金属製品４点が出土し、このうち１点を図示した。

１は土師質土器の南伊勢系土鍋である。

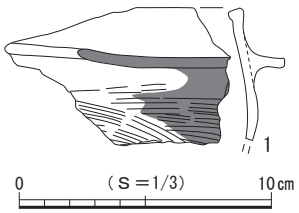


図14　第１ａ面 方形竪穴状遺構６出土遺物

方形竪穴状遺構７（図10）

第１ａ面に帰属し、調査区の南東側に位置する。西側で方形竪穴状遺構４、東側で方形竪穴状遺構８と重複して壊され、南西側のコーナー部付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長80㎝、東西現存長93㎝、深さ30㎝で、底面の標高は8.30ｍを測る。主軸方位はＮ－82°－Ｅを指すと推定される。

遺物はかわらけ22点、磁器１点、陶器４点、金属製品２点が出土した。

方形竪穴状遺構８（図10）

第１ａ面に帰属し、調査区東壁際の南側に位置する。北側で方形竪穴状遺構７と重複して壊し、東側が調査区外へと続いており西壁の一部のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。規模は南北2.05ｍ、東西現存長91㎝、深さ37㎝で、底面の標高は8.21ｍを測る。主軸方位はＮ－６°－Ｗを指すと推定される。

出土遺物（図15）

遺物はかわらけ46点、磁器１点、陶器５点、金属製品２点が出土し、このうち３点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。１の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

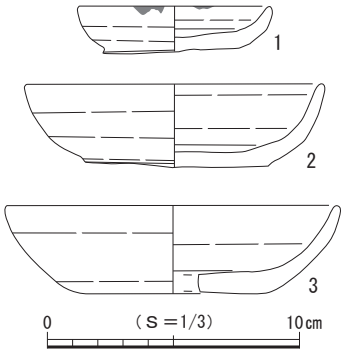


図15　第１ａ面 方形竪穴状遺構８出土遺物

方形竪穴状遺構９（図10）

第１ａ面に帰属し、調査区の南東隅に位置する。北側で方形竪穴状遺構８と重複して壊し、西側で土坑３と重複して壁の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており北西側のコーナー部付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がり、中位で大きく開く。規模は南北現存長1.12ｍ、東西現存長1.80ｍ、深さ96㎝で、底面の標高は7.62ｍを測る。主軸方位は北側の上端ラインを基準にすると、Ｎ－77°－Ｅを指すと考えられる。

出土遺物（図16）

遺物はかわらけ57点、陶器８点、金属製品２点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は常滑産の片口鉢Ⅱ類で６ａ～７型式に比定される。

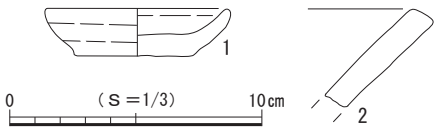


図16　第１ａ面 方形竪穴状遺構９出土遺物

方形竪穴状遺構10（図21）

第１ｂ面に帰属し、調査区の北西側に位置する。東側で方形竪穴状遺構４・11と重複して壊され、西壁のごく一部が調査区外へと続くが全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は緩やかに湾曲して立ち上がり、規模は長軸現存長2.60ｍ、短軸2.60ｍ、深さ77㎝で、底面の標高は8.21ｍを測る。主軸方位はＮ－82°－Ｅを指すと推定される。

出土遺物（図17）

遺物はかわらけ132点、磁器３点、陶器46点、土師質・瓦質土器４点、石製品１点、骨角製品１点、

金属製品13点が出土し、このうち９点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。４・５は常滑産の陶器類である。４は甕で６ｂ～７型式、５は片口鉢Ⅱ類で６ｂ～７型式に比定される。６は砥石である。７は骨角製品で笄である。８・９は銭貨で、８は元祐通寶（1086年初鋳）、９は元符通寶（1098年初鋳）である。

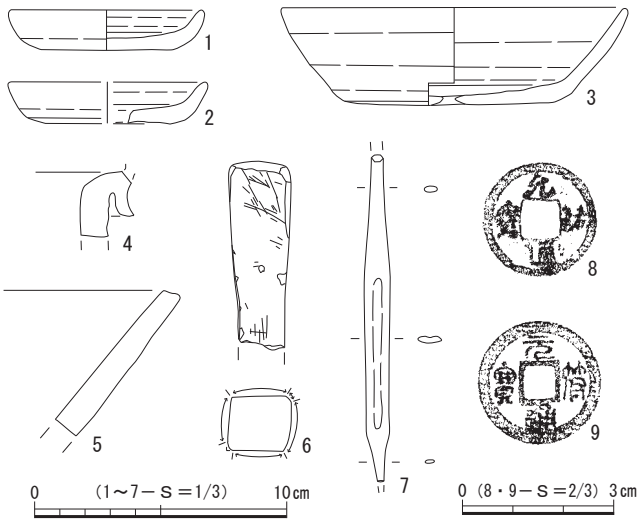


図17　第１ｂ面 方形竪穴状遺構10出土遺物

方形竪穴状遺構11（図21）

第１ｂ面に帰属し、調査区の中央から北側にかけて位置する。北側で方形竪穴状遺構14、西側で方形竪穴状遺構10と重複して壊している。西側で方形竪穴状遺構４と重複して壁の一部が壊され、南側が調査区の境となっているため全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると南北に長い隅丸方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、規模は長軸現存長3.21ｍ、短軸3.15ｍ、深さ60㎝で、底面の標高は8.36ｍを測る。主軸方位はＮ－14°－Ｗを指すと推定される。底面の壁際にピットが連続して穿たれており、合計23基を検出した。ピットの平面形は円形ないし楕円形で、規模は長軸19～47㎝、深さ12～23㎝を測る。また、東側の覆土中から切石が出土し、大きさは長さ17～30㎝を測る。切石は原位置を保っておらず廃棄された状況を呈している。

出土遺物（図18）

遺物はかわらけ453点、磁器４点、陶器86点、土師質・瓦質土器２点、須恵器１点、石製品２点、骨角製品１点、金属製品39点が出土し、このうち17点を図示した。また、本址は釘の出土量が多いことが特徴的である。

１～４はロクロ成形によるかわらけである。５は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。６は瀬戸産の卸皿で古瀬戸中期様式に比定される。７～10は常滑産の陶器類である。７・８は甕で６ａ～７

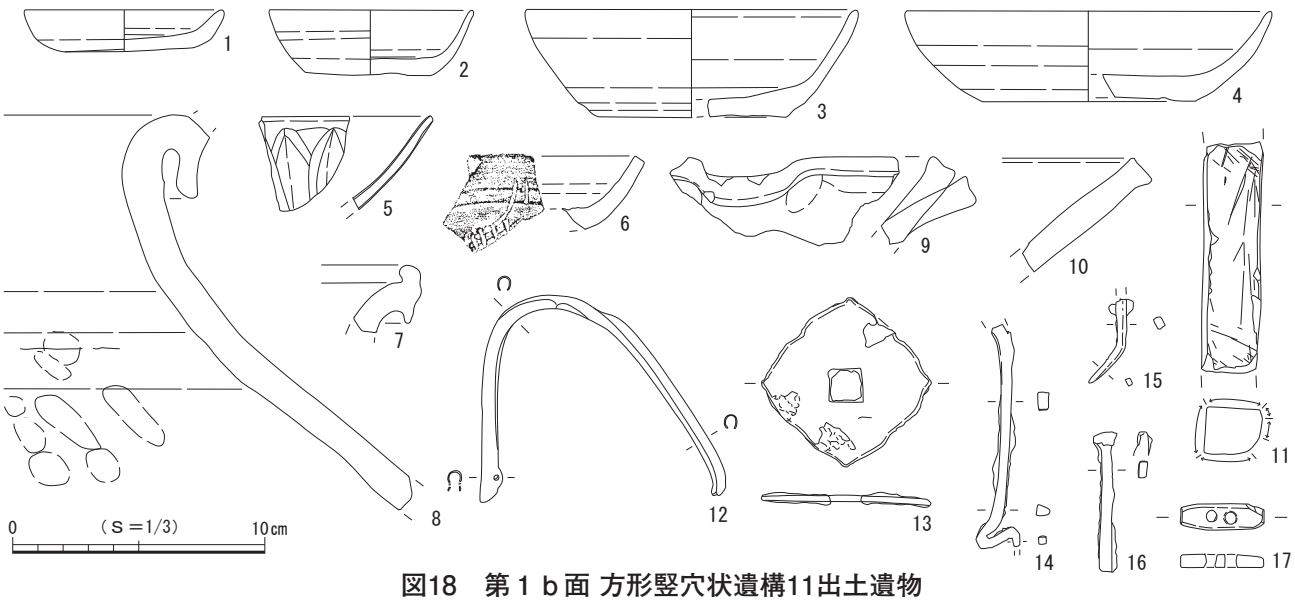


図18　第１ｂ面 方形竪穴状遺構11出土遺物

型、９・10は片口鉢Ⅱ類で８～９型式に比定される。11は砥石である。12～16は金属製品である。12は把手、13は建具金具、14は用途不明、15・16は釘である。17は骨角製品で用途不明である。

方形竪穴状遺構12（図21）

第１ｂ面に帰属し、調査区の南側に位置する。南側で方形竪穴状遺構13と重複して壊し、同じく南側で方形土坑１、北側で方形竪穴状遺構４と重複して壁と底面の一部が壊されている。北側が調査区の境となるため、全容を把握できなかった。底面はほぼ平らで、壁はわずかに開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.71ｍ、東西3.85ｍ、深さ44㎝で、底面の標高は8.21ｍを測る。主軸方位はＮ－82°－Ｅを指すと推定される。

出土遺物（図19）

遺物はかわらけ238点、磁器４点、陶器32点、土師質・瓦質土器１点、金属製品27点が出土し、このうち９点を図示した。

１～７はロクロ成形によるかわらけである。５の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。８・９は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。

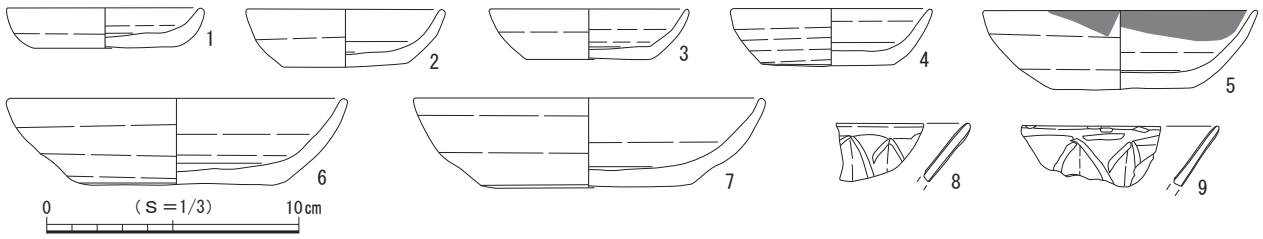


図19　第１ｂ面 方形竪穴状遺構12出土遺物

方形竪穴状遺構13（図21）

第１ｂ面に帰属し、調査区南壁際の西側に位置する。北側で方形土坑１、方形竪穴状遺構12と重複して壁と底面を壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長90㎝、東西1.80ｍ、深さ30㎝で、底面の標高は8.40ｍを測る。主軸方位はＮ－５°－Ｗを指すと推定される。

出土遺物（図20）

遺物はかわらけ98点、陶器12点、土師質・瓦質土器１点、石製品１点、金属製品６点が出土し、このうち５点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。４は瀬戸産の卸皿で古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期に分類される。５は常滑産の甕で６ａ型式に比定される。

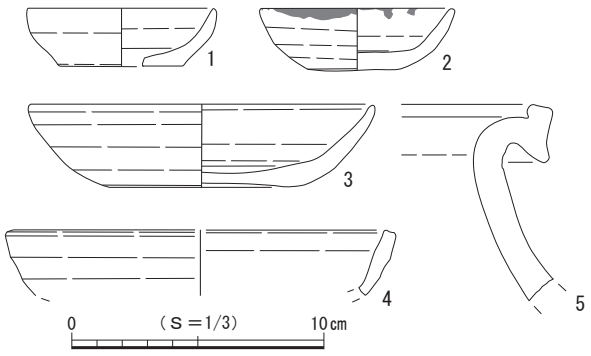
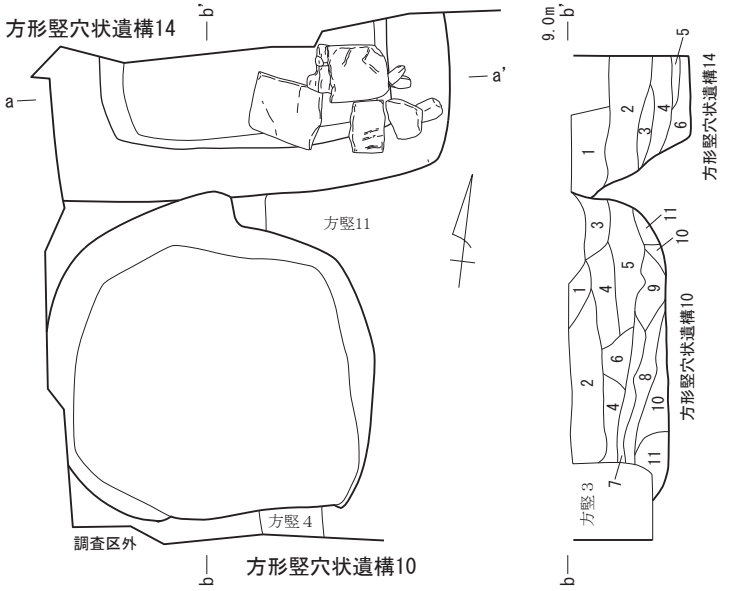


図20　第１ｂ面 方形竪穴状遺構13出土遺物

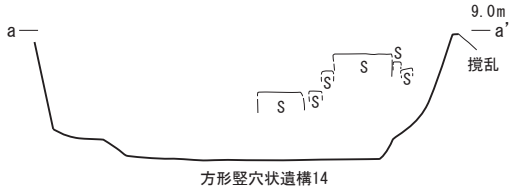
方形竪穴状遺構14（図21）

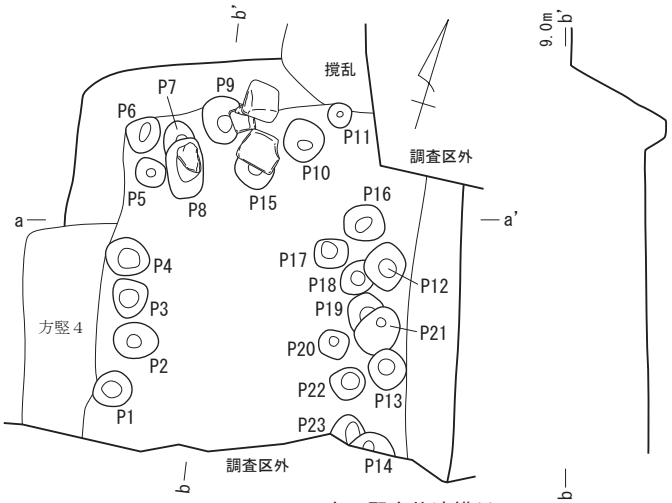
第１ｂ面に帰属し、調査区の北壁際に位置する。南側で方形竪穴状遺構10・11と重複して壁の一部をを壊され、北側が調査区外へと続いており南側のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上



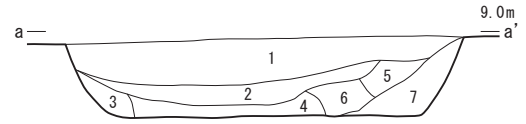
方形竪穴状遺構10
１層　暗褐色砂　炭化物・貝片・かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
２層　暗褐色砂　泥岩ブロック微量、炭化物・貝片少量、淡茶色砂多量に含む。締まり若干あり。
３層　淡茶褐色砂　泥岩粒微量、炭化物・貝片少量、暗褐色粘土ブロック微量含む。締まりなし。
４層　淡茶褐色砂　炭化物・貝片少量、暗褐色粘土ブロック微量含む。締まり若干あり。
５層　淡茶褐色砂　泥岩ブロック微量、炭化物少量、淡黄褐色砂中量含む。締まりあり。
６層　暗褐色砂　泥岩粒・貝片微量、炭化物少量、淡茶色砂中量含む。締まりややあり。
７層　暗褐色弱粘質砂　炭化物多量、淡黄褐色砂中量、貝片微量含む。締まりあり。
８層　淡茶褐色砂　炭化物・貝片少量、暗褐色砂中量含む。締まりあり。
９層　暗褐色砂　泥岩粒。貝片・かわらけ片微量、淡茶褐色砂中量含む。締まりあり。
10層　淡茶褐色砂　炭化物微量、貝片・暗褐色粘土ブロック少量含む。締まりあり。
11層　淡茶褐色砂　炭化物中量、貝片微量、暗褐色砂多量に含む。締まりあり。

方形竪穴状遺構 14
１層　茶褐色砂　泥岩粒・炭化物少量、貝片少量、かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
２層　茶褐色砂　炭化物多量、かわらけ片微量含む。締まり若干あり。
３層　淡茶褐色砂　炭化物多量、貝片少量含む。締まりややあり。
４層　淡茶褐色砂　炭化物少量、貝片少量、暗褐色弱粘土ブロック多量に含む。締まりあり。
５層　淡茶褐色砂　炭化物少量含む。締まりあり。
６層　暗褐色砂　炭化物微量、黄褐色砂中量含む。締まりややあり。





方形竪穴状遺構11
１層　暗褐色砂泥岩ブロック・炭化物少量、貝片・かわらけ片中量含む。締まりややあり。
２層　暗褐色砂　泥岩粒・炭化物・かわらけ片少量、黄褐色砂多量に含む。締まりややあり。
３層　淡黄褐色砂　炭化物・貝片微量、暗褐色砂中量含む。締まりややあり。
４層　淡黄褐色砂　泥岩粒・貝片・炭化物微量含む。締まりややあり。
５層　暗褐色砂　泥岩ブロック微量、炭化物・貝片少量含む。締まりややあり。
６層　暗褐色砂　泥岩ブロック・炭化物・貝片・かわらけ片微量含む。締まりややあり。
７層　淡黄褐色砂　炭化物・貝片少量、暗褐色弱粘土ブロック中量含む。締まり若干あり。



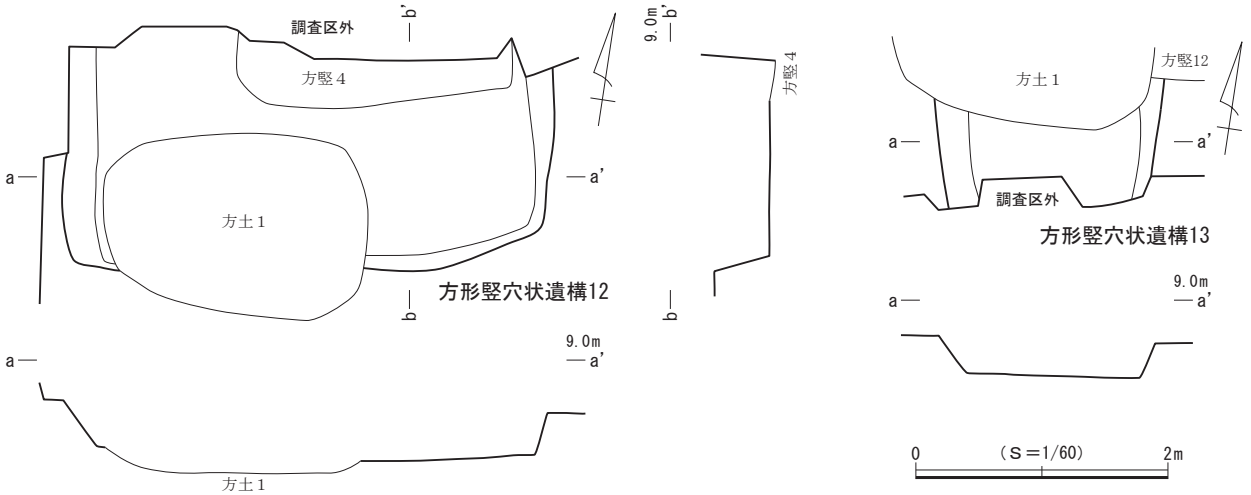


図21　第１b面 方形竪穴状遺構10～14

がり、下位でわずかに屈曲して緩やかに湾曲して立ち上がる。規模は南北1.22m、東西現存長3.32m、深さ96㎝で、底面の標高は7.99mを測る。主軸方位はＮ－79°－Ｅを指すと推定される。東側の覆土上層から中層にかけて切石が出土し、大きさは長さ30～55㎝を測る。切石は原位置を保っておらず廃棄された状況を呈している。

出土遺物（図22）

遺物はかわらけ37点、陶器２点、金属製品８点が出土し、このうち12点を図示した。

１～11はロクロ成形によるかわらけである。12は銭貨で聖宋元寶（1101年初鋳）である。

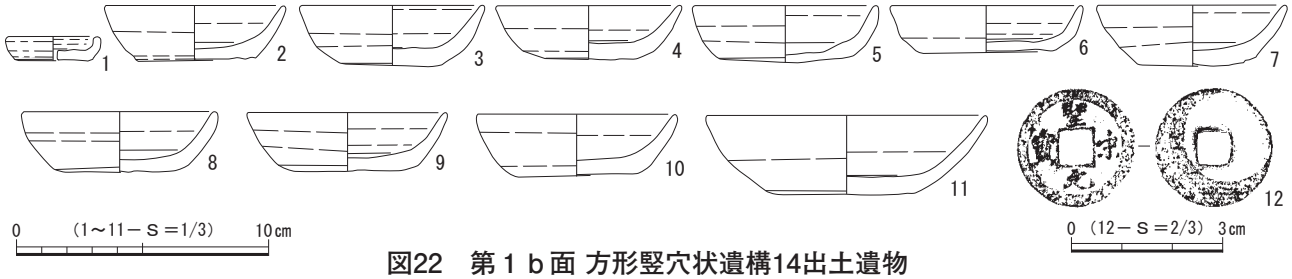


図22　第１ｂ面 方形竪穴状遺構14出土遺物

方形竪穴状遺構15（図23）

第１ｃ面に帰属し、調査区の南東から北東にかけて位置する。東側で方形竪穴状遺構16と重複して壊し、ピット３と重複して壁の一部が壊されている。本址の中央から南側にかけての範囲が調査区外となっており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると南北に長い隅丸長方形と考え

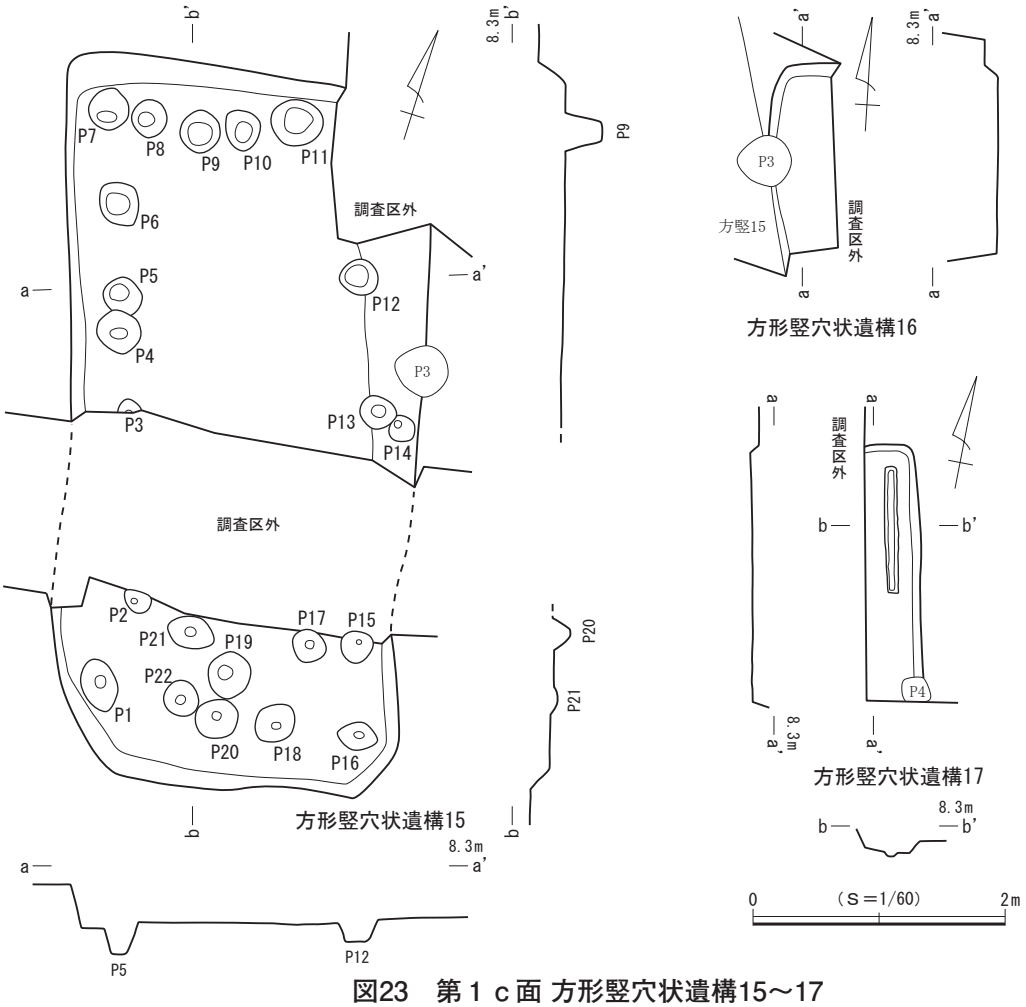


図23　第１ｃ面 方形竪穴状遺構15～17

られ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、規模は長軸5.70m、短軸2.89m、深さ24～34cmで、底面の標高は7.85～8.01mを測る。主軸方位はN－16°－Wを指す。底面の壁際にピットが連続して穿たれており、合計22基を検出した。ピットの平面形は円形ないし楕円形で、規模は長軸23～43cm、深さ10～37cmを測る。

出土遺物（図24）

遺物はかわらけ413点、陶器62点、土師質・瓦質土器６点、骨角製品１点、金属製品11点が出土し、このうち６点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。４・５は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。６は銭貨で熙寧元寶（1068年初鋳）である。

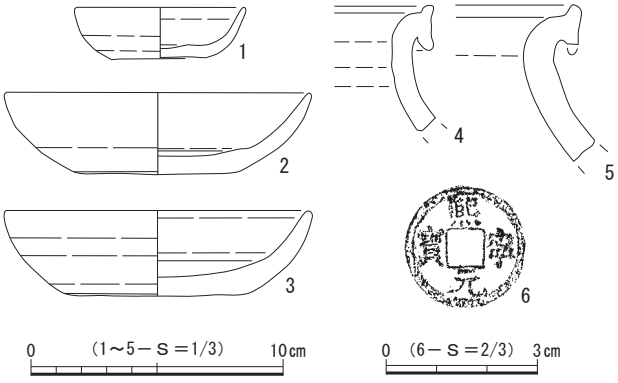


図24　第１ｃ面 方形竪穴状遺構15出土遺物

方形竪穴状遺構16（図23）

第１ｃ面に帰属し、調査区東壁際の北側に位置する。西側で方形竪穴状遺構15、ピット３と重複して壁の一部が壊され、東側が調査区外へと続いているため西壁の一部のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.65m、東西現存長52cm、深さ11cmで、底面の標高は7.79mを測る。主軸方位はN－３°－Wを指すと推定される。

出土遺物（図25）

遺物はかわらけ41点、磁器２点、陶器11点、金属製品５点が出土し、このうち５点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。４は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。５は器形が備前産の擂鉢に似た産地不明の擂鉢である。

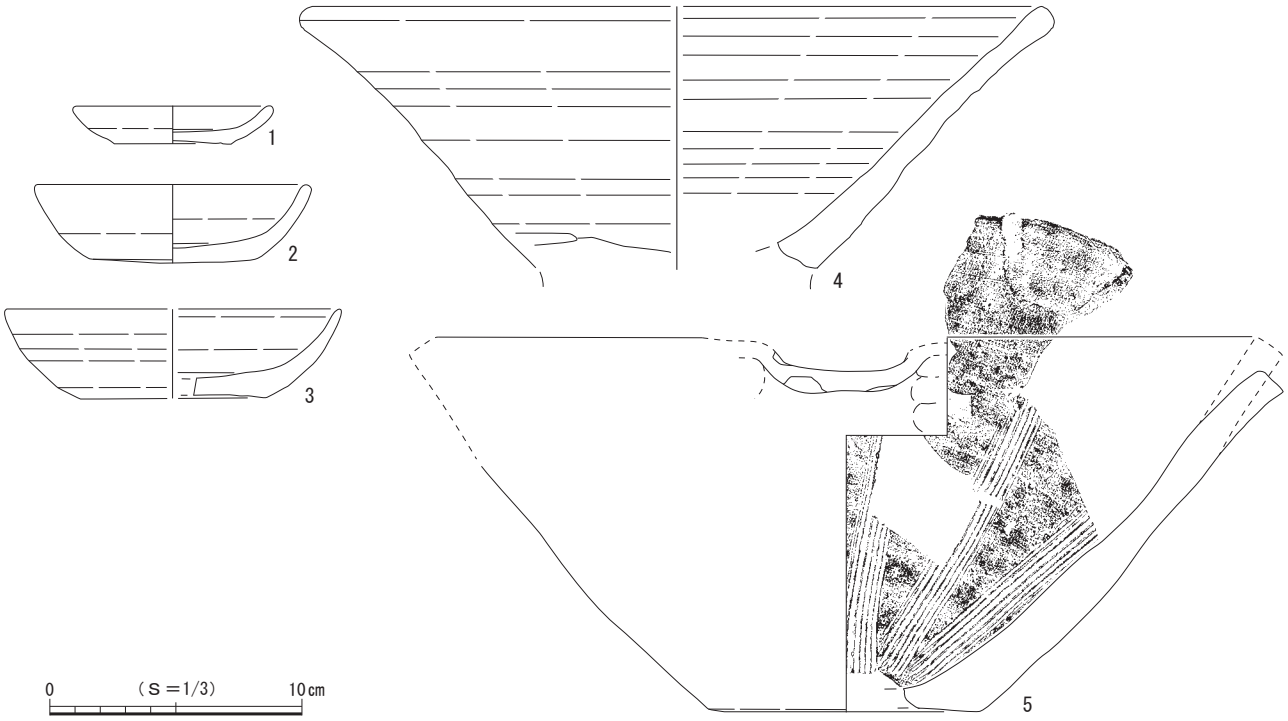


図25　第１ｃ面 方形竪穴状遺構16出土遺物

方形竪穴状遺構17（図23）

第１ｃ面に帰属し、調査区西壁際の中央に位置する。南側でピット４と重複して壁の一部が壊され、西側と南側が調査区外へと続いているため東壁のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長2.04ｍ、東西現存長44㎝、深さ９㎝で、底面の標高は8.14ｍを測る。主軸方位はＮ－12°－Ｗを指すと推定される。壁に沿って南北方向に延びる溝状の掘り込みが底面上で確認され、規模は長さ1.0ｍ、幅10㎝、深さ６㎝を測る。

出土遺物（図26）

遺物はかわらけ26点、陶器２点が出土し、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

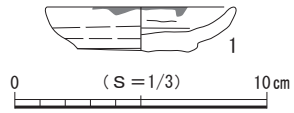


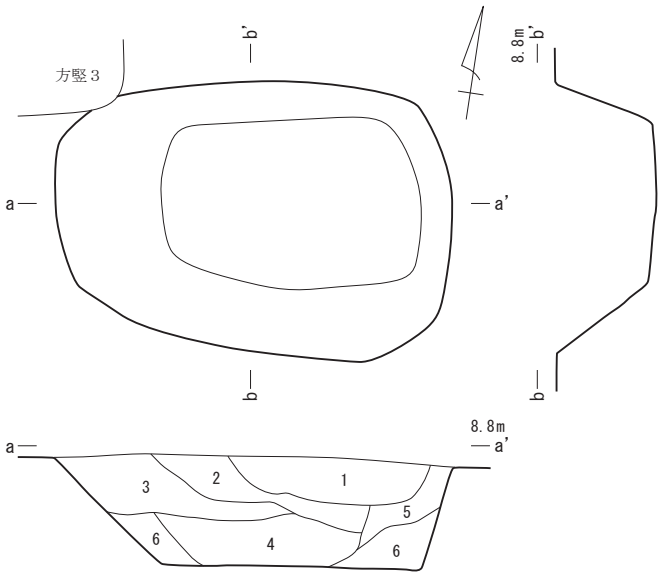
図26　第１ｃ面 方形竪穴状遺構17出土遺物

（２）方形土坑

方形土坑１（図27）

第１ａ面に帰属し、調査区の南西側に位置する。北西側で方形竪穴状遺構３と重複して壁のごく一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は隅丸長方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、東壁のみわずかに開く。断面形は逆台形を呈する。規模は長軸2.10ｍ、短軸1.43ｍ、深さ57㎝で、坑底面の標高は8.15ｍを測る。主軸方位はＮ－81°－Ｅを指す。

遺物はかわらけ65点、陶器16点、土師質・瓦質土器３点が出土した。



１層　暗褐色砂質土　炭化物・かわらけ片微量、貝片・貝粒少量含む。締まり若干あり。
２層　暗褐色砂質土　炭化物・貝砂・貝片少量、かわらけ粒微量含む。締まりなし。
３層　暗褐色砂質土　炭化物・貝粒微量含む。締まりなし。
４層　暗褐色砂質土　炭化物・かわらけ片・かわらけ粒少量、貝砂少量含む。締まり若干あり。
５層　暗褐色砂質土　炭化物・貝砂微量、黄褐色砂少量含む。締まりややあり。
６層　暗褐色砂質土　炭化物・泥岩粒・貝粒微量、黄褐色砂少量含む。締まりややあり。

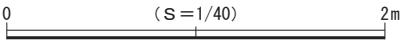


図27　第１ａ面 方形土坑１

（３）土　坑

土坑１（図29）

第１ａ面に帰属し、調査区南壁際の西側に位置する。調査区内では他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長42㎝、東西87㎝、深さ25㎝で、坑底面の標高は8.52ｍを測る。

出土遺物（図28）

遺物はかわらけ15点、陶器１点、土師質・瓦質土器１点、金属製品２点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は常滑産の片口鉢Ⅱ類である。

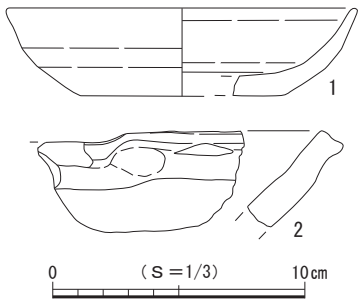


図28　第１ａ面 土坑１出土遺物

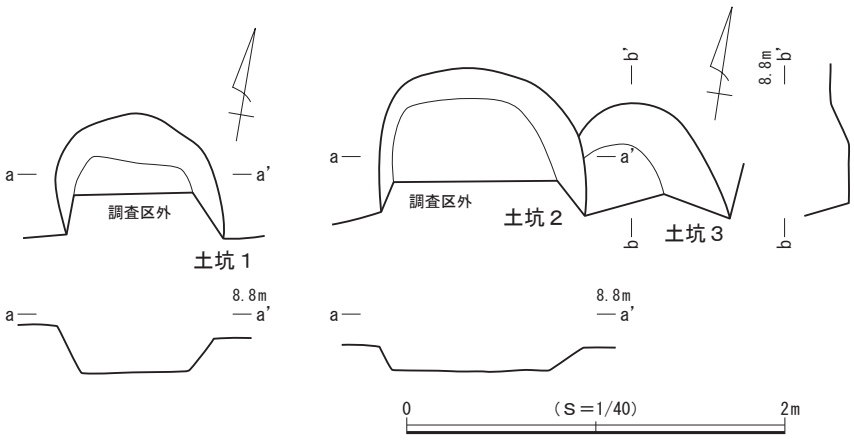


図29　第１ａ面 土坑１～３

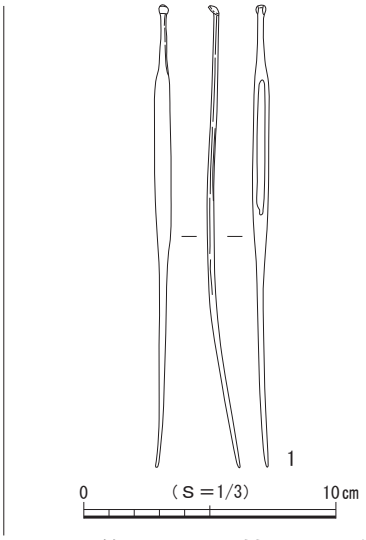


図30　第１ａ面 土坑２出土遺物

土坑２（図29）

第１ａ面に帰属し、調査区南壁際の中央に位置する。東側で土坑３と重複して壁と底面の一部を壊し、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長60㎝、東西1.08ｍ、深さ13㎝で、坑底面の標高は8.51ｍを測る。

出土遺物（図30）

遺物はかわらけ15点、骨角製品１点、金属製品１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は骨角製品の笄である。

土坑３（図29）

第１ａ面に帰属し、調査区南壁際の東側に位置する。東側で方形竪穴状遺構９と重複して壊し、西側で土坑２と重複して壁と底面の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長53㎝、東西現存長72㎝、深さ13㎝で、底面の標高は8.47ｍを測る。

遺物はかわらけ４点、金属製品１点が出土した。

（４）ピット

第１面では、４基を検出した。細別帰属面ごとの数をみていくと、第１ａ面は２基、第１ｃ面は２基となる。第１ａ面では北側と南側に5.6ｍ程離れ、第１ｃ面では東側と西側に４ｍ程離れて位置する。平面形は円形と方形を基調とし、規模は長軸22～46㎝、深さ11～33㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

（５）第１ａ～１ｃ面 遺構外出土遺物（図31）

第１ａ～１ｃ面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち９点を図示した。また、図示できなかったが、本面では釘の出土点数が多いことが特徴的である。

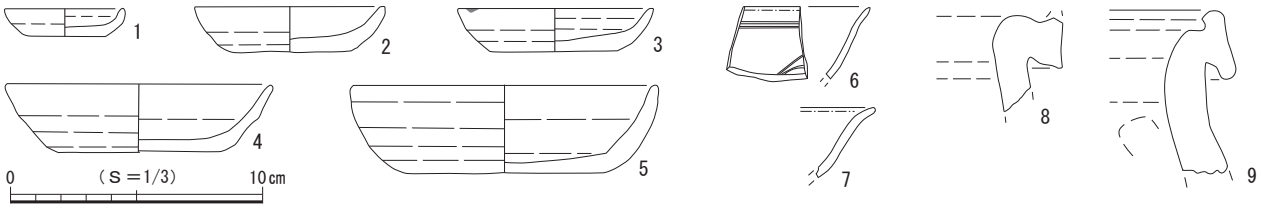


図31　第１ａ～１ｃ面 遺構外出土遺物

１～５はロクロ成形によるかわらけで、３の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。６・７は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。８・９は常滑産の甕で６ｂ型式に比定される。

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の５層上面で検出され、確認面の標高は8.0～8.1ｍを測る。５層は微量の淡茶色砂・炭化物、少量の貝片を含み締まりのある黄褐色砂層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は方形竪穴状遺構８基、土坑３基、ピット９基である（図32）。調査区全域にわたり遺構が密に分布しており、重複するものも多く認められる。調査区外へと続いている遺構も認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

遺物は主にかわらけ、陶器、土器、土師質・瓦質土器、須恵器、石製品、金属製品などのほか、方形竪穴状遺構18・21～25、土坑９、ピット６、遺構外、構成土からは動物遺体も多く出土している。これらの年代観から本面は13世紀代に属すると考えられる。

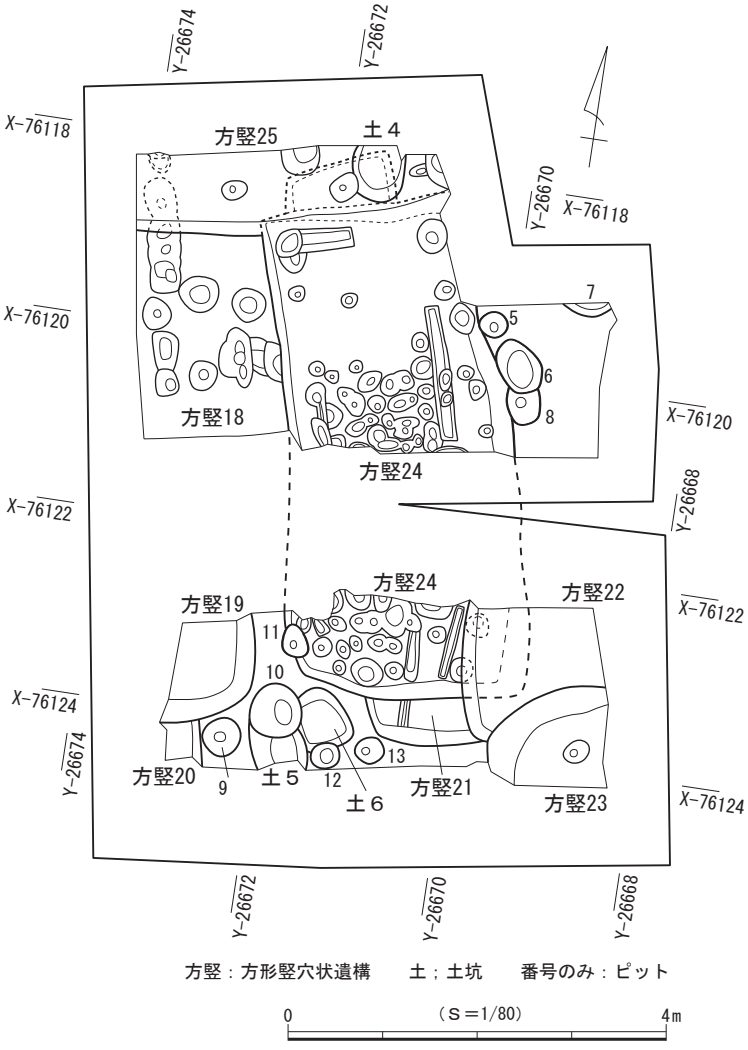


図32　第２面 遺構分布図

（１）方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構18（図34）

調査区の北西側に位置する。掘り込みは確認されなかったが、ピットの配列から方形竪穴状遺構と判断した。東側で方形竪穴状遺構24、北側で方形竪穴状遺構25と重複して壊され、南側と西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲では底面はほぼ平らで、規模は南北現存長2.29ｍ、東西現存長1.52ｍ、深さ27㎝である。底面の標高は7.86ｍを測る。底面上にピット13基がＬ字状に配列され、その内側にピット２基が確認された。ピットの平面形は円形

ないし方形を呈し、規模は長軸22～41㎝、深さ６～31㎝を測る。ピットの配列から主軸方位を推定すると、Ｎ－10°－Ｗを指すと考えられる。

出土遺物（図33）

遺物はかわらけ143点、陶器12点、土師質・瓦質土器１点、石製品２点、金属製品38点が出土し、このうち４点を図示した。また、図示できなかったが、本址は釘の出土点数が多いことが特徴的である。

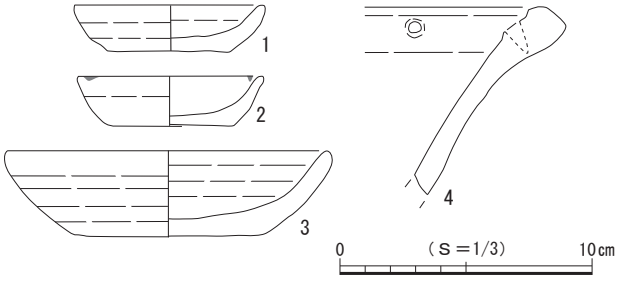


図33　第２面 方形竪穴状遺構18出土遺物

１～３はロクロ成形によるかわらけである。２の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。４は土師質・瓦質土器の火鉢でＩＢ類に比定される。

方形竪穴状遺構19（図34）

調査区の南西隅に位置する。南側で方形竪穴状遺構20と重複して壊し、北側と西側は調査区外へと続いており南東側のコーナー部付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.05ｍ、東西現存長84㎝、深さ25㎝で、底面の標高は7.81ｍを測る。主軸方位は東側の上端ラインを基準にすると、Ｎ－５°－Ｗを指すと考えられる。

遺物はかわらけ14点、陶器１点が出土した。

方形竪穴状遺構20（図34）

調査区の南西隅に位置する。北側で方形竪穴状遺構19と重複して壁と底面が壊され、南側と西側が調査区外へと続いており東壁のごく一部のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長39㎝、東西現存長37㎝、深さ17㎝で、底面の標高は7.86ｍを測る。主軸方位は東側の上端ラインを基準にすると、Ｎ－12°－Ｗを指すと考えられる。

遺物はかわらけ３点が出土した。

方形竪穴状遺構21（図34）

調査区南側の中央に位置する。北側で方形竪穴状遺構24、東側で方形竪穴状遺構22と重複して大部分が壊されており、南西側のコーナー部付近のみを検出した。底面は平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長49㎝、東西現存長1.02ｍ、深さ13㎝で、底面の標高は7.83ｍを測る。主軸方位は南側の上端ラインを基準にすると、Ｎ－82°－Ｅを指すと考えられる。南壁に直行する向きで南北方向に延びる溝状の掘り込みが底面上で確認され、規模は現存長28㎝、幅10㎝、深さ７㎝を測る。

遺物はかわらけ３点が出土した。

方形竪穴状遺構22（図34）

調査区の南東隅に位置する。西側で方形竪穴状遺構24と重複して上面を壊し、南側で方形竪穴状遺構23と重複して壁と底面が壊されており、全容を把握できなかった。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.47ｍ、東西現存長1.45ｍ、深さ９㎝で、底面の標高は7.78ｍを測る。主軸方位はＮ－９°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ13点、陶器２点、土師質・瓦質土器１点、須恵器１点が出土した。

方形竪穴状遺構23（図34）

調査区の南東隅に位置する。北側で方形竪穴状遺構22と重複して壊し、東側と南側が調査区外へと続いており北西側のコーナー部付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。規模は北東－南西方向の現存長1.25m、北西－南東方向の現存長1.02m、深さ24㎝で、底面の標高は7.84mを測る。北壁より26㎝離れた底面から楕円形を呈するピット１基が確認され、規模は長軸27㎝、深さ19㎝を測る。

遺物はかわらけ４点、陶器１点が出土した。

方形竪穴状遺構24（図34）

調査区中央の北側から南側にかけて位置する。南側で方形竪穴状遺構21と重複して壊し、北側で方形

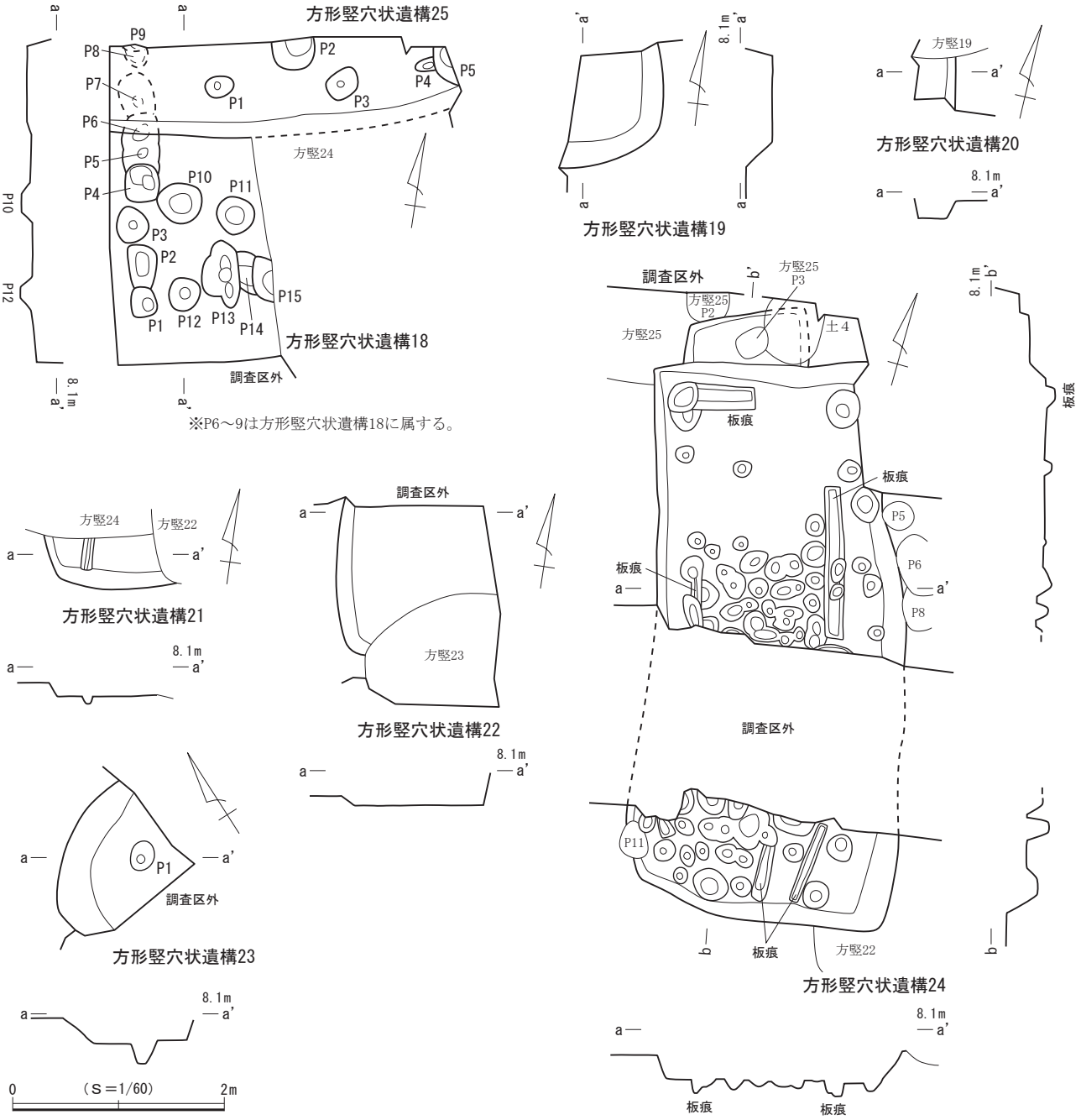


図34　第２面 方形竪穴状遺構18～25

竪穴状遺構25と土坑４、南東側で方形竪穴状遺構22と重複して壁や底面の一部が壊されている。また、本址の中央から南側にかけての範囲は調査区の境で未調査区となっており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると南北に長い隅丸長方形と考えられ、底面は南側から北側に向かってわずかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、規模は長軸5.75m、短軸2.59m、深さ20cmで、底面の標高は7.58mを測る。本址は北側に南北50cm、東西1.18mの張り出しを伴っており、その底面は主体部の底面よりも10cmほど高く、出入り口施設の可能性が考えられる。主軸方位はＮ－12°－Ｗを指す。底面から溝状の掘り込みが確認され、北壁と東壁、西壁の一部に沿うものと南壁に直交する向きで掘り込まれたものとがある。規模は長さ0.5～1.42m、幅12～24cm、深さ10cm前後を測る。また、中央から南側にかけて小ピットが密に検出されており、本址の掘り方と考えられる。この掘り方のピットの他に東壁と南壁、北西壁際に規模のやや大きいピットが配置されており、上部構造に関連するものと推定される。

出土遺物（図35）

遺物はかわらけ18点、陶器２点、金属製品１点が出土し、このうち２点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、口縁部から内面には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。２は銭貨で元祐通寶（1086年初鋳）である。

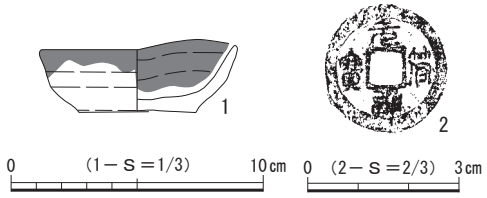


図35　第２面 方形竪穴状遺構24出土遺物

方形竪穴状遺構25（図34）

調査区の北側に位置する。西側で方形竪穴状遺構18、南側で方形竪穴状遺構24と重複して壊し、土坑４と重複して底面の一部が壊されている。北側が調査区外へと続いており、南壁付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は大きく開いて立ち上がる。規模は南北現存長87cm、東西現存長3.30m、深さ７cmで、底面の標高は7.83mを測る。主軸方位はＮ－77°－Ｅを指すと考えられる。底面からピット５基が確認され、規模は長軸27～40cm、深さ６～22cmを測る。

出土遺物（図36）

遺物はかわらけ39点、陶器８点、須恵器１点、金属製品６点が出土し、このうち２点を図示した。

１・２はロクロ成形によるかわらけである。

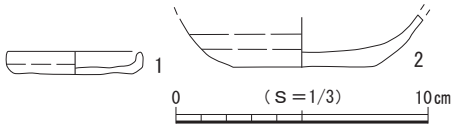


図36　第２面 方形竪穴状遺構25出土遺物

（２）土　坑

土坑４（図37）

調査区の北壁際に位置する。南側で方形竪穴状遺構25のＰ３と重複して壁の一部が壊され、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長61cm、短軸56cm、深さ22cmで、坑底面の標高は7.63mを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。

遺物は出土しなかった。

土坑５（図37）

調査区南壁際の西側に位置する。東側で土坑６と重複して壊し、北側でピット10と重複して壁と底面の一部が壊され、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定

すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長56㎝、短軸57㎝、深さ29㎝で、坑底面の標高は7.77ｍを測る。主軸方位はＮ－20°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

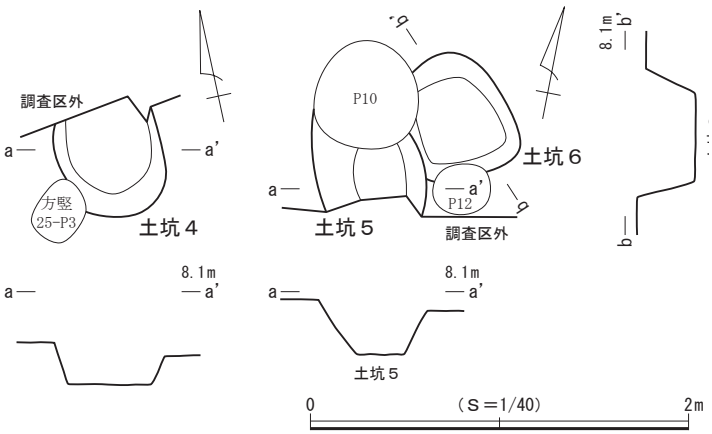


図37　第２面 土坑４～６

土坑６（図37）

調査区の南西側に位置する。西側で土坑５、ピット10、南側でピット12と重複して壁と底面の一部が壊されるが、全容をほぼ把握することができた。平面形は略隅丸方形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸67㎝、短軸現存長52㎝、深さ31㎝で、坑底面の標高は7.72ｍを測る。主軸方位はＮ－44°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

（３）ピット

第２面では、９基を検出した。方形竪穴状遺構24の北東側と南西側に分布のまとまりが認められたが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸30～59㎝、深さ８～27㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は９基中、３基（ピット７・10・11）から出土している。詳細は出土遺物一覧表（表７）を参照されたい。

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の８層上面で検出され、確認面の標高は7.5～7.7ｍを測る。８層はごく微量の炭化物を含み締まりのある淡茶褐色砂層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は竪穴状遺構１基、掘立柱建物１棟、溝状遺構１条、火葬墓１基、ピット４基である（図38）。調査区全域に遺構

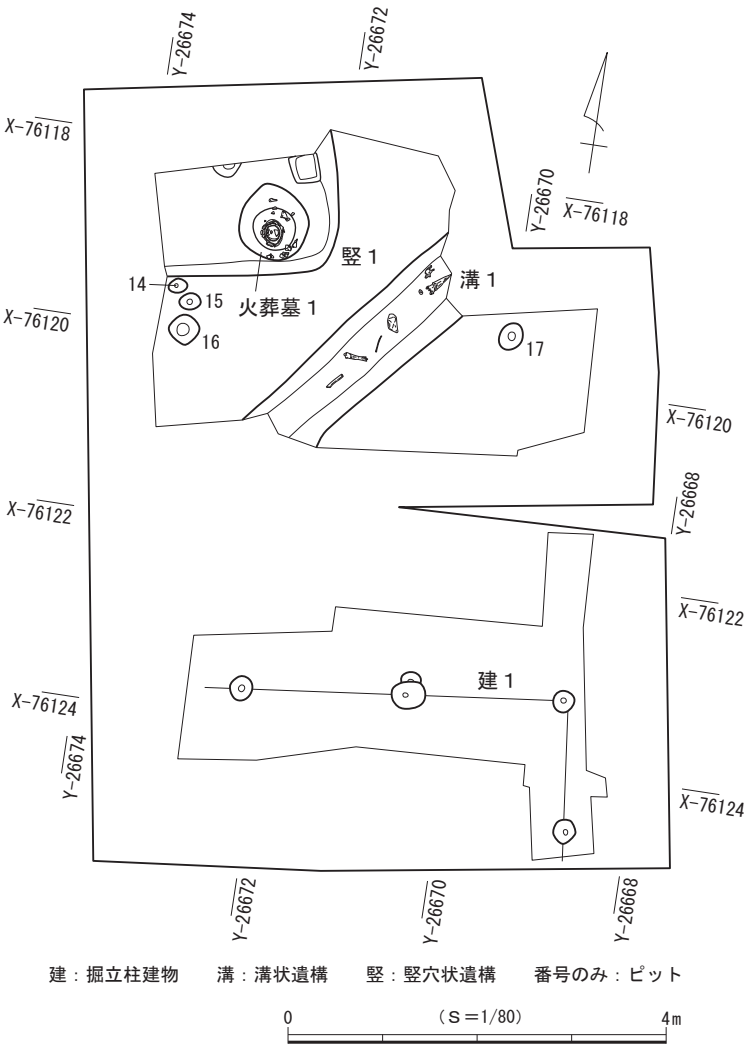


図38　第３面 遺構分布図

が分布するが疎らで、重複するものはほとんど認められなかった。一方で調査区外へと続いている遺構が認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。

遺物は主にかわらけ、陶器、須恵器、瓦、土器などのほか、溝状遺構１、遺構外からは動物遺存体や貝類も多く出土している。これらの年代観から本面では中世と古代の遺構が同一面で調査されたと考えられる。中世の遺構（掘立柱建物１・溝状遺構１）については13世紀代、古代の遺構（竪穴状遺構１・火葬墓１）については９世紀代～10世紀代に属すると推定される。

（１）竪穴状遺構

竪穴状遺構１（図39）

調査区の北西隅に位置する。南東側で火葬墓１と重複して底面の一部が壊され、北側と西側が調査区外へと続いており南東側のコーナー部付近のみを検出した。底面はほぼ平らで、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長1.40m、東西現存長1.92m、深さ19㎝で、底面の標高は7.41mを測る。北壁より26㎝離れた底面から楕円形を呈するピット１基が確認され、規模は長軸27㎝、深さ19㎝を測る。主軸方位はＮ－79°－Ｅを指す。

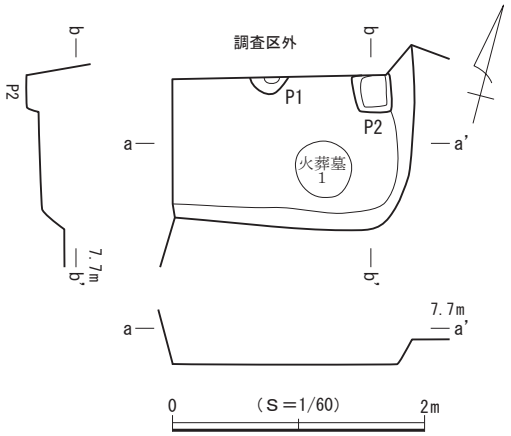


図39　第３面 竪穴状遺構１

出土遺物（図40）

遺物は土器３点が出土し、それを図示した。

１はロクロ土師器坏、２は武蔵型の長胴甕、３は相模型の長胴甕である。

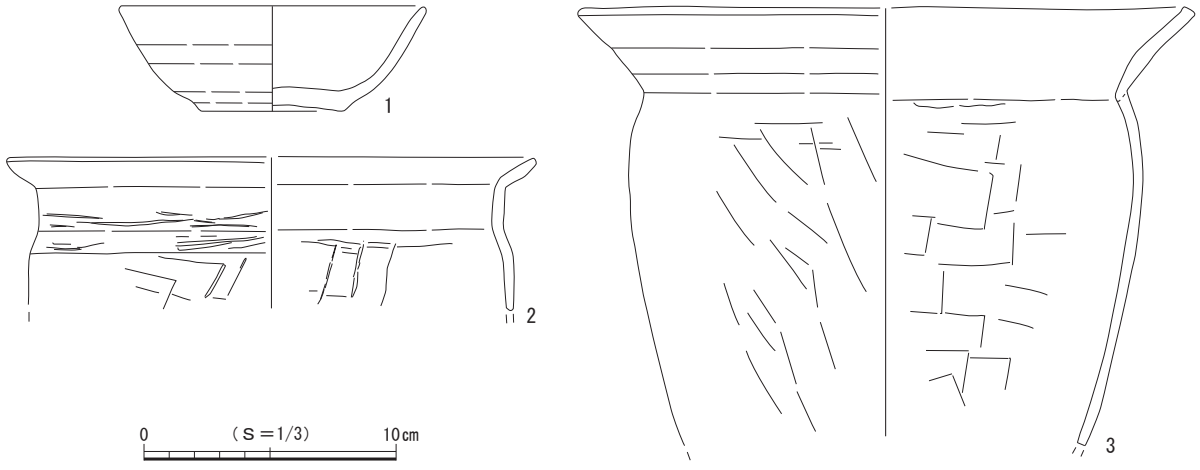


図40　第３面 竪穴状遺構１出土遺物

（２）掘立柱建物

掘立柱建物１（図41）

調査区の南側に位置する。ピットの配置から遺構の広がりを推定すると、少なくとも南側の調査区外に展開していると考えられ、全容を把握することができなかった。調査区内では５本のピットを検出した。

本址は南北方向が１間以上、東西方向が２間以上の規模をもつ建物と推定され、規模は梁行の現存長

3.40m、桁行の現存長1.4mを測る。柱間寸法は心々間で東西列が1.7m等間、東西列が1.4mで、検出範囲から推定される主軸方位はN－83°－Eを指す。

ピットの平面形は円形と楕円形がみられ、規模は長軸21～35㎝、深さ11～49㎝を測る。ピット底面の標高は7.09～7.38mを測る。

遺物はかわらけ４点が出土した。

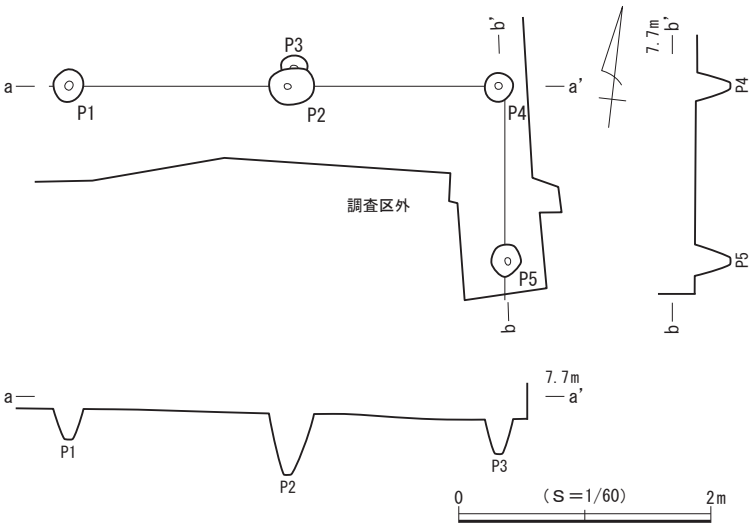


図41　第３面 掘立柱建物１

（３）溝状遺構

溝状遺構１（図42）

調査区の北側に位置し、北東－南西方向におおむね直線的に延びて調査区外へと続いている。調査区内では他の遺構との重複は認められなかった。検出した規模は現存長約2.9m、幅77㎝、深さ35㎝で、主軸方位はN－38°－Eを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は北東側で7.20m、南西側で7.18mを測る。なお、覆土中からは人骨、動物遺体として、ウマ・イルカの骨が出土している。

遺物はかわらけ２点、陶器１点、土器１点、須恵器２点が出土した。

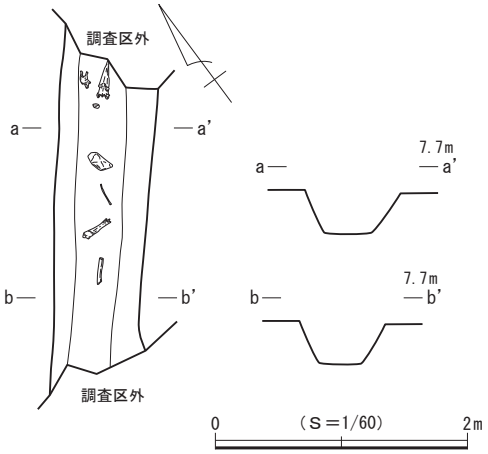


図42　第３面 溝状遺構１

（４）火葬墓

火葬墓１（図43）

調査区の北西側に位置する。竪穴状遺構１と重複して底面の一部を壊している。平面が不整円形を呈する掘り方のほぼ中央に、胴下部を欠損する武蔵型の長胴甕（図44－２）と相模型長胴甕（図44－１）の口縁部から頸部にかけてを内外に重ねて入れ子にし、覆土の中層に逆位の状態で埋置する。甕は内部から貝殻とともに全身の骨を含む被熱した人骨が出土したため蔵骨器と考えられ、出土人骨は成人女性と推定される。

掘り方の壁は開いて立ち上がり、中位で大きく開く断面漏斗状を呈する。底面はほぼ平らで、規模は長軸82㎝、短軸74㎝、深さ53㎝を測る。覆土の２層から貝殻が多量に出土しており、貝殻を用いて蔵骨器の周囲を被覆したと考えられる。

出土遺物（図44）

伏せ置かれていた長胴甕２点を図示した。

１は相模型の長胴甕、２は武蔵型の長胴甕である。２の外側に１が重ねられていた。

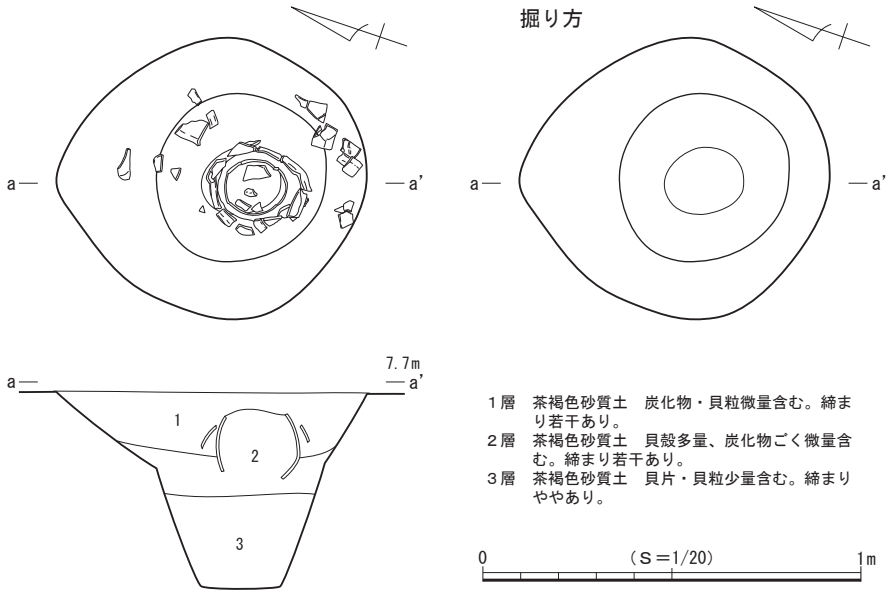


図43　第３面 火葬墓１

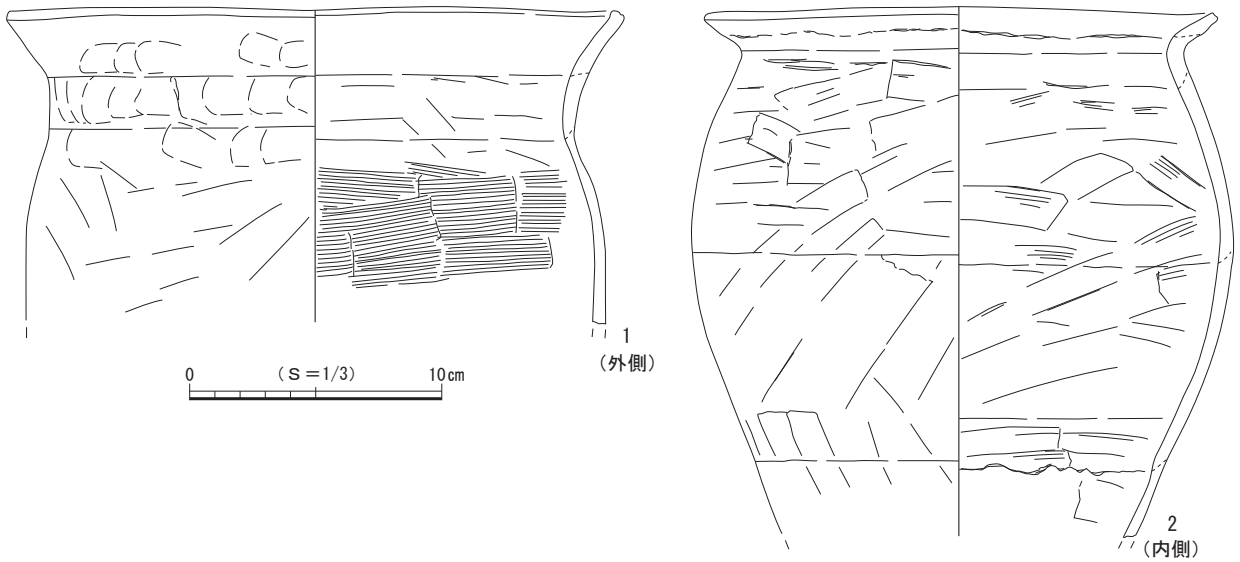


図44　第３面 火葬墓１出土遺物

（５）ピット

第３面では、４基を検出した。竪穴状遺構１の南側に分布のまとまりが認められたが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は長軸20～32㎝、深さ11～12㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の９層上面で検出され、確認面の標高は7.1～7.5ｍを測る。９層は少量の暗褐色砂を含み締まりのある明茶褐色砂層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構１条、火葬墓１基、土坑２基、ピット３基である（図45）。掘削深度の都合上、調査区が３ヵ

所に分かれて細切れになっており、いずれの調査範囲からも遺構が疎らに検出された。

遺物は主にかわらけ、土器、須恵器などのほか、遺構外からは貝類も多く出土している。出土遺物の年代観から本面では中世と古代の遺構が同一面で調査されたと考えられる。中世の遺構（溝状遺構２・土坑８）については13世紀代、古代の遺構（火葬墓２・土坑７）については９世紀代に属するものと推定される。

（１）溝状遺構

溝状遺構２（図46）

調査区の南側に位置し、北東－南西方向におおむね直線的に延びる。南側で掘立柱建物１のＰ２と重複して壁の一部が壊されるが、本址の南端は調査区内に収まり、北東側は調査区外へと続いている。検出した規模は現存長約50㎝、幅29㎝、深さ13㎝で、主軸方位はＮ－25°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平らで、標高は7.18ｍを測る。

遺物はかわらけ２点が出土した。

（２）火葬墓

火葬墓２（図47）

調査区の北東側に位置する。他の遺構との重複は認められなかった。平面形が円形を呈する掘り方のほぼ中央に、相模型長胴甕の口縁部から胴部にかけての部位を覆土の中層に逆位の状態で埋置する。甕は内部から全身の骨を含む被熱した人骨が出土したため蔵骨器と考えられ、出土人骨は成人男性と推定される。

掘り方の壁は開いて立ち上がり、底面はほぼ平らである。断面形は逆台形を呈し、規模は径37㎝、深さ20㎝を測る。

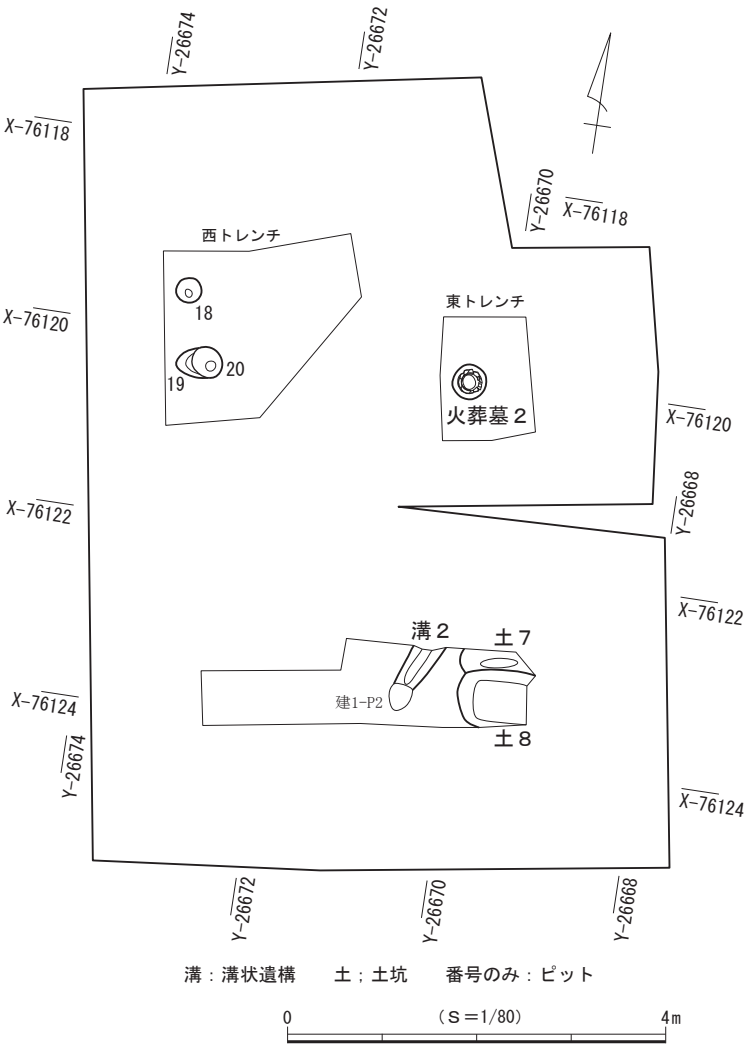


図45　第４面 遺構分布図

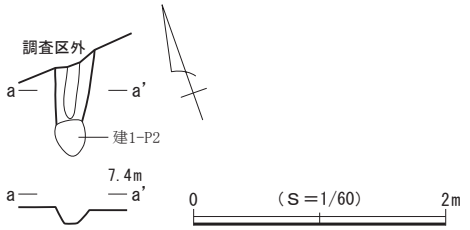


図46　第４面 溝状遺構２

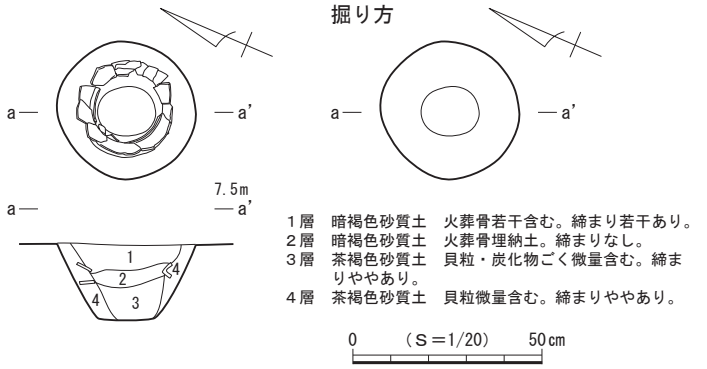


図47　第４面 火葬墓２

出土遺物（図48）

火葬蔵骨器として使用されていた長胴甕を図示した。

１・２は相模型の長胴甕である。両者を繋ぐ破片が見つからなかったために別図で示したが、同一個体と判断される。

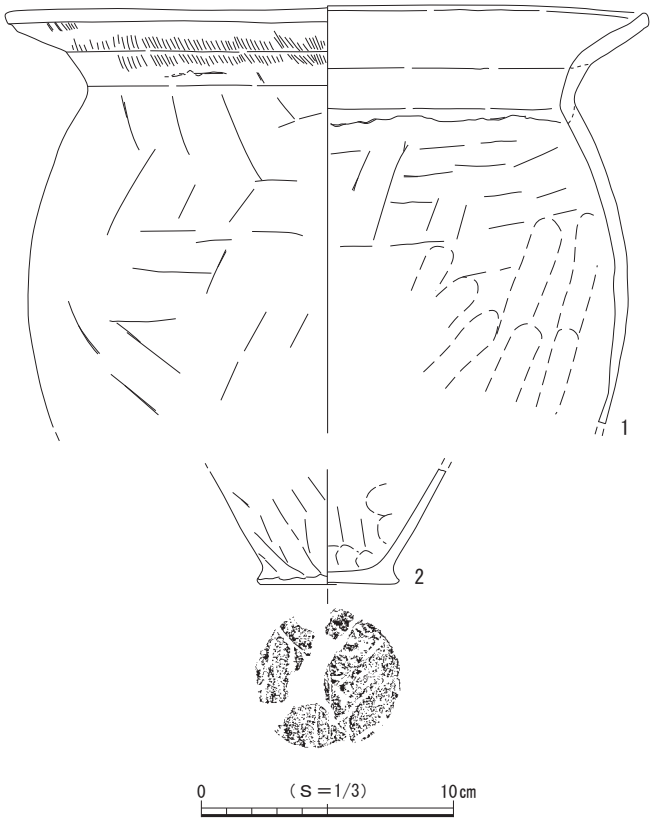


図48　第４面 火葬墓２出土遺物

（３）土　坑

土坑７（図49）

調査区の南東側に位置する。南側で土坑８と重複して壁が壊され、北側と東側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出された下端の形状から平面形を推定すると、略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長24㎝、東西現存長80㎝、深さ37㎝で、坑底面の標高は6.88ｍを測る。下端の形状を基準にすると、主軸方位はＮ－79°－Ｅを指すと考えられる。

遺物はかわらけ１点、須恵器２点が出土した。

土坑８（図49）

調査区の南東側に位置する。北側で土坑７と重複して壁を壊し、東側と南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長81㎝、短軸現存長60㎝、深さ19㎝で、坑底面の標高は7.03ｍを測る。主軸方位はほぼ真東を指す。

遺物はかわらけ６点が出土した。

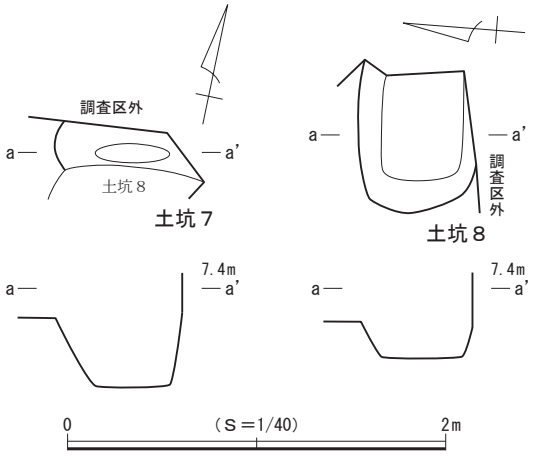


図49　第４面 土坑７・８

（４）ピット

第４面では、３基を検出した。調査区北西側にまとまって分布するが、調査区内では建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。平面形は円形を基調とし、規模は長軸27～34㎝、深さ11～46㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

第四章　自然科学分析

長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目204番５地点より出土した古代の火葬人骨について

水嶋崇一郎・平田和明
聖マリアンナ医科大学解剖学講座

はじめに

長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目204番５地点では、平成23（2011）年１月から３月にかけて鎌倉市教育委員会を主体とする発掘調査が行われ、第３・４面の調査区北側より蔵骨器に納められた火葬人骨２例が発見された。これらの人骨の所属時期は、共伴遺物をもとにして、おおよそ８～９世紀に属すると考えられている。今回、聖マリアンナ医科大学解剖学講座が本人骨の人類学的調査を行ったので、その結果について報告する。

人骨の所見

第３面 火葬墓１出土人骨

全身の骨が含まれるが、保存状態が悪く、非常に断片的である。いずれの骨も白色や黒色を呈して硬化しており、一部のものは捻転して骨表面に多数のひび割れが生じている。部位を特定できた骨は次のとおりである：左右の頭頂骨、右の側頭骨（岩様部のみ）、後頭骨、下顎骨（歯を含まない）、左右の寛骨、左の大腿骨、左の膝蓋骨、左右の距骨、左の踵骨、左の舟状骨（足部）、左右の外側楔状骨、左の立方骨。部位の重複は認められず、従って１体分の骨格に由来すると考えられる。左大腿骨の骨頭部が完全に癒合しており、この点から成人個体と判断される。右寛骨に妊娠痕と思しき痕跡が認められ、女性の可能性を指摘できる。

第４面 火葬墓２出土人骨

全身の骨を含むが、細かい断片に破砕しており、保存状態がきわめて悪い。被熱の影響によって白色や黒色を呈するものが多く、大半は硬質な骨質に変化している。残存する主な部位としては、左右の側頭骨（乳様突起）、後頭骨、下顎骨、歯牙片６点、左の有鉤骨、左右の大腿骨（骨幹部）、左の膝蓋骨がある。部位の重複はなく、１体分の骨格であると考えられる。資料中に指骨片が含まれており、その骨端部が癒合していたことから成人に属すると考えられる。頭蓋冠は概して分厚く、乳様突起が良く発達している印象を受ける。また右側の大腿骨においては比較的良く発達した粗線が認められる。これらの点から、本個体は男性の可能性が高い。

まとめ

平成23年の長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目204番５地点の発掘調査では、蔵骨器に納められた火葬人骨２体分が検出された。第３面火葬墓１から出土した人骨は成人に属し、女性の可能性が考えられる。また、第４面火葬墓２から出土した人骨は成人男性である可能性が高い。

長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目204番５地点出土の動物遺体について

中村　若枝

付表１　検出された動物遺体の種名表

軟体動物門 Phylum MULLUSCA	腹足綱 Class Gastropoda	原始腹足目 Order Archaeogastropoda	ミミガイ科 Family Haliotidae	マダカアワビ *Haliotis madaka*
				クロアワビ *Haliotis discus*
				メカイアワビ *Haliotis gigantea*
			ニシキウズガイ科 Family Trochidae	イシダタミ *Monodonta labio*
				クボガイ *Chlorostoma lischkei*
				クマノコガイ *Chlorostoma xanthostigma*
				コシダカガンガラ *Omphalius rusticus*
				バテイラ *Omphalius pfeifferi pfeifferi*
				イボキサゴ *Umbonium moniliferum*
				ダンベイキサゴ *Umbonium giganteum*
			サザエ科 Family Turbinidae	サザエ *Turbo sazae*
				スガイ *lunella coronata coreensis*
			タマガイ科 Family Naticidae	ツメタガイ *Glossaulax didyma*
				ホソヤツメタ *Glossaulax didyma hosoyai*
			タカラガイ科 Family Cypraeidae	メダカラ *Purpuradusta gracilis japonicus*
				ホシダカラ *Cypraea tigris*
		中腹足目 Order Mesogastropoda	タニシ科 Family Viviparidae	マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta*
			ウミニナ科 Family Batillariidae	ウミニナ *Batillaria multiformis*
				イボウミニナ *Batillaria multiformis*
				ホソウミニナ *Batillaria multiformis*
			フジツガイ科 Family Cymatiidae	カコボラ *Neapolitan triton*
		新腹足目 Order Neogastropoda	アッキガイ科 Family Muricidae	イボニシ *Thais clavigera*
				レイシ *Thais bronni*
				アカニシ *Rapana venosa*
			エゾバイ科 Family Buccinidae	ミクリガイ *Siphonalia cassidariaeformis*
				バイ *Babylonia japonica*
	二枚貝綱 Class Pelecypoda	フネガイ目 Order Arcoida	フネガイ科 Family Arcidae	サルボウ *Scapharca kagoshimensis*
		カキ目 Order Veneroida	イタボガキ科 Family Ostreida	イタボガキ *Ostrea denselamellosa*
				マガキ *Crassostrea gigas*
		マルスダレガイ目 Order Veneroida	バカガイ科 Family Mactridae	シオフキ *Mactra veneriformis*
			シジミ科 Family Corbiculidae	ヤマトシジミ *Corbicula japonica*
			マルスダレガイ科 Family Veneridae	アサリ *Ruditapes philippinarum*
				ハマグリ *Meretorx Lusoria*
				チョウセンハマグリ *Meretorx lamarckii*
			ニッコウガイ科 Family Tellinidae	イチョウシラトリ *Gomphina melanaegis*

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA	軟骨魚綱 Class Chondrichthyes	ツノザメ目 Order Squaliformes	ツノザメ科 Family Squalidae	ツノザメ科の一種 *Squalidae sp.*
		メジロサメ目 Order Carcharhiniformes	メジロザメ科 Family Carcharhinidae	メジロザメ科の一種 *Carcharhinidae sp.*
	条鰭綱 Class Actinopterygii	ボラ目 Order Mugiliformes	ボラ科 Family Mugilidae	ボラ *Muraenesox cinereus*
		スズキ目 Order Perciformes	スズキ科 Family Percichthyidae	スズキ *Lateolabrax Japonicus*
			タイ科 Family Sparidae	マダイ *Pagrus major*
			アジ科 Family Carangidae	ブリ *Seriola quinqueradiata*
			サバ科 Family Scombridae	カツオ *Katsuwonus pelamis*
		フグ目 Order Tetraodontiformes	フグ科 Family Tetraodontidae	フグ科の一種 *Tetraodontidae sp. Indent.*
		カレイ目 Order Pleuronectiformes	ヒラメ科 Family Paralichthyidae	ヒラメ *Paralichthys olivaceus*
	鳥綱 Class Aves	カモ目 Order Anatidae	カモ科 Family Anseriformes	コハクチョウ *Cygnus columbianus*
				カモ科の一種 *Anseriformes sp. Indent.*
		キジ目 Order Galliformes	キジ科 Family Category	ニワトリ *Gallus gallus domesticus*
	哺乳類 Class Mamm alia	ウサギ目 Order Primate	ウサギ科 Family Leporidae	ノウサギ *Lepus brachyurus*
		ネズミ目 Order Rodentia	ネズミ科 Family Muridae	ネズミ科の一種 *Muridae sp.*
		ネコ目 Order Carnivora	イヌ科 Family Canidae	イヌ *Canis familiariss*
			イタチ科 Family Mustelidae	テン *Martes melampus*
				ニホンアナグマ *Meles anakuma*
			ネコ科 Famil y felidae	ネコ *Felis catus*
		ウマ目 Order Perissodactyla	ウマ科 Family Equidae	ウマ *Equus caballus.*
		ウシ目 Order Artiodactyla	イノシシ科 Family Suidae	イノシシ *sus scrofa*
			シカ科 Family Cervidae	ニホンジカ *Cervus nippon*
			ウシ科 Family Bovidae	ウシ *Bos taurus*
		クジラ目 Order Cetartiodactyla	マイルカ科 Family Delphinidae	マイルカの一種 *Delphinidae sp.*

付表２　出土動物遺体一覧

遺構名	貝類	魚類	鳥類	哺乳類
表土	イボキサゴ(4)、ダンベイキサゴ(1)、サザエ(1)、ウミニナ(1) アカニシ(2)、バイ(4)、ハマグリ(L2R3)	ツノザメ科：背鰭第1棘 メジロザメ科:椎骨(1加工痕)、 マダイ：歯骨(R1)（L1別個体)、椎骨(1)	カモ科の一種：脛骨(L1) ニワトリ：足根中足骨(L1)	イヌ：頚椎(1) マイルカ科：後頭顆(1)
第１ａ面 方形竪穴状遺構１				イヌ：上腕骨(L1)
第１ａ面 方形竪穴状遺構２	サザエ(1)、アカニシ(2)、バイ(5)、ハマグリ(R1)	メジロザメ科：椎骨(1)		ニホンジカ：落角角座骨(1加工品)
第１ａ面 方形竪穴状遺構３	クボガイ(1)、バテイラ(1) イボキサゴ(20)、ダンベイキサゴ(6)、サザエ(2)、アカニシ(1)、サルボウ(R1L1)、ハマグリ(L2R1)	フグ科：前上顎骨(R1)（L1別個体)		ノウサギ：大腿骨(L1)
第１ａ面 方形竪穴状遺構４	メカイアワビ(1)、イボキサゴ(2)、タカラガイ科の一種(1) イボウミニナ(1)、アカニシ(1)、チョウセンハマグリ(L1R1)			マイルカ科：下顎骨(R1)
第１ａ面 方形竪穴状遺構５	バテイラ(1) イボキサゴ(1)、イボウミニナ(1)、アカニシ(2)、バイ(1)、ハマグリ(R1)、チョウセンハマグリ(R1L1)	マダイ：前頭骨(1)、擬鎖骨(L1)、	ニワトリ：上腕骨(R遠位端部)	ネズミ科：脛骨(R1)、大腿骨(R1近位端)
第１ａ面 方形竪穴状遺構６		マダイ：歯骨(L1)		イヌ：中手／中足骨(L1)
第１ａ面 方形竪穴状遺構７	イシダタミ(1)、クマノコガイ(1)、コシダカガンガラ(2)、イボキサゴ(3)、ダンベイキサゴ(2)、サザエ(1)、スガイ(26)、カコボラ(1)、アカニシ(1)、ハマグリ(L1)			
第１ａ面 方形竪穴状遺構８	イボキサゴ(1)、ダンベイキサゴ(2) ツメタガイ(1)、ハマグリ(L1)			
第１ａ面 方形竪穴状遺構９	ダンベイキサゴ(2)、ツメタガイ(1)、アカニシ(3)、ハマグリ(L1R1)、チョウセンハマグリ(R1)	スズキ：前上顎骨(R1)、歯骨(L1)、尾椎(1) マダイ：前頭骨(1)、前上顎骨(L)、主上顎骨(L1)、舌顎骨(L1)、		鹿角：破片

第１ｂ面 方形竪穴状遺構10	ダンベイキサゴ(1)、サザエ(1)、ツメタガイ(2)、レイシ(1)、アカニシ(3)、バイ(9)、サルボウ(R1)、イタボガキ(R1)、ハマグリ(L2R8)、チョウセンハマグリ(L1R1)	マダイ：歯骨(L1) ヒラメ：歯骨(R1)		イヌ：下顎骨R(×××$P_{1\sim4}\overline{C}$)、胸椎(1)、仙骨(1)
第１ｂ面 方形竪穴状遺構11	イボキサゴ(5)、ダンベイキサゴ(1)、サザエ(1蓋2)、ホソヤツメタ(1)、ホソウミニナ(1)、アカニシ(6)、バイ(5)、ミクリガイ(1)、サルボウ(L1R3)、ハマグリ(L4R3)、チョウセンハマグリ(R1)	マダイ：前上顎骨(R1)、歯骨(R1) 種不明：棘(1)	種不明:橈骨(破片)	イヌ：環椎(1)、橈骨(L1遠位端部～) ノウサギ：頭蓋(R側) クマネズミ：大腿骨(R) ネズミ科：大腿骨(L2) ニホンジカ：中手足骨体部(R1) ウマ：上顎切歯I^1(L1)
第１ｂ面 方形竪穴状遺構11 P12	アワビ類(1)、イボキサゴ(1)、スガイ(1)、チョウセンハマグリ(R1)			
第１ｂ面 方形竪穴状遺構12	メカイアワビ(1)、バテイラ(1)、イボキサゴ(9)、ダンベイキサゴ(1) サザエ(1蓋3)、スガイ(2)、ツメタガイ(1)、ウミニナ(2)、イボニシ(1)、アカニシ(5)、バイ(7)、サルボウ(L2R1)、ハマグリ(L1R4)、	メジロザメ科：椎骨(1) ブリ：歯骨(L1)、 マダイ：主上顎骨(L1)、主鰓蓋骨(R1) ハタ類：主鰓蓋骨(L1)		ノウサギ：橈骨(L1遠位端部欠)、脛骨(L遠位端部) ネズミ科：寛骨(L1)、脛骨(R1)、大腿骨(L2) イヌ：寛骨(R1)、大腿骨(L1近位端)、頚椎(1) マイルカ科：前上顎骨片(1)、頚椎(1棘突起切痕)
第１ｂ面 方形竪穴状遺構13	ダンベイキサゴ(4)、サザエ(3)、アカニシ(6)、バイ(4)、ヤマトシジミ(R1)、アサリ(R1)、ハマグリ(L5R4)			
第１ｂ面 方形竪穴状遺構14	イボキサゴ(3)、ダンベイキサゴ(8)、イボウミニナ(3)、ウミニナ(1)、アカニシ(７全部打割)、バイ(8)、アサリ(R1)、ハマグリ(L2R1)、チョウセンハマグリ(L2R1)	ボラ：主鰓蓋骨(破片)		ネズミ類：上腕骨(L1) イヌ：指骨、胸椎(1)、寛骨(L1)、基節骨(1) ネコ：頸椎(1)、上腕骨(L1)、寛骨(L1) イノシシ：下顎切歯Ⅰ1(L1) マイルカ科：下顎歯
第１ｃ面 方形竪穴状遺構15	クボガイ(1)、バテイラ(1)、イボキサゴ(7)、ダンベイキサゴ(1)、ホソヤツメタ(1)、ホソウミニナ(3)、アカニシ(6打割)、バイ(1)、ハマグリ(L5R8)、チョウセンハマグリ(L2R2)	マダイ：前頭骨(1)、主上顎骨(L1)、歯骨(L1) ブリ：尾堆(1) カツオ：歯骨(L1) フグ科：歯骨(L1)	ニワトリ：脛骨(骨体部)	ノウサギ：上顎歯M^3(1)、脛骨(R1 遠位端) ニホンアナグマ:下顎骨L(CP2M1)、尺骨(R1近位端～) イヌ：指骨(1)、中足骨(LⅢ)、大腿骨(R1) テン：尺骨(R1近位端～)、 ネズミ科：脛骨(R1)、大腿骨(L1)、 ネコ：大腿骨(L1骨頭はずれ) ニホンジカ：下顎骨(L1下顎体縁辺部) ウマ：下顎歯M_1(R1)、大腿骨(L1近位端)
第１ｃ面 方形竪穴状遺構16	メカイアワビ(1)、コシダカガンガラ(1)、イボキサゴ(1)、ダンベイキサゴ(2)、アカニシ(1)、サルボウ(L1)、シオフキ(L1)、ハマグリ(Ｌ1Ｒ4)、チョウセンハマグリ(L1)	ボラ(主鰓蓋骨　破片)		イノシシ：上顎骨L(M^2M^3)
第１ａ面 方形土坑１		スズキ：鰓蓋骨(R1刺突痕) マダイ：前上顎骨(R1)、主上顎骨(R1)、舌顎骨(L1)、 カツオ：角骨(L1) 方骨(L1)		ネズミ科：尺骨(R1近位端) イヌ：椎骨(破片)
第１ａ面 土坑１	イボキサゴ(25)、アカニシ(３打割)、バイ(1)、ハマグリ(L1R2)、チョウセンハマグリ(1) イチョウシラトリ(L1)、			
第１ａ面 土坑２	イボキサゴ(1)、アカニシ(2)、 ハマグリ(L11R9)			イヌ：大腿骨L/R(骨頭部破片) ウマ：大腿骨L/R(遠位端部破片)
第１ａ面 土坑３				ノウサギ：橈骨(L1) 大腿骨(L1)
第１ａ面 ピット１	アカニシ(1)			
第１ａ～１ｃ面 遺構外	マダカアワビ(1)、クロアワビ(1)、イボキサゴ(18)、ダンベイキサゴ(9)、サザエ(1)、スガイ(1)、アカニシ(2打割)、バイ(6)、ハマグリ(L8R11)、チョウセンハマグリ(R1L3)	マダイ：主上顎骨(L1)	コハクチョウ：手根中手骨(L1)	ノウサギ：尺骨(L1) ネズミ科：脛骨(L1) テン脛骨(L1)
第２面 方形竪穴状遺構18	クロアワビ(1)、イボキサゴ(2)、ダンベイキサゴ(2)、ツメタガイ(1) アカニシ(2)、バイ(4)、ハマグリ(L7R7)			
第２面 方形竪穴状遺構21	イボキサゴ(1)、ダンベイキサゴ(2)、ツメタガイ(1)、チョウセンハマグリ(L1)			ノウサギ：尺骨(R1) ネズミ科：寛骨(L1) マイルカ科：胸堆(1)
第２面 方形竪穴状遺構24	アワビ類(破片)、ダンベイキサゴ(2)、サザエ(1)、スガイ(1)、バイ(1)、ハマグリ(R2)	マダイ：上後頭骨(1)、歯骨(L1) 主鰓蓋骨(L1)、腹椎(1) カツオ：角骨(R1)		ノウサギ：寛骨(L1) ウマ：上腕骨(L1近位端～) 肋骨(1) イヌ：軸椎(1)
第２面 方形竪穴状遺構25	メカイアワビ(1)、イボキサゴ(4)、ハマグリ(L2R2)、	マダイ：主上顎骨(L1)、		ノウサギ：脛骨(L1) 遠位端部 ネズミ類：上顎切歯Ⅰ(L1)、寛骨(L1)、大腿骨(R1)
第２面 土坑６	ダンベイキサゴ(3) ツメタガイ(1)			
第２面 ピット６	アワビ類(1)、ダンベイキサゴ(1)、スガイ(1) マガキ(L1) ハマグリ(L1R1)			ウマ：大腿骨(L1) 遠位端より
第２面 遺構外	メダカアワビ(1)、コシダカガンガラ(1)、イボキサゴ(29)、ダンベイキサゴ(12)、スガイ(3)、アカニシ(1)、バイ(1)、ハマグリ(R2)	マダイ：前頭骨(1)		ノウサギ：大腿骨(L1遠位端部) ネズミ科：大腿骨(R1近位端)
第２面 構成土	ダンベイキサゴ(3)、サザエ(1蓋2) スガイ(11)、タカラガイ科の一種(1)、アカニシ(1)、バイ(1)、チョウセンハマグリ(L1)			ウシ：脛骨(L1遠位端部　骨頭はずれ)
第３面 溝状遺構１				ヒト：大腿骨(L1 骨体部) ウマ：肩甲骨(L1)、軸椎(1)、頸椎(1)、大腿骨(L1遠位端部　骨頭はずれ) ウシ：脛骨(L1) イルカ科：肋骨(破片)
第３面 遺構外				ノウサギ：大腿骨(R近位端～)
第４面 遺構外				イヌ：橈骨(L1骨体部)、大腿骨(1遠位端破片)

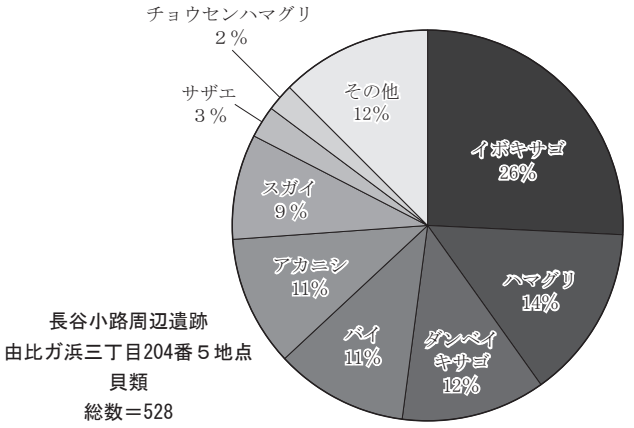
（１）出土動物遺体について

貝類（付図１）

528点検出され、分析の結果、巻貝10科26種、二枚貝６科10種が確認された。528点中巻貝は429点を数え、80%を占めていた。最も多いのがイボキサゴで136点26％、これに次ぐのがハマグリで76個14%、以下ダンベイキサゴ・バイ・アカニシの順であった。肉量という点からみると、アカニシ・ハマグリが主体である。アカニシは殻が破損しているものが大半を占めていた。若宮大路周辺遺跡でも同様であったが、生の肉を取り出すために割ったものであろう。

鎌倉ではアカニシが多い事は、河野眞知郎氏も指摘されている（河野2007）。「アカニシは、今日の人は、まず食べないが、鎌倉には多い。一方で、アサリは鎌倉では非常に少ない」という。確かに本遺跡でも、貝類528点中アサリはわずか２点0.4%であった。その理由は、当時の人の嗜好によるものではないかと、河野氏は述べている。嗜好については、何かしら記述でもあれば説得力が生まれるが、是とも否ともしがたい。近在で採れたものであれば生息環境の確認、搬入されたものであれば流通経路の検討等、課題として検討を重ねたい。

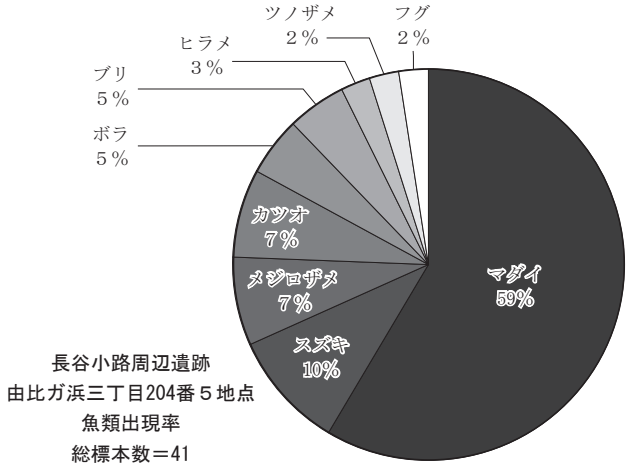
ハマグリは、大きさもまちまちであったが、小ぶりのものが目だち、「羹（あつもの）」（肉類と野菜が入った熱い吸い物）に用いるのに適したサイズのものが多かった。



付図１　出土貝類の組成

魚類（付図２）

標本数41点を数え、９科９種が確認された。マダイが最も多く標本数24点59%を占めた。以下スズキ・メジロザメ科の一種、カツオ、ボラ、ブリ、ヒラメ、ツノザメ、フグの順であった。マダイ以外は標本数も１～４点と多くはない。マダイは古来より魚の王者とされている（本山1958）。



付図２　出土魚類の組成

鳥類

標本数６点、種が判明したものは、３科３種あった。ニワトリ・カモ科の一種、コハクチョウが確認された。

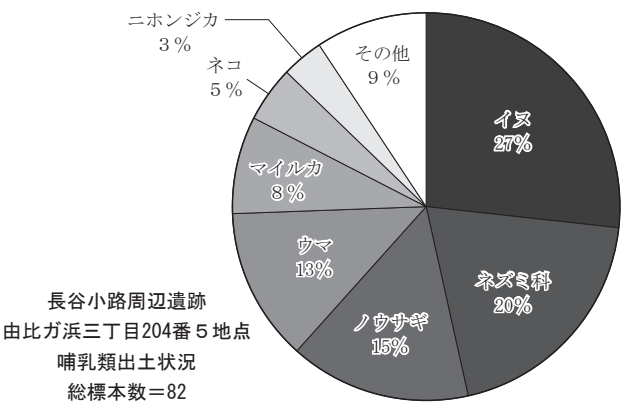
哺乳類（付図３）

標本数82点、10科11種が確認された。最も多いのはイヌで27%であった。以下、ネズミ科・ノウサギ・ウマ・マイルカ・ネコ・ニホンジカの順であった。

イヌは、鎌倉で発見される骨の中では、頻繁に目にする種のひとつである。鎌倉時代に盛行したことの一つに武士が武芸訓練のために行った騎射三物のひとつに「犬追物」がある。『吾妻鏡』には、貞応元年（1222）の２月６日の条が初出であるという。この日は、幕府南庭で行われ、１回に20匹用いたという。仁治二年（1241年の11月29日の条には、「追出犬」も出てくる。猪鹿を山野から狩りだして射る訓練も日常的に行われていたようだ（谷口1996）。

ネズミ科のなかで、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミの３種はイエネズミで、人間の生活の中に入り込んでいた。ゴミ穴に餌を求めて入ってきたのであろう。

目だったのはノウサギである。味は淡薄で、鶏肉に近い味のようだ。武士が狩りをした際の獲物だったのだろうか。ニホンジカは検出数が少ないが、食用というより、笄の素材として中手中足骨は需要があったことだろう。鹿角の一部も出土しているが、馬具の素材としても重用された。本遺跡では角座の部分が斜めに擦りへったものが出土している。砥石のように使った工具と推定される。



付図３　出土哺乳類の組成

付表３　出土貝類写真図版対応表（写真１）

№.	種名	左右	出土遺構
1	マダカアワビ		第１ａ面 方形竪穴６
2	クロアワビ		第１ａ～１ｃ面 遺構外
3	メカイアワビ		第１ａ～１ｃ面 遺構外
4	イシダタミ		第１ａ面 方形竪穴７
5	クボガイ		第１ｃ面 方形竪穴16
6	コシダカガンガラ		第１ｃ面 方形竪穴16
7	バテイラ		第１ｃ面 方形竪穴15
8	イボキサゴ		第１ｃ面 方形竪穴15
9	ダンベイキサゴ		第１ｂ面 方形竪穴14
10	サザエ・同フタ		第１ｂ面 方形竪穴10
11	スガイ		第１ａ面 方形竪穴７
12	ツメタガイ		第１ｂ面 方形竪穴12
13	ホソヤツメタ		第１ａ面 方形竪穴４
14	メダカラ		第２面 構成土
15	ホシダカラ		第１ａ面 方形竪穴４
16	ウミニナ		第１ｃ面 方形竪穴15
17	イボウミニナ		第１ａ面 方形竪穴５
18	ホソウミニナ		第１ｃ面 方形竪穴15
19	イボニシ		第２面 ピット13
20	レイシ		第１ｂ面 方形竪穴10
21	アカニシ		第１ａ面 方形竪穴９
22	ミクリガイ		第１ｂ面 方形竪穴11
23	バイ		第１ｂ面 方形竪穴14
24	サルボウ		第１ａ面 方形竪穴３
25	サトウガイ	右	第１ａ～１ｃ面 遺構外
26	タマキガイ	左	第１ｂ面 方形竪穴12
27	ベンケイガイ	右	第１ａ面 方形竪穴６
28	イタボガキ	右	第１ｂ面 方形竪穴10
29	シオフキ	左	第１ｃ面 方形竪穴16
30	アサリ	左	第１ｂ面 方形竪穴12
31	ハマグリ	右	第１ｃ面 方形竪穴15
32	チョウセンハマグリ	右	第１ｃ面 方形竪穴16
33	ウチムラサキ	右	第１ａ～１ｃ面 遺構外
34	イチョウシラトリ	右	第１ａ面 土坑１
35	マルタニシ		第１ｃ面 方形竪穴16

付表４　出土動物遺体写真図版対応表（写真２～５）

№.	種名	部位	左右	出土遺構	備考
1	ツノザメ科	背鰭第１棘		第１ａ～１ｃ面 遺構外	
2	メジロザメ科	椎骨		第１ａ面 方形竪穴２	
3－1	マダイ	前頭骨		第２面 遺構外	
3－2		主上顎骨	右	第１ａ面 方形土坑１	
3－3		前上顎骨	左	第１ａ～１ｃ面 遺構外	
3－4		歯骨	右	第１ａ～１ｃ面 遺構外	
3－5		歯骨	左	第２面 方形竪穴23	
3－6		舌顎骨	左	第１ａ面 方形土坑１	
3－7		主鰓蓋骨	左	第１ａ面 方形竪穴４	
3－8		主鰓蓋骨	右	第１ｂ面 方形竪穴12	
3－9		椎骨		第１ａ～１ｃ面 遺構外	
4－1	スズキ	前上顎骨	右	第１ａ面 方形竪穴９	
4－2		歯骨	左	第１ａ面 方形竪穴９	
5	ハタ類	主鰓蓋骨	左	第１ｂ面 方形竪穴12	
6－1	ブリ	歯骨	左	第１ｂ面 方形竪穴12	
6－2		尾椎		第１ｃ面 方形竪穴15	
7－1	カツオ	角骨	左	第１ａ面 方形竪穴４	
7－2		方骨	左	第１ａ面 方形竪穴４	
7－3		椎骨		第１ａ～１ｃ面 遺構外	
8－1	フグ	前上顎骨	右	第１ａ面 方形竪穴３	
8－2		前上顎骨	左	第１ａ面 方形竪穴３	
8－3		歯骨	左	第１ｃ面 方形竪穴15	
9	ヒラメ	歯骨	右	第１ｂ面 方形竪穴10	
10	コハクチョウ	手根中手骨	左	第１ａ～１ｃ面 遺構外	
11	カモ科	脛骨	左	第１ａ～１ｃ面 遺構外	
12	ニワトリ	足根中足骨	左	第１ａ～１ｃ面 遺構外	
13－1	ノウサギ	橈骨	左	第１ａ面 方形竪穴４	
13－2		橈骨	右	第１ａ面 土坑３	
13－3		尺骨	左	第１ａ～１ｃ面 遺構外	
13－4		寛骨	左	第１ａ面 方形土坑１	
13－5		大腿骨	左	第１ａ面 方形竪穴３	
13－6		大腿骨	左	第１ａ面 土坑３	
13－7		大腿骨	右	第１ａ～１ｃ面 遺構外	
14	クマネズミ	大腿骨	右	第１ｂ面 方形竪穴11	
15－1	ネズミ科	上腕骨	左	第１ｂ面 方形竪穴14	
15－2		尺骨	右	第１ａ面 方形土坑１	
15－3		寛骨	右	第１ａ面 方形土坑１	
15－4		大腿骨	左	第１ｂ面 方形竪穴11	
15－5		大腿骨	左	第１ｂ面 方形竪穴11	
15－6		大腿骨	左	第１ｂ面 方形竪穴14	
15－7		脛骨	右	第１ｂ面 方形竪穴14	
16－1	イヌ	下顎骨	右	第１ｂ面 方形竪穴10	$\overline{C}P_{1\sim4}\times\times\times$
16－2		環椎		第１ｂ面 方形竪穴11	
16－3		頸椎		第１ａ～１ｃ面 遺構外	
16－4		胸椎		第１ｂ面 方形竪穴14	
16－5		仙骨		第１ｂ面 方形竪穴10	
16－6		上腕骨	左	第１ａ面 方形竪穴１	
16－7		寛骨	左	第１ｂ面 方形竪穴14	
16－8		大腿骨	左	第１ｃ面 方形竪穴15	
17	テン	尺骨	右	第１ｃ面 方形竪穴15	
18－1	ニホンアナグマ	下顎骨	左	第１ｃ面 方形竪穴15	$\overline{C}P_2M_1$
18－2		尺骨	右	第１ｃ面 方形竪穴15	
19－1	ネコ	頸椎		第１ｂ面 方形竪穴14	
19－2		上腕骨	左	第１ｂ面 方形竪穴14	
19－3		寛骨	左	第１ｂ面 方形竪穴14	
19－4		大腿骨	左	第１ｃ面 方形竪穴15	
19－5		基節骨		第１ｂ面 方形竪穴14	
20－1	ウマ	上顎切歯		第１ｂ面 方形竪穴11	
20－2		下顎臼歯	右	第１ｃ面 方形竪穴15	
20－3		頸椎		第３面 溝１	
21－1	イノシシ	上顎臼歯	左	第１ｃ面 方形竪穴16	M^2M^3
21－2		下顎切歯	左	第１ｂ面 方形竪穴14	I_1
22	ニホンジカ	中手骨	右	第１ｂ面 方形竪穴11	
23－1	ウシ	脛骨	右	第３面 溝１	
23－2		脛骨	左	第２面 構成土	
24－1	イルカ	下顎歯		第１ｂ面 方形竪穴14	
24－2		下顎骨	右	第１ａ面 方形竪穴４	
24－3		椎骨		第１ｃ面 方形竪穴15	２点

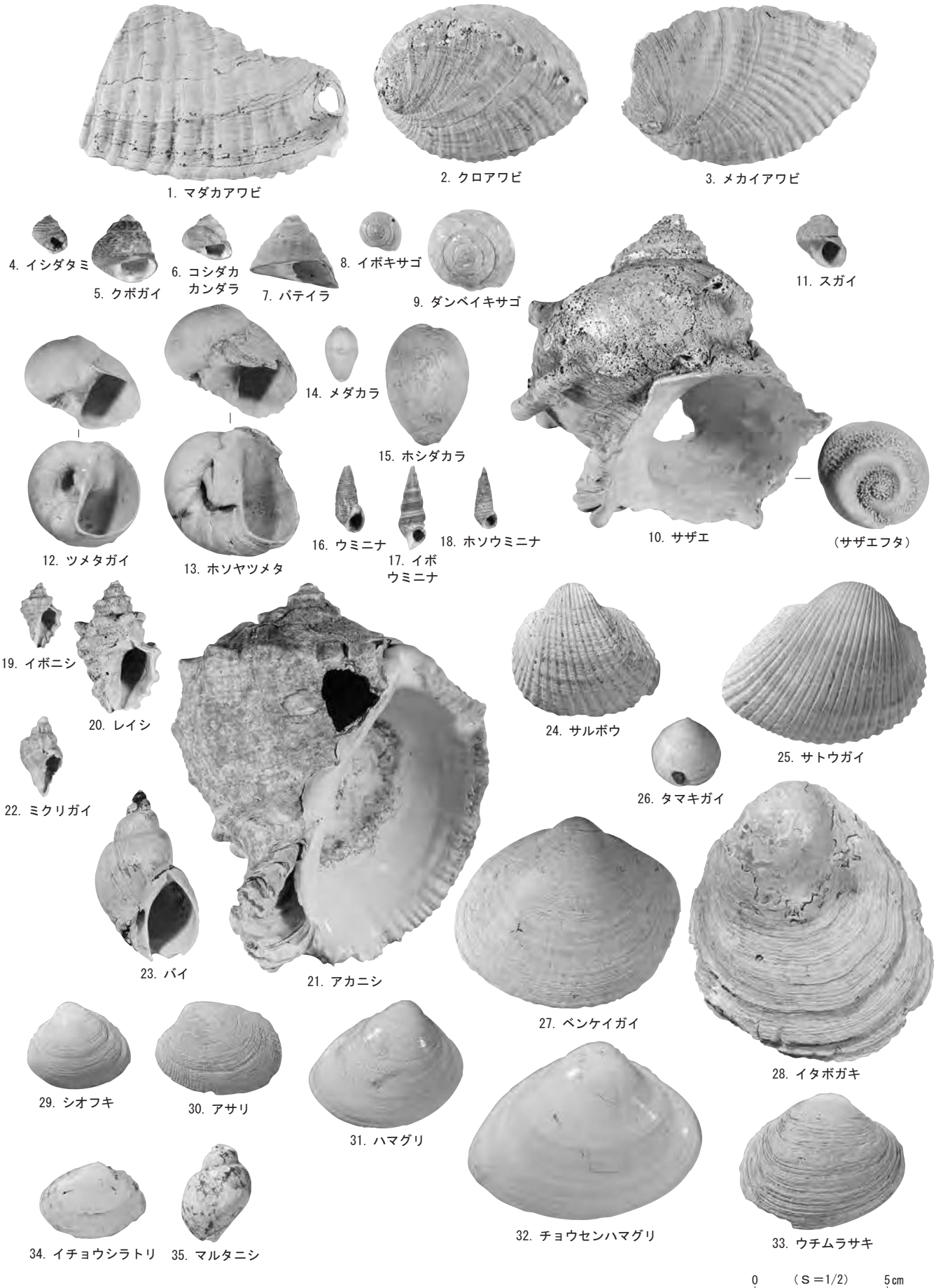

1. マダカアワビ
2. クロアワビ
3. メカイアワビ
4. イシダタミ
5. クボガイ
6. コシダカカンダラ
7. バテイラ
8. イボキサゴ
9. ダンベイキサゴ
10. サザエ
11. スガイ
（サザエフタ）
12. ツメタガイ
13. ホソヤツメタ
14. メダカラ
15. ホシダカラ
16. ウミニナ
17. イボウミニナ
18. ホソウミニナ
19. イボニシ
20. レイシ
21. アカニシ
22. ミクリガイ
23. バイ
24. サルボウ
25. サトウガイ
26. タマキガイ
27. ベンケイガイ
28. イタボガキ
29. シオフキ
30. アサリ
31. ハマグリ
32. チョウセンハマグリ
33. ウチムラサキ
34. イチョウシラトリ
35. マルタニシ
0 （S＝1/2） 5cm

写真１　出土貝類

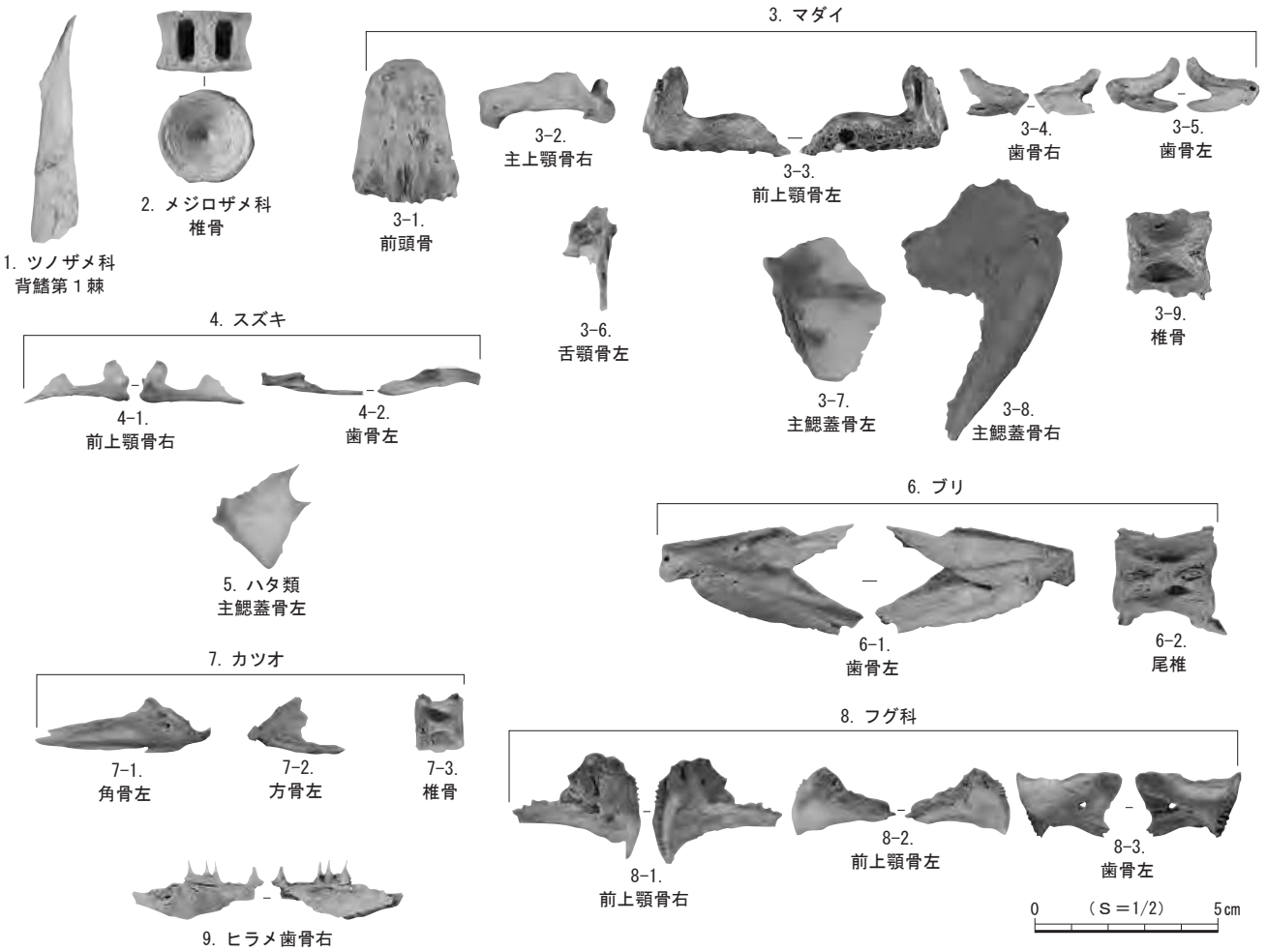


写真２　出土魚類

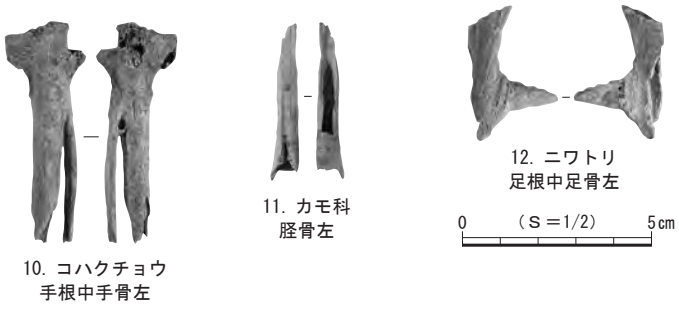


写真３　出土鳥類

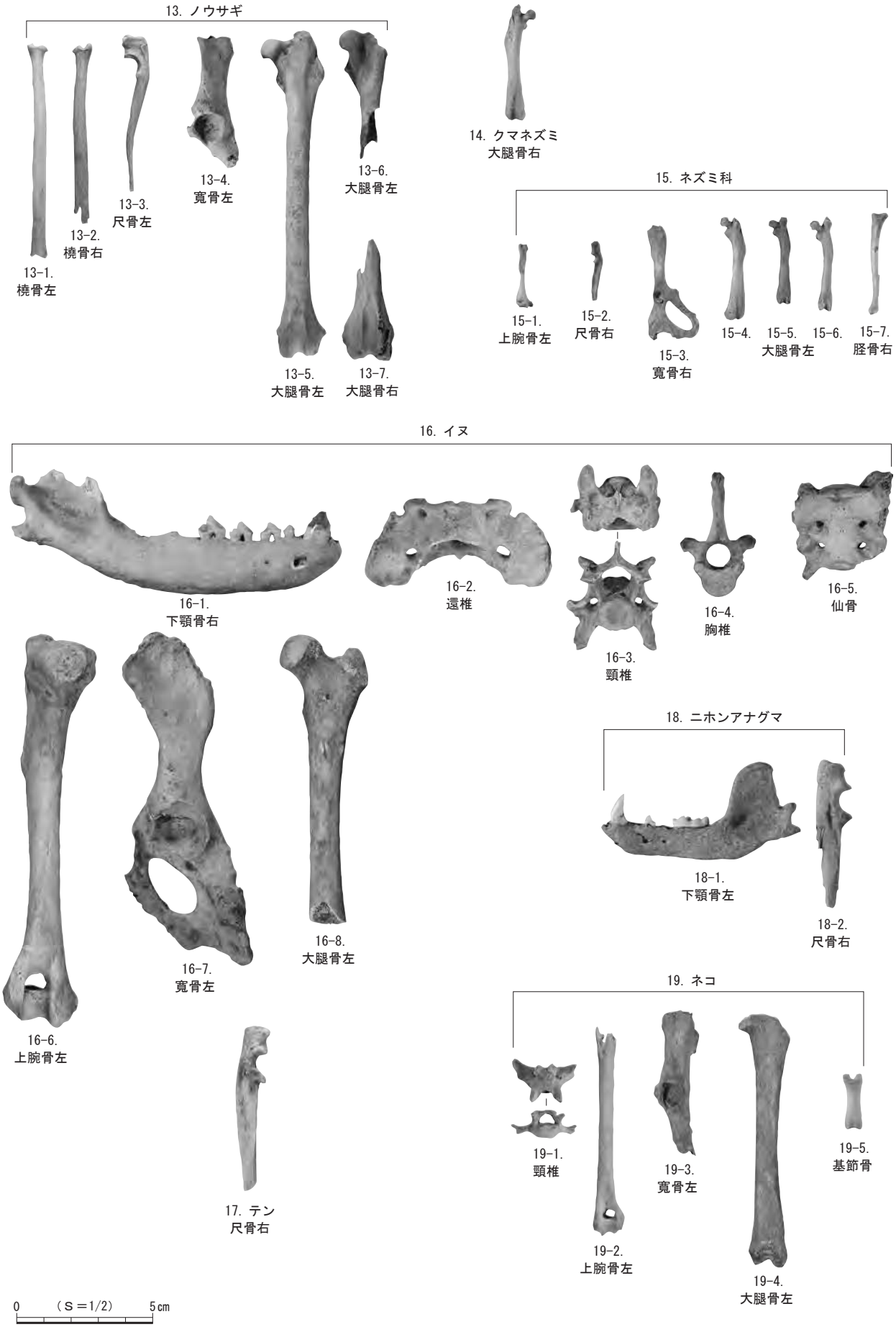

13. ノウサギ
13-1. 橈骨左
13-2. 橈骨右
13-3. 尺骨左
13-4. 寛骨左
13-5. 大腿骨左
13-6. 大腿骨左
13-7. 大腿骨右
14. クマネズミ 大腿骨右
15. ネズミ科
15-1. 上腕骨左
15-2. 尺骨右
15-3. 寛骨右
15-4.
15-5. 大腿骨左
15-6.
15-7. 脛骨右
16. イヌ
16-1. 下顎骨右
16-2. 還椎
16-3. 頸椎
16-4. 胸椎
16-5. 仙骨
16-6. 上腕骨左
16-7. 寛骨左
16-8. 大腿骨左
17. テン 尺骨右
18. ニホンアナグマ
18-1. 下顎骨左
18-2. 尺骨右
19. ネコ
19-1. 頸椎
19-2. 上腕骨左
19-3. 寛骨左
19-4. 大腿骨左
19-5. 基節骨
0 (S=1/2) 5cm

写真４　出土哺乳類（１）

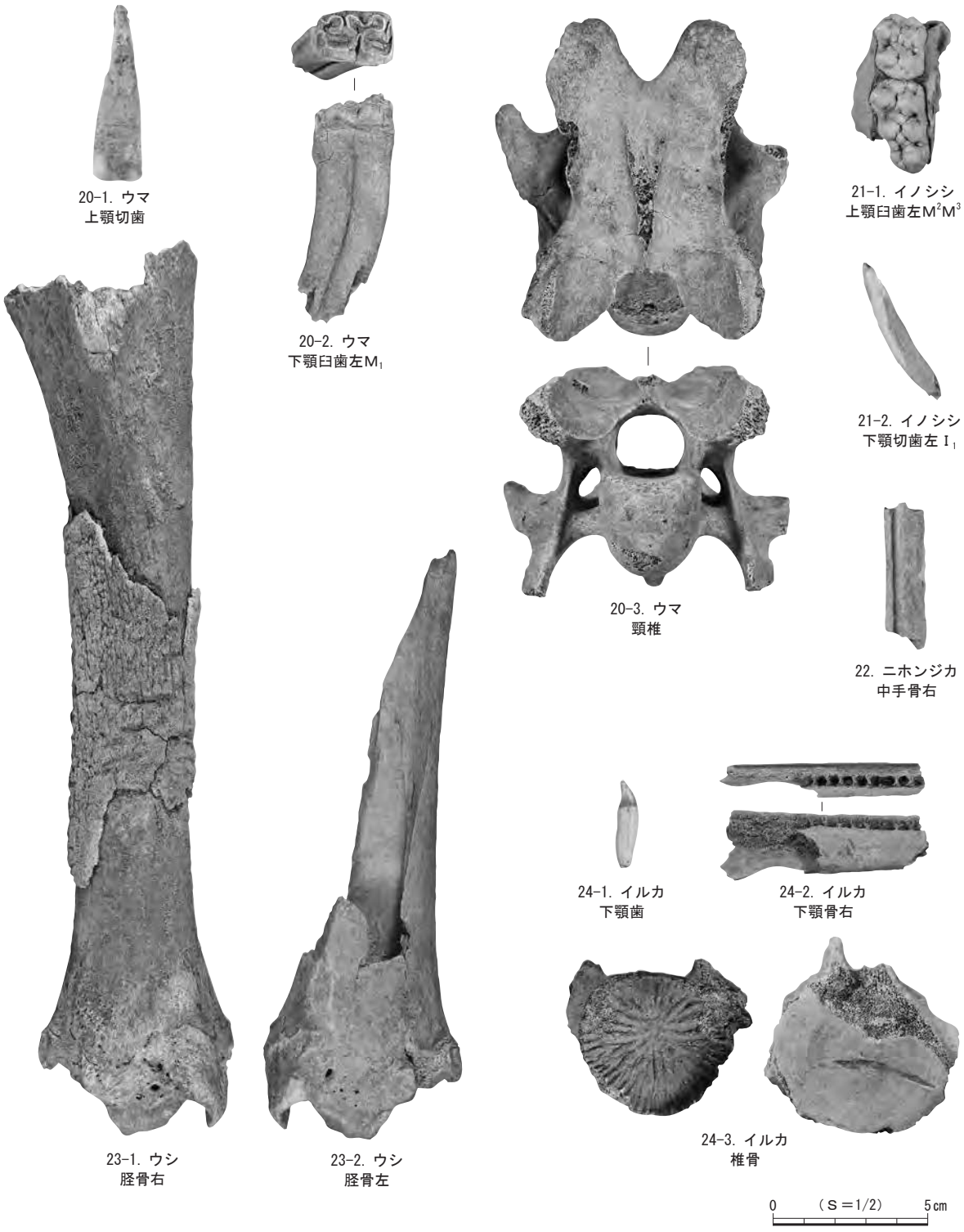

20-1. ウマ
上顎切歯
20-2. ウマ
下顎臼歯左M1
20-3. ウマ
頸椎
21-1. イノシシ
上顎臼歯左M2M3
21-2. イノシシ
下顎切歯左 I1
22. ニホンジカ
中手骨右
24-1. イルカ
下顎歯
24-2. イルカ
下顎骨右
24-3. イルカ
椎骨
23-1. ウシ
脛骨右
23-2. ウシ
脛骨左
0 （S＝1/2） 5cm

写真５　出土哺乳類（２）

２）加工品および骨に残った傷

１．突き痕　スズキ　鰓蓋骨（L）

穴は二つ空いており、一方は貫通しており穴の大きさは3.6㎜を測る。貫通していない方は径1.6㎜であった。二つの穴は同じ方向から突き刺したように見受けられる。三又のヤスを使っていたとすれば、欠損している部分にもう一つ穴があったかもしれない。いずれにしろ、突き具の痕跡を留めている。穴の間隔は7.12㎜であった。

２．側面に加工痕　メジロザメ科 椎骨

椎径24.9×26.52㎜、椎体長17.71㎜を測る。側面は幅5.99㎜の溝が掘りくぼめた部分と、浅く掘りくぼめた部分がある。イメージとしては、ミシンのボビンケースのような感じである。縄文時代であれば穴を空けペンダントに加工する部分は、なぜか４㎜四方の枠が刻んであり、中央は円錐状にくぼんでいる。鎌倉の骨の中に、メジロザメの椎骨は珍しくはないが、このような加工痕をとどめるものはあまりみかけない。何に使ったものだろうか。

３．笄の破片　ニホンジカ 中足骨

よく磨きこまれているが、両端とも折れている。残存長26,23㎜を測る。

４．研磨用加工具　ニホンジカ　角坐部分破片

落角の角坐部分を50㎜×24㎜の大きさにカットしている。上面側を擦った痕があり、加工用の工具で砥石として使ったと推定される。

５．研磨用加工具　ヒト　後頭部

１辺30～37㎜の三角形にカットしてある。カット面は最も長い面を残して、研磨した痕が認められる。縫合部分が残っており、後頭部と推定された。

擦り切り痕も認められた。最大厚14.9㎜を測り、かなり堅牢である。何のために作ったのか、さらに人骨だと認識して加工したのかも含め、謎の多い遺物である。

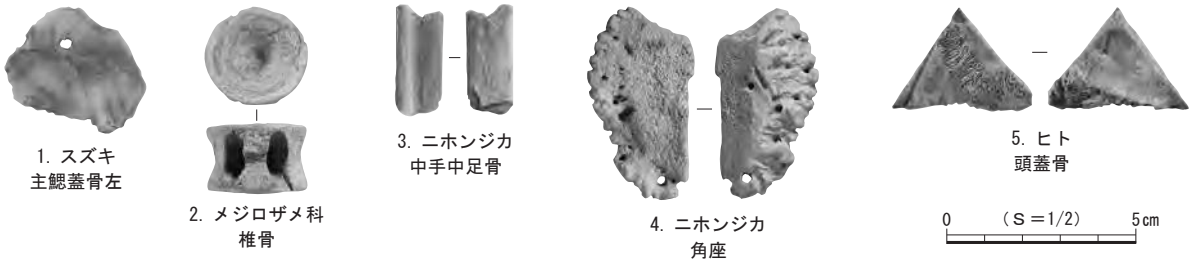


写真６　出土加工品

引用・参考文献

河野眞知郎　2007「鎌倉武士の食べ物」『食べ物の考古学』
学生社
谷口研語　1996『犬の日本史』ＰＨＰ新書
本山荻舟　1958『飲食事典』平凡社

付表５　出土加工品写真図版対応表（写真６）

No.	種名	部位	左右	出土遺構	備考
1	スズキ	主鰓蓋骨	左	第１ａ面 方形土坑１	刺突具痕
2	メジロザメ科	椎骨		第１ａ～１ｃ面 遺構外	加工痕
3	ニホンジカ	中手中足骨		第１ｂ面 方形竪穴状遺構10	笄破片
4	ニホンジカ	鹿角角座		第１ａ面 方形竪穴状遺構２	
5	ヒト	頭蓋骨		第１ａ面 土坑２	後頭部

第五章　まとめ

今回報告する由比ガ浜三丁目204番５地点は、「長谷小路周辺遺跡（№236）」の範囲内に所在する。本遺跡の包蔵地範囲は鎌倉市の南部域に位置し、県道311号線の南側に面して東西１㎞に及んでいる。地形的には由比ガ浜から直線距離で約400ｍの砂丘地帯にあたり、包蔵地範囲の西端には長谷大谷を源流とする稲瀬川が南流し、由比ガ浜で相模湾へと注ぐ。調査地点は東西に長い包蔵地範囲の中央部に位置し、県道311号線の南側に面している。本地点の周辺では数多くの調査が行われており、成果が蓄積され様相が明らかになりつつある。

今回の調査では、遺構確認面は第１～４面までの合計４面で、第１・２面が中世に属し、第３・４面は中世と古代が同一面で調査されている。検出した遺構は掘立柱建物１棟、方形竪穴状遺構25基、竪穴状遺構１基、溝状遺構２条、火葬墓２基、方形土坑１基、土坑８基、ピット20基で、このうち竪穴状遺構１基、火葬墓２基、土坑１基は古代に属すると推定される遺構である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して18箱を数える。

中世に属する第１・２面では方形竪穴状遺構が密集して検出され、その総数は25基を数える。特に13世紀後葉～14世紀前葉頃に属する第１面においては17基の方形竪穴状遺構が著しく重複して検出され、重複関係から第１ａ～１ｃ面に分割して報告を行った。調査区の制約から全体規模を把握できたものは少なかったが、最大のものは長軸約5.7m（15・24号）であった。付属施設は多様であり、壁際にピット列をもつもの（11・15・18・23・24・25号）や、壁に沿って浅い溝が掘り込まれたもの（17・21号）、壁の一端にテラス状の段を有するもの（４号）、コーナー部分に切石を立てたもの（１号）が認められた。方形竪穴状遺構が密集する遺跡のあり方は、図２に示した②③④⑤⑦⑪地点など隣接する調査地点の様相と共通しており、本地点も県道311号線の南側に広がる方形竪穴状遺構群の一画をなしていたことが明らかとなった。

第３・４面においては古代に属する遺構群が検出された。第３面の竪穴状遺構については調査区の制約から住居址と断定できなかったが、形状やピットをもつことなどから住居址の可能性が指摘される。

また、第３・４面において火葬墓が各１基ずつ検出され、ともに調査区北側に位置する。９～10世紀代に属する第３面の火葬墓１は、武蔵型と相模型の長胴甕を入れ子にして掘り方中に逆位に埋設し、入れ子状の内側にあたる武蔵型の甕は底部を欠損しており、外側の相模型の甕は胴部中位以下を欠損していた。甕の内部には火葬骨とともに貝殻も納められており、さらに甕の周囲を貝殻で被覆するという特徴的な埋納方法が認められた。一方で９世紀代に属する第４面の火葬墓２は、相模型の長胴甕を円形の掘り方中に逆位に埋設し、甕の内部には火葬骨のみが納められていた。逆位の甕の周囲には同一個体の胴部小破片多数と底部が分離して出土しており、意図的に底部を打ち欠いた可能性も考えられる。なお、出土した火葬骨を分析したところ、火葬墓１は成人女性で、火葬墓２は成人男性の可能性が指摘された。火葬骨の分析については詳細を第四章に掲載したので参照されたい。

神奈川県内における火葬墓は、1995年の段階で90例を超す事例が確認されている（長谷川ほか 1995）。これらの事例のうち蔵骨器を貝殻で覆うものは少なく、中村若枝氏によると神奈川県内では本例も含めて６例に過ぎない（中村 2019）。さらに蔵骨器内に火葬骨とともに貝殻を納めているのは本例のみであり、その特殊性が指摘されている。長谷小路周辺遺跡では各地点において古代以前の遺構が検出されており、当該地における古代の様相を知る上で重要な地域として注視される。

そのほか、各面を通じて動物遺体が多く出土した。獣骨では犬の比率が高いことが特徴的であった。

また、貝類の中には身を取り出すための敲打痕や打ち欠いた痕跡が観察されるアカニシや、羹に用いるのに適したサイズのハマグリが多く含まれており、鎌倉時代の食生活を考える上で貴重な資料となった(第四章参照)。

引用・参考文献(著者五十音順)

赤堀祐子ほか　2015「長谷小路周辺遺跡(№236)由比ガ浜三丁目206番６外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31』平成26年度発掘調査報告(第１分冊)　鎌倉市教育委員会

齋木秀雄ほか　1989「４．長谷小路周辺遺跡　由比ガ浜三丁目194番25他地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書５』昭和63年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

齋木秀雄ほか　1990『由比ヶ浜三丁目194番25外遺跡調査報告書－長谷小路周辺遺跡群内、秋山ビル建設に伴う緊急発掘調査－』長谷小路遺跡発掘調査団

齋木秀雄ほか　1992『神奈川県・鎌倉市 長谷小路南遺跡－鎌倉市由比ヶ浜３丁目202番２外所在遺跡の発掘調査報告書』長谷小路南遺跡発掘調査団

齋木秀雄ほか　2015『神奈川県・鎌倉市 長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書－由比ガ浜三丁目207－１外３筆地点－』鎌倉遺跡調査会

汐見一夫ほか　2002「長谷小路周辺遺跡(№236)長谷一丁目205番12地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18』平成13年度発掘調査報告(第２分冊)　鎌倉市教育委員会

汐見一夫ほか　2004「長谷小路周辺遺跡(№236)由比ガ浜三丁目194番50地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20』平成15年度発掘調査報告(第２分冊)　鎌倉市教育委員会

宗臺秀明ほか　1991「長谷小路周辺遺跡(№236)由比ガ浜三丁目194番24地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書７』平成２年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

中村若枝　2019「縄文時代の貝塚から貝を運んできた平安時代の人々－町田市成瀬西遺跡における火葬蔵骨器埋納に伴う貝で覆う儀礼をめぐって－」『神奈川を掘る』Ⅲ　玉川文化財研究所研究論集2019　玉川文化財研究所

長谷川　厚ほか　1995「神奈川」『東日本における奈良・平安時代の墓制』第５回東日本埋蔵文化財研究会　東日本埋蔵文化財研究大会栃木大会

降矢順子・齋木秀雄ほか　2016『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書－(仮称)由比ガ浜こどもセンター建設に伴う由比ガ浜三丁目194番１、262番１地点の調査－』株式会社斉藤建設

松吉里永子ほか　2017「長谷小路周辺遺跡(№236)由比ガ浜三丁目194番71地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33』平成28年度発掘調査報告(第２分冊)　鎌倉市教育委員会

馬淵和雄ほか　2007「甘縄神社遺跡群(№77)長谷一丁目227番25地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23』平成18年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

宮田　眞ほか　1997『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書－由比ヶ浜３丁目２番200地点(№236)－』長谷小路周辺遺跡発掘調査団

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
方形竪穴状遺構２出土遺物（図９）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.2)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	(7.3)	4.4	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロかわらけ・中	(12.0)	(7.8)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
方形竪穴状遺構３出土遺物（図11）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	8.3	4.6	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・大	(14.2)	(8.2)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
方形竪穴状遺構４出土遺物（図12）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.7	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロかわらけ・小	(7.9)	(4.4)	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロかわらけ・大	(13.2)	(7.7)	3.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
4	陶器	瀬戸皿	(18.2)	(11.2)	5.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－オリーブ黄色　備考：卸皿に似る、古瀬戸後期様式Ⅰ～Ⅱ期	1/4
5	骨角製品	笄	現長 8.4	幅 0.7～1.4	厚 0.3	素材－鹿中足骨	
方形竪穴状遺構５出土遺物（図13）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	(4.6)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：暗灰黄色　焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.4	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	4.5	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：暗黄褐色　焼成：良好	3/4
4	陶器	瀬戸卸皿	－	－	現 3.2	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－浅黄橙色　備考：古瀬戸後期様式Ⅰ期	口縁部小破片
5	金属製品	釘	現長 11.1	頭幅 1.2～0.9	厚 0.4～0.6	角釘　材質－鉄	略完形
方形竪穴状遺構６出土遺物（図14）							
1	土師質土器	南伊勢系土鍋	－	－	現 5.3	羽釜形　内外面－ナデ・ハケメ、煤付着　胎土：砂粒、雲母、白色粒、黒色粒、粗土　色調：灰白色・浅黄色	口縁部小破片
方形竪穴状遺構８出土遺物（図15）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.5	1.9	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	土器	ロクロかわらけ・中	11.7	7.3	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・大	(13.1)	(7.0)	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
方形竪穴状遺構９出土遺物（図16）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
2	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.9	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：６ａ～７型式	口縁部小破片
方形竪穴状遺構10出土遺物（図17）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.5)	(5.2)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(5.0)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	1/4
3	土器	ロクロかわらけ・大	13.6	8.4	3.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	7/8
4	陶器	常滑甕	－	－	現 2.5	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ｂ～７型式	口縁部小破片
5	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現 5.1	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：灰褐色　備考：６ｂ～７型式	口縁部小破片
6	石製品	砥石	現長 7.5	幅 2.5	厚 2.2	４面に使用痕跡　石材－凝灰岩	
7	骨角製品	笄	現長 13.0	幅 0.2～1.0	厚 0.3	素材－鹿中足骨	7/8
8	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086）　書体－行書	完形
9	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元符通寶（北宋・1098）　書体－篆書	完形
方形竪穴状遺構11出土遺物（図18）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.2	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.0	2.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
3	土器	ロクロかわらけ・大	(13.0)	(7.6)	4.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/4

4	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.4)	(8.6)	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	1/3
5	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.7	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
6	陶器	瀬戸 卸皿	－	－	現 2.9	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－浅黄橙色　備考：古瀬戸中期様式	口縁部 小破片
7	陶器	常滑 甕	－	－	現 2.7	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 甕	－	－	現 15.6	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：７型式	口縁部～ 肩部小破片
9	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.5	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：にぶい赤褐色・黒褐色	片口部 小破片
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	－	－	現 4.5	胎土：微砂、白色粒、小石粒　色調：黒褐色・赤褐色　備考：８～９型式	口縁部～ 小破片
11	石製品	砥石	現長 9.2	幅 2.3	厚 2.0～2.2	４面に使用痕跡　石材－凝灰岩	
12	金属 製品	把手	現長 12.6	幅 0.6～0.8	厚 0.07	帯状の金属を半円状に丸める　先端に留め孔１ヵ所（直径0.2㎝）	8/9
13	金属 製品	建具金具	方 6.7	孔径 1.1	厚 0.3～0.6	輪花菱形　中央に方形の孔１ヵ所　材質－銅合金	略完形
14	金属 製品	用途不明	現長 10.8	幅 0.3～0.6	厚 0.3～0.9	先端をＳ字状に曲げる　材質－鉄	
15	金属 製品	釘	現長 3.9	幅 0.3	厚 0.4	角釘　材質－鉄	
16	金属 製品	釘	現長 5.6	幅 1.0	厚 0.7	角釘　材質－鉄	
17	骨角 製品	用途不明	現長 1.1	幅 3.3	厚 0.5	紐調整具か　孔２ヵ所（直径0.4㎝）　素材－鹿角	完形

方形竪穴状遺構12出土遺物（図19）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.9)	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.3	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・中	10.7	5.6	3.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	7.2	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・大	13.7	7.4	3.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	完形
8	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.3	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
9	磁器	青磁 碗	－	－	現 2.4	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片

方形竪穴状遺構13出土遺物（図20）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.8)	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	3.7	2.5	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(7.6)	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/3
4	陶器	瀬戸 卸皿	(14.8)	－	現 2.6	胎土：緻密　色調：胎土－灰白色、灰釉－浅黄橙色　備考：古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ期	口縁部 小破片
5	陶器	常滑 甕	－	－	現 7.8	胎土：白色粒、小石粒　色調：灰褐色・黒灰色・緑灰色　備考：６ａ型式	口縁部 小破片

方形竪穴状遺構14出土遺物（図22）

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(3.5)	(2.8)	1.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.7	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	7/8
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	3.5	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	3.6	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.2	2.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.1	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.0	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.4	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.5	2.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/4
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.7	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	完形
11	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0	5.5	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：灰色・黒褐色　焼成：良好　備考：二次焼成	7/8

12	金属製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－聖宋元寶（北宋・1101） 裏面－他の銭貨の癒着痕 書体－行書	完形

方形竪穴状遺構15出土遺物（図24）

1	土器	ロクロかわらけ・小	6.6	3.9	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロかわらけ・中	（12.0）	（5.8）	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロかわらけ・中	（12.0）	（7.4）	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	1/3
4	陶器	常滑甕	－	－	現 5.0	胎土：白色粒、小石粒 色調：灰色・黒褐色 備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部小破片
5	陶器	常滑甕	－	－	現 6.2	胎土：白色粒、小石粒 色調：明黄褐色 備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部小破片
6	金属製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名－熙寧元寶（北宋・1068） 書体－楷書	完形

方形竪穴状遺構16出土遺物（図25）

1	土器	ロクロかわらけ・小	（7.6）	（4.6）	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロかわらけ・中	（10.6）	（6.4）	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：黄橙色・橙色 焼成：良好	1/4
3	土器	ロクロかわらけ・大	（13.2）	（7.3）	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/4
4	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	（29.0）	－	現 10．4	胎土：微砂、白色粒、赤色粒、小石粒 色調：灰色 備考：５～６ａ型式	口縁部小破片
5	陶器	産地不明擂鉢	（32.5）	（11.0）	現 14.4	内面－７本１単位の擂目５ヵ所 胎土：微砂、黒色粒 色調：灰色 備考：器形は備前擂鉢に類似	1/6

方形竪穴状遺構17出土遺物（図26）

1	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.5	1.8	口縁部－油煤付着 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2

土坑１出土遺物（図28）

1	土器	ロクロかわらけ・大	（13.7）	（8.0）	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/4
2	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	－	－	現 3.8	胎土：微砂、白色粒、小石粒 色調：にぶい褐色・にぶい橙色	片口部小破片

土坑２出土遺物（図29）

1	骨角製品	笄	長 18.3	幅 0.2～0.7	厚 0.3	素材－鹿中足骨	完形

第１ａ～１ｃ面 遺構外出土遺物（図31）

1	土器	ロクロかわらけ・極小	4.8	3.2	1.1	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	5/6
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	4.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.7	5.0	1.8	口縁部－煤付着 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	5/6
4	土器	ロクロかわらけ・中	10.4	6.4	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロかわらけ・中	12.0	7.8	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	1/2
6	磁器	白磁皿	－	－	現 2.9	内面－二重圏線、劃花文？ 口唇部－口兀 色調：胎土－白色、白磁釉－白色 備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類？	口縁部小破片
7	磁器	白磁皿	－	－	現 2.8	口唇部－口兀 色調：胎土－灰色、白磁釉－白色 備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	口縁部小破片
8	陶器	常滑甕	－	－	現 3.8	胎土：白色粒 色調：灰褐色 備考：６ｂ型式	口縁部小破片
9	陶器	常滑甕	－	－	現 6.5	胎土：白色粒 色調：にぶい褐色 備考：６ｂ型式	口縁部小破片

表３ 第２面 出土遺物観察表

法量内（ ）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

方形竪穴状遺構18出土遺物（図33）

1	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	4.8	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	4/5
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.0	2.0	口縁部－油煤付着 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・中	（12.8）	（7.7）	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
4	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現 7.5	内外面－ハケメ 口縁部直下－穿孔 胎土：砂粒、白色粒 色調：胎土・内外面－黒褐色 備考：ＩＢ類	口縁部～体部小破片

方形竪穴状遺構24出土遺物（図35）

1	土器	ロクロかわらけ・小	7.7	4.6	2.9	口縁部～内面－油煤付着 底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	5/6
2	金属製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－元祐通寶（北宋・1086） 書体－篆書	完形

方形竪穴状遺構25出土遺物（図36）

1	土器	ロクロかわらけ・小	5.2	4.8	0.7	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい黄橙色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロかわらけ・中	－	5.6	現 2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：にぶい橙色 焼成：良好	1/2

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	特徴	残存率
竪穴状遺構１出土遺物（図40）							
1	土師器	ロクロ 土師器坏	12.0	5.6	4.2	内外面－回転ナデ　底面－回転糸切　胎土：微砂、雲母、黒色粒、粗土　色調：明褐色　焼成：良好	1/3
2	土師器	長胴甕	(20.8)	－	現 6.1	口縁部・内面－横ナデ　外面－横ヘラケズリ　胎土：砂粒、粗土　色調：にぶい黄褐色　焼成：良好　備考：武蔵型	口縁部～肩部小破片
3	土師器	長胴甕	(23.6)	－	現 17.4	口縁部－横ナデ　外面－縦ヘラナデ　内面－横ヘラナデ　胎土：砂粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：明褐色　焼成：良好　備考：相模型、煤付着	1/4
火葬墓１出土遺物（図44）							
1	土師器	長胴甕	23.8	－	現 12.5	口縁部－横ナデ　頸部－指頭調整　外面－横ヘラナデ　内面－横ハケメ　胎土：砂粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい褐色　焼成：良好　備考：相模型、煤付着	1/4
2	土師器	長胴甕	20.1	－	現 21.0	口縁部－横ナデ　内・外面－横ヘラナデ・斜めヘラナデ・縦ヘラナデ　胎土：砂粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　備考：武蔵型	7/8

表５　第４面 出土遺物観察表

挿図番号	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	特徴	残存率
火葬墓２出土遺物（図48）							
1	土師器	長胴甕	25.2	－	現 16.6	口縁部－横ナデ　外面－ヘラナデ　内面－ヘラナデ・指頭調整　胎土：砂粒、雲母、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好　備考：相模型、２と同一個体と思われる	1/3
2	土師器	長胴甕	－	5.4	現 4.6	外面－縦ヘラナデ　内面－ヘラナデ・指頭調整　底面－木葉痕　胎土：砂粒、粗土　色調：褐灰色　焼成：良好　備考：相模型、１と同一個体と思われる	底部小破片

表６　遺構計測表

〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm） 長軸	短軸	深さ
方形竪穴状遺構１	第１ａ面	〈236〉	〈35〉	50～74
方形竪穴状遺構２	第１ａ面	〈137〉	〈135〉	55
方形竪穴状遺構３	第１ａ面	280	〈80〉	31～47
方形竪穴状遺構４	第１ａ面	293	254	30～54
方形竪穴状遺構５	第１ａ面	〈223〉	〈40〉	－
方形竪穴状遺構６	第１ａ面	〈90〉	〈29〉	17
方形竪穴状遺構７	第１ａ面	〈93〉	〈80〉	30
方形竪穴状遺構８	第１ａ面	〈205〉	〈91〉	37
方形竪穴状遺構９	第１ａ面	〈180〉	〈112〉	96
方形土坑１	第１ａ面	210	143	57
土坑１	第１ａ面	87	〈42〉	25
土坑２	第１ａ面	108	〈60〉	13
土坑３	第１ａ面	〈72〉	〈53〉	13
ピット１	第１ａ面	45	39	17
ピット２	第１ａ面	46	44	33
方形竪穴状遺構10	第１ｂ面	〈260〉	260	77
方形竪穴状遺構11	第１ｂ面	〈321〉	〈315〉	60
方形竪穴状遺構12	第１ｂ面	385	〈171〉	44
方形竪穴状遺構13	第１ｂ面	180	〈90〉	30
方形竪穴状遺構14	第１ｂ面	〈332〉	〈122〉	96

遺構名	帰属面	規模（cm） 長軸	短軸	深さ
方形竪穴状遺構15	第１ｃ面	570	289	24～34
方形竪穴状遺構16	第１ｃ面	〈165〉	〈52〉	11
方形竪穴状遺構17	第１ｃ面	〈204〉	〈44〉	9
ピット３	第１ｃ面	43	41	15
ピット４	第１ｃ面	22	20	11
方形竪穴状遺構18	第２面	〈229〉	〈152〉	27
方形竪穴状遺構19	第２面	〈105〉	〈84〉	25
方形竪穴状遺構20	第２面	〈39〉	〈37〉	17
方形竪穴状遺構21	第２面	〈102〉	〈49〉	13
方形竪穴状遺構22	第２面	〈147〉	〈145〉	9
方形竪穴状遺構23	第２面	〈125〉	〈102〉	24
方形竪穴状遺構24	第２面	575	259	20
方形竪穴状遺構25	第２面	〈330〉	〈87〉	7
土坑４	第２面	〈61〉	56	22
土坑５	第２面	〈56〉	57	29
土坑６	第２面	67	〈52〉	31
ピット５	第２面	30	27	10
ピット６	第２面	59	41	14
ピット７	第２面	〈48〉	〈15〉	8
ピット８	第２面	〈34〉	35	22

遺構名	帰属面	規模（cm） 長軸	短軸	深さ
ピット９	第２面	40	40	20
ピット10	第２面	57	55	26
ピット11	第２面	34	27	27
ピット12	第２面	30	26	27
ピット13	第２面	31	27	20
竪穴状遺構１	第３面	〈192〉	〈140〉	19
掘立柱建物１	第３面	〈340〉	〈140〉	－
溝状遺構１	第３面	〈290〉	77	35
火葬墓１	第３面	82	74	53
ピット14	第３面	20	15	11
ピット15	第３面	22	17	12
ピット16	第３面	32	32	11
ピット17	第３面	30	24	12
溝状遺構２	第４面	〈50〉	29	13
火葬墓２	第４面	37	－	20
土坑７	第４面	〈80〉	〈24〉	37
土坑８	第４面	〈81〉	〈60〉	19
ピット18	第４面	27	26	23
ピット19	第４面	30	〈16〉	11
ピット20	第４面	34	30	46

※掘立柱建物の長軸・短軸は心々間の計測値である。

表７　出土遺物一覧表

表土

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	118
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	2
【陶器】		
瀬戸	平碗	1
	器種不明小破片	3
常滑	甕	17
【瓦】		
	丸瓦	2
【石製品】		
	石臼	1
【金属製品】		
	釘	4
	合計	148

第１面

方形竪穴状遺構１

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	18
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	2
【瓦】		
	平瓦	1
【金属製品】		
	釘	4
	合計	27

方形竪穴状遺構２

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	56
【陶器】		
瀬戸	洗	1
常滑	甕	9
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
	火鉢小破片	2
	合計	70

方形竪穴状遺構３

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	58
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
常滑	甕	9
【骨角製品】		
	笄	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	小刀	1
	釘	3
	鉄滓	1
	合計	75

方形竪穴状遺構４

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	363
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	4
【陶器】		
瀬戸	皿	1
常滑	甕	49
	片口鉢Ⅰ類	1
【瓦】		
	平瓦	2
【骨角製品】		
	笄	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	24
	合計	446

方形竪穴状遺構５

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	87
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	2
	卸皿	1
常滑	甕	10
【土師質・瓦質土器】		
	碗	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	13
	合計	117

方形竪穴状遺構６

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	器種不明小破片	1
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	2
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	3
	合計	14

方形竪穴状遺構７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	21
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	4
【金属製品】		
	釘	2
	合計	29

方形竪穴状遺構８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	46
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	4
【金属製品】		
	釘	2
	合計	54

方形竪穴状遺構９

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	57
【陶器】		
常滑	甕	6
	片口鉢Ⅱ類	2
【金属製品】		
	釘	2
	合計	67

方形竪穴状遺構10

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	132
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
	壺	1
【陶器】		
瀬戸	入子	2
常滑	甕	40
	片口鉢Ⅱ類	4
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	4
【石製品】		
	砥石	1
【骨角製品】		
	笄	1
【金属製品】		
	釘	11
	銭貨	2
	合計	200

方形竪穴状遺構11

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	392
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	3
	盤	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	卸皿	1
	器種不明小破片	7
渥美	甕	2
常滑	甕	65
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	3
備前	擂鉢	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅳ類	1
	火鉢小破片	1
【須恵器】		
	甕	1

【石製品】		
	砥石	2
【骨角製品】		
	用途不明	1
【金属製品】		
	釘	35
	把手	1
	建具金具	1
	用途不明	1
	合計	523

方形竪穴状遺構11－Ｐ１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

方形竪穴状遺構11－Ｐ２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

方形竪穴状遺構11－Ｐ４

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

方形竪穴状遺構11－Ｐ６

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

方形竪穴状遺構11－Ｐ７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
	合計	7

方形竪穴状遺構11－Ｐ８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

方形竪穴状遺構11－Ｐ９

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

方形竪穴状遺構11－Ｐ10

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
中国	無釉陶器	1
渥美	甕	1
常滑	甕	1
	合計	9

方形竪穴状遺構11－Ｐ11

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	5

方形竪穴状遺構11－Ｐ12

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	2

方形竪穴状遺構11－Ｐ14

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	15

方形竪穴状遺構12

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	237
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	4
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	31
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
【金属製品】		
	釘	27
	合計	302

方形竪穴状遺構13

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	98
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	10
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	6
	合計	118

方形竪穴状遺構14

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	37
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	7
	銭貨	1
	合計	47

方形竪穴状遺構15

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	338
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	入子	2
	卸皿	1
	皿	1
常滑	甕	46
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	火鉢小破片	4
【骨角製品】		
	用途不明	1
【金属製品】		
	釘	9
	銭貨	1
	合計	408

方形竪穴状遺構15－Ｐ１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

方形竪穴状遺構15－Ｐ２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	7
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＣ類	1
	合計	8

方形竪穴状遺構15－Ｐ３

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

方形竪穴状遺構15－Ｐ４

産　地	器　種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	2

方形竪穴状遺構15－Ｐ７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

方形竪穴状遺構15－Ｐ９

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	5

方形竪穴状遺構15－Ｐ10

産　地	器　種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
	合計	1

方形竪穴状遺構15－Ｐ11

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	16
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	17

方形竪穴状遺構15－Ｐ12

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	9
	合計	9

方形竪穴状遺構15－Ｐ13

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	2
	合計	10

方形竪穴状遺構15－Ｐ14

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

方形竪穴状遺構15－Ｐ15

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

方形竪穴状遺構15－Ｐ16

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

方形竪穴状遺構15－Ｐ17

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

方形竪穴状遺構15－Ｐ19

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		

	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

方形竪穴状遺構16

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	41
【青磁】		
龍泉窯系	坏	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
常滑	甕	9
	片口鉢Ⅰ類	1
産地不明	擂鉢	1
【金属製品】		
	釘	5
	合計	59

方形竪穴状遺構17

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	21
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	22

方形竪穴状遺構17－Ｐ2

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	6

方形土坑１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	65
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	12
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	2
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	3
	合計	84

土坑１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	南伊勢系土鍋	1
【金属製品】		
	釘	2
	合計	19

土坑２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	15
【骨角製品】		
	笄	1
【金属製品】		
	釘	1
	合計	17

土坑３

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【金属製品】		
	釘	1
	合計	5

第１ａ～１ｃ面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ　ロクロ成形	497
【白磁】		
	Ⅲ区類	2
【青磁】		
龍泉窯系	器種不明小破片	3
【陶器】		
中国	褐釉陶器	2
瀬戸	壺	1
常滑	甕	66
	片口鉢Ⅰ類	3
備前	擂鉢	2
【須恵器】		
	甕	1
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	釘	32
	合計	612

第２面

方形竪穴状遺構18

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	135
【陶器】		
常滑	甕	11
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＢ類	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	合計	151

方形竪穴状遺構18－Ｐ５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	36
	合計	45

方形竪穴状遺構19

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	14
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	15

方形竪穴状遺構20

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

方形竪穴状遺構21

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

方形竪穴状遺構22

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	13
【陶器】		
常滑	甕	1
北部系	山茶碗	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢小破片	1
【須恵器】		
	甕	1
	合計	17

方形竪穴状遺構23

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	合計	5

方形竪穴状遺構24

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	18
【陶器】		
常滑	甕	2
【金属製品】		
	銭貨	1
	合計	21

方形竪穴状遺構25

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	39
【陶器】		
常滑	甕	6
	片口鉢Ⅰ類	2
【須恵器】		
	甕	1
【金属製品】		
	釘	6
	合計	54

ピット７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット10

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	4

ピット11

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

第２面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	48
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅰ類	1
【金属製品】		
	釘	4
	合計	55

第３面

竪穴状遺構１

産　地	器　種	破片数
【土師器】		
	坏	1
	長胴甕	2
	合計	3

掘立柱建物１－Ｐ３

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

掘立柱建物１－Ｐ４

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

掘立柱建物１－Ｐ５

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

溝状遺構１

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　手づくね成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
【土師器】		
	器種不明小破片	1
【須恵器】		
	坏	2
	合計	6

火葬墓１

産　地	器　種	破片数
【土師器】		
	土師器長胴甕	2
【骨】		
	火葬人骨	１体分
	合計	2

第３面 遺構外

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	19
【陶器】		
北部系	山茶碗	3
【瓦】		
	平瓦	1
	合計	13

第４面

溝状遺構２

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

火葬墓２

産　地	器　種	破片数
【土師器】		
	長胴甕	1
【骨】		
	火葬人骨	１体分
	合計	2

土坑７

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【須恵器】		
	甕	2
	合計	3

土坑８

産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
	合計	6

第４面 遺構外

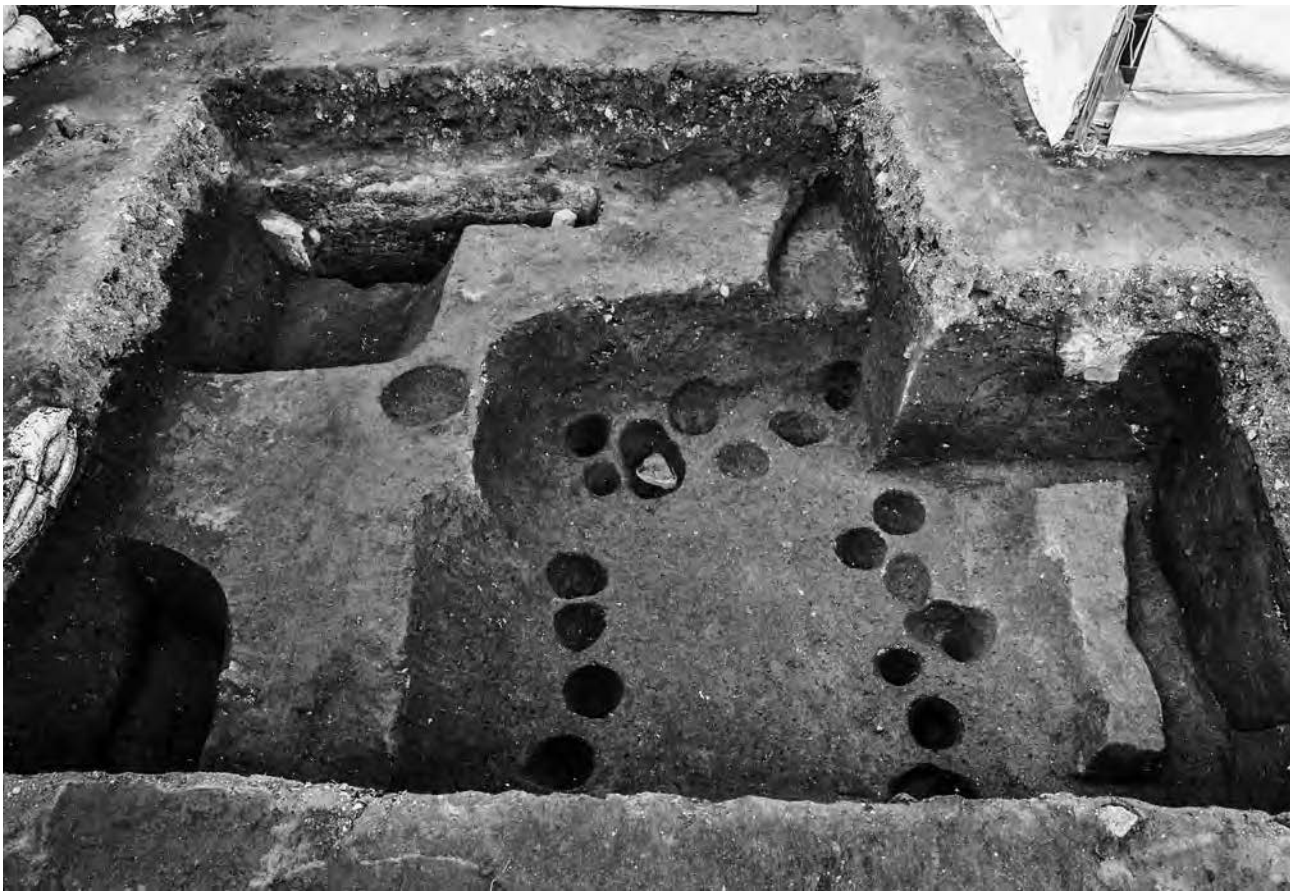
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	2
【土師器】		
	甕	29
	坏	3
【須恵器】		
	坏	2
	合計	42

1．調査地点近景（西から）

2．調査区南壁土層断面（北から）

図版２

１．調査区南側第１ｂ面全景（南から）



２．調査区北側第１ｂ面全景（南から）

１．第１ａ面 方形竪穴状遺構１切石出土状態（南から）

２．第１ａ面 方形竪穴状遺構４切石出土状態（東から）

３．第１ｂ面 方形竪穴状遺構11（南から）

図版４

１．調査区南側第２面全景（南から）

２．調査区北側第２面全景（南から）

１．調査区北側第３面全景（南から）

２．調査区南側第３面全景（南から）

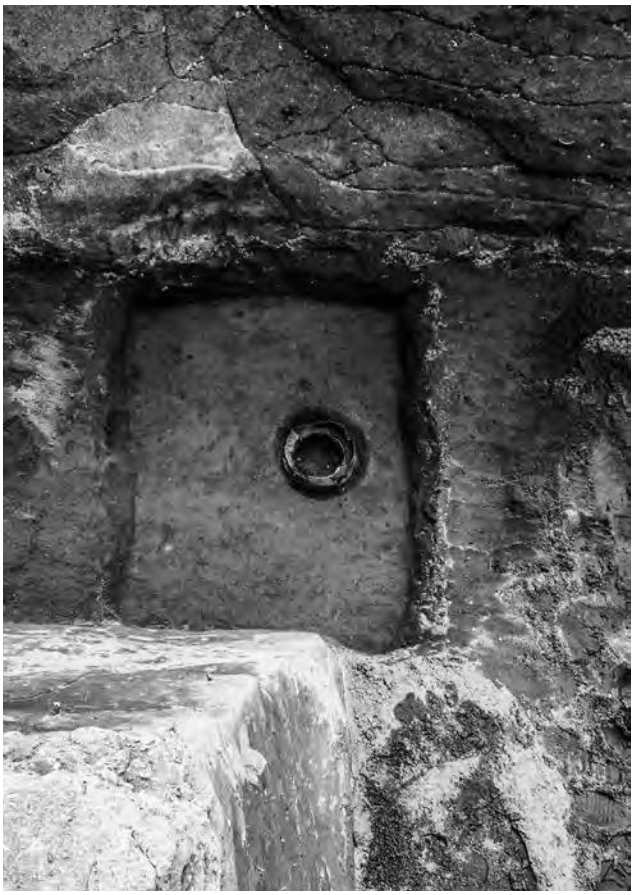
図版６

１．第３面 竪穴状遺構１および火葬墓１（西から）

２．第３面 火葬墓１掘り方（北から）

３．第３面 火葬墓１（東から）

４．第３面 火葬墓１（西から）



１．調査区北東側第４面全景（北から）

２．第４面 火葬墓２土層断面（東から）

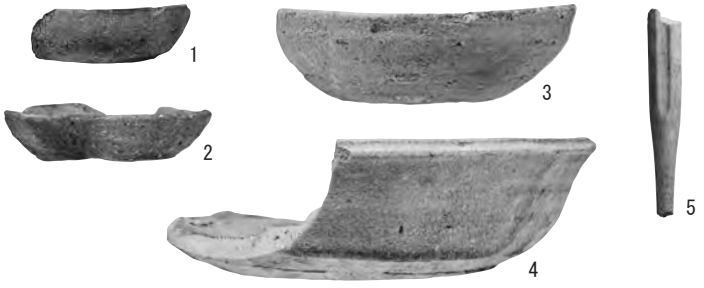
３．第４面 火葬墓２（西から）

４．調査区南側第４面全景（南から）

図版８

1．第１ａ面 方形竪穴状遺構２出土遺物

2．第１ａ面 方形竪穴状遺構３出土遺物

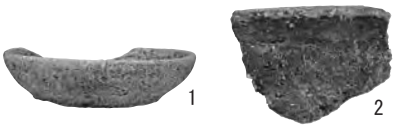


3．第１ａ面 方形竪穴状遺構４出土遺物

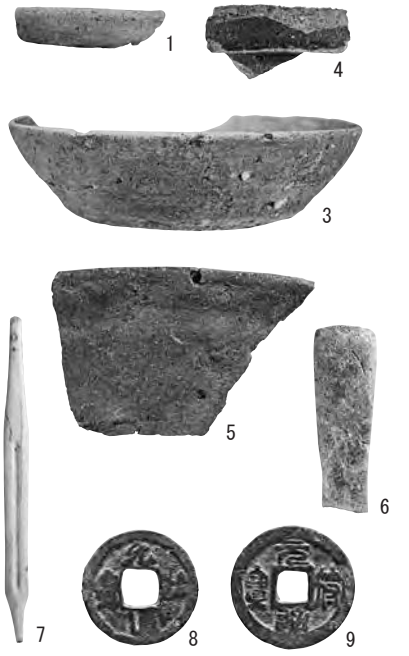
4．第１ａ面 方形竪穴状遺構５出土遺物

5．第１ａ面 方形竪穴状遺構６出土遺物

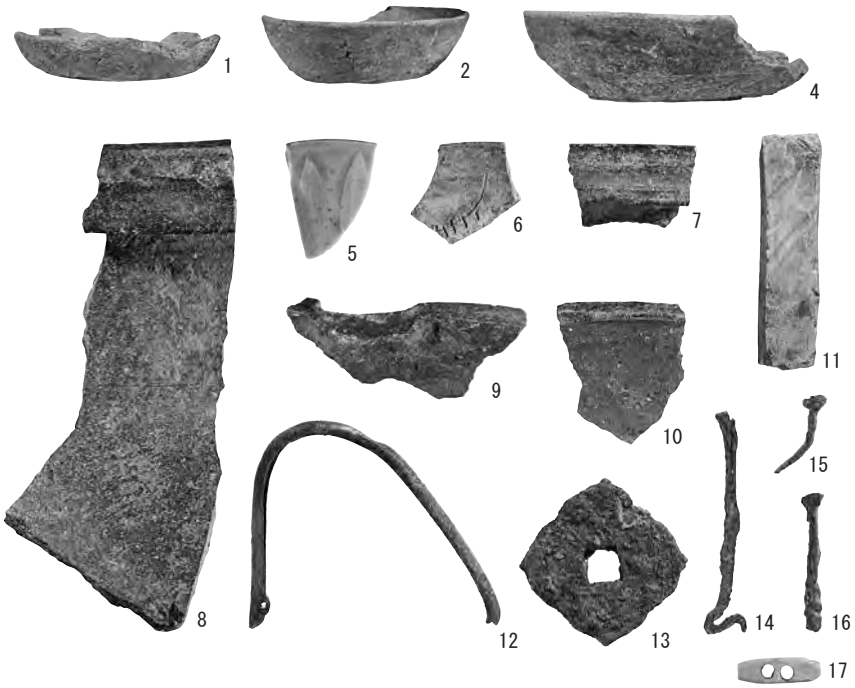
6．第１ａ面 方形竪穴状遺構８出土遺物



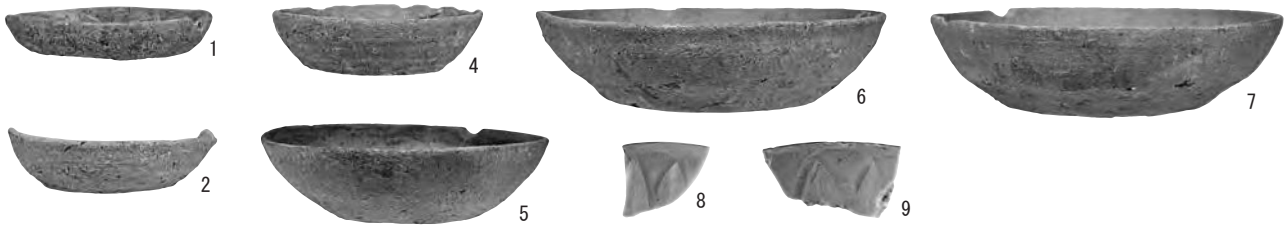
7．第１ａ面 方形竪穴状遺構９出土遺物



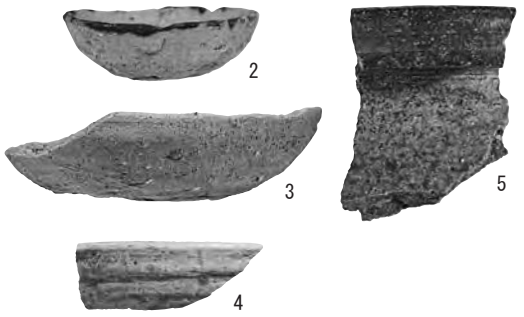
8．第１ｂ面 方形竪穴状遺構10出土遺物



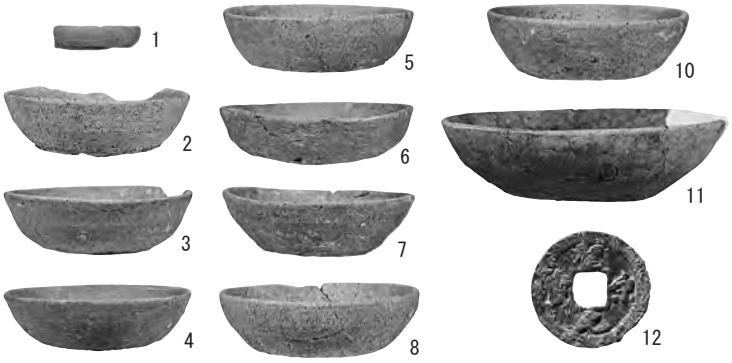
9．第１ｂ面 方形竪穴状遺構11出土遺物



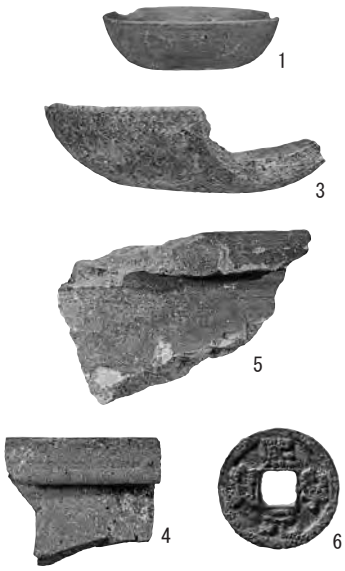
10．第１ｂ面 方形竪穴状遺構12出土遺物



１．第１ｂ面 方形竪穴状遺構13出土遺物



２．第１ｂ面 方形竪穴状遺構14出土遺物

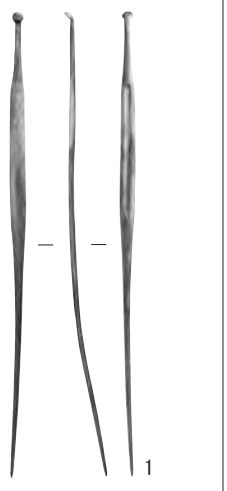


３．第１ｃ面 方形竪穴状遺構15出土遺物

４．第１ｃ面 方形竪穴状遺構16出土遺物

５．第１ｃ面 方形竪穴状遺構17出土遺物

６．第１ａ面 土坑１出土遺物

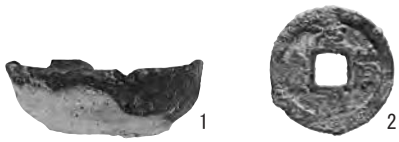


７．第１ａ面 土坑２出土遺物

８．第１ａ～１ｃ面 遺構外出土遺物

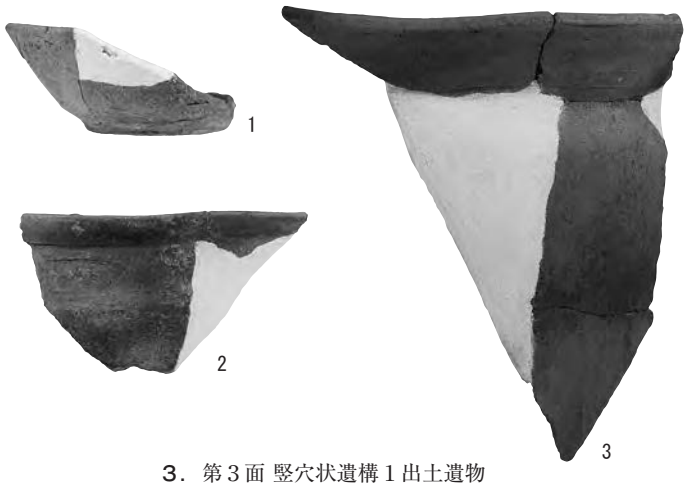
９．第２面 方形竪穴状遺構18出土遺物

図版10



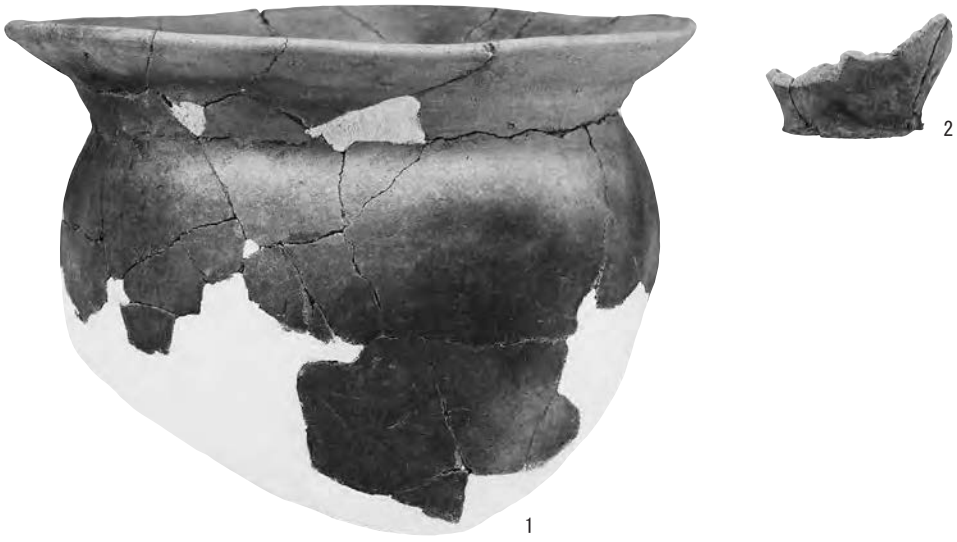
1．第２面 方形竪穴状遺構24出土遺物

2．第２面 方形竪穴状遺構25出土遺物



3．第３面 竪穴状遺構１出土遺物

4．第３面 火葬墓１出土遺物



5．第４面 火葬墓２出土遺物

甘縄神社遺跡群（№177）

長谷一丁目262番14外地点

例　言

1．本報は「甘縄神社遺跡群」（神奈川県遺跡台帳№177）内、鎌倉市長谷一丁目262番14外地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。

2．発掘調査は平成22年４月23日～平成22年６月11日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は36㎡である。

3．発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者　　馬淵和雄
調　査　員　　根本志保・栂岡ケイト
作　業　員　　安藤宗幸・宝珠山秀雄・沼上三代治・中須洋二・牛嶋道夫・浅香文保
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4．本報告書の作成並びに編集は、鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。

5．第四章の人骨の鑑定・執筆は、聖マリアンナ医科大学解剖学講座水嶋崇一郎氏・平田和明氏にご協力をいただいた。

6．本報に掲載した写真は、遺構を馬淵和雄、遺物を赤間和重が撮影した。

7．測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）を用い、図４に座標値を示した。

8．発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。

9．発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「ＡＪ1001」とした。

10．遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60㎝以上の掘り込みを土坑とし、60㎝未満のものをピットとして扱った。

11．遺物挿図中の網掛け・指示は、以下のとおりである。

遺構：□ 整地・地業範囲
遺物：■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲

12．遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。また、本文中における常滑・古瀬戸の編年表記については、器種ごとに編年幅をまとめて記述している。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会　2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬　　戸：愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史別編　窯業２　中世・近世　瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会　2012『愛知県史別編　窯業３　中世・近世　常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』

13．出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・西野吉論・玉川久子・西本正憲・林原利明・赤間和重・木村百合子・田村正義・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・鍋島昌代・水野敦子・石原むつみ・比嘉雪絵（玉川文化財研究所）

目　次

第一章　遺跡と調査地点の概観 …… 337
第１節　調査に至る経緯と経過 …… 337
第２節　調査地点の位置と歴史的環境 …… 337
第３節　周辺の考古学的調査 …… 338

第二章　堆積土層 …… 342

第三章　発見された遺構と遺物 …… 343
第１節　第１面の遺構と遺物 …… 343
第２節　第２面の遺構と遺物 …… 344
第３節　第３面の遺構と遺物 …… 349
第４節　第４面の遺構と遺物 …… 352
第５節　第５面の遺構と遺物 …… 353

第四章　自然科学分析 …… 356
甘縄神社遺跡群長谷一丁目262番14外地点より出土した中世の幼児頭蓋骨について
…… 356

第四章　まとめ …… 357

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図 …… 339
図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡 …… 340
図３　調査区位置図 …… 341
図４　調査区配置図 …… 341
図５　調査区北壁 土層断面図 …… 342
図６　第１面 遺構分布図 …… 343
図７　第１面 土坑１ …… 343
図８　第１面 遺構外出土遺物 …… 344
図９　第１面 構成土出土遺物 …… 344
図10　第２面 遺構分布図 …… 344
図11　第２面 礎石建物１ …… 345
図12　第２面 溝状遺構１ …… 345
図13　第２面 石列１ …… 346
図14　第２面 頭蓋骨埋納遺構１ …… 346
図15　第２面 土坑２・３ …… 346
図16　第２面 土坑２出土遺物 …… 347
図17　第２面 ピット25 …… 347
図18　第２面 ピット出土遺物 …… 347
図19　第２面 遺構外出土遺物 …… 348
図20　第２面 構成土出土遺物 …… 348
図21　第３面 遺構分布図 …… 349
図22　第３面 溝状遺構２・３ …… 349
図23　第３面 溝状遺構３出土遺物 …… 350
図24　第３面 方形土坑１ …… 350
図25　第３面 土坑４～７ …… 350
図26　第３面 土坑７出土遺物 …… 351
図27　第３面 ピット出土遺物 …… 351

図28　第３面 ピット35・39・55・57 ～ 60・64・69～71 …… 352
図29　第３面 遺構外出土遺物 …… 352
図30　第４面 遺構分布図 …… 353
図31　第４面 遺構外出土遺物 ……353
図32　第５面 遺構分布図 …… 353
図33　第５面 竪穴状遺構１・２ …… 354
図34　第５面 竪穴状遺構１出土遺物 …… 354
図35　第５面 竪穴状遺構２出土遺物 …… 354
図36　第５面 旧河道１ …… 355
図37　第５面 旧河道１出土遺物 …… 355
図38　第５面 遺構外出土遺物 …… 355

表　目　次

表１　甘縄神社遺跡群 調査地点一覧 …… 338
表２　第１面 出土遺物観察表 …… 358
表３　第２面 出土遺物観察表 …… 358
表４　第３面 出土遺物観察表 …… 360
表５　第４面 出土遺物観察表 …… 360
表６　第５面 出土遺物観察表 …… 360
表７　遺構計測表 …… 361
表８　出土遺物一覧表 …… 361

図　版　目　次

図版１　１．甘縄神明神社と調査区前路地入り口（南東から） …… 363
２．甘縄神明神社（南から） …… 363
図版２　１．調査区北壁土層断面（南から） … 364
２．第１面全景（南から） …… 364
図版３　１．第２面全景（南から） …… 365
２．第３面全景（北から） …… 365
図版４　１．第２面 頭骨埋納遺構１検出状況（南から） …… 366
２．第２面 頭骨埋納遺構１頭骨出土状況（南東から） …… 366
３．第３面 方形土坑１（西から） …… 366
図版５　１．第４面全景（南から） …… 367
２．第５面（古代面）全景（南から） … 367
図版６　１．第１面 遺構外出土遺物 …… 368
２．第１面 構成土出土遺物 …… 368
３．第２面 土坑２出土遺物 …… 368
４．第２面 ピット出土遺物 …… 368
５．第２面 遺構外出土遺物 …… 368
６．第２面 構成土出土遺物 …… 368
７．第３面 土坑７出土遺物 …… 368
８．第３面 溝状遺構３出土遺物 …… 368
９．第３面 ピット出土遺物 …… 368
図版７　１．第３面 遺構外出土遺物 …… 369
２．第４面 遺構外出土遺物 …… 369
３．第５面 竪穴状遺構１出土遺物 … 369
４．第５面 竪穴状遺構２出土遺物 … 369
５．第５面 旧河道２出土遺物 …… 369
６．第５面 遺構外出土遺物 …… 369

第一章　遺跡と調査地点の概観

第１節　調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市長谷一丁目262番14外で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である甘縄神社遺跡群（神奈川県遺跡台帳№177）の範囲内にあたり、当該地周辺の調査状況から、地下に中世の遺構が存在することは確実であった。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される36㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、馬淵和雄が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成22年４月23日～平成22年６月11日までの1.5ヵ月ほどである。現地表の標高は約6.6ｍを測る。調査はまず重機により約50㎝の表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査の結果、中世に属する第１～５面の合計５面にわたる遺構確認面が検出されたため、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。そして６月11日をもって、現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系（座標系ＡＲＥＡ９）に準じた、鎌倉市三級基準点（Ｘ＝－76501.001、Ｙ＝－26494.864）、（Ｘ＝－76553.760、Ｙ＝－26794.303）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海抜標高値は、鎌倉市三級基準点№53301（標高6.96ｍ）を基に移設した。

第２節　調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市長谷一丁目262番14外に所在し、「甘縄神社遺跡群（№177）」の範囲内に含まれる。甘縄神社遺跡群は鎌倉市の南部域に位置し、今回報告地点は江ノ島電鉄の長谷駅から北に250ｍほどの場所にあたる。地形的には、南側に向かって張り出す丘陵の山裾に東西方向に展開する遺跡で、西側には鎌倉時代において鎌倉の西側境界として認識されていた稲瀬川が南流し、相模湾へと注ぐ。また、南側には県道311号線が東西に真っすぐに延び、東へ向かうと六地蔵、名越を抜けて逗子に至り、西へ向かうと長谷観音、高徳院の大仏を抜けて藤沢方面へと通じる。

本遺跡の名称である「甘縄神社遺跡群」は、遺跡北側の「神輿岳」と呼ばれる丘陵斜面部に鎮座する甘縄神明神社の俗称「甘縄神社」に由来する。この甘縄神明社は、1712年（正徳二年）成立の社伝である『相州鎌倉郡神輿山甘縄寺神明宮縁起略』によると、710年（和銅三年）八月に行基によって草創されたという古社である。安達盛長が守護にあたり、かつては社殿の近くに安達氏代々の屋敷があったと推察されている。「甘縄」という地名は現在の行政上では消えてしまったが、鎌倉時代には若宮大路二ノ鳥居に近い無量寺ヶ谷から長谷観音前交差点に至る旧市街地西南部の広汎な地域を指していた（馬淵ほか 2007）。

隣接する包蔵地としては、本遺跡の東西および南側を取り囲むように長谷小路周辺遺跡（№236）が東西約１㎞に及ぶ範囲に展開し、西側には長谷観音周辺遺跡（№296）、北側には高徳院周辺遺跡（№327）がある。遺跡の西側を流れる稲瀬川から鎌倉市街地を南流する滑川河口までの海浜部は、中世に「前浜」と呼ばれ、この地域で発見される遺構は規模の大きな方形竪穴状遺構で出土遺物は多量の鞴の羽口

やスラグ、骨製品とその未成品などがあり、職能集団や工房の存在が指摘されている（宗臺秀・宗臺富1991）。方形竪穴状遺構が廃絶されたのちに「前浜」には多数の土坑墓が作られ、由比ガ浜中世集団墓地遺跡（№372）に代表されるように墓域として土地利用されていたことが明らかとなっている。この「前浜」の北限が長谷小路あたりと考えられている。

第３節　周辺の考古学的調査

ここでは、本調査地点周辺における過去の主な調査事例について簡単に触れてみたい（図２）。

本地点は東西方向に長い「甘縄神社遺跡群」包蔵地範囲の中央南西寄りに位置し、遺跡の南側を東西に延びる県道311号線から甘縄神明神社へ向かって北方向に真っすぐに延びる参道の西側にある。甘縄神社遺跡群ではこれまでに６地点の調査が行われている。まず最初に包蔵地範囲の北東部に位置する①～③をみていくと、①長谷一丁目227番24地点は北側から張り出す丘陵の裾部に立地し、第１～５面にわたる中世の遺構確認面が検出され、溝や井戸、土坑、かわらけ溜りなどが調査された（福田 2013）。この地点では瓦が195点出土しており、近くに瓦葺き屋根の建物が存在したと推測されている。①地点の西側に隣接する②長谷一丁目227番25地点では、落ち込みの中から大量の常滑が集中して出土しており、調査者は大型貯蔵容器を備えた施設が近隣に存在した可能性を指摘している（馬淵ほか 2007）。③長谷一丁目227番地点は、伝安達泰盛邸跡として鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報に概要が記されている（松尾 1983）。調査では板塀あるいは堀の土留施設と考えられる木組遺構が検出されたほか、褐釉壺など多くの舶載陶磁器や漆器といった多様な遺物が出土した。

包蔵地範囲の南端部中央付近に位置する④長谷一丁目271番10地点は、長谷小路に南面し、３面の遺構確認面が検出された（木村ほか 1995）。このうち２面には泥岩を用いた堅固な地業面が形成され、そこを掘り込んだ多数のピットが検出された。これらのピットには礎板をもつものもみられ、規則的な配置が認められることから、総柱建物４棟が抽出されている。３面からは大小16棟にのぼる建物が復元されたほか、壁体が遺存する方形竪穴状遺構や囲炉裏と考えられる木組遺構などが検出されている。また、遺構外ではあるが中世以前の遺物がまとまって出土している。時期的には弥生時代後期のものが最も古く、奈良時代の遺物がまとまっており、墨書土器が５点も出土していることは特筆される。今回報告地点からも古代の遺構と遺物が出土しており、④地点は距離的にも30ｍ程しか離れていないことから、両地点の関連が注意されよう。

甘縄神社遺跡群の東西および南側を取り囲むように広がる長谷小路周辺遺跡は、東西約１㎞にわたって展開している。このうち甘縄神社遺跡群と稲瀬川に挟まれた場所に位置する調査地点としては、⑤長谷一丁目284番１地点と⑥長谷一丁目33番３外地点がある。⑤地点では14世紀前半代に属する井戸や溝、土坑、ピットが検出され、井戸は一辺が1.8ｍを測る大型のものであった（玉林 1988）。長谷小路の南側

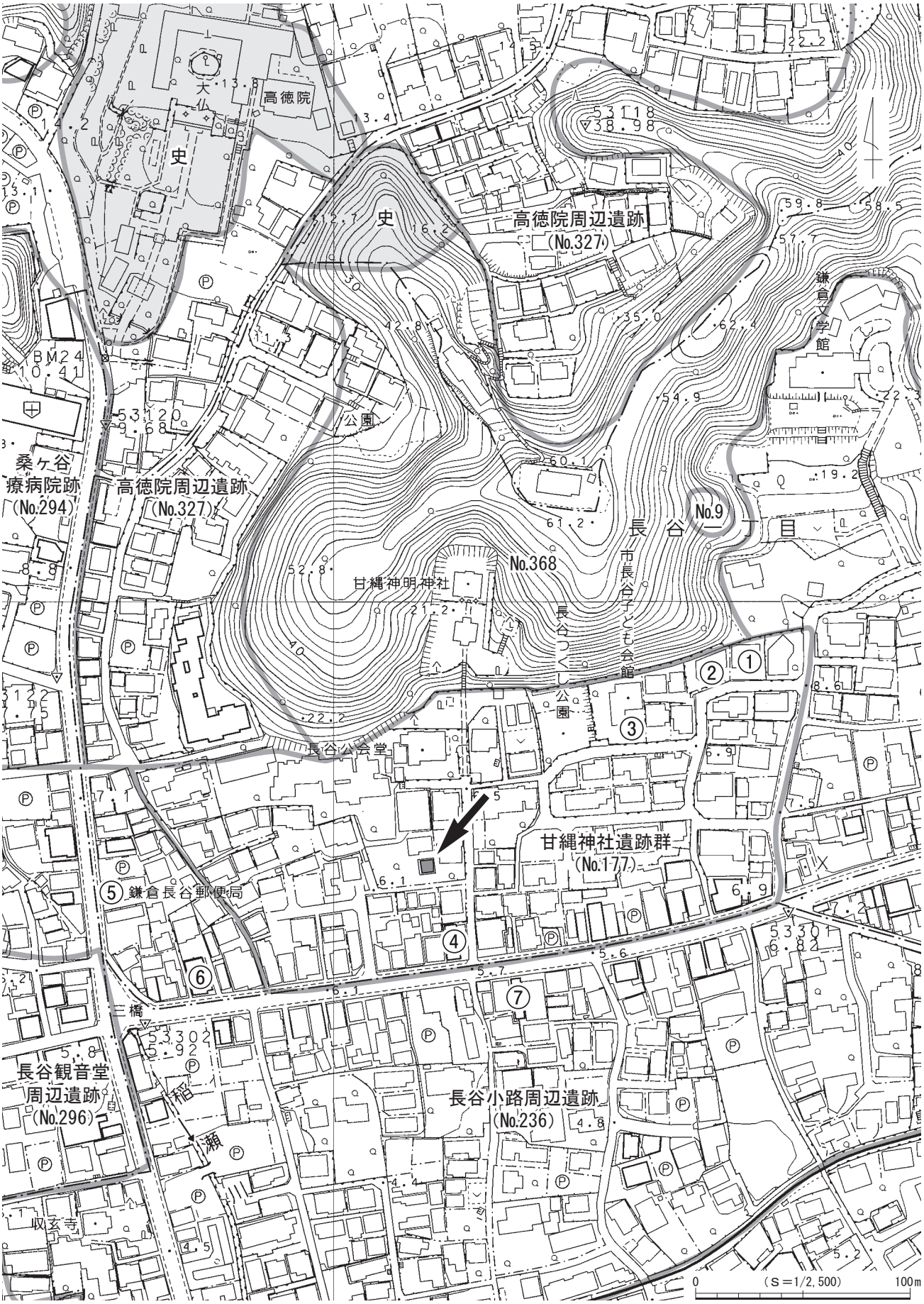
表１　甘縄神社遺跡群 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	甘縄神社遺跡群（№177）	長谷一丁目262番14外地点	
①	甘縄神社遺跡群（№177）	長谷一丁目227番24地点	福田 2013
②	甘縄神社遺跡群（№177）	長谷一丁目227番25地点	馬淵ほか 2007
③	甘縄神社遺跡群（№177）伝安達泰盛邸跡	長谷一丁目227番	松尾 1983
④	甘縄神社遺跡群（№177）	長谷一丁目271番10地点	木村ほか 1995
⑤	長谷小路周辺遺跡（№236）	長谷一丁目284番１地点	玉林 1988
⑥	長谷小路周辺遺跡（№236）	長谷一丁目33番３外地点	伊丹 1999
⑦	長谷小路周辺遺跡（№236）	由比ガ浜三丁目194番24地点	宗臺秀・宗臺富 1991

※遺跡№は神奈川県遺跡台帳による。

神奈川県の位置
鎌倉市の位置
鎌倉市域における遺跡の位置
鎌倉市
相　模　湾
由比ヶ浜
湘南道路
源氏山
0
（S＝1/25,000）
1000m

図１　遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字（表１の番号に対応）は調査地点を示す。

図２　調査区の位置と周辺の関連遺跡

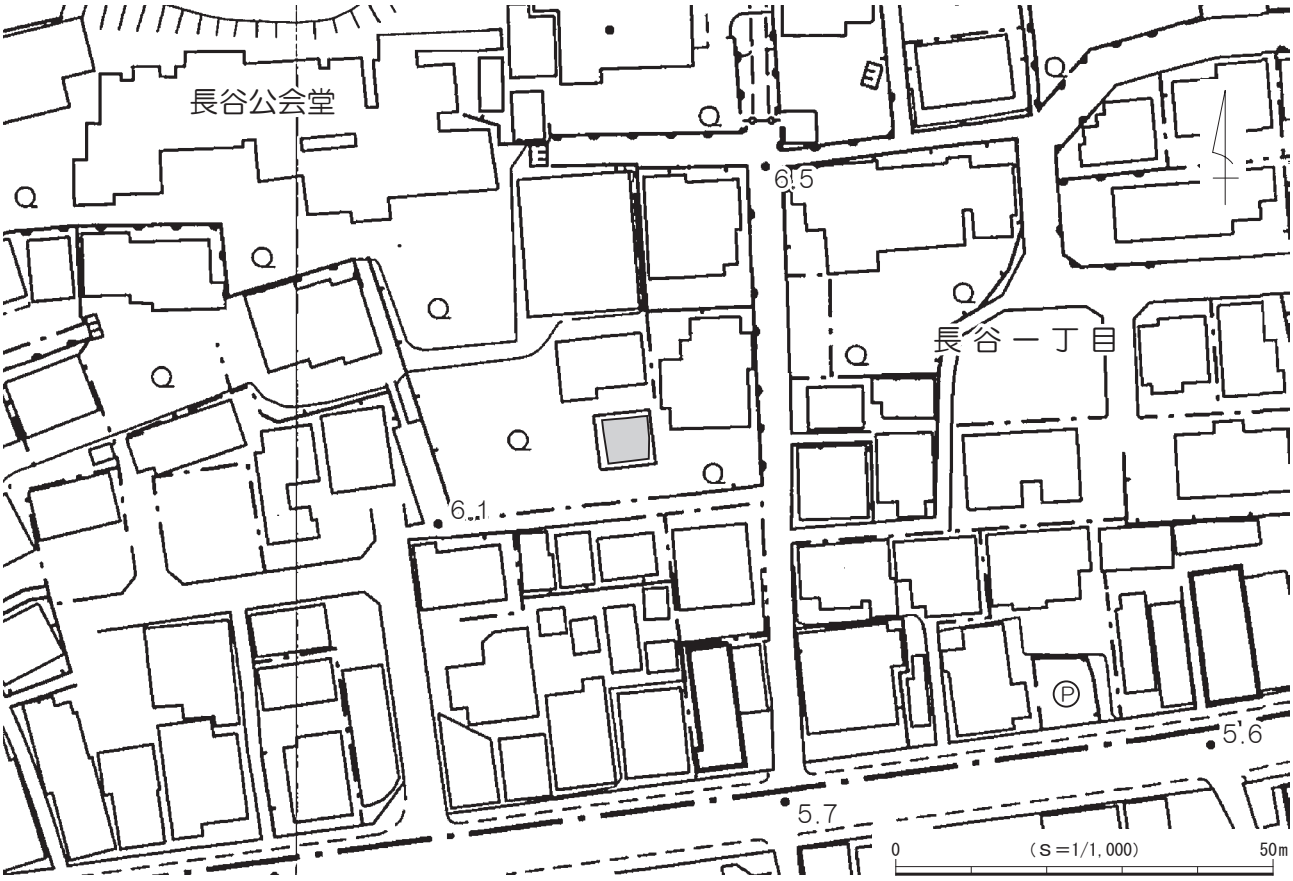


図３　調査区位置図

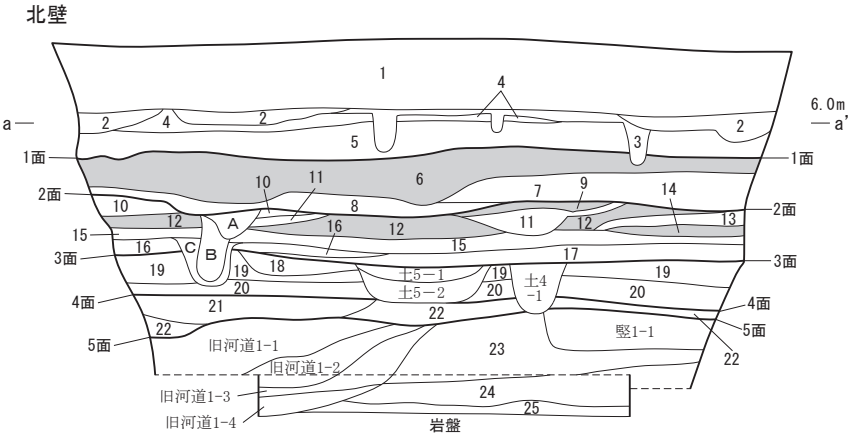
図４　調査区配置図

に面する⑥地点では方形竪穴状遺構、土坑、ピットが発見され、出土遺物から14世紀第２四半期～第３四半期の年代観が想定されている（伊丹 1999）。また、県道311号線の北側に面し甘縄神社遺跡群の南側にあたる⑦由比ガ浜三丁目194番24地点では、方形竪穴状遺構を主として、井戸と土坑が検出されている（宗臺秀・宗臺富 1991）。これらの遺構は出土遺物から14世紀代と考えられているが、中世の遺構下にある低湿地堆積土中からは古墳時代前期と10世紀前半を主体とする遺物が出土した。砂層上面より駿河地方に分布する大廓式の大型台付甕が出土しており、海伝いの文化的交流を示唆する遺物として注意される。

第二章　堆積土層

今回の調査における遺構確認面は、第１～５面までの合計５面である。ここでは、遺存状況の良好な調査区北壁の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する層を中心に詳述していきたい。なお、調査区壁面の土層断面図で確認された落ち込みの中には、平面的には捉えられなかったものも一部認められた。

現地表面は標高約6.6ｍを測り、最上部には表土（１層）、灰黒色炭化層（２層）、暗灰褐色砂質土（３・５層）、灰褐色砂質土（４層）が、層厚合計90㎝前後堆積している。遺構確認面の第１面は６層上面で検出した。確認面の標高は5.7～5.8ｍを測る。６層は泥岩ブロックを主体とする整地層で、層厚13～38㎝である。第２面は９～12層上面で確認し、確認面の標高は5.3～5.4ｍを測る。９層は泥岩ブロックを主体とする暗黄褐色砂質土層で、締まりの弱い整地層である。層厚５㎝前後である。10層は灰褐色砂質土層で、層厚７～15㎝である。11層は黒褐色粘質土層で、層厚５～21㎝である。12層は泥岩ブロックを多量に含む整地層で、層厚８～17㎝である。第３面は18・19層上面で確認し、確認面の標高は4.9～5.0ｍを測る。18層は泥岩粒・炭化物・遺物片を含む黒灰色粘質土層で、層厚５～20㎝である。19層は微量の橙色スコリアを含む黒褐色粘質土層で、層厚４～26㎝である。第４面は21・22層上面で確認し、確認面の標高は約4.6ｍを測る。21層は暗黒灰色強粘質土層で、層厚15～23㎝である。22層は暗黒灰色粘質土層で、層厚６～18㎝である。遺構確認面の最下位にあたる第５面は23層上面で確認し、確認面の標高は



１層　表土
２層　灰黒色炭化層
３層　暗灰褐色砂質土
４層　灰褐色砂質土
５層　暗灰褐色砂質土
６層　泥岩整地層　泥岩ブロック主体。（第１面）
７層　暗黄褐色砂質土　泥岩ブロック少量含む。
８層　灰褐色砂質土
９層　暗黄褐色砂質土　泥岩ブロック主体。締まり弱い。（第２面）
10層　灰褐色砂質土　（第２面）
11層　黒褐色粘質土　（第２面）
12層　泥岩整地層　泥岩ブロック多量に含む。（第２面）
13層　黒褐色粘質土
14層　泥岩整地層　泥岩ブロック多量に含む。
15層　黒褐色粘質土　11層に類似。
16層　黒褐色粘質土
17層　黒灰色粘質土　炭化物・遺物片含む。
18層　黒灰色粘質土　泥岩粒・炭化物・遺物片含む。（第３面）
19層　黒褐色粘質土　橙色スコリア微量に含む。（第３面）
20層　暗黒灰色強粘質土
21層　暗黒灰色強粘質土　（第４面）
22層　暗黒灰色粘質土　（第４面）
23層　暗黒褐色粘質土　（第５面）
24層　暗黒褐色粘質土　遺物片・自然木片含む。
25層　暗黒褐色粘質土　泥岩ブロック含む。

［遺構］
Ａ層　灰褐色砂質土
Ｂ層　黒褐色粘質土
Ｃ層　黒褐色粘質土

土坑４
１層　暗茶褐色粘質土
土坑５
１層　暗茶褐色粘質土
２層　暗茶褐色粘質土　泥岩ブロック含む。
竪穴状遺構１
１層　暗黒褐色粘質土
旧河道１
１層　暗青灰色粘質土　泥岩粒・木片多量に含む。
２層　暗青灰色砂層　炭化物・遺物・木片多量に含む。
３層　暗青灰色砂層　黒色粘質土ブロック含む。緻密な土質。
４層　暗青灰色砂層　泥岩・貝片・遺物片多く含む。

図５　調査区北壁 土層断面図

4.3～4.5ｍを測る。23層は暗黒褐色粘質土層で、層厚45㎝前後である。23層の下位は暗黒褐色粘質土層（24・25層）で、24層では遺物の出土もみられたが、遺構は検出されなかった。

第三章　発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第１～５面までの合計５面である。遺構確認面は第１～３面が中世、第４・５面が古代に属し、検出した遺構は礎石建物１棟、竪穴状遺構２基、旧河道１本、溝状遺構３条、石列１基、頭骨埋納遺構１基、土坑７基、ピット88基で、このうち竪穴状遺構２基と旧河道１本、ピット16基は古代に属する遺構である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して８箱を数える。遺物の詳細は出土遺物一覧表（表８）を参照されたい。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと（第１～５面）に説明する。

第１節　第１面の遺構と遺物

第１面の遺構は堆積土層の６層上面で検出され、確認面の標高は5.7～5.8ｍを測る。６層は泥岩ブロックを主体とする整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑１基、ピット４基のみで、調査区の東半に疎らに分布する（図６）。

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀代に属すると考えられる。

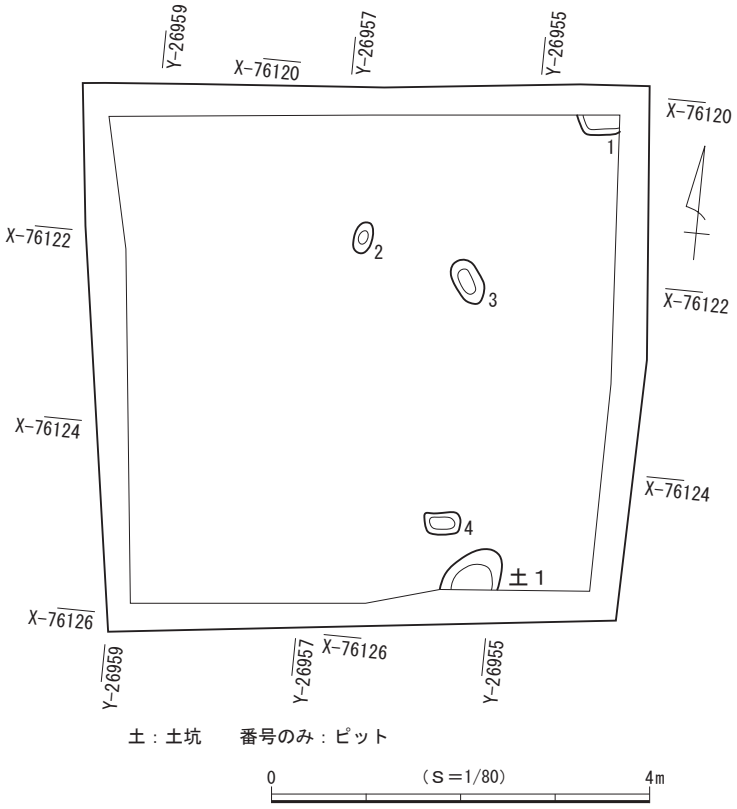


図６　第１面 遺構分布図

（１）土　坑

土坑１（図７）

調査区南壁際の東側に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長64㎝、短軸現存長58㎝、深さ７㎝で、坑底面の標高は5.68ｍを測る。主軸方位はＮ－32°－Ｅを指す。

遺物は出土しなかった。

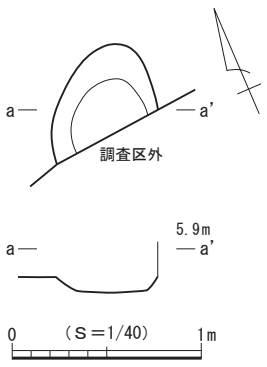


図７　第１面 土坑１

（２）ピット

第１面では、４基を検出した。調査区の全域に疎らに分布する。ピット間

の重複は少なく、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は楕円形と方形を基調とし、規模は長軸33～50㎝、深さ７～13㎝を測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

（３）第１面 遺構外出土遺物（図８）

第１面では遺構からは遺物は出土しなかったが、遺構検出の際に少量ではあるが遺物が出土し、このうち３点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけである。２は瀬戸産の卸皿で古瀬戸中期様式に比定される。３は土師質・瓦質土器の火鉢でⅢ類に比定される。

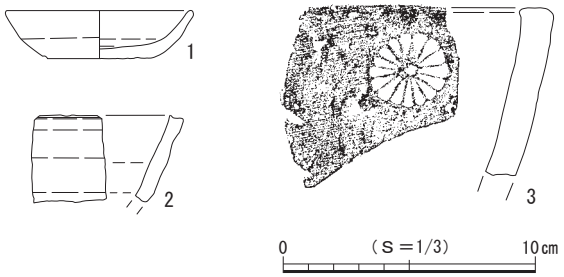


図８　第１面 遺構外出土遺物

（４）第１面 構成土出土遺物（図９）

第１面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち４点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけである。

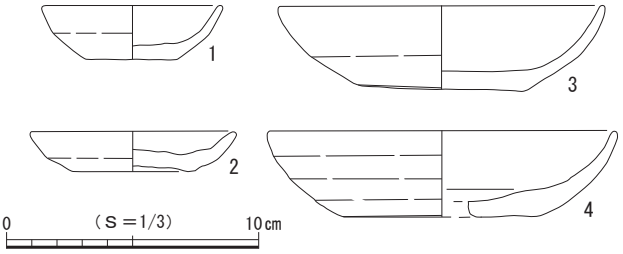


図９　第１面 構成土出土遺物

第２節　第２面の遺構と遺物

第２面の遺構は堆積土層の９～12層上面で検出され、確認面の標高は5.3～5.4mを測る。９層は泥岩ブロックを主体とする暗黄褐色砂質土の締まりの弱い整地層、10層は灰褐色砂質土層、11層は黒褐色粘質土層、12層は泥岩ブロックを多量に含む整地層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は礎石建物１棟、溝状遺構１条、石列１基、頭骨埋納遺構１基、土坑２基、ピット21基である（図10）。遺構密度はさほど高くはないが調査区全域に分布しており、溝状遺構をはじめとして調査区外に続く遺構が認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。南東側で検出された礎石建物は柱間寸法や柱穴の規模、礎石の大きさなどの規格性が高い。なお、礎石建物と溝状遺構、石列は主軸方向が同じであり、互いに関連をもつ遺構であった可能性が考えられる。

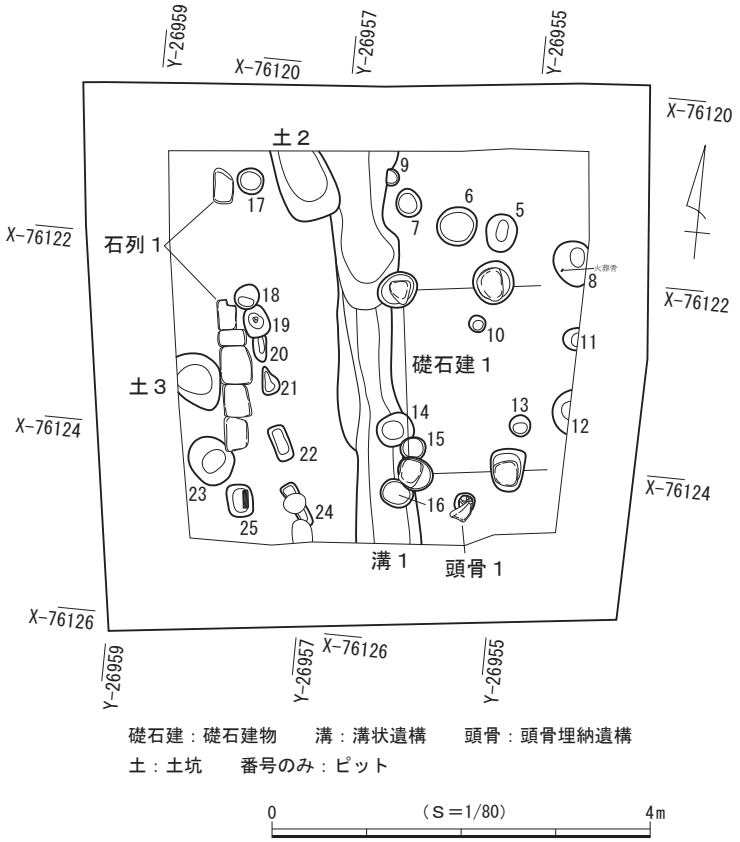


図10　第２面 遺構分布図

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、土師質・瓦質土器、弥生時代～古代の土器、石製品、金属製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

（1）礎石建物

礎石建物１（図11）

調査区の東側に位置する。おそらく調査区外の東側に展開していると推定され、全容を把握することはできなかった。調査区内では４本のピットを検出し、いずれも礎石が据えられていた。西側で溝状遺構１とピット15・16と重複して、壁の一部を壊されている。

本址は南北方向が１間以上、東西方向が２間以上の規模をもつ建物と推定され、柱間寸法は心々間で南北が2.0ｍで、東西が1.0ｍを測る。検出範囲から推定される主軸方位はＮ－９°－Ｗを指す。

ピットの平面形は円形、楕円形、隅丸方形がみられ、規模は長軸40～45㎝、深さ11～16㎝と規格性が高い。各ピットの底面には掘り方とほぼ同サイズの礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ25～33㎝、幅22～28㎝、厚さ８～12㎝である。標高は礎石上面で5.30～5.39ｍ、ピット底面で5.17～5.22ｍを測る。なお、本址は溝状遺構１、石列１と主軸方向が同じであり、互いに関連をもつ遺構であった可能性が考えられる。

遺物はかわらけ３点が出土した。

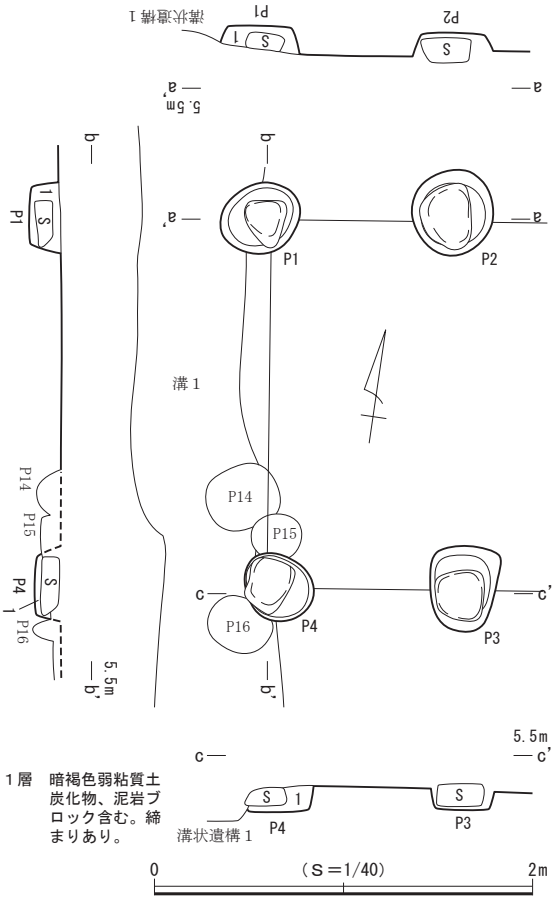


図11　第２面 礎石建物１

（2）溝状遺構

溝状遺構１（図12）

調査区の中央に位置し、南北方向に縦走して調査区外へとほぼ直線的に延びている。調査区内では礎石建物１のＰ１とＰ４と重複して壊し、土坑２、ピット９・14～16と重複して壁と底面の一部が壊される。検出した規模は現存長約4.2ｍ、幅47～83㎝、深さ８～12㎝を測り、主軸方位はＮ－11°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。西壁の中央にテラス状の段が認められることから、作り替えを行った可能性が推定される。底面はほぼ平らであるが、北側の1/3ほどがやや深く掘り込まれている。底面の標高は南側で5.26ｍ、北側で5.19ｍを測る。なお、礎石建物１と石列１と主軸方向が同じであり、互いに関連をもつ遺構であった可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

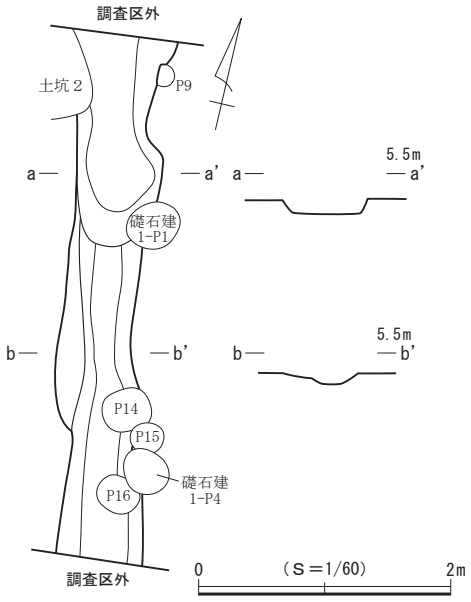


図12　第２面 溝状遺構１

（3）石　列

石列１（図13）

調査区の西壁近くに位置する。他の遺構との重複は認められず、南北側の調査区外へと続いている可能性も考えられる。切石の上面の高さと西面をほぼそろえて列状に配置し、調査区内での規模は現存長約3.0ｍを測る。切石の大きさは、長さ30～40㎝、幅16～30㎝、高さ７～10㎝で、上面の標高は5.36～5.39ｍを測る。主軸方位はＮ－８°－Ｗを指し、礎石建物１および溝状遺構１と平行する向きで延びており、関連をもつ可能性が推定される。

遺物は出土しなかった。

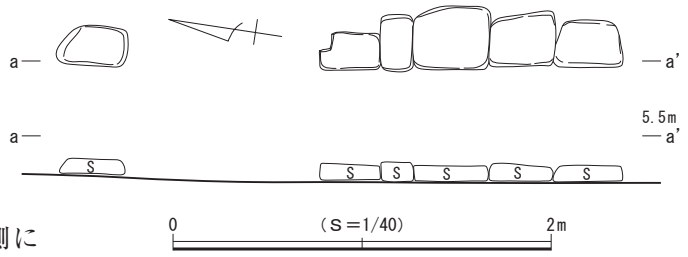


図13　第２面 石列１

（4）頭骨埋納遺構

頭骨埋納遺構１（図14）

調査区の南東側に位置する。礎石建物１の南側に隣接し、他の遺構との重複は認められなかった。ピット中に下顎骨が失われた人頭骨を正位に埋納した遺構で、顔面は南側に向けられていた。この頭骨はおおよそ２歳前後の幼児頭蓋であり、同一個体の体幹骨や四肢骨は一片も出土しなかった。詳細な分析結果については第四章に掲載したので参照されたい。

掘り方の上面には長さ28㎝、幅17㎝、高さ５㎝の泥岩が中心からややずれた位置に埋置されており、蓋のような様相を呈していた。掘り方の平面形は略円形を呈し、底面は平らで断面形が逆台形をなす。規模は径22㎝、深さ11㎝を測る。

頭骨の他に遺物はかわらけ４点が出土した。

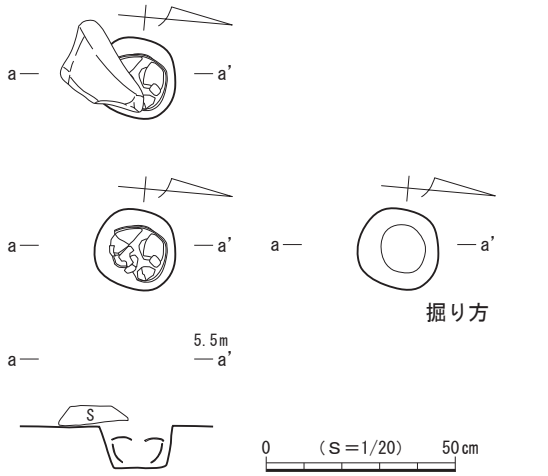


図14　第２面 頭蓋骨埋納遺構１

（5）土　坑

土坑２（図15）

調査区北壁際の中央東側に位置する。東側で溝状遺構１と重複して壁の一部を壊し、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略隅丸長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長81㎝、短軸56㎝、深さ15㎝で、坑底面の標高は5.16ｍを測る。主軸方位はＮ－23°－Ｗを指す。

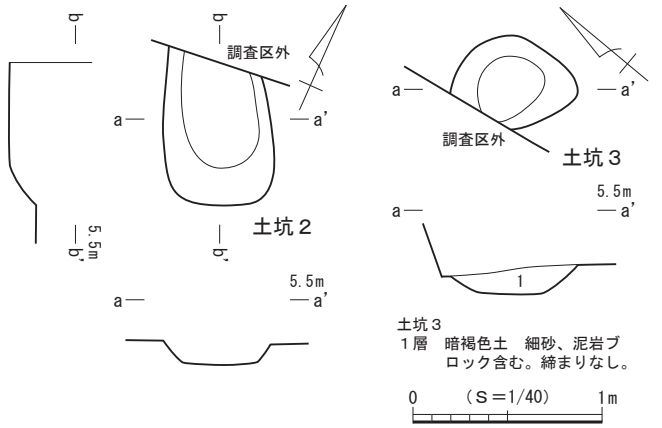


図15　第２面 土坑２・３

出土遺物（図16）

遺物はかわらけ35点、陶器１点が出土し、このうち３点を図示した。

１～３はロクロ成形によるかわらけである。

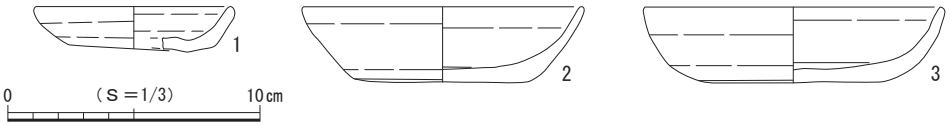


図16　第２面 土坑２出土遺物

土坑３（図15）

調査区西壁際の中央付近に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸67㎝、短軸49㎝、深さ14㎝で、坑底面の標高は5.06ｍを測る。主軸方位はＮ－35°－Ｗを指す。

遺物はかわらけ１点、陶器１点が出土した。

（６）ピット

第２面では、21基を検出した。調査区の東側に位置する礎石建物１と西側の石列１の周辺に分布し、遺構密度はまばらである。調査範囲内においては施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸18～52㎝、深さ５～23㎝を測る。21基のうち１基のピット（ピット25）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ19㎝、幅６㎝で、上面の標高は5.08ｍを測る。なお、礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図17に図示した。

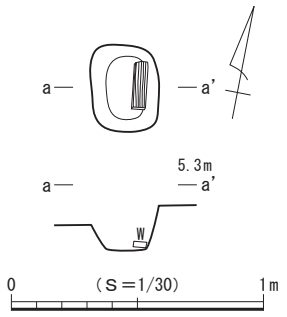


図17　第２面 ピット 25

出土遺物（図18）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、ピット15より出土した。

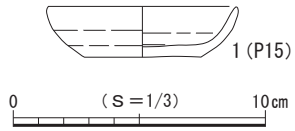


図18　第２面 ピット出土遺物

（７）第２面 遺構外出土遺物（図19）

第２面では、上記した遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち29点を図示した。

１～27はロクロ成形によるかわらけで、１の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。28は常滑産の甕で６ａ～６ｂ型式に比定される。29は銭貨で祥符元寶（1008年初鋳）である。

（８）第２面 構成土出土遺物（図20）

第２面の遺構基盤層となる構成土からも遺物が出土し、このうち20点を図示した。

１～12はロクロ成形によるかわらけである。13は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。14～16は龍泉窯系青磁である。14・15は碗で碗Ⅱ－ｂ類、16は皿でⅠ－２ｂ類に比定される。17は瀬戸産の入子で古瀬戸前期～中期様式に比定される。18は常滑産の片口鉢Ⅰ類で５～６ａ型式に比定される。19は土師質・瓦質土器の火鉢でⅠＢ類に比定される。20は銭貨で紹聖元寶（1094年初鋳）である。

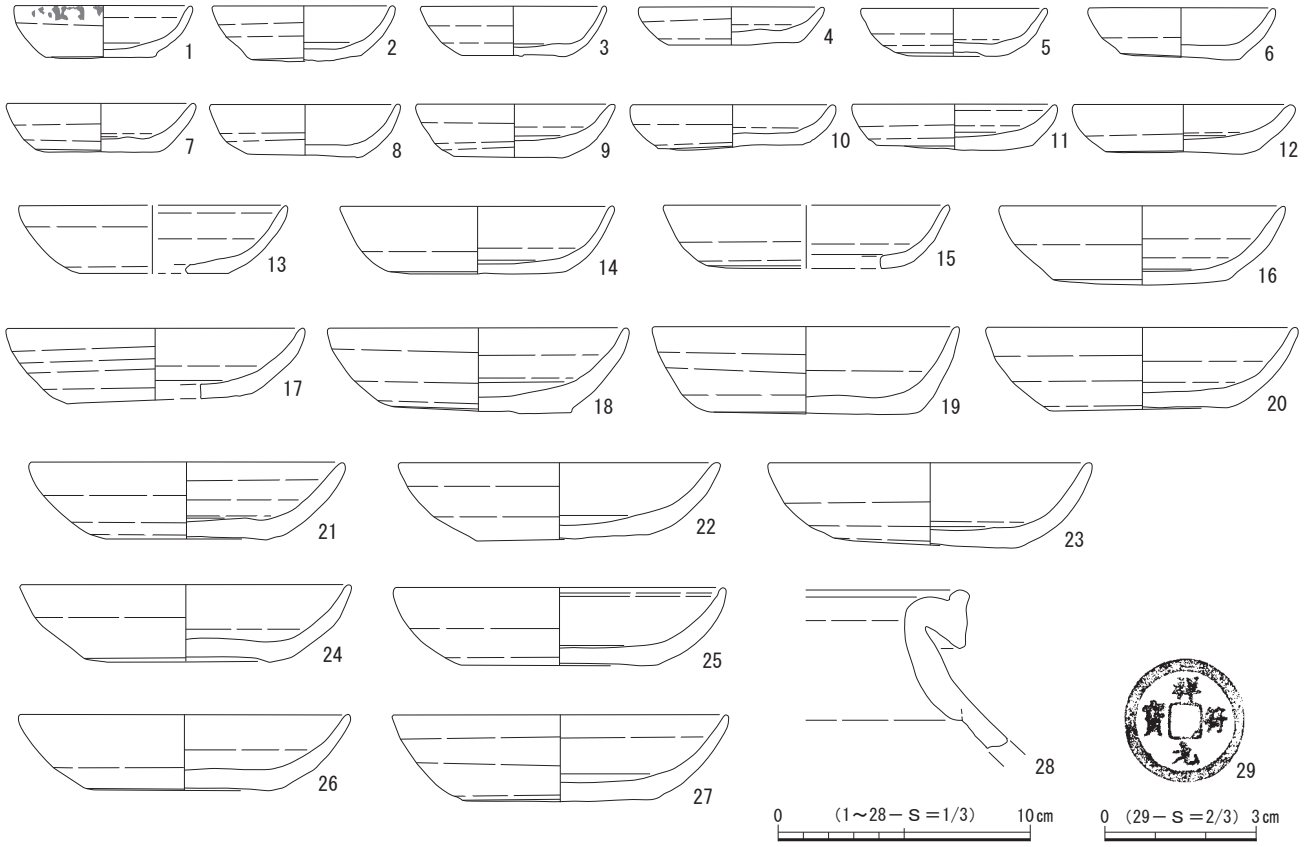


図19　第２面 遺構外出土遺物

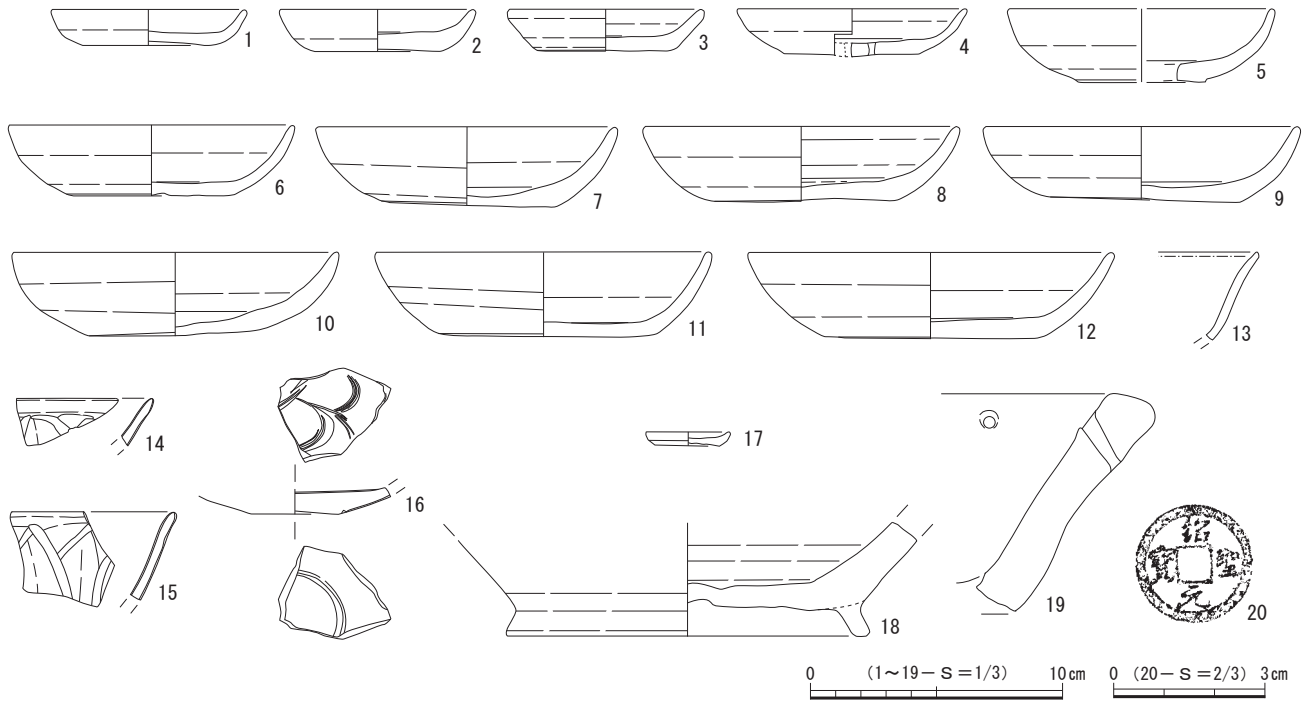


図20　第２面 構成土出土遺物

第３節　第３面の遺構と遺物

第３面の遺構は堆積土層の18・19層上面で検出され、確認面の標高は4.9～5.0ｍを測る。18層は泥岩粒・炭化物・遺物片を含む黒灰色粘質土層、19層は微量の橙色スコリアを含む黒褐色粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は溝状遺構２条、方形土坑１基、土坑４基、ピット47基である（図21）。調査区南側を除くほぼ全域に遺構が分布しており、遺構密度も高い。また、調査区外に続く遺構が認められることから、調査範囲の外側にも遺構が展開する様相が想定される。調査区の西壁際から溝状遺構と方形土坑がまとまって検出され、その東側に土坑とピットが密集する。

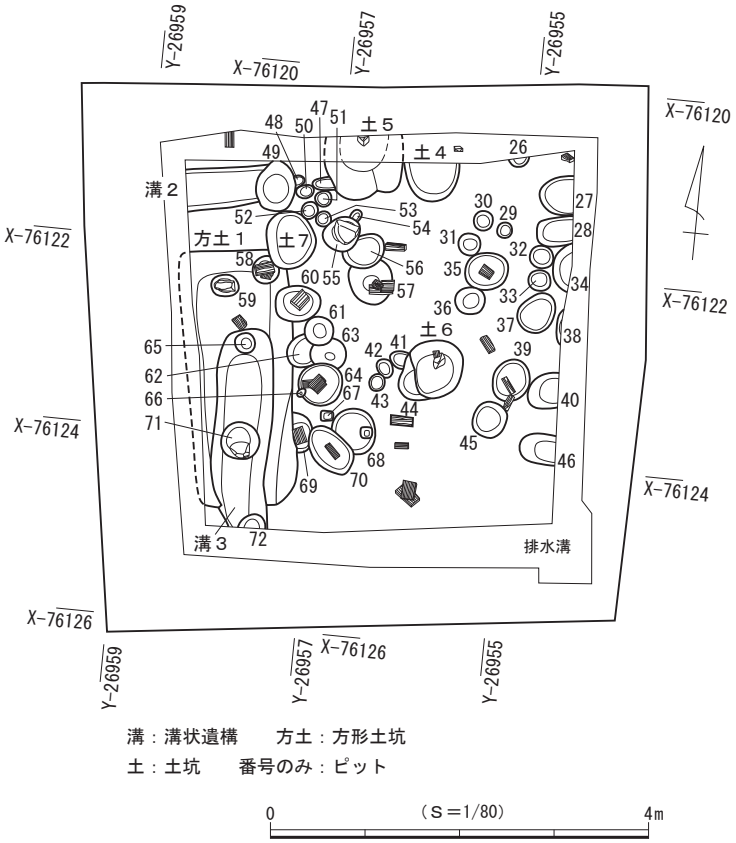


図21　第３面 遺構分布図

遺物は主にかわらけ、磁器、陶器、須恵器、木製品などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

（１）溝状遺構

溝状遺構２（図22）

調査区の北西隅に位置する。真っすぐに西側の調査区外へと延び、東側の端部はピット49に壊され判然としないが調査区内に収まる。検出した規模は現存長約90㎝、幅45㎝、深さ10㎝を測り、主軸方位はＮ－80°－Ｅを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平らで、標高は4.83ｍを測る。

遺物はかわらけ２点が出土した。

溝状遺構３（図22）

調査区の南西側に位置する。おおむね直線的に南側の調査区外へと延びるが、北側の端部は調査区内に収まり確認することができた。方形土坑１と重複して底面の大部分を壊し、ピット65・71・72と重複して壁と底面の一部が壊されている。検出した規模は現存長約2.1ｍ、幅60㎝、深さ23㎝を測り、主軸方位は真北を指す。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面は平らで、標高は4.65ｍを測る。

出土遺物（図23）

遺物はかわらけ37点、磁器３点、陶器４点、木製品１点が出

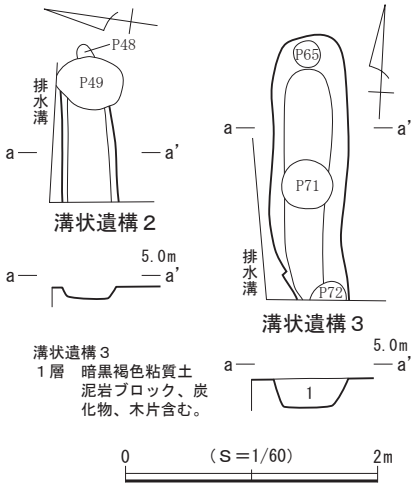


図22　第３面 溝状遺構２・３

土し、このうち４点を図示した。

１は白磁皿で皿Ⅸ類に比定される。２は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。３・４は東濃型の山茶碗の形状をしたオロシ碗で、同一個体の可能性が高い遺物である。

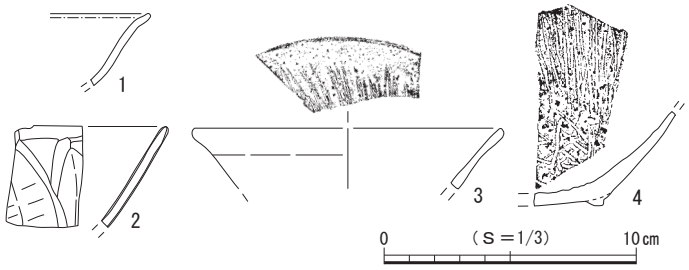


図23　第３面 溝状遺構３出土遺物

（２）方形土坑

方形土坑１（図24）

調査区の西壁際に位置する。溝状遺構３、土坑７、ピット58～60・62・65・71と重複して壁と底面が壊され、西側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると、南北方向に主軸をもつ長方形と考えられ、底面はほぼ平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸2.70ｍ、短軸現存長1.03ｍ、深さ20㎝で、坑底面の標高は4.66ｍを測る。主軸方位はＮ－９°－Ｗを指す。

遺物は出土しなかった。

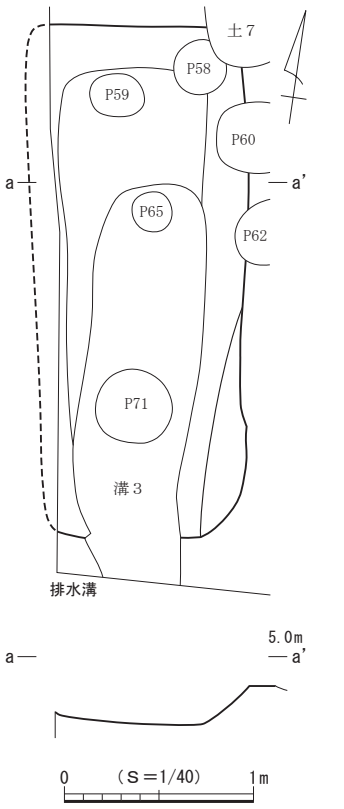


図24　第３面 方形土坑１

（３）土　坑

土坑４（図25）

調査区北壁際の中央付近に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長40㎝、東西60㎝、深さ５㎝で、坑底面の標高は4.84ｍを測る。主軸方位はＮ－10°－Ｗを指すと推定される。

遺物は出土しなかった。

土坑５（図25）

調査区北壁際の中央付近に位置する。西側でピット47と重複して壁と底面の一部を壊し、北側が調査区外へと続いており全容を把握でき

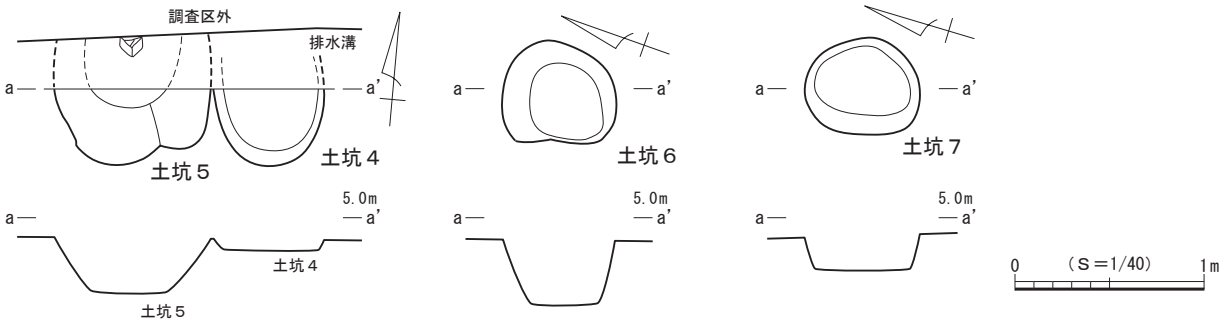


図25　第３面 土坑４～７

なかった。ごく一部の調査にとどまり、平面形や主軸方位は判然としない。底面は平らで、壁は開いて立ち上がる。断面形は逆台形を呈し、規模は南北現存長90㎝、東西現存長40㎝、深さ28㎝である。坑底面の標高は18.57ｍを測る。

遺物はかわらけ２点、陶器１点が出土した。

土坑６（図25）

調査区中央の東側に位置する。西側でピット44と重複して壁と底面の大半を壊している。平面形は不整円形を呈し、底面は平らである。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62㎝、短軸53㎝、深さ34㎝で、坑底面の標高は4.54ｍを測る。

遺物はかわらけ４点が出土した。

土坑７（図25）

調査区の北西側に位置する。南側で方形土坑１、ピット58と重複して壁の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面はほぼ平らである。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い形状を呈する。規模は長軸61㎝、短軸51㎝、深さ17㎝で、坑底面の標高は4.73ｍを測る。主軸方位はＮ－14°－Ｗを指す。

出土遺物（図26）

遺物はかわらけ１点、磁器１点、須恵器１点が出土し、このうち１点を図示した。

１は龍泉窯系青磁碗で碗Ⅱ－ｂ類に比定される。

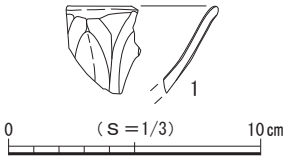


図26　第３面 土坑７出土遺物

（４）ピット

第３面では、47基を検出した。調査南側は遺構の空白域となり、そこを除く全域にほぼ満遍なく分布するが、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形、方形を基調とし、規模は長軸10～58㎝、深さ５～29㎝を測る。47基のうち３基のピット（ピット55・59・71）に礎石が据えられており、礎石の大きさは長さ20～25㎝、高さ３～４㎝で、上面の標高は4.64～4.86ｍである。また、８基のピット（ピット35・39・57・58・60・64・69・70）に礎板が据えられており、礎板の大きさは長さ12～25㎝、幅３～18㎝、厚さ２～４㎝、上面の標高は4.71～4.98ｍである。なお、礎石や礎板が検出されたピットについては個別図を作成し、図28に図示した。

出土遺物（図27）

ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表（表８）に掲げたが、このうち１点を図示した。

１はロクロ成形によるかわらけで、ピット34より出土した。

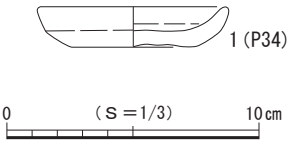


図27　第３面 ピット出土遺物

（５）第３面 遺構外出土遺物（図29）

第３面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち５点を図示した。

１～４はロクロ成形によるかわらけで、２～４の口縁部には油煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。５は白磁皿で白磁皿Ⅸ類に比定される。

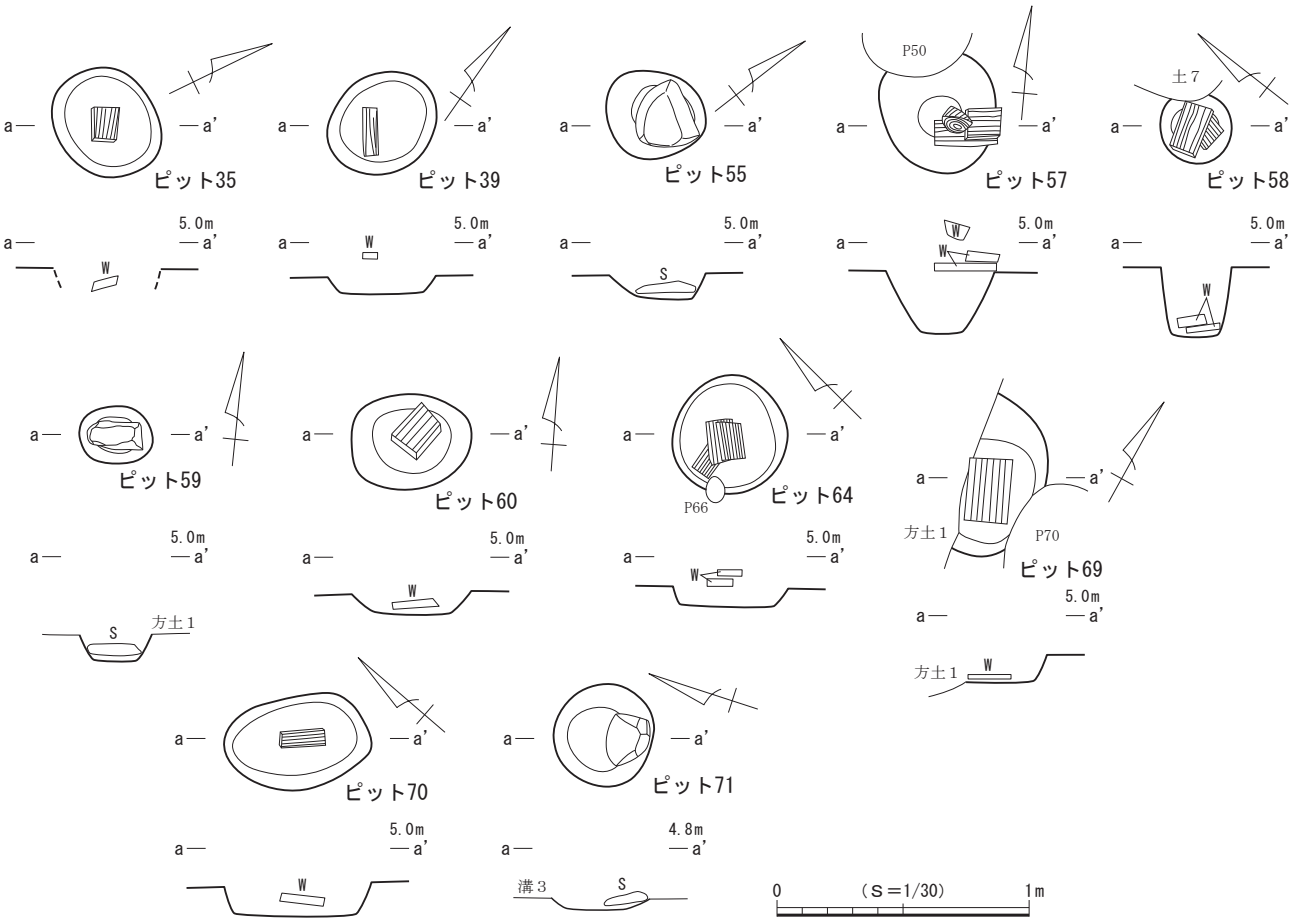


図28　第３面 ピット35・39・55・57～60・64・69～71

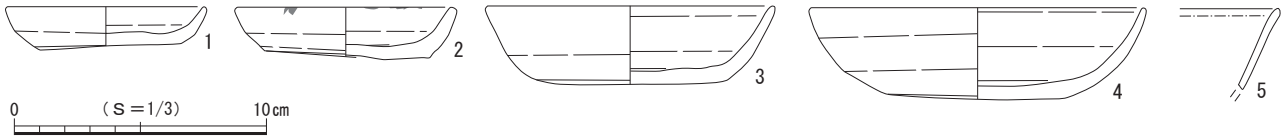


図29　第３面 遺構外出土遺物

第４節　第４面の遺構と遺物

第４面の遺構は堆積土層の21・22層上面で検出され、確認面の標高は約4.6mを測る。21層は暗黒灰色強粘質土層、22層は暗黒灰色粘質土層で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構はピット16基のみで、調査区西側に集中して分布するが遺構の種類、総数ともに少ない（図30）。

遺物は主に土師器・土器、須恵器、石製品などが出土しており、これらの年代観から本面は奈良・平安時代に属すると考えられる。

（１）ピット

第４面では、16基を検出した。調査区西側に集中して分布するがピット間の重複は少なく、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形を基調とし、規模は長軸16～31cm、深さ３～15cmを測る。礎石や礎板を有するピットは検出されなかった。

遺物は出土しなかった。

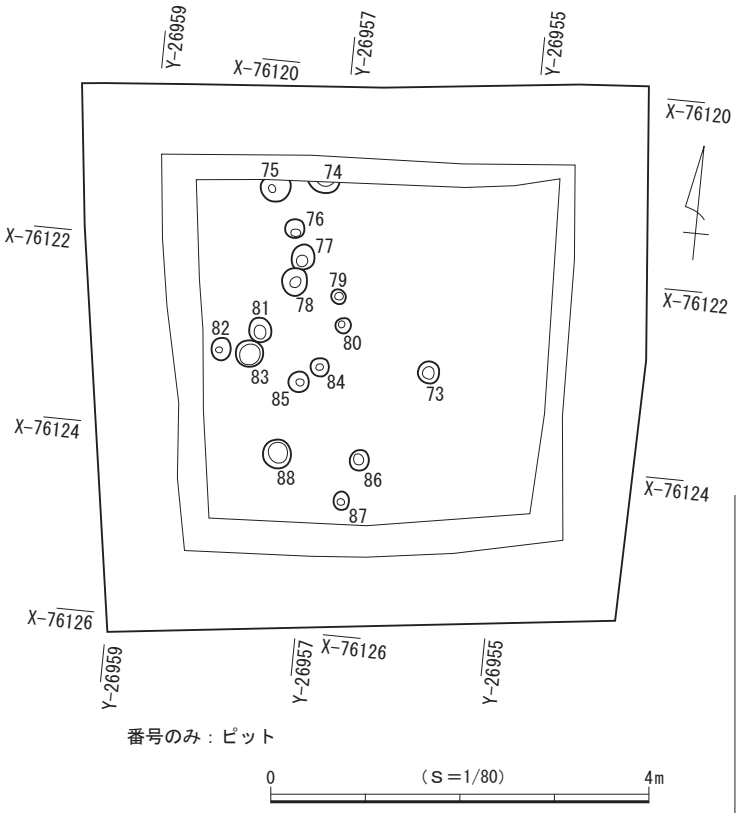


図30　第４面 遺構分布図

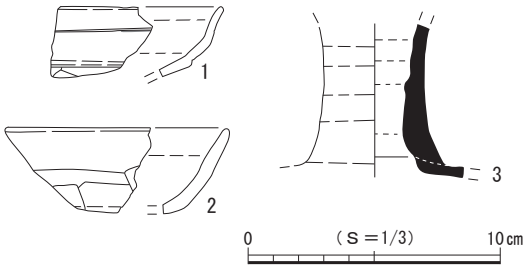


図31　第４面 遺構外出土遺物

（２）第４面 遺構外出土遺物（図31）

第４面では、遺構からの出土遺物はないが遺構検出面からは遺物が出土し、このうち３点を図示した。

１・２は土師器である。１は古墳時代後期鬼高式の坏、２は９世紀代の相模型の坏である。３はおおよそ平安時代と推定される須恵器の長頸瓶である。

第５節　第５面の遺構と遺物

第５面の遺構は堆積土層の23層上面で検出され、確認面の標高は4.3～4.5mを測る。23層は暗黒褐色粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は古代の竪穴状遺構２基、旧河道１本で、竪穴状遺構が旧河道の走行方向と同じ主軸方位で構築されていた（図32）。

遺物は主に土師器・土器、須恵器、石製品などが出土しており、これらの年代観から本面は奈良・平安時代に属すると考えられる。

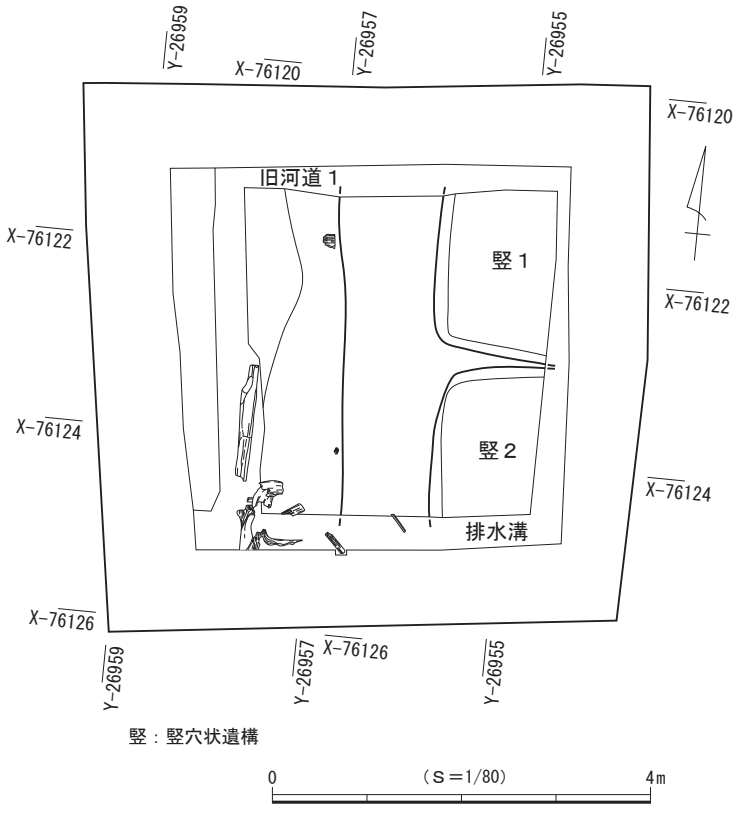


図32　第５面 遺構分布図

（１）竪穴状遺構

竪穴状遺構１（図33）

調査区北東隅に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、東側と北側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形と考えられ、底面は北側へ向かってごく緩やかに傾斜する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.83m、東西現存長1.24m、深さ18～31㎝で、底面の標高は北側で4.25m、南側で4.33mを測る。主軸方位はほぼ真北を指す。

出土遺物（図34）

遺物は土師器50点、須恵器11点、石製品13点が出土し、このうち５点を図示した。

１～３は土師器である。１は相模型の坏、２・３は武蔵型の小形甕である。４・５は須恵器の坏である。これらの図示した遺物は９世紀後半代に比定される。

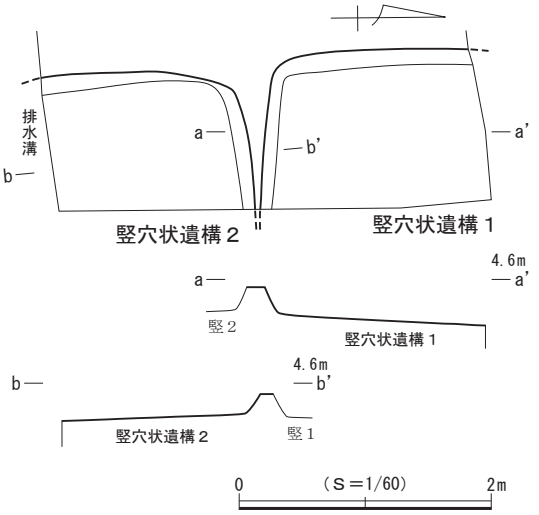


図33　第５面 竪穴状遺構１・２

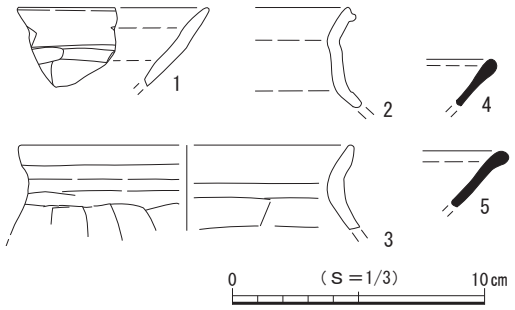


図34　第５面 竪穴状遺構１出土遺物

竪穴状遺構２（図33）

調査区の南東隅に位置する。調査区内で他の遺構との重複は認められなかったが、東側と南側が調査区外へと続いており全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸方形と考えられ、底面は南側へ向かってごく緩やかに傾斜する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.60m、東西現存長1.10m、深さ18㎝で、底面の標高は北側で4.37m、南側で4.31mを測る。主軸方位はＮ－４°－Ｗを指す。

出土遺物（図35）

遺物は土師器94点、須恵器４点、石製品１点が出土し、このうち２点を図示した。

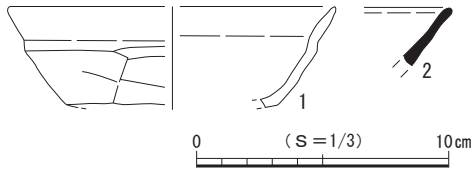


図35　第５面 竪穴状遺構２出土遺物

１は土師器で相模型の坏である。２は須恵器の坏である。これらの図示した遺物は９世紀後半代に比定される。

（２）旧河道

旧河道１（図36）

調査区の西側に位置し、南北方向に縦走して調査区外へとおおむね真っすぐに延びている。調査区内で他の遺構との重複は認められず、西側の上端と下端は調査区外に位置するため河道の幅は判然としない。検出した規模は現存長約3.4m、現存幅50㎝、深さ52㎝を測り、主軸方位はＮ－６°－Ｗを指す。壁は開いて立ち上がり、底面はほぼ平らで標高は3.97mを測る。覆土中からは木材や自然木が出土している。

出土遺物（図37）

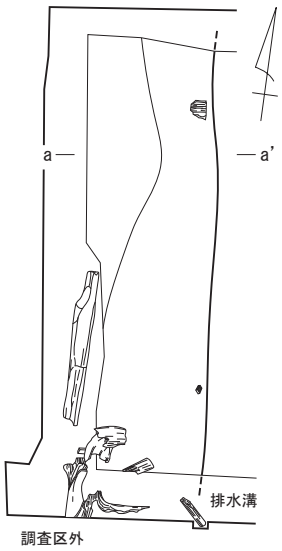
遺物は陶器１点、土師器25点、須恵器２点、土製品１点、石製品５点が出土し、このうち３点を図示した。

１は土師器で古墳時代前期の甕である。２は須恵器の坏である。３は土錘である。

（３）第５面 遺構外出土遺物（図38）

第５面では、上記した遺構以外からも遺物が出土し、このうち４点を図示した。

１は土師器で古墳時代前期の壺である。２・３は須恵器で、２は脚台付壺、３は８世紀前葉の湖西窯産と思われる有台坏である。４は灰釉陶器の埦で黒笹14号窯式に比定され、９世紀前葉と推定される。



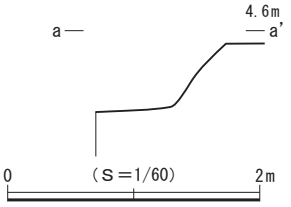


図36　第５面 旧河道１

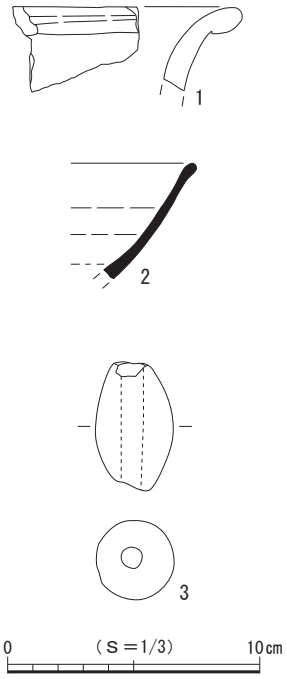
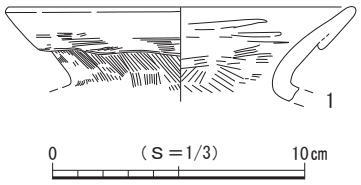
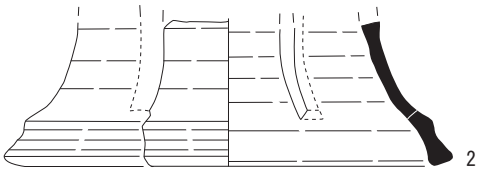


図37　第５面 旧河道１出土遺物





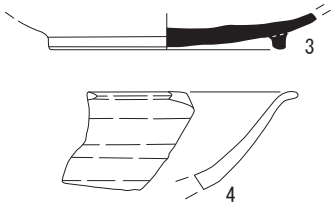


図38　第５面 遺構外出土遺物

第四章　自然科学分析

甘縄神社遺跡群長谷一丁目262番14外地点より出土した中世の幼児頭蓋骨について

水嶋崇一郎・平田和明
聖マリアンナ医科大学解剖学講座

はじめに

平成22（2010）年４月から６月にかけて、甘縄神社遺跡群長谷一丁目262番14外地点（甘縄神明神社の南方約130ｍの地点）において発掘調査が行われ、中世（13世紀後葉頃）に属する第１面より幼児の頭蓋骨１体分が右側頭部を上方に向けた状態で発見された。頭蓋骨の周辺には同一個体に属する体幹骨や四肢骨が一片も検出されておらず、従ってこの頭蓋骨は何らかの事情によって単独で埋納されたものと考えられる。今回、聖マリアンナ医科大学解剖学講座が本個体の人類学的調査を行ったので、その結果について報告する。

頭蓋骨の所見

脳頭蓋（頭蓋冠と頭蓋底）の大半が残存するが、顔面頭蓋の全てを欠き、歯も見られない。残存部の保存状態はきわめて良好であり、骨表面上の摩滅はほとんど認められない。被熱の痕跡はない。

頭頂部には大泉門が大きめに残存しており、一方で後頭部の小泉門や側頭部の前・後側頭泉門は閉鎖済みである。日本人小児頭蓋の調査によると（横尾, 1928）、大泉門は２歳から３歳、小泉門と前側頭泉門は生後６ヶ月から１歳、後側頭泉門は１歳から１歳半の間に閉鎖するといわれる。これらの閉鎖時期に従うと、本個体の死亡年齢はおおよそ２歳前後と推定され、従って幼児初期に属すると判断される。

マルチン式に基づく頭蓋最大長は153㎜、頭蓋最大幅は120㎜（左頭頂結節周辺の破損により推定値）であり、頭蓋長幅示数は78.4である。岡崎（2009）が報告した本邦の１歳から３歳までの中世幼児頭蓋と比較すると（計８体分，歯年齢平均2.3歳，頭蓋長幅示数の平均74.3）、本個体の頭型は中世の幼児としては比較的短頭に寄るといえる。

まとめ

今回、甘縄神社遺跡群より１体分の頭蓋骨（主として脳頭蓋）が発見された。本個体の死亡年齢は、頭蓋泉門の閉鎖状況を考慮するとおおよそ２歳前後であると推定される。頭蓋長幅示数は78.4と見積もられ，先行研究の中世幼児頭蓋と比較するとやや短頭寄りの傾向を示す。

引用文献

岡崎健治（1991）縄文・弥生・中世・近現代人の成長パターン―未成人骨格資料から探る形態発現と生活環境．比較社会文化叢書13，花書院.

横尾安夫（1928）脳頭蓋に見らるる異常骨の二三について（付顳門閉鎖期）．解剖学雑誌1：347–352.

第五章　まとめ

今回報告する長谷一丁目262番14外地点は、「甘縄神社遺跡群（№177）」の範囲内に所在する。本遺跡の包蔵地範囲は鎌倉市の南部域に位置し、地形的には南側に向かって張り出す丘陵の山裾に広がり、遺跡の西側には稲瀬川が南流し相模湾へと注ぐ。本遺跡の名称である甘縄神社は、遺跡の北側にある「神輿岳」と呼ばれる丘陵の斜面部に鎮座する甘縄神明神社の俗称である。調査地点は包蔵地範囲の中央南西寄りにあたり、県道311号線から甘縄神明神社へ向かって北方向に真っすぐに延びる参道の西側に位置している。

今回の調査では、遺構確認面は第１～５面までの合計５面で、第１～３面は中世、第４・５面が古代に属する。検出した遺構は礎石建物１棟、竪穴状遺構２基、旧河道１本、溝状遺構３条、石列１基、頭骨埋納遺構１基、土坑７基、ピット88基で、このうち竪穴状遺構２基と旧河道１本、ピット16基は古代に属する遺構である。出土遺物は遺物収納箱（60×40×14㎝）に換算して８箱を数える。

各面ごとに主な遺構についてみていくと、第１面（14世紀代）は土坑とピットがまばらに分布するのみであり、遺跡の様相は判然としない。第２面（13世紀後葉頃）では礎石建物が検出され、柱間や掘り方の規模などに高い規格性が認められ、調査区外に展開する相応の規模を有する建物の一部と推定される。礎石建物の西側には同一方向の主軸をもつ溝状遺構と石列が位置しており、関連をもつ遺構の可能性が考えられる。この他の遺構としては、礎石建物の南側に隣接して頭蓋骨埋納遺構が検出された。径22㎝を測る円形の掘り方中に下顎骨が失われた頭蓋骨を正位に埋納し、掘り方の上面に長さ30㎝の泥岩をあたかも蓋のように配置していた。この頭蓋骨の人類学的な分析を行った結果、２歳前後の幼児初期のものであることが明らかとなった（第四章）。頭蓋骨と同一個体の体幹骨や四肢骨は一片も出土しなかったことから、幼児の頭蓋骨のみを意図的に埋納したものと考えられ遺構の特殊性がうかがわれる。礎石建物が調査区外の南側に展開すると仮定した場合に、頭蓋骨埋納遺構はその床下に位置する可能性があり、両者の関連についても留意する必要があろう。

第３面（13世紀中葉～後葉頃）は方形土坑と溝状遺構、土坑、ピットが密集して検出された。確認されたピット47基のうち、11基のピットに礎板や礎石をもつものが認められたことから、調査区内では規則的な配置は認められなかったが、調査区外に建物が展開する可能性がある。

第４・５面は古代に属する確認面で、第４面はピットが調査区西側に偏って分布していたが、遺跡の様相は判然としなかった。遺構外からは古墳時代後期と平安時代の土師器と須恵器が出土している。最下面の第５面では、９世紀後半代と推定される竪穴状遺構が２基検出された。ともに部分的な調査のため全容を把握できなかったが、住居址の可能性も考慮すべきであろう。第５面の遺構外からは古墳時代前期の壺、８世紀前葉の有台坏、９世紀前葉の灰釉陶器が出土している。第一章第３節でも指摘したが、本地点の南側30ｍ程に位置する長谷一丁目271番10地点では奈良時代の遺物がまとまって出土していることから、周辺地域には古代に属する遺構が埋没している可能性が高いといえる。

引用・参考文献（著者五十音順）

伊丹まどか　1999「長谷小路周辺遺跡（№236）長谷一丁目33番３外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15』平成10年度発掘調査報告（第２分冊）　鎌倉市教育委員会

木村美代治ほか　1995『甘縄神社遺跡群発掘調査報告書－鎌倉市長谷一丁目271番10－』甘縄神社遺跡群発掘調査団　鎌倉市教育委員会

宗臺秀明・宗臺富貴子　1991「６．長谷小路周辺遺跡（№236）由比ガ浜三丁目194番24地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書７』平成２年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

玉林美男　1988「５．長谷小路周辺遺跡　長谷一丁目284番１地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書４』昭和62年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

福田　誠　2013「甘縄神社遺跡群（№177）長谷一丁目227番24地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29』平成24年度発掘調査報告（第１分冊）　鎌倉市教育委員会

松尾宣方　1983「43　伝安達泰盛邸跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』鎌倉市教育委員会

馬淵和雄ほか　2007「甘縄神社遺跡群（№177）長谷一丁目227番25地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23』平成18年度発掘調査報告　鎌倉市教育委員会

『鎌倉事典』白井永二編　東京堂出版　1976

『鎌倉廃寺事典』貫　達人・川副武胤　有隣堂　1980

表２　第１面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第１面 遺構外出土遺物（図８）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	4.1	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
2	陶器	瀬戸卸皿	－	－	現3.4	胎土：緻密　色調：胎土－黄灰色、灰釉－緑灰色　備考：古瀬戸中期様式	口縁部小破片
3	土師質・瓦質土器	火鉢	－	－	現6.6	輪花形 内外面－磨き　外面－スタンプ菊花文　胎土：砂粒、白色粒、小石粒　色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：Ⅲ類	口縁部小破片
第１面 構成土出土遺物（図９）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.0)	(3.4)	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	4/5
2	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(4.8)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/5
3	土器	ロクロかわらけ・中	(12.8)	6.6	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・大	(13.7)	(7.8)	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3

表３　第２面 出土遺物観察表

法量内（　）＝推定値

挿図番号	種別	器種	法量（cm）			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑２出土遺物（図16）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(5.8)	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロかわらけ・中	(11.0)	(7.2)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	3/4
3	土器	ロクロかわらけ・中	(11.7)	(7.6)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
ピット出土遺物（図18）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.4)	(4.6)	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット15	4/5
第２面 遺構外出土遺物（図19）							
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	4.3	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/5
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.1	4.3	2.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	5.2	1.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.2	4.0	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形

5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.5)	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.7	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.5	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.3	2.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	3/4
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	1.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい橙色　焼成：良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.4	2.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	完形
13	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.5)	(6.0)	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.7)	(6.9)	2.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/4
15	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(7.8)	2.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/4
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(7.0)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	2/5
17	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	7.3	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	7.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.0	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
20	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.2	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	4/5
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	6.0	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
22	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	6.8	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
23	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	6.2	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	略完形
24	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(6.5)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
25	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.8)	3.1	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
26	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.8)	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
27	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	7.8	3.5	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/5
28	陶器	常滑 甕	－	－	現 6.2	胎土：白色粒、小石粒　色調：暗褐色　備考：６ａ～６ｂ型式	口縁部 小破片
29	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－祥符元寶（北宋・1008）　書体－行書	完形

第２面 構成土出土遺物（図20）

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.3)	1.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.4)	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(5.4)	1.9	底面－回転糸切＋板状圧痕、穿孔２ヵ所（径 0.2～03）　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	3/5
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(5.1)	2.9	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：黄橙色　焼成：良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	(6.2)	2.8	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	2/5
7	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	6.5	3.2	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.2	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.6	3.0	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	3/5
10	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	7.1	3.3	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：明黄褐色　焼成：良好	2/5
11	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.0	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土　色調：橙色　焼成：良好	1/2
12	土器	ロクロ かわらけ・大	14.4	8.6	3.4	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：浅黄橙色　焼成：良好	1/3
13	磁器	白磁 Ⅲ	－	－	現 3.5	口唇部－口兀　色調：胎土－灰白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁ⅢⅨ類	口縁部 小破片
14	磁器	青磁 碗	－	－	現 1.9	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
15	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.7	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑灰色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片

16	磁器	青磁 皿	－	(3.4)	現 1.0	外面－無文　内面－櫛目文　底面－釉掻き取り　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑灰色 備考：太宰府－龍泉窯系青磁皿Ⅰ－２ｂ類	底部 小破片
17	陶器	瀬戸 入子	(5.3)	(2.5)	0.6	胎土：緻密　色調：灰白色、灰釉：緑灰色　備考：古瀬戸前期～中期様式	1/2
18	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	－	(14.2)	現 4.5	胎土：微砂、白色粒、黒色粒　色調：灰色　備考：５～６ａ型式	底部 小破片
19	土師質・ 瓦質土器	火鉢	－	－	現 8.6	内外面－ハケメ　口縁部直下－穿孔(径 0.5～0.8cm)　胎土：砂粒、白色粒、小石粒 色調：胎土－灰色、内外面－暗灰色　備考：ＩＢ類	口縁部 小破片
20	金属 製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名－紹聖元寶(北宋・1094)　書体－行書	完形

表４　第３面 出土遺物観察表

法量内(　)＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量(cm) 口径	 底径	 器高	特徴	残存率
溝状遺構３出土遺物(図23)							
1	磁器	白磁 皿	－	－	現 3.8	口唇部－口兀　底面－ヘラ切り、施釉　色調：胎土－白色、白磁釉－白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	口縁部 小破片
2	磁器	青磁 碗	－	－	現 4.0	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
3	陶器	東濃型 オロシ碗	(12.2)	－	現 2.4	内面－擂目４～５条一単位の擂目　胎土：白色粒　色調：灰色　備考：４と同一個体か	口縁部～ 体部小破片
4	陶器	東濃型 オロシ碗	－	－	現 3.7	内面－擂目４～５条一単位の擂目　胎土：白色粒　色調：灰色　備考：３と同一個体か	体部～底部 小破片
土坑７出土遺物(図26)							
1	磁器	青磁 碗	－	－	現 3.5	外面－蓮弁文　色調：胎土－灰白色、青磁釉－緑青色　備考：太宰府－龍泉窯系青磁碗Ⅱ－ｂ類	口縁部 小破片
ピット出土遺物(図27)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.9)	1.6	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　出土遺構：ピット 34	1/3
第３面 遺構外出土遺物(図29)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	1.7	底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.5	2.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・中	11.3	6.5	3.1	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好	3/4
4	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	7.0	3.7	口縁部－油煤付着　底面－回転糸切＋板状圧痕　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土　色調：橙色　焼成：良好	略完形
5	磁器	白磁 皿	－	－	現 3.3	口唇部－口兀　色調：胎土－白色、白磁釉－灰白色　備考：太宰府－白磁皿Ⅸ類	口縁部 小破片

表５　第４面 出土遺物観察表

挿図 番号	種別	器種	法量(cm) 口径	 底径	 器高	特徴	残存率
第４面 遺構外出土遺物(図31)							
1	土師器	坏	－	－	現 2.8	外面上半・内面－横ナデ　外面下半－横位のヘラケズリ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒　色調：橙色　焼成：良好　備考：鬼高式(８世紀代)	口縁部～ 底部小破片
2	土師器	坏	－	－	現 3.4	外面上半・内面－横ナデ　外面下半－横位のヘラケズリ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒　色調：橙色　焼成：良好　備考：相模型(９世紀代)	口縁部～ 底部小破片
3	須恵器	長頸瓶	頸径 4.0～5.4	－	現 2.8	ロクロ成形＋胴部と接合　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好	頸部 小破片

表６　第５面 出土遺物観察表

法量内(　)＝推定値

挿図 番号	種別	器種	法量(cm) 口径	 底径	 器高	特徴	残存率
竪穴状遺構１出土遺物(図 34)							
1	土師器	坏	－	－	現 3.1	外面上半・内面－横ナデ　外面下半－横位のヘラケズリ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒　色調：にぶい橙色　焼成：良好　備考：相模型(９世紀後半代)	口縁部～ 体部小破片
2	土師器	小形甕	－	－	現 4.0	口縁部・内面－横ナデ　外面上半－横位のヘラケズリ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒　色調：灰黄褐色　焼成：良好　備考：武蔵型(９世紀後半代)	口縁部～ 体部小破片
3	土師器	小形甕	13.2	－	現 3.4	口縁部・内面－横ナデ　外面上半－横位のヘラケズリ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒　色調：灰黄褐色　焼成：良好　備考：武蔵型(９世紀後半代)	口縁部～ 体部小破片
4	須恵器	坏	－	－	現 1.8	ロクロ成形　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好	口縁部 小破片
5	須恵器	坏	－	－	現 2.3	ロクロ成形　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：にぶい褐色　焼成：良好　備考：９世紀代	口縁部 小破片
竪穴状遺構２出土遺物(図35)							
1	土師器	坏	(12.6)	(6.5)	3.3	口縁部・内面－横ナデ　外面下半－横位のヘラケズリ　胎土：微砂、雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒　色調：橙色　焼成：良好　備考：相模型(９世紀後半代)	1/6
2	須恵器	坏	－	－	現 2.3	ロクロ成形　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好　備考：９世紀後半代	口縁部 小破片
旧河道１出土遺物(図37)							
1	土師器	甕	－	－	現 3.3	外面・内面－ナデ　胎土：白色粒、粗土　色調：にぶい黄褐色　焼成：良好　備考：古墳時代前期	口縁部
2	須恵器	坏	－	－	現 4.6	ロクロ成形　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好	口縁部～ 体部小破片
3	土製品	土錘	現長 5.2	幅 3.1	孔径 0.8	手づくね成形　胎土：白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好	略完形

第５面 遺構外出土遺物（図38）

1	土師器	壺	(13.6)	−	現 3.7	外面・内面－ナデ　胎土：雲母、白色粒、赤色粒、黒色粒　色調：にぶい黄橙色　焼成：良好　備考：古墳時代前期	口縁部～頸部小破片
2	須恵器	脚台付壺	−	(17.8)	現 5.8	ロクロ成形＋長方形透かし　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好　備考：古墳時代後期	口縁部～体部小破片
3	須恵器	有台坏	−	(9.2)	現 1.4	ロクロ成形　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：灰色　焼成：良好　備考：湖西窯系（８世紀前葉）	口縁部～体部小破片
4	灰釉陶器	埦	−	−	現 3.9	ロクロ成形　胎土：堅緻、白色粒、黒色粒　色調：胎土－灰色、灰釉－緑灰色　焼成：良好　備考：黒笹14号窯式（９世紀前葉）	口縁部～体部小破片

表７　遺構計測表

（ ）＝推定値、〈 〉＝現存値

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
土坑１	第１面	〈64〉	〈58〉	7
ピット１	第１面	〈46〉	〈21〉	7
ピット２	第１面	33	19	9
ピット３	第１面	50	28	13
ピット４	第１面	37	23	13
礎石建物１	第２面	〈200〉	〈100〉	11～16
溝状遺構１	第２面	〈420〉	47～83	8～12
石列１	第２面	〈300〉	−	−
頭骨埋納遺構１	第２面	22	20	11
土坑２	第２面	〈81〉	56	15
土坑３	第２面	67	49	14
ピット５	第２面	40	33	11
ピット６	第２面	43	41	12
ピット７	第２面	30	25	-
ピット８	第２面	48	(40)	17
ピット９	第２面	(25)	18	11
ピット10	第２面	18	17	7
ピット11	第２面	(30)	24	23
ピット12	第２面	47	(41)	17
ピット13	第２面	23	22	13
ピット14	第２面	39	31	15
ピット15	第２面	26	(23)	12
ピット16	第２面	34	(28)	12
ピット17	第２面	28	27	10
ピット18	第２面	27	25	18
ピット19	第２面	(33)	25	14

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット20	第２面	(29)	14	5
ピット21	第２面	30	5～18	10
ピット22	第２面	38	18	7
ピット23	第２面	52	43	23
ピット24	第２面	50	18	10
ピット25	第２面	33	26	11
溝状遺構２	第３面	〈90〉	45	10
溝状遺構３	第３面	〈210〉	60	23
方形土坑１	第３面	270	〈103〉	20
土坑４	第３面	〈40〉	60	5
土坑５	第３面	〈90〉	〈40〉	28
土坑６	第３面	62	53	34
土坑７	第３面	61	51	17
ピット26	第３面	21	(20)	8
ピット27	第３面	〈36〉	40	13
ピット28	第３面	〈38〉	29	10
ピット29	第３面	17	16	5
ピット30	第３面	21	20	8
ピット31	第３面	25	23	12
ピット32	第３面	25	23	11
ピット33	第３面	24	22	10
ピット34	第３面	51	〈20〉	13
ピット35	第３面	45	42	5
ピット36	第３面	31	30	8
ピット37	第３面	45	37	10
ピット38	第３面	38	〈5〉	20
ピット39	第３面	45	39	7

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット40	第３面	(50)	37	12
ピット41	第３面	〈17〉	15	12
ピット42	第３面	20	16	5
ピット43	第３面	18	17	12
ピット44	第３面	〈19〉	50	10
ピット45	第３面	38	37	12
ピット46	第３面	〈38〉	31	11
ピット47	第３面	22	12	8
ピット48	第３面	(16)	12	8
ピット49	第３面	53	42	19
ピット50	第３面	19	14	5
ピット51	第３面	17	16	4
ピット52	第３面	19	16	4
ピット53	第３面	16	16	6
ピット54	第３面	(14)	11	5
ピット55	第３面	38	35	9
ピット56	第３面	45	34	10
ピット57	第３面	(50)	45	24
ピット58	第３面	29	28	26
ピット59	第３面	28	22	6
ピット60	第３面	47	38	5
ピット61	第３面	30	30	16
ピット62	第３面	〈31〉	30	13
ピット63	第３面	38	31	27
ピット64	第３面	47	45	19
ピット65	第３面	22	21	26
ピット66	第３面	10	7	−

遺構名	帰属面	規模（cm）		
		長軸	短軸	深さ
ピット67	第３面	13	10	6
ピット68	第３面	49	42	6
ピット69	第３面	43	〈21〉	9
ピット70	第３面	58	36	13
ピット71	第３面	40	39	22
ピット72	第３面	〈15〉	28	29
ピット73	第４面	23	22	10
ピット74	第４面	〈11〉	33	6
ピット75	第４面	31	(28)	15
ピット76	第４面	20	20	3
ピット77	第４面	26	24	6
ピット78	第４面	29	26	9
ピット79	第４面	16	14	3
ピット80	第４面	17	16	3
ピット81	第４面	26	23	5
ピット82	第４面	23	20	6
ピット83	第４面	29	28	3
ピット84	第４面	20	19	4
ピット85	第４面	22	21	8
ピット86	第４面	21	20	3
ピット87	第４面	19	16	1
ピット88	第４面	30	29	12
竪穴状遺構１	第５面	〈183〉	〈124〉	18～31
竪穴状遺構２	第５面	〈160〉	〈110〉	18
旧河道１	第５面	〈340〉	〈50〉	52

※礎石建物の長軸・短軸は心々の計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表８　出土遺物一覧表

表採

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	102
【陶器】		
常滑	甕	5
【土師器】		
	土師器小片	2
	合計	109

第１面

第１面 遺構外

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	8
【陶器】		
瀬戸	洗	1
	折縁深皿	1
	卸皿	1
常滑	甕	20
産地不明	甕	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢Ⅲ類	1
	合計	33

第１面 構成土

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	28
【陶器】		
常滑	甕	27
	合計	55

第２面

礎石建物１－Ｐ４

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

頭骨埋納遺構１

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
【骨】		
	人骨（頭蓋骨）	1
	合計	5

土坑２

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	35
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	36

土坑３

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	2

ピット２

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット７

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	7

ピット８

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

ピット11

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット15

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット16

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット17

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

ピット18

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

ピット23

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット25

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
【土師質・瓦質土器】		
	燭台	1
	合計	4

第２面 遺構外

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	769
【白磁】		
	壺	1
	Ⅲ区類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	2
	碗Ⅱ－ｂ類	4
	坏	1
【陶器】		
瀬戸	平碗	2
	折縁深皿	1
	入子	1
常滑	甕	39
	片口鉢Ⅱ類	2
【土師器・土器】		
	弥生時代後期土器小破片	1
	奈良・平安時代甕（相模型）	1
	器種不明小破片	1
【瓦】		
	平瓦	1

【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	1
	器種不明	2
	合計	831

第２面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	155
【白磁】		
	皿Ⅸ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
	皿Ⅰ－２ｂ類	1
【陶器】		
瀬戸	入子	1
常滑	甕	19
	片口鉢Ⅰ類	1
【土師質・瓦質土器】		
	火鉢ＩＢ類	1
【土師器】		
	奈良・平安時代甕（相模型）	1
【金属製品】		
	銭貨	1
【骨】		
	獣骨	15
	合計	197

第３面

溝状遺構２		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

溝状遺構３		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	37
【白磁】		
	水注	1
	皿Ⅸ類	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
東濃型	オロシ碗	2
【木製品】		
	漆器皿	1
	合計	45

土坑５		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
	合計	3

土坑６		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	4
	合計	4

土坑７		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ－ｂ類	1
【須恵器】		
	甕	1
	合計	3

ピット34		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	2
	合計	2

ピット35		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	5
	合計	5

ピット41		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット53		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット61		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	1
	合計	1

ピット78		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	3
	合計	3

第３面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	101
【白磁】		
	皿Ⅸ類	2
【青磁】		
龍泉窯系	盤	1
【陶器】		
常滑	甕	13
	片口鉢Ⅰ類	2
	合計	119

第３面 構成土		
産　地	器　種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ　ロクロ成形	10
	合計	10

第４面

第４面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【土師器・土器】		
	弥生時代後期甕	4
	弥生時代後期壺	1
	古墳時代後期坏（鬼高）	1
	古墳時代後期高坏（鬼高）	1
	古墳時代後期甕（鬼高）	8
	奈良・平安時代坏（相模型）	3
	土師器小破片	8
【須恵器】		
	奈良・平安時代長頸瓶	1
	坏	1
【石製品】		
	軽石	1
	合計	29

第５面

竪穴状遺構１		
産　地	器　種	破片数
【土師器】		
	古墳時代後期坏（鬼高）	2
	古墳時代後期甕（鬼高）	12
	奈良・平安時代坏（相模型）	3
	奈良・平安時代甕（相模型）	11
	平安時代甕（武蔵型）	2
	土師器小破片	20
【須恵器】		
	奈良・平安時代坏	6
	蓋	2
	瓶	1
	甕	2
【石製品】		
	軽石	12
	軽石錘	1
	合計	74

竪穴状遺構２		
産　地	器　種	破片数
【土師器】		
	古墳時代前期高坏	1
	古墳時代後期坏（鬼高）	2
	古墳時代後期甕（鬼高）	15
	奈良・平安時代坏（相模型）	5
	平安時代甕（武蔵型）	2
	古墳時代後期～平安時代ナデ甕	8
	土師器小破片	61
【須恵器】		
	平安時代坏	3
	甕小破片	1

【石製品】		
	軽石	1
	合計	99

旧河道１		
産　地	器　種	破片数
【陶器】		
	産地不明	1
【土師器】		
	古墳時代前～中期甕	1
	古墳時代後期坏（鬼高）	3
	古墳時代後期甕（鬼高）	5
	奈良・平安時代坏（相模型）	5
	奈良・平安時代甕（相模型）	6
	平安時代坏（甲斐型）	1
	平安時代ロクロ土師器坏	3
【土製品】		
	土錘	1
【須恵器】		
	瓶	1
	平安時代坏	1
【石製品】		
	軽石	4
	砥石	1
	合計	33

第５面 遺構外		
産　地	器　種	破片数
【土師器】		
	古墳時代前期壺	1
	古墳時代後期坏（鬼高）	10
	古墳時代後期甕（鬼高）	55
	奈良・平安時代坏（相模型）	19
	奈良・平安時代甕（相模型）	4
	奈良・平安時代甕（武蔵型）	4
	平安時代坏（甲斐型）	1
	平安時代ロクロ土師器坏	4
	土師器小破片	46
【須恵器】		
	古墳時代後期脚台付壺	1
	古墳時代後期坏	1
	奈良時代有台坏	1
	平安時代坏	2
	甕小破片	4
	蓋小破片	2
【灰釉陶器】		
	埦	1
【石製品】		
	軽石	22
	合計	178

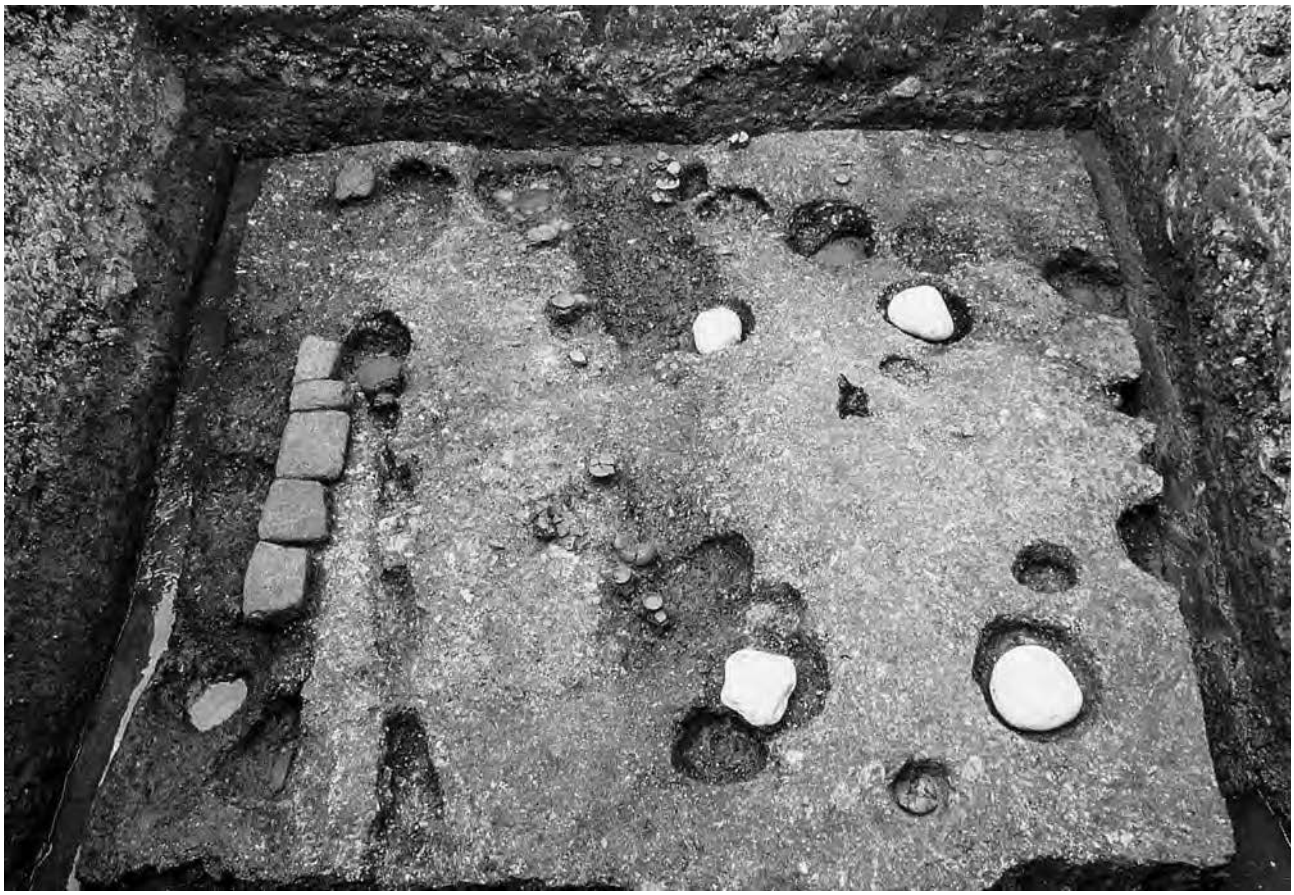
1．甘縄神明神社と調査区前路地入り口（南東から）

2．甘縄神明神社（南から）

図版２

１．調査区北壁土層断面（南から）

２．第１面全景（南から）



１．第２面全景（南から）

２．第３面全景（北から）

図版４

１．第２面 頭骨埋納遺構１検出状況（南から）

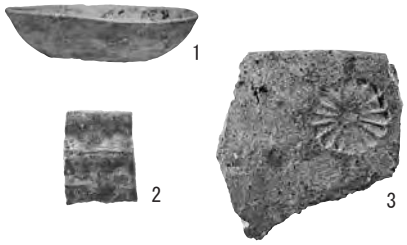
２．第２面 頭骨埋納遺構１頭骨出土状況（南東から）

３．第３面 方形土坑１（西から）

１．第４面全景（南から）

２．第５面（古代面）全景（南から）

図版６

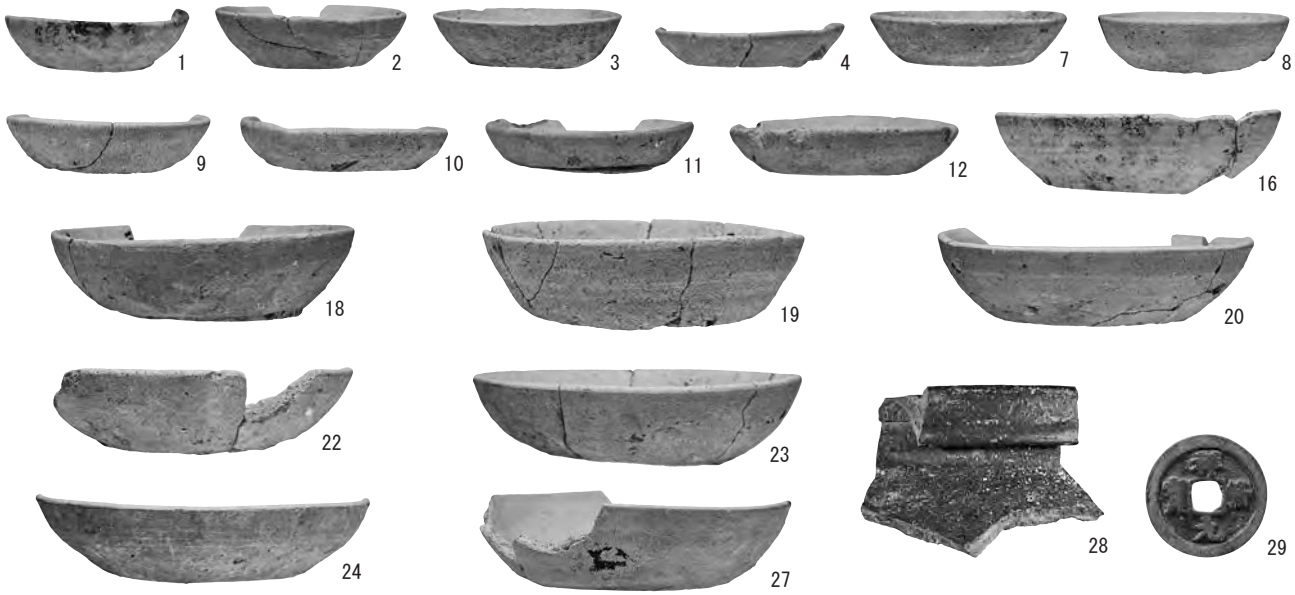


１．第１面 遺構外出土遺物

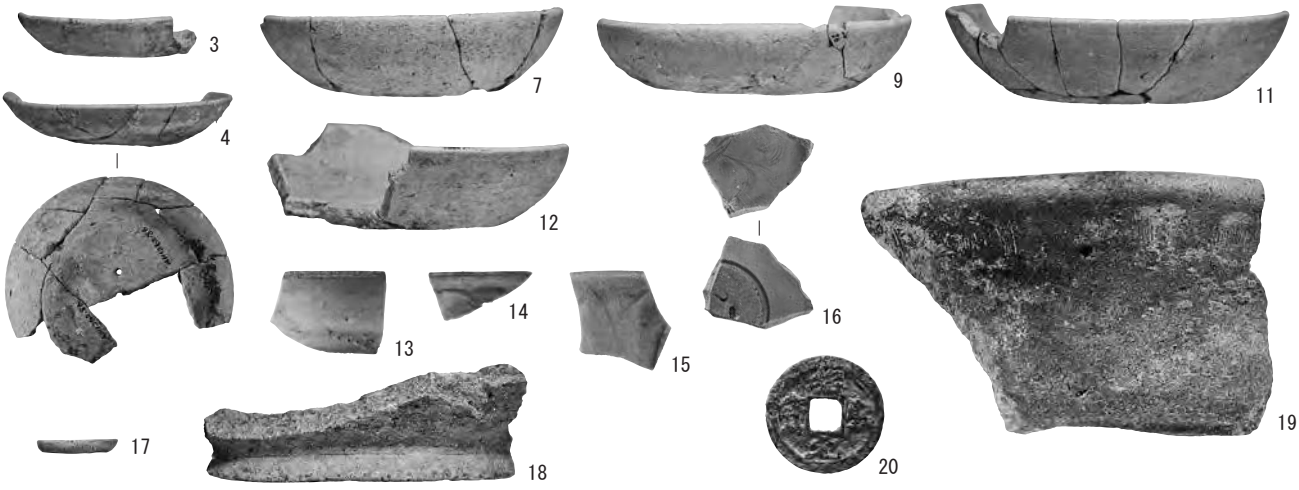
２．第１面 構成土出土遺物

３．第２面 土坑２出土遺物

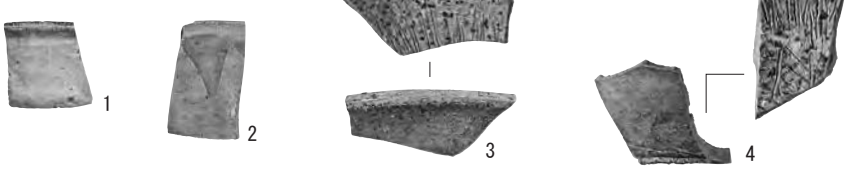
４．第２面 ピット出土遺物



５．第２面 遺構外出土遺物



６．第２面 構成土出土遺物



８．第３面 溝状遺構３出土遺物

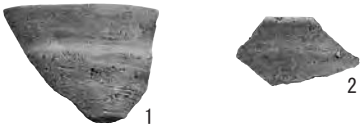
７．第３面 土坑７出土遺物

９．第３面 ピット出土遺物

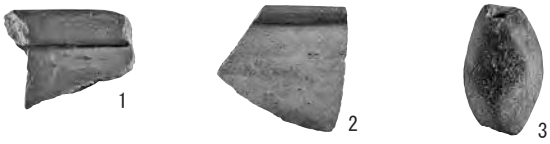
１．第３面 遺構外出土遺物

２．第４面 遺構外出土遺物

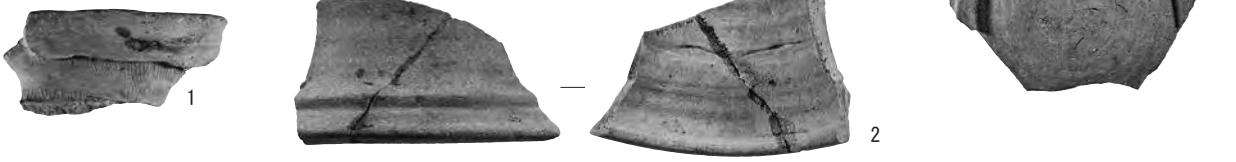
３．第５面 竪穴状遺構１出土遺物



４．第５面 竪穴状遺構２出土遺物



５．第５面 旧河道２出土遺物



６．第５面 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
副書名	令和元年度発掘調査報告
巻次	３６（第４分冊）
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	永田史子・米澤雅美
編集機関	鎌倉市教育委員会
所在地	〒２４８－８６８６　鎌倉市御成町１８番１０号
発行年月日	西暦　２０２０年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
でんがくずししゅうへんいせき 田楽辻子周辺遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 じょうみょうじいっちょうめ 浄明寺一丁目 697番4	14204	33	３５° １９′ １４″	１３９° ３３′ ５８″	20101018 ～ 20101224	54	個人専用住宅 （鋼管杭工事）
せいりょうじあと 清涼寺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 おうぎがやつよんちょうめ 扇ガ谷四丁目 570番１	14204	183	３５° １９′ ４０″	１３９° ３２′ ４８″	20121106 ～ 20130201	67.5	個人専用住宅 （鋼管杭工事）
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 おおまちよんちょうめ 大町四丁目 1884番14	14204	231	３５° １８′ ２２″	１３９° ３３′ ２９″	20120925 ～ 20121207	45	個人専用住宅 （柱状改良工事）
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 おなりちょう 御成町773番２	14204	242	３５° １９′ ０１″	１３９° ３２′ ５７″	20130516 ～ 20130724	65	店舗併用住宅 （柱状改良工事）
はせこうじしゅうへんいせき 長谷小路周辺遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 ゆいがはまさんちょうめ 由比ガ浜三丁目 204番５	14204	236	３５° １８′ ４８″	１３９° ３２′ ２４″	20110114 ～ 20110331	72	店舗併用住宅 （鋼管杭工事）
あまなわじんじゃいせきぐん 甘縄神社遺跡群	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 はせいっちょうめ 長谷一丁目 262番14外	14204	177	３５° １８′ ４８″	１３９° ３２′ １２″	20100423 ～ 20100611	36	個人専用住宅 （柱状改良工事）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
でんがくずししゅうへんいせき 田楽辻子周辺遺跡	城館跡	古代 中世	方形竪穴状遺構、池状遺構、塀・柵状遺構、溝状遺構、石列、土坑、ピット	かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品	古代および13世紀～15世紀代の遺構群を検出。13世紀代の池状遺構や13世紀後葉頃の玉砂利層を確認。
せいりょうじあと 清涼寺跡	社寺跡	中世	礎板建物、溝状遺構、井戸、土坑、ピット	染付磁器、かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、骨角製品、金属製品、木製品、漆器	13世紀前葉～13世紀後葉頃の遺構群を検出。木質部が良好に遺存する大型の礎板建物を確認。装飾が施された骨角製野沓が出土。
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	城館跡	中世	方形竪穴状遺構、溝状遺構、落ち込み、方形土坑、土坑、ピット	土師器、須恵器、かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品	13世紀前葉～中葉頃の遺構群を検出。

わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	城館跡 都市遺跡	中　世	板壁建物、方形竪穴状遺構、溝状遺構、井戸、方形土坑、土坑、ピット	須恵器、染付磁器、かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、骨角製品、金属製品、木製品、漆器	13世紀中葉～14世紀代の遺構群を検出。板壁が残る大型の建物を確認。
はせこうじしゅうへんいせき 長谷小路周辺遺跡	城館跡 都市遺跡	古　代 中　世	掘立柱建物、方形竪穴状遺構、竪穴状遺構、溝状遺構、火葬墓、方形土坑、土坑、ピット	土師器、須恵器、かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、骨角製品、金属製品	９～10世紀代および13世紀代～14世紀前葉頃の遺構群を検出。９～10世紀の火葬墓と13世紀代～14世紀前葉頃の方形竪穴状遺構群を確認。
あまなわじんじゃいせきぐん 甘縄神社遺跡群	社寺跡 城館跡	古　代 中　世	礎石建物、竪穴状遺構、旧河道、溝状遺構、石列、頭骨埋納遺構、土坑、ピット	弥生土器、土師器、須恵器、かわらけ、舶載磁器、国産陶器、土師質・瓦質土器、瓦、石製品、金属製品、漆器	９世紀後半代および13世紀中葉～14世紀代の遺構群を検出。13世紀後葉頃の礎石建物と頭骨埋納遺構を確認。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　36
令和元年度発掘調査報告
（第 4 分 冊）

発 行 日　令和２年（2020年）３月 31 日

編集・発行　　鎌 倉 市 教 育 委 員 会
印　　刷　　光写真印刷株式会社

第４分冊　正誤表

「田楽辻子周辺遺跡」（№33）の地点名（所在地）に誤り

箇所	誤	正
Ⅲ頁 12行目	浄明寺一丁目697番４	浄明寺一丁目691番４
Ⅴ頁　発掘調査地点一覧 10の所在地		
１頁　扉		
２頁　例言の１行目		
５頁 第１節の１行目 第２節の１行目		
４２頁 第五章まとめの１行目		
３７１頁 報告書抄録		